

2024年度

# 講義要項

シラバス  
— syllabus —



奈良大学

### \*注意事項\*

1. この『講義要項』には、今年度の開講科目について、科目名や担当教員名、授業のテーマや概要、評価方法・基準及び履修上の注意事項等が掲載されています。ただし、この冊子の掲載内容は、全体的な内容ではなく、一部を抜粋した内容となっています。また、内容は、この冊子印刷時点から更新される場合があります。最新の内容については、評価方法・基準等の冊子に掲載している箇所も含めて、必ず全体的な内容を Web 上のシラバスで確認した上で、履修登録をしてください。(Web シラバスの使用方法は、入学時に配布する CampusmatePortal 操作手引書を参照してください)。  
さらに、履修要項に記載している、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）（DP）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）（CP）と各授業科目の関連性についても、Web 上で公開されるシラバスに記載していますので、各自で確認してください。
2. 各科目の担当者のうち、頭に☆のついている担当者は、非常勤講師です。非常勤講師については、講義のある曜日のみの出講となりますので、注意してください。講師控え室は、A棟入口の非常勤講師室です。  
☆印のついていない担当者は、本学の専任教員です。専任教員については、奈良大学ホームページ「教員紹介」ページにプロフィールを掲載しています。専任教員のレポート提出等は、各教員の研究室、各学科・学部の共同研究室を指定されることが多いので、各自、研究室等の場所を確認しておいてください。また、教員が研究室などに必ず在室し待機しておく時間帯のことを「オフィスアワー」と呼びます。授業や専門分野のこと、学業や学生生活に関わること、その他相談や雑談など、特に目的は限定していませんので気軽に訪問してください。オフィスアワーの時間帯については、各学科の掲示板もしくは学生支援センター（教務担当）の掲示板等に掲示されます。なお、専任教員のメールアドレスはポータルサイト上にオフィスアワーとともに掲載しますので、各自で参照してください。  
(カレッジライフ参照)

# 目次

## 基幹科目

### ■ 全学科共通 ■

学問と社会 (一)	1
学問と社会 (二)	1

### ■ 国文学科 ■

基礎演習 I (二)	3
基礎演習 I (三)	3
基礎演習 II (一)	3
基礎演習 II (二)	3
基礎演習 II (三)	4
国文学の世界	4
言語文学 I (一)	4
言語文学 I (二)	4
言語文学 I (三)	5
言語文学 I (四)	5
言語文学 I (五)	5
言語文学 I (六)	5
言語文学 II (一)	6
言語文学 II (二)	6
言語文学 II (三)	6
言語文学 II (四)	6
言語文学 II (五)	7
言語文学 II (六)	7
国文学講読 I (一)	7
国文学講読 I (二)	7
国文学講読 I (三)	8
国文学講読 I (四)	8
国文学講読 I (五)	8
国文学講読 I (六)	8
国文学講読 I (七)	9
国文学講読 I (八)	9
国文学講読 I (九)	9
国文学講読 II (一)	9
国文学講読 II (二)	10
国文学講読 II (三)	10
国文学講読 II (四)	10
国文学講読 II (五)	10
国文学講読 II (六)	11
国文学講読 II (七)	11
国文学講読 II (八)	11
国文学講読 II (九)	11
国文学演習 I (一)	12
国文学演習 I (二)	12
国文学演習 I (三)	12
国文学演習 I (四)	12

国文学演習 I (五)	13
国文学演習 I (六)	13
国文学演習 I (七)	13
国文学演習 I (八)	13
国文学演習 I (九)	14
国文学演習 I (十)	14
国文学演習 II (一)	14
国文学演習 II (二)	14
国文学演習 II (三)	15
国文学演習 II (四)	15
国文学演習 II (五)	15
国文学演習 II (六)	15
国文学演習 II (七)	16
国文学演習 II (八)	16
国文学演習 II (九)	16
国文学演習 II (十)	16
国文学演習 III (一)	17
国文学演習 III (三)	17
国文学演習 III (四)	17
国文学演習 III (五)	17
国文学演習 III (六)	18
国文学演習 III (七)	18
国文学演習 III (八)	18
国文学演習 IV (一)	18
国文学演習 IV (三)	19
国文学演習 IV (四)	19
国文学演習 IV (五)	19
国文学演習 IV (六)	19
国文学演習 IV (七)	20
国文学演習 IV (八)	20
国文学史 I	20
国文学史 II	20
国文学史 III	21
国文学史 IV	21
国語学概論 I	21
国語学概論 II	21
古典文学概論 I	22
古典文学概論 II	22
近代文学概論 I	22
近代文学概論 II	22
現代文化論	23
中国文学概論 I	23
中国文学概論 II	23
日本語の歴史 I	23
日本語の歴史 II	24
神話伝承論	24
平安文学論	24

中世文学論	24
近世文学論	25
書物論	25
メディア文化論	25
比較交流論	25
和歌歌謡論	26
近代小説論	26
近代詩歌論	26
現代文学論	26
古典日本語論	27
現代日本語論	27
国文学特殊講義	27
国語学特殊講義	27
日本語教育論	28
言語情報処理論	28
中国文学講読Ⅰ	28
中国文学講読Ⅱ	28
書道Ⅰ	29
書道Ⅱ	29
実地見学踏査Ⅰ	29
実地見学踏査Ⅱ	29
伝統芸能鑑賞	30
身体表現実習	30
資料調査実習	30
文芸創作実習	30
書物出版学実習	31
編集実習	31

■ 史 学 科 ■

基礎演習Ⅰ(一)	33
基礎演習Ⅰ(二)	33
基礎演習Ⅰ(三)	33
基礎演習Ⅰ(四)	33
基礎演習Ⅰ(五)	34
基礎演習Ⅱ	34
史学研究法	34
日本史概論Ⅰ	34
日本史概論Ⅱ	35
東洋史概論Ⅰ	35
東洋史概論Ⅱ	35
西洋史概論Ⅰ	35
西洋史概論Ⅱ	36
史料講読Ⅰ(一)	36
史料講読Ⅰ(二)	36
史料講読Ⅰ(三)	36
史料講読Ⅰ(四)	37
史料講読Ⅰ(五)	37
史料講読Ⅰ(六)	37
史料講読Ⅰ(七)	37

史料講読Ⅰ(八)	38
史料講読Ⅰ(九)	38
史料講読Ⅰ(十)	38
史料講読Ⅰ(十二)	38
史料講読Ⅰ(十三)	39
史料講読Ⅱ(一)	39
史料講読Ⅱ(二)	39
史料講読Ⅱ(三)	39
史料講読Ⅱ(四)	40
史料講読Ⅱ(五)	40
史料講読Ⅱ(六)	40
史料講読Ⅱ(七)	40
史料講読Ⅱ(八)	41
史料講読Ⅱ(九)	41
史料講読Ⅱ(十)	41
史料講読Ⅱ(十二)	41
史料講読Ⅱ(十三)	42
史料講読Ⅲ(一)	42
史料講読Ⅲ(二)	42
史料講読Ⅲ(三)	42
史料講読Ⅲ(四)	43
史料講読Ⅲ(五)	43
史料講読Ⅲ(六)	43
史料講読Ⅲ(七)	43
史料講読Ⅲ(八)	44
史料講読Ⅲ(九)	44
史料講読Ⅲ(十)	44
史料講読Ⅲ(十二)	44
史料講読Ⅲ(十三)	45
史料講読Ⅳ(一)	45
史料講読Ⅳ(二)	45
史料講読Ⅳ(三)	45
史料講読Ⅳ(四)	46
史料講読Ⅳ(五)	46
史料講読Ⅳ(六)	46
史料講読Ⅳ(七)	46
史料講読Ⅳ(八)	47
史料講読Ⅳ(九)	47
史料講読Ⅳ(十)	47
史料講読Ⅳ(十二)	47
史料講読Ⅳ(十三)	48
史学演習Ⅰ(一)	48
史学演習Ⅰ(二)	48
史学演習Ⅰ(三)	48
史学演習Ⅰ(四)	49
史学演習Ⅰ(五)	49
史学演習Ⅰ(六)	49
史学演習Ⅰ(七)	49
史学演習Ⅰ(八)	50

史学演習 I (九)	50	史学演習 III (二十)	62
史学演習 I (十)	50	史学演習 IV (一)	62
史学演習 I (十一)	50	史学演習 IV (二)	63
史学演習 I (十二)	51	史学演習 IV (三)	63
史学演習 I (十三)	51	史学演習 IV (四)	63
史学演習 I (十四)	51	史学演習 IV (五)	63
史学演習 I (十五)	51	史学演習 IV (六)	64
史学演習 I (十六)	52	史学演習 IV (七)	64
史学演習 I (十八)	52	史学演習 IV (八)	64
史学演習 I (十九)	52	史学演習 IV (九)	64
史学演習 I (二十)	52	史学演習 IV (十)	65
史学演習 II (一)	53	史学演習 IV (十一)	65
史学演習 II (二)	53	史学演習 IV (十二)	65
史学演習 II (三)	53	史学演習 IV (十三)	65
史学演習 II (四)	53	史学演習 IV (十四)	66
史学演習 II (五)	54	史学演習 IV (十五)	66
史学演習 II (六)	54	史学演習 IV (十六)	66
史学演習 II (七)	54	史学演習 IV (十七)	66
史学演習 II (八)	54	史学演習 IV (十八)	67
史学演習 II (九)	55	史学演習 IV (十九)	67
史学演習 II (十)	55	史学演習 IV (二十)	67
史学演習 II (十一)	55	國際交流史基礎講義 I	67
史学演習 II (十二)	55	國際交流史基礎講義 II	68
史学演習 II (十三)	56	國際交流史基礎講義 III	68
史学演習 II (十四)	56	國際交流史基礎講義 IV	68
史学演習 II (十五)	56	國際交流史基礎講義 V	68
史学演習 II (十六)	56	國際交流史基礎講義 VI	69
史学演習 II (十八)	57	日本史基礎講義 I	69
史学演習 II (十九)	57	日本史基礎講義 II	69
史学演習 II (二十)	57	日本史基礎講義 III	69
史学演習 III (一)	57	日本史基礎講義 IV	70
史学演習 III (二)	58	日本史基礎講義 V	70
史学演習 III (三)	58	東洋史基礎講義 II	70
史学演習 III (四)	58	東洋史基礎講義 III	70
史学演習 III (五)	58	東洋史基礎講義 IV	71
史学演習 III (六)	59	東洋史基礎講義 V	71
史学演習 III (七)	59	西洋史基礎講義 I	71
史学演習 III (八)	59	西洋史基礎講義 II	71
史学演習 III (九)	59	西洋史基礎講義 III	72
史学演習 III (十)	60	西洋史基礎講義 IV	72
史学演習 III (十一)	60	西洋史基礎講義 V	72
史学演習 III (十二)	60	國際交流史特殊講義 I	72
史学演習 III (十三)	60	國際交流史特殊講義 II	73
史学演習 III (十四)	61	國際交流史特殊講義 III	73
史学演習 III (十五)	61	國際交流史特殊講義 IV	73
史学演習 III (十六)	61	國際交流史特殊講義 V	73
史学演習 III (十七)	61	日本史特殊講義 I	74
史学演習 III (十八)	62	日本史特殊講義 II	74
史学演習 III (十九)	62	日本史特殊講義 III	74

日本史特殊講義V	74
日本史特殊講義VI	75
日本史特殊講義VII	75
日本史特殊講義VIII	75
日本史特殊講義IX	75
東洋史特殊講義I	76
東洋史特殊講義II	76
東洋史特殊講義III	76
東洋史特殊講義IV	76
西洋史特殊講義I	77
西洋史特殊講義II	77
西洋史特殊講義III	77
西洋史特殊講義IV	77
史料研究I(一)	78
史料研究I(二)	78
史料研究II	78

■ 地理学科 ■

基礎演習I(一)	79
基礎演習I(二)	79
基礎演習I(三)	79
基礎演習II	79
地理学入門	80
地理学実習(一)(二)(三)(四)	80
人文地理学I	80
人文地理学II	80
自然地理学I	81
自然地理学II	81
地誌学	81
地図学基礎	81
地理学講読・調査法(一)	82
地理学講読・調査法(二)	82
地理学講読・調査法(三)	82
地理学講読・調査法(四)	82
地理学講読・調査法(五)	83
地理学講読・調査法(六)	83
地理学講読・調査法(七)	83
地理学講読・調査法(八)	83
地理学分析・表現法(一)	84
地理学分析・表現法(二)	84
地理学分析・表現法(三)	84
地理学分析・表現法(四)	84
地理学分析・表現法(五)	85
地理学分析・表現法(六)	85
地理学分析・表現法(七)	85
地理学分析・表現法(八)	85
地理学地域調査演習(一)	86
地理学地域調査演習(二)	86
地理学地域調査演習(三)	86

地理学地域調査演習(四)	86
地理学地域調査演習(五)	87
地理学地域調査演習(六)	87
地理学地域調査演習(七)	87
地理学地域調査演習(八)	87
地理学地域調査演習(九)	88
地理学演習(一)	88
地理学演習(二)	88
地理学演習(三)	88
地理学演習(四)	89
地理学演習(五)	89
地理学演習(六)	89
地理学演習(七)	89
地理学演習(八)	90
日本地誌概論	90
世界地誌概論I	90
世界地誌概論II	90
測量学概論(一)	91
測量学概論(二)	91
地理情報科学概論	91
計量地理学概論	91
環境地理学概論	92
都市地理学	92
経済地理学	92
村落地理学	92
歴史地理学	93
観光・交通地理学	93
人口地理学	93
地形学	93
水文学	94
災害地理学(二)	94
地理学特殊講義(二)	94
地理学特殊講義(三)	94
地理学特殊講義(五)	95
地理学特殊講義(六)	95
地理学特殊講義(七)	95
地理学特殊講義(九)	95
地理学特殊講義(十二)	96
測量技法(一)	96
測量技法(二)	96
応用地図技法	96
フィールドワーク技法	97
リモートセンシング技法	97
G I Sデータ分析技法	97
海外巡検	97

■ 文化財学科 ■

文化財学研究法Ⅰ（一）（二）（三）	99	考古学演習Ⅰ（五）	111
文化財学研究法Ⅱ（一）（二）（三）	99	考古学演習Ⅱ（一）	111
基礎演習Ⅰ（一）	99	考古学演習Ⅱ（二）	111
基礎演習Ⅰ（二）	99	考古学演習Ⅱ（三）	111
基礎演習Ⅰ（三）	100	考古学演習Ⅱ（五）	112
基礎演習Ⅰ（四）	100	考古学演習Ⅲ（一）	112
基礎演習Ⅱ	100	考古学演習Ⅲ（二）	112
文化財演習Ⅰ（一）	100	考古学演習Ⅲ（三）	112
文化財演習Ⅰ（二）	101	考古学演習Ⅲ（五）	113
文化財演習Ⅰ（三）	101	考古学演習Ⅳ（一）	113
文化財演習Ⅰ（四）	101	考古学演習Ⅳ（二）	113
文化財演習Ⅰ（五）	101	考古学演習Ⅳ（三）	113
文化財演習Ⅱ（一）	102	考古学演習Ⅳ（五）	114
文化財演習Ⅱ（二）	102	美術史演習Ⅰ（一）	114
文化財演習Ⅱ（三）	102	美術史演習Ⅰ（二）	114
文化財演習Ⅱ（四）	102	美術史演習Ⅱ（一）	114
文化財演習Ⅱ（五）	103	美術史演習Ⅱ（二）	115
考古学講読Ⅰ（一）	103	美術史演習Ⅲ（一）	115
考古学講読Ⅰ（二）	103	美術史演習Ⅲ（二）	115
考古学講読Ⅰ（三）	103	美術史演習Ⅳ（一）	115
考古学講読Ⅱ（一）	104	美術史演習Ⅳ（二）	116
考古学講読Ⅱ（二）	104	史料学演習Ⅰ	116
考古学講読Ⅱ（三）	104	史料学演習Ⅱ	116
美術史講読Ⅰ（一）	104	史料学演習Ⅲ	116
美術史講読Ⅰ（二）	105	史料学演習Ⅳ	117
美術史講読Ⅱ（一）	105	保存科学演習Ⅰ（一）	117
美術史講読Ⅱ（二）	105	保存科学演習Ⅰ（二）	117
史料学講読Ⅰ	105	保存科学演習Ⅰ（三）	117
史料学講読Ⅱ	106	保存科学演習Ⅱ（一）	118
保存科学講読Ⅰ（一）	106	保存科学演習Ⅱ（二）	118
保存科学講読Ⅰ（二）	106	保存科学演習Ⅱ（三）	118
保存科学講読Ⅱ（一）	106	保存科学演習Ⅲ（一）	118
保存科学講読Ⅱ（二）	107	保存科学演習Ⅲ（二）	119
考古学実習Ⅰ（一）（二）	107	保存科学演習Ⅲ（三）	119
考古学実習Ⅱ（一）（二）	107	保存科学演習Ⅳ（一）	119
考古学実習Ⅲ（一）（二）	107	保存科学演習Ⅳ（二）	119
考古学実習Ⅳ（一）（二）	108	保存科学演習Ⅳ（三）	120
美術史実習Ⅰ	108	考古学概論Ⅰ	120
美術史実習Ⅱ	108	考古学概論Ⅱ	120
美術史実習Ⅲ	108	美術史概論Ⅰ	120
美術史実習Ⅳ	109	美術史概論Ⅱ	121
保存科学実習Ⅰ	109	史料学概論Ⅰ	121
保存科学実習Ⅱ	109	史料学概論Ⅱ	121
保存科学実習Ⅲ	109	保存科学概論Ⅰ	121
保存科学実習Ⅳ	110	保存科学概論Ⅱ	122
考古学演習Ⅰ（一）	110	考古学特殊講義（一）	122
考古学演習Ⅰ（二）	110	考古学特殊講義（二）	122
考古学演習Ⅰ（三）	110	考古学特殊講義（三）	122
		考古学特殊講義（四）	123

考古学特殊講義 (五) .....	123
考古学特殊講義 (六) .....	123
考古学特殊講義 (七) .....	123
考古学特殊講義 (八) .....	124
考古学特殊講義 (九) .....	124
美術史特殊講義 (一) .....	124
美術史特殊講義 (二) .....	124
美術史特殊講義 (三) .....	125
美術史特殊講義 (四) .....	125
美術史特殊講義 (五) .....	125
史料学特殊講義 .....	125
保存科学特殊講義 (一) .....	126
保存科学特殊講義 (三) .....	126
文化財修景学 .....	126
文化財分析学 .....	126
文化財環境学 .....	127
文化財修復学 .....	127
考古学研究法 .....	127
先史考古学 .....	127
歴史考古学 .....	128
仏教考古学 .....	128
世界考古学 .....	128
東洋美術史 .....	128
日本彫刻史 .....	129
日本絵画史 .....	129
工芸史 .....	129
文献史料学 .....	129
宗教文化史 .....	130
世界遺産学 .....	130
建築史 .....	130

■ 心理学科 ■

心理学概論 .....	131
社会心理学概論 .....	131
臨床心理学概論 .....	131
基礎演習 I (一) .....	131
基礎演習 I (二) .....	132
基礎演習 I (三) .....	132
基礎演習 II (一) .....	132
基礎演習 II (二) .....	132
基礎演習 II (三) .....	133
臨床心理学演習 I (一) .....	133
臨床心理学演習 I (二) .....	133
臨床心理学演習 I (三) .....	133
臨床心理学演習 I (四) .....	134
臨床心理学演習 I (五) .....	134
臨床心理学演習 II (一) .....	134
臨床心理学演習 II (二) .....	134
臨床心理学演習 II (三) .....	135

臨床心理学演習 II (四) .....	135
臨床心理学演習 II (五) .....	135
臨床心理学演習 III (一) .....	135
臨床心理学演習 III (二) .....	136
臨床心理学演習 III (四) .....	136
臨床心理学演習 III (五) .....	136
臨床心理学演習 IV (一) .....	136
臨床心理学演習 IV (二) .....	137
臨床心理学演習 IV (四) .....	137
臨床心理学演習 IV (五) .....	137
社会心理学演習 I (一) .....	137
社会心理学演習 I (二) .....	138
社会心理学演習 I (三) .....	138
社会心理学演習 I (四) .....	138
社会心理学演習 I (五) .....	138
社会心理学演習 II (一) .....	139
社会心理学演習 II (二) .....	139
社会心理学演習 II (三) .....	139
社会心理学演習 II (四) .....	139
社会心理学演習 II (五) .....	140
社会心理学演習 III (一) .....	140
社会心理学演習 III (二) .....	140
社会心理学演習 III (三) .....	140
社会心理学演習 III (四) .....	141
社会心理学演習 III (五) .....	141
社会心理学演習 IV (一) .....	141
社会心理学演習 IV (二) .....	141
社会心理学演習 IV (三) .....	142
社会心理学演習 IV (四) .....	142
社会心理学演習 IV (五) .....	142
心理学研究法 .....	142
心理学統計法 I .....	143
心理学実験 .....	143
臨床心理学基礎実習 (一) .....	143
臨床心理学基礎実習 (二) .....	143
社会心理学基礎実習 (一) .....	144
社会心理学基礎実習 (二) .....	144
知覚・認知心理学 I .....	144
学習・言語心理学 .....	144
神経・生理心理学 .....	145
発達心理学 .....	145
教育・学校心理学 .....	145
社会・集団・家族心理学 .....	145
応用社会心理学 .....	146
感情・人格心理学 .....	146
青年心理学 .....	146
進化心理学 .....	146
応用心理学 .....	147
集団力学 .....	147



対人社会心理学	147	演習Ⅱ(四)	159
産業・組織心理学	147	演習Ⅱ(六)	160
文化心理学	148	演習Ⅱ(十)	160
障害者・障害児心理学	148	演習Ⅲ(一)	160
福祉心理学	148	演習Ⅲ(二)	160
心理学的支援法Ⅰ	148	演習Ⅲ(三)	161
心理学的支援法Ⅱ	149	演習Ⅲ(四)	161
司法・犯罪心理学	149	演習Ⅲ(五)	161
健康・医療心理学	149	演習Ⅲ(六)	161
精神疾患とその治療	149	演習Ⅲ(七)	162
人体の構造と機能及び疾病(一)	150	演習Ⅲ(十)	162
人体の構造と機能及び疾病(二)	150	演習Ⅳ(一)	162
社会心理学特殊講義(一)	150	演習Ⅳ(二)	162
社会心理学特殊講義(二)	150	演習Ⅳ(三)	163
社会心理学特殊講義(三)	151	演習Ⅳ(四)	163
社会心理学特殊講義(四)	151	演習Ⅳ(五)	163
社会心理学特殊講義(五)	151	演習Ⅳ(六)	163
社会心理学特殊講義(十一)	151	演習Ⅳ(七)	164
心理学統計法Ⅱ	152	演習Ⅳ(十)	164
関係行政論	152	文化人類学	164
公認心理師の職責	152	政治学	164
心理実践演習(心理実習)	152	経営学	165
心理的アセスメントⅠ	153	家政学	165
心理的アセスメントⅡ	153	地域社会学	165
心理演習(カウンセリング)Ⅰ	153	家族社会学	165
心理演習(カウンセリング)Ⅱ	153	国際社会学	166
社会心理学実験演習	154	現代社会と哲学(一)	166
知覚・認知心理学Ⅱ	154	現代社会と哲学(二)	166
		現代社会と倫理(一)	166
		現代社会と倫理(二)	167
		社会統計学Ⅰ	167
		社会統計学Ⅱ	167
		デジタルアーカイブ概論	167
		文化情報論	168
		国際政治学	168
		産業社会学	168
		情報社会学	168
		環境社会学	169
		ジェンダーとライフコース	169
		東アジア・東南アジア社会論	169
		世界の民族誌	169
		経営管理論	170
		産業と技術の発展	170
		知的財産管理論	170
		消費者行動分析	170
		企業倫理と消費者	171
		量的分析法	171
		質的分析法	171
		プログラミング言語Ⅰ	171
<b>■ 総合社会学科 ■</b>			
基礎演習Ⅰ(一)	155		
基礎演習Ⅰ(二)	155		
基礎演習Ⅱ(一)	155		
基礎演習Ⅱ(二)	155		
社会調査概論	156		
社会学基礎	156		
社会調査法	156		
経済学	156		
情報学	157		
社会体験実習	157		
演習Ⅰ(一)	157		
演習Ⅰ(二)	157		
演習Ⅰ(三)	158		
演習Ⅰ(四)	158		
演習Ⅰ(六)	158		
演習Ⅰ(十)	158		
演習Ⅱ(一)	159		
演習Ⅱ(二)	159		
演習Ⅱ(三)	159		

プログラミング言語Ⅱ	172
社会調査実習(一)	172
総合社会学特殊講義(一)	172
総合社会学特殊講義(二)	172
総合社会学特殊講義(四)	173
総合社会学特殊講義(五)	173
総合社会学特殊講義(七)	173
総合社会学特殊講義(八)	173
総合社会学特殊講義(十一)	174
心理学	174

■ 学科選択科目 ■

哲学・思想Ⅰ(一)	175
哲学・思想Ⅰ(二)	175
哲学・思想Ⅱ(一)	175
哲学・思想Ⅱ(二)	175
宗教学(一)	176
宗教学(二)	176
倫理学(一)	176
倫理学(二)	176
日本史Ⅰ(一)	177
日本史Ⅰ(二)	177
日本史Ⅱ(一)	177
日本史Ⅱ(二)	177
外国史Ⅰ	178
外国史Ⅱ	178
文学	178
心理学	178
社会学(一)	179
社会学(二)	179
教育学(一)	179
教育学(二)	179
文化人類学	180
現代史	180
民俗学	180
政治学(一)	180
政治学(二)	181
法学(一)	181
法学(二)	181
法学(三)	181
日本国憲法(一)	182
日本国憲法(二)	182
日本国憲法(三)	182
日本国憲法(四)	182
地理学Ⅰ	183
地理学Ⅱ	183
地誌学Ⅰ	183
地誌学Ⅱ	183
経済学	184

生物進化学(二)	184
生態学(一)	184
生態学(二)	184
情報学	185
人間学Ⅰ(一)	185
人間学Ⅰ(二)	185
人間学Ⅱ(一)	185
人間学Ⅱ(二)	186
考古学Ⅰ	186
考古学Ⅱ	186
美術史Ⅰ	186
美術史Ⅱ	187
差別・人権問題論	187
奈良文化論	187
国際関係論(二)	187
国際関係論(三)	188
国際関係論(四)	188
国際関係論(五)	188
現代社会と法(一)	188
現代社会と法(二)	189
現代社会と法(三)	189
自然の保護(一)	189
環境科学Ⅰ(一)	189
環境科学Ⅰ(二)	190
環境科学Ⅱ(一)	190
環境科学Ⅱ(二)	190
言語学	190
経営学	191
販売管理論Ⅰ	191
販売管理論Ⅱ	191
販売管理論Ⅲ	191
メディア学	192
数学	192
化学	192
物理学	192
人と防災(二)	193
世界の人口問題	193
比較文化論	193
海外研修(一)	193
プロジェクト	194

## 外国語科目

英語読解初級Ⅰ（一）	195	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ（四）	206
英語読解初級Ⅰ（二）	195	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ（五）	207
英語読解初級Ⅰ（三）	195	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ（六）	207
英語読解初級Ⅰ（四）	195	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ（七）	207
英語読解初級Ⅰ（五）	196	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ（八）	207
英語読解初級Ⅰ（六）	196	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ（九）	208
英語読解初級Ⅰ（七）	196	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ（十）	208
英語読解初級Ⅰ（八）	196	実践英語初級Ⅰ（一）	208
英語読解初級Ⅰ（九）	197	実践英語初級Ⅰ（二）	208
英語読解初級Ⅰ（十）	197	実践英語初級Ⅰ（三）	209
英語読解初級Ⅰ（十一）	197	実践英語初級Ⅰ（四）	209
英語読解初級Ⅰ（十二）	197	実践英語初級Ⅰ（五）	209
英語読解初級Ⅰ（十三）	198	実践英語初級Ⅰ（六）	209
英語読解初級Ⅰ（十五）	198	実践英語初級Ⅰ（七）	210
英語読解初級Ⅰ（十六）	198	実践英語初級Ⅰ（八）	210
英語読解初級Ⅰ（十八）	198	実践英語初級Ⅰ（九）	210
英語読解初級Ⅰ（十九）	199	実践英語初級Ⅱ（一）	210
英語読解初級Ⅱ（一）	199	実践英語初級Ⅱ（二）	211
英語読解初級Ⅱ（二）	199	実践英語初級Ⅱ（三）	211
英語読解初級Ⅱ（三）	199	実践英語初級Ⅱ（四）	211
英語読解初級Ⅱ（四）	200	実践英語初級Ⅱ（六）	211
英語読解初級Ⅱ（五）	200	実践英語初級Ⅱ（七）	212
英語読解初級Ⅱ（六）	200	実践英語初級Ⅱ（八）	212
英語読解初級Ⅱ（七）	200	実践英語初級Ⅱ（九）	212
英語読解初級Ⅱ（八）	201	英語読解中級Ⅰ（一）	212
英語読解初級Ⅱ（九）	201	英語読解中級Ⅰ（二）	213
英語読解初級Ⅱ（十）	201	英語読解中級Ⅰ（三）	213
英語読解初級Ⅱ（十一）	201	英語読解中級Ⅰ（四）	213
英語読解初級Ⅱ（十二）	202	英語読解中級Ⅰ（五）	213
英語読解初級Ⅱ（十三）	202	英語読解中級Ⅰ（六）	214
英語読解初級Ⅱ（十五）	202	英語読解中級Ⅰ（十）	214
英語読解初級Ⅱ（十六）	202	英語読解中級Ⅰ（十一）	214
英語読解初級Ⅱ（十八）	203	英語読解中級Ⅰ（十四）	214
英語読解初級Ⅱ（十九）	203	英語読解中級Ⅰ（十六）	215
オーラルコミュニケーション初級Ⅰ（一）	203	英語読解中級Ⅱ（一）	215
オーラルコミュニケーション初級Ⅰ（二）	203	英語読解中級Ⅱ（二）	215
オーラルコミュニケーション初級Ⅰ（三）	204	英語読解中級Ⅱ（三）	215
オーラルコミュニケーション初級Ⅰ（四）	204	英語読解中級Ⅱ（四）	216
オーラルコミュニケーション初級Ⅰ（五）	204	英語読解中級Ⅱ（五）	216
オーラルコミュニケーション初級Ⅰ（六）	204	英語読解中級Ⅱ（六）	216
オーラルコミュニケーション初級Ⅰ（七）	205	英語読解中級Ⅱ（十）	216
オーラルコミュニケーション初級Ⅰ（八）	205	英語読解中級Ⅱ（十一）	217
オーラルコミュニケーション初級Ⅰ（九）	205	英語読解中級Ⅱ（十四）	217
オーラルコミュニケーション初級Ⅰ（十）	205	英語読解中級Ⅱ（十六）	217
オーラルコミュニケーション初級Ⅱ（一）	206	オーラルコミュニケーション中級Ⅰ（一）	217
オーラルコミュニケーション初級Ⅱ（二）	206	オーラルコミュニケーション中級Ⅰ（二）	218
オーラルコミュニケーション初級Ⅱ（三）	206	オーラルコミュニケーション中級Ⅰ（三）	218
		オーラルコミュニケーション中級Ⅰ（四）	218
		オーラルコミュニケーション中級Ⅰ（五）	218

オーラルコミュニケーション中級 I (六) ……	219	フランス語初級 II (二) ……	231
オーラルコミュニケーション中級 II (一) ……	219	フランス語初級 II (三) ……	231
オーラルコミュニケーション中級 II (二) ……	219	フランス語初級 II (四) ……	231
オーラルコミュニケーション中級 II (三) ……	219	フランス語中級 I (一) ……	232
オーラルコミュニケーション中級 II (四) ……	220	フランス語中級 II (一) ……	232
オーラルコミュニケーション中級 II (五) ……	220	中国語初級 I (一) ……	232
オーラルコミュニケーション中級 II (六) ……	220	中国語初級 I (二) ……	232
実践英語中級 I (三) ……	220	中国語初級 I (三) ……	233
実践英語中級 I (四) ……	221	中国語初級 I (四) ……	233
実践英語中級 I (五) ……	221	中国語初級 I (五) ……	233
実践英語中級 I (六) ……	221	中国語初級 I (六) ……	233
実践英語中級 I (七) ……	221	中国語初級 I (七) ……	234
実践英語中級 II (三) ……	222	中国語初級 I (八) ……	234
実践英語中級 II (四) ……	222	中国語初級 I (九) ……	234
実践英語中級 II (五) ……	222	中国語初級 I (十) ……	234
実践英語中級 II (六) ……	222	中国語初級 I (十一) ……	235
実践英語中級 II (七) ……	223	中国語初級 I (十二) ……	235
上級英語 I (二) ……	223	中国語初級 I (十三) ……	235
上級英語 I (四) ……	223	中国語初級 I (十四) ……	235
上級英語 II (二) ……	223	中国語初級 I (十五) ……	236
上級英語 II (四) ……	224	中国語初級 I (十六) ……	236
ドイツ語初級 I (一) ……	224	中国語初級 I (十七) ……	236
ドイツ語初級 I (二) ……	224	中国語初級 I (十八) ……	236
ドイツ語初級 I (三) ……	224	中国語初級 I (十九) ……	237
ドイツ語初級 I (四) ……	225	中国語初級 II (一) ……	237
ドイツ語初級 I (五) ……	225	中国語初級 II (二) ……	237
ドイツ語初級 I (六) ……	225	中国語初級 II (三) ……	237
ドイツ語初級 I (七) ……	225	中国語初級 II (四) ……	238
ドイツ語初級 I (八) ……	226	中国語初級 II (五) ……	238
ドイツ語初級 I (九) ……	226	中国語初級 II (六) ……	238
ドイツ語初級 II (一) ……	226	中国語初級 II (七) ……	238
ドイツ語初級 II (二) ……	226	中国語初級 II (八) ……	239
ドイツ語初級 II (三) ……	227	中国語初級 II (九) ……	239
ドイツ語初級 II (四) ……	227	中国語初級 II (十) ……	239
ドイツ語初級 II (六) ……	227	中国語初級 II (十一) ……	239
ドイツ語初級 II (七) ……	227	中国語初級 II (十二) ……	240
ドイツ語初級 II (八) ……	228	中国語初級 II (十三) ……	240
ドイツ語初級 II (九) ……	228	中国語初級 II (十四) ……	240
ドイツ語中級 I (一) ……	228	中国語初級 II (十五) ……	240
ドイツ語中級 I (二) ……	228	中国語初級 II (十六) ……	241
ドイツ語中級 I (三) ……	229	中国語初級 II (十七) ……	241
ドイツ語中級 II (一) ……	229	中国語初級 II (十八) ……	241
ドイツ語中級 II (二) ……	229	中国語初級 II (十九) ……	241
ドイツ語中級 II (三) ……	229	中国語中級 I (一) ……	242
フランス語初級 I (一) ……	230	中国語中級 I (二) ……	242
フランス語初級 I (二) ……	230	中国語中級 I (三) ……	242
フランス語初級 I (三) ……	230	中国語中級 I (四) ……	242
フランス語初級 I (四) ……	230	中国語中級 I (五) ……	243
フランス語初級 II (一) ……	231	中国語中級 II (一) ……	243

中国語中級Ⅱ(二)	243
中国語中級Ⅱ(三)	243
中国語中級Ⅱ(四)	244
中国語中級Ⅱ(五)	244
韓国語初級Ⅰ(一)	244
韓国語初級Ⅰ(二)	244
韓国語初級Ⅰ(三)	245
韓国語初級Ⅰ(四)	245
韓国語初級Ⅰ(五)	245
韓国語初級Ⅰ(六)	245
韓国語初級Ⅰ(七)	246
韓国語初級Ⅰ(八)	246
韓国語初級Ⅱ(一)	246
韓国語初級Ⅱ(二)	246
韓国語初級Ⅱ(三)	247
韓国語初級Ⅱ(四)	247
韓国語初級Ⅱ(五)	247
韓国語初級Ⅱ(六)	247
韓国語初級Ⅱ(七)	248
韓国語初級Ⅱ(八)	248
韓国語中級Ⅰ(一)	248
韓国語中級Ⅰ(二)	248
韓国語中級Ⅱ(一)	249
韓国語中級Ⅱ(二)	249
日本語Ⅰ	249
日本語Ⅱ	249
日本語Ⅲ	250
日本語Ⅳ	250
日本語Ⅴ	250
日本語Ⅵ	250
日本語Ⅶ	251
日本語Ⅷ	251

## 健康・スポーツ科目

スポーツ実技Ⅰ(一)	253
スポーツ実技Ⅰ(二)	253
スポーツ実技Ⅰ(三)	253
スポーツ実技Ⅰ(四)	253
スポーツ実技Ⅰ(五)	254
スポーツ実技Ⅰ(七)	254
スポーツ実技Ⅰ(八)	254
スポーツ実技Ⅰ(九)	254
スポーツ実技Ⅰ(十)	255
スポーツ実技Ⅱ(一)	255
スポーツ実技Ⅱ(二)	255
スポーツ実技Ⅱ(五)	255
スポーツ実技Ⅱ(六)	256
スポーツ実技Ⅱ(七)	256
スポーツ実技Ⅱ(八)	256
スポーツ実技Ⅱ(九)	256
スポーツ実技Ⅱ(十一)	257
スポーツ実技Ⅱ(十二)	257
健康科学Ⅰ(一)	257
健康科学Ⅰ(二)	257
健康科学Ⅱ(一)	258
健康科学Ⅱ(三)	258
健康科学Ⅱ(四)	258
健康科学Ⅱ(五)	258

## 情報・キャリア科目

情報倫理(一)	259
情報倫理(二)	259
情報倫理(三)	259
情報倫理(四)	259
情報倫理(五)	260
情報倫理(六)	260
情報リテラシー(一)	260
情報リテラシー(二)	260
情報リテラシー(三)	261
情報リテラシー(四)	261
情報リテラシー(五)	261
情報リテラシー(六)	261
コンピュータ基礎論	262
プログラミング基礎	262
情報処理(一)	262
情報処理(二)	262
情報処理(三)	263
情報処理(四)	263
情報処理(五)	263
情報処理(六)	263

画像編集 (一)	264
画像編集 (二)	264
動画編集 (一)	264
動画編集 (二)	264
データ分析法 I	265
データ分析法 II	265
Webプログラミング I	265
Webプログラミング II	265
キャリアデザイン (一)	266
キャリアデザイン (二)	266
キャリアデザイン (三)	266
キャリアデザイン (四)	266
キャリアデザイン (五)	267
キャリアデザイン (六)	267
キャリアデザイン (七)	267
キャリアデザイン (八)	267
インターンシップ概論	268
インターンシップ実習	268
生涯学習概論 (一)	268
生涯学習概論 (二)	268

## 資格科目

教育原理 (一)	269
教育原理 (二)	269
教職論 (一)	269
教職論 (二)	269
教育行政・制度論 (一)	270
教育行政・制度論 (二)	270
教育心理学 (一)	270
教育心理学 (二)	270
特別支援教育 (一)	271
特別支援教育 (二)	271
教育課程論 (一)	271
教育課程論 (二)	271
道徳教育論 (一)	272
道徳教育論 (二)	272
特別活動・総合的な学習の時間の指導法 (一)	272
特別活動・総合的な学習の時間の指導法 (二)	272
教育方法・技術論 (ICTの活用含む) (一)	273
教育方法・技術論 (ICTの活用含む) (二)	273
生徒指導論 (一)	273
生徒指導論 (二)	273
教育相談心理学 (一)	274
教育相談心理学 (二)	274
国語科教育法 I	274
国語科教育法 II	274
社会科教育法 I (一)	275
社会科教育法 I (二)	275
社会科教育法 II (一)	275
社会科教育法 II (二)	275
地理歴史科教育法 (一)	276
地理歴史科教育法 (二)	276
公民科教育法	276
国語科教材研究 I	276
国語科教材研究 II	277
社会科教材研究 I	277
社会科教材研究 II	277
地理歴史科教材研究	277
公民科教材研究	278
教育実習指導 (一)	278
教育実習指導 (二)	278
教育実習 I	278
教育実習 II	279
教職実践演習 (中・高) (一) (二) (三) (四)	279
人権教育の研究 (一)	279
人権教育の研究 (二)	279
博物館概論	280
博物館経営論	280
博物館資料論	280
博物館資料保存論	280
博物館展示論	281
博物館教育論	281
博物館情報・メディア論	281
博物館実習 I	281
博物館実習 II	282
博物館実習 III	282
図書館概論 (一)	282
図書館概論 (二)	282
図書館制度・経営論 (一)	283
図書館制度・経営論 (二)	283
図書館情報技術論 (一)	283
図書館情報技術論 (二)	283
図書館サービス概論 (一)	284
図書館サービス概論 (二)	284
情報サービス論 (一)	284
情報サービス論 (二)	284
児童サービス論 (一)	285
児童サービス論 (二)	285
情報サービス演習 (一)	285
情報サービス演習 (二)	285
情報サービス演習 (三)	286
図書館情報資源概論 (一)	286
図書館情報資源概論 (二)	286
情報資源組織論 (一)	286
情報資源組織論 (二)	287
情報資源組織演習 (一)	287
情報資源組織演習 (二)	287

図書館基礎特論	287
図書館情報資源特論	288
図書・図書館史	288
図書館施設論	288
図書館総合演習	288
図書館実習	289
図書館サービス特論	289
学校経営と学校図書館	289
学校図書館メディアの構成	289
学習指導と学校図書館	290
読書と豊かな人間性	290
情報メディアの活用	290





# 全 学 科 共 通





科目名	学問と社会（一）			期間	前期
担当教員	共同	単位数	2	配当年次	1-4
テ－マ	大学での学びと、成年としての社会との関わりを考える				
到達目標	大学で学ぶ「学問」は、それぞれの専門分野を超えて応用可能であることを知り、自身が主体的に学ぶための指針を設定する能力を身につける。併せて、社会の様々な場面で成年として生活の知識を持ち、自身の意思で適切に行動できる能力を身につける。（学問＝一定の理論に基づいて体系化された知識と方法）				
授業概要	「答えどころか何が問題かもわからない」ような課題について、一定の理論に基づいて体系化された知識と方法を身につけ探究し、問題を発見して答えを探す営みを、毎回異なる講師が自身の専門分野の方法論や知見をもとに、学生のみなさんに伝えます。併せて、成年となり保護がなくなったばかりで十分な社会経験がない学生のみなさんに、自分の意志で適切な判断を行い、社会で一人の大人として生きていく力を身に付けられるよう、第3回から第7回では外部から講師を招いて授業を実施し、トラブルを未然に防ぐ方法を一緒に考えていきたいと思います。				
評価方法・基準	15回の授業で、毎回時数400字程度までの小レポートを課す。各教員は提出されたレポートをA・B・C・Dの4段階で評価し、15回分の評価を総合して各学生の評点とする。なお、毎回のレポート提出を原則とするので、提出が10回未満の場合は、出席不足とみなして評価の対象外とする。				
履修上の注意事項等	授業は毎回異なる教員が担当する。				
テキスト	使用しない				
参考書					

科目名	学問と社会（二）			期間	前期
担当教員	共同	単位数	2	配当年次	1-4
テ－マ	大学での学びと、成年としての社会との関わりを考える				
到達目標	大学で学ぶ「学問」は、それぞれの専門分野を超えて応用可能であることを知り、自身が主体的に学ぶための指針を設定する能力を身につける。併せて、社会の様々な場面で成年として生活の知識を持ち、自身の意思で適切に行動できる能力を身につける。（学問＝一定の理論に基づいて体系化された知識と方法）				
授業概要	「答えどころか何が問題かもわからない」ような課題について、一定の理論に基づいて体系化された知識と方法を身につけ探究し、問題を発見して答えを探す営みを、毎回異なる講師が自身の専門分野の方法論や知見をもとに、学生のみなさんに伝えます。併せて、成年となり保護がなくなったばかりで十分な社会経験がない学生のみなさんに、自分の意志で適切な判断を行い、社会で一人の大人として生きていく力を身に付けられるよう、第3回から第7回では外部から講師を招いて授業を実施し、トラブルを未然に防ぐ方法を一緒に考えていきたいと思います。				
評価方法・基準	15回の授業で、毎回時数400字程度までの小レポートを課す。各教員は提出されたレポートをA・B・C・Dの4段階で評価し、15回分の評価を総合して各学生の評点とする。なお、毎回のレポート提出を原則とするので、提出が10回未満の場合は、出席不足とみなして評価の対象外とする。				
履修上の注意事項等	授業は毎回異なる教員が担当する。				
テキスト	使用しない				
参考書					



# 国文学科科目





科目名	基礎演習Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート（調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価）・発表（調査、構成と発表方法の工夫で評価）・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法、初年次教育を考える会、奈良大学、2022				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅰ（三）			期間	前期
担当教員	大西 英人	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート（調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価）・発表（調査、構成と発表方法の工夫で評価）・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法、初年次教育を考える会、奈良大学、2022				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	1
テーマ	国文学科で学ぶための基礎的能力の獲得				
到達目標	①国文学科で学ぶための基礎的な知識を獲得することができる。 ②大学生として備えるべきリテラシー（読む／書く／発表する）を獲得することができる。				
授業概要	この講義は、基礎演習Ⅰで学んだ大学生としての学びの基礎を土台に、国文学科で学ぶための基礎的なスキルを身につけることを目標とする。国文学科の専門科目で実践する調査やレポートの書き方を習得するのはもちろん、共同研究とその成果のプレゼンテーションを行うことに比重をかける。そのため講義の最初にチーム分けと研究テーマの設定を行い、以後の授業はそのテーマを深める形で行う。なお最終的に各チームごとにプレゼンテーションを実施し、優秀チームには学年全体のまえて代表発表を行ってもらう計画である。				
評価方法・基準	平常点80%（出席はもちろん、発表や授業への積極性・取り組みを総合的に評価する） 期末課題20%（未提出の場合は単位が付かない）				
履修上の注意事項等	配属クラスは事前に割り当てられている。登録の際には自分が配属されたクラスを選択すること。 テキストは前期必修科目「国文学の世界」・「基礎演習Ⅰ」で購入済みである。買い直す必要はない。				
テキスト	大学生の表現技法、初年次教育を考える会、奈良大学、2022 プレミアムカラー国語便覧、森田貴之ほか、数研出版、2017				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	★櫻井 清華	単位数	2	配当年次	1
テーマ	国文学科で学ぶための基礎的能力の獲得				
到達目標	①国文学科で学ぶための基礎的な知識を獲得することができる。 ②大学生として備えるべきリテラシー（読む／書く／発表する）を獲得することができる。				
授業概要	この講義は、基礎演習Ⅰで学んだ大学生としての学びの基礎を土台に、国文学科で学ぶための基礎的なスキルを身につけることを目標とする。国文学科の専門科目で実践する調査やレポートの書き方を習得するのはもちろん、共同研究とその成果のプレゼンテーションを行うことに比重をかける。そのため講義の最初にチーム分けと研究テーマの設定を行い、以後の授業はそのテーマを深める形で行う。なお最終的に各チームごとにプレゼンテーションを実施し、優秀チームには学年全体のまえて代表発表を行ってもらう計画である。				
評価方法・基準	平常点80%（出席はもちろん、発表や授業への積極性・取り組みを総合的に評価する） 期末課題20%（未提出の場合は単位が付かない）				
履修上の注意事項等	配属クラスは事前に割り当てられている。登録の際には自分が配属されたクラスを選択すること。 テキストは前期必修科目「国文学の世界」・「基礎演習Ⅰ」で購入済みである。買い直す必要はない。				
テキスト	大学生の表現技法、初年次教育を考える会、奈良大学、2022 プレミアムカラー国語便覧、森田貴之ほか、数研出版、2017				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	1
テーマ	国文学科で学ぶための基礎的能力の獲得				
到達目標	①国文学科で学ぶための基礎的な知識を獲得することができる。 ②大学生として備えるべきリテラシー（読む／書く／発表する）を獲得することができる。				
授業概要	この講義は、基礎演習Ⅰで学んだ大学生としての学びの基礎を土台に、国文学科で学ぶための基礎的なスキルを身に付けることを目標とする。国文学科の専門科目で実践する調査やレポートの書き方を習得するのはもちろん、共同研究とその成果のプレゼンテーションを行うことに比重をかける。そのため講義の最初にチーム分けと研究テーマの設定を行い、以後の授業はそのテーマを深める形で行う。なお最終的に各チームごとにプレゼンテーションを実施し、優秀チームには学年全体のまえて代表発表を行ってもらう計画である。				
評価方法・基準	平常点80%（出席はもちろん、発表や授業への積極性・取り組みを総合的に評価する） 期末課題20%（未提出の場合は単位が付かない）				
履修上の注意事項等	配属クラスは事前に割り当てられている。登録の際には自分が配属されたクラスを選択すること。 テキストは前期必修科目「国文学の世界」・「基礎演習Ⅰ」で購入済みである。買い直す必要はない。				
テキスト	大学生の表現技法、初年次教育を考える会、奈良大学、2022 プレミアムカラー国語便覧、森田貴之ほか、数研出版、2017				
参考書					

科目名	国文学の世界			期間	前期
担当教員	鈴木 喬 中尾 和昇 光石 亜由美 山田 昇平	単位数	2	配当年次	1
テーマ	国文学の世界を幅広く知る				
到達目標	①国文学の各分野における基礎知識を習得する。 ②自身の興味・関心の幅を広げ、今後の研究の土台とする。				
授業概要	この授業では、古典文学（上代～近世）・近現代文学・国語学・日本語学の各分野についての全体像や諸問題、そして現在研究されているテーマなどを幅広く知るところを目的とする。具体的には各分野の基礎的な知識をリレー形式で聞き、関心を深める。また同時に国語・国文学に関する基礎知識を高めるために、国語常識に関する小テストも実施する。				
評価方法・基準	平常点100%（各回ごとの課題レポート・小テスト・授業への取り組みを総合的に評価する）				
履修上の注意事項等	毎回の出席および評価は講義内容確認レポートの提出によって判断する。提出がない場合は欠席扱いとなるので注意すること。また、小テストは教科書から出題されるので、事前に指定された範囲を、よく勉強しておくこと。				
テキスト	改訂版プレミアムカラー国語便覧、森田貴之ほか、数研出版、2024				
参考書					

科目名	言語文学Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	1
テーマ	万葉集を歌人を通して読む				
到達目標	・上代文学作品に関する基礎知識を習得する。 ・上代文学作品の分析方法を習得する。 ・古典文学研究の基本的な手法を習得する。				
授業概要	『万葉集』は現存する最古の歌集である。またすべて漢字で記されている。本演習では、歌人ごとに二首選び、それらへの注釈をつうじて、用例や表現類例の検索方法および読み解くうえでの勘所をおさえ、古典文学研究の基礎的な手法を身につけることを目標としている。				
評価方法・基準	発表70%（用例を適切に検索出来ているか、分析方法や根拠・論理展開は妥当か、など）、授業中の発言30%（積極的に議論に参加し、理解を深めているか）。授業中での発言・質疑応答を重視する。				
履修上の注意事項等	発表準備は早めに取りかかることを推奨する。発表者が発表当日に無断欠席した場合は、単位は認めない。				
テキスト	特になし				
参考書					

科目名	言語文学Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	1
テーマ	平安時代文学への導入 — 『伊勢物語』で和歌に親しむ—				
到達目標	①『伊勢物語』各章段について、従来どのように読まれてきたのかを理解し、自分の見解を述べられるようになる。 ②図書館を利用して調査し、提示した形式で発表資料を作成できるようになる。				
授業概要	平安時代の歌物語『伊勢物語』を輪読する。『伊勢物語』は「男」の一代記の体裁を取る。各章段は短く、読みやすい上に面白い。後世の文学に大きな影響を及ぼした作品であり、一度は触れておきたい名作である。前半では高校の検定教科書に収録されている、有名な章段を読解する。後半では事前に指定した章段について発表を行う（※受講人数によって変動あり）。各種注釈書・辞典類の使用法についてなど、大学で日本文学（古典）を勉強する上で必要な基礎的な知識について説明する。				
評価方法・基準	積極的な質問など授業への参加度（40%）、資料作成および発表内容（30%）、発表レジュメの再検討（30%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	受講人数にもよるが、基本的に毎回全員に意見を求める。発表が重要なため無断欠席は絶対に行わないこと（評価方法・基準参照）。				
テキスト	学びを深めるヒントシリーズ 伊勢物語、早稲田久喜の会（編著）、明治書院、2018				
参考書	適宜紹介する				



科目名	言語文学 I (三)			期間	前期
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	1
テーマ	近世初期の怪異小説集『伽婢子』をよむ				
到達目標	①仮名草子に関する基礎的知識を習得する。 ②近世文学の基礎的な読解方法を習得する。 ③典拠の利用方法について理解する。				
授業概要	浅井了意作の仮名草子『伽婢子(おとぎぼうご)』(寛文6年[1666]刊)は、近世初期を代表する怪異小説集である。仏教者であった了意は、本書において中国・朝鮮の怪異小説集(『剪灯新話』『剪灯余話』『五朝小説』『金鰲新話])を巧みに翻案し、人々を「正道」へと導くための方便とした。この授業では、『剪灯新話(せんとうしんわ)』を典拠とする巻三の三「牡丹灯籠」と巻六の三「遊女宮木野」の二話を精読することで、了意による翻案の実態に迫りたい。				
評価方法・基準	平常点30%(授業への積極性を評価する)、口頭発表40%(資料の完成度・基礎的な読解力を評価する)、レポート30%(精確性・客観性・論理性を評価する)。				
履修上の注意事項等	質疑応答の場を設けるので、受講生は積極的に発言してほしい。また、発表する際の遅刻・欠席は、絶対に避けるようにする。このような態度が見られた場合は、単位を認めない場合がある。				
テキスト	なし(コピーして配布する)				
参考書	新日本古典文学大系75 伽婢子, 松田修ほか校注, 岩波書店, 2001 浅井了意全集 仮名草子編5, 浅井了意全集刊行会編, 岩田書店, 2015 中国古典小説選8 剪灯新話(明代), 竹田晃ほか編, 明治書院, 2008				

科目名	言語文学 I (四)			期間	前期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	1
テーマ	国語辞典を対照する				
到達目標	①国語辞典の特徴を知る ②ことばに対する関心を持つ ③ことばに対する分析法を学ぶ				
授業概要	現代の小型国語辞典について、種類ごとあるいは版ごとに対照し、それぞれの差異や特徴を読み取る。これによって、(1)各辞書毎に特徴があることを確認し、その背景を考察する。また、各辞書の新版と旧版とを参照することで(2)各辞書の変遷過程を確認する。そのうえで、(3)ことばや辞書に関する問題を設定し、調査・考察の上、発表・議論を行う。この作業を通して、国語辞典について学ぶと共に、日本語に対する問題意識やその分析方法を身に付ける。				
評価方法・基準	・発表とそれを踏まえたレポート60%(形式・問題設定・考察を総合的に評価) ・議論40%(生産的発言・積極的態度などを評価) ・出席は加点対象としなが、欠席は減点対象とする				
履修上の注意事項等	・発表人数等は履修人数や進行に合わせて調整する。 ・事前連絡なしに発表者が欠席した場合、単位を認めない。				
テキスト	授業中に配布する				
参考書	授業中に配布する				

科目名	言語文学 I (五)			期間	前期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	1
テーマ	小説の読み方				
到達目標	1. テキストを精読する方法を習得する。 2. ディスカッションの技術を習得する。 3. プレゼンテーションの技術を習得する。				
授業概要	前半は文学理論をふまえた作品の基礎的な読み方を習得する。レジュメの作成の仕方など発表の基礎的な部分を学んだのち、後半は、前半で習得したことをふまえて、発表を行う。				
評価方法・基準	平常点30%(授業内での課題作成、積極性・協同性)、授業内での発表40%(レジュメの内容、プレゼンの仕方、質疑応答を評価します)、提出物・レポート30%(与えられた課題に対する達成度(論理性、論述性等)で評価します)				
履修上の注意事項等	発表はもちろん、討論での発言度、積極性を重視する。受講者は全員、テキストを読んで、討議に参加すること。				
テキスト	プリントで配布する				
参考書	文学テキスト入門, 前田愛, ちくま学芸文庫, 1993				

科目名	言語文学 I (六)			期間	前期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	1
テーマ	芥川龍之介の短編小説を読む				
到達目標	(1) 近現代文学研究の基本的な視点と方法を身につける。 (2) 自らの意見を論理的に説明する能力を養う。 (3) 高校までの〈現代国語〉と、大学の〈文学研究〉の違いを理解する。				
授業概要	この授業では、芥川龍之介の小説作品を例に、近代文学研究に必要な基本的知識と手法を学ぶとともに、レポートや発表のために必要なスキルも身に付けることを目指している。具体的にはまず「羅生門」を例に、講義形式で小説作品の分析方法を学ぶ。その後、指定された芥川龍之介の短編小説について、受講生自身が研究発表を行う。				
評価方法・基準	平常点(10%)、課題(20%)、発表(30%)、期末レポート(40%)。 平常は講義態度を重視する。レポート・課題・発表は、理解度や視点の独創性、論証の実証性を中心に評価する。				
履修上の注意事項等	受講クラスは事前に指定されているため、登録の際には注意すること。 欠席したりわからないことが出た場合、翌週までに木田研究室まで質問に来ること。 発表作品は受講生の数や希望に応じて変更の可能性がある。				
テキスト	羅生門 蜘蛛の糸 杜子春 外十八編, 芥川龍之介, 文春文庫				
参考書	芥川龍之介全作品事典, 関口安義他編, 勉誠出版, 2000 芥川龍之介大事典, 志村有弘, 勉誠出版, 2002 その他、随時指示する				

科目名	言語文学Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	1
テーマ	『万葉集』を歌人を通して読む				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上代文学に関する基礎知識を習得する。</li> <li>・上代文学作品の分析方法を習得する。</li> <li>・古典文学研究の基本的な手法を習得する。</li> </ul>				
授業概要	『万葉集』は現存する最古の歌集である。またすべて漢字で記されている。本演習では、歌人ごとに二首選び、それらへの注釈をつうじて、用例や表現類例の検索方法および読み解くうえでの勘所をおさえ、古典文学研究の基本的な手法を身につけることを目標としている。				
評価方法・基準	発表70%（用例を適切に検索出来ているか、分析方法や根拠・論理展開は妥当か、など）、授業中の発言30%（積極的に議論に参加し、理解を深めているか）。授業中での発言・質疑応答を重視する。				
履修上の注意事項等	発表準備は早めに取りかかることを推奨する。発表者が発表当日に無断欠席した場合は、単位は認めない。				
テキスト	特になし。				
参考書					

科目名	言語文学Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	1
テーマ	平安時代文学への導入 — 『伊勢物語』で和歌に親しむ—				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①『伊勢物語』各章段について、従来どのように読まれてきたのかを理解し、自分の見解を述べられるようになる。</li> <li>②図書館を利用して調査し、提示した形式で発表資料を作成できるようになる。</li> </ul>				
授業概要	平安時代の歌物語『伊勢物語』を輪読する。『伊勢物語』は「男」の一代記の体裁を取る。各章段は短く、読みやすい上に面白い。後世の文学に大きな影響を及ぼした作品であり、一度は触れておきたい名作である。前半では高校の検定教科書に収録されている、有名な章段を読解する。後半では事前に指定した章段について発表を行う（※受講人数によって変動あり）。各種注釈書・辞典類の使用法についてなど、大学で日本文学（古典）を勉強する上で必要な基礎的な知識について説明する。				
評価方法・基準	積極的な質問など授業への参加度（40%）、資料作成および発表内容（30%）、発表レジュメの再検討（30%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	受講人数にもよるが、基本的に毎回全員に意見を求める。発表が重要なため無断欠席は絶対に行わないこと（評価方法・基準参照）。				
テキスト	学びを深めるヒントシリーズ 伊勢物語、早稲田久喜の会（編著）、明治書院、2018				
参考書	適宜紹介する				

科目名	言語文学Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	1
テーマ	近世初期の怪異小説集『伽婢子』をよむ				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①仮名草子に関する基礎的知識を習得する。</li> <li>②近世文学の基礎的な読解方法を習得する。</li> <li>③典拠の利用方法について理解する。</li> </ul>				
授業概要	浅井了意作の仮名草子『伽婢子（おとぎぼうこ）』（寛文6年 [1666] 刊）は、近世初期を代表する怪異小説集である。仏教者であった了意は、本書において中国・朝鮮の怪異小説集（『剪灯新話』『剪灯余話』『五朝小説』『金鰲新話』）を巧みに翻案し、人々を「正道」へと導くための方便とした。この授業では、『剪灯新話（せんとうしんわ）』を典拠とする巻十二の二「幽霊書を父母につかはす」を精読することで、了意による翻案の実態に迫りたい。				
評価方法・基準	平常点30%（授業への積極性を評価する）、口頭発表40%（資料の完成度・基礎的な読解力を評価する）、レポート30%（精確性・客観性・論理性を評価する）。				
履修上の注意事項等	質疑応答の場を設けるので、受講生は積極的に発言してほしい。また、発表する際の遅刻・欠席は、絶対に避けるようにする。このような態度が見られた場合は、単位を認めない場合がある。				
テキスト	新日本古典文学大系75 伽婢子、松田修ほか校注、岩波書店、2001 浅井了意全集 仮名草子編5、浅井了意全集刊行会編、岩田書院、2015 中国古典小説選8 剪灯新話〈明代〉、竹田晃ほか編、明治書院、2008				
参考書					

科目名	言語文学Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	1
テーマ	国語辞典を対照する				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①国語辞典の特徴を知る</li> <li>②ことばに対する関心を持つ</li> <li>③ことばに対する分析法を学ぶ</li> </ul>				
授業概要	現代の小型国語辞典について、種類ごとあるいは版ごとに対照し、それぞれの差異や特徴を読み取る。これによって、(1) 各辞書毎に特徴があることを確認し、その背景を考察する。また、各辞書の新版と旧版とを参照することで(2) 各辞書の変遷過程を確認する。そのうえで、(3) ことばや辞書に関する問題を設定し、調査・考察の上、発表・議論を行う。この作業を通して、国語辞典について学ぶと共に、日本語に対する問題意識やその分析方法を身につける。				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表とそれを踏まえたレポート60%（形式・問題設定・考察を総合的に評価）</li> <li>・議論40%（生産的発言・積極的態度などを評価）</li> <li>・出席は加点対象としなが、欠席は減点対象とする</li> </ul>				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表人数等は履修人数や進行に合わせて調整する。</li> <li>・事前連絡なしに発表者が欠席した場合、単位を認めない。</li> </ul>				
テキスト	授業中に配布する				
参考書	授業中に配布する				

科目名	言語文学Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	1
テーマ	小説の読み方				
到達目標	1. テキストを精読する方法を習得する。 2. ディスカッションの技術を習得する。 3. プレゼンテーションの技術を習得する。				
授業概要	前半は文学理論をふまえた作品の基礎的な読み方を習得する。レジュメの作成の仕方など発表の基礎的な部分を学んだのち、後半は、前半で習得したことをふまえて、発表を行う。				
評価方法・基準	平常点30%（授業内での課題作成、積極性・協同性）、授業内での発表40%（レジュメの内容、プレゼンの仕方、質疑応答を評価します）、提出物・レポート30%（与えられた課題に対する達成度（論理性、論述性等）で評価します）				
履修上の注意事項等	発表はもちろん、討論での発言度、積極性を重視する。受講者は全員、テキストを読んで、討議に参加すること。				
テキスト	プリントで配布する				
参考書	文学テキスト入門、前田愛、ちくま学芸文庫、1993年				

科目名	言語文学Ⅱ（六）			期間	後期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	1
テーマ	芥川龍之介の短編小説を読む				
到達目標	(1) 近現代文学研究の基本的な視点と方法を身につける。 (2) 自らの意見を論理的に説明する能力を養う。 (3) 高校までの〈現代国語〉と、大学の〈文学研究〉の違いを理解する。				
授業概要	この授業では、芥川龍之介の小説作品を例に、近代文学研究に必要な基本的知識と手法を学ぶとともに、レポートや発表のための必要なスキルも身につけることを目指している。具体的にはまず「羅生門」を例に、講義形式で小説作品の分析方法を学ぶ。その後、指定された芥川龍之介の短編小説について、受講生自身が研究発表を行う。				
評価方法・基準	平常点（10%）、課題（20%）、発表（30%）、期末レポート（40%）。平常は講義態度を重視する。レポート・課題・発表は、理解度や視点の独創性、論証の実証性を中心に評価する。				
履修上の注意事項等	受講クラスは事前に指定されているため、登録の際には注意すること。欠席したりわからないことが出た場合、翌週までに木田研究室まで質問に来ること。発表対象作品は、受講生の数と関心に応じて変更の可能性がある。				
テキスト	羅生門 蜘蛛の糸 杜子春 外十八編、芥川龍之介、文春文庫				
参考書	芥川龍之介全作品事典、関口安義他編、勉誠出版、2000 芥川龍之介大事典、志村有弘、勉誠出版、2002 その他、随時指示する				

科目名	国文学講読Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	『万葉集』における基礎的読解				
到達目標	『万葉集』を読むための基礎的知識や方法論を身に付け、一つのテーマに基づいて歌を読む力を身に付けることを目標とする。				
授業概要	『万葉集』の基礎知識（そもそも『万葉集』とは何か）や研究における方法論（索引の使い方、どのような研究方法があるのか）の講義を行い、そののち「旅」に関する歌を各グループに配当し、その担当歌について発表をしてゆく。				
評価方法・基準	平常点20%（積極的に議論に参加し、理解を深めているか）。発表40%（レジュメの内容、課題に対する取り組み）。レポート40%（問題発見と問題解決への取り組み）。				
履修上の注意事項等	初回は必ず出席すること。また発表者は、発表日を守り、責任をもって発表に臨むこと。				
テキスト	万葉集 訳文篇、佐竹昭広・木下正俊・小島憲之共著、塙書房、1972年				
参考書	万葉集講義—最古の歌集の素顔—、上野誠、中央公論新社、2020 適宜紹介する。				

科目名	国文学講読Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	★北井 佑実子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	平安時代前期に活躍した歌人の歌を読む。				
到達目標	(1) 古典文学作品を読むために必要な基礎知識を身につける。 (2) 平安時代における和歌の役割、当時の生活、文化を理解する。 (3) テーマについて話し合い、根拠を示して自らの意見を主張する。				
授業概要	在原業平・小野小町ら六歌仙をはじめ、『古今和歌集』の撰者、紀友則・紀貫之・凡河内躬恒・壬生忠岑など、新しい和歌の時代を築き上げた歌人の歌を通して、当時の和歌の役割や歌人の心情を読みとる。受講生は、それぞれ担当する歌人を決めて発表し、全体で質疑・ディスカッションを行う。学期末に各自でテーマを定めてレポートを作成する。				
評価方法・基準	平常点20%（授業への参加度） 発表40%（資料作成、発表方法、質疑応答） レポート40%（テーマの設定、各自の調査、考察）				
履修上の注意事項等	発表の準備は早めに始めること。発表に対して、質疑応答、ディスカッションを行うので、受講生は積極的に発言してほしい。演習の授業なので、遅刻・欠席は注意すること。参考書は授業内で適宜指示する。				
テキスト	なし				
参考書	和歌文学選 歌人とその作品、神野志隆光・芳賀紀雄・田中登・竹下豊・佐藤恒雄・稲田利徳・上野洋三・山崎美紗子・太田登・島津忠夫 編、和泉書院、1984				

科目名	国文学講読Ⅰ（三）			期間	前期
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	院政期女房の文学 — 『讀岐典侍日記』を読む—				
到達目標	①『讀岐典侍日記』各章段について、従来どのように読まれてきたのかを理解し、自分の見解を述べられるようになる。 ②図書館を利用して調査し、提示した形式で発表資料を作成できるようにする。				
授業概要	この授業では院政期の作品『讀岐典侍日記』を輪読する。讀岐典侍は、二九歳の若さで亡くなった堀河天皇に仕えた女房である。回顧録的な日記文学である本作品では、天皇が死にゆく様子が克明に描写され（上巻）、次代の鳥羽天皇に仕えながら堀河天皇を回想する日々が記されている（下巻）。天皇の死を正面から描いた稀有な作品である『讀岐典侍日記』を読むことで、避けられない別れと見送ることしかできない悲しみに思いを馳せてほしい。初回に発表順を決め、発表者のいない回は講義+実習形式で進める。				
評価方法・基準	積極的な質問など授業への参加度（40%）、資料作成および発表内容（30%）、発表レジュメの再検討（30%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	受講人数にもよるが、基本的に毎回全員に意見を求める。発表が重要なため無断欠席は絶対に行わないこと（評価方法・基準参照）。				
テキスト	資料を配付する				
参考書	讀岐典侍日記全注釈、岩佐美代子、笠間書院、2012 讀岐典侍日記、全訳注、森本元子、講談社、1977 適宜紹介する				

科目名	国文学講読Ⅰ（四）			期間	前期
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	山東京伝の合巻『播州皿屋敷物語』前編をよむ				
到達目標	①近世小説の読解方法を習得する。 ②典拠の利用方法について理解する。 ③京伝合巻の創作手法を理解する。				
授業概要	山東京伝の合巻『播州皿屋敷物語（ばんしゅうさらやしきものがたり）』（文化8年〔1811〕刊）は、皿屋敷の巻説を御家騒動の構想の中に取り入れた、いわゆる〈皿屋敷もの〉の代表作である『播州皿屋敷』（為永太郎兵衛・浅田一鳥合作、寛保元年〔1741〕7月初演）を主要典拠とし、女伊達で著名な小三のエピソードなどを付加している。この授業では前編をとりあげ、本文・挿絵の両面から精読しつつ、典拠の利用方法にも迫りたい。				
評価方法・基準	平常点30%（授業への積極性を評価する）、口頭発表40%（発表資料の完成度・総合的な読解力を評価する）、レポート30%（精確性・客観性・論理性を評価する）。				
履修上の注意事項等	質疑応答の場を設けるので、受講生は積極的に発言してほしい。また、発表する際の遅刻・欠席は、絶対に避けるようにする。このようなことが繰り返し行われた場合は、単位を認めない場合がある。				
テキスト	なし（コピーして配布する）				
参考書	浄瑠璃作品要説〈6〉為永太郎兵衛・浅田一鳥篇、国立劇場芸能調査室編、国立劇場、1990 叢書江戸文庫⑩ 豊竹座浄瑠璃集〔二〕、向井芳樹校訂代表、国書刊行会、1990 山東京傳全集 第九巻、山東京傳全集編集委員会編、ヘリかん社、2006				

科目名	国文学講読Ⅰ（五）			期間	前期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	戦後文学を読む				
到達目標	①近代文学のテキストの読解方法を学ぶ。 ②テキストの背景となる歴史、文化を理解する。 ③先行研究の調査方法、引用の仕方を学ぶ。 ④問題点を抽出し、分析・論述する。				
授業概要	近代文学のテキストを、テキストが描かれた時代背景、文化背景を踏まえた上で、読み解く。また、先行研究を調査、検討したうえで、それぞれのテキストの問題点をあぶりだし、発表者に分析を加えてもらう。				
評価方法・基準	授業内での発表40%（レジュメの内容、形式を評価する）、提出物・レポート40%（読書カード、レポートの内容（論理性、文章力）を評価する）、平常点20%（議論への積極性を評価する）				
履修上の注意事項等	発表はもちろん、討論での発言度、積極性を重視する。受講者は全員、テキストを読んで、討議に参加すること。受講人数によって作品を変更することがある。国文学講読Ⅱ（五）と連続で受講すること。				
テキスト	戦争を〈読む〉、石川巧・川口隆行編、ひつじ書房、2013				
参考書					

科目名	国文学講読Ⅰ（六）			期間	前期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	キリシタン版『エソポのハプラス』を国語学的に読む				
到達目標	①古典文学を注釈的に読むことが出来る。 ②ことばや文献に対する問題意識を持つ。 ③自らの考えを論理的に説明し、それに対して生産的な議論ができる。				
授業概要	キリシタン・ローマ字資料である『エソポのハプラス』（天草版伊曾保物語）を扱う。当該資料は、いわゆる『イソップ寓話集』を室町時代末期の日本語に翻訳したもので、日本布教を行ったキリスト教宣教師たちが、日本語学習の教科書として出版したとされる。この演習では、先行する注釈書を参考にしつつ本書のエソポ伝にあたる箇所を読解する。前期は、主に注釈的に読む作業を中心とし、後期は、自ら国語学的な問題を設定し考察する。これらの作業を通して、論理的思考力や自らの判断に対する説明能力を身に着ける。				
評価方法・基準	・発表とそれを踏まえたレポート60%（形式・問題設定・考察を総合的に評価） ・議論40%（生産的発言・積極的態などを評価） ・出席は加点対象としないが、欠席は減点対象とする。				
履修上の注意事項等	・本文読解を行う「本文編」と自ら問題を設定する「問題編」を行う。 ・発表回数は人数や進行に合わせて調整する。 ・発表者が事前連絡なく欠席した場合、単位を認めない。				
テキスト	キリシタン語学入門、岸本恵実・白井純、八木書店、2022				
参考書	キリシタン版 エソポ物語付古活字本伊曾保物語、大塚光信 校注、角川文庫、1971 キリシタンと出版、豊島正之、八木書店、2013				

科目名	国文学講読Ⅰ（七）			期間	前期
担当教員	★河崎 絵美	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	基礎日本語教育				
到達目標	日本語学習を必要とする学習者のニーズを知り、多文化共生社会の実現に向けた日本語教師役割について自分なりの意見を述べることができる。				
授業概要	日本語教師になりたい、国語や英語・社会の教師になりたい、日本語教育を知りたい、外国人の友達を増やしたいと考える人が「日本語」を通してより深い交流ができるよう、日本語教育の「基礎」を体験型授業で扱います。				
評価方法・基準	平常点50%（講義中の質問など、積極的な態度を重視）、期末レポート50%（必要な情報を収集し、自分の考えを展開できているか、オリジナリティを評価する）				
履修上の注意事項等	ペアあるいはグループ作業を行うため、欠席には十分注意をすること。				
テキスト	超基礎日本語教育、森篤嗣、くろしお、2020				
参考書	新・初めての日本語教育2、高見澤孟、アスク、2016 日本語教師教育学、横溝紳一郎、くろしお、2021 日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第5版、ヒューマンアカデミー、SE、2021				

科目名	国文学講読Ⅰ（八）			期間	前期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	注釈の試み — 川端康成「掌の小説」を精読する				
到達目標	(1) 川端康成の文学世界を知る。 (2) 文学研究の基礎的手法の習得を目指す。 (3) 近代の文化状況を知る。 (4) 文献の探索・読解に慣れる。				
授業概要	川端康成の短編小説集「掌の小説」を〈注釈〉によって読み進める。注釈は作品の中に描かれた事物や出来事の実際を資料によって確認し、それに基づいて作品を解釈する方法である。そのため、この授業は、受講生自身が創作の背景にある大正・昭和期の文献を探索し・読み解くことを中心に行う。授業ではまず講義形式で注釈の方法を学ぶ。その後「掌の小説」の作品注釈をグループで発表する形で進める。				
評価方法・基準	授業への取組（10%）発表（30%）レポート（60%）の総合評価。 レポート・発表は、理解度や視点の独創性、分析の実証的手法を中心に評価する。また積極的な授業参加を高く評価する。				
履修上の注意事項等	履修に当たっては、後期の「国文学講読Ⅱ（八）」と連続で受講すること。				
テキスト	掌の小説、川端康成、新潮文庫、1971				
参考書	川端康成詳細年譜、小谷野敦・深澤晴美、勉誠出版、2016 論集川端康成一掌の小説、川端文学研究会、おうふう、2001 その他、随時指示する				

科目名	国文学講読Ⅰ（九）			期間	前期
担当教員	★渋谷 勝己	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本語の多様性を考える—社会言語学入門1—				
到達目標	1. 地域差や性差、世代差などの日本語の多様性がオールラウンドに把握できるようになる。 2. 言語に変化や多様性が生じる理由について、例をまじえつつ説明できるようになる。				
授業概要	・配布するハンドアウトを読み進めつつ、日本語の多様性の実態を理解し、同時に社会言語学の基本概念を身につける。 ・受講者は全員、事前にハンドアウトを読み、おおよその内容を理解した上で授業に臨むという反転学習のかたちで行う。 ・授業においては、毎回担当者を決め、ハンドアウトに掲載されているキーワードについて、事例をまじえて理解したことを発表する。 ・授業時もしくは授業終了後、理解確認のための小テストを実施する。				
評価方法・基準	・平常点25%（授業に積極的に参加しているか） ・小テスト75%（基本概念が正確に理解できているか。5%×15回）				
履修上の注意事項等					
テキスト	ハンドアウトを配布				
参考書	社会言語学の展望、真田信治編、くろしお出版、2006 改訂版 社会言語学、岩田祐子他、ひつじ書房、2022				

科目名	国文学講読Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	『万葉集』における基礎的知識を身に付けた上で、「旅」に関する歌を読解する。				
到達目標	『万葉集』を読むための基礎的知識や方法論を身に付け、一つのテーマに基づいて歌を読む力を身に付けることを目標とする。				
授業概要	『万葉集』の基礎知識（そもそも『万葉集』とは何か）や研究における方法論（索引の使い方、どのような研究方法があるのか）の講義を行い、そのうち「旅」に関する歌を各グループに配当し、その担当歌について発表をしてゆく。				
評価方法・基準	平常点20%（積極的に議論に参加し、理解を深めているか）。発表40%（レジュメの内容、課題に対する取り組み）。レポート40%（問題発見と問題解決への取り組み）。				
履修上の注意事項等	初回は必ず出席すること。また発表者は、発表日を守り、責任をもって発表に臨むこと。				
テキスト	万葉集 訳文篇、佐竹昭広・木下正俊・小島憲之共著、塙書房、1972年				
参考書	万葉集講義—最古の歌集の素顔—、上野誠、中央公論新社、2020年 適宜紹介する。				

科目名	国文学講読Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	★北井 佑実子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	『紫式部日記』を読む。				
到達目標	(1) 古典文学作品を読むために必要な基礎知識を身につける。 (2) 紫式部について理解を深める。 (3) 平安時代の文化、女房の生活を理解する。 (4) テーマについて話し合い、根拠を示して自らの意見を主張する。				
授業概要	紫式部は『源氏物語』の作者として名が知られるが、女房として宮仕えの日々を書き綴った作品が『紫式部日記』である。日記を読み、平安時代に生きた女性・紫式部について理解を深める。受講生は担当を決めて発表し、質疑・ディスカッションを行う。学期末に各自でテーマを定めてレポートを作成する。				
評価方法・基準	平常点20%（授業への参加度） 発表40%（資料作成、発表方法、質疑応答） レポート40%（テーマの設定、各自の調査、考察）				
履修上の注意事項等	発表の準備は早めに始めること。 発表に対して、質疑応答、ディスカッションを行うので、受講生は積極的に発言してほしい。 演習の授業なので、遅刻・欠席は注意すること。 参考書は授業内で適宜指示する。				
テキスト	紫式部日記 現代語訳付き、紫式部 山本淳子 訳注、KADOKAWA, 2010				
参考書					

科目名	国文学講読Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	院政期女房の文学 — 『讃岐典侍日記』を読む—				
到達目標	①『讃岐典侍日記』各章段について、従来どのように読まれてきたのかを理解し、自分の見解を述べられるようになる。 ②図書館を利用して調査し、提示した形式で発表資料を作成できるようになる。				
授業概要	この授業では院政期の作品『讃岐典侍日記』を輪読する。讃岐典侍は、二九歳の若さで亡くなった堀河天皇に仕えた女房である。回顧録的な日記文学である本作品では、天皇が死にゆく様子が克明に描写され（上巻）、次代の鳥羽天皇に仕えながら堀河天皇を回想する日々が記されている（下巻）。天皇の死を正面から描いた稀有な作品である『讃岐典侍日記』を読むことで、避けられない別れと見送ることしかできない悲しみに思いを馳せてほしい。初回に発表順を決め、発表者のいない回は講義+実習形式で進める。				
評価方法・基準	積極的な質問など授業への参加度（40%）、資料作成および発表内容（30%）、発表レジュメの再検討（30%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	受講人数にもよるが、基本的に毎回全員に意見を求める。発表が重要なので無断欠席は絶対に行わないこと（評価方法・基準参照）。				
テキスト	資料を配付する				
参考書	讃岐典侍日記全訳注、岩佐美代子、笠間書院、2012 讃岐典侍日記 全訳注、森本元子、講談社、1977 適宜紹介する				

科目名	国文学講読Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	山東京伝の合巻『播州血屋敷物語』後編をよむ				
到達目標	①近世小説の読解方法を習得する。 ②典拠の利用方法について理解する。 ③京伝合巻の創作手法を理解する。				
授業概要	山東京伝の合巻『播州血屋敷物語（ばんしゅうさらやしきものがたり）』（文化8年[1811]刊）は、血屋敷の巷説を御家騒動の構想の中に取り入れた、いわゆる〈血屋敷もの〉の代表作である『播州血屋敷』（為永太郎兵衛・浅田一鳥合作、寛保元年[1741]7月初演）を主要典拠とし、女伊達で著名な小三のエピソードなどを付加している。この授業では後編をとりあげ、本文・挿絵の両面から精読しつつ、典拠の利用方法にも迫りたい。				
評価方法・基準	平常点30%（授業への積極性を評価する）、口頭発表40%（発表資料の完成度・総合的な読解力を評価する）、レポート30%（精確性・客観性・論理性を評価する）。				
履修上の注意事項等	質疑応答の場を設けるので、受講生は積極的に発言してほしい。また、発表する際の遅刻・欠席は、絶対に避けるようにする。このようなことが繰り返された場合は、単位を認めない場合がある。				
テキスト	なし（コピーして配布する）				
参考書	浄瑠璃作品要説（6）為永太郎兵衛・浅田一鳥篇、国立劇場芸能調査室編、国立劇場、1990 叢書江戸文庫⑩ 豊竹座浄瑠璃集【二】、向井芳樹校訂代表、国書刊行会、1990 山東京傳全集 第九巻、山東京傳全集編集委員会編、ベリかん社、2006				

科目名	国文学講読Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	戦争を読む				
到達目標	①近代文学のテキストの読解方法を学ぶ。 ②テキストの背景となる歴史、文化を理解する。 ③先行研究の調査方法、引用の仕方を学ぶ。 ④問題点を抽出し、分析・論述する。				
授業概要	近代文学のテキストを、テキストが描かれた時代背景、文化背景を踏まえた上で、読み解く。また、先行研究を調査、検討したうえで、それぞれのテキストの問題点をあぶりだし、発表者に分析を加えてもらう。				
評価方法・基準	授業内での発表40%（レジュメの内容、形式を評価する）、提出物・レポート 40%（読書カード、レポートの内容（論理性、文章力）を評価する）、平常点20%（議論への積極性を評価する）				
履修上の注意事項等	発表はもちろん、討論での発言度、積極性を重視する。受講者は全員、テキストを読んで、討議に参加すること。受講人数によって作品を変更することがある。国文学講読Ⅱ（五）と連続で受講すること。				
テキスト	戦争を〈読む〉、石川巧・川口隆行編、ひつじ書房、2013				
参考書					

科目名	国文学講読Ⅱ（六）			期間	後期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	中世日本語の国語学的研究				
到達目標	①古典文学を注釈的に読むことが出来る。 ②ことばや文献に対する問題意識を持つ。 ③自らの考えを論理的に説明し、それに対して生産的な議論ができる。				
授業概要	前期Ⅰを通して得た知見や疑問をもとに、中世日本語や中世資料に関する問題を設定する。その上で調査・考察を行い、資料を作成し、「問題編」として発表する。				
評価方法・基準	・発表とそれを踏まえたレポート60%（形式・問題設定・考察を総合的に評価） ・議論40%（生産的発言・積極的態度などを評価） ・出席は加点对象としないが、欠席は減点对象とする。				
履修上の注意事項等	・本文読解の「本文編」と自ら問題を設定する「問題編」を行う。 ・人数や進行に合わせて調整する。 ・問題編のテーマについては相談に応じる。 ・事前連絡なく発表者が欠席した場合、単位を認めない。 ・国文学講読Ⅰ（六）と連続で受講すること。				
テキスト	授業中に配布する				
参考書	最新版 大学生のためのレポート・論文術、小笠原 喜康、講談社学術新書、2018				

科目名	国文学講読Ⅱ（七）			期間	後期
担当教員	★河崎 絵美	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	基礎日本語教育				
到達目標	日本語学習を必要とする学習者のニーズを知り、多文化共生社会の実現に向けた日本語教師役割について自分なりの意見を述べるができる。				
授業概要	日本語教師になりたい、国語や英語・社会の教師になりたい、日本語教育を知りたい、外国人の友達を増やしたいと考える人が「日本語」を通してより深い交流ができるよう、日本語教育の「基礎」を体験型授業で扱います。				
評価方法・基準	平常点50%（講義中の質問など、積極的な態度を重視）、期末レポート50%（必要な情報を収集し、自分の考えを展開できているか、オリジナリティを評価する）				
履修上の注意事項等	ペアあるいはグループ作業を行うため、欠席には十分注意をすること。				
テキスト	超基礎日本語教育、森篤嗣、くろしお、2020				
参考書	新・初めての日本語教育2、高見澤孟、アスク、2016 日本語教師教育学、横溝紳一郎、くろしお、2021 日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第5版、ヒューマンアカデミー、SE、2021				

科目名	国文学講読Ⅱ（八）			期間	後期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	川端康成「古都」を精読する 注釈的手法を軸に				
到達目標	(1) 川端康成の文学世界を知る。 (2) 文学研究の基礎的手法の習得を目指す。 (3) 近代の文化状況を知る。 (4) 文献の探索・読解に慣れる。				
授業概要	川端康成の中編小説「古都」を〈注釈〉によって読み進める。注釈は作品の中に描かれた事物や出来事の実態を資料によって確認し、それに基づいて作品を解釈する方法である。そこでこの授業では、受講生自身が創作の背景にある大正・昭和期の文献を探索し・読み解くことを中心に行う。またその際、作品各章ごとに担当者を設定し、リレー形式で作品を検討していく。なお本講義は国文学講読Ⅰ（八）との連続で行う。受講生は同授業を先修しておくこと。				
評価方法・基準	授業への取組（10%）発表（30%）レポート（60%）の総合評価。レポート・発表は、課題の理解度や視点の独創性、作品分析の実証的手法を中心に評価する。また積極的な発言や授業参加を高く評価する。				
履修上の注意事項等	夏休みの間に「古都」を読み、担当したい章を決めておくこと。国文学講読Ⅰ（八）と連続で受講すること。				
テキスト	古都、川端康成、新潮文庫、1968				
参考書	川端康成詳細年譜、小谷野敦・深澤晴美、勉誠出版、2016 その他、随時指示する				

科目名	国文学講読Ⅱ（九）			期間	後期
担当教員	★渋谷 勝己	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本語の多様性を考える—社会言語学入門2—				
到達目標	1. 外国人の使用する日本語、スタイルなどの日本語の多様性がオールラウンドに把握できるようになる。 2. 言語に変化や多様性が生じる理由について、例をまじえつつ説明できるようになる。				
授業概要	・配布するハンドアウトを読み進めつつ、日本語の多様性の実態を理解し、同時に社会言語学の基本概念を身につける。 ・受講者は全員、事前にハンドアウトを読み、おおよその内容を理解した上で授業に臨むという反転学習のかたちで行う。 ・授業においては、毎回担当者を決め、ハンドアウトに掲載されているキーワードについて、事例をまじえて理解したことを発表する。 ・授業時もしくは授業終了後、理解確認のための小テストを実施する。				
評価方法・基準	・平常点25%（授業に積極的に参加しているか） ・小テスト75%（基本概念が正確に理解できているか。5%×15回）				
履修上の注意事項等					
テキスト	ハンドアウトを配布				
参考書	社会言語学の展望、真田信治編、くろしお出版、2006 改訂版 社会言語学、岩田祐子他、ひつじ書房、2022				

科目名	国文学演習 I (一)			期間	前期
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	『万葉集』の基礎的知識を前提のもと、「相聞」に関する歌を読む。歌人やその人間関係、歴史的背景を援用しながら、表現世界を読み解く。				
到達目標	万葉集の恋歌を理解することができる。万葉歌表現の特性を見出す力を身につけ、注釈作業の具体的な方法を学び、諸注を批判的に検証しながら、新見を導き出す方法を身につけることができる。				
授業概要	万葉集研究の基礎知識や方法（索引の使い方、研究方法）を学び、「恋」や「旅」の歌の表現の特性とは何かを考えてゆく。そのために、ただ歌を鑑賞するのではなく、一首一首、一語一語、一文字一文字、丁寧に注釈を行い、他の歌の比較や、また歌表現としての位置づけ（抽象化）を行う。また作品は作品だけで成立しているものではない。歴史的、社会的背景をもっている。後期は「遣新羅使人歌群」を取り扱い、社会背景や、具体的な事象を踏まえながら、前期で学習した内容をもとに「歌群」を読み解く。				
評価方法・基準	平常点20%（積極的に議論に参加し、理解を深めているか）。発表40%（レジュメの内容、課題に対する取り組み）。レポート40%（問題発見と問題解決への取り組み）。				
履修上の注意事項等	初回は必ず出席すること。また発表者は、発表日を守り、責任をもって発表に臨むこと。				
テキスト	万葉集 訳文篇、佐竹昭広・木下正俊・小島憲之共著、塙書房、1972年				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	国文学演習 I (二)			期間	前期
担当教員	★北井 佑実子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	平安時代後期に活躍した歌人の歌を読む。				
到達目標	(1) 古典文学作品を読むために必要な基礎知識を身につける。 (2) 平安時代における和歌の役割、当時の生活、文化を理解する。 (3) テーマについて話し合い、根拠を示して自らの意見を主張する。				
授業概要	平安後期から鎌倉に至るまでの和歌史の流れとともに、その時代に活躍した歌人の歌を読む。受講生は、それぞれ担当を決めて発表し、全体で質疑・ディスカッションを行う。学期末に各自でテーマを定めてレポートを作成する。				
評価方法・基準	平常点20%（授業への参加度） 発表40%（資料作成、発表方法、質疑応答） レポート40%（テーマの設定、各自の調査、考察）				
履修上の注意事項等	発表の準備は早めに始めること。 発表に対して、質疑応答、ディスカッションを行うので、受講生は積極的に発言してほしい。 演習の授業なので、遅刻・欠席は注意すること。 参考書は授業内で適宜指示する。				
テキスト	なし				
参考書	和歌文学選 歌人とその作品、神野志隆光・芳賀紀雄・田中登・竹下豊・佐藤恒雄・稲田利徳・上野洋三・山崎美紗子・太田登・島津忠夫 編、和泉書院、1984				

科目名	国文学演習 I (三)			期間	前期
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	勅撰和歌集の読解方法 一歌の解釈と配列・構成一				
到達目標	①『千載和歌集』入集歌について、従来どのように読まれてきたのかを理解し、自分の見解を述べられるようになる。 ②図書館を利用して調査し、提示した形式で発表資料を作成できるようになる。				
授業概要	この授業では藤原俊成撰『千載和歌集』（以下、『千載集』）を輪読する。和歌は日本古典文学の歴史において中心的な作品ジャンルであり、中でも勅撰和歌集は平安中期から室町後期にかけてもっとも権威ある作品群と言える。『千載集』は治承・寿永の乱の終結直後に完成した勅撰集で、戦禍の傷を色濃く反映している点にも注意したい。一首の歌の読解方法を学ぶとともに、配列・構成についても考察してもらおう（※受講人数によって変動あり）。				
評価方法・基準	積極的な質問など授業への参加度（40%）、資料作成および発表内容（30%）、発表レジュメの再検討（30%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	受講人数にもよるが、基本的に毎回全員に意見を求める。発表が重要なため無断欠席は絶対に行わないこと（評価方法・基準参照）。				
テキスト	資料を配付する				
参考書	授業時に一覧を配布				

科目名	国文学演習 I (四)			期間	前期
担当教員	★河崎 絵美	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	「伝える／伝わる」日本語教育				
到達目標	相手を尊重し、傾聴的態度をもって日本語を発信できる力を身につける				
授業概要	日本を再発見し、これからの日本を日本語教育の視点から考えます。主にグループ等での話し合いを中心に授業を進めていきます。日本に興味を持ち、もっと日本を好きになってもらうためには何がどのように必要なのかを考えながら課題を作成していきます。				
評価方法・基準	平常点80%（講義中の質問など、積極的な態度を重視）、期末レポート20%（必要な情報を収集し、自分の考えを展開できているか、オリジナリティを評価する）				
履修上の注意事項等	ペアあるいはグループ作業を行うため、欠席には十分に注意すること。				
テキスト	なし				
参考書	日本語を教えるための教材研究入門、深澤のぞみ本田弘之、くろしお出版、2020 日本語教師教育学、横溝、くろしお出版、2021 日本語教育に役立つ心理学入門、小林朋子他、くろしお出版、2019				



科目名	国文学演習Ⅰ（五）			期間	前期
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	山東京伝の読本『桜姫全伝曙草紙』をよむ				
到達目標	①典拠の利用方法を把握する。 ②京伝読本の様式的特徴を理解する。 ③作品研究における独自の視点を獲得する。				
授業概要	長編読本『忠臣水滸伝（ちゅうしんすいこでん）』の成功を機に、山東京伝は読本著述を本格化していく。その一つ『桜姫全伝曙草紙（さくらひめぜんでんあけぼのそうし）』（文化2年[1805]刊）は、長編仏教説話『勸善桜姫伝（かんぜんさくらひめでん）』を主要典拠とする怪異譚で、京伝読本の代表作に位置づけられている。この授業では、『桜姫全伝曙草紙』を精読することで、典拠の利用方法を確認しつつ、京伝読本の様式に対する理解を深めたい。そのうえで、作品研究における独自の視点を獲得を目指す。				
評価方法・基準	平常点20%（授業への積極性を評価する）、口頭発表40%（資料の完成度・総合的な読解力・研究史に対する理解を評価する）、レポート40%（精確性・客観性・論理性・独自性を評価する）。				
履修上の注意事項等	質疑応答の場を設けるので、受講生は積極的に発言してほしい。また、発表する際の遅刻・欠席は、絶対に避けるようにする。このようなことが繰り返し行われた場合は、単位を認めない場合がある。				
テキスト	なし（コピーして配布する）				
参考書	読本事典、国文学研究資料館・八戸市立図書館編、笠間書院、2008 京伝と馬琴、大高洋司、翰林書房、2010 山東京傳全集 第十六巻、山東京傳全集編集委員会編、ペリカン社、1997				

科目名	国文学演習Ⅰ（六）			期間	前期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	近代の長編恋愛小説を読む				
到達目標	①テキストを精読し、問題点を抽出・分析・論述する。 ②ジェンダー、セクシュアリティの観点から近代の恋愛観を考える。				
授業概要	作家や作品の情報、先行研究の流れなど基本的な作業をふまえた上で、恋愛、結婚、家庭等の観点からテキストを論じてゆく。テキストを精読しながら、近代の恋愛観を考察してゆく。また、発表、ディスカッションを通じて、自分の意見を発信してゆく。				
評価方法・基準	平常点・提出物 50%（毎回のコメントペーパー、各作品について事前に読書カード、事後に課題カードを提出してもらいます）、授業内での発表 30%（発表レジュメの完成度を重視し、その次にプレゼンテーション、質疑応答への対応の仕方を評価します）、レポート・分析ノート 20%（発表を担当した作品について、発表準備の経緯がわかるノート（作家概要、先行研究の整理、本文分析等、時代背景の調査等）と、レポートを提出してもらいます。ノートは充実度、レポートは自らたてた問題に対する取り組み、文章の論理性を重視します）				
履修上の注意事項等	発表はもちろん、討論での発言度、積極性を重視する。受講者は全員、テキストを読んで、討議に参加すること。テキストを読まないで授業に参加するのは、出席と認めないので、発表の前に確認テストをおこなう。				
テキスト	キッチン新潮文庫				
参考書					

科目名	国文学演習Ⅰ（七）			期間	前期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	『サントスの御作業の内抜き書き』を読む				
到達目標	1. 日本語史・文献学研究の方法を習得する。 2. 日本語史・文献学上の問題を発見し、自ら調査・考察を行える。				
授業概要	キリシタン・ローマ字版である『サントスの御作業の内抜き書き』を扱う。当該資料は日本布教を行ったイエズス会宣教師たちが、日本語学習等に用いたとされる、キリスト教聖人伝の日本語訳である。この演習では、当該の資料中の「聖ロレンソ伝」をその他のキリシタン資料・日本側資料などを利用して読解を行う（前期「本文編」）。これにより、古典読解の基礎を身に付けるとともに、日本語史・文献学的観点による問題を発見する。				
評価方法・基準	・発表とそれを踏まえたレポート60%（形式・問題設定・考察を総合的に評価） ・議論40%（生産的発言・積極的態度などを評価） ・出席は加点対象としないが、欠席は減点対象とする。				
履修上の注意事項等	・本文読解を主とする「本文編」を行う。 ・発表回数は人数や進行に合わせて調整する。 ・発表者が事前連絡なく欠席した場合、単位を認めない。 ・国文学講読Ⅱ（六）と連続で受講すること。				
テキスト	キリシタン語学入門、岸本恵実・白井純、八木書店、2022				
参考書	キリシタンと出版、豊島正之 編、八木書店、2013				

科目名	国文学演習Ⅰ（八）			期間	前期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	太宰治から現代作家へー 近現代文学研究の視点と方法ー				
到達目標	(1) 太宰治の短編小説を例に、文学作品の読解の方法を身に着ける。 (2) 文献探索・読解の方法など、論文作成に必要な基礎的技能を習得する。				
授業概要	本講義の目標は、近現代文学分野の論文を書くために必要なスキルを、太宰治の作品研究を通じて身に着けることにある。論文は〈エッセイ〉ではないため、資料的な裏付けや研究史を踏まえておく必要がある。しかし現代作家を研究対象とする場合、指針となる先行研究や基礎情報すら整理されていないことがほとんどである。そこで前期は、研究が整備された太宰治を例に、卒業論文を作成するために必要な研究手法と視点を学ぶ。（なお後期は各自が関心を持った研究対象を取り上げ、卒論を見据えた研究を行う。）				
評価方法・基準	平常（10%）、小課題（20%）、発表（30%）、期末レポート（40%）。 平常は授業への積極性を見る。レポート・発表・小課題は独創性と実証性のあるものを高く評価する。				
履修上の注意事項等	この授業では Web を利用した情報収集を行う。必ず情報処理センターの利用申請を済ませておくこと。 諸連絡は GoogleClassroom を通じて行う。 履修に当たっては、後期開講の「国文学演習Ⅱ（八）」とセットで登録すること。				
テキスト	走れメロス、太宰治、新潮文庫晩年、太宰治、新潮文庫				
参考書	随時指示する				

科目名	国文学演習Ⅰ（九）			期間	前期
担当教員	★二木 晴美	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	たかとう匡子著『私の女性詩人ノート』を読む				
到達目標	「過去を乗り越えて女性独特のさまざまな表現上の財産からまずは学びたいという」著者自身の動機を基に、「先人の女性たちの経験をとおして、女性詩の現在を確かめる」ことを第一の到達目標とする。				
授業概要	「与謝野晶子から新井豊美まで、近現代詩に確かな水脈を拓いた14人の女性詩人たちの表現を、実作者として一女性の視点から見つめ直」された本書を介して、それが今日の女性詩とどのようにつながっているかを比較検討していく。				
評価方法・基準	平常点（授業での音読や質問など積極的な態度を評価）30%。試験に替わるレポート課題（課題に沿った必要な情報を適宜収集し、自分なりの考えを論理的に組立て展開できているかを評価）70%。				
履修上の注意事項等					
テキスト	私の女性詩人ノート、たかとう匡子、思潮社、2014				
参考書	女性詩史再考「女性詩」から「女性性の詩」へ、新井豊美、思潮社、2007 日本女性文学大事典、市古夏生・菅聡子編、日本図書センター、2006 現代詩大事典、安藤元雄・大岡信・中村稔監修、三省堂、2008				

科目名	国文学演習Ⅰ（十）			期間	前期
担当教員	★渋谷 勝己	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会言語学の試み1				
到達目標	1. 社会言語学的な研究課題が設定できるようになる。 2. その研究課題について、既存のコーパスやネット上のデータなどを用いて簡単な分析できるようになる。				
授業概要	・自身で調べてみたいと思う方言事象や他の言語事象を選ぶ。 ・その方言事象や言語事象に関するデータを既存のコーパスや言語地図のなかから抜き出し、整理、分析を加えてプレゼンを行う。そのプロセスのなかで、自身の取り組む研究課題を明確化する。 ・発表者はプレゼン資料を授業の3日前までにe-learning等にアップし、参加者は事前にその使用に目を通した上で授業に参加する。				
評価方法・基準	・平常点20%（授業に積極的に参加しているか） ・口頭発表60%（30%×2回。データ分析、先行研究のレビューが、体系的に提示されているか） ・レポート20%（前半で分析、考察した内容が的確にまとめられているか）				
履修上の注意事項等	授業開始前に国立国語研究所言語資源開発センターのページ（ <a href="https://clrd.ninjal.ac.jp/">https://clrd.ninjal.ac.jp/</a> ）にアクセスし、「中納言」のユーザ登録を行っておくとよい（SMSでの申請で約1週間）。授業では当該センターが公開している無料版の各種コーパスを紹介し、使用する。				
テキスト	ハンドアウトを配布				
参考書	社会言語学の展望、真田信治編、くろしお出版、2006 改訂版 社会言語学、岩田祐子他、ひつじ書房、2022				

科目名	国文学演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	『万葉集』の基礎的知識を前提のもと、『古事記』のヤマトタケル等の歌謡物語とその作品世界を読み解く。				
到達目標	万葉集の宴席歌を理解することができる。万葉歌表現の特性を見出す力を身につけ、注釈作業の具体的な方法を学び、諸注を批判的に検証しながら、新見を導き出す方法を身につけることができる。				
授業概要	万葉集研究の基礎知識や方法（索引の使い方、どのような研究方法があるのか）を学んだうえ、『古事記』の歌謡物語を考察する。ただ歌を鑑賞するのではなく、一首一首、一語一語、一文字一文字、丁寧に注釈を行い、他の歌の比較や、また歌表現としての位置づけ（抽象化）を行う。また作品は作品だけで成立しているものではない。歴史的、社会的背景をもっている。社会背景や、具体的な事象を踏まえながら、前期で学習した内容をもとに「問答」や「宴席歌」を読み解く。				
評価方法・基準	平常点20%（積極的に議論に参加し、理解を深めているか）。発表40%（レジュメの内容、課題に対する取り組み）。レポート40%（問題発見と問題解決への取り組み）。				
履修上の注意事項等	初回は必ず出席すること。また発表者は、発表日を守り、責任をもって発表に臨むこと。				
テキスト	万葉集 訳文篇、佐竹昭広・木下正俊・小島憲之共著、塙書房、1972年 古事記はプリントを配布する				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	国文学演習Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	★北井 佑実子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	『源氏物語』『若紫』巻を読む				
到達目標	(1) 古典文学作品を読むために必要な基礎知識を身につける。 (2) 源氏物語について理解を深める。 (3) テーマについて話し合い、根拠を示して自らの意見を主張する。 (4) 卒業論文に向けた基礎的準備を始める。				
授業概要	『源氏物語』『若紫』巻を読む。受講生は、それぞれ担当を決めて発表し、全体で質疑・ディスカッションを行う。学期末に各自でテーマを定めてレポートを作成する。				
評価方法・基準	平常点20%（授業への参加度） 発表40%（資料作成、発表方法、質疑応答） レポート40%（テーマの設定、各自の調査、考察）				
履修上の注意事項等	発表の準備は早めに始めること。 発表に対して、質疑応答、ディスカッションを行うので、受講生は積極的に発言してほしい。 演習の授業なので、遅刻・欠席は注意すること。 参考書は授業内で適宜指示する。				
テキスト	校注源氏物語分巻叢書 若紫、中田武司 編、武蔵野書院、2007				
参考書					

科目名	国文学演習Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	勅撰和歌集の読解方法 一歌の解釈と配列・構成一				
到達目標	①『千載和歌集』入集歌について、従来どのように読まれてきたのかを理解し、自分の見解を述べられるようになる。 ②図書館を利用して調査し、提示した形式で発表資料を作成できるようになる。				
授業概要	この授業では藤原俊成撰『千載和歌集』（以下、『千載集』）を輪読する。和歌は日本古典文学の歴史において中心的な作品ジャンルであり、その中でも勅撰和歌集は平安中期から室町後期にかけてもっとも権威ある作品群と言える。『千載集』は治承・寿永の乱の終結直後に完成した勅撰集で、戦禍の傷を色濃く反映している点にも注意したい。一首の歌の読解方法を学ぶとともに、配列・構成についても考察してもらう（※受講人数によって変動あり）。				
評価方法・基準	積極的な質問など授業への参加度（40%）、資料作成および発表内容（30%）、発表レジュメの再検討（30%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	受講人数にもよるが、基本的に毎回全員に意見を求める。発表が重要なため無断欠席は絶対に行わないこと（評価方法・基準参照）。				
テキスト	資料を配付する				
参考書	授業時に一覧を配布				

科目名	国文学演習Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	★河崎 絵美	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	「伝える／伝わる」日本語教育				
到達目標	相手を尊重し、傾聴的態度をもって日本語を発信できる力を身につける				
授業概要	日本を再発見し、これからの日本を日本語教育の視点から考えます。主にグループ等での話し合いを中心に授業を進めていきます。日本に興味を持ち、もっと日本を好きになってもらうためには何がどのように必要なのかを考えながら課題を作成していきます。				
評価方法・基準	平常点80%（講義中の質問など、積極的な態度を重視）、期末レポート20%（必要な情報を収集し、自分の考えを展開できているか、オリジナリティを評価する）				
履修上の注意事項等	ペアあるいはグループ作業を行うため、欠席には十分に注意をすること。				
テキスト	なし				
参考書	日本語を教えるための教材研究入門、深澤のぞみ本田弘之、くろしお出版、2020 日本語教師教育学、横溝、くろしお出版、2021 日本語教育に役立つ心理学入門、小林朋子他、くろしお出版、2019				

科目名	国文学演習Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	近世小説研究の基礎的方法				
到達目標	①作品を精確に読解する。 ②先行研究（研究史）を整理・把握・分析する。 ③新たな研究の可能性を追求する。				
授業概要	近世小説を研究するには、まず自らの力で作品を精確に読解しなければならない。そのうえで、対象とする作品の研究動向（先行研究）を探索・分析することが求められる。そして、これらの作業を経て、新たな研究の可能性を追求する必要がある。この授業では、そういった基礎的な研究手法を身につけることを目標に、近世小説の諸作品を粗上に載せて調査・分析していく。				
評価方法・基準	平常点20%（授業への積極性を評価する）、口頭発表40%（資料の完成度・研究史に対する理解・研究の独自性を評価する）、レポート40%（精確性・客観性・論理性・独自性を評価する）。				
履修上の注意事項等	質疑応答の場を設けるので、受講生は積極的に発言してほしい。また、発表する際の遅刻・欠席は、絶対に避けるようにする。このようなことが繰り返し行われた場合は、単位を認めない場合がある。なお、「研究史まとめ」で取り扱う作品は、変更することがある。				
テキスト	なし（コピーして配布する）				
参考書	授業中に適宜指示する				

科目名	国文学演習Ⅱ（六）			期間	後期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	近代の長編恋愛小説を読む				
到達目標	①テキストを精読し、問題点を抽出・分析・論述する。 ②ジェンダー、セクシュアリティの観点から近代の恋愛観を考える。				
授業概要	作家や作品の情報、先行研究の流れなど基本的な作業をふまえた上で、恋愛、結婚、家庭等の観点からテキストを論じてゆく。テキストを精読しながら、近代の恋愛観を考察してゆく。また、発表、ディスカッションを通じて、自分の意見を発信してゆく。				
評価方法・基準	平常点・提出物50%（各作品について事前に読書カード、事後に課題カードを提出してもらいます）授業内での発表30%（発表レジュメの完成度を重視し、その次にプレゼンテーション、質疑応答への対応の仕方を評価します）、分析ノート・レポート20%（発表を担当した作品について、発表準備の経緯がわかるノート（作家概要、先行研究の整理、本文分析等、時代背景の調査等）と、レポートを提出してもらいます。ノートは充実度、レポートは自らたてた問題に対する取り組み、文章の論理性を重視します）				
履修上の注意事項等	発表はもちろん、討論での発言度、積極性を重視する。受講者は全員、テキストを読んで、討議に参加すること。テキストを読まないで授業に参加するのは、出席と認めないので、発表の前に確認テストをおこなう。				
テキスト	潮騒、三島由紀夫、新潮文庫砂の女、安部公房、新潮文庫コンビニ人間、村田沙耶香、文春文庫				
参考書					

科目名	国文学演習Ⅱ（七）			期間	後期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本語史研究の基礎				
到達目標	1. 日本語史・文献学研究の方法を習得する。 2. 日本語史・文献学上の問題を発見し、自ら調査・考察を行える。				
授業概要	前期Ⅰの発表内容や各参加者の関心に応じて、日本語史や日本語史資料に関する問題を設定する。その上で調査・考察を行い、資料を作成し、「問題編」として発表する。				
評価方法・基準	・発表とそれを踏まえたレポート60%（形式・問題設定・考察を総合的に評価） ・議論40%（生産的発言・積極的態度などを評価） ・出席は加点対象としないが、欠席は減点対象とする。				
履修上の注意事項等	・国語学的な考察を主とする「問題編」を行う。 ・担当箇所は人数や進行に合わせて調整する。 ・発表者が事前連絡なく欠席した場合、単位を認めない。 ・国文学講読Ⅰ（六）と連続で受講すること。				
テキスト	授業中に配布する				
参考書	最新版 大学生のためのレポート・論文術, 小笠原 喜康, 講談社学術新書, 2018				

科目名	国文学演習Ⅱ（八）			期間	後期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	太宰治から現代作家へ― 研究論文作成の実践 ―				
到達目標	(1) 論文作成に必要な基礎的技能を習得し、4回生時点で独力で卒業論文を仕上げるができるようになる。 (2) 多様な文学作品とその研究方法に触れることで、文学研究の視点を広げる。				
授業概要	本講義は、前期の演習を通じて学んだ近現代文学分野の研究スキルを具体的に運用し、4回生での卒論執筆に向けた基礎固めを行うことを目標とする。 具体的には受講生自身が卒論で取り上げてみたい研究対象を提案し、先行研究の問題を乗り越えた研究報告を行ってもらう。そのため授業で取り上げる作品は、受講生各自に選んでもらうことになる。毎時間取り上げる対象は変わるが、それによって多くの近現代作品とその研究方法に触れ、多様な研究的視点を獲得することを目指す。				
評価方法・基準	平常（10%）、小課題（20%）、発表（30%）、期末レポート（40%）。 平常は授業への積極性を見る。レポート・発表・小課題は独創性と実証性のあるものを高く評価する。				
履修上の注意事項等	履修に当たっては、必ず前期開講の「国文学演習Ⅰ（八）」を受講しておくこと。 諸連絡は GoogleClassroom を通じて行う。				
テキスト	随時指示する				
参考書	随時指示する				

科目名	国文学演習Ⅱ（九）			期間	後期
担当教員	★二木 晴美	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	たかとう匡子著『私の女性詩人ノートⅡ』を読む				
到達目標	前期に引き続き、「先人の女性たちの経験をとおして、女性詩の現在を確かめ」ながら、詩史的観点も考慮に入れて検証することを到達目標とする。				
授業概要	戦後の著者と「同時代を生きた詩人から、いま旺盛な活動を展開する書き手」である、石垣りんから小池昌代までの、「時代に挑戦し、詩の表現について格闘してきた」12人の女性詩人について検証していくと同時に、それぞれの詩の鑑賞も行なっていく。				
評価方法・基準	平常点（授業での音読や質問など積極的な態度を評価）30%。 試験に替わるレポート課題（課題に沿った必要な情報を適宜収集し、自分なりの考えを論理的に組み立て展開できているか）70%。				
履修上の注意事項等					
テキスト	私の女性詩人ノートⅡ, たかとう匡子, 思潮社, 2017				
参考書	女性詩史再考「女性詩」から「女性性の詩」へ, 新井豊美, 思潮社, 2007 日本女性文学大事典, 市古夏生・菅聡子編, 日本図書センター, 2006 現代詩大事典, 安藤元雄・大岡信・中村稔監修, 三省堂, 2008				

科目名	国文学演習Ⅱ（十）			期間	後期
担当教員	★渋谷 勝己	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会言語学の試み2				
到達目標	1. 社会言語学的な研究課題が設定できるようになる。 2. その研究課題について、先行研究と結びつけ、自身の研究を研究史のなかに位置づけることができるようになる。				
授業概要	・自身で調べてみたいと思う方言事象や他の言語事象を選ぶ（前半からの継続テーマ可。変えてもよい）。 ・設定した研究課題について、先行研究をできるだけ広く探し出して目を通し、当該課題のこれまでの達成点、残された問題点などを整理する。 ・発表者はプレゼン資料を授業の3日前までにe-learning等にアップし、参加者は事前にその使用に目を通した上で授業に参加する。				
評価方法・基準	・平常点20%（授業に積極的に参加しているか） ・口頭発表60%（30%×2回。データ分析、先行研究のレビューが、体系的に提示されているか） ・レポート20%（後半で整理した先行研究が的確にまとめられているか）				
履修上の注意事項等					
テキスト	ハンドアウトを配布				
参考書	社会言語学の展望, 真田信治編, くろしお出版, 2006 改訂版 社会言語学, 岩田祐子他, ひつじ書房, 2022				

科目名	国文学演習Ⅲ（一）			期間	前期
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	4
テーマ	上代文学について自分の関心にそって問題点を見つけ、考察し、卒業論文を作成する。				
到達目標	卒業論文を作成するとともに、研究課題を発見し、答えを論理的に導出する力を養う。卒業論文作成のために研究方法の総括を行ない、その研究方法を実践するための応用力を身につける。				
授業概要	各自の選んだテーマや研究の方法論に従いながら個人で発表を行い、卒業論文を作成していく。前期においては卒業論文の柱となるテーマや研究課題を見つけることを目的とする。後期からはより絞り込んだテーマ設定で発表を行い、卒業論文の執筆を進めていく。個別指導において、各自のテーマに必要な指導を行う。また他者の発表を聞くことにより、他者の研究「問い」と「答え」の導出)を観察し、自身の研究テーマに還元する。				
評価方法・基準	平常点30%（授業中の質疑応答による積極性）。発表70%（問題発見と問題解決への取り組み、発表に対する取り組み、等）。				
履修上の注意事項等	具体的な注意点は適宜提示する。4年間の成果であることを意識し、こまめに研究室を訪ねること。				
テキスト	なし				
参考書	適宜紹介する				

科目名	国文学演習Ⅲ（三）			期間	前期
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	4
テーマ	中世文学を対象とした卒業論文の準備				
到達目標	自分が卒業論文で扱いたい作品を決め、テーマを決定することができる。また、その作品にどのような（どれほどの）先行研究が存在しているのか把握し、必要な論点を抽出できる。				
授業概要	この授業は、卒業論文執筆の準備を目的とする。受講者は論文テーマを具体的なかたちにすべく、授業を軸にしつつ各人で作業に取り組んでもらう。スケジュールは、授業外の時間も含めて「相談→実習→経過報告」のサイクルを意識しながら進行する予定である（後期も同様）。経過報告会には必ず参加して、現状を報告してもらう。				
評価方法・基準	発表を中心とした授業参加度（75%）、第14回に提出する目次案（25%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	自分で調査することが中心となるので、授業外での作業・相談を欠かさない。また、卒業論文の完成は勿論のこと、必要な単位（数）を取得していなければ卒業できない。単位数に不安のある学生は、卒業論文の準備と同時に必要な単位の取得も心がけてほしい。				
テキスト	特になし				
参考書	適宜紹介する				

科目名	国文学演習Ⅲ（四）			期間	前期
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	4
テーマ	近世文学に関する卒業論文作成のための演習（準備編）				
到達目標	卒業論文を完成させるための準備として、研究史を分析したうえで、テーマ（タイトル）および全体構成を決定する。				
授業概要	全体指導・個人指導・個人発表を通して、卒業論文を完成させるための準備をおこなう。全体指導では、論文作成の手順について講義し、個人指導では、各人のテーマに沿った指導を行う。個人発表では、受講生全員が討議に参加し、意見交換を行う。				
評価方法・基準	平常点60%（論文執筆に対する取り組み方を評価する）、構想発表40%（テーマ設定・論旨の妥当性・研究の独自性を評価する）。				
履修上の注意事項等	卒業論文は4年間の総決算である。安易に妥協せず、高いレベルの論文を目指してもらいたい。そのため、こまめに教員と相談し、一つでも多く課題を解決することが望ましい。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に適宜指示する				

科目名	国文学演習Ⅲ（五）			期間	前期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本近代文学を中心とする卒業論文作成のための演習				
到達目標	各自設定したテーマについて、調査・論述して、論文を完成する。				
授業概要	・報告会による発表、個人指導を通じて、卒業論文を完成させる。 ・履修者の自主的なテーマに従って、文献の検索方法、調査方法、論文の構成、論文の書き方など基本的な指導を行う。				
評価方法・基準	平常点 60%（授業中の質問など、積極的な態度を重視します）、レポート点 40%（レポートを4回提出してもらいます。与えられた課題に対する達成度（論理性、論述性等）で評価します）				
履修上の注意事項等	報告会は必ず参加すること。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	国文学演習Ⅲ（六）			期間	前期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	4
テーマ	国語学に関する卒業論文作成のための演習				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自の設定したテーマに応じて卒業論文を完成させる</li> <li>卒業論文の執筆を通して、高度な発想力、調査能力、論理的思考を身につける</li> </ul>				
授業概要	各自テーマを設定し、全体指導・個別指導・発表を行い、卒業論文を完成させる。全体指導では作成に必要な基本的な調査や執筆の方法・手順などを確認する。個別指導では各自のテーマに必要な指導を行う。発表では進展状況を受講者全員に報告し、全体で討議を行う。				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>「発表」に対する姿勢50%（積極性が窺えるか・問題点が修正されているか・着実な進展がみられるか）</li> <li>「発表」内容に対する総合評価50%（独自性があるか・調査は適切か・論理的か）</li> </ul>				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表が行われる際は必ず全員が出席すること</li> <li>個別の報告・連絡・相談を小まめに行うこと</li> </ul>				
テキスト	最新版 大学生のためのレポート・論文術, 小笠原喜義, 講談社現代新書, 2018				
参考書					

科目名	国文学演習Ⅲ（七）			期間	前期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	4
テーマ	近現代文学およびその隣接領域に関する卒業論文の作成				
到達目標	論文の作成を通じて (1) 4年間の学習・研究の成果をまとめ上げる。 (2) 社会で通用する客観的な論理性や文章作成能力を身につける。				
授業概要	論文のテーマは受講生それぞれ違うので、基本的には研究室での個別指導を中心とする。ただし、他人のものの見方や考え方からは、研究の大きなヒントが得られるので、それを知るために、全員を集めて中間報告会を実施する（不定期に数回実施）。なお個別指導の時間は教員と受講生の都合を相談して決定する。また報告会の日時と課題は GoogleClassroom を通じて知らせる。				
評価方法・基準	中間報告と個別指導への取り組み、卒業論文の完成度による総合評価。				
履修上の注意事項等	個別指導の方法など具体的なことは、最初の授業のガイダンスで配布する要項に示す。連絡は GoogleClassroom を通じて行うので、ポータルサイトに示された方法で事前に登録のこと。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	国文学演習Ⅲ（八）			期間	前期
担当教員	★岸江 信介	単位数	2	配当年次	4
テーマ	国語学関係の卒業論文指導				
到達目標	受講生が設定した各課題について調査・研究方法や技術が身につくよう、分析・記述の仕方を教授し、論文を完成させる。				
授業概要	受講生の自主的なテーマ設定を歓迎する。各受講生の興味や自由な発想を尊重する。				
評価方法・基準	平常点30点（卒業研究に対する積極的な態度を重視）、レポート点（卒業論文）70点。				
履修上の注意事項等	適宜、指示する。				
テキスト	最新版 大学生のためのレポート・論文術, 小笠原喜, 講談社現代新書, 2018				
参考書	なし				

科目名	国文学演習Ⅳ（一）			期間	後期
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	4
テーマ	身につけた研究の基礎知識、考察力を駆使し、卒業論文を作成する。				
到達目標	卒業論文を作成するとともに、研究課題を発見し、答えを論理的に導出する力を養う。卒業論文作成のために研究方法の総括を行ない、その研究方法を実践するための応用力を身につける。				
授業概要	各自の選んだテーマや研究の方法論に従いながら個人で発表を行い、卒業論文を作成していく。前期においては卒業論文の柱となるテーマや研究課題を見つけることを目的とする。後期からはより絞り込んだテーマ設定で発表を行い、卒業論文の執筆を進めていく。個別指導において、各自のテーマに必要な指導を行う。また他者の発表を聞くことにより、他者の研究「問い」と「答え」の導出を観察し、自身の研究テーマに還元する。				
評価方法・基準	平常点30%（授業中の質疑応答による積極性）。発表70%（問題発見と問題解決への取り組み、発表に対する取り組み、等）。				
履修上の注意事項等	具体的な注意点は適宜提示する。4年間の成果であることを意識し、こまめに研究室を訪ねること。				
テキスト	なし				
参考書	適宜紹介する				

科目名	国文学演習Ⅳ（三）			期間	後期
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	4
テーマ	中世文学を対象とした卒業論文の完成				
到達目標	卒業論文を完成することができる。前期の準備に基づき、目次案に沿って各章を執筆することができる。				
授業概要	この授業は、卒業論文執筆の完成を目的とする。受講者は前期に決定した論文テーマに沿って執筆するために、授業を軸にしつつ各人で作業に取り組んでもらう（便宜上「第〇章」と書いているが各人の目次によって変更可）。授業外の時間も含めて「執筆→経過報告→修正」のサイクルを意識しながら進行する予定である。経過報告会には必ず参加して、現状を報告してもらう。年末の完成を一つの目標にしてほしい。				
評価方法・基準	報告を中心とした授業参加度（50%）、提出された卒業論文本体（50%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	自分で調査することが中心となるので、授業外での作業・相談を欠かさない。また、卒業論文の完成は勿論のこと、必要な単位（数）を取得していなければ卒業できない。単位数に不安のある学生は、卒業論文の準備と同時に必要な単位の取得も心がけてほしい。				
テキスト	特になし				
参考書	適宜紹介する				

科目名	国文学演習Ⅳ（四）			期間	後期
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	4
テーマ	近世文学に関する卒業論文作成のための演習（作成編）				
到達目標	設定したテーマ（タイトル）・全体構成に基づき、卒業論文を完成させる。				
授業概要	個人指導・個人発表を通して、卒業論文を完成させる。個人指導では、各人のテーマに沿った指導を行う。個人発表では、受講生全員が討議に参加し、意見交換を行う。				
評価方法・基準	平常点60%（論文執筆に対する取り組み方を評価する）、中間発表40%（テーマ設定・論旨の妥当性・研究の独自性を評価する）。				
履修上の注意事項等	卒業論文は4年間の総決算である。安易に妥協せず、高いレベルの論文を目指してもらいたい。そのためには、こまめに教員と相談し、一つでも多く課題を解決することが望ましい。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に適宜指示する				

科目名	国文学演習Ⅳ（五）			期間	後期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本近代文学を中心とする卒業論文作成のための演習				
到達目標	各自設定したテーマについて、調査・論述して、論文を完成する。				
授業概要	・報告会による発表、個人指導を通じて、卒業論文を完成させる。 ・履修者の自主的なテーマに従って、文献の検索方法、調査方法、論文の構成、論文の書き方など基本的な指導を行う。				
評価方法・基準	平常点60%（授業中の質問など、積極的な態度を重視します）、レポート点40%（レポートを4回提出してもらいます。与えられた課題に対する達成度（論理性、論述性等）で評価します）				
履修上の注意事項等	報告会は必ず参加すること。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	国文学演習Ⅳ（六）			期間	後期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	4
テーマ	国語学に関する卒業論文作成のための演習				
到達目標	・各自の設定したテーマに応じて卒業論文を完成させる ・卒業論文の執筆を通して、高度な発想力、調査能力、論理的思考を身に着ける				
授業概要	各自テーマを設定し、全体指導・個別指導・発表を行い、卒業論文を完成させる。全体指導では作成に必要な基本的な調査や執筆の方法・手順などを確認する。個別指導では各自のテーマに必要な指導を行う。発表では進展状況を受講者全員に報告し、全体で討議を行う。				
評価方法・基準	・「発表」に対する姿勢50%（積極性が窺えるか・問題点が修正されているか・着実な進展がみられるか） ・「発表」内容に対する総合評価50%（独自性があるか・調査は適切か・論理的か）				
履修上の注意事項等	・発表が行われる際には必ず全員が出席すること ・個別の報告・連絡・相談をこまめに行うこと				
テキスト	最新版 大学生のためのレポート・論文術、小笠原喜義、講談社現代新書、2018				
参考書					

科目名	国文学演習Ⅳ（七）			期間	後期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	4
テーマ	近現代文学およびその隣接領域に関する卒業論文の作成				
到達目標	論文の作成を通じて (1) 4年間の学習・研究の成果をまとめ上げる。 (2) 社会で通用する客観的な論理性や文章作成能力を身につける。				
授業概要	論文のテーマは受講生それぞれ違うので、基本的には研究室での個別指導を中心とする。ただし、他人のものの見方や考え方からは、研究の大きなヒントが得られるので、それを知るために、全員を集めて中間報告会を実施する（不定期に数回実施）。なお個別指導の時間は教員と受講生の都合を相談して決定する。また報告会の日時と課題は GoogleClassroom を通じて知らせる。				
評価方法・基準	中間報告と個別指導への取り組み、卒業論文の完成度による総合評価。				
履修上の注意事項等	個別指導の方法など具体的なことは、最初の授業のガイダンスで配布する要項に示す。連絡は GoogleClassroom を通じて行うので、ポータルサイトに示された方法で事前に登録のこと。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	国文学演習Ⅳ（八）			期間	後期
担当教員	★岸江 信介	単位数	2	配当年次	4
テーマ	国語学関係の卒業論文指導				
到達目標	受講生が設定した各課題について調査・研究方法や技術が身につくよう、分析・記述の仕方を教授し、論文を完成させる。				
授業概要	受講生の自主的なテーマ設定を歓迎する。各受講生の興味や自由な発想を尊重する。各自テーマにもとづき、口頭での中間発表を行う。				
評価方法・基準	平常点30点（卒業研究に対する積極的な態度を重視）、レポート点（卒業論文）70点。				
履修上の注意事項等	適宜、指示する。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	国文学史Ⅰ			期間	後期
担当教員	★櫻井 清華	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	性と政治の中古女性文学史				
到達目標	①平安から鎌倉期にかけての宮廷政治の背景をまなぶ ②女性による文学の必然性と各作品の特色をまなぶ ③ジェンダー思想の理論をまなび、実生活に実践・応用する。				
授業概要	平安から鎌倉期にかけて、女性による文学作品が多く生み出された。古代から中世にかけ、女性が文筆で自己表現を果たしたことは、世界的にもまれな事象である。男性中心の時代社会にあって、なぜ女性の文筆活動が可能だったのかを、政治的背景の必然とともにまなんでいく。女性による文学作品の誕生は、個人的な内面の動機と同時に、社会的必然と要請があったと考えられる。このような立場から、性と政治の文学史をジェンダー（男女を分断する政治的な線引き）思想に基づき考察していきたい。その考察から得た理論は、かならず現代を生きる我々にも実践・応用が可能なものとなるはずである。				
評価方法・基準	学習到達度確認テスト70% 小テスト全5回（講義時に4回程度行う。スケジュールは直前に言います）30%				
履修上の注意事項等	出席点なし。3回以上欠席で受講資格を失う。				
テキスト	資料日本古典文学史〈古代中世編〉、梶原正昭編、武蔵野書院、1987				
参考書					

科目名	国文学史Ⅱ			期間	後期
担当教員	★溝端 悠朗	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	平安文学の流れ				
到達目標	平安時代の文学史について、作品とその時代背景とをあわせて理解する。それぞれの作品についての知識を深める。				
授業概要	平安時代の文学の流れを、政治や社会の状況といった時代背景とともに学ぶ。その際、暗記事項の羅列に終始するのではなく、できるだけ作品本文を読むように努める。授業では毎回小テストを行うとともに、コメントシートの提出を求める。				
評価方法・基準	小テスト50%（基本知識の習得度を評価する）＋学習到達度確認テスト30%（最終授業時に行い、授業の理解度を評価する）＋平常点20%（コメントシートにより、授業への積極性を評価する）				
履修上の注意事項等	対面授業だが、小テストは Google Classroom を用いて行う。国語便覧などを読み、基本知識は理解しておくこと。古語等についてはすべてを説明できないため、苦手な者は辞書（電子辞書可、携帯電話は不可）や文法書を持ち込んでもかまわない。				
テキスト					
参考書	原色 新日本文学史【増補版】、秋山虔・三好行雄、文英堂、2016 教養としての日本古典文学史、村尾誠一、笠間書院、2022				



科目名	国文学史Ⅲ			期間	後期
担当教員	★野澤 真樹	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	日本近世文学史				
到達目標	①日本近世文学に関する基礎知識を身につけ、その特色を理解する。 ②日本近世文学史の流れを説明できるようになる。 ③主要な文学ジャンル、作品、作者の概要を理解する。				
授業概要	近世の文学は、中世以前に比べ様々な変化が認められる。文学の担い手（作者、読者、その他作品に関わる人）が拡大したこと、印刷技術が発達して作品の製作・流布の方法が変化したこと、また、これらに関連して作品の性格や内容が多様化したことなどが挙げられよう。また、上方、江戸など地域の別や、年代ごとに流行した小説ジャンルの変遷などを理解することも重要である。これらのことに留意しながら、各ジャンル・作品・作者の文学史的な位置づけを辿るとともに、作品そのものを楽しむ読解へのアクセスを目指す。				
評価方法・基準	授業各回の小課題45%、小テスト25%（授業内容の復習）、期末レポート30%（授業に関連した課題を受講者自身が設定し、客観的に論じる）				
履修上の注意事項等	予習・復習のための資料はデータ（PDF）で配布することもある。				
テキスト	授業にて資料を配付する。				
参考書	授業内で紹介する。				

科目名	国文学史Ⅳ			期間	前期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	近現代日本文学の成立と展開				
到達目標	1. 近現代日本文学の歴史を理解する。 2. 作家や作品の知識を深める。 3. 作品が置かれた時代状況、文化状況を理解する。				
授業概要	作家、作品、文学史の流れ、メディアなど、基本的な知識を身につける一方、作家や作品が、時代状況、文化状況の中にどのように位置づけられているのかを考える。 講義の方法（オンデマンド授業） 1. 講義開始時間に、google classroomに、当日の講義プリント（PDF形式）、と講義の動画データ、小テスト（google フォーム）をアップします。 2. 講義動画を視聴してください。 3. 講義動画の視聴が終わったら、小テスト（google フォーム）を開いてください。				
評価方法・基準	小テスト（毎回、授業の最後に行う小テスト、コメントペーパー）40%、試験（文学史の試験・記述式問題）60%				
履修上の注意事項等	講義で扱う作品については、抄録したものを配布するが、あらかじめ全集や文庫本などで読んでおくことがのぞましい。				
テキスト	改訂版プレミアムカラー国語便覧、数研出版				
参考書	日本近代小説史、安藤宏、中公選書、2015				

科目名	国語学概論Ⅰ			期間	前期
担当教員	★岸江 信介	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	国語学の基礎を学ぶ。				
到達目標	国語学の成果に基づいて、日本語に関する基本的な知識を理解し習得する。				
授業概要	国語学入門の授業である。ひろく音声・音韻、アクセント、文法、語彙などの視点から国語学に関連した専門用語・術語をはじめ、具体的な事例を通して国語学の知見を概説的に学ぶ。				
評価方法・基準	平常点50点（講義中の質問、授業に対する積極的な態度、コメントシートを重視）、学習到達度確認50%（到達度確認テスト、レポートの内容、国語学で使用する術語・専門用語を正しく理解しているか、あるいは音声、アクセント、イントネーション・プロミネンスなどの研究方法を正しく理解できているなど）				
履修上の注意事項等	授業での配付資料のほか、Google Classroom上で資料の閲覧ができるようにするのでその都度、チェックして頂きたい。なお、後期での『国語学概論Ⅱ』と併せて受講することが望ましい。				
テキスト	基礎日本語学（第2版）、衣畑智秀 編、ひつじ書房、2023				
参考書	日本語アクセント入門、松森晶子ほか、三省堂、2012				

科目名	国語学概論Ⅱ			期間	後期
担当教員	★岸江 信介	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	国語学の基礎を学ぶ。				
到達目標	国語学入門の授業である。国語学概論Ⅰに続き、文法、語彙などの視点から国語学に関連した専門用語・術語をはじめ、具体的な事例を通して、現代日本語における国語学の知見を概説的に学ぶ。				
授業概要	文法をはじめ、待遇表現や言語景観など国語学に関連した術語・専門用語を具体的な事例を通して身につける。なお、当授業ではおもに現代日本語を中心に取り上げることにする。なお、リモートによる授業を実施する場合、別途、新たな教材を配布することがある。				
評価方法・基準	平常点（小課題を読んだ感想や意見をコメントシート欄に毎回記入→40%）、学習到達度確認（学期末のテスト、レポートなどを通じ、国語学の基本、国語学関連の専門用語の理解度をチェック→60%）				
履修上の注意事項等	基本的にはテキストに関連した論文などをGoogle Classroomにアップするのでそれらを読んで課題にチャレンジして頂きたい。前期開講予定の『国語学概論Ⅰ』と併せて受講することが望ましい。				
テキスト	基礎日本語学 第2版、衣畑智秀 編、ひつじ書房、2023				
参考書					

科目名	古典文学概論Ⅰ			期間	前期
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	『百人一首』で和歌史をたどる				
到達目標	①和歌の技法・語法を踏まえた上で鑑賞できる。 ②和歌を読んで感性や習俗を学び、古典文学に親しむことができる。 ③平安時代の和歌史について、大まかな流れを把握することができる。				
授業概要	『百人一首』を教材として和歌文学について講義する。上代～中世の和歌を取り上げ、読み解いていく。和歌は千年を優に超える歴史を持つ、日本古典文学の核となる文学ジャンルである。和歌にこめられたイメージや、それを表現するために用いられた技法に注目する。一首の歌を読むという行為を通じて、複雑な感情や豊かな世界を思い描く想像力を養ってほしい。				
評価方法・基準	コメントペーパーの内容を含めた授業態度（40％）・到達度確認試験の内容（60％）によって判断する。				
履修上の注意事項等	基礎知識から授業するため古典が苦手であったとしても問題ないが、回を追うごとにそれまでの内容を前提として授業を進めるので気をつけてほしい。特に、第15回に到達度確認試験を行うので欠席しないこと。				
テキスト	百人一首解剖図鑑、谷知子、エクスナレッジ、2020				
参考書	適宜紹介する				

科目名	古典文学概論Ⅱ			期間	後期
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	日本文化の根幹を学ぶ ―『古今和歌集』の達成とその享受―				
到達目標	『古今集』についての基礎知識を理解できるようになる。また、『古今集』の世界観や享受のあり方を通じて、日本文化への興味を深めることができる。				
授業概要	『古今和歌集』（以下、古今集）について講義する。今でこそピンとこないかもしれないが、約千年もの間、日本文化の根幹には『古今集』があった。時間の認識や花鳥風月に対する意識などの美的感覚は長い年月をかけて形成されていったのだが、その感覚の源流は『古今集』にあるといっても過言ではない。『古今集』的美意識は（近現代文学も含め）数多の日本文学に影響を及ぼしているため、日本文化を学ぶ第一歩とするために基礎的事項から享受のあり方を幅広く説明する。				
評価方法・基準	コメントペーパーの内容を含めた授業態度（40％）・到達度確認試験の内容（60％）によって判断する。				
履修上の注意事項等	この授業から受講しても問題ないが、「古典文学概論Ⅰ」を受講していた方が分かりやすい。また、回を追うごとにそれまでの内容を前提として授業を進めるので気をつけてほしい。特に、第15回に到達度確認試験を行うので欠席しないこと。				
テキスト	古今和歌集、小町谷照彦（訳注）、筑摩書房、2010 新版 古今和歌集 現代語訳付き、高田祐彦（訳注）、KADOKAWA、2009 ※上記のいずれか一冊				
参考書	適宜紹介する				

科目名	近代文学概論Ⅰ			期間	前期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	戦後の風景と歌謡曲				
到達目標	①戦後日本の社会・政治的及び文化・風俗的背景を、小説及び歌謡曲を通じて理解する。 ②テキストの読解、歌謡曲の歌詞の分析を通じ、思考を言語化する力を養う。 ③文化的事項を調査する力を養う。				
授業概要	戦後小説や歌謡曲を対象に、時代背景を社会的、文化的側面から考察する。小説テキストを読むだけではなく、同時期に流行した歌詞の分析を通じて、その歌が流行した当時の時代状況、〈日本人〉の心性や、モチーフのイメージ形成などを考察する。				
評価方法・基準	講義内での課題60％（毎回、Google フォームを通じて提出してもらった課題の提出状況、内容を評価する）、試験40％（講義内で説明した事項の理解力、歌詞の読解力を評価する）				
履修上の注意事項等	毎時間、課題プリントを提出してもらう。授業で扱う歌謡曲は変更することがある。				
テキスト	プリントで配布する				
参考書	日本流行歌変遷史、菊池清麿、論創社				

科目名	近代文学概論Ⅱ			期間	後期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	昭和文学の特質とその展開				
到達目標	(1) 昭和期の文学の特質と展開を理解することができる。 (2) 文学表現の多様性を知ることができる。 (3) 文学表現と歴史的・社会的要因の関係を理解することができる。 (4) 文学作品の解釈に必要な視点を身に付けることができる。				
授業概要	昭和期は戦争への傾斜と敗戦、そして復興と、日本の歴史の中でも大きな変動を経験した時期である。そのため、この時期に生み出された文学には様々な歴史的課題や表現上の試みが刻印されている。本講義はまず、それら昭和文学の課題や表現・ジャンルの理解と、それらの変遷を文学史的にとらえる。その過程で、作家、作品、文学史の流れ、メディアなど、基本的な知識を身につけ、作家や作品が、時代状況、文化状況の中にもどのように位置づけられているのかを考えてゆく。				
評価方法・基準	平常（20％）、小課題（20％）、課題試験（60％）の総合評価。 平常態度は授業の参加程度で判断。小課題・課題試験は知識の獲得度と作品分析の独自性を判断して評価する。				
履修上の注意事項等	Google クラウドで授業指示を行う場合がある。事前にポータルやメールで告知される方法で登録のこと。 毎時出される課題は次回授業で解答する。そのため期日を遅れて提出されたものは評価基準点を半減させる。期日を守ること。				
テキスト	Web で提示				
参考書	適宜指示する				

科目名	現代文化論			期間	前期
担当教員	★高木 彬	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	空間の詩学				
到達目標	(1) 空間という観点から文学を読み解く方法を理解する (2) 近現代の文化を多角的に捉える視座を獲得する				
授業概要	本講義では、空間という観点から、文学を中心とした近現代の文化を考察する。また、その文芸文化における空間表象の特質や方法を析出することで、いま私たちが体験している空間を見つめなおす。				
評価方法・基準	平常点：100%（毎回のコメントペーパー（小レポート）の内容によって評価）				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回出席を取る。3分の2以上の出席を単位認定の必要条件とする。</li> <li>・30分以上遅刻した場合は入室を認めない。</li> <li>・不正行為（代筆、剽窃など）をした者には単位認定しない。</li> <li>・受講者の理解度に応じて講義の進度や内容を調整することがある。</li> <li>（・オンライン授業となった場合にはポータルサイトに注意すること。）</li> </ul>				
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	講義中に指示する。				

科目名	中国文学概論Ⅰ			期間	前期
担当教員	★西尾 和子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	中国古典文学作品の精読と鑑賞を通して中国文学史を概観する。併せて日本文学への影響を考察する。				
到達目標	先秦から六朝にかけての代表的な詩歌や文章にたいする基礎的知識を身につけ、中国文学の歴史を体系的に理解し、それを説明することができる。				
授業概要	前期は、先秦から六朝における代表的な作品をテキストから選び、精読・鑑賞しながら、作品にたいする特徴や文化的背景への理解を深めることを目的に、中国文学史を概観する。また、日本文学における中国文学の受容という観点から作品を検討することによって、日中両国の古代文化交流について理解を深めるとともに、比較文学の研究方法を修得する。				
評価方法・基準	定期試験60%：基礎的知識（訓読・現代語訳等）が身につけているかなど到達目標の達成度を確認し評価する。 平常点40%：平素の質疑・発表および課題の準備度などによって総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	本授業は講義形式で進める。必要に応じて受講生に発表してもらった場合がある。詳細は、初回に説明する。 習熟度によって、提示した以外の作品を読むことや進度が前後する場合がある。 全体の1/3（5回）を超えて欠席した学生は、成績評価の対象としない。				
テキスト	新訂 中国詩文、中国詩文研究会、東方書店、2015				
参考書	中国文学史、前野 直彬、東京大学出版会、1996				

科目名	中国文学概論Ⅱ			期間	後期
担当教員	★西尾 和子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	中国古典文学作品の精読と鑑賞を通して中国文学史を概観する。併せて日本文学への影響を考察する。				
到達目標	唐代の代表的な詩歌や文章にたいする基礎的知識を身につけ、中国文学の歴史を体系的に理解し、それを説明することができる。				
授業概要	後期は、唐代の代表的な作品をテキストから選び、精読・鑑賞しながら、作品にたいする特徴や文化的背景への理解を深めることを目的に、中国文学史を概観する。また、日本文学における中国文学の受容という観点から作品を検討することによって、日中両国の古代文化交流について理解を深めるとともに、比較文学の研究方法を修得する。				
評価方法・基準	定期試験60%：基礎的知識（訓読・現代語訳等）が身につけているかなど到達目標の達成度を確認し評価する。 平常点40%：平素の質疑・発表および課題の準備度などによって総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	本授業は講義形式で進める。必要に応じて受講生に発表してもらった場合がある。詳細は、初回に説明する。 習熟度によって、提示した以外の作品を読むことや進度が前後する場合がある。 全体の1/3（5回）を超えて欠席した学生は、成績評価の対象としない。				
テキスト	新訂 中国詩文、中国詩文研究会、東方書店、2015				
参考書	中国文学史、前野 直彬、東京大学出版会、1996 唐詩概説、小川 環樹、岩波書店、2005 太平広記研究、西尾 和子、汲古書院、2017				

科目名	日本語の歴史Ⅰ			期間	前期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本語表記史・音韻史				
到達目標	1. 日本語史の基本的な知識を習得する。 2. 言語史の方法論を習得する				
授業概要	言語は絶えず変化をしている。それでは、かつての言語はどのような姿で、今に至るまでにどのように変化をしてきたか。また、どのような方法でそれは知られるのか。この授業では、そのような疑問の答えを考えることを目的に、日本語の歴史を扱う。具体的なテーマには表記史（2～5回）・音韻史（6～15回）を扱う。各回では、日本語史の主なトピックをひとつ取り上げつつ、「トピックの確認」・「トピックが明らかにされる過程」・「トピックの日本語史上における位置づけ」といった点を中心に議論を行う。				
評価方法・基準	・コメントカードの質20%（毎回、授業内容の理解を確認する。出席点ではない） ・最終試験80%（日本語史の基本的知識の有無、日本語史の問題に対する適切な考察力を問う）				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助的に GoogleClassroom を利用する。</li> <li>・クラスコードは初回授業においてポータルサイト上で公開する。</li> <li>・国語学概論Ⅰ、Ⅱおよび日本語の歴史Ⅱを合わせて履修することが望ましい。</li> </ul>				
テキスト	授業中に配布する				
参考書	日本語の歴史 全7巻+別巻、亀井孝ら、平凡社、文庫版2006-08 基礎日本語学、衣畑智秀、ひつじ書房、2019				

科目名	日本語の歴史Ⅱ			期間	後期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本語語彙史・文法史				
到達目標	1. 日本語史の基本的な知識を習得する。 2. 言語史の方法論を習得する。 3. 1・2に基づきつつ、日本語史上に生じた事象について説明できる。				
授業概要	言語は絶えず変化をしている。それでは、かつての言語はどのような姿で、今に至るまでにどのように変化してきたか。また、どのような方法でそれは知られるのか。この授業では、そのような疑問の答えを考えることを目的に、日本語の歴史を扱う。具体的なテーマには語彙史（2～4回）・文法史（5～14回）を扱う。各回では、日本語史の主なトピックをひとつ取り上げつつ、「トピックの確認」・「トピックが明らかにされる過程」・「トピックの日本語史上における位置づけ」、といった点を中心に議論を行う。				
評価方法・基準	・コメントカードの質20%（毎回、授業内容の理解を確認する。出席点ではない） ・最終試験80%（日本語史の基本的知識の有無、日本語史の問題に対する適切な考察力を問う）				
履修上の注意事項等	・補助的に GoogleClassroom を利用する。 ・クラスコードは初回授業においてポータルサイト上で公開する。 ・国語学概論Ⅰ、Ⅱおよび日本語の歴史Ⅰを合わせて履修することが望ましい。				
テキスト	授業中に配布する				
参考書	日本語の歴史 全7巻+別巻、亀井孝ら、平凡社、文庫版2006-08 基礎日本語学、衣畑智秀、ひつじ書房、2019				

科目名	神話伝承論			期間	前期
担当教員	鈴木 喬	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	古代日本神話の特性や神話の伝承というものが如何になされてきたのか、『古事記』を通じて考えてゆく。				
到達目標	受講生が『古事記』の神話を通じて、日本文化、日本人について個別に考える力を身に付けることができる。				
授業概要	「神」や「神話」とはなにか、「伝承」とはなにか。そのような概念規定から、7世紀から8世紀の＜神話＞の歴史を考え、また現代の我々にとって「神話」とは「古事記」とは何かを考えてゆく。				
評価方法・基準	平常点20%（コメントシートや作業、等の取り組み）、最終授業時に実施する学習到達度確認（筆記等による学力確認）80%による。授業内容の理解度、その理解を踏まえた応用力を評価する。				
履修上の注意事項等	テキストや配布プリントを読み込んで出席すること。当該科目に関係する諸事項について、つねに関心を持ち、自分なりの視点でものが考えられるように努力してほしい。				
テキスト	神話伝承論ノート、神話伝承論学習の会、書肆アルス、2013				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	平安文学論			期間	前期
担当教員	★溝端 悠朗	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	平安和歌を読む				
到達目標	古典文学、特に和歌文学を読むための基礎知識と研究方法を理解する。古典についての理解を深め、文学研究にあたっての基本的な作業を習得する。				
授業概要	前近代、特に平安時代において、文学の中心は和歌であった。その和歌を番えて優劣を競い合う催しが歌合である。本講義では、和歌文学について基本的な知識と研究方法を学ぶとともに、代表的な歌人とその和歌を取り上げて、平安和歌史を通覧しつつ読解する。これらを通じて、文学作品の表現を精読する研究方法を身につける。授業では毎回コメントシートの提出を求める。				
評価方法・基準	学習到達度確認テスト80%（最終授業時に行い、授業内容を理解できているかを評価する）+平常点20%（コメントシートの内容により、授業に対して積極的に取り組んでいるかを評価する）				
履修上の注意事項等	事前配付のプリントを読み込んだうえで授業に臨むこと。なお、古語や古典文法については、すべてを説明するわけではないため、苦手な者は辞書（電子辞書可、携帯電話・スマートフォンは不可）や文法書を持ち込んでかまわない。				
テキスト					
参考書	和歌史 万葉から現代短歌まで、島津忠夫ほか、和泉書院、1985 和歌史を学ぶ人のために、鈴木健一・鈴木宏子ほか、世界思想社、2011 和歌史 なぜ千年を越えて続いたか、渡部泰明、KADOKAWA、2020				

科目名	中世文学論			期間	後期
担当教員	穴井 潤	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	新古今時代への道のり ―中世和歌の様式と歌人たち―				
到達目標	①中世和歌を理解するための三つの要素を理解できる。 ②著名な歌人とその歌について理解できる。 ③平安後期～鎌倉初期の和歌史について理解できる。				
授業概要	新古今歌人を中心に、中世和歌について講義する。和歌には、①コミュニケーションツール、②文芸的な作品、という二つの側面があり、一二世紀（1100年代）ごろからは文芸性の高い作品が多く詠まれるようになる。そして、それを読解するためにはいくつかの約束ごとを理解しなければならない。授業の前半では、そうした約束ごとの説明を行う。後半では、知っておきたい有名な歌人について概説し、その作品を見ていく。王朝文化が衰退していく中で生きた人々がどのような思いをもって和歌を詠んだのか、理解してほしい。				
評価方法・基準	コメントペーパーの内容を含めた授業態度（20%）・レポートの内容（80%）によって判断する。				
履修上の注意事項等	成績評価の大部分がレポートの内容によるので、提出期限を厳守すること。各回の講義内容を踏まえれば書けないので、可能な限り出席すること。				
テキスト	資料を配付する				
参考書	適宜紹介する				

科目名	近世文学論			期間	前期
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	上田秋成の怪異小説『雨月物語』をよむ				
到達目標	①『雨月物語』の全体像を把握する。 ②上田秋成の文学観を理解する。				
授業概要	「歌道之達人」—京都の西福寺に眠る上田秋成の過去帳に記された、彼を評する言葉である。この評言からうかがえるように、秋成は和歌・和文に精通した文人であった。現代においては、怪異小説『雨月物語』の作者という認識が一般的であるが、彼自身、この作品に対して何事も語っていない。だからこそ、さまざまな解釈が生まれ、議論がなされてきたのである。この授業では、『雨月物語』の全話を通して読むことで、秋成の文学観を理解したい。				
評価方法・基準	平常点30%（授業への積極性を評価する）、ミニレポート30%（独自性を評価する）、期末レポート40%（正確性・客観性・論理性・独自性を評価する）。				
履修上の注意事項等	『雨月物語』全話を一通り読んだうえで授業にのぞむこと。欠席は5回までとし、それより多く欠席した者には単位を認めない。				
テキスト	雨月物語、長島弘明校注、岩波書店、2018年				
参考書	上田秋成研究事典、秋成研究会編、笠間書院、2018 三弥井古典文庫 雨月物語、田中康二ほか編、三弥井書店、2009 新編日本古典文学全集78、中村幸彦ほか校注訳、小学館、1996				

科目名	書物論			期間	後期
担当教員	★安藤 友里	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	書物の歴史や制作の流れ、流通の仕組みを知り、その存在意義を考察する。				
到達目標	1. 書物が果たしてきた役割について理解し、未来の書物の在り方を自由に想像できるようになる。 2. 「もの」として本の価値を認識し、制作者の立場から多角的に書物を検証できるようになる。				
授業概要	情報伝達的手段として本は読み継がれてきたが、現在のよう紙に印刷され大量生産されるようになるまでには長い歴史がある。印刷技術の発展やデジタル化などの経緯を学ぶとともに、本が装丁や質感全てを含めた「もの」であり、電子書籍やweb上の情報とは異なっている。また、本の出版に関わる仕事は多種にわたり、それぞれの立場によって本に対する意識にも違いがある。そういった相違点に注目しながら、書物を読むだけではない広い視野で捉える機会としたい。				
評価方法・基準	平常点（授業時のレポートや発表）40% 期末レポート（課題提示）60%				
履修上の注意事項等	書物の内容だけでなく、幅広いジャンル・形態の書物に関心を持てることが望ましい。				
テキスト	本ができるまで、岩波書店編集部、岩波書店、2003				
参考書	編集者の仕事 本の魂は細部に宿る、柴田光滋、新潮社、2010				

科目名	メディア文化論			期間	前期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	漫画表象と歴史性—生活文化史の観点から				
到達目標	(1) 漫画の持つ歴史・文化資料としての可能性を考察することができる (2) 文化研究の基礎的な方法を学ぶことができる (3) 戦後日本の生活史を理解することができる				
授業概要	本講義は長谷川町子「サザエさん」を事例に、漫画の歴史表象のあり方を考察する。具体的には毎時作品内に現れる歴史的事象（特に生活史）を1つとりあげ、その表現方法について歴史的背景とともに考察する。こうした事例研究を積み重ねることで、漫画を歴史資料としてとらえなおす視点や手法、問題点を確認してゆきたい。				
評価方法・基準	平常点（10%）、小課題（30%）、期末試験（60%）の総合評価。 平常は毎時の授業参加度を、小課題・期末試験は講義内容の理解度と、独自の解釈の有無を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	この講義は歴史的な予備知識と表現の読解を要求する。また課題提出がかなり多いので、それを覚悟のうえで受講すること。 課題提出にGoogle クラウドを利用する。事前にポータルサイトの指示に従って登録のこと。				
テキスト	プリントで配布				
参考書	戦後日本の大衆文化、鶴岡正樹・他編、昭和堂、2000 昭和・平成家庭史年表、下川耿史、河出書房新社、2001				

科目名	比較交流論			期間	後期
担当教員	★金岡 直子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	異質な人びと 国や文化、言語といった境界を越えた人びとの物語について、文学や映画を用いながら考察する。				
到達目標	文学や映画の発想・文化的背景を客観的に分析できる読解力、考察する力 以上の力を身につけるとともに、自らの考えを他者に伝えることができること				
授業概要	移民、故郷喪失者、思想の対立など、何らかの事情で元の居場所に帰れない人びとの姿を文学から追いかけてみます。新たな居場所に順化していく過程や、表面化しづらい排除にも目を凝らしていきます。どの時代にも、世界中のどこにも散在し得る事態に対して理解を深めることで、自身のなかにある生きる力や心理的バイヤスをみつめていくことにもつながっていきます。				
評価方法・基準	授業中の小レポート30%（授業内容の理解度を重視）、授業に対する積極性20%（授業中の質問、アクティブラーニングへの参加度を重視）、期末レポート50%（参考文献を用いて、論理的に自分の考えを伝えられるかを評価）				
履修上の注意事項等	テキストについてはe-learnig上で配布。PCやスマホでe-learningにアクセスできるように準備しておくこと。詳細は初回授業で説明します。 利用可能なOS Windows 利用するソフトウェア word2019～、PDF（開ければOK、MacユーザーもPDFで提出可能）				
テキスト	プリントを配付				
参考書	使用しない				

科目名	和歌歌謡論			期間	前期
担当教員	★北井 佑実子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	『古今和歌集』を読む				
到達目標	『古今和歌集』の和歌を部立ごとに読み、平安時代の和歌について考える。				
授業概要	『古今和歌集』の和歌を部立ごとに読み、和歌の特徴や歌集全体の構成についても考える。学期末には、各自でテーマを定めてレポートを作成する。				
評価方法・基準	平常点20%（授業への参加度） 小レポート40%（授業中の課題） 最終レポート40%				
履修上の注意事項等	毎回授業時の小レポートを重視する。				
テキスト	古今和歌集、佐伯梅友校注、岩波文庫、1981				
参考書					

科目名	近代小説論			期間	後期
担当教員	光石 亜由美	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	ジェンダーと文学				
到達目標	①ジェンダー理論について理解する。 ②文学とジェンダー、言葉とジェンダーの力学を理解する。 ③ジェンダーという切り口から、歴史・社会・文化を考える。				
授業概要	ジェンダー理論を踏まえた上で、文学作品の読解する。性別役割分業、異性愛主義など、現代のジェンダーにまつわる規範は、その多くが近代に起源をもつ。ジェンダーの歴史・文化を検討しながら、文学作品を通じて、多様な生き方の重要性を考えてゆきたい。 講義の方法：対面形式				
評価方法・基準	レポート点40%（講義内での課題の提出、レポートは講義の内容を理解した上で論じられているかを重視する）、平常点60%（講義内で出された課題についての提出状況を重視する）				
履修上の注意事項等	講義で扱う作品については、抄録したものを配布するが、あらかじめ全集や文庫本などで読んでおくことがのぞましい。				
テキスト					
参考書	ジェンダー×小説 ガイドブック、飯田祐子・小平麻衣子編、ひつじ書房、2023				

科目名	近代詩歌論			期間	前期
担当教員	★二木 晴美	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	続・中原中也の作品からみた、日本の近代詩歌についての考察。				
到達目標	昨年度に引き続き、近代日本を代表する詩人中原中也の作品を通して、個々の作品を味わいながら、かつ関東大震災以降の日本の近代詩における課題について考えていくことを目標とする。				
授業概要	昨年度に引き続き、新発見資料から読み解かれた佐々木幹郎著『中原中也 沈黙の音楽』（岩波新書）をテキストにし、その内容に沿って、本文中に取り上げられた中也詩を読み味わいながら新しい中也像に迫るとともに、かつ関東大震災以降の日本の近代詩に内包する課題について順次検討していく予定である。				
評価方法・基準	平常点（授業での音読や質問など積極的な態度を評価）30%。 試験に替わるレポート課題（課題に沿った必要な情報を適宜収集し、自分なりの考えを論理的に展開できているかを評価）70%。				
履修上の注意事項等	この科目は実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	中原中也 沈黙の音楽（岩波新書）、佐々木幹郎、岩波書店、2017				
参考書	新編中原中也全集全5巻・別巻1、大岡昇平・佐々木幹郎他3名編、角川書店、2000～04				

科目名	現代文学論			期間	前期
担当教員	★金岡 直子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	エッセイ／随筆とは何か 日本におけるエッセイ／随筆を追いかけ、現代文学の幅広さを学ぶ。エッセイ執筆・講評も行う。				
到達目標	エッセイに含まれる観察眼や文化的背景を読解する力、考察する力 以上の力を身につけるとともに、自らの考えを他者に伝えることができること				
授業概要	文学の愉しみは奇想天外なフィクションの物語だけにあるのでしょうか。この疑問を解消すべく、エッセイ／随筆から、作家の観察眼と筆力によって日常が全く違うものに変化することを学んでいきます。明治時代から戦後、現代のエッセイを幅広く扱い、作家たちの工夫や苦心を感じつつ、自分自身でもエッセイを書いてもらいます。アカデミックライティングとは違った文章を書いてみて、書く楽しさにも触れていきます。				
評価方法・基準	授業中の小レポート30%（エッセイの完成度、授業内容の理解度を重視）、授業に対する積極性20%（授業中の質問、アクティブラーニングへの参加度を重視）、期末レポート50%（参考文献を用いて、論理的に自分の考えを伝えられるかを評価）				
履修上の注意事項等	テキストについてはe-learnig上で配布。PCやスマホでe-learningにアクセスできるように準備しておくこと。詳細は初回授業で説明します。 利用可能なOS Windows 利用するソフトウェア word2019～、PDF（開ければOK、MacユーザーもPDFで提出可能）				
テキスト	プリントを配付				
参考書	日本エッセイ小史 人はなぜエッセイを書くのか、酒井順子、講談社、2023 苦手から始める作文教室、津村記久子、筑摩書房、2022				

科目名	古典日本語論			期間	前期
担当教員	山田 昇平	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本語音韻史研究の方法				
到達目標	①日本語音韻史の基礎知識を身につける ②日本語音韻史研究の基本的な方法を理解できる ③①②をベースとして、資料に対する読解・批判ができるようになる ④①②をベースとして、さまざまなデータに解釈を加えることができるようになる				
授業概要	日本語史研究の諸分野において、音韻史分野はもっとも進んだ分野と言え、様々な成果がある。そして、そこで培われた方法論は言語史研究全体の基礎となるものである。またこれは、資料や理論に基づいた説得力のある議論や論理的な思考法を身につけるためにも、有益なものである。この授業では、このような問題意識から、音韻史研究の基礎知識やこれまでの研究などを学び、その方法論・思考法に習熟することを目的とする。				
評価方法・基準	・最終レポート80%（内容の論理性。音韻史研究の観点からの妥当性。出典の明示などの形式。） ・コメントの質20%（出席点ではない。毎回の授業内容の理解を確認する。）				
履修上の注意事項等	・情報共有や課題提出などに GoogleClassroom を利用する。 ・クラスコードは初回授業においてポータルサイト上で公開する。 ・国語学概論Ⅰ、Ⅱおよび日本語の歴史Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましい。				
テキスト	授業中に配布する				
参考書	シリーズ日本語史1 音韻史, 高山倫明ら, 岩波書店, 2016				

科目名	現代日本語論			期間	後期
担当教員	★岸江 信介	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	関西方言の多様性について方言地図から学ぶ。				
到達目標	関西方言の地理的分布に焦点をあて、方言の多様性について考察する。関西方言の地理的分布の成立について考えるとともに関西方言の歴史的な変遷を辿る。				
授業概要	全国を対象とした言語地図のほかに関西地方の言語地図を紹介しながら関西の方言について多方面から学ぶ。まずは言語地図を取り上げ、方言分布について知る。方言の地理的分布から方言の地域差を理解するとともにこのような地域差が生じるに至った原因のほか、どういうメカニズムが働いたかについて理解する。さらに言語地図の地理的解釈について言語変化の視点からその方法を学ぶ。				
評価方法・基準	平常点30点（講義中の質問など、授業に対する積極的な態度、コメントシートの内容を重視）、学習到達度確認70%（小テストやレポートなど）を規準とする。				
履修上の注意事項等	授業での配付資料のほか、Google Classroom 上で資料の閲覧ができるようにするのでその都度、チェックして頂きたい。				
テキスト	地図で学ぶ関西のことは、岸江信介・中井精一編, 昭和堂, 2022				
参考書	新日本言語地図, 大西拓一郎編, 朝倉書店, 2016 日本の方言地図, 徳川宗賢編, 中央公論新社, 1979 方言の地図帳, 佐藤亮一編, 講談社, 2019				

科目名	国文学特殊講義			期間	前期
担当教員	★高木 彬	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	文芸出版のモダニズム				
到達目標	モダニズム文学と書物・雑誌デザインとの協働の様相を学ぶことで、近代以降の文学作品と出版文化との関係性について自ら検討課題を設定し論じることができる。				
授業概要	文学作品は、「物語」である以前に、一個の「物」である。たとえば近代以降の文学作品は、書物や雑誌といったかたちをとって市場に流通した。出版文化は、そうした「物」としての文学を考えるにふさわしいテーマである。本講義では、文芸出版の大衆化のエポックとなった1920-30年代のモダニズム文学を対象として、「物」としての文学がどのように編集・デザインされ、書物・雑誌として流通していたのかを検討したい。そうすることで、文学作品と出版文化との相互作用のメカニズムを浮き彫りにしたい。				
評価方法・基準	平常点：100%（授業への参加、コメントペーパー（小レポート）の内容によって評価）				
履修上の注意事項等	・毎回出席を取る。3分の2以上の出席を単位認定の必要条件とする。 ・30分以上の遅刻者には入室を認めない。 ・不正行為（代筆、剽窃など）をした者には単位認定しない。 ・受講者の理解度に応じて講義の進度や内容を調整することがある。 ・オンライン授業になる可能性があるのでポータルの情報に注意しておくこと。				
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	講義中に指示する。				

科目名	国語学特殊講義			期間	前期
担当教員	★岸江 信介	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	言葉の東西対立				
到達目標	日本の東西でどういった方言や物が、どのように対立しているか、これに関わる文献を読み、理解する。同時に方言の多様性について学ぶとともにこのような地理的対立はどのような理由で生じたのか、解明の糸口を探る。				
授業概要	明治時代、標準語を制定しようとした国語調査委員会による全国調査の結果、東西で方言が対立する事実が判明した。これ以後、現代までに全国調査を含めて数々の調査が行われてきた。これらの調査結果の研究成果をはじめ、物の東西対立に関わる文献を読み、どのような対立がみられるのかについて探る。課題として方言や物の東西対立について受講生が調べ、報告する。				
評価方法・基準	平常点50点（講義中の質問など、授業に対する積極的な態度、コメントシートの内容を重視）、学習到達度確認50%（レポートの内容、方言の東西対立の理解と解釈、アクセント変化を系統的に正しく理解している、言語地理学における分布の法則などを正しく理解できるなど）				
履修上の注意事項等	授業での配付資料のほか、Google Classroom 上で資料の閲覧ができるようにするのでその都度、チェックして頂きたい。				
テキスト	方言の地図帳, 佐藤亮一編, 講談社, 2019				
参考書	日本語の歴史 1 一方の東西対立一, 柳田征司, 武蔵野書院, 2010 日本の方言地図, 徳川宗賢編, 中央公論社, 1079 地図で学ぶ関西のことは、岸江信介・中井精一編, 昭和堂, 2022				

科目名	日本語教育論			期間	後期
担当教員	★芹澤 剛	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本語教育の概要を知る。				
到達目標	(1) 日本語教育の基礎的な事項を理解し、解説できる。 (2) 基本的な教授法と教育技術を理解し、解説できる。				
授業概要	日本語教育の基礎的な事項と基本的な教育技術について理解を深める。学習の柱の一つは、日本語教育と国語教育の違い、日本語を学習する人、日本語教師の役割、日本語能力の測定など日本語教育に関する基礎的知識を理解することである。柱の一つは、教える内容と順序（コースデザイン）、教授法、教材・教具、ティーチャートーク、教室でのやりとり、授業の流れなど基本的な教育技術を理解することである。さらにそれらを実践の観点でどう生かすかを考える。授業は指定したテキストと配付するプリントを使って進めていく。授業内容に関するレポート課題（4回）は、ポータルサイト（Campus Mate）を通じて、配付・回収する。最終授業では学習到達度を確認する筆記試験を行う。				
評価方法・基準	15回・提出課の授業を通じて総合的に評価する。おおよそ以下のとおりとする。 ・最終授業で行う筆記試験50%（「授業概要」に記載した「柱」各項目のポイントに関する解説できることを重視する） ・レポート課題40%（課題への取り組みの充実度を重視する） ・授業中の参加姿勢など10%（参加姿勢の積極性を重視する）				
履修上の注意事項等					
テキスト	超基礎・日本語教育, 森篤嗣 ほか, くろしお出版, 2019				
参考書					

科目名	言語情報処理論			期間	前期
担当教員	★岸江 信介	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本語データ処理（基礎）				
到達目標	日本語データ処理の基礎を身に付け、言語データの処理法、簡単なコーパスデータの分析、テキストマイニングによるデータ分析を通じて簡単なレポートが作成できる力を身につける。				
授業概要	国語学の分野においてコンピュータを利用した研究について基礎を学び、自分で収集したデータを整理し、分析する方法を身に付ける。ウェブでの文献資料やデータの収集、レポートや論文の作成、発表資料作成など活用方法はさまざまであるが、Excel 操作を中心に KH-Coder を利用しながらデータ分析の手法を身につける。				
評価方法・基準	平常点50%（講義中の質問など、積極的な態度、課題の提出状況と発表内容を重視）、学習到達度確認50%（レポートの内容、Excel 操作によるデータ分析ができること、さらにはウェブ上でのデータ収集、コーパスデータの利用の度合）。				
履修上の注意事項等	エクセル・ワードの基本的な操作ができることが望ましい。必ずテキストを購入しておくこと。				
テキスト	テキストマイニング入門: Excel と KH Coder でわかるデータ分析, 末吉美喜, オーム社, 2019				
参考書	やってみよう テキストマイニング —自由回答アンケートの分析に挑戦! 牛澤賢治, 朝倉書店, 2019 社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して, 樋口耕一, ナカニシヤ出版, 2014				

科目名	中国文学講読Ⅰ			期間	前期
担当教員	★西尾 和子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	漢文の読解能力の育成。教職課程科目を履修する学生については、中学校・高等学校における漢文の授業に必要な説明能力の育成。				
到達目標	漢文読解に必要な基礎的知識・技能を習得し、それを説明することができる。				
授業概要	中国古典文学のさまざまなジャンルの作品を精読しながら、漢文の基本的な構文や助字の用法、訓読の法則などを習得するとともに、作品にたいする特徴や文化的背景への理解を深める。授業では、作品の訓読および現代語訳のほか、作品ごとに練習問題を解いて理解度を確認する。				
評価方法・基準	定期試験60%：漢文読解に必要な基礎的知識が身についているかなど到達目標の達成度を確認し評価する。平常点40%：平素の質疑・発表および課題の準備度などによって総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	本授業では、作品ごとに練習問題を解いて理解度を確認するため、全体の1/3（5回）を超えて欠席した学生は成績評価の対象としない。習熟度によって、提示した以外の作品を読むことや進度が前後する場合がある。				
テキスト	プリント配布				
参考書	精講 漢文（ちくま学芸文庫）、前野直彬、筑摩書房、2018 漢詩漢文小百科、田部井文雄、大修館書店、1990				

科目名	中国文学講読Ⅱ			期間	後期
担当教員	★西尾 和子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	漢文の読解能力の育成。教職課程科目を履修する学生については、中学校・高等学校における漢文の授業に必要な説明能力の育成。				
到達目標	漢文読解に必要な基礎的知識・技能を習得し、それを説明することができる。				
授業概要	中国古典文学のさまざまなジャンルの作品を精読しながら、漢文の基本的な構文や助字の用法、訓読の法則などを習得するとともに、作品にたいする特徴や文化的背景への理解を深める。後期の授業では、少し難易度の高い練習問題にも取り組む。授業の進め方は前期と同様、作品の訓読および現代語訳のほか、作品ごとに練習問題を解いて理解度を確認する。				
評価方法・基準	定期試験60%：漢文読解に必要な基礎的知識が身についているかなど到達目標の達成度を確認し評価する。平常点40%：平素の質疑・発表および課題の準備度などによって総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	本授業では、作品ごとに練習問題を解いて理解度を確認するため、全体の1/3（5回）を超えて欠席した学生は成績評価の対象としない。習熟度によって、提示した以外の作品を読むことや進度が前後する場合がある。				
テキスト	プリント配布				
参考書	精講 漢文（ちくま学芸文庫）、前野直彬、筑摩書房、2018 漢詩漢文小百科、田部井文雄、大修館書店、1990				



科目名	書道Ⅰ			期間	前期
担当教員	★喜多 徹	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	本講座は中学校国語科書写の学習内容、技能そして指導法を学んでいく。				
到達目標	教育の現場において、必要とされる技法の習得、書写指導の考え方や知識、さらに授業の展開〔示範・添削・評価〕等を身につけ、生徒たちに支援できる力を養う。				
授業概要	高等学校の芸術科書道の教員としての実務経験を生かして、中学校国語科書写の実技指導や授業計画等について学習していく。国語科書写の取り扱いは「文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること」〔硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の基礎を養うようにすること〕となっている。とくに書写の指導にあたるという観点から、毛筆・硬筆の実技中心に授業を展開していく。				
評価方法・基準	*課題作品を50%、レポート30%、関心・意欲・態度・努力そして知識度を20%として評価する。 【評価基準】関心、意欲、技能の習得度合、知識、表現向上の努力を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	*教育免許課程に関する科目であり原則として遅刻や途中退室は認めない。 *毎時必ず毛筆・硬筆の実技ができるよう用具を準備すること。 *高等学校の教員としての実務経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	国語科書写の理論と実践、全国大学書写書道教育学会〔編〕、萱原書房、令和2年				
参考書	なし				

科目名	書道Ⅱ			期間	後期
担当教員	★喜多 徹	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	本講座は中学校国語科書写の学習内容、技能そして指導法を学んでいく。				
到達目標	教育の現場において、必要とされる技法の習得、書写指導の考え方や知識、さらに授業の展開〔示範・添削・評価〕等を身につけ、生徒たちに支援できる力を養う。				
授業概要	高等学校の芸術科書道の教員としての実務経験を生かして、中学校国語科書写の実技指導や授業計画等について学習していく。国語科書写の取り扱いは「文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること」〔硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の基礎を養うようにすること〕となっている。とくに書写の指導にあたるという観点から、毛筆・硬筆の実技中心に授業を展開していく。				
評価方法・基準	*課題作品を50%、レポート30%、関心・意欲・態度・努力そして知識度を20%として評価する。 【評価基準】関心、意欲、技能の習得度合、知識、表現向上の努力を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	*教育免許課程に関する科目であり原則として遅刻や途中退室は認めない。 *毎時必ず毛筆・硬筆の実技ができるよう用具を準備すること。 *高等学校の教員としての実務経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	国語科書写の理論と実践、全国大学書写書道教育学会〔編〕、萱原書房、令和2年				
参考書	なし				

科目名	実地見学踏査Ⅰ			期間	その他
担当教員	鈴木 喬	単位数	1	配当年次	1-3
テーマ	実地の見聞（体感）を通して、日本文学や日本文化に対する理解を深める。				
到達目標	歩く・見る・聞く・食べる・触るなどの身体感覚（体感）を通じ、対象への理解を深めると同時に、そこから得たものを、どのように表現するか。そういった力を身につけることができる。				
授業概要	この授業は、古典や近・現代文学にあらわれる故地を実際に訪ね、文学や芸術・芸能に関する鑑賞眼を養い、感性を研くことを目的として、創設された。教室で学んだ知識を実地の見学・踏査でさらに深め、学習を進めるのが特徴である。				
評価方法・基準	平常点20%。提出物80%。評価は、踏査における取り組み方（平常点）や、踏査実施後のレポートによって行なう。その評価基準は、踏査で得た知識や実感をいかに報告できるかという点にある。				
履修上の注意事項等	初回のガイダンスには必ず出席すること（やむを得ず欠席した場合は、研究室にて指導を受けること）。クラスルームを登録し、常に国文学共同研究室前の掲示を見ること。見落とすと参加できなくなることに注意。				
テキスト	なし				
参考書	万葉集であるく奈良、上野誠ほか、新潮社、2019年適宜紹介する。				

科目名	実地見学踏査Ⅱ			期間	その他
担当教員	鈴木 喬	単位数	1	配当年次	2-4
テーマ	国文学における踏査の方法について学び、日本文学や日本文化に対する理解を深める。				
到達目標	方法、手順を考え、踏査を実施し、そこから得た知識を整理する力を身につける。身につけた力によって、個々人が目的に応じた踏査ができるようにする。				
授業概要	この授業は、古典や近・現代文学にあらわれる故地を実際に訪ね、文学や芸術・芸能に関する鑑賞眼を養い、感性を研くことを目的として、創設された。教室で学んだ知識を実地の見学・踏査でさらに深め、学習を進めるのが特徴である。				
評価方法・基準	踏査における取り組み方（平常点20%）や、踏査実施後のレポート（提出物80%）によって行なう。その評価基準は、踏査で得た知識や実感をいかに報告できるかという点にある。				
履修上の注意事項等	初回のガイダンスには必ず出席すること（やむを得ず欠席した場合は、研究室にて指導を受けること）。クラスルームを登録し、常に国文学共同研究室前の掲示を見ること。見落とすと参加できなくなることに注意。				
テキスト	なし				
参考書	万葉集であるく奈良、上野誠ほか、新潮社、2019年適宜紹介する。				

科目名	伝統芸能鑑賞			期間	その他
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	日本の伝統芸能（歌舞伎・浄瑠璃）を鑑賞する				
到達目標	①伝統芸能の基礎的知識を習得する。 ②伝統芸能の〈様式美〉を理解する。				
授業概要	江戸時代にはじまる浄瑠璃・歌舞伎は、古典文学との結びつきが強く、それらは双方向の関係を持っている。また、世界的に見ても、独特の世界観を有している。しかし、伝統という枠組みのせいか、「敷居の高いもの」という認識が根深いことも否めない。この授業では、日本の伝統芸能に親しみ、その魅力を発信するための教養を身に付けたい。なお、下記の授業内容は、あくまで予定であり、変更する可能性がある。				
評価方法・基準	平常点20%（事前授業への取り組み方を評価する）、鑑賞レポート80%（正確性・客観性・論理性・独自性を評価する）。				
履修上の注意事項等	ガイダンス（前期・後期）の日時・場所を掲示するので、事前に確認しておくこと。ガイダンスでは、鑑賞券の入手方法や鑑賞方法などを説明するので、必ず出席すること。履修者数に応じて鑑賞券を購入するので、受講生は責任をもって参加してほしい。				
テキスト	なし				
参考書	あやつられ音楽鑑賞、三浦しおん、双葉社、2011年 歌舞伎入門、古井戸秀夫、岩波書店、2002年				

科目名	身体表現実習			期間	通年
担当教員	★松本 太郎	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	尺八の実演。日本文化の特殊性ならびに普遍性を尺八の吹奏を通して学ぶ。				
到達目標	学生が一年を通じて基本の呼吸法を修得し、かごめかごめ、桜、越天楽などの簡単な曲を吹奏出来るようになる事。				
授業概要	邦楽演奏家として研究してきた事を基に 1姿勢 2呼吸 3心法（心の持ち方） 4所作（立つ、座る、礼法）を指導。この科目を選択するにあたり、特別な音楽的知識は必要ありません。				
評価方法・基準	楽譜が正しく読める事、吹奏技術、所作の美しさ、他に、自習の量、質問数などの積極性を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	正座できる服装で参加。ゆつたりとしたスボン、ロングスカートなど。初回授業でテキスト代2592円、および尺八レンタル代3000円、合計5592円を徴収致します。それ以外の経費は1年を通して掛かりません。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	尺八入門、菅原邦仁義				
参考書					

科目名	資料調査実習			期間	後期
担当教員	中尾 和昇	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	版本を用いた基礎的な文献調査に関する実習				
到達目標	①江戸時代の出版に関する基礎知識を習得する。 ②基礎的な文献調査の方法を身につける。				
授業概要	江戸時代に入ると、印刷技術の発展とともに、数多くの書物が「版本（はんぽん）」として出版され、商品となって広く社会に流通していった。現代の書籍がそうであるように、版本には個性が存在する。内容はもちろんのこと、大きさ（書型）、摺り方（版式）、綴じ方（装訂）などに違いがあり、実に多様である。この授業では、版本調査を通して、さまざまな情報（書誌）をデータとして収集し、その特徴を分析する。これらの実践を通して、出版に関する基礎知識を習得するとともに、基礎的な文献調査の方法を身につける。				
評価方法・基準	平常点40%（授業への積極性を評価する）、文献調査・発表60%（文献調査・発表の内容を評価する）。				
履修上の注意事項等	実習という性質上、遅刻は一切認めない。また、欠席は5回までとし、それより多く欠席した者には単位を認めない。なお、希望者がいれば学外の博物館・美術館の展示を見学したい。				
テキスト	なし（コピーして配布する）				
参考書	書誌学談義 江戸の板本、中野三敏、岩波書店、2015 書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む、堀川貴司、勉誠出版、2010 くずし字用例辞典 普及版、児玉幸多編、東京堂出版、1993				

科目名	文芸創作実習			期間	前期
担当教員	★安藤 友里	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	オリジナルの文芸作品を創作する。				
到達目標	1. エッセイ・短歌・俳句・絵本などの特徴を理解し、自己表現に適したジャンルを見つける。 2. 自らテーマを決めて作品を創作し完成させる。				
授業概要	さまざまなジャンルの文芸作品に触れてその特徴を理解したうえで、作り手の立場から表現の仕方を学びます。学んだことを生かして自分ならどう表現するか、実際に創作を行う実習式の授業です。絵本のストーリーを考えたり、短歌や俳句を詠んだり、エッセイを書いたりなど、楽しみながら創作します。創作した作品を互いに発表し合うこともあります。（内容により匿名での発表への考慮あり）				
評価方法・基準	授業内での発表・授業に関するレポート・創作物を学習到達度に鑑みて総合的に評価します。 ※出席点という形はなく、授業時のレポートと授業内容を踏まえた創作課題の提出が重要となります。				
履修上の注意事項等	集実習は各自のノートPCで行います。利用する環境は次の通りです。 OS: Windows10/Windows11/ macOS ソフトウェア: Microsoft office 2019以上（有償） ソフトウェアのインストール（準備）、動作確認は授業開始前に行っておくこと。不明な場合は、情報処理センターに相談してください。また、情報処理センターのPCを使う可能性もあります。事前登録をすませておくこと。 この科目は、実務経験のある教員が、企業等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	特になし				
参考書	授業中に指示				

科目名	書物出版学実習			期間	後期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	近代文芸図書の書誌的調査と分析				
到達目標	(1) 明治から昭和期にかけて刊行された文芸図書・資料について理解を深める。 (2) 近代の印刷出版に関する基本的な知識を理解する。 (3) 書誌的な調査方法と視点を身につける。				
授業概要	この授業では、明治から昭和戦前期にかけて刊行された文芸図書と関連資料をとりあげ、それらについて書誌的に調査分析する技術を身につけることを目的とする。 授業では、毎時具体的な図書資料が提示され、それを教員の指示に従って分析し、書誌解題を作成してゆく。その訓練を重ねながら、図書を調査する際の手法と視点を身につけ、あわせて印刷出版に関する知識も理解する。 本科目は実習科目であり、実際の調査や分析報告を課す。毎時間のように課題提出があるので、そのつもりで受講すること。				
評価方法・基準	課題・発表 (60%) 期末レポート (20%) 平常点 (20%) 課題は授業内容に基づいて作成するため、欠席すると提出できず単位に大きく響く。 発表・期末レポートは必須。				
履修上の注意事項等	実習科目という性格上、出席と課題提出を重視する。 毎單元ごとに課題があるが、課題は授業中の調査に基づくため欠席すると課題が出せなくなるため注意。 課題の未提出・遅延はもちろん、いい加減な内容の提出物は評価対象外となる。				
テキスト	プリント等で配布				
参考書	講義時に指示する				

科目名	編集実習			期間	後期
担当教員	★安藤 友里	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	編集の仕事について学び、編集者の視点から実践的に誌面作りを行い専門的知識を得る。				
到達目標	1. 出版物や Web 記事の作られ方を知る。 2. 実際に企画・編集・ライティングを行い、あるテーマについて情報を伝達できる。				
授業概要	1冊の本が作られる過程や、雑誌やPR誌の誌面の作り方について学習します。本の作り手側の視点を認識したうえで、テーマを選んだの新聞制作やインタビュー記事の執筆など、実践的な編集作業を行います。また、記事の比較や題材の選び方などに注目してメディアリテラシーの観点も養います。				
評価方法・基準	授業での発表・レポート・課題の学習到達度を総合的に評価する。*授業内容の理解度、他者の作品に対する的確な意見、課題の意図に沿った作品であるかどうかを評価の基準とする。				
履修上の注意事項等	編集実習は各自のノートPCで行います。利用する環境は次の通りです。 OS: Windows10/Windows11/ macOS ソフトウェア: Microsoft office 2019以上 (有償) ソフトウェアのインストール (準備)、動作確認は授業開始前に行っておくこと。不明な場合は、情報処理センターに相談してください。また、情報処理センターのPCを使う可能性もあります。事前登録をすませておくこと。 この科目は、実務経験のある教員が、企業等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト					
参考書	編集者の仕事 本の魂は細部に宿る、柴田光滋、新潮社、2010				



# 史 学 科 科 目





科目名	基礎演習 I (一)			期間	前期
担当教員	横山 香	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート（調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価）・発表（調査、構成と発表方法の工夫で評価）・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法，初年次教育を考える会，奈良大学，2022				
参考書					

科目名	基礎演習 I (二)			期間	前期
担当教員	中戸 義雄	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート（調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価）・発表（調査、構成と発表方法の工夫で評価）・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法，初年次教育を考える会，奈良大学，2022				
参考書					

科目名	基礎演習 I (三)			期間	前期
担当教員	横田 浩	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート（調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価）・発表（調査、構成と発表方法の工夫で評価）・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法，初年次教育を考える会，奈良大学，2022				
参考書					

科目名	基礎演習 I (四)			期間	前期
担当教員	★田中 良	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート（調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価）・発表（調査、構成と発表方法の工夫で評価）・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法，初年次教育を考える会，奈良大学，2022				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅰ（五）			期間	前期
担当教員	★田中良	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技法を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート（調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価）・発表（調査、構成と発表方法の工夫で評価）・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法，初年次教育を考える会，奈良大学，2022				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅱ			期間	後期
担当教員	井岡康時 高橋博子 森川正則 山崎岳	単位数	2	配当年次	1
テーマ	歴史学研究への入門				
到達目標	史学研究法で身につけたアカデミックスキルをふまえ、文献収集、史料読解の基礎といった大学で歴史学の専門的な学習をするために必要な基本的なスキルを身につける。歴史学という学問の特徴、研究手法を習得する。				
授業概要	4分割したクラスで日本史・東洋史・西洋史・イスラム世界史を担当する本学教員が輪番で講義をおこなう。それを通して受講生が各分野の基礎的な知識を身につける。学外研究者の講演、各種のガイダンスもおこなうことがあるので掲示に注意しておくこと。				
評価方法・基準	各回実施の小レポート（100％）日本史・東洋史・西洋史・イスラム世界史の基本事項と方法論の理解度を重視する。				
履修上の注意事項等	担当者の順番、特別講義などは変更の可能性があるので掲示を確認する。				
テキスト	用いない。各担当者が配布、指示する。				
参考書	用いない。各担当者の指示に従うこと。				

科目名	史学研究法			期間	前期
担当教員	足立広明 外岡慎一郎 宮本亮一 渡辺晃宏	単位数	2	配当年次	1
テーマ	歴史学研究への入門				
到達目標	歴史学という学問の特徴、研究手法を習得する。				
授業概要	4分割したクラスで、日本史と世界史の史学科教員が輪番で講義をおこなう。それを通して各分野の基礎的な知識を身につける。学外研究者の講演、各種のガイダンスもおこなうことがあるので掲示に注意しておくこと。履修登録者を4教室に割り振るので、間違えないようにすること。				
評価方法・基準	平常の授業態度と各担当者のレポート等課題の総計による。				
履修上の注意事項等	履修状況を4教室に割り振るので出席にあたっては教室を間違えないように確認すること。 担当者の順番、特別講義などは変更の可能性があるため掲示を確認する。				
テキスト	用いない。各担当者が配布、指示する。				
参考書	用いない。各担当者の指示に従うこと。				

科目名	日本史概論Ⅰ			期間	前期
担当教員	河内将芳	単位数	2	配当年次	1
テーマ	日本の古代・中世の歴史をどのように理解するか。				
到達目標	わが国の古代から中世の歴史をみるなかで、歴史とはなにか、歴史からなにをまなぶかを考える。				
授業概要	古代・中世がどのような時代であったのか、その歴史を知るためのもっとも有力な手がかりである古文書や古記録など文献史料をとおして、具体的に考える。				
評価方法・基準	授業中の課題（50％、毎回提示される史料を読解作業した小レポート）、レポート（50％）				
履修上の注意事項等	はじめて大学での歴史の授業をうける史学科1回生をおもな対象として授業展開をする。また、授業中に課題を課して、それをもとにして授業展開をする予定である。				
テキスト	なし				
参考書	なし				



科目名	日本史概論Ⅱ			期間	後期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	1
テーマ	庶民文化から見た日本史の流れの基本的理解				
到達目標	日本の近世から近現代までの流れを庶民の暮らしや文化に注目して理解し、歴史研究の手法や視点を学ぶ。				
授業概要	各時代の概観と主要な事項について身近なトピックスをもつて近世・近現代のできごとを史料を交えて紹介する。教科書的な通史ではなく、できるだけ身近なテーマを入り口とした歴史学の視点も学んでほしいので、切り口と構成は変更する可能性がある。				
評価方法・基準	レポート(100%) 評価にあたっては、①内容については、講義内容と歴史学の方法論や研究史を理解したうえで、授業からどのような主体的な学びにつなげていくかを重視して採点する。また、②形式面で、アカデミックライティングの手法をふまえた文章が書けているかを加味したうえで、③総合的に評価する(添付ファイル参照のこと)。				
履修上の注意事項等	レポート執筆にあたっては、必ず添付のファイルを読んでおくこと。 また、論旨が一貫していない、日本語として意味不明のレポートなど、高等教育機関である大学のレポートの水準に達していないものも厳しく採点する。出せばいいというものではない。				
テキスト	特に使用しない				
参考書					

科目名	東洋史概論Ⅰ			期間	前期
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	1
テーマ	東アジア通史				
到達目標	東アジア通史の大まかな全体像をつかむ。				
授業概要	東洋諸国、とくに東アジアの歴史について概説する。中国史を基軸とし、日本、朝鮮、ベトナム、モンゴル、中央アジア、東南アジアなど、その他の地域との関係も交えながら多角的に学ぶ。高校世界史の内容を基礎に、原史料および関係学説を紹介しながら、より深い理解への糸口を提供する。				
評価方法・基準	授業期間中に随時行う小課題、および学期末試験による。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	東洋史概論Ⅱ			期間	後期
担当教員	宮本 亮一	単位数	2	配当年次	1
テーマ	シルクロード史概論				
到達目標	シルクロードの歴史の概要を理解する				
授業概要	「シルクロード」という言葉は近代に作られた学術用語で、過去に生きていた人々がユーラシア大陸の各地を結んだ交易路をそのように呼んだわけではありません。しかし、この言葉を出発点として、ユーラシア各地の歴史を理解しようとすることは問題ではありません。 この授業では、中央アジアを中心に、シルクロード上に展開した様々な政治勢力、およびそれらに支配された社会の歴史を解説します。 授業は担当教員が講義形式で行い、必要に応じて映像資料なども視聴します。				
評価方法・基準	学習到達度確認テスト60% (歴史上の主要な出来事を理解できているか、歴史の流れを自分の言葉で説明できるかを確認します)、映像資料の感想レポート等40% (視聴する映像資料の内容を理解できているか、疑問・質問を教員に的確に伝えられるかどうかなどを確認します)				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書	中央アジアの歴史・社会・文化、間野英二・堀川徹、財団法人放送大学教育振興会、2004 シルクロードと唐帝国、森安孝夫、講談社、2016				

科目名	西洋史概論Ⅰ			期間	前期
担当教員	山口 育人	単位数	2	配当年次	1
テーマ	イギリス史を通してみる西洋世界の歴史				
到達目標	①中世末から現代にいたる西洋世界の歴史的展開の大きな流れを説明できる ②中世末から現代にいたる西洋史における諸問題を、講義内容に基づいてまとめることができる				
授業概要	中世末から現代にいたるまでのイギリス(連合王国)・ブリテン諸島およびイギリス帝国の歴史を概観する。ただし単なるイギリス史の授業ではない。西洋世界の歴史的展開における諸問題(政治、経済、社会、文化、思想、ヨーロッパ外世界との関係)を考察する材料としてイギリス帝国に着目する。				
評価方法・基準	・小レポートにおいては、指定するテキストを読み、歴史的展開を適切に整理できているかを評価する。 ・最終回授業において実施する学習到達度確認では、講義で取り上げた歴史事象を適切に説明できているかを評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	イギリス帝国の歴史、秋田茂、中央公論新社、2012 はじめて学ぶイギリスの歴史と文化、指昭博、ミネルヴァ書房、2012 イギリスの歴史を知るための50章、川成洋、明石書店、2016				

科目名	西洋史概論Ⅱ			期間	後期
担当教員	足立 広明	単位数	2	配当年次	1
テーマ	信仰の海—地中海世界				
到達目標	地中海世界の諸宗教の歴史を、それを生み出した社会に注目しつつ理解する。				
授業概要	中東やヨーロッパの民族・宗教問題に関するニュースは、毎日のようにメディアで流されている。しかし、背景となる歴史的知識が少なく複雑に感じるという人は現在でも多いようである。この授業では、地中海世界周辺で生じた諸宗教の対立と共存の歴史について概観する。本年度はとくに中世に焦点を当てる。				
評価方法・基準	授業内の小レポート（50%）と定期試験（50%）により判断する。授業内容の理解の度合い、論理的な文章が書けているかどうかを基準とする。				
履修上の注意事項等	授業内容は上記の通りだが、コロナ対応でオンライン授業や対面でも複数教室に分かれることがあるので、連絡には注意すること。				
テキスト	とくに用いない				
参考書	適時指示する。				

科目名	史料講読Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本古代史の基本的な史料の講読				
到達目標	日本古代史を考えるための基礎的な史料に慣れ、その読解力を身に付けることをめざす。				
授業概要	日本古代史の基本的な史料を読みながら、日本古代史の研究法の基礎を学びます。日本古代のさまざまな制度や歴史事象についても併せて紹介し、理解を深めます。文献史料としての『日本書紀』・『続日本紀』・『養老令』・『類聚三代格』・『延喜式』・平安時代の古記録（貴族の日記）、出土文字資料としての平城宮・京跡出土木簡、伝世史料としての正倉院文書などを取り上げます。				
評価方法・基準	原則として事前に資料を配付して調べてきてもらい、交替で音読と説明をしてもらいます。評価は平常点（授業に対する積極性）・学習到達度確認（史料の読解力）に基づいて総合的に判断します。				
履修上の注意事項等	この講義は、e-Learning システムを併用する予定です。なお、史料講読Ⅰ（一）は、日本史講読Ⅰ（一）と合同で行います。テキストは原則として毎回翌週分を配布します。				
テキスト					
参考書	古代史料を読む 上 律令国家篇、小口雅史・佐藤信編、同成社、2018 古代史料を読む 下 平安王朝篇、小口雅史・佐藤信編、同成社、2018 日本古代史を学ぶための漢文入門、池田温編、吉川弘文館、2005				

科目名	史料講読Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本の中世史料（活字）を読む				
到達目標	漢文史料読解の基本を身につける				
授業概要	『百練抄』高倉院治承四年条を輪読していく。安徳院への譲位、福原行幸、以仁王の挙兵、源頼朝の挙兵などの記事が含まれるが、武家側の記録である『吾妻鏡』とは異なる視点で記述されているところなど、漢文史料になじむなかで感得していただければとおもう。				
評価方法・基準	授業期間中におこなう到達度確認試験①と定期試験期間中におこなう到達度確認試験②の素点合計を基準に成績評価する。				
履修上の注意事項等	毎回史料読解の担当者を決めるので、しっかり予習して授業に臨むこと。また、担当者でなくても適宜質問することがあるので、予習は怠れないことを心得てほしい。				
テキスト	テキスト資料を配布する。				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	史料講読Ⅰ（三）			期間	前期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	近世古文書の読解				
到達目標	近世古文書の文章表現を理解し、当時のくずし字を読めるようになる。				
授業概要	近世史を理解するためには、まず何よりも当時の古文書を読めるようにならないといけない。そこで本講読では、最初に活字史料を用いて、近世人の文章表現に慣れてもらったうえで、実際の古文書をテキストに、くずし字が読めるようひたすら反復練習をおこなっていく。				
評価方法・基準	平素の受講態度と学習到達度確認				
履修上の注意事項等					
テキスト	プリントなど配布				
参考書	授業中に指示				

科目名	史料講読Ⅰ（四）			期間	前期
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	いろいろなタイプの史料（資料）に触れ、読む				
到達目標	現代史（日本と東アジア・太平洋地域、世界）のテーマを調査・研究する上で欠かせない「史料」について、「いろいろなタイプ」に触れ、それぞれの特徴を理解し、読む作法を身につける。あわせて、日本現代史の大きな流れと基礎的事項を理解する。				
授業概要	この授業では、1910年代～30年代初め（大正期・昭和戦前期）に焦点を当てて、①統計、②当時を生きた人びとの回想・回顧、③当時に出版された書籍、④当時の新聞と雑誌、⑤公文書史料、⑥個人の文書史料、⑦非文字資料（絵図・写真など）を取り扱う。				
評価方法・基準	質疑応答への参加度40%、学期末レポート60%を総合して評価する。レポートは「授業内容すべてに目配りして論じているか」「史料の読解が正確であるか」「導き出した気づき・問いの的確さやユニークさ」を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	特別な理由とそれを証明する文書のない欠席、事前連絡のない欠席については、成績評価上大きなマイナスとなる。				
テキスト	授業中に配布する史料プリント				
参考書	日本近代史、坂野潤治、筑摩書房、2012 日本近現代史、小風秀雅、放送大学教育振興会、2009				

科目名	史料講読Ⅰ（五）			期間	前期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	前近代（中世・近世）文化史にかかわる文献史料（古文書・古記録）の読解と研究				
到達目標	前近代（中世・近世）文化史にかかわる文献史料（古文書・古記録）の読解力と研究力を身につける。				
授業概要	第1回～15回：史料（古文書・古記録）のプリントを配布し、受講生各人の担当と担当日を決め、担当者は史料を読み下し・読解し、必要なことごとについて研究し、レジュメ資料を作成し受講生全員に配布したうえで発表。				
評価方法・基準	平常点（50%、毎回提出しなければならない予習の成果）、発表内容（50%）などを総合して評価する。				
履修上の注意事項等	基本的な漢和辞典や国語辞典および日本史辞典は備えておくことが必要。なお、くわしくは、授業中に指示する。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	史料講読Ⅰ（六）			期間	前期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本幕末・維新时期文化に関する史料読解				
到達目標	幕末～近代文化史にかかわる史料読解に必要な基本的な力を身につけることをめざす。日本史の史料読解に必須となる和風漢文体の文章を読みこなし、内容を理解できるようになること。また、幅広い分野にわたる基本的な史料を読んでいくなかで、背景となる幕末から近代の社会を理解する。				
授業概要	授業で扱う幕末維新时期の宗教史、文化・生活に関する基本的な史料を指定し、受講生全員が予習をしたうえで受講生が発表し、全体で討論をする。				
評価方法・基準	講義時の報告（50%）：内容、史料の理解度と予習の質で評価 受講態度（10%）：討論参加の積極性重視 小テスト（20%）、まとめテスト（20%）：和風漢文体・基本語彙の習熟度で評価				
履修上の注意事項等	史料講読は外国語科目と同じで予習は不可欠である。事前にわからない言葉については辞書を引き、内容を理解してのぞむこと。出席は単位認定の必要条件であり十分条件ではない。				
テキスト	担当者がプリント配布				
参考書	神都物語、ジョン・ブリーン、吉川弘文館、2015 明治維新と宗教、羽賀祥二、法蔵館、2022				

科目名	史料講読Ⅰ（七）			期間	前期
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	漢文読解の基礎				
到達目標	漢文読解の基礎能力を身につける。				
授業概要	中国の古典語である漢文は、中国史はもとより、朝鮮・越南・琉球、それに日本、さらには北アジア・中央アジア・東南アジアなど、近代以前の東洋の歴史・文化を探る手がかりとして不可欠の言語である。この授業では、まったくの初心者も漢文訓読の基礎的な素養を身につけられるよう、文法解説と返り点のついた教科書によって読解の訓練を積む。				
評価方法・基準	平時の授業への取り組み、授業期間中に行う小試験、および講読総括の時間内に行う学習到達度確認による。				
履修上の注意事項等	漢和辞典として、小川環樹等編『新字源』を購入し持参すること。2017年の改訂新版とそれ以前の旧版（古本なら安価）があるが、どちらを用いてもよい。				
テキスト					
参考書					

科目名	史料講読Ⅰ（八）			期間	前期
担当教員	宮本 亮一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	中央・西南アジア史研究のための史料入門				
到達目標	歴史研究に必要な史料をどのように読み、理解するか、その方法を身につける				
授業概要	この授業では、3種類の史料を扱います。 1. 古い時代の中央・南アジアに関するまとまった分量の情報を残すほとんど唯一の文献といっても良い、玄奘の『西域記（大唐西域記）』と彼の伝記『慈恩伝（大唐大慈恩寺三蔵法師伝）』 2. イスラム時代以前の中央アジアに暮らしていた人々の生の声が反映された現地語（ソグド語、バクトリア語）の文書史料 3. ムガル朝の創始者バーブル（15-16世紀）が残した回顧録『バーブル・ナーマ』				
評価方法・基準	授業への取り組み 100%（担当者に関しては準備状況や理解度、その他の受講者に関しては質問など積極的な参加姿勢が見られるかどうかを判断基準とします）				
履修上の注意事項等	予習と準備が必須です。テキスト等は担当教員がコピーを配布します。				
テキスト					
参考書					

科目名	史料講読Ⅰ（九）			期間	前期
担当教員	足立 広明	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	歴史学の英語になじむ。				
到達目標	英語を学ぶのではなく、英語で歴史を読むことになじむ。その第一歩として、英語で書かれた絵入り世界史図鑑を用いて研究の入り口に到達するハードルを低くする。				
授業概要	英語で書かれた世界史辞典から各人の関心に従ってトピックを選び、それを時代順に輪読する。また次年度の演習もにらんで口頭発表も行う。英語はただ辞書を引いておしまいではなく、ノートを作り、英語テキストを書き、単語の意味や語法を調べるスペースを設け、その上で別途訳文を作成のこと。ノートは毎回チェックする。				
評価方法・基準	平常点50%。到達度確認50%。平常点はよく予習し、大きな声で自信をもって訳文を読み上げ、説明できるかどうか、また指摘された間違いを理解して修正できるか、テストは正確な訳読ができるかどうかの評価のポイントになる。				
履修上の注意事項等	平常授業への積極的な関与を重視する。テキストはプリントで配布する。				
テキスト	プリント配布				
参考書					

科目名	史料講読Ⅰ（十）			期間	前期
担当教員	山口 育人	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	西洋近現代史理解のための文献・史料講読				
到達目標	西洋近現代史を理解するための英文文献および史料の基礎的な読解力をもつ。				
授業概要	西洋近現代史の研究を進めるうえで必要となる、英語で書かれた基本的文献・史料を理解できるよう、テキストを和訳しながら読み進めることが授業の中心となる。また、教材で登場する重要な歴史事項に関連する史料を紹介し、3年生以降の演習科目に備えてもらう。				
評価方法・基準	・平常点は、テキストの事前予習の取り組み度合いと読解の適切さで評価する。 ・学習到達度確認は、テキストの訳出の正確さで評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書					

科目名	史料講読Ⅰ（十二）			期間	前期
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	幕末から明治・大正初期にわたる、主として地域の史料を読み、近代の社会変化を考える。				
到達目標	史料解読に必要な基本的な力をつけるため、史料の内容を正確に理解し、時代背景と関連づけて考察する力を養う。さらに次年度以降の専門的な研究のための問題意識を育むことを目標とする。				
授業概要	幕末から明治・大正初期の民衆の生活、文化、運動などにかかわる史料を選定し配付するので、これを受講生全員で読む。あらかじめ担当者を決めておくので、担当した史料について、読みや意味、時代背景などについて調べておく。担当者の発表を受けて受講生全員で討論し、理解を深める。				
評価方法・基準	授業中の報告内容（40%）と積極的な発言（30%）。毎時間授業の最後に200字程度のコメントシートの提出を求める（30%）。				
履修上の注意事項等	当然のことであるが、遅刻することなく出席して積極的に取り組むこと。無断欠席はマイナスの評価をせざるを得ない。				
テキスト	担当者から資料を配付する。				
参考書	適宜指示する。				

科目名	史料講読Ⅰ（十三）			期間	前期
担当教員	高橋 博子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	西洋現代史に関する英文講読				
到達目標	西洋現代史に関する英文の読解力をつける。				
授業概要	市民、反核活動の視点から書かれた英文を講読し、市民・被災者・学生の視点で、戦争・核問題について議論する。				
評価方法・基準	予習したうえで授業に参加しているかどうか（40%）、確認テスト・レポート（60%）で評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	Peace Talk, 前川智子, 開文社出版, 2011				
参考書					

科目名	史料講読Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本古代史の基本的な史料の講読				
到達目標	日本古代史を考えるための基礎的な史料に慣れ、その読解力を身に付けることをめざす。				
授業概要	日本古代史の基本的な史料を読みながら、日本古代史の研究法の基礎を学びます。日本古代のさまざまな制度や歴史事象についても併せて紹介し、理解を深めます。文献史料としての『日本書紀』・『続日本紀』・『養老令』・『類聚三代格』・『延喜式』・平安時代の古記録（貴族の日記）、出土文字資料としての平城宮・京跡出土木簡、伝世史料としての正倉院文書などを取り上げます。				
評価方法・基準	原則として事前に資料を配付して調べてきてもらい、交替で音読と説明をしてもらいます。評価は平常点（授業に対する積極性）・学習到達度確認（史料の読解力）に基づいて総合的に判断します。				
履修上の注意事項等	この講義は、e-Learning システムを併用する予定です。なお、史料講読Ⅱ（一）は、日本史講読Ⅰ（一）と合同で行います。テキストは原則として毎回翌週分を配布します。				
テキスト					
参考書	古代史料を読む 上 律令国家篇, 小口雅史・佐藤信編, 同成社, 2018 古代史料を読む 下 平安王朝篇, 小口雅史・佐藤信編, 同成社, 2018 日本古代史を学ぶための漢文入門, 池田温編, 吉川弘文館, 2005				

科目名	史料講読Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	中世史料（活字）を読む				
到達目標	漢文史料読解の基本を身につける				
授業概要	『百練抄』安徳院寿永二年条を輪読していく。寿永二年条には、源義仲の挙兵・入京、法住寺合戦、神器のないままの後鳥羽院踐祚などの記事を含むが、武家の記録である『吾妻鏡』とは異なる視点から記述されていることなどにも、漢文史料読解のかたわらで感得してほしいと思う。				
評価方法・基準	授業期間中に実施する到達度確認試験①と定期試験期間中に実施する到達度確認試験②の素点合計を基準に成績評価する。				
履修上の注意事項等	毎回史料読解の担当者を決めるので、しっかり予習して授業に臨むこと。また、担当者でなくても適宜質問することができるので、予習は怠れないことを心得てほしい。				
テキスト	テキスト資料を配布する。				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	史料講読Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	近世古文書の読解				
到達目標	近世古文書の文章表現を理解し、当時のくずし字を読めるようになる。				
授業概要	近世史を理解するためには、まず何よりも当時の古文書を読めるようにならないといけない。そこで本講読では、最初に活字史料を用いて、近世人の文章表現に慣れてもらったうえで、実際の古文書をテキストに、くずし字が読めるようひたすら反復練習をおこなっていく。				
評価方法・基準	平素の受講態度と学習到達度確認				
履修上の注意事項等					
テキスト	プリントなど配布				
参考書	授業中に指示				

科目名	史料講読Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	いろいろなタイプの史料（資料）に触れ、読む				
到達目標	現代史（日本、東アジア・太平洋地域、世界）のテーマを調査・研究する上で欠かせない「いろいろなタイプの史料」について、それぞれの特徴を理解し、読む作法を身につける。				
授業概要	この授業では、1910年代～30年代初め（大正期・昭和戦前期）に焦点を当てて、①統計、②当時を生きた人びとの回想・回顧、③当時に出版された書籍、④当時の新聞と雑誌、⑤公文書史料、⑥個人の文書史料、⑦非文字資料（絵図・写真など）を取り扱う。				
評価方法・基準	質疑応答への参加度40%、学期末レポート60%を総合して評価する。レポートは「授業内容すべてに目配りして論じているか」「史料の読解が正確であるか」「導き出した気づき・問いの的確さやユニークさ」を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	特別な理由とそれを証明する文書のない欠席、事前連絡のない欠席については、成績評価上大きなマイナスとなる。				
テキスト	授業中に配布する史料プリント				
参考書	日本近代史, 坂野潤治, 筑摩書房, 2012 日本近現代史, 小風秀雅, 放送大学教育振興会, 2009				

科目名	史料講読Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	前近代（中世・近世）文化史にかかわる文献史料（古文書・古記録）の読解と研究				
到達目標	前近代（中世・近世）文化史にかかわる文献史料（古文書・古記録）の読解力と研究力を身につける。				
授業概要	第1回～15回：史料（古文書・古記録）のプリントを配布し、受講生各人の担当と担当日を決め、担当者は史料を読み下し・読解し、必要なことならについて研究し、レジュメ資料を作成し受講生全員に配布したうえで発表。				
評価方法・基準	平常点（50%、毎回提出しなければならない予習の成果）、発表内容（50%）などを総合して評価する。				
履修上の注意事項等	基本的な漢和辞典や国語辞典および日本史辞典は備えておくことが必要。なお、くわしくは、授業中に指示する。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	史料講読Ⅱ（六）			期間	後期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本幕末・維新时期文化に関する史料読解				
到達目標	幕末～近代文化史にかかわる史料読解に必要な基本的な力を身につけることをめざす。日本史の史料読解に必須となる和風漢文体の文章を読みこなし、内容を理解できるようになること。また、幅広い分野にわたる基本的な史料を読んでいくなかで、背景となる幕末から近代の社会を理解する。				
授業概要	授業で扱う幕末維新期の宗教史、文化・生活に関する基本的な史料を指定し、受講生全員が予習をしたうえで受講生が発表し、全体で討論をする。				
評価方法・基準	講義時の報告（50%）：内容、史料の理解度と予習の質で評価 受講態度（10%）：討論参加の積極性重視 小テスト（20%）、まとめテスト（20%）：和風漢文体・基本語彙の習熟度で評価				
履修上の注意事項等	史料講読は外国語科目と同じで予習は不可欠である。事前にわからない言葉については辞書を引き、内容を理解してのぞむこと。出席は単位認定の必要条件であり十分条件ではない。				
テキスト	担当者がプリント配布				
参考書	神都物語, ジョン・ブリーン, 吉川弘文館, 2015 明治維新と宗教, 羽賀祥二, 法蔵館, 2022				

科目名	史料講読Ⅱ（七）			期間	後期
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	漢文読解の基礎				
到達目標	漢文読解の基礎能力を身につける。				
授業概要	中国の古典語である漢文は、中国史はもとより、朝鮮・越南・琉球、それに日本、さらには北アジア・中央アジア・東南アジアなど、近代以前の東洋の歴史・文化を探る手がかりとして不可欠の言語である。この授業では、まったくの初心者が漢文訓読の基礎的な素養を身につけられるよう、文法解説と返り点のついた教科書によって読解の訓練を積む。				
評価方法・基準	平時の授業への取り組み、授業期間中に行う小試験、および講読総括の時間内に行う学習到達度確認による。				
履修上の注意事項等	漢和辞典として、小川環樹等編『新字源』を購入し持参すること。2017年の改訂新版とそれ以前の旧版（古本なら安価）があるが、どちらを用いてもよい。				
テキスト					
参考書					

科目名	史料講読Ⅱ（八）			期間	後期
担当教員	宮本 亮一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	中央・西南アジア史研究のための史料入門				
到達目標	歴史研究に必要な史料をどのように読み、理解するか、その方法を身につける				
授業概要	この授業では、3種類の史料を扱います。 1. 古い時代の中央・南アジアに関するまとまった分量の情報を残すほとんど唯一の文献といっても良い、玄奘の『西域記（大唐西域記）』と彼の伝記『慈恩伝（大唐大慈恩寺三蔵法師伝）』 2. イスラーム時代以前の中央アジアに暮らしていた人々の生の声が反映された現地語（ソグド語、バクトリア語）の文書史料 3. ムガル朝の創始者バーブル（15-16世紀）が残した回顧録『バーブル・ナーマ』				
評価方法・基準	授業への取り組み 100%（担当者に関しては準備状況や理解度、その他の受講者に関しては質問など積極的な参加姿勢が見られるかどうかを判断基準とします）				
履修上の注意事項等	予習と準備が必須です。テキスト等は担当教員がコピーを配布します。				
テキスト					
参考書					

科目名	史料講読Ⅱ（九）			期間	後期
担当教員	足立 広明	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	歴史学の英語になじむ。				
到達目標	英語を学ぶのでなく、英語で歴史を読むことになじむ。その第一歩として、英語で書かれた絵入り世界史図鑑を用いて研究の入り口に到達するハードルを低くする。				
授業概要	英語で書かれた世界史辞典から各人の関心に従ってトピックを選び、それを時代順に輪読する。また次年度の演習もにらんで口頭発表も行う。英語はただ辞書を引いておしまいではなく、ノートを作り、英語テキストを書き、単語の意味や語法を調べるスペースを設け、その上で別途訳文を作成のこと。ノートは毎回チェックする。				
評価方法・基準	平常点50%、到達度確認50%。平常点はよく予習し、大きな声で自信をもって訳文を読み上げ、説明できるかどうか、また指摘された間違いを理解して修正できるか、テストは正確な訳読かできるかどうかの評価のポイントになる。				
履修上の注意事項等	平常授業への積極的な関与を重視する。テキストはプリントで配布する。				
テキスト	プリント配布				
参考書					

科目名	史料講読Ⅱ（十）			期間	後期
担当教員	山口 育人	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	西洋近現代史理解のための文献・史料講読				
到達目標	西洋近現代史を理解するための英文文献および史料の読解力を確立する。				
授業概要	西洋近現代史の研究を進めるうえで必要となる、英語で書かれた基本的文献・史料を理解できるよう、テキストを和訳しながら読み進めることが授業の中心となる。また、教材で登場する重要な歴史事項に関連する史料を紹介してもらう。				
評価方法・基準	・平常点は、テキスト予習への取り組み度合いと読解の適切さで評価する。 ・学習到達度確認は、テキストの訳出の正確さを評価する。				
履修上の注意事項等	テキストの入手等については、初回授業で説明する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	史料講読Ⅱ（十二）			期間	後期
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	明治中期から大正初期にかけての重要史料の研究				
到達目標	史料解読に必要な基本的な力をつけるため、史料の内容を正確に理解し、時代背景と関連づけて考察する力を養う。さらに次年度以降の専門的な研究のための問題意識を育むことを目標とする。				
授業概要	明治中期から大正初期の民衆の生活、文化、運動などにかかわる史料を選定し配付するので、これを受講生全員で読む。あらかじめ担当者を決めておくので、担当した史料について、読みや意味、時代背景などについて調べておく。担当者の発表を受けて受講生全員で討論し、理解を深める。				
評価方法・基準	授業中の報告内容（40%）と積極的な発言（30%）。毎時間授業の最後に200字程度のコメントシートの提出を求める（30%）。				
履修上の注意事項等	当然のことであるが、遅刻することなく出席して積極的に取り組むこと。無断欠席はマイナスの評価をせざるを得ない。				
テキスト	担当者から資料を配付する				
参考書	適宜示す。				

科目名	史料講読Ⅱ（十三）			期間	後期
担当教員	高橋 博子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	西洋現代史に関する英文講読				
到達目標	西洋現代史に関する英文の読解力をつける。				
授業概要	市民、反核活動の視点から書かれた英文を講読し、市民・被災者・学生の視点で、戦争・核問題について議論する。				
評価方法・基準	予習したうえで授業に参加しているかどうか（40%）、確認テスト・レポート（60%）で評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	Peace Talk, 前川智子, 開文社出版, 2011				
参考書					

科目名	史料講読Ⅲ（一）			期間	前期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	『養老令』を中心とする日本古代史の史料講読				
到達目標	『養老令』の読解を進めることで、日本古代史のさまざまな事象について学習しながら、古代史の史料に習熟し、史料の読解力の向上をめざす。				
授業概要	律令格式と総称される法制史料のうち、養老令を篇目順に読んでいきます。Ⅲ（一）・Ⅳ（一）で官位令を除く全篇を読破します。各篇目3条程度ずつの代表的な条文を読み進めることで、古代法や律令制の基礎を体得してもらいます。条文ごとに担当者を決め、書きだし文の音読、及び条文の概要について報告してもらいます。その後、関連史料を紹介し、日本古代史のさまざまな史料を概観できるようにする予定です。				
評価方法・基準	平常点（授業に対する積極性）・学習到達度確認（史料の読解力）などに基づいて総合的に判断します。				
履修上の注意事項等	テキストはプリントを配布します。必ず予習・復習を充分に行ってください。報告者以外も丹念に辞書類を引き、自分で書きだし文や現代語訳を作ってください。なお、史料講読Ⅲ（一）は、日本史講読Ⅱ（一）と合同で行います。				
テキスト					
参考書					

科目名	史料講読Ⅲ（二）			期間	前期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	中世史料（筆写本）を読む				
到達目標	おもに楷書体で筆写された史料を読解する基本的素養を身につける				
授業概要	徳川家康の伝記的史料である『当代記』（国立公文書館所蔵、江戸時代初期の写本）をテキストとして輪読していく。				
評価方法・基準	授業期間中におこなう到達度確認試験①と定期試験期間中におこなう到達度確認試験②の素点合計を基準に成績評価する。				
履修上の注意事項等	毎回史料読解の担当者を決めるので、しっかり予習して授業に臨むこと。また、担当者でなくても適宜質問することがあるので、予習は怠れないことを心得てほしい。				
テキスト	テキスト資料を配布する。				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	史料講読Ⅲ（三）			期間	前期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	近世古文書の分析と考察				
到達目標	近世古文書を読み解き、それが語る世界を考える。				
授業概要	近世文書を理解するためには、くずし字が「読める」だけではなく、史料の背景を「考察」できるようにならなければならない。そこで本講読では、受講生のくずし字読解能力の向上のみならず、分析と考察能力の向上も目指して、近世古文書の読解を進めていく。				
評価方法・基準	平素の受講態度と学習到達度確認				
履修上の注意事項等					
テキスト	授業中に指示				
参考書	授業中に指示				



科目名	史料講読Ⅲ（四）			期間	前期
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	いろいろなタイプの史料（資料）に触れ、読む				
到達目標	現代史（おもに日本と東アジア・太平洋地域、世界）の学びと調査・研究で欠かせない「史料」について、「いろいろなタイプ」に触れ、それぞれの特徴を理解し、読む作法を身につける。				
授業概要	①統計、②当時を生きた人びとの回想・回顧、③当時に出版された書籍、④当時の新聞および雑誌、⑤国（中央政府）または地方自治体（都道府県・市町村）の公文書史料、⑥個人または家の文書史料、⑦非文字史料（絵図・写真など）を取り扱う。				
評価方法・基準	質疑への参加度40%、学期末レポート60%を総合して評価。レポートは「授業内容すべてに目配りして論じているか」「史料の読解が正確か」「導き出した気づき・問いの的確さ」を基準とする。				
履修上の注意事項等	特別な理由とそれを証明する文書のない欠席、事前連絡のない欠席については、成績評価上大きなマイナスとなる。				
テキスト	授業中に配布する史料プリント				
参考書	日本近代史、坂野潤治、筑摩書房、2012 日本近現代史、小風秀雅、放送大学教育振興会、2009				

科目名	史料講読Ⅲ（五）			期間	前期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	前近代（中世・近世）文化史にかかわる文献史料（古文書・古記録）の読解と研究				
到達目標	前近代（中世・近世）文化史にかかわる文献史料（古文書・古記録）の読解力と研究力を身につける。				
授業概要	第1回～15回：史料（古文書・古記録）のプリントを配布し、受講生各人の担当と担当日を決め、担当者は史料を読み下し・読解し、必要なことごとについて研究し、レジュメ資料を作成し受講生全員に配布したうえで発表。				
評価方法・基準	平常点（40%、毎回提出しなければならない予習の成果）、発表内容（40%）、年度末のレポート（20%）などを総合して評価する。				
履修上の注意事項等	基本的な漢和辞典や国語辞典および日本史辞典は備えておくことが必要。なお、くわしくは、授業中に指示する。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	史料講読Ⅲ（六）			期間	前期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本幕末・維新期の史料読解				
到達目標	近世・近代文化史にかかわる史料読解に必要な基本的な力を身につけることをめざす。				
授業概要	授業では畿内における幕末維新期の庶民の日記（活字史料）を指定し、受講生全員が予習をしたうえで受講生が発表し、全体で討論をする。庶民の暮らしの実態を史料を通して理解する。				
評価方法・基準	講義における報告内容（70%）…報告内容の充実度、和風漢文体史料の読解力がどれだけ身につく、自分で史料を読める力をつけたかで評価する 討論内容（30%）…史料内容を理解し質問に適切に答えられるかで評価 無断遅刻・欠席は厳禁とする。				
履修上の注意事項等	史料講読は外国語科目と同じで必ず予習をしておくこと。わからない言葉は辞書を引く、内容を理解してのぞむこと。予習なしに初見で読めるほど史料というものは甘くはありません。				
テキスト	担当者がプリント配布				
参考書	叢書京都の史料 若山要助日記 上下、京都市歴史資料館、京都市歴史資料館、1997.8 幕末維新京都町人日記、内田九州男他編、清文堂出版、1989				

科目名	史料講読Ⅲ（七）			期間	前期
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	漢文読解の応用				
到達目標	漢文読解の応用能力を身につける。漢文で書かれた本や石碑が、自分の力で読めるようになる。				
授業概要	明清中国あるいは朝鮮王朝の歴史文献を会読する予定。漢文読解と文献調査という、東洋史の研究に必要な二つの基礎的技術の習得をめざす。				
評価方法・基準	学力到達度確認、および平時の授業への取り組みによる。				
履修上の注意事項等	テキストはこちらで準備して配布する。漢和辞典として、小川環樹等編『新字源』を購入し持参すること。2017年の改訂新版とそれ以前の旧版（古本なら安価）があるが、どちらを用いてもよい。				
テキスト					
参考書					

科目名	史料講読Ⅲ（八）			期間	前期
担当教員	宮本 亮一	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	中央・西南アジア史関係の史料				
到達目標	先行研究を理解し、史料を自分で扱えるようになる				
授業概要	シルクロードの交易商人として活動したソグド人は、教科書にも記されているほど有名で、近年多くの研究が行われています。この授業では、現在の中央アジア史研究をリードする第一人者であるエチエンヌ・ドゥ・ラ・ヴェシエールが、ソグド人の歴史についてまとめた研究書『ソグド商人の歴史』（英語版）を読み進め、そこに部分的に引用されている様々なソグド人関係の史料について掘り下げて検討します。また、最新の研究成果などについても、必要に応じて解説します。ただし、受講生の興味・関心によっては、講読文献を変更する可能性があります。				
評価方法・基準	授業への取り組み100%（予習状況や理解度のほか、質問など積極的な参加姿勢が見られるかどうかを判断基準とします）				
履修上の注意事項等	テキスト等は担当教員がコピーを配布します				
テキスト					
参考書	Sogdian traders : a history, Etienne de la Vaissiere (tr. by James Ward), E. J. Brill, 2005				

科目名	史料講読Ⅲ（九）			期間	前期
担当教員	足立 広明	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	定評ある研究者の著書を精読する。				
到達目標	英語を学ぶのではなく、英語で歴史を学ぶことに慣れ、洋書文献を用いた研究の入り口に立つ。現在の先端的な研究の問題意識に触れる。				
授業概要	Leonora Neville, Byzantine Gender (Leeds, 2019) を読み進める。古代末期から中世にかけてのジェンダーの歴史をビザンツ帝国を中心に読み解いていく。西欧やイスラーム、十字軍の歴史も関係し、近現代のジェンダー観の問題点も浮かび上がらせる。毎回アトランダムに指名してテキストを順番に読み進めることが授業のベースとなるが、適時関連する歴史的背景にも触れる。				
評価方法・基準	平常点50%。到達度確認50%。平常点はよく予習し、大きな声で自信をもって訳文を読み上げ、説明できるかどうか、また指摘された間違いを理解して修正できるか、テストは正確な訳読かできるかどうかの評価のポイントになる。				
履修上の注意事項等	平常授業への積極的な関与を重視する。				
テキスト					
参考書					

科目名	史料講読Ⅲ（十）			期間	前期
担当教員	山口 育人	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	西洋近現代史理解のための文献・史料講読				
到達目標	西洋近現代史を理解するための英文文献および史料の読解力を確立する。				
授業概要	西洋近現代史の研究を進めるうえで必要となる、英語で書かれた基本的文献・史料を理解できるよう、テキストを和訳しながら読み進めることが授業の中心となる。また、教材で登場する重要な歴史事項に関連する史料を紹介してもらう。				
評価方法・基準	・平常点は、テキスト予習への取り組み度合いと読解の適切さで評価する。 ・学習到達度確認は、テキストの訳出の正確さを評価する。				
履修上の注意事項等	テキストの入手等については、初回授業で説明する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	史料講読Ⅲ（十二）			期間	前期
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	幕末・維新时期から大正初期にかけての重要史料の研究（I）				
到達目標	史料にアクセスする方法を習得するとともに、入手した史料を正確に読みこなす力をつける。				
授業概要	まず既刊の史料集についての知識を獲得し、その利用方法について理解する。続いて、幕末・維新时期から大正初期にかけての重要史料を順次取り上げ、受講者からの報告と討論をおこなう。				
評価方法・基準	各回の授業における報告や議論の発言内容などから総合的に評価する（30%）。期末に前期に学んだ史料について、さらに各自が深く調べたレポートの提出を求め評価する（70%）				
履修上の注意事項等	卒論執筆のための基礎的訓練と位置づけ、意欲的に取り組んでほしい。				
テキスト	担当者から資料を配付する				
参考書	適宜示す				

科目名	史料講読Ⅲ（十三）			期間	前期
担当教員	高橋 博子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	西洋現代史を理解するための文献・史料講読				
到達目標	米公文書等の翻訳・解説を行うことで、原典にあたる意義や時代背景を理解する。自身の問題意識に沿って史料収集、翻訳・解説を行い、卒業論文など、今後の調査に生かす。				
授業概要	本授業では、前半は、米国立公文書館などで所蔵する核時代に関連する米公文書を講読する。また後半は、米大統領選挙に関連する文書を講読する。さらに受講者が関心のある英文文書を入手し、翻訳を行い、時代背景も報告する。				
評価方法・基準	辞書や関連情報を調査し、事前に準備したうえで授業に参加しているかを評価する（30%）。さらに、前期は取り上げた史料の一つを選び、翻訳・解説レポートを提出すること（70%）。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	史料講読Ⅳ（一）			期間	後期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	『養老令』を中心とする日本古代史の史料講読				
到達目標	『養老令』の読解を進めることで、日本古代史のさまざまな事象について学習しながら、古代史の史料に習熟し、史料の読解力の向上をめざす。				
授業概要	律令格式と総称される法制史料のうち、養老令を篇目順に読んでいきます。史料講読Ⅲ（一）に引き続き全篇を読破します。各篇目の代表的な条文を3条程度ずつ読み進めることで、古代法や律令制の基礎を体得してもらいます。条文ごとに担当者を決め、条文の書きくだし文の音読、及び条文の概要について報告してもらいます。その後、関連史料を紹介し、日本古代史のさまざまな史料を概観できるようにする予定です。				
評価方法・基準	平常点（授業に対する積極性）・学習到達度確認（史料の読解力）などに基づいて総合的に判断します。				
履修上の注意事項等	テキストはプリントを配布します。必ず予習・復習を充分に行ってください。報告者以外も丹念に辞書類を引き、自分で書きくだし文や現代語訳を作ってみてください。なお、史料講読Ⅳ（一）は、日本史講読Ⅱ（一）と合同で行います。				
テキスト					
参考書					

科目名	史料講読Ⅳ（二）			期間	後期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	中世史料（筆写本）を読む				
到達目標	おもに楷書体で筆写された史料を読解する基本的素養を身につける				
授業概要	鎌倉幕府の正史として編纂された『吾妻鏡』を輪読していく。テキストはいわゆる「北条本」（国立公文書館所蔵、重要文化財）で、これは小田原北条氏から黒田孝高に譲られ、最終的に徳川家康の手に置かれたことで知られ、現在でも底本として用いられることが多い。そのあたりの事情もくみ取りながら読み進めたい。今回は源頼家將軍記の冒頭を読んでいく。				
評価方法・基準	授業期間中におこなう到達度確認試験①と定期試験期間中におこなう到達度確認試験②の素点合計を基準に成績評価する。				
履修上の注意事項等	毎回史料読解の担当者を決めるので、しっかり予習して授業に臨むこと。また、担当者でなくても適宜質問することができるので、予習は怠れないことを心得てほしい。				
テキスト	テキスト資料を配布する。				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	史料講読Ⅳ（三）			期間	後期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	近世古文書の分析と考察				
到達目標	近世古文書を読み解き、それが語る世界を考える。				
授業概要	近世文書を理解するためには、くずし字が「読める」だけではなく、史料の背景を「考察」できるようにならなければならない。そこで本講読では、受講生のくずし字読解能力の向上のみならず、分析と考察能力の向上も目指して、近世古文書の読解を進めていく。				
評価方法・基準	平素の受講態度と学習到達度確認				
履修上の注意事項等					
テキスト	授業中に指示				
参考書	授業中に指示				

科目名	史料講読Ⅳ（四）			期間	後期
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	いろいろなタイプの史料からたどる大正期・昭和期・平成期の日本				
到達目標	いろいろなタイプの史料を組み合わせて使う作法、史料にもとづいて歴史を叙述・考察する作法を身につける。そして、4年次の卒業論文に向けて、自分が調査・研究したい時期・分野・題材について、問題関心の絞りこみ・明確化をはかる。				
授業概要	履修者が深く探求したい年代・分野・題材（テーマ）について、各自で史料を探して読み、その内容を紹介・解説する発表をする。その発表をうけて全員で討議する。				
評価方法・基準	質疑への参加度30%、発表内容30%、学期末レポート40%を総合して評価。発表とレポートについては「史料の読解が正確であるか」「導き出した気づき・問いの的確さ」を基準とする。				
履修上の注意事項等	特別な理由とそれを証明する文書のない欠席、事前連絡のない欠席については、成績評価上大きなマイナスとなる。				
テキスト	授業で配布する史料プリントおよび受講者の史料紹介・解説プリント				
参考書	昭和史, 古川隆久, 筑摩書房, 2016 ポスト戦後社会, 吉見俊哉, 岩波書店, 2009				

科目名	史料講読Ⅳ（五）			期間	後期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	前近代（中世・近世）文化史にかかわる文献史料（古文書・古記録）の読解と研究				
到達目標	前近代（中世・近世）文化史にかかわる文献史料（古文書・古記録）の読解力と研究力を身につける。				
授業概要	第1回～15回：史料（古文書・古記録）のプリントを配布し、受講生各人の担当と担当日を決め、担当者は史料を読み下し・読解し、必要なことならについて研究し、レジュメ資料を作成し受講生全員に配布したうえで発表。				
評価方法・基準	平常点（40%、毎回提出しなければならない予習の成果）、発表内容（40%）、年度末のレポート（20%）などを総合して評価する。				
履修上の注意事項等	基本的な漢和辞典や国語辞典および日本史辞典は備えておくことが必要。なお、くわしくは、授業中に指示する。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	史料講読Ⅳ（六）			期間	後期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本幕末・維新期の史料読解				
到達目標	近世・近代文化史にかかわる史料読解に必要な基本的な力を身につけることをめざす。				
授業概要	授業では畿内における幕末維新期の庶民・女性の日記（活字史料）を指定し、受講生全員が予習をしたうえで受講生が発表し、全体で討議をする。庶民の暮らしの実態を史料を通して理解する。				
評価方法・基準	講義における報告内容（70%）…報告内容の充実度、和風漢文体史料の読解力がどれだけ身につく、自分で史料を読める力をつけたかで評価する 討議内容（30%）…史料内容を理解し質問に適切に答えられるかで評価。 無断遅刻・欠席は厳禁とする。				
履修上の注意事項等	史料講読は外国語科目と同じで、かならず予習をしてのぞむこと。わからない言葉は辞書をひき、内容を理解してのぞむこと。 予習をしないで初見で読めるほど甘くありません。				
テキスト	担当者がプリント配布				
参考書	男と女の近世史, 藪田貫, 青木書店, 1998				

科目名	史料講読Ⅳ（七）			期間	後期
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	漢文読解の応用				
到達目標	漢文読解の応用能力を身につける。漢文で書かれた本や石碑が、自分の力で読めるようになる。				
授業概要	明清中国あるいは朝鮮王朝の歴史文献を会読する予定。漢文読解と文献調査という、東洋史の研究に必要な二つの基礎的技術の習得をめざす。				
評価方法・基準	学力到達度確認、および平常時の授業への取り組みによる。				
履修上の注意事項等	テキストはこちらで準備して配布する。漢和辞典として、小川環樹等編『新字源』を購入し持参すること。2017年の改訂新版とそれ以前の旧版（古本なら安価）があるが、どちらを用いてもよい。				
テキスト					
参考書					

科目名	史料講読Ⅳ（八）			期間	後期
担当教員	宮本 亮一	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	中央・西南アジア史関係の史料（史料講読Ⅲ（八）の続き）				
到達目標	先行研究を理解し、史料を自分で扱えるようになる				
授業概要	シルクロードの交易商人として活動したソグド人は、教科書にも記されているほど有名で、近年多くの研究が行われています。この授業では、現在の中央アジア史研究をリードする第一人者であるエチエンヌ・ドゥ・ラ・ヴェシエールが、ソグド人の歴史についてまとめた研究書『ソグド商人の歴史』（英語版）を読み進め、そこに部分的に引用されている様々なソグド人関係の史料について掘り下げて検討します。また、最新の研究成果などについても、必要に応じて解説します。ただし、受講生の興味・関心によっては、講読文献を変更する可能性があります。				
評価方法・基準	授業への取り組み 100%（予習状況や理解度のほか、質問など積極的な参加姿勢が見られるかどうかを判断基準とします）				
履修上の注意事項等	テキスト等は担当教員がコピーを配布します				
テキスト					
参考書	Sogdian traders : a history, Etienne de la Vaissiere (tr. by James Ward), E. J. Brill, 2005				

科目名	史料講読Ⅳ（九）			期間	後期
担当教員	足立 広明	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	定評ある研究者の著書を精読する。				
到達目標	英語を学ぶのではなく、英語で歴史を学ぶことに慣れ、洋書文献を用いた研究の入り口に立つ。現在の先端的な研究の問題意識に触れる。				
授業概要	Leonora Neville, Byzantine Gender (Leeds, 2019) を読み進める。古代末期から中世にかけてのジェンダーの歴史をビザンツ帝国を中心に読み解いていく。西欧やイスラーム、十字軍の歴史も関係し、近現代のジェンダー観の問題点も浮かび上がらせる。毎回アトランダムに指名してテキストを順番に読み進めることが授業のベースとなるが、適時関連する歴史的背景にも触れる。				
評価方法・基準	平常点50%。到達度確認50%。平常点はよく予習し、大きな声で自信をもって訳文を読み上げ、説明できるかどうか、また指摘された間違いを理解して修正できるか、テストは正確な訳読かできるかどうかの評価のポイントになる。				
履修上の注意事項等	平常授業への積極的な関与を重視する。				
テキスト					
参考書					

科目名	史料講読Ⅳ（十）			期間	後期
担当教員	山口 育人	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	西洋近現代史理解のための文献・史料講読				
到達目標	西洋近現代史を理解するための英文文献および史料の読解力を確立する。				
授業概要	西洋近現代史の研究を進めるうえで必要となる、英語で書かれた基本的文献・史料を理解できるよう、テキストを和訳しながら読み進めることが授業の中心となる。また、教材で登場する重要な歴史事項に関連する史料を紹介してもらう。				
評価方法・基準	・平常点は、テキスト予習への取り組み度合いと読解の適切さで評価する。 ・学習到達度確認は、テキストの訳出の正確さを評価する。				
履修上の注意事項等	テキストの入手等については、初回授業で説明する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	史料講読Ⅳ（十二）			期間	後期
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	幕末・維新时期から大正初期にかけての重要史料の研究（Ⅱ）				
到達目標	入手した史料を正確に読みこなす力をつけるとともに、そこから得られた歴史像について明確に表現するスキルを身につける。				
授業概要	受講者各人が自らの卒論計画を考えながら関心のある史料を選び、その読み方や史料の背景などについて報告し、全体で討論する。				
評価方法・基準	各回の授業における報告や議論の発言内容などから総合的に評価する（30%）。期末に各自が選んだ任意の史料について、これを紹介するレポートの提出を求め評価する（70%）				
履修上の注意事項等	卒論執筆のための基礎的訓練と位置づけ、意欲的に取り組んでほしい。				
テキスト	担当者から資料を配付する				
参考書	適宜示す				

科目名	史料講読Ⅳ（十三）			期間	後期
担当教員	高橋 博子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	西洋現代史を理解するための文献・史料講読				
到達目標	米公文書等の翻訳・解説を行うことで、原典にあたる意義や時代背景を理解する。自身の問題意識に沿って史料収集、翻訳・解説を行い、卒業論文など、今後の調査に生かす。				
授業概要	本授業では、核兵器禁止条約などの文書を講読する。さらに受講者が関心のある英文文書を入手し、翻訳を行い、時代背景も報告する。				
評価方法・基準	辞書や関連情報を調査し、事前に準備したうえで授業に参加しているかを評価する（30%）。自分自身が関心ある資料を入手し、翻訳・解説レポートを提出すること（70%）。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本古代史の諸問題				
到達目標	日本古代史の研究書・論文などを読み解くことで、日本古代史に関する理解を深めるとともに研究方法を学び、卒業論文作成の基礎的な能力を身に付ける。				
授業概要	ゼミ形式で行い担当者の報告内容をふまえて出席者全員で討論を行い理解を深めます。 前期は大津透著『日本古代史を学ぶ』（岩波書店、2009年）のうち、「Ⅲ古代日本文化と東アジア世界—ジュネーブ大学講義—」をテキストに用い、章ごとに2人ずつ担当を割り当てます。当日はレジュメをもとに、内容要約・検討結果の報告（主として3回生）と、関連報告（主として4回生）を分担して行います。また、期末の数回は、1回に2、3人ずつ、4回生の卒論中間発表に充て、全員で課題を共有して検討・議論を行います。				
評価方法・基準	夏休みに古代史の定評のある論文を読解するレポートを1回課す予定です。その内容は後期の報告に生かしてもらいます。成績は、平常点（授業に対する積極性など）、授業における報告内容、レポート内容などに基づいて総合的に判断します。				
履修上の注意事項等	使用するテキストは現在品切れのため、適宜 PDF などで配布します。また e-Learning システムを併用します。 なお、史学演習Ⅰ（一）は、史学演習Ⅲ（一）、及び日本史演習Ⅰ（一）・日本史演習Ⅱ（一）と合同で授業を行います。				
テキスト					
参考書	律令制とはなにか（日本史リブレット）、大津透、山川出版社、2013 律令国家と隋唐文明（岩波新書新赤版1827）、大津透、岩波書店、2020 律令制研究入門（歴史学叢書）、大津透（編）、名著刊行会、2011				

科目名	史学演習Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本古代史の諸問題				
到達目標	日本古代史の研究書・論文などを読み解くことで、日本古代史に関する理解を深めるとともに研究方法を学び、卒業論文作成の基礎的な能力を身に付ける。				
授業概要	ゼミ形式で行い担当者の報告内容をふまえて出席者全員で討論を行い理解を深めます。 前期は大津透著『日本古代史を学ぶ』（岩波書店、2009年）のうち、「Ⅲ古代日本文化と東アジア世界—ジュネーブ大学講義—」をテキストに用い、章ごとに2人ずつ担当を割り当てます。当日はレジュメをもとに、内容要約・検討結果の報告（主として3回生）と、関連報告（主として4回生）を分担して行います。また、期末の数回は、1回に2、3人ずつ、4回生の卒論中間発表に充て、全員で課題を共有して検討・議論を行います。				
評価方法・基準	夏休みに古代史の定評のある論文を読解するレポートを1回課す予定です。その内容は後期の報告に生かしてもらいます。成績は、平常点（授業に対する積極性など）、授業における報告内容、レポート内容などに基づいて総合的に判断します。				
履修上の注意事項等	使用するテキストは現在品切れのため、適宜 PDF などで配布します。また e-Learning システムを併用します。 なお、史学演習Ⅰ（二）は、史学演習Ⅲ（二）、及び日本史演習Ⅰ（二）・日本史演習Ⅱ（二）と合同で授業を行います。				
テキスト					
参考書	律令制とはなにか（日本史リブレット）、大津透、山川出版社、2013 律令国家と隋唐文明（岩波新書新赤版1827）、大津透、岩波書店、2020 律令制研究入門（歴史学叢書）、大津透（編）、名著刊行会、2011				

科目名	史学演習Ⅰ（三）			期間	前期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	卒業論文作成の基礎力を育成する				
到達目標	研究論文を読み、その構成、立論のテクニックに学んで、自身の論文作成の基礎力育成の資源とすること。				
授業概要	研究論文を輪読し、その構成に学び、研究課題を析出する作業を前半に体験し、後半は自身の研究テーマについて報告し、学生、教員と議論していく。				
評価方法・基準	レポート①（テーマ：「天下人」とは何か、A4横書、1200字程度、1ページあたりの字数は自由設定） レポート②（テーマ：卒論構想、A4横書、1200字程度、1ページあたりの字数は自由設定） 2本のレポートの評価（80%）と報告会の充実度（20%）による。				
履修上の注意事項等	卒論制作は長丁場である。他科目の履修、資格取得、進路（就職）にかかる諸活動で多忙となることはわかっているので、中期的計画を立てて粘り強く研究調査を継続してほしい。 なお、史学演習Ⅰ（三）（四）は合同授業とする。3年生は史学演習Ⅰ（三）を登録、履修すること。 また卒論そのものは、史学演習Ⅰ～Ⅳの単位（Ⅰ・Ⅱの単位取得がⅢ・Ⅳ履修の条件）とは別に単位設定されている。混同しないようしっかり課題を解決すること。 オンライン授業になる場合は、ZOOM を利用する。詳細はポータルサイトを通じて連絡する。				
テキスト	テキスト資料を配布する。				
参考書					

科目名	史学演習 I (四)			期間	前期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	卒業論文作成の基礎力を育成する				
到達目標	研究論文を読み、その構成、立論のテクニックに学んで、自身の論文作成の基礎力育成の資源とすること。				
授業概要	研究論文を輪読し、その構成に学び、研究課題を析出する作業を前半に体験し、後半は自身の研究テーマについて報告し、学生、教員と議論していく。				
評価方法・基準	レポート①(テーマ:「天下人」とは何か、A4横書、1200字程度、1ページあたりの字数は自由設定) レポート②(テーマ:卒論構想、A4横書、1200字程度、1ページあたりの字数は自由設定) 2本のレポートの評価(80%)と報告会の充実度(20%)による。				
履修上の注意事項等	卒論制作は長丁場である。他科目の履修、資格取得、進路(就職)にかかる諸活動で多忙となることはわかっているため、中期的計画を立てて粘り強く研究調査を継続してほしい。 なお、史学演習 I (三) (四) は合同授業とする。3年生は史学演習 I (三) を登録、履修すること。 また卒論そのものは、史学演習 I ~ IV の単位 (I・II の単位取得が III・IV 履修の条件) とは別に単位設定されている。混同しないようしっかり課題を解決すること。 オンライン授業になる場合は、ZOOM を利用する。詳細はポータルサイトを通じて連絡する。				
テキスト	テキスト資料を配布する。				
参考書					

科目名	史学演習 I (五)			期間	前期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	卒論提出に向けて、近世史の諸問題を考える				
到達目標	卒論のテーマを絞り込んでいくとともに、研究史の整理を進めていく。				
授業概要	卒論を書くためには、自分が関心をもっていることを調べてきて、まとめるだけでは不十分で、先行研究を整理し、残された課題を発見していく、という研究史整理が不可欠である。3回生を終える頃には、研究史整理があらかた済んでいることを目指して各自報告をおこない、討論を通して皆でそれぞれの研究を支え合っていきたい。				
評価方法・基準	平素の受講態度(報告内容と討論への参加姿勢)と期末レポート				
履修上の注意事項等					
テキスト	授業中に指示				
参考書	授業中に指示				

科目名	史学演習 I (六)			期間	前期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	卒論提出に向けて、近世史の諸問題を考える				
到達目標	卒論のテーマを絞り込んでいくとともに、研究史の整理を進めていく。				
授業概要	卒論を書くためには、自分が関心をもっていることを調べてきて、まとめるだけでは不十分で、先行研究を整理し、残された課題を発見していく、という研究史整理が不可欠である。3回生を終える頃には、研究史整理があらかた済んでいることを目指して各自報告をおこない、討論を通して皆でそれぞれの研究を支え合っていきたい。				
評価方法・基準	平素の受講態度(報告内容と討論への参加姿勢)と期末レポート				
履修上の注意事項等					
テキスト	授業中に指示				
参考書	授業中に指示				

科目名	史学演習 I (七)			期間	前期
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	幕末・維新期から大正初期にかけての研究状況と課題の確認 (I)				
到達目標	研究論文を読みこなす力をつける。各テーマの研究状況と今後の課題について理解する。				
授業概要	まず膨大な研究成果へアクセスする方法を学ぶ。次いで幕末・維新期から大正初期にかけての重要な論文について、担当者を決めて報告を受け、討論して理解を深める。				
評価方法・基準	授業中の報告や議論の内容から総合的に評価する(30%)。期末にレポートの提出を求め評価する(70%)。				
履修上の注意事項等	卒論執筆の基礎的訓練と位置づけ、意欲的に取り組んでほしい。				
テキスト	担当者から資料を配付する				
参考書	適宜示す				

科目名	史学演習 I (八)			期間	前期
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本近代史上の重要課題についての研究—卒論の完成に向けて— (I)				
到達目標	先行研究と関連史料を確実に読み込む力をつけ、社会的意義に富み、質の高い卒論を完成させる。				
授業概要	卒論の完成に向けて、先行研究の調査、関連史料の収集などに遺漏がないか、相互の議論を通じて確認する。				
評価方法・基準	報告と議論の内容を総合的に評価する (30%)。夏休み期間中にレポートを作成する (70%)				
履修上の注意事項等	より質の高い卒業論文の完成に向けて意欲的に取り組んでほしい。				
テキスト	担当者から資料を配付する				
参考書	適宜示す				

科目名	史学演習 I (九)			期間	前期
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	「20世紀・21世紀の世界と日本」に関わる図書や学術雑誌論文を読む				
到達目標	先行研究に謙虚に学びつつ、自分なりの問いや切り口を発見する力を養う。また、4年次の卒業論文を見ずえて、学術論文の執筆スタイル・技法の習得を目指す。				
授業概要	履修者各自の関心にも配慮しつつ、図書の一部または学術雑誌論文を選定し、輪読・討議する。毎回の授業では発表担当者とコメントーターを割り当てる。発表担当者にはレジュメを作成・配布の上、発表してもらう。続いて、コメントーターからの発言をふまえて、全員で討議する。				
評価方法・基準	質疑への参加度30%、発表30%、学期末レポート40%を総合評価。「指定された様式・注意点にしたがっているか」「輪読物の内容を理解しているか」「導き出した問いの的確さ」が基準。				
履修上の注意事項等	特別な理由とそれを証明する文書のない欠席、事前連絡のない欠席については、成績評価上大きなマイナスとなるので、十分に注意されたい。				
テキスト	授業で取り上げる図書の一部または学術雑誌論文				
参考書	授業中に適宜紹介する				

科目名	史学演習 I (十)			期間	前期
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	「20世紀・21世紀の世界と日本」に関わる図書や学術雑誌論文を読む				
到達目標	先行研究に謙虚に学びつつ、自分なりの問いや切り口を発見する力を養う。また、4年次の卒業論文を見ずえて、学術論文の執筆スタイル・技法の習得を目指す。				
授業概要	履修者各自の関心にも配慮しつつ、図書の一部または学術雑誌論文を選定し、輪読・討議する。毎回の授業では発表担当者とコメントーターを割り当てる。発表担当者にはレジュメを作成・配布の上、発表してもらう。続いて、コメントーターからの発言をふまえて、全員で討議する。				
評価方法・基準	質疑への参加度30%、発表30%、学期末レポート40%を総合評価。「指定された様式・注意点にしたがっているか」「輪読物の内容を理解しているか」「導き出した問いの的確さ」が基準。				
履修上の注意事項等	特別な理由とそれを証明する文書のない欠席、事前連絡のない欠席については、成績評価上大きなマイナスとなるので、十分に注意されたい。				
テキスト	授業で取り上げる図書の一部または学術雑誌論文				
参考書	授業中に適宜紹介する				

科目名	史学演習 I (十一)			期間	前期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本中世・近世文化史の諸問題				
到達目標	日本中世・近世文化史の諸問題を理解し、関心のあるテーマを見つけだし研究していくための専門的な能力を身につける。				
授業概要	①最初に各講時担当の報告者を決める。1講時に4人。通年で受講生1人が4回報告を行う。②報告者は報告したいテーマを見つけだし、そのテーマにかかわる報告を行う。報告をする際にはレジュメ資料も作成、受講生全員に配布。③報告を聞いた受講生と教員との質疑応答を繰り返すなかで報告内容をより深めていくことをめざす。				
評価方法・基準	平常点 (50%) (講義中の質疑応答、積極的な態度を重視する) と報告内容 (50%) (報告内容の充実度を重視する) によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	なし				



科目名	史学演習 I (十二)			期間	前期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本中世・近世文化史の諸問題				
到達目標	日本中世・近世文化史の諸問題を理解し、関心のあるテーマを見つけだし研究していくための専門的な能力を身につける。				
授業概要	①最初に各講時担当の報告者を決める。1講時に4人。通年で受講生1人が4回報告を行う。②報告者は報告したいテーマを見つけだし、そのテーマにかかわる報告を行う。報告をする際にはレジュメ資料も作成、受講生全員に配布。③報告を聞いた受講生と教員との質疑応答を繰り返すなかで報告内容をより深めていくことをめざす。				
評価方法・基準	平常点 (50%) (講義中の質疑応答、積極的な態度を重視する) と報告内容 (50%) (報告内容の充実度を重視する) によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	史学演習 I (十三)			期間	前期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本近世・近代文化史の研究手法を学ぶ				
到達目標	日本近世・近代文化史に関する先行研究を理解し、問題関心を深めるとともに、卒業論文執筆にむけての準備をする。				
授業概要	第1回～15回：『岩波講座日本歴史』などから自分が卒論で取り上げたいテーマに近い論文を指定し、受講生全員が予習をしたうえで受講生が発表し、全員が討論する。第16回～30回：担当日を決めて、それぞれが関心のあるテーマについてレジュメを作成し発表。登録人数により変更する場合がある。また、特に前期後半は受講者の関心によりテーマを変更する可能性がある。				
評価方法・基準	講義における報告内容 (50%) 報告の充実度を重視する 討論内容 (30%) …授業参加への積極性と討論参加への積極性、その内容で評価する レポート (20%) …内容の充実度に加え、演習での討論をふまえて内容が改善されているかで評価する				
履修上の注意事項等	この1年間で論文とは如何なるものかを理解し、次年度の卒業論文執筆にむけて、①研究課題の絞り込み、②研究の目的・意義、③研究にあたっての方法をしっかりと確定しておくこと。それができていないと4年次になって卒業論文執筆に取りかかれない。最初の講義の際、自身の研究テーマと、それについての先行研究の文献目録 (A4・横書き) の提出を求めるので、必ず用意しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書	岩波講座 日本歴史 第15巻 近現代I, 岩波書店, 2014 歴史学で卒業論文を書くために, 村上紀夫, 創元社, 2019				

科目名	史学演習 I (十四)			期間	前期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本近世・近代文化史の研究手法を学ぶ				
到達目標	日本近世・近代文化史に関する先行研究を理解し、問題関心を深めるとともに、卒業論文執筆にむけての準備をする。				
授業概要	第1回～15回：『岩波講座日本歴史』などから自分が卒論で取り上げたいテーマに近い論文を指定し、受講生全員が予習をしたうえで受講生が発表し、全員が討論する。第1回～15回：担当日を決めて、それぞれが関心のあるテーマについてレジュメを作成し発表。登録人数により変更する場合がある。また、特に前期後半は受講者の関心によりテーマを変更する可能性がある。				
評価方法・基準	講義における報告内容 (50%) 報告の充実度を重視する 討論内容 (30%) …授業参加への積極性と討論参加への積極性、その内容で評価する レポート (20%) …内容の充実度に加え、演習での討論をふまえて内容が改善されているかで評価する				
履修上の注意事項等	この1年間で論文とは如何なるものかを理解し、次年度の卒業論文執筆にむけて、①研究課題の絞り込み、②研究の目的・意義、③研究にあたっての方法をしっかりと確定しておくこと。それができていないと4年次になって卒業論文執筆に取りかかれない。最初の講義の際、自身の研究テーマと、それについての先行研究の文献目録 (A4・横書き) の提出を求めるので、必ず用意しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書	岩波講座 日本歴史 第15巻 近現代I, 岩波書店, 2014 歴史学で卒業論文を書くために, 村上紀夫, 創元社, 2019				

科目名	史学演習 I (十五)			期間	前期
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	東洋史学演習				
到達目標	東洋史の文献を、自分の関心にしながら網羅的に収集・読解し、卒業論文作成の基礎を築く。				
授業概要	卒業論文の執筆を見すえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。				
評価方法・基準	発表内容、および平時の授業への取り組みによる。				
履修上の注意事項等	報告の分担は初回の授業で行うので、必ず出席すること。				
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習 I (十六)			期間	前期
担当教員	宮本 亮一	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	中央・西南アジア史の諸問題				
到達目標	卒業論文で取り組むテーマ・問題を見つけ、問題解決のために必要な史料・文献を収集し、それらの内容を理解する				
授業概要	以下の3つの作業を中心に行い、上記の目標の達成を目指します： ①受講者による研究発表 ②研究発表を踏まえた議論 ③関連する史料・文献の講読 関連する史料・文献については、受講者の希望、語学力などを考慮に入れて決定します。				
評価方法・基準	発表内容、授業への取り組み 100%				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習 I (十八)			期間	前期
担当教員	足立 広明	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	西洋古代中世史の研究				
到達目標	文献収集とその読解の基本を学ぶ。各人の自由テーマで研究を深める。				
授業概要	西洋古代中世史を学ぶ人のための演習。範囲は古代オリエントからルネサンス。オスマン朝初期までとする。三回生の目標は、①必要な文献にアクセスできる、②その文献を読みこんで人前で発表できる、③その発表を文章化できる、以上三つの力を身につけることである。				
評価方法・基準	発表・レポートと、授業関与度(積極的な質疑応答、コメント作成)により総合的に判断する。発表とレポートは先行研究や史料をよく取り入れているか、論理的な構成でわかりやすくまとめられたかが基準となる。				
履修上の注意事項等	自身の発表だけでなく、他の人の発表に耳を傾け、積極的に質疑応答できることも大きな評価ポイントである。				
テキスト	とくに用いない。				
参考書	適時指示する。				

科目名	史学演習 I (十九)			期間	前期
担当教員	山口 育人	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	西洋近現代史の諸問題				
到達目標	西洋近現代史の諸問題について、基礎的な文献を理解し、まとめることができる				
授業概要	授業では主に次の学習活動を行う。 西洋近現代史(主な対象時期は15世紀末から20世紀)にかかわる諸問題について、①基本文献を読み、まとめる ②関連文献を見つけ、それらを書評する				
評価方法・基準	・平常点については、報告内容の適切さと質疑応答への参加度合で評価する。 ・レポートは、文献を的確に調査し、その内容を論理的にまとめているかを評価する。				
履修上の注意事項等	・テキストの入手については第1回目の授業時に説明する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	史学演習 I (二十)			期間	前期
担当教員	高橋 博子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	西洋現代史をめぐる諸問題				
到達目標	卒業論文作成のための基本的な計画と構想を作る。				
授業概要	卒業論文作成のためには、作成者の問題意識・視点・構想、先行研究の把握、文献・史料収集、文献・史料分析、そして、先行研究を適切に参照し、適切に引用しつつ、論文を完成させる総合的な力が必要である。また、ほかの受講者の報告や意見を聞いたうえで、建設的な議論を行うことは、論文の質を高めてゆくことにつながる。本演習はこうした卒業論文作成のための基本的な計画と構想を作ることを目的とする。				
評価方法・基準	研究構想と文献・論文リストについてまとめたレポートによって評価する(70%)。演習での報告とほかの報告者に適切にコメントできるかどうかも評価する(30%)				
履修上の注意事項等					
テキスト	歴史学で卒業論文を書くために、村上紀夫、創元社、2019 公文書は誰のものか? : 公文書管理について考える入門書、榎澤幸広、現代人文社、2019 情報自由法で社会を変える、ジョン・ミッチェル、岩波書店、2023				
参考書					

科目名	史学演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本古代史の諸問題				
到達目標	日本古代史の研究書・論文などを読み解くことで、日本古代史に関する理解を深めるとともに研究方法を学び、卒業論文作成の基礎的な能力を身に付ける。				
授業概要	ゼミ形式で行い担当者の報告内容に対して出席者全員で討論を行い理解を深めます。前半は、日本古代史の定評のある論文を読みます。1回に2本ずつ、事前に担当を割り当て、レジュメをもとに、内容の要約・検討結果の報告を行います。その後、3回生向けの卒論の書き方、4回生の卒論要旨発表を行い、全員で課題を共有して検討・議論を行います。最後の数回は、3回生の卒論構想発表を行う予定です。				
評価方法・基準	成績は、平常点（授業に対する積極性など）、授業における報告内容、レポート内容などに基づいて総合的に判断します。なお、報告が回りきらなかった場合は、レポートの提出で報告に替えます。				
履修上の注意事項等	論文報告の1回目は夏休み課題で扱った論文を報告してください。2回目に夏休み課題リスト以外の論文を報告する場合は、前週までにPDFを配布してください。史学演習Ⅱ（一）は、史学演習Ⅳ（一）、及び日本史演習Ⅰ（一）・Ⅱ（一）と合同で実施します。				
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本古代史の諸問題				
到達目標	日本古代史の研究書・論文などを読み解くことで、日本古代史に関する理解を深めるとともに研究方法を学び、卒業論文作成の基礎的な能力を身に付ける。				
授業概要	ゼミ形式で行い担当者の報告内容に対して出席者全員で討論を行い理解を深めます。前半は、日本古代史の定評のある論文を読みます。1回に2本ずつ、事前に担当を割り当て、レジュメをもとに、内容の要約・検討結果の報告を行います。その後、3回生向けの卒論の書き方、4回生の卒論要旨発表を行い、全員で課題を共有して検討・議論を行います。最後の数回は、3回生の卒論構想発表を行う予定です。				
評価方法・基準	成績は、平常点（授業に対する積極性など）、授業における報告内容、レポート内容などに基づいて総合的に判断します。なお、報告が回りきらなかった場合は、レポートの提出で報告に替えます。				
履修上の注意事項等	論文報告の1回目は夏休み課題で扱った論文を報告してください。2回目に夏休み課題リスト以外の論文を報告する場合は、前週までにPDFを配布してください。史学演習Ⅱ（二）は、史学演習Ⅳ（二）、及び日本史演習Ⅰ（二）・Ⅱ（二）と合同で実施します。				
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	卒業論文作成の準備を整える				
到達目標	卒業論文執筆に十分な史料、参考文献を整備し、卒業論文の骨格を確かなものにする。				
授業概要	論文作成にかかる具体的な準備作業についての講義と、学生による準備報告、相互討論から構成される。				
評価方法・基準	構想報告、準備報告の充実度（レジュメ、プレゼンにより評価）と、期末レポートによる。期末レポートは、卒論の構想について、A4横書、1600字程度（1ページあたりの字数設定は自由）にまとめる内容とする。授業最終日に提出すること。				
履修上の注意事項等	卒論制作は長丁場である。他科目の履修、資格取得、進路（就職）にかかる諸活動で多忙となることはわかっているため、中期的計画を立てて研究調査を継続すること。また卒論そのものは、史学演習Ⅲ・Ⅳの単位とは別に単位設定されているので、混同しないようしっかり課題を解決すること。積極的な討論への参加を望みたい。史学演習Ⅱ（三）（四）は合同授業とする。3年生は史学演習Ⅱ（三）を登録、履修すること。オンライン授業になる場合は、ZOOMを利用する。詳細はポータルサイトを通じて連絡する。				
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	卒業論文作成の準備を整える				
到達目標	卒業論文執筆に十分な史料、参考文献を整備し、卒業論文の骨格を確かなものにする。				
授業概要	論文作成にかかる具体的な準備作業についての講義と、学生による準備報告、相互討論から構成される。				
評価方法・基準	構想報告、準備報告の充実度（レジュメ、プレゼンにより評価）と、期末レポートによる。期末レポートは、卒論の構想について、A4横書、1600字程度（1ページあたりの字数設定は自由）にまとめる内容とする。授業最終日に提出すること。				
履修上の注意事項等	卒論制作は長丁場である。他科目の履修、資格取得、進路（就職）にかかる諸活動で多忙となることはわかっているため、中期的計画を立てて研究調査を継続すること。また卒論そのものは、史学演習Ⅲ・Ⅳの単位とは別に単位設定されているので、混同しないようしっかり課題を解決すること。積極的な討論への参加を望みたい。史学演習Ⅱ（三）（四）は合同授業とする。3年生は史学演習Ⅱ（三）を登録、履修すること。オンライン授業になる場合は、ZOOMを利用する。詳細はポータルサイトを通じて連絡する。				
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	卒論提出に向けて、近世史の諸問題を考える				
到達目標	卒論のテーマを絞り込んでいくとともに、研究史の整理を進めていく。				
授業概要	卒論を書くためには、自分が関心をもっていることを調べてきて、まとめるだけでは不十分で、先行研究を整理し、残された課題を発見していく、という研究史整理が不可欠である。3回生を終える頃には、研究史整理があらかた済んでいることを目指して各自報告をおこない、討論を通して皆でそれぞれの研究を支え合っていきたい。				
評価方法・基準	平素の受講態度（報告内容と討論への参加姿勢）と期末レポート				
履修上の注意事項等					
テキスト	授業中に指示				
参考書	授業中に指示				

科目名	史学演習Ⅱ（六）			期間	後期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	卒論提出に向けて、近世史の諸問題を考える				
到達目標	卒論のテーマを絞り込んでいくとともに、研究史の整理を進めていく。				
授業概要	卒論を書くためには、自分が関心をもっていることを調べてきて、まとめるだけでは不十分で、先行研究を整理し、残された課題を発見していく、という研究史整理が不可欠である。3回生を終える頃には、研究史整理があらかた済んでいることを目指して各自報告をおこない、討論を通して皆でそれぞれの研究を支え合っていきたい。				
評価方法・基準	平素の受講態度（報告内容と討論への参加姿勢）と期末レポート				
履修上の注意事項等					
テキスト	授業中に指示				
参考書	授業中に指示				

科目名	史学演習Ⅱ（七）			期間	後期
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	幕末・維新时期から大正初期にかけての研究状況と課題の確認（Ⅱ）				
到達目標	研究論文を読みこなす力をつける。各テーマの研究状況と今後の課題について理解する。				
授業概要	幕末・維新时期から大正初期にかけての重要な論文について、担当者を決めて報告を受け、討論して理解を深める。				
評価方法・基準	授業中の報告や議論の内容から総合的に評価する（30%）。期末にレポートの提出を求め評価する（70%）。				
履修上の注意事項等	卒論執筆の基礎的訓練と位置づけ、意欲的に取り組んでほしい。				
テキスト	担当者から資料を配付する				
参考書	適宜示す				

科目名	史学演習Ⅱ（八）			期間	後期
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本近代史上の重要課題についての研究—卒論の完成に向けて—（Ⅱ）				
到達目標	先行研究と関連史料を確実に読み込む力をつけ、社会的意義に富み、質の高い卒論を完成させる。				
授業概要	各自から卒論の目次を示し、構成に問題がないか、相互の議論を通じて確認し、互いに協力合せて卒論の完成をめざす。				
評価方法・基準	報告と議論の内容を総合的に評価する（100%）				
履修上の注意事項等	より質の高い卒業論文の完成に向けて意欲的に取り組んでほしい。				
テキスト	担当者から資料を配付する				
参考書	適宜示す				

科目名	史学演習Ⅱ（九）			期間	後期
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	「20世紀・21世紀の世界と日本」に関わる図書や学術雑誌論文を読む				
到達目標	先行研究に謙虚に学びつつ、自分なりの問いや切り口を発見する力を養う。また、4年次の卒業論文を見ずえて、学術論文の執筆スタイル・技法の習得を目指す。				
授業概要	履修者各自の関心にも配慮しつつ、図書の一部または学術雑誌論文を選定し、輪読・討議する。毎回の授業では発表担当者とコメントーターを割り当てる。発表担当者にはレジュメを作成・配布の上、発表してもらう。続いて、コメントーターからの発言をふまえて、全員で討議する。				
評価方法・基準	質疑への参加度30%、発表30%、学期末レポート40%を総合評価。「指定された様式・注意点にしたがっているか」「輪読物の内容を理解しているか」「導き出した問いの的確さ」が基準。				
履修上の注意事項等	特別な理由とそれを証明する文書のない欠席、事前連絡のない欠席については、成績評価上大きなマイナスとなるので、十分に注意されたい。				
テキスト	授業で取り上げる図書の一部または学術雑誌論文				
参考書	授業中に適宜紹介する				

科目名	史学演習Ⅱ（十）			期間	後期
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	「20世紀・21世紀の世界と日本」に関わる図書や学術雑誌論文を読む				
到達目標	先行研究に謙虚に学びつつ、自分なりの問いや切り口を発見する力を養う。また、4年次の卒業論文を見ずえて、学術論文の執筆スタイル・技法の習得を目指す。				
授業概要	履修者各自の関心にも配慮しつつ、図書の一部または学術雑誌論文を選定し、輪読・討議する。毎回の授業では発表担当者とコメントーターを割り当てる。発表担当者にはレジュメを作成・配布の上、発表してもらう。続いて、コメントーターからの発言をふまえて、全員で討議する。				
評価方法・基準	質疑への参加度30%、発表30%、学期末レポート40%を総合評価。「指定された様式・注意点にしたがっているか」「輪読物の内容を理解しているか」「導き出した問いの的確さ」が基準。				
履修上の注意事項等	特別な理由とそれを証明する文書のない欠席、事前連絡のない欠席については、成績評価上大きなマイナスとなるので、十分に注意されたい。				
テキスト	授業で取り上げる図書の一部または学術雑誌論文				
参考書	授業中に適宜紹介する				

科目名	史学演習Ⅱ（十一）			期間	後期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本中世・近世文化史の諸問題				
到達目標	日本中世・近世文化史の諸問題を理解し、関心のあるテーマを見つけだし研究していくための専門的な能力を身につける。				
授業概要	①最初に各講時担当の報告者を決める。1講時に4人。通年で受講生1人が4回報告を行う。②報告者は報告したいテーマを見つけだし、そのテーマにかかわる報告を行う。報告をする際にはレジュメ資料も作成、受講生全員に配布。③報告を聞いた受講生と教員との質疑応答を繰り返すなかで報告内容をより深めていくことをめざす。				
評価方法・基準	平常点（50%）（講義中の質疑応答、積極的な態度を重視する）と報告内容（50%）（報告内容の充実度を重視する）によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	史学演習Ⅱ（十二）			期間	後期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本中世・近世文化史の諸問題				
到達目標	日本中世・近世文化史の諸問題を理解し、関心のあるテーマを見つけだし研究していくための専門的な能力を身につける。				
授業概要	①最初に各講時担当の報告者を決める。1講時に4人。通年で受講生1人が4回報告を行う。②報告者は報告したいテーマを見つけだし、そのテーマにかかわる報告を行う。報告をする際にはレジュメ資料も作成、受講生全員に配布。③報告を聞いた受講生と教員との質疑応答を繰り返すなかで報告内容をより深めていくことをめざす。				
評価方法・基準	平常点（50%）（講義中の質疑応答、積極的な態度を重視する）と報告内容（50%）（報告内容の充実度を重視する）によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	史学演習Ⅱ（十三）			期間	後期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本近世・近代文化史の研究手法を学ぶ				
到達目標	日本近世・近代文化史に関する先行研究を理解し、問題関心を深めるとともに、卒業論文執筆にむけての準備をする。				
授業概要	担当日を決めて、それぞれが関心のあるテーマについてレジュメを作成し発表。登録人数により変更する場合がある。				
評価方法・基準	講義における報告内容（50％）報告の充実度を重視する 討論内容（30％）…授業参加への積極性と討論参加への積極性、その内容で評価する レポート（20％）…内容の充実度に加え、演習での討論をふまえて内容が改善されているかで評価する				
履修上の注意事項等	この1年間で論文とは如何なるものかを理解し、次年度の卒業論文執筆にむけて、①研究課題の絞り込み、②研究の目的・意義、③研究にあたっての方法をしっかりと確定しておくこと。夏期休暇中に卒業論文を念頭において執筆したレポートの提出を求める。当然、要求される水準それなりのものであることは覚悟しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書	岩波講座 日本歴史 第15巻 近現代Ⅰ, 岩波書店, 2014 歴史学で卒業論文を書くために, 村上紀夫, 創元社, 2019				

科目名	史学演習Ⅱ（十四）			期間	後期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本近世・近代文化史の研究手法を学ぶ				
到達目標	日本近世・近代文化史に関する先行研究を理解し、問題関心を深めるとともに、卒業論文執筆にむけての準備をする。				
授業概要	担当日を決めて、それぞれが関心のあるテーマについてレジュメを作成し発表。登録人数により変更する場合がある。				
評価方法・基準	講義における報告内容（50％）報告の充実度を重視する 討論内容（30％）…授業参加への積極性と討論参加への積極性、その内容で評価する レポート（20％）…内容の充実度に加え、演習での討論をふまえて内容が改善されているかで評価する				
履修上の注意事項等	この1年間で論文とは如何なるものかを理解し、次年度の卒業論文執筆にむけて、①研究課題の絞り込み、②研究の目的・意義、③研究にあたっての方法をしっかりと確定しておくこと。夏期休暇中に卒業論文を念頭において執筆したレポートの提出を求める。当然、要求される水準それなりのものであることは覚悟しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書	岩波講座 日本歴史 第15巻 近現代Ⅰ, 岩波書店, 2014 歴史学で卒業論文を書くために, 村上紀夫, 創元社, 2019				

科目名	史学演習Ⅱ（十五）			期間	後期
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	東洋史学演習				
到達目標	東洋史の文献を、自分の関心にしがって網羅的に収集・読解し、卒業論文作成の基礎を築く。				
授業概要	卒業論文の執筆を見ずえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。				
評価方法・基準	発表内容、および平時授業への取り組みによる。				
履修上の注意事項等	報告の分担は初回の授業で行うので、必ず出席すること。				
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習Ⅱ（十六）			期間	後期
担当教員	宮本 亮一	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	中央・西南アジア史の諸問題				
到達目標	卒業論文で取り組むテーマ・問題を見つけ、問題解決のために必要な史料・文献を収集し、それらの内容を理解する				
授業概要	以下の3つの作業を中心に行い、上記の目標の達成を目指します： ①受講者による研究発表 ②研究発表を踏まえた議論 ③関連する史料・文献の講読 関連する史料・文献については、受講者の希望、語学力などを考慮に入れて決定します。				
評価方法・基準	発表内容、授業への取り組み 100%				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習Ⅱ（十八）			期間	後期
担当教員	足立 広明	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	西洋古代中世史の研究				
到達目標	次年度の卒論に向けて各人の自由テーマで研究を深める。				
授業概要	西洋古代中世史を学ぶ人のための演習。範囲は古代オリエントからルネサンス。オスマン朝初期までとする。三回生の目標は、①必要な文献にアクセスできる、②その文献を読みこんで人前で発表できる、③その発表を文章化できる、以上三つの力を身につけることである。				
評価方法・基準	発表・レポートと、授業関与度（積極的な質疑応答、コメント作成）により総合的に判断する。発表とレポートは先行研究や史料をよく取り入れているか、論理的な構成でわかりやすくまとめられたかが基準となる。				
履修上の注意事項等	自身の発表だけでなく、他の人の発表に耳を傾け、積極的に質疑応答できることも大きな評価ポイントである。				
テキスト	とくに用いない。				
参考書	適時指示する。				

科目名	史学演習Ⅱ（十九）			期間	後期
担当教員	山口 育人	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	西洋近現代史の諸問題				
到達目標	西洋近現代史の諸問題に関わる研究テーマを設定し、プレゼンテーション・レポートによってそのテーマについて報告できる。				
授業概要	授業では主に、次の学習活動を行う。 西洋近現代史（主な対象時期は15世紀末から20世紀）にかかわる諸問題について、調査・研究するテーマを設定し、報告する。				
評価方法・基準	・平常点については、報告内容の適切さと質疑応答への参加度合で評価する。 ・レポートは、文献を的確に集め、それらの内容を論理的にまとめているかを評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書					

科目名	史学演習Ⅱ（二十）			期間	後期
担当教員	高橋 博子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	西洋現代史をめぐる諸問題				
到達目標	卒業論文作成のための基本的な計画と構想を作る。				
授業概要	卒業論文作成のためには、作成者の問題意識・視点・構想、先行研究の把握、文献・史料収集、文献・史料分析、そして、先行研究を適切に参照し、適切に引用しつつ、論文を完成させる総合的な能力が必要である。また、ほかの受講者の報告や意見を聞いたうえで、建設的な議論を行うことは、論文の質を高めてゆくことにつながる。本演習はこうした卒業論文作成のための基本的な計画と構想を作ることを目的とする。				
評価方法・基準	研究構想と文献・論文リストについてまとめたレポートによって評価する（70%）。演習での報告とほかの報告者に適切にコメントできるかどうかも評価する（30%）				
履修上の注意事項等					
テキスト	歴史学で卒業論文を書くために、村上紀夫、創元社、2019 公文書は誰のものか？：公文書管理について考える入門書、榎澤幸広、現代人文社、2019				
参考書					

科目名	史学演習Ⅲ（一）			期間	前期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本古代史の諸問題				
到達目標	日本古代史の研究書・論文などを読み解くことで、日本古代史に関する理解を深めるとともに研究方法を学び、卒業論文作成の基礎的な能力を身に付ける。				
授業概要	ゼミ形式で行い担当者の報告内容をふまえて出席者全員で討論を行い理解を深めます。 前期は大津透著『日本古代史を学ぶ』（岩波書店、2009年）のうち、「Ⅲ古代日本文化と東アジア世界—ジュネーヴ大学講義—」をテキストに用い、章ごとに2人ずつ担当を割り当てます。当日はレジュメをもとに、内容要約・検討結果の報告（主として3回生）と、関連報告（主として4回生）を分担して行います。また、期末の数回は、1回に2、3人ずつ、4回生の卒論中間発表に充て、全員で課題を共有して検討・議論を行います。				
評価方法・基準	夏休みに古代史の定評のある論文を読解するレポートを1回課す予定です。その内容は後期の報告に生かしてもらいます。成績は、平常点（授業に対する積極性など）、授業における報告内容、レポート内容などに基づいて総合的に判断します。				
履修上の注意事項等	使用するテキストは現在品切れのため、適宜PDFなどで配布します。また e-Learning システムを併用します。 なお、史学演習Ⅲ（一）は、史学演習Ⅰ（一）、及び日本史演習Ⅰ（一）・日本史演習Ⅱ（一）と合同で授業を行います。				
テキスト					
参考書	律令制とはなにか（日本史リブレット）、大津透、山川出版社、2013 律令国家と隋唐文明（岩波新書新赤版1827）、大津透、岩波書店、2020 律令制研究入門（歴史学叢書）、大津透（編）、名著刊行会、2011				

科目名	史学演習Ⅲ（二）			期間	前期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本古代史の諸問題				
到達目標	日本古代史の研究書・論文などを読み解くことで、日本古代史に関する理解を深めるとともに研究方法を学び、卒業論文作成の基礎的な能力を身に付ける。				
授業概要	ゼミ形式で行い担当者の報告内容をふまえて出席者全員で討論を行い理解を深めます。 前期は大津透著『日本古代史を学ぶ』（岩波書店、2009年）のうち、「Ⅲ古代日本文化と東アジア世界—ジュネーブ大学講義—」をテキストに用い、章ごとに2人ずつ担当を割り当てます。当日はレジュメをもとに、内容要約・検討結果の報告（主として3回生）と、関連報告（主として4回生）を分担して行います。また、期末の数回は、1回に2、3人ずつ、4回生の卒論中間発表に充て、全員で課題を共有して検討・議論を行います。				
評価方法・基準	夏休みに古代史の定評のある論文を読解するレポートを1回課す予定です。その内容は後期の報告に生かしてもらいます。成績は、平常点（授業に対する積極性など）、授業における報告内容、レポート内容などに基づいて総合的に判断します。				
履修上の注意事項等	使用するテキストは現在品切れのため、適宜 PDF などで配布します。また e-Learning システムを併用します。 なお、史学演習Ⅲ（二）は、史学演習Ⅰ（二）、及び日本史演習Ⅰ（二）・日本史演習Ⅱ（二）と合同で授業を行います。				
テキスト					
参考書	律令制とはなにか（日本史リブレット）、大津透、山川出版社、2013 律令国家と隋唐文明（岩波新書新赤版1827）、大津透、岩波書店、2020 律令制研究入門（歴史学叢書）、大津透（編）、名著刊行会、2011				

科目名	史学演習Ⅲ（三）			期間	前期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文を作成する				
到達目標	個別研究テーマを設定し、史学演習Ⅰ・Ⅱの成果と課題に基づき、スタンダードな歴史研究の手法に則り論文を作成していく。				
授業概要	準備報告と質疑、討論を重ねながら、研究の質、精度を上げてゆく。準備不足の学生には2回目の報告を求める。				
評価方法・基準	後期、史学演習Ⅳにむけた課題の析出をテーマとする、1000字程度のレポート（A4横書、1ページあたりの字数設定は自由）、および準備報告の充実度による。				
履修上の注意事項等	卒論制作は長丁場である。他科目の履修、資格取得、進路（就職）にかかる諸活動で多忙となることはわかっているため、中期的計画をたてて粘り強く研究調査を継続してほしい。なお、史学演習Ⅲ（三）（四）は合同授業とする。4年生は（四）を登録、履修すること。また卒論そのものは、史学演習Ⅲ・Ⅳの単位とは別に単位設定されているので、混同しないようしっかりと課題を解決してください。 オンライン授業になる場合は、ZOOMを利用する。詳細はポータルサイトを通じて連絡する。				
テキスト	特に使用しない				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	史学演習Ⅲ（四）			期間	前期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文を作成する				
到達目標	個別研究テーマを設定し、史学演習Ⅰ・Ⅱの成果と課題に基づき、スタンダードな歴史研究の手法に則り論文を作成していく。				
授業概要	準備報告と質疑、討論を重ねながら、研究の質、精度を上げてゆく。準備不足の学生には2回目の報告を求める。				
評価方法・基準	後期、史学演習Ⅳにむけた課題の析出をテーマとする、1000字程度のレポート（A4横書、1ページあたりの字数設定は自由）、および準備報告の充実度による。				
履修上の注意事項等	卒論制作は長丁場である。他科目の履修、資格取得、進路（就職）にかかる諸活動で多忙となることはわかっているため、中期的計画をたてて粘り強く研究調査を継続してほしい。なお、史学演習Ⅲ（三）（四）は合同授業とする。4年生は（四）を登録、履修すること。また卒論そのものは、史学演習Ⅲ・Ⅳの単位とは別に単位設定されているので、混同しないようしっかりと課題を解決してください。 オンライン授業になる場合は、ZOOMを利用する。詳細はポータルサイトを通じて連絡する。				
テキスト	特に使用しない				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	史学演習Ⅲ（五）			期間	前期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒論の提出に向け、具体的内容を詰める				
到達目標	具体的な史料分析を精緻化させ、卒論を仕上げる。				
授業概要	3回生の間におおよそ整理した研究史上の課題をもとに、今度はその課題に応えるための史料収集と分析にあたる。その分析内容を各自報告し、討論をふまえて、よりいい卒論に仕上がるよう、皆で支え合っていきたい。				
評価方法・基準	平素の受講態度（報告内容と討論への参加姿勢）と期末レポート				
履修上の注意事項等					
テキスト	授業中に指示				
参考書	授業中に指示				



科目名	史学演習Ⅲ（六）			期間	前期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒論の提出に向け、具体的内容を詰める				
到達目標	具体的な史料分析を精緻化させ、卒論を仕上げる。				
授業概要	3回生の間におおよそ整理した研究史上の課題をもとに、今度はその課題に応えるための史料収集と分析にあたる。その分析内容を各自報告し、討論をふまえて、よりいい卒論に仕上がるよう、皆で支え合っていきたい。				
評価方法・基準	平素の受講態度（報告内容と討論への参加姿勢）と期末レポート				
履修上の注意事項等					
テキスト	授業中に指示				
参考書	授業中に指示				

科目名	史学演習Ⅲ（七）			期間	前期
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	4
テーマ	幕末・維新时期から大正初期にかけての研究状況と課題の確認（I）				
到達目標	研究論文を読みこなす力をつける。各テーマの研究状況と今後の課題について理解する。				
授業概要	まず膨大な研究成果へアクセスする方法を学ぶ。次いで幕末・維新时期から大正初期にかけての重要な論文について、担当者を決めて報告を受け、討論して理解を深める。				
評価方法・基準	授業中の報告や議論の内容から総合的に評価する（30%）。期末にレポートの提出を求め評価する（70%）。				
履修上の注意事項等	卒論執筆の基礎的訓練と位置づけ、意欲的に取り組んでほしい。				
テキスト	担当者から資料を配付する				
参考書	適宜示す				

科目名	史学演習Ⅲ（八）			期間	前期
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本近代史上の重要課題についての研究－卒論の完成に向けて－（I）				
到達目標	先行研究と関連史料を確実に読み込む力をつけ、社会的意義に富み、質の高い卒論を完成させる。				
授業概要	卒論の完成に向けて、先行研究の調査、関連史料の収集などに遺漏がないか、相互の議論を通じて確認する。				
評価方法・基準	報告と議論の内容を総合的に評価する（30%）。夏休み期間中にレポートを作成する（70%）				
履修上の注意事項等	より質の高い卒業論文の完成に向けて意欲的に取り組んでほしい。				
テキスト	担当者から資料を配付する				
参考書	適宜示す				

科目名	史学演習Ⅲ（九）			期間	前期
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	4
テーマ	学びの集大成としての卒業論文に向けた調査・研究発表				
到達目標	先行研究の理解、史料の調査・収集を進めつつ、卒業論文題目の提出に向けて、目を向ける年代・時期、手がけるテーマ、探求したい問いを明確にしぼりこむ。				
授業概要	日本現代史（またはアジア・太平洋現代史、日本と諸外国の関係史・比較史）を専門的に学んできた履修者各自が、対象とする《時期》《題材》《問い》を設定した上で調査・研究を進め、途中経過を発表していく。その内容について、教員を含む全員で討議する。				
評価方法・基準	討議への参加度40%、計2回の発表内容60%を総合して評価する。評価基準は「先行研究の理解度」「史料の調査・収集状況」「史料の読解・利用の適切さ」「質問・コメントへの応答」である。				
履修上の注意事項等	じっくり、こつこつと調査・研究を進めることを心がけること。また、授業時間以外でも何か相談・質問があれば、オフィスアワーに遠慮なく研究室に来ること。				
テキスト	授業の性格上、テキストはない				
参考書	受講者各自に適宜紹介				

科目名	史学演習Ⅲ（十）			期間	前期
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	4
テーマ	学びの集大成としての卒業論文に向けた調査・研究発表				
到達目標	先行研究の理解、史料の調査・収集を進めつつ、卒業論文題目の提出に向けて、目を向ける年代・時期、手がけるテーマ、探求したい問いを明確にしぼりこむ。				
授業概要	日本現代史（またはアジア・太平洋現代史、日本と諸外国の関係史・比較史）を専門的に学んできた履修者各自が、対象とする《時期》《題材》《問い》を設定した上で調査・研究を進め、途中経過を発表していく。その内容について、教員を含む全員で討議する。				
評価方法・基準	討議への参加度40%、計2回の発表内容60%を総合して評価する。評価基準は「先行研究の理解度」「史料の調査・収集状況」「史料の読解・利用の適切さ」「質問・コメントへの応答」である。				
履修上の注意事項等	じっくり、こつこつと調査・研究を進めることを心がけること。また、授業時間以外でも何か相談・質問があれば、オフィスアワーに遠慮なく研究室に来ること。				
テキスト	授業の性格上、テキストはない				
参考書	受講者各自に適宜紹介				

科目名	史学演習Ⅲ（十一）			期間	前期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本中世・近世文化史の諸問題				
到達目標	日本中世・近世文化史の諸問題を理解し、関心のあるテーマを見つけだし研究していくための専門的な能力を身につける。				
授業概要	①最初に各講時担当の報告者を決める。1講時に4人。通年で受講生1人が4回報告を行う。②報告者は報告したいテーマを見つけだし、そのテーマにかかわる報告を行う。報告をする際にはレジュメ資料も作成、受講生全員に配布。③報告を聞いた受講生と教員との質疑応答を繰り返すなかで報告内容をより深め卒業論文の完成をめざす。				
評価方法・基準	平常点（50%）（講義中の質疑応答、積極的な態度を重視する）と報告内容（50%）（報告内容の充実度を重視する）によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	史学演習Ⅲ（十二）			期間	前期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本中世・近世文化史の諸問題				
到達目標	日本中世・近世文化史の諸問題を理解し、関心のあるテーマを見つけだし研究していくための専門的な能力を身につける。				
授業概要	①最初に各講時担当の報告者を決める。1講時に4人。通年で受講生1人が4回報告を行う。②報告者は報告したいテーマを見つけだし、そのテーマにかかわる報告を行う。報告をする際にはレジュメ資料も作成、受講生全員に配布。③報告を聞いた受講生と教員との質疑応答を繰り返すなかで報告内容をより深め卒業論文の完成をめざす。				
評価方法・基準	平常点（50%）（講義中の質疑応答、積極的な態度を重視する）と報告内容（50%）（報告内容の充実度を重視する）によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	史学演習Ⅲ（十三）			期間	前期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本近世・近代文化史の研究を深め、卒業論文を作成する				
到達目標	各自の問題関心にに基づき、日本近世・近代文化史の研究を深め、成果を卒業論文としてまとめる。				
授業概要	各自、関心のあるテーマについて研究し、レジュメを作成して報告し、全体で討論を行うなかで研究を深めていく。成果を卒業論文として完成させる。				
評価方法・基準	報告内容（70%）報告内容の充実度、独創性、歴史学の方法論の習得度合いで評価する。討論内容（20%）討論参加の積極性と討論の内容で評価する。レポート（10%）卒業論文を念頭に作成したレポートの充実度、基本的なアカデミックライティングのスキルが身につけていない場合、大きく減点する。無断遅刻・欠席は厳禁。特に報告予定者の無断欠席、やむをえない事情以外の当日欠席は決して認めない。				
履修上の注意事項等	報告者以外の受講生も報告をよく聞いて、積極的に討論に参加すること。4月からわずか9ヶ月弱で卒業論文を完成させるためには、普段から研究を進めることが不可欠である。演習報告は目的ではなく、研究の途中経過を報告し、今後の研究について考えるためのもの。演習を「こなす」ためだけに短時間で安易に作り上げたような報告は自分のためにもならないことを理解しておくこと。そのような安直な報告に対しては厳しく指導する。レポートも卒業論文を念頭においてのもの求めるので要求水準はそれなりのものであることを覚悟しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書	歴史学で卒業論文を書くために、村上紀夫、創元社、2019				

科目名	史学演習Ⅲ（十四）			期間	前期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本近世・近代文化史の研究を深め、卒業論文を作成する				
到達目標	各自の問題関心に基づき、日本近世・近代文化史の研究を深め、成果を卒業論文としてまとめる。				
授業概要	各自、関心のあるテーマについて研究し、レジュメを作成して報告し、全体で討論を行うなかで研究を深めていく。成果を卒業論文として完成させる。				
評価方法・基準	報告内容（70％）報告内容の充実度、独創性、歴史学的方法論の習得度合いで評価する。討論内容（20％）討論参加の積極性と討論の内容で評価する。レポート（10％）卒業論文を念頭に作成したレポートの充実度、基本的なアカデミックライティングのスキルが身につけていない場合、大きく減点する。無断遅刻・欠席は厳禁。特に報告予定者の無断欠席、やむをえない事情以外の当日欠席は決して認めない。				
履修上の注意事項等	報告者以外の受講生も報告をよく聞いて、積極的に討論に参加すること。4月からわずか9ヶ月弱で卒業論文を完成させるためには、普段から研究を進めることが不可欠である。演習報告は目的ではなく、研究の途中経過を報告し、今後の研究について考えるためのもの。演習を「こなす」ためだけに短時間で安易に作り上げたような報告は自分のためにもならないことを理解しておくこと。そのような安直な報告に対しては厳しく指導する。レポートも卒業論文を念頭においたものを求めるので要求水準はそれなりのものであることを覚悟しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書	歴史学で卒業論文を書くために、村上紀夫、創元社、2019				

科目名	史学演習Ⅲ（十五）			期間	前期
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	4
テーマ	東洋史卒業論文作成				
到達目標	東洋史の卒業論文を作成する。				
授業概要	卒業論文の完成を見すえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。				
評価方法・基準	発表内容、および平時の授業への取り組みによる。				
履修上の注意事項等	報告の分担は初回の授業で行うので、必ず出席すること。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	史学演習Ⅲ（十六）			期間	前期
担当教員	宮本 亮一	単位数	2	配当年次	4
テーマ	中央・西南アジア史の諸問題				
到達目標	卒業論文の執筆にむけた史料・文献の収集を終わらせる				
授業概要	以下の3つの作業を中心に行い、上記の目標の達成を目指します： ①受講者による研究発表 ②研究発表を踏まえた議論 ③関連する史料・文献の講読 関連する史料・文献については、受講者の希望、語学力などを考慮に入れて決定します。				
評価方法・基準	発表内容、授業への取り組み 100%				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習Ⅲ（十七）			期間	前期
担当教員	★川本 正知	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒論の提出に向け、具体的内容を詰める				
到達目標	今までに学んだ史料分析の方法を駆使して卒論を仕上げる。				
授業概要	3回生の演習の間に整理されてきた自らの研究史上の課題のための史料収集を行い、それをまず読み通し、分析し、分析結果をまとめる。関連する史料全てを読み通すことは不可能だが、その分析内容を各自が報告し、全員の討論、教員の指導をふまえて、より良い卒論を仕上げる。				
評価方法・基準	平常点50%（授業にたいする積極性、課題に真摯にとり組む姿勢を重視） 学習到達度確認50%（卒業論文の進捗状況を確認し評価する）				
履修上の注意事項等	卒業論文は自らの成長のために書くのであることを自覚する。				
テキスト	授業中に指示				
参考書	授業中に指示				

科目名	史学演習Ⅲ（十八）			期間	前期
担当教員	足立 広明	単位数	2	配当年次	4
テーマ	西洋古代中世史の研究				
到達目標	各人の設定したテーマに関して、国内の邦語文献を完全に消化して他の人に伝えることができるようになるのが第一目標。これがクリアできる人は、海外の研究文献や原史料を用いた研究論文の水準を目指す。				
授業概要	西洋古代中世史を卒論テーマとする人の演習。卒論作成のための発表とレポート作成を行う。授業は毎回の発表と質疑応答が中心となる。質問などで明らかとなった不十分な点を次回発表までに補強し、先行研究や史料に基づいた歴史研究と呼べるものに近づけていく。				
評価方法・基準	発表とレポート、それに他の人の発表回における質疑応答、コメント記入などにより総合的に判断する。発表とレポートは先行研究と史料をどれだけ取り入れられているか、論理的な構成でわかりやすくまとめられているかが基準となる。				
履修上の注意事項等	自身の発表だけでなく、他の人の発表に耳を傾け、質疑応答に参加することも重要な評価ポイントとなる。				
テキスト	とくに用いない。				
参考書	適時指示する。				

科目名	史学演習Ⅲ（十九）			期間	前期
担当教員	山口 育人	単位数	2	配当年次	4
テーマ	西洋近現代史の諸問題				
到達目標	西洋近現代史にかかわる研究テーマを設定し、卒業論文の作成ができる。				
授業概要	西洋の歴史における諸問題について研究し、卒業論文を執筆することを目指す受講生を中心とする演習である。対象とするおもな時代は15世紀末から近世、近代、現代である。各回の授業では、受講生それぞれの研究構想、テーマと論点、卒論作成について報告してもらい、全体で報告について討論を行う。				
評価方法・基準	報告内容の適切さと質疑応答への参加度合で評価する。 (進捗レポートは評価対象としない)				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書					

科目名	史学演習Ⅲ（二十）			期間	前期
担当教員	高橋 博子	単位数	2	配当年次	4
テーマ	西洋現代史をめぐる諸問題				
到達目標	卒業論文作成のための基本的な計画と構想を作る。				
授業概要	卒業論文作成のためには、作成者の問題意識・視点・構想、先行研究の把握、文献・史料収集、文献・史料分析、そして、先行研究を適切に参照し、適切に引用しつつ、論文を完成させる総合的な能力が必要である。また、ほかの受講者の報告や意見を聞いたうえで、建設的な議論を行うことは、論文の質を高めてゆくことにつながる。本演習はこうした卒業論文作成のための基本的な計画と構想を作ることを目的とする。				
評価方法・基準	研究構想と文献・論文リストについてまとめたレポートによって評価する（70%）。演習での報告とほかの報告者に適切にコメントできるかどうかを評価する（30%）				
履修上の注意事項等					
テキスト	歴史学で卒業論文を書くために、村上紀夫、創元社、2019 公文書は誰のものか？：公文書管理について考える入門書、榎澤幸広、現代人文社、2019 情報自由法で社会を変える、ジョン・ミッチェル、岩波書店、2023				
参考書					

科目名	史学演習Ⅳ（一）			期間	後期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本古代史の諸問題				
到達目標	日本古代史の研究書・論文などを読み解くことで、日本古代史に関する理解を深めるとともに研究方法を学び、卒業論文作成の基礎的な能力を身に付ける。				
授業概要	ゼミ形式で行い担当者の報告内容に対して出席者全員で討論を行い理解を深めます。 前半は、日本古代史の定評のある論文を読みます。1回に2本ずつ、事前に担当を割り当て、レジュメをもとに、内容の要約・検討結果の報告を行います。その後、3回生向けの卒論の書き方、4回生の卒論要旨発表を行い、全員で課題を共有して検討・議論を行います。最後の数回は、3回生の卒論構想発表を行う予定です。				
評価方法・基準	成績は、平常点（授業に対する積極性など）、授業における報告内容、レポート内容などに基づいて総合的に判断します。なお、報告が回りきらなかった場合は、レポートの提出で報告に替えます。				
履修上の注意事項等	論文報告の1回目は夏休み課題で扱った論文を報告してください。2回めに夏休み課題リスト以外の論文を報告する場合は、前週までにPDFを配布してください。 史学演習Ⅳ（一）は、史学演習Ⅱ（一）、及び日本史演習Ⅰ（一）・Ⅱ（一）と合同で実施します。				
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習Ⅳ（二）			期間	後期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本古代史の諸問題				
到達目標	日本古代史の研究書・論文などを読み解くことで、日本古代史に関する理解を深めるとともに研究方法を学び、卒業論文作成の基礎的な能力を身に付ける。				
授業概要	ゼミ形式で行い担当者の報告内容に対して出席者全員で討論を行い理解を深めます。前半は、日本古代史の定評のある論文を読みます。1回に2本ずつ、事前に担当を割り当て、レジュメをもとに、内容の要約・検討結果の報告を行います。その後、3回生向けの卒論の書き方、4回生の卒論要旨発表を行い、全員で課題を共有して検討・議論を行います。最後の数回は、3回生の卒論構想発表を行う予定です。				
評価方法・基準	成績は、平常点（授業に対する積極性など）、授業における報告内容、レポート内容などに基づいて総合的に判断します。なお、報告が回りきらなかった場合は、レポートの提出で報告に替えます。				
履修上の注意事項等	論文報告の1回目は夏休み課題で扱った論文を報告してください。2回めに夏休み課題リスト以外の論文を報告する場合は、前週までにPDFを配布してください。史学演習Ⅳ（二）は、史学演習Ⅱ（二）、及び日本史演習Ⅰ（二）・Ⅱ（二）と合同で実施します。				
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習Ⅳ（三）			期間	後期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文を完成させる				
到達目標	史学演習Ⅰ～Ⅲの成果を踏まえ、卒業論文を完成させ、最終段階の口述試問に備える。				
授業概要	最終準備報告と質疑、討論を重ねながら、論文の質、精度を上げてゆく。また、卒業論文提出後の授業では、論文の梗概を最終報告会で発表し、口述試問に向けた準備とする。				
評価方法・基準	卒論梗概（A4横書、1200字程度、1ページあたりの字数は自由設定）による。				
履修上の注意事項等	史学演習Ⅳ（三）・史学演習Ⅳ（四）は合同でおこなう。4年生は（四）を登録すること。オンライン授業となった場合はZOOMを利用する。詳細はポータルサイトで連絡する。				
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習Ⅳ（四）			期間	後期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文を完成させる				
到達目標	史学演習Ⅰ～Ⅲの成果を踏まえ、卒業論文を完成させ、最終段階の口述試問に備える。				
授業概要	最終準備報告と質疑、討論を重ねながら、論文の質、精度を上げてゆく。また、卒業論文提出後の授業では、論文の梗概を最終報告会で発表し、口述試問に向けた準備とする。				
評価方法・基準	卒論梗概（A4横書、1200字程度、1ページあたりの字数は自由設定）による。				
履修上の注意事項等	史学演習Ⅳ（三）・史学演習Ⅳ（四）は合同でおこなう。4年生は（四）を登録すること。オンライン授業となった場合はZOOMを利用する。詳細はポータルサイトで連絡する。				
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習Ⅳ（五）			期間	後期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒論の提出に向け、具体的内容を詰める				
到達目標	具体的な史料分析を精緻化させ、卒論を仕上げる。				
授業概要	夏休みに収集した史料の分析を精緻化し、卒論の執筆に取り掛かる。そのステップアップとして、卒論の最終構成をゼミで報告し、そこでの討論を通して、お互いの卒論がよいものとなるよう、支え合っていく。				
評価方法・基準	平素の受講態度（報告内容と討論への参加姿勢）と期末レポート、卒論				
履修上の注意事項等					
テキスト	授業中に指示				
参考書	授業中に指示				

科目名	史学演習Ⅳ（六）			期間	後期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒論の提出に向け、具体的内容を詰める				
到達目標	具体的な史料分析を精緻化させ、卒論を仕上げる。				
授業概要	夏休みに収集した史料の分析を精緻化し、卒論の執筆に取り掛かる。そのステップアップとして、卒論の最終構成をゼミで報告し、そこでの討論を通して、お互いの卒論がいいものとなるよう、支え合っていく。				
評価方法・基準	平素の受講態度（報告内容と討論への参加姿勢）と期末レポート、卒論				
履修上の注意事項等					
テキスト	授業中に指示				
参考書	授業中に指示				

科目名	史学演習Ⅳ（七）			期間	後期
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	4
テーマ	幕末・維新时期から大正初期にかけての研究状況と課題の確認（Ⅱ）				
到達目標	研究論文を読みこなす力をつける。各テーマの研究状況と今後の課題について理解する。				
授業概要	幕末・維新时期から大正初期にかけての重要な論文について、担当者を決めて報告を受け、討論して理解を深める。				
評価方法・基準	授業中の報告や議論の内容から総合的に評価する（30%）。期末にレポートの提出を求め評価する（70%）。				
履修上の注意事項等	卒論執筆の基礎的訓練と位置づけ、意欲的に取り組んでほしい。				
テキスト	担当者から資料を配付する				
参考書	適宜示す				

科目名	史学演習Ⅳ（八）			期間	後期
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本近代史上の重要課題についての研究－卒論の完成に向けて－（Ⅱ）				
到達目標	先行研究と関連史料を確実に読み込む力をつけ、社会的意義に富み、質の高い卒論を完成させる。				
授業概要	各自から卒論の目次を示し、構成に問題がないか、相互の議論を通じて確認し、互いに協力し合って卒論の完成をめざす。				
評価方法・基準	報告と議論の内容を総合的に評価する（100%）				
履修上の注意事項等	より質の高い卒業論文の完成に向けて意欲的に取り組んでほしい。				
テキスト	担当者から資料を配付する				
参考書	適宜示す				

科目名	史学演習Ⅳ（九）			期間	後期
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	4
テーマ	学びの集大成としての卒業研究の経過報告、論文の執筆・完成				
到達目標	卒業論文執筆に向けた調査・研究の途中経過を発表し、論文完成・提出を目指す。				
授業概要	日本現代史（またはアジア・太平洋現代史、日本と諸外国の関係史・比較史）を専門的に学んできた履修者各自が、対象とする《時期》《題材》《問い》を設定した上で調査・研究を進め、途中経過を発表していく。その内容について、教員を含む全員で討議する。				
評価方法・基準	討議への参加度40%、計2回の発表内容60%を総合して評価する。評価基準は「先行研究の理解度」「史料の調査・収集状況」「史料の読解・利用の適切さ」「質問・コメントへの応答」である。				
履修上の注意事項等	じっくり、こつこつと調査・研究を進めることを心がけること。また、授業時間以外でも何か相談・質問があれば、オフィスアワーに遠慮なく研究室に来ること。				
テキスト	授業の性格上、テキストはない。				
参考書	受講者各自に適宜紹介する。				

科目名	史学演習Ⅳ（十）			期間	後期
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	4
テーマ	学びの集大成としての卒業研究の経過報告、論文の執筆・完成				
到達目標	卒業論文執筆に向けた調査・研究の途中経過を発表し、論文完成・提出を目指す。				
授業概要	日本現代史（またはアジア・太平洋現代史、日本と諸外国の関係史・比較史）を専門的に学んできた履修者各自が、対象とする《時期》《題材》《問い》を設定した上で調査・研究を進め、途中経過を発表していく。その内容について、教員を含む全員で討議する。				
評価方法・基準	討議への参加度40%、計2回の発表内容60%を総合して評価する。評価基準は「先行研究の理解度」「史料の調査・収集状況」「史料の読解・利用の適切さ」「質問・コメントへの応答」である。				
履修上の注意事項等	じっくり、こつこつと調査・研究を進めることを心がけること。また、授業時間以外でも何か相談・質問があれば、オフィスアワーに遠慮なく研究室に来ること。				
テキスト	授業の性格上、テキストはない。				
参考書	受講者各自に適宜紹介する。				

科目名	史学演習Ⅳ（十一）			期間	後期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本中世・近世文化史の諸問題				
到達目標	日本中世・近世文化史の諸問題を理解し、関心のあるテーマを見つけだし研究していくための専門的な能力を身につける。				
授業概要	①最初に各講時担当の報告者を決める。1講時に4人。通年で受講生1人が4回報告を行う。②報告者は報告したいテーマを見つけだし、そのテーマにかかわる報告を行う。報告をする際にはレジュメ資料も作成、受講生全員に配布。③報告を聞いた受講生と教員との質疑応答を繰り返すなかで報告内容をより深め卒業論文の完成をめざす。				
評価方法・基準	平常点（50%）（講義中の質疑応答、積極的な態度を重視する）と報告内容（50%）（報告内容の充実度を重視する）によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	史学演習Ⅳ（十二）			期間	後期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本中世・近世文化史の諸問題				
到達目標	日本中世・近世文化史の諸問題を理解し、関心のあるテーマを見つけだし研究していくための専門的な能力を身につける。				
授業概要	①最初に各講時担当の報告者を決める。1講時に4人。通年で受講生1人が4回報告を行う。②報告者は報告したいテーマを見つけだし、そのテーマにかかわる報告を行う。報告をする際にはレジュメ資料も作成、受講生全員に配布。③報告を聞いた受講生と教員との質疑応答を繰り返すなかで報告内容をより深め卒業論文の完成をめざす。				
評価方法・基準	平常点（50%）（講義中の質疑応答、積極的な態度を重視する）と報告内容（50%）（報告内容の充実度を重視する）によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	史学演習Ⅳ（十三）			期間	後期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本近世・近代文化史の研究を深め、卒業論文を作成する				
到達目標	各自の問題関心にに基づき、日本近世・近代文化史の研究を深め、成果を卒業論文としてまとめる。				
授業概要	各自、関心のあるテーマについて研究し、レジュメを作成して報告し、全体で討議を行うなかで研究を深めていく。成果を卒業論文として完成させる。				
評価方法・基準	報告内容（70%）報告内容の充実度、独創性、歴史学の方法論の習得度合いで評価する。討議内容（20%）討議参加の積極性と討議の内容で評価する。レポート（10%）卒業論文を念頭に作成したレポートの充実度、基本的なアカデミックライティングのスキルが身につけていない場合、大きく減点する。無断遅刻・欠席は厳禁。特に報告予定者の無断欠席、やむをえない事情以外の当日欠席は決して認めない。				
履修上の注意事項等	報告者以外の受講生も報告をよく聞いて、積極的に討議に参加すること。9月からわずか4ヶ月弱で卒業論文を完成させるためには、普段から研究を進めることが不可欠である。演習報告は目的ではなく、研究の途中経過を報告し、今後の研究について考えるためのもの。演習を「こなす」ためだけに短時間で安易に作り上げたような報告は自分のためにもならないことを理解しておくこと。そのような安直な報告に対しては厳しく指導する。レポートも卒業論文を念頭においたものを求めるので要求水準はそれなりのものであることを覚悟しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書	歴史学で卒業論文を書くために、村上紀夫、創元社、2019				

科目名	史学演習Ⅳ（十四）			期間	後期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	4
テーマ	日本近世・近代文化史の研究を深め、卒業論文を作成する				
到達目標	各自の問題関心に基づき、日本近世・近代文化史の研究を深め、成果を卒業論文としてまとめる。				
授業概要	各自、関心のあるテーマについて研究し、レジュメを作成して報告し、全体で討論を行うなかで研究を深めていく。成果を卒業論文として完成させる。				
評価方法・基準	報告内容（70％）報告内容の充実度、独創性、歴史学の方法論の習得度合いで評価する。 討論内容（20％）討論参加の積極性と討論の内容で評価する。 レポート（10％）卒業論文を念頭に作成したレポートの充実度、基本的なアカデミックライティングのスキルが身につけていない場合、大きく減点する。 無断遅刻・欠席は厳禁。特に報告予定者の無断欠席、やむをえない事情以外の当日欠席は決して認めない。				
履修上の注意事項等	報告者以外の受講生も報告をよく聞いて、積極的に討論に参加すること。 9月からわずか4ヶ月弱で卒業論文を完成させるためには、普段から研究を進めることが不可欠である。演習報告は目的ではなく、研究の途中経過を報告し、今後の研究について考えるためのもの。演習を「こなす」ためだけに短時間で安易に作り上げたような報告は自分のためにもならないことを理解しておくこと。そのような安直な報告に対しては厳しく指導する。レポートも卒業論文を念頭においてものを求めるので要求水準はそれなりのものであることを覚悟しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書	歴史学で卒業論文を書くために、村上紀夫、創元社、2019				

科目名	史学演習Ⅳ（十五）			期間	後期
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	4
テーマ	東洋史卒業論文作成				
到達目標	東洋史の卒業論文を作成する。				
授業概要	卒業論文の完成を見すえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。				
評価方法・基準	発表内容、および平時の授業への取り組みによる。				
履修上の注意事項等	報告の分担は初回の授業で行うので、必ず出席すること。				
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習Ⅳ（十六）			期間	後期
担当教員	宮本 亮一	単位数	2	配当年次	4
テーマ	中央・西南アジア史の諸問題				
到達目標	卒業論文を完成させる				
授業概要	以下の3つの作業を中心に行い、上記の目標の達成を目指します： ①受講者による研究発表 ②研究発表を踏まえた議論 ③関連する史料・文献の講読 関連する史料・文献については、受講者の希望、語学力などを考慮に入れて決定します。				
評価方法・基準	発表内容、授業への取り組み 100%				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	史学演習Ⅳ（十七）			期間	後期
担当教員	★川本 正知	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒論の提出に向け、具体的内容を詰める				
到達目標	今までに学んだ史料分析の方法を駆使して卒論を仕上げる。				
授業概要	3回生の演習の間に整理されてきた自らの研究史上の課題のための史料収集を行い、それをまず読み通し、分析し、分析結果をまとめる。関連する史料全てを読み通すことは不可能だが、その分析内容を各自が報告し、全員の討論、教員の指導をふまえて、より良い卒論を仕上げる。				
評価方法・基準	平常点50%（授業にたいする積極性、課題に真摯にとり組む姿勢を重視） 学習到達度確認50%（卒業論文の進捗状況を確認し評価する）				
履修上の注意事項等	卒業論文は自らの成長のために書くのであることを自覚する。				
テキスト	授業中に指示				
参考書	授業中に指示				



科目名	史学演習Ⅳ（十八）			期間	後期
担当教員	足立 広明	単位数	2	配当年次	4
テーマ	西洋古代中世史の研究				
到達目標	各人の設定したテーマに関して、国内の邦語文献を完全に消化して他の人に伝えることができるようになるのが第一目標。これがクリアできる人は、海外の研究文献や原史料を用いた研究論文の水準を目指す。				
授業概要	西洋古代中世史を卒論テーマとする人の演習。卒論作成のための発表とレポート作成を行う。授業は毎回の発表と質疑応答が中心となる。質問などで明らかとなった不十分な点を次回発表までに補強し、先行研究や史料に基づいた歴史研究と呼べるものに近づけていく。前期の研究を踏まえ、最終的に卒業論文を完成させる。				
評価方法・基準	発表とレポート、それに他の人の発表回における質疑応答、コメント記入などにより総合的に判断する。発表とレポートは先行研究と史料をどれだけ取り入れられているか、論理的な構成でわかりやすくまとめられているかが基準となる。				
履修上の注意事項等	自身の発表だけでなく、他の人の発表に耳を傾け、質疑応答に参加することも重要な評価ポイントとなる。				
テキスト	とくに用いない。				
参考書	適時指示する。				

科目名	史学演習Ⅳ（十九）			期間	後期
担当教員	山口 育人	単位数	2	配当年次	4
テーマ	西洋近現代史の諸問題				
到達目標	西洋近現代史にかかわる研究テーマを設定し、卒業論文の作成ができる。				
授業概要	西洋の歴史における諸問題について研究し、卒業論文を執筆することを目指す受講生を中心とする演習である。対象とするおもな時代は15世紀末から近世、近代、現代である。授業では、受講生それぞれの研究構想、テーマと論点、卒論作成について報告してもらい、全体で報告について討論を行う。				
評価方法・基準	報告内容の適切さと質疑応答への参加度合で評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書					

科目名	史学演習Ⅳ（二十）			期間	後期
担当教員	高橋 博子	単位数	2	配当年次	4
テーマ	西洋現代史をめぐる諸問題				
到達目標	卒業論文作成のための基本的な計画と構想を作る。				
授業概要	卒業論文作成のためには、作成者の問題意識・視点・構想、先行研究の把握、文献・史料収集、文献・史料分析、そして、先行研究を適切に参照し、適切に引用しつつ、論文を完成させる総合的な能力が必要である。また、ほかの受講者の報告や意見を聞いたうえで、建設的な議論を行うことは、論文の質を高めてゆくことにつながる。本演習はこうした卒業論文作成のための基本的な計画と構想を作ることを目的とする。				
評価方法・基準	研究構想と文献・論文リストについてまとめたレポートによって評価する（70%）。演習での報告とほかの報告者に適切にコメントできるかどうかを評価する（30%）				
履修上の注意事項等					
テキスト	歴史学で卒業論文を書くために、村上紀夫，創元社，2019 公文書は誰のものか？：公文書管理について考える入門書，榎澤幸広，現代人文社，2019				
参考書					

科目名	国際交流史基礎講義Ⅰ			期間	前期
担当教員	高橋 博子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	環太平洋現代史：日米関係を中心に				
到達目標	環太平洋現代史への第二次世界大戦・冷戦の影響を理解する。				
授業概要	2020年は第二次世界大戦終結から75年の年である。「冷戦」とよばれる時代が続いたが、アジアにおいては朝鮮戦争、ベトナム戦争と熱戦が起こり、日米関係も変節してきた。本講座は第二次世界大戦から冷戦期にかけての日米関係について講義を行い、戦争と平和の問題について、さらに国際交流の意義について多角的に議論する。				
評価方法・基準	中間確認テストと期末確認テストにて、基本的な知識を問うテストを行う（40%）。また、授業に関して小論文を作成する（40%）。コメントペーパーや授業への参加（20%）レポートの評価方法は以下の点を重視する。 ・課題を読んでいるか ・自分の視点で論述しているか ・論拠を示し、説得力があるか ・歴史的探究心があるか				
履修上の注意事項等					
テキスト	いま、＜平和を＞を本気で語るには、ノーマ・フィールド，岩波書店，2018 「情報自由法」で社会を変える！，ジョン・ミッチェル，岩波書店，2023				
参考書	クリオの顔，E.H. ノーマン，岩波書店，1986				

科目名	国際交流史基礎講義Ⅱ			期間	後期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	東アジアのなかの中世日本				
到達目標	東アジアの歴史の一部として日本中世史を考える視座を獲得し、受講者個々の研究資源とすること。				
授業概要	基礎講義であるから、概説的な内容となる。時代範囲としては、唐、新羅が滅亡して大きく日本の国際環境が変わる10世紀から、「イベリア・インパクト」以前の15世紀までとする。東アジア世界の動向と、日本の動向を同じ時間軸においてみるだけでも多くの発見があるが、本講義では交流（交易や戦争）にかかる個別テーマを設定して、さらなる関心を喚起する機会としていく。				
評価方法・基準	対面授業と並行して e-learning に各回（第2講～第14講）を掲示する。その総合点（素点合計）により成績評価する。				
履修上の注意事項等	授業欠席の場合は原則課題提出を認めないので注意すること。各回課題の素点評価基準や、やむをえない欠席についての対応など、詳細は初回授業日に連絡する（e-learning にも掲示）。				
テキスト	各回 ppt データを用意する				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	国際交流史基礎講義Ⅲ			期間	前期
担当教員	★杉本 一樹	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	正倉院入門				
到達目標	正倉院宝物を主たる素材として、「もの」と文字の多様なあり方についての理解を深め、この視点を通じて、奈良時代を中心とする日本古代史を学んでいく。				
授業概要	正倉院の文字資料について、概説の形で全般的に取り上げながら、日本古代で「文字を使う」ことの意味と、その広がりについて、講義を進めていこうと考えています。				
評価方法・基準	毎回、リアクションペーパーの提出を求め、授業内容理解を把握するための参考とする。評価は、平常点および最終授業日に実施する学習到達度確認（筆記による）に基づいて行う。				
履修上の注意事項等	授業テーマに関わるトピックや、リアクションペーパーを通じた質問等を随時盛り込むため、講義内容・順序に変更が生じる場合がある。				
テキスト	《日本史リブレット》074. 正倉院宝物の世界, 杉本一樹, 山川出版社, 2010				
参考書					

科目名	国際交流史基礎講義Ⅳ			期間	後期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	15～19世紀における列島の交流史				
到達目標	高校までの一国史としての「日本史」ではない、交流史の視点で政治史・文化史を考える視点を理解し、国境にしばられない歴史について自分の言葉で説明できるようになる。				
授業概要	15～19世紀（日本の時代区分でいえば中世後期から近代）の日本列島をとりまく文化・政治のなかで、日本の歴史・文化がどのような影響をうけてきたかを、中国・朝鮮、琉球・北方、西欧諸国との関係を重視して考える。なお、構成は変更する可能性がある。				
評価方法・基準	レポート（100%）講義内容をふまえた交流史の基本についての理解度に加え、国境にしばられない視点で「歴史」を自分の言葉で説明できているかを重視する。課題レポート作成にあたっては別添ファイルを熟読のこと				
履修上の注意事項等	論旨が一貫していない、日本語として意味不明のレポートなど、高等教育機関である大学のレポートの水準に達していないものは厳しく採点する。出せばいいというものではない。				
テキスト	とくに使用しない				
参考書	授業時に紹介する				

科目名	国際交流史基礎講義Ⅴ			期間	後期
担当教員	宮本 亮一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	中央・西南アジアにおける人間集団の移動と文化の伝播				
到達目標	人類史における人間（集団）の移動パターンの1つの例として、中央・西南アジアにおける状況を理解する				
授業概要	中央アジアやその北方の草原地帯から南アジアへ向かう人間の移動は、非常に長い期間にわたって何度も繰り返されてきた動きです。この授業では、人類史における大きな行動パターンの1つとも言えるこの動きについて、海上のルートや西アジアの動向も視野に入れつつ、解説します。また、人間の移動に伴って発生する宗教文化の伝播・受容についても考えていきます。授業は担当教員が講義形式で行い、必要に応じて映像資料なども視聴します。				
評価方法・基準	学習到達度確認テスト60%（講義の内容を理解できているか、講義の内容について自分の言葉で説明できるかを確認します）、映像資料の感想レポート等40%（視聴する映像資料の内容を理解できているか、疑問・質問を教員に的確に伝えられるかどうかなどを確認します）				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書	グローバル・ヒストリー, 妹尾彦彦, 中央大学出版部, 2018				

科目名	国際交流史基礎講義VI			期間	前期
担当教員	山口 育人	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	21世紀に生きる私たちが直面している諸問題について、歴史をみることで理解を深め、多角的な視点から考える				
到達目標	①20世紀世界史における諸テーマについて理解する。 ②歴史と現代社会のつながりを認識し、現在の世界の成り立ちを理解する。				
授業概要	21世紀に生きる私たちが直面している諸問題について、世界史的にみることで理解を深め、多角的な視点から考えることを目指します。そのために20世紀世界史に関わる以下のテーマを検討します。 (1)異なる地域(日本とイギリス)どうしての比較・検討(「歴史問題と和解」「社会と青年・若者のあり方」) (2)現代世界が直面している課題の歴史的経緯・背景の検討(「英語のグローバル言語化」、「グローバル企業と消費文化」、「核問題の歴史」)。				
評価方法・基準	各テーマごとに小テストもしくは小レポートを課す。小テスト・小レポートは、授業内容の理解度、ならびに、自分なりに考察を深めた度合いでもって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書					

科目名	日本史基礎講義I			期間	後期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	木簡学入門				
到達目標	平城宮・京跡出土木簡を主たる素材として、木簡という出土文字資料についての理解を深め、またそれによって明らかになる平城宮・京跡の空間的・時間的な広がりを体得し、あわせて奈良時代の歴史を学ぶ。				
授業概要	具体的な木簡に即して、日本古代を中心とするの木簡の概説、各論を講義します。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡をはじめとする出土文字資料や発掘調査の情報などを、適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えます。そのため取り上げる木簡や順序に変更や偏りが生じる場合があります。				
評価方法・基準	期末に提出していただくレポートによる予定です。				
履修上の注意事項等	・テキストは特に使用せず、必要な資料をその都度配布します。 ・木簡に関する最新の発掘調査成果を盛り込む場合があるため、講義内容・順序に変更が生じる場合があります。 ・諸般の状況変化に伴う授業方法の変更により、内容を変更する場合があります。 ・なお、この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、平城宮・京跡の発掘調査とそこから出土した木簡の整理・解説に31年間にわたって従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト					
参考書	木簡 古代からの便り、奈良文化財研究所(編)、岩波書店、2020 《歴史の証人》木簡を究める、奈良文化財研究所、クパプロ、2014 木簡から古代が見える(岩波新書新赤版1256)、木簡学会、岩波書店、2010				

科目名	日本史基礎講義II			期間	前期
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	近現代史における国民と他者—アジア主義の生成・展開・変容				
到達目標	国民としての自己認識の形成過程について理解するとともに、東アジアの国々や人びとと友好関係を形成する道筋について考察を深める。				
授業概要	韓国・中国など東アジアの隣人とどのようにして友好な関係を築くか—21世紀の日本人に突きつけられた重要な課題である。この問題についてアジア主義をキーワードに、日本の近現代史をたどりながら考えてみたい。教職希望者には歴史教育を推進する力をつけてほしいので、授業担当者の高校教員としての経験も踏まえ、「歴史総合」など新しいカリキュラムが進行している、今後の歴史教育のあり方についても視野に入れつつ授業を進める。				
評価方法・基準	質問に対する応答、コメントシートの記述などから授業に対する積極性を評価する(30%)。期末レポートの提出を求め、問題意識や論理的な展開などを総合的に評価する(70%)。				
履修上の注意事項等	中国、韓国などアジア諸国との関係にかかわる報道に注意し、現代的な関心をもって授業に臨んでほしい。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	担当者から資料を配付する				
参考書	授業中に適宜指示する				

科目名	日本史基礎講義III			期間	前期
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	「映画」を資料・手がかりにして学び・問う昭和史・平成史				
到達目標	「昭和史・平成史には、どのようなテーマと問い・論点があるのか」を主題とし、「映画」を利用して多様な角度から考え、日本現代史の学びと探求に活かす技能を習得する。				
授業概要	この授業は正確には「日本現代史」「昭和史・平成史」の基礎講義である。2019年に平成は幕を閉じ、昭和もさらに遠くなった。では、昭和史・平成史において「探求するに値するテーマと問い」とは何だろうか。そこで、手がかりとするのが「映画」である。優れた文学と同様、映画にも人間と社会、そして、歴史について鋭い洞察と問いかけを提示してくれる作品が数多くある。この授業では、文書・文献史料に基づく歴史の学び・探求にも豊かなヒントを与えてくれる映画を使って、テーマと問い・論点を考えていく。				
評価方法・基準	中間レポート(50%)と期末レポート(50%)の2つを総合して評価。「指定された構成と注意点に従っているか」「授業の目標・概要に照らしてふさわしい内容になっているか」を基準とする。				
履修上の注意事項等	モノクローム(白黒)の映像を観ることへの抵抗感、「面白くなさそう」「古臭そう」といった先入観・固定観念を問い質すことである。加えて、この授業で取りあげる映画は「単なる娯楽作品ではない」ことに十分に注意されたい。				
テキスト	授業ではプリントを配布				
参考書	日本映画史100年、四方田犬彦、集英社、2000 昭和史、古川隆久、筑摩書房、2016 ポスト戦後社会、吉見俊哉、岩波書店、2009				

科目名	日本史基礎講義Ⅳ			期間	前期
担当教員	★黒瀬 にな	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	法と裁判から学ぶ平安・鎌倉時代				
到達目標	中世前期の訴訟制度について概要を理解している。先行研究を読み解き、自分の言葉で説明し、考えを述べることができる。前近代史に関心を持ち、本授業終了後の学修にも繋げていく意欲を有する。				
授業概要	日本中世史のうち、摂関期から鎌倉時代にかけての訴訟のあり方に注目します。日本古代・中世の法や裁判の歴史は、長らく律令法と鎌倉幕府法が主たる研究対象でしたが、近年では両者の間を埋める平安中後期についての研究が進んでいます。また鎌倉時代についても、朝廷・貴族・寺社の法を視野に入れ、社会全体に目配りして論じることができるようになってきました。本授業では、こうした研究成果に学びつつ、10世紀-14世紀の日本社会の変化を、訴訟という制度・現象を通して観察していきます。				
評価方法・基準	・平常点（授業に付随する小課題）：40%（提出状況を重視する） ・試験に替わるレポート（期末レポート）：60%（事前にルーブリックを公開する）				
履修上の注意事項等	・レジュメ等資料は、e-Learning にて配布します。詳細は追ってポータルサイト（本システム）の講義連絡等にてお知らせします。 ・「授業内容および学習課題」[予習・復習] 欄の記載内容のほか、予習課題や復習課題を出す場合もあります。				
テキスト	指定なし。レジュメを配付する。				
参考書	授業中に適宜紹介する。				

科目名	日本史基礎講義Ⅴ			期間	後期
担当教員	★長澤 一恵	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	国際社会におけるデモクラシーの形成と近代日本				
到達目標	①日本現代史の基礎的な知識や流れを学ぶ。 ②多様で重層的な社会構造や国際関係のなかで歴史を捉える相対化の視点を養う。 ③戦後に継承される民主主義や平和の意義について理解を深める。				
授業概要	明治維新後の開国により近代国家として出発した日本は、大日本帝国憲法のもとで大正デモクラシー期には民衆の社会要求や権利意識の高まりを背景として多彩な言論や社会運動を展開し、政党政治の成立へと結実するとともに、一方で差別や植民地支配、戦争、移民問題など複雑で多面的な課題を抱える社会であった。講義では、こうした内外の問題を広く捉えながら、近代日本ではどのような「社会」の実現が目差されたのかを明治憲法体制および日本をとりまく国際社会との関わりから多角的に考察する。戦争・植民地統治・ナショナリズムといった20世紀が抱えていた諸問題の解決を模索するなかで社会が追求してきた民主主義や平和の価値を見つめ直すことによって、これからの国際社会のあり方を考える手がかりにしたいと考える。				
評価方法・基準	学習到達度確認40%（試験を行い、講義内容から知識問題、史料問題、論述問題など多角的に理解度を確認する）、授業中に提出する課題レポート30%（図書館・資料館・博物館および Web アーカイブ調査などを利用して積極的に学習し幅広い知識と深い理解を得たうえでレポートを作成する）、平常点30%（講義内容をノートに取るなど集中して理解を深めること）、を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	授業は幅広い歴史事象を勉強するための入り口に過ぎません。興味を持った事柄や問題は、歴史辞典や参考文獻、博物館などを活用して自分自身でどんどん学習を進めてください。また、世界史年表や地図を用意してこまめに確認することをおすすめします（出版社等の指定はとくにありません）。				
テキスト	教科書は使用せず、授業プリントを配布します。				
参考書	シリーズ日本近現代史 1～10巻、岩波新書〈新赤版・1042～1051〉、2006～2010 日本近代の歴史 1～6巻、吉川弘文館、2016～2017 日本の歴史 20～25巻、講談社、2000～2003				

科目名	東洋史基礎講義Ⅱ			期間	前期
担当教員	★川本 正知	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	イスラムの誕生とアラブの大征服				
到達目標	イスラム教とはどのような宗教であるかを知る。唯一神への信仰を基礎として形成された預言者ムハンマドの原初イスラム教団とアラブの大征服後に成立したイスラム法共同体との相違を実感することが特に重要である。前者は「信仰」がキーワードであるとするは後者は「法制度」である。また、イスラム化とはイスラムの法制度がある地域に定着していくことであり、西アジア・中央アジアにおいては8世紀の中頃から10世紀にかけて徐々に進展していった現象であることを理解する。				
授業概要	イスラム教は現在のアラビア半島西部のメッカという町に生まれた一神教である。イスラム教徒たちによれば、「預言者ムハンマド」が610年頃に「唯一の神」から受けるようになった「啓示」の内容はすべて聖典コーランに記録されており、その教えをもとに創造された宗教がイスラム教であるという。唯一の神とは、預言者とは、啓示とはなんだろうか。それらの宗教的概念を説明しながら、メッカおよび622年のヒジュラ（聖遷）後にムハンマドが居住したメディナ・オアシスの住民とがムハンマドの周りに一つの教団を形成していく過程を追っていく。 つぎに、632年にムハンマドが亡くなった後、後継者のカリフたちに率いられたアラブと呼ばれる遊牧民からなる軍隊による大規模な征服活動、それによりイスラム教団がカリフ帝国とよばれる巨大な国家に発展していく過程を追ってみよう。この「アラブの大征服」は大規模な軍事征服にすぎないが、これがイスラム化の端緒になり、以降10世紀には西アジア・中央アジアのあちこちにイスラム教徒共同体すなわちイスラム社会が出現することになる。この過程は軍事征服された広大な地域全体で進んだ。				
評価方法・基準	平常点50%（授業にたいする積極性、課題に真摯にとり組む姿勢を重視） 学期末のレポートにより学習到達度確認50%（イスラム教の世界史において果たした役割を理解しているかどうかを評価する）				
履修上の注意事項等	講義の内容を主体的に考える用意のない人は受講しないこと。講義は単に勉強の入り口にすぎないことを自覚すること。				
テキスト					
参考書	イスラム生誕、井筒俊彦、中央公論社、1990 ムハンマド時代のアラブ社会、後藤明、山川出版社、2012 中央アジアのイスラム、濱田正美、山川出版社、2008				

科目名	東洋史基礎講義Ⅲ			期間	後期
担当教員	★安田 純也	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	朝鮮半島の歴史				
到達目標	朝鮮半島の歴史の概要を習得する。				
授業概要	朝鮮半島の前近代の歴史を学ぶ。朝鮮半島では、中国大陸からの直接的な影響のもと、国家を形成し、展開してきた。日本とは同じ東アジア文化圏に属し、隣接する関係にある朝鮮半島の歴史を学ぶことは、日本の歴史をより深く理解することにもつながる。授業では、具体的な文獻や文物を取り上げつつ、朝鮮半島の歴史について論じる。				
評価方法・基準	小テスト40% 2回行う。授業内容の理解度と説明能力を審査する レポート課題20% 1回課す。指定の文獻を踏まえ、まとめる能力などを審査する 上記以外40% 質問、宿題など				
履修上の注意事項等	必ず初回から受講すること（ノート持参）。 教員への連絡方法は、初回のレジュメに掲載する。				
テキスト					
参考書	朝鮮の歴史、田中俊明、昭和堂、2008				

科目名	東洋史基礎講義Ⅳ			期間	前期
担当教員	★矢島 洋一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	イスラーム時代西アジア史				
到達目標	イスラーム成立以降の西アジア史について基礎的な知識を得る。				
授業概要	イスラーム時代西アジア史を概観する。7世紀から近現代にいたる西アジアの歴史を、特にイスラーム的社会制度や統治体制の成立と変容に重点をおきながら解説する。必要に応じて、中央アジア・南アジア・北アフリカ等周辺諸地域との関係についても言及する。				
評価方法・基準	授業課題 50%：毎回授業の最後に課題を設定し意見を求める。 学習到達度確認テスト 50%：最終回に授業の理解度を確かめるテストを行う。				
履修上の注意事項等	プリントは授業の補助資料にすぎないので、自分なりに授業内容を理解しノートをとること。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	岩波イスラーム辞典、大塚和夫ほか、岩波書店、2002				

科目名	東洋史基礎講義Ⅴ			期間	後期
担当教員	★矢島 洋一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	イスラームの多面的理解				
到達目標	イスラーム世界を様々な角度から見ることによってその多様性を理解し、イスラームを多面的に理解できるようになる。				
授業概要	一面的に理解されがちなイスラームを多面的にとらえるため、以下の三つの観点からイスラームを眺める。 (1) イスラームの教義 (2) 現代イスラーム世界の諸国家 (3) 日本とイスラーム世界との関わりの歴史				
評価方法・基準	授業課題 50%：毎回授業の最後に課題を設定し意見を求める。 学習到達度確認テスト 50%：最終回に授業の理解度を確かめるテストを行う。				
履修上の注意事項等	プリントは授業の補助資料にすぎないので、自分なりに授業内容を理解しノートをとること。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	岩波イスラーム辞典、大塚和夫ほか、岩波書店、2002				

科目名	西洋史基礎講義Ⅰ			期間	後期
担当教員	足立 広明	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	女性聖人の時代：古代末期				
到達目標	キリスト教成立期の女性の果たした役割について理解する。				
授業概要	古代末期の地中海世界では「異」教とキリスト教を問わず、地上の人間世界の再生産よりも、天上での個別の救済を尊ぶ禁欲的な思潮が高まりを見せた。このなかで女性は地上の肉欲的な誘惑や罪の源として忌避される傾向が強まったが、逆に宗教的修行に身を投じることで、地上の父権制的な家族関係を離れ、社会的行動の自由を拡大して、聖なる存在として尊敬を集めた女性もいたように思われる。本講義は、こうした女性を中心に、西洋史上の大きな文化変容の時代である古代末期に女性が果たした役割について考察する。				
評価方法・基準	小レポート、授業態度などによる平常点50%、定期テスト50%。小レポート、テストは授業内容の理解度、論理的な構成でわかりやすく書けているかが基準となる。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書					

科目名	西洋史基礎講義Ⅱ			期間	後期
担当教員	★久保 利永子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	近世イギリスにおける共同体と経済				
到達目標	18世紀のイングランドにおける民衆の生活世界に注目し、社会的事件の背景にある秩序とそれを支える経済の仕組み、価値観、社会通念を理解する。				
授業概要	18世紀のイングランドでは食糧暴動が頻発していた。穀物業等に宛てた様々な脅迫状や民衆による市場の占拠や穀物輸送船の拿捕、穀物の略奪といった具体的な面から考えると、こうした騒擾は飢えた民衆による「暴動」と呼べそうだ。しかし、それは本当に飢餓で自暴自棄に陥った人々による無秩序な暴力の爆発だったのだろうか。本講義では工業化以前の民衆の生活世界を理解しながら、彼らの「集団行動」とその根底にある慣習的価値観やルールを考察し、人々の生活と市場（経済構造）の関係に対する理解を深める。				
評価方法・基準	授業毎の課題（70%）と期末レポート（30%）。課題は講義に取り組む姿勢や講義内容の理解などを重視し、期末レポートは必要かつ適切な情報に基づく議論を論理的に展開しているかを評価する。				
履修上の注意事項等	・講義時に配布される教材（プリント）を活用して積極的に予習・復習（授業毎の課題）を行うこと。 ・e-ラーニングシステムで配布される参考資料にも適宜目を通すこと。 ・授業毎の課題の提出期限は厳守すること。				
テキスト	毎回プリントを適宜配布する				
参考書	講義時に適宜紹介する				

科目名	西洋史基礎講義Ⅲ			期間	前期
担当教員	★佐藤 専次	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	中世都市の形成と中世後期の都市社会				
到達目標	中世都市の形成、中世後期ドイツの都市社会の構造ならびに都市民の日常生活を理解する。				
授業概要	11、12世紀から16世紀にかけてのヨーロッパ、とくにドイツ都市を対象に、都市共同体の形成、都市指導層、ツunftと手工業者、都市民の生活、乞食・娼婦などの周縁集団、都市における犯罪について論じる。				
評価方法・基準	学習到達度確認80% 講義内容を的確に理解し、かつそれを正確に文章化できるかで判断する。 小テスト20% 講義内容について、感想・質問を書いてもらう。それによって講義をいかに理解できているかを判断する。				
履修上の注意事項等	高等学校の世界史Bの知識が前提となる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	西洋史基礎講義Ⅳ			期間	後期
担当教員	★山内 暁子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	古代ギリシアにおける死生観と儀式				
到達目標	古代ギリシア社会を学ぶことで自らを客観視する視座を獲得し、史料に基づいた歴史像を持つようになること				
授業概要	本講義では、古代ギリシアの市民社会における様々な儀式や祭典について考察を試みる。歴史学の基本である文献史料だけでなく、遺物や遺跡、また画像などの「モノ」資料も使用する。それによって現段階で史料から読み取れることを考察し、さらなる展望について検討する。歴史学の基本的な史料解釈に始まり、現代的・学際的な研究方法についても目を向けながら、様々な歴史考察の可能性を考えてみたい。				
評価方法・基準	授業中に与えられる課題2回(25点×2)と、最終課題(30点)を評価の中心とします。最終課題については、提出していない受講者は単位取得意思がないものとみなしますので、提出をお願いします。Google Classroomで質問や感想を受け付け、私が回答しつつ、ディスカッションになるようにしたいと考えています。Google Classroomへの「質問・感想」の書き込みも評価の対象(20点)となるので、頑張ってください。				
履修上の注意事項等	テキストは指定しませんが、参考文献は適宜紹介します。また、PDFにリンクされている画像や動画などの関連資料を見ることで、学習内容を定着させるようにして下さい。				
テキスト					
参考書					

科目名	西洋史基礎講義Ⅴ			期間	後期
担当教員	★井福 剛	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	古代ローマの文化と社会の歴史的形成過程				
到達目標	古代ローマ史研究の現在の潮流を学習することで、古代ローマ史について基本的な知識を習得し、同時に歴史学の方法論について理解する。				
授業概要	本講義では、古代ローマ史研究の現在の潮流に関して学習することを通して、歴史学の史料の扱い方や解釈の方法と変遷について検討していく。そうすることで古代ローマの文化と社会について理解し、同時に歴史学の基礎的な方法論について理解を深めてもらいたい。				
評価方法・基準	講義内容について問う毎回の小レポート 50% (講義内容を理解しているかどうかを評価) 学期末レポート 50% (適切に情報を収集し、論理的に考えをまとめているかを評価) 出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として成績評価は行わない。				
履修上の注意事項等	初回ガイダンスにて成績評価、講義の概要、成績評価などについて説明する。				
テキスト	各回資料送信				
参考書	『文化史とは何か』、ピーター・バーク、法政大学出版局、2008 『古代ローマ帝国期における北アフリカ』、井福 剛、関西学院大学出版会、2019				

科目名	国際交流史特殊講義Ⅰ			期間	前期
担当教員	高橋 博子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	核時代を検証する：日米関係を中心に				
到達目標	核時代における日米関係を歴史的に理解し、史料の検証方法について学ぶことができる。				
授業概要	本講義では広島・長崎の原爆投下や冷戦下で実施された米核実験について、米公文書(マンハッタン計画文書・米原子力委員会文書・米務省文書など)と、被ばくした人々による証言に注目して検証する。また2017年7月に国連で採択され、2021年1月に発効した核兵器禁止条約など、核廃絶に向けての具体的な動向について取り上げる。さらに米国における原爆・核関連資料の状況について取り上げ、核の時代における日米関係を理解する。				
評価方法・基準	「核の戦後史」についてのレポート(40%)。「核時代を考える」についてのレポート(40%) そのほかコメント(20%) レポートの評価方法は以下の点を重視する。 ・課題を読んでいるか ・自分の視点で論述しているか ・論拠を示し、説得力があるか ・歴史的探究心があるか				
履修上の注意事項等	E-learningシステムに登録しておくこと。またネット環境を整えておくこと。				
テキスト	核の戦後史、木村 朗・高橋博子、創元社、2016 核兵器はなくせる、川崎 哲、岩波書店、2018				
参考書					

科目名	国際交流史特殊講義Ⅱ			期間	後期
担当教員	★川本 正知	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	中央アジアの歴史ー中央アジアにおける国民国家の成立ー				
到達目標	この講義は、中央アジアの民族、イスラム教、ロシア、中国による植民地化の諸相などの問題をあつかい、私たち日本人がそれによりにどのように向き合っていかなければならないかを考えるための基礎的な知識や情報を得ることを目標とする。				
授業概要	中央アジアとは歴史的にいかなる地域であるかをさまざまな角度から概説する。特に乾燥地帯としての生活の特徴、オアシスおよびオアシス都市のあり方、山間部および砂漠に住む遊牧民の生活、多くの宗教共同体の存在など、今日の中央アジアとその歴史を考える上において基礎的な知識をまず確認する。次に、それらの基礎的な地理的概念の上に、1991年に独立した5つの「国民国家」について国家、国民、民族、文化、伝統などの内容を明らかにしていく。次にこれらの基礎的な知識を前提として、中国に属する新疆ウイグル自治区のウイグル人問題、フェルガナ盆地の原理主義イスラムといったような中央アジアをめぐる今時の問題を解説する。				
評価方法・基準	平常点50%（授業にたいする積極性、課題に真摯にとり組む姿勢を重視） 学期末のレポートによる学習到達度確認50%（中央アジアとはどういった地域であるかを理解しているかどうかを評価する）				
履修上の注意事項等	講義の内容を主体的に考える用意のない人は受講しないこと。講義は単に自らの勉強の入り口にすぎないことを自覚すること。				
テキスト	なし				
参考書	現代中央アジア、オリヴィエ・ロワ著（斉藤かぐみ訳）、白水社、中央アジアを知るための60章、宇山智彦（編）、明石書店、中央アジアのイスラーム、濱田正美、山川出版、				

科目名	国際交流史特殊講義Ⅲ			期間	後期
担当教員	山口 育人	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	イギリス帝国史を通して理解する西洋近現代史の諸テーマならびに研究アプローチ				
到達目標	①西洋近現代史における諸テーマについて理解する。 ②歴史学の研究アプローチ・手法を理解する。				
授業概要	16世紀から20世紀末にいたるイギリス帝国史を題材にしなから、西洋近現代史における諸テーマを紹介し、また歴史研究における主要なアプローチ・手法を説明する。				
評価方法・基準	・各回ともテキストをまとめた「レジュメ」を作成して授業に臨むこと。「レジュメ」の準備・適切さを評価する。 ・各回授業後、「授業のまとめ」を作成すること。「まとめ」の適切さを評価する。				
履修上の注意事項等	テキストは必ず入手してください。				
テキスト	イギリス帝国の歴史、秋田茂、中央公論新社、2012				
参考書					

科目名	国際交流史特殊講義Ⅳ			期間	前期
担当教員	★久保 利永子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	植物を通してみる人とモノの交流史				
到達目標	植物というモノの移動を通して、そこに関わる人的交流、物質的交流を当時の社会状況との関係に照らして考察し、理解を深める。				
授業概要	啓蒙の時代（18世紀）のヨーロッパでは科学的関心によって国境を越えて結ばれた人的ネットワークが存在した。スウェーデンのカール・リンネは精力的に植物分類体系の構築に取り組み、彼の弟子たちは植物標本採集のために世界各地へ旅立った。植物園は最先端の科学研究の舞台となり、19世紀になると園芸業者やプラントハンター（植物採集者）が世界を舞台に活躍するようになる。本講義ではヨーロッパ、アジアなど異なる地域の人々が植物を通してつながり、モノやコトの交流が行われる様子を社会的に考察する。				
評価方法・基準	授業毎の課題（70%）と期末レポート（30%）。課題は講義に取り組む姿勢や講義内容の理解などを重視し、期末レポートは必要かつ適切な情報に基づく議論を論理的に展開しているか評価する。				
履修上の注意事項等	・講義時に配布される教材（プリント）を活用して積極的に予習・復習（授業毎の課題）を行うこと。 ・e-ラーニング経由で配布される参考資料も自主的に活用すること。 ・課題の提出期限は厳守すること。				
テキスト	毎回、教材（プリント）を配布する				
参考書	講義中に適宜紹介する				

科目名	国際交流史特殊講義Ⅴ			期間	前期
担当教員	★長澤 一恵	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	国際社会における「平和」の模索と近代日本				
到達目標	①日本近代史の基礎的な知識や流れを学ぶ。 ②大正デモクラシー期に展開した国際・平和主義について、明治憲法体制及び国際社会との関わりをなかで理解する。 ③戦後に継承される民主主義や平和の意義について理解を深める。				
授業概要	20世紀は戦争の時代であったといわれる。戦争ごとに社会は大きく様変わりしたが、同時に国際社会における「平和システム」の構築も飛躍的な発展を遂げる。第一次世界大戦後には「平和14カ条原則」提唱にみられるような社会改善や人権保障についての議論が世界的規模で進展するが、これと期を同じくして展開した大正デモクラシー期の日本社会ではどのような「社会」が目指されたのかを、明治憲法体制および日本をとりまく国際社会との関わりから考察することが講義の課題である。 戦争・植民地統治・ナショナリズムといった20世紀が抱えていた諸問題の解決を図るなかでは、様々な国際社会での議論や市民レベルでの取り組みがあったことを学ぶとともに、そこで追求されてきた民主主義や「平和」の価値を見直すことによって、これからの国際社会のありかたを考えたい。				
評価方法・基準	学習到達度確認40%（試験を行い、講義内容から知識問題、史料問題、論述問題など多角的に理解度を確認する）、授業中に提出する課題レポート30%（図書館・資料館・博物館およびWebアーカイブ調査などを利用して積極的に学習し幅広い知識と深い理解を得たうえでレポートを作成する）、平常点30%（講義内容をノートに取るなど集中して理解を深めること）、を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	授業は幅広い歴史事象を勉強するための入り口に過ぎません。興味を持った事柄や問題は、歴史辞典や参考文献、博物館などを活用して自分自身でどんどん学習を進めてください。また、世界史年表や地図を用意してこまめに確認することをおすすめします（出版社等の指定はとくにありません）。				
テキスト	教科書は使用せず、授業プリントを配布します。				
参考書	シリーズ日本近現代史 1～10巻、岩波新書〈新赤版・1042～1051〉、2006～2010 日本近代の歴史 1～6巻、吉川弘文館、2016～2017 日本の歴史 20～25巻、講談社、2000～2003				

科目名	日本史特殊講義Ⅰ			期間	前期
担当教員	井岡 康時	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	差別と排除の地域史—共同幻想の軌跡をたどる—				
到達目標	人間関係のなかにしばしばあらわれる差別、排除などの現象について、その背景や歴史などを深く理解するとともに、豊かな人権感覚を身につける。				
授業概要	容易に克服できない差別や排除の意識の歴史をたどる。近現代の部落問題に多くの時間をあてることになるが、その理解を深めるために、前近代の社会史や世界の多様な差別にも視野を広げ、多角的に解明していく。こうした学びを踏まえて差別を克服する道筋について考えを深めていきたい。なお、この科目は、実務経験のある教員が授業を担当する。担当教員が、企業や団体等の現場における人権啓発に従事した経験もふまえて授業を進めていく。				
評価方法・基準	質問に対する応答、コメントシートの記述などから授業に対する積極性を評価する(30%)。期末レポートの提出を求め、問題意識や論理的な展開などを総合的に評価する(70%)。				
履修上の注意事項等	現代的な課題に直結する問題を扱うので、日本をはじめ世界の差別や排除に関する報道などには日頃から留意して読んだり、視聴しておいてほしい。				
テキスト	担当者より資料を配付する				
参考書	授業中に適宜示す。				

科目名	日本史特殊講義Ⅱ			期間	前期
担当教員	外岡 慎一郎	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	関ヶ原合戦を素材に「人と時代」を考える				
到達目標	われわれが認識している「史実」が、その時、その人、その場において存在した様々な可能性、未来予想図のなかの、きわどく選ばれたひとつの結果であることを、著名な「関ヶ原合戦」を素材に考え、歴史を学ぶ意義を心に刻むこと。				
授業概要	近年の研究によって、その評価が大きく変わろうとしている「関ヶ原合戦」。研究の最前線を見つめながら、合戦にかかわった人々の、その時、その場の選択がどのように収斂して家康勝利という結果が誕生していくのか、講じていく。				
評価方法・基準	対面授業と並行してe-learningに各回(第2講~第14講)を掲示する。その総合点(素点合計)により成績評価する。				
履修上の注意事項等	授業欠席の場合は原則課題提出を認めないので注意すること。各回課題の素点評価基準や、やむをえない欠席についての対応など、詳細は初回授業日に連絡する(e-learningにも掲示)。				
テキスト	各回PPTデータを用意する				
参考書	「関ヶ原」を読む, 外岡慎一郎, 同成社, 2018				

科目名	日本史特殊講義Ⅲ			期間	後期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	近世日本の貧困から現代社会を考える				
到達目標	貧困の問題を歴史的にとらえる視点と発想、実証方法を考えながら、現代社会に対する見方を鍛えあげる				
授業概要	21世紀の日本は、世界に冠たる「自己責任大好き」社会であり、貧困の公的救済に対して非常に冷たい社会となっている。その歴史的背景に何があるのかを、17世紀以来の長期的かつ比較史的な目線で検討し、貧困救済をめぐる現代日本社会の歴史的な位置を考察していきたい。				
評価方法・基準	期末レポート				
履修上の注意事項等					
テキスト	毎回プリントを配布				
参考書	授業中に紹介				

科目名	日本史特殊講義Ⅴ			期間	前期
担当教員	★安田 真紀子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	交通の発達と近世社会				
到達目標	江戸時代の社会における交通の役割について理解するとともに、史料を読み解いて考察する力を修得する。				
授業概要	江戸時代、街道が整備され交通が発達するに伴い、産業・経済・文化が飛躍的に発展する。一方で、交通の発達によって新たな社会問題が生じる。本講義では、江戸時代の陸上交通に焦点を当て、近年拡がりをみせる交通史研究の成果を紹介しながら、史料を用い、近世社会において交通がいかに機能し、庶民生活や地域社会にどのような影響を与えたのかを考察する。				
評価方法・基準	授業期間内に課すレポート70%(講義の内容を正確に把握し、問題意識を持って自分の考えを適切に論じることができているかを総合的に評価する)、授業中随時行う課題30%(基本的な語句の理解、史料内容の理解など講義内容の理解度を確認する)によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	プリントを配布する				
参考書	授業中に紹介する				



科目名	日本史特殊講義Ⅵ			期間	後期
担当教員	★出水 清之助	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	近世近代移行期における政治社会の形成と「政党」				
到達目標	①19世紀における日本社会の変化について大まかな流れを理解できる。 ②上記を通じて、現在の社会を歴史的な視座から考えるための視点を養う。				
授業概要	19世紀後半の日本で起こった明治維新は、身分制社会を解体するとともに、新たな政治社会の形成を促しました。この授業では、近世から近代にかけて、社会のあり方がどのように変容したのか、いかなる政治社会が模索されたのかについて、具体的な事例から検討していきます。その際、特に明治期における「政党」の形成過程に注目していきます。西洋からもたらされた「政党」が、いかなる社会的な軋轢を引き起こしながら、日本社会に定着していくのか。理念と実態の両側面に目を配りながら、その足跡を追っていきます。				
評価方法・基準	①学期末レポートの提出(70%) 授業内容を踏まえつつ、自身の考えを論理的に説明できているかが評価のポイントとなります。 ②コメントペーパーによる意見・質問の提出(30%) 興味深かった点、疑問に思った点、考えたことなどを、自身の言葉で書けているかが評価のポイントになります。				
履修上の注意事項等					
テキスト	毎回プリントを配布するため、使用しない。				
参考書	日本政党史、季武嘉也ほか、吉川弘文館、2011 町村合併から生まれた日本近代：明治の経験、松沢裕作、講談社、2013 帝国議会—西洋の衝撃から誕生までの格闘—、久保田哲、中央公論新社、2018				

科目名	日本史特殊講義Ⅶ			期間	前期
担当教員	★吉江 崇	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本古代の国家と政治—律令国家の変化—				
到達目標	日本古代史における正確で幅広い知識を獲得するとともに、これまでの研究の流れを自分の力で整理し、それらを客観的・批判的に把握して、自らの歴史像を組み立てるための技術を習得する。				
授業概要	日本における古代国家の様相を政治史という側面から把握し、古代日本の特質について理解することを目的とする。律令国家が変質をはじめた8世紀後葉から9世紀前葉の政治動向を取り上げ、先行学説を紹介するとともに批判的に検証を行う。こうした作業を通じて、国家の様相やその変遷を客観的に捉える視座を養うことを目指す。				
評価方法・基準	講義内容のまとめを行う小レポートの提出およびその成績40%、講義内容の理解及びそれに関する自身の考えの獲得を論述形式で問う学習到達度確認60%				
履修上の注意事項等	講義形式で授業を行う				
テキスト					
参考書	摂関政治、古瀬奈津子、岩波新書、2011				

科目名	日本史特殊講義Ⅷ			期間	後期
担当教員	★山本 祥隆	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	発掘調査や木簡等から読み解く奈良時代史				
到達目標	日本史の中における奈良時代史の位置付けを考える。また、発掘調査成果や木簡等を中心に据えた考察から生きた歴史像を構築し、理解することを目指す。				
授業概要	日本史の中において古代、特に奈良時代史はユニークかつ重要な位置を占め、研究対象として好適である。また、奈良時代史を考究することは他の時代や地域の歴史に対する理解の相対化や深化にも資する。本講義では、講師が実際に携わった発掘調査の成果や平城宮・京跡出土木簡等に基づき、より生き生きとした歴史像の構築を目指すことにより、奈良時代史に対する理解を深めることを目標とする。また、歴史の舞台となった奈良で学べる利点を活かすため、学外実習も積極的に行うことを計画している。				
評価方法・基準	期末に、古代史に関するレポートの提出を課す。自ら課題を設定し必要な情報を収集できているか、自分の考えを展開できているかなど、オリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	テキストは使用せず、必要に応じて資料を講義の際に配布する。参考書等は下記以外にも適宜紹介するので、予習・復習等に活用すること。学外実習を3回程度予定しているが、必ずしも上記の回に行うわけではない。				
テキスト	なし				
参考書	平城京一三〇〇年「全検証」奈良の都を木簡からよみ解く、渡辺晃宏、柏書房、2010 奈良の都の暮らしぶり～平城京の生活誌～、奈良文化財研究所編、株式会社クパプロ、2021 木簡 古代からの便り、奈良文化財研究所編、岩波書店、2020				

科目名	日本史特殊講義Ⅸ			期間	後期
担当教員	★酒匂 由紀子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本中世後期研究の諸問題				
到達目標	中世後期に関する様々な分野の研究を史学的に捉えて研究史の構造を理解すること。及び、近年の研究動向を理解することが目標である。				
授業概要	近年、日本中世後期の研究は目覚ましい進展を遂げている。今そのような状況になっていることについて、この授業では、そうした研究がどのようにして先行研究を乗り越えているのかということを検証する。授業で配布するレジュメには参考文献を記しておくので、復習として読んでおくように。				
評価方法・基準	評価は期末レポートにて行う。レポートの評価基準は以下の通り ・講義の内容を理解しているかどうか ・課題文献を正確に読解できているかどうか ・必要な情報を文献から収集し、自らの意見を表現できているかどうか ◎毎回授業後にコミュニケーションペーパーの提出を課すが、そこで研究史上の大きな問題に繋がる問題提起や考察を論じた者には、期末レポートの点数に加点を行う。				
履修上の注意事項等	6回以上欠席した者には単位を出さない。				
テキスト	無し				
参考書	論点・日本史学、岩城卓二 他編著、ミネルヴァ書房、2022 日本中世史入門：論文を書こう（増補改訂新版）、秋山哲雄 他編著、勉誠出版、2021 荘園研究の論点と展望：中世史を学ぶ人のために、鎌倉佐保 他編著、吉川弘文館、2022				

科目名	東洋史特殊講義Ⅰ			期間	前期
担当教員	★安田 純也	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	高麗王朝の歴史を学ぶ				
到達目標	(1) 朝鮮史の研究動向と手法を習得する。 (2) 歴史を多角的にとらえる見方を身につける。				
授業概要	この授業では、朝鮮半島の歴史の形成、展開を振り返るが、今年度は高麗王朝を取り上げる。高麗は約500年の長きにわたって朝鮮半島を支配した王朝であり、朝鮮の伝統文化と中国から伝来した文化が調和をなした時代である。また、高麗の文化財の多くは日本列島各地に伝存しており、高麗は日本と関わりの深い王朝である。 授業では、韓国、日本の学界における研究成果を踏まえつつ、高麗王朝の歴史について論じる。				
評価方法・基準	小テスト40% 2回行う。理解度と説明能力を審査する レポート20% 1回課す。指定の文献を踏まえ、まとめる能力などを審査する 上記以外40% 質問、宿題など				
履修上の注意事項等	必ず初回から受講すること（ノート持参）。 教員への連絡方法は、初回のレジュメに掲載する。 前年度の東洋史基礎講義Ⅲを履修した上で受講することが望ましい。未履修の場合には、参考書（田中俊明『朝鮮の歴史』等）を一読した上で受講すること。				
テキスト					
参考書	朝鮮の歴史、田中俊明、昭和堂、2008 世界史史料4、歴史学研究会、岩波書店、2010				

科目名	東洋史特殊講義Ⅱ			期間	前期
担当教員	★飯田 祥子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	中国古代の王朝交替期における政治と社会				
到達目標	中国古代における、王朝交替期の政治と社会の変動について、史料と研究史に基づいた理解をする。王朝や政権の交替・変動期における政治や社会の動きを、先行研究に基づいて整理できるようになる。				
授業概要	日本の歴史に親しんできたものにとって、中国の歴史とは、王朝が興亡することが一つの特徴であるように思える。なぜ中国では、王朝が成立しては滅亡するのだろうか？このような政治や社会の混乱期について考察する場合、どのような問題に注意すべきなのだろうか？この授業では、古代の王朝交替期である、前漢末期から後漢成立期（前1世紀後半～後1世紀前半）、および後漢後期・末期（後2世紀後半～3世紀初）を中心に、『漢書』『後漢書』『三国志』等の歴史書に基づいて、王朝・政権の興亡を担った人の動きに注目して、政治と社会の状況を考察する。中国古代の事例を理解することによって、受講生各自の関心・研究課題への理解を深めてほしい。なお配布資料に掲載する史料は漢文原文と現代日本語訳を用いる。				
評価方法・基準	平常点（授業時提出物）30%…語句クイズ（前回授業の理解度）、コメント（問題意識・意欲） 小テスト（第15回実施予定）20%（基本的な語句の理解度） レポート50%（到達目標の達成度）				
履修上の注意事項等	初回ガイダンスで、受講における注意事項や、成績評価方法などについて説明する。欠席すると不利益になる可能性がある。板書の撮影は禁止する。なお欠席届を提出しても、評価には影響しない。				
テキスト	なし				
参考書	秦漢帝国、西嶋定生、講談社、1997 王莽—儒家の理想に憑かれた男、東晋次、白帝社、2003 漢新時代の地域統治と政権交替、飯田祥子、汲古書院、2022				

科目名	東洋史特殊講義Ⅲ			期間	後期
担当教員	★阿久根 晋	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	東アジア世界をめぐるイエズス会士群像				
到達目標	東アジア各地の政治・社会・交易状況を踏まえつつ、イエズス会のカトリック布教史を俯瞰的かつ多面的に捉える。テキストおよびヴィジュアル史料の成立背景、特色、アジア史研究への活用法を知る。				
授業概要	いわゆる「大航海時代」、ポルトガルとスペインがアフリカ・「新世界」（アメリカ）・アジアの各地で勢力拡大を図るなか、カトリックの諸修道会も海外ミッションの推進に努めた。なかでも新興のイエズス会は、活動領域の広がり、先駆的な布教戦略と通信システム、残した記録の豊かさなどの点でユニークな存在であった。本講義では、16・17世紀の東アジア世界におけるイエズス会士の多面的な活動を追いかけ、そこで見られた東西文化の接触・衝突・融和について探究する。				
評価方法・基準	*平常点40%…コメントシートの記入（授業内課題）、授業への積極的参加（発問への応答など） *期末レポート60%…独自のテーマ設定、課題解決に向けた適切な文献の活用、全体の構成・叙述面などの観点から評価				
履修上の注意事項等	*近世中国・日本・東南アジア史、とくにヨーロッパ勢力との関係史について、既習事項を確認しておくこと。 *各回の授業で紹介する参考文献から授業内容の理解を補いつつ、レポート作成の準備を進めること。 *4回以上の欠席は成績評価の対象外となる。				
テキスト	配布資料とプレゼンテーションスライドを使用				
参考書	近世の帝国の繁栄とヨーロッパ（アジア人物史7）、青山亭ほか（編）、集英社、2022 イエズス会と中国知識人（世界史リフレット109）、岡本さえ、山川出版社、2008 西欧文明と東アジア（東西文明の交流5）、榎 一雄（編）、平凡社、1971				

科目名	東洋史特殊講義Ⅳ			期間	後期
担当教員	★谷口 淳一	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	13-14世紀の西アジア				
到達目標	政治・軍事、国家体制、社会の諸相に目を配りながら、13-14世紀のエジプトとシリアを中心に西アジア史の基本的な流れを把握し、この時代の歴史的な位置づけを理解する。				
授業概要	西アジアでは、10世紀にアッバース朝国家が解体した後、新たな国家や社会のしくみが形成されていった。マムルーク朝時代の前半にあたる13世紀後半から14世紀は、その新たな国家体制と社会のしくみが一通り完成をみた時期にあたる。本講義では、この時期におけるエジプトとシリアの歴史を、政治、軍事、国家体制、社会など複数の側面から論じる。ただし、それ以前の時代との関係の理解を深めるために、最初の3回は、イスラムが創始された7世紀から13世紀に至る西アジア史の概略を説明する。				
評価方法・基準	毎回の授業最後の10分間程度で実施する小論述で評価する（100%）。講義内容を正しく理解しているか、自分の考えや感じたことを記しているか、達意の文章となっているか等を評価する。				
履修上の注意事項等	高等学校の「世界史」で学ぶ程度の内容については、説明を省略または簡略化することがあります。授業で聞き慣れない固有名詞や用語が多いと感じる学生は、参考書などを利用して基礎知識を得るよう努めてください。				
テキスト	毎回、授業内容の梗概（レジュメ）を配布する。				
参考書	岩波イスラム辞典、大塚和夫ほか、岩波書店、2002 新イスラム事典、日本イスラム協会ほか、平凡社、2002				

科目名	西洋史特殊講義Ⅰ			期間	前期
担当教員	★坂元 正樹	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	西洋における娯楽の発達 ～大衆化と商業化～				
到達目標	19世紀前後における娯楽の発達と多様化についての知識をひろめながら、多様な娯楽が氾濫する現代に生きる人間として、娯楽についての見識を深める。				
授業概要	本講義では、西洋で18世紀後半から20世紀初頭にかけて発達していった各種の娯楽について、それらを成り立たせた社会的背景、技術（テクノロジー）の発達、興行や芸術活動の発展、などのテーマと関連づけて、紹介していく。 また、講義全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。過去の娯楽について考えることを通して、現代における娯楽について考えを深める力を養う。				
評価方法・基準	レポート：40%（授業内容を踏まえた上で、自分なりの問題意識からテーマを設定して、調査・論述してもらう。） 平常点：60%（毎回、授業内容に沿った簡単な課題を提示する。）				
履修上の注意事項等	特になし				
テキスト	毎回プリントを配布する。				
参考書	適宜授業中に提示する。				

科目名	西洋史特殊講義Ⅱ			期間	後期
担当教員	★佐藤 専次	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	中世ヨーロッパにおける誓約団体の展開				
到達目標	誓約団体の展開を通してヨーロッパ中世社会の特質を理解する。				
授業概要	ヨーロッパ中世に現れる多様な社会集団は、しばしば誓約を媒介して成立した。その初期においてはフランク王国の在地ギルド、中世盛期以降になると都市・農村のコミュニティ、教師・学生の共同体である大学も誓約団体であり、さらにスイスという国家そのものも誓約団体から始まっている。ヨーロッパ中世では、このような誓約団体（コンユラティオ）の広範囲な展開からギルド、都市共同体、大学、国家など独特な制度が生まれた。講義では、中世における誓約団体の展開について論じ、誓約とはヨーロッパ中世の人々にとって、どのような意味を持っていたのかについて述べる。				
評価方法・基準	学習到達度確認80% 講義内容を的確に理解し、かつそれを正確に文章化できるかで判断する。 小テスト20% ほぼ毎回、講義内容について感想・質問を書いてもらう。これによって、講義をいかに理解したかを判断する。				
履修上の注意事項等	高等学校の世界史Bの知識が前提になる。				
テキスト	なし				
参考書	教養のための西洋史入門、中井義明・他、ミネルヴァ書房、2016				

科目名	西洋史特殊講義Ⅲ			期間	後期
担当教員	★久保 利永子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	イギリスにおける近代スポーツ文化の形成				
到達目標	「スポーツ」という身近な行為を手がかりに、ひとつの概念が変化していくさまを、それを取り巻く社会の変化との関連において理解する。				
授業概要	sportとは何だろうか。英語の sport は「スポーツ」という日本語の単語から連想されるような競技種目のみを指す言葉ではない。今日身近な競技スポーツの多くは19世紀のイギリスで成立し、その後世界中へ伝播した歴史的経緯を持つが、近代以前にも sports は存在した。本講義では18、19世紀のイギリスにおける多様な「スポーツ」の在り方とその社会的意味を考察し、「スポーツ」というひとつの文化が同時代の多様な社会的要因とのせめぎあいの中で変容するメカニズムについても理解を深める。				
評価方法・基準	授業毎の課題（70%）と期末レポート（30%）。課題は講義に取り組む姿勢や講義内容の理解などを重視し、期末レポートは必要かつ適切な情報に基づく議論を論理的に展開しているか評価する。				
履修上の注意事項等	・ 講義時に配布される教材（プリント）を活用して積極的に予習・復習（授業毎の課題）を行うこと。 ・ e-ラーニング経由で配布される参考資料も自主的に活用すること。 ・ 課題の提出期限は厳守すること。				
テキスト	毎回、教材（プリント）を配布する				
参考書	講義中に適宜紹介する				

科目名	西洋史特殊講義Ⅳ			期間	前期
担当教員	★山内 暁子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	古代ギリシアにおける「身分」と社会				
到達目標	古代ギリシア社会を学ぶことで自らを客観視する視座を獲得し、史料に基づいた歴史像を持つようになること				
授業概要	本講義では、古代ギリシアの市民社会における様々な儀式や祭典について考察を試みる。歴史学の基本である文献史料だけでなく、遺物や遺跡、また凶像などの「モノ」資料も使用する。それによって現段階で史料から読み取れることを考察し、さらなる展望について検討する。歴史学の基本的な史料解釈に始まり、現代的・学際的な研究手法についても目を向けながら、様々な歴史考察の可能性を考えてみたい。				
評価方法・基準	授業中に与えられる課題2回（25点×2）と、最終課題（30点）を評価の中心とします。最終課題については、提出していない受講者は単位取得意思がないものとみなしますので、提出をお願いします。Google Classroomで質問や感想を受け付け、私が回答しつつ、ディスカッションになるようにしたいと思います。Google Classroomへの「質問・感想」の書き込みも評価の対象（20点）となるので、頑張ってください。				
履修上の注意事項等	テキストは指定しませんが、参考文献は適宜紹介します。また、PDFにリンクされている画像や動画などの関連資料を見ることで、学習内容を定着させるようにして下さい。				
テキスト					
参考書					

科目名	史料研究Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	村上 紀夫	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	近世古文書の整理・保存と取り扱いを学ぶ				
到達目標	1) 実物資料に直接触れ、適切な取り扱い方を身につける。 2) 古文書の目録作成の基本を身につける 3) くずし字で書かれた古文書の読解の基礎を身につける				
授業概要	資料の整理や展示作業を行う。大阪人権博物館での15年にわたる学芸員としての勤務経験に基づき、博物館などの文化財を扱う現場で必要とされる実践的な資料取り扱いのスキルを本学所蔵資料をつかって実習形式で学ぶ。				
評価方法・基準	史料取り扱いの習熟度(60%)…適切な取り扱い方を身につけられたか、古文書の目録作成の基本が身につけられたか、くずし字で書かれた古文書の読解の基礎を身につけられたか の3点を受講態度(積極性)や実習における資料取り扱いの習熟度、作成した目録カードの完成度などによって評価する。小テスト(40%) 各回実施する復習の小テストの結果により、基本的事項がどの程度身につけているかで評価する。				
履修上の注意事項等	実物資料の取り扱いに相応しい服装や格好、態度でのぞむこと。詳細は初回に説明。所蔵者宅での調査を想定した授業で遅刻厳禁。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、博物館の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	特に使用しない				
参考書	古文書はいかに歴史を描くのか、白水智, NHK 出版, 2015				

科目名	史料研究Ⅰ（二）			期間	後期
担当教員	渡辺 晃宏	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本古代の木簡を読む				
到達目標	日本古代の木簡について、文字の解読、および史料の読解力の向上のほか、資料としての木簡を総合的に理解できるようになることをめざす。				
授業概要	史学科所蔵の木簡レプリカ、及び木簡写真を用いた文字の解読や内容の検討、図版作成などを行います。本物の木簡は扱えませんが、実際に平城宮・京跡の発掘調査と木簡の整理・解読に従事してきた経験をふまえ、木簡の見方、調べ方、取り扱い方などの基礎的かつ実践的な授業を行います。数人ひと組の班ごとに実際に作業を行いつつ授業を進めます。教員の助言を得た自発的学習と、創意工夫に溢れる取組みに期待します。				
評価方法・基準	受講態度、作業における積極性、提出物(第14・15回で作成する図版と解説文)の内容などに基づいて、総合的に判断します。				
履修上の注意事項等	必要な資料をその都度配布します。受講できる学生数に限りがあります(30名以内)ので、予備登録を行ったうえで受講生を決定します。予備登録については、ガイダンスや掲示にしたがって遅れないようにしてください。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、平城宮・京跡の発掘調査とそこから出土した木簡の整理・解読に31年間にわたって従事した経験に基づき授業を実施します。なお、参考書のうち、「五體字類」と「日本古代木簡字典」は、授業中に使っていたらよいよう、受講人数分の用意があります。				
テキスト					
参考書	五體字類 改訂第3版, 高田竹山(監修), 西東書房, 2001 改訂新版 日本古代木簡字典, 奈良文化財研究所(編), 八木書店, 2013 木簡 古代からのたより, 奈良文化財研究所(編), 岩波書店, 2020				

科目名	史料研究Ⅱ			期間	後期
担当教員	山崎 岳	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	歴史研究のための漢籍文献学				
到達目標	漢籍文献を歴史研究に活用するための基本となる知識を習得する。				
授業概要	毎回、歴史上重要とされる漢籍史料を取りあげ、その概要について講義し、またその内容の一端を紹介する。資料は漢文の原文を現代語訳したものを、事前に電子データで配布する。受講者は指定された資料にあらかじめ目を通しておくことが求められる。				
評価方法・基準	平常点と筆記試験による。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

# 地 理 学 科 科 目





科目名	基礎演習Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	岩崎 敬二	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート（調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価）・発表（調査、構成と発表方法の工夫で評価）・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法、初年次教育を考える会、奈良大学、2022				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	北岡 一弘	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート（調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価）・発表（調査、構成と発表方法の工夫で評価）・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法、初年次教育を考える会、奈良大学、2022				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅰ（三）			期間	前期
担当教員	★田中 良	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート（調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価）・発表（調査、構成と発表方法の工夫で評価）・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法、初年次教育を考える会、奈良大学、2022				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅱ			期間	後期
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	2	配当年次	1
テーマ	地理学研究と社会との結びつきを理解する。				
到達目標	地理学研究の成果や方法が、どのように社会と結びついているかを理解するとともに、卒業後の進路について考える。また、目標とする進路に向けて、必要となる知識と技能を理解する。				
授業概要	さまざまな企業の関係者によるリレー方式の講義を受けるとともに、講師から提示された課題に取り組む。				
評価方法・基準	毎回の授業で配布する「レポート用紙」の記述内容を基に評価する。				
履修上の注意事項等	外部講師は企業の採用にかかわる人も多い。受講態度が将来に影響する可能性もあるので気を引き締めて受講すること。なお、授業の順番は本シラバス作成時における暫定的な順番であり、先方との調整によって順番が大きく入れ替わる可能性がある。				
テキスト					
参考書					

科目名	地理学入門			期間	前期
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	2	配当年次	1
テーマ	地理学の多様性について知る。				
到達目標	各教員の研究内容を知り、大学在学中における研究テーマのイメージをつかむ。				
授業概要	歴史的まちなみ・景観文化コース、地球環境・自然災害コース、都市農村・観光交通コース、GIS・データサイエンスコースの4つのコースごとに、地理学科の教員らがそれぞれのコースの特徴やゼミについて紹介する。この授業を通して、大学4年間での研究テーマについてのイメージを持つ。				
評価方法・基準	毎回の授業終了時に講義内容の理解度を確認するコメントシートを配布し、そのコメントシートの内容について評価を行う。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	地理学実習 (一) 地理学実習 (二) 地理学実習 (三) 地理学実習 (四)			期間	通年
担当教員	三木 理史 土平 博 芝田 篤紀 酒井 高正	単位数	2	配当年次	1
テーマ	地理学研究の基礎的な知識と技能				
到達目標	地理学研究にとって必要な基礎的な技能の習得をめざす。				
授業概要	地域の諸現象をとらえるために必要な地域の概念、地域の分類、地域的分布に関する基礎知識を理解しつつ、地理学研究において必要となる基礎的な技術・方法を習得する。(一)～(四)を4名の教員が担当する。また習得した技術や方法を応用して地域調査レポートに取り組む。以下の通り実施する(オンラインでの実施を含む)。				
評価方法・基準	毎時間の授業時の取り組み状況と課題を総合して4名の担当者が評価する。説明内容にしたがって1年間履修すること。ガイダンスで具体的な評価方法は別途説明する。				
履修上の注意事項等	年度当初のガイダンスや第1回目の授業で日程および進め方(ノートPCの要否等)を説明する。説明内容にしたがって1年間履修すること。				
テキスト	ジオ・バルNEOー地理学・地理学便利帖ー, 野間晴雄ほか, 海青社, 2017				
参考書					

科目名	人文地理学Ⅰ			期間	前期
担当教員	稲垣 稜	単位数	2	配当年次	1
テーマ	地域は多様な姿を見せているが、そうした様々な地域事象についての人文地理学的な見方を提示する				
到達目標	私たちが生活している「地域」とは、一見、何の規則もなく存在しているように見えるが、その成り立ちにはさまざまな背景がある。そうした点を理解し、授業で得た知識や技能を柔軟に再構成して活用することができるようにする。				
授業概要	現代社会は、多様であると同時に共通性も持っている。こうした事象を理解しようとする、非常に多岐にわたる点を理解しなければならない。間口が広いといわれる地理学は、どこから入っていけばよいかにとまどう場合もあるが、この授業では、地理学に入門するにあたって、特に理解しておいた方がよいと思われるテーマを厳選し、基礎的な事象を中心に取り上げる。具体的には、この授業では、人口、小売業、サービス業、国土政策・地域政策、地域調査、地形図などをテーマに人文地理学的な考察を行う。				
評価方法・基準	「授業内での課題(小テスト)」をもとに総合的に評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	現代社会の人文地理学, 稲垣稜, 古今書院, 2014				
参考書					

科目名	人文地理学Ⅱ			期間	後期
担当教員	稲垣 稜	単位数	2	配当年次	1
テーマ	地域は多様な姿を見せているが、そうした様々な地域事象についての人文地理学的な見方を提示する				
到達目標	私たちが生活している「地域」とは、一見、何の規則もなく存在しているように見えるが、その成り立ちにはさまざまな背景がある。そうした点を理解し、授業で得た知識や技能を柔軟に再構成して活用することができるようにする。				
授業概要	現代社会は、多様であると同時に共通性も持っている。こうした事象を理解しようとする、非常に多岐にわたる点を理解しなければならない。間口が広いといわれる地理学は、どこから入っていけばよいかにとまどう場合もあるが、この授業では、地理学に入門するにあたって、特に理解しておいた方がよいと思われるテーマを厳選し、基礎的な事象を中心に取り上げる。具体的には、都市、郊外、観光、交通、工業、資源・エネルギー、地域調査などをテーマに人文地理学的な考察を行う。				
評価方法・基準	「授業内での課題(小テスト)」をもとに総合的に評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	現代社会の人文地理学, 稲垣稜, 古今書院, 2014				
参考書					



科目名	自然地理学Ⅰ			期間	前期
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	2	配当年次	1
テーマ	自然地理学の基礎の習得				
到達目標	1. 地球表層環境の特徴を理解できる。 2. 自然と人間とのかかわりを考えることができる。				
授業概要	本講義は、地形、気候、水文、植生、土壌など、自然地理学の基本的事項を概説していく。講義中に多くの図や写真を示し、視覚的に理解できるように努める。				
評価方法・基準	毎回の小課題（コメントシートまたは小テスト）30%（基本的な内容を理解しているかを確認）、学習到達度確認70%（講義内容を正確に把握できているかを確認）を基に総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	毎回教材を e-Learning で配布する。プロジェクターで投影した図表はあまり鮮明ではなく見えにくいいため、ノート PC やタブレット等を持参し、各自教材を閲覧しながら受講することが望ましい。				
テキスト	毎回教材を e-Learning で配布				
参考書	適宜紹介				

科目名	自然地理学Ⅱ			期間	後期
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	2	配当年次	1
テーマ	第四紀における自然環境の理解				
到達目標	1. さまざまな地域の自然環境の成り立ちや特徴を把握し、人々との関係を理解できる。 2. 身近な自然環境について調べ、考察することができる。				
授業概要	本講義は、「自然地理学Ⅰ」の内容（地形、気候、水文、植生、土壌など）を振り返りつつ、第四紀における自然環境の変化や成り立ち、人々の暮らしとの関係について紹介していく。講義中に多くの図や写真を示し、視覚的に理解できるように努める。				
評価方法・基準	毎回の小課題（コメントシートまたは小テスト）30%（基本的な内容を理解しているかを確認）、レポート70%（文章表現がきちんとしているか、独創的であるか、正確に情報収集できているか、論理的に述べているかを重視）を基に総合的に評価する。レポートは e-learning を通じて第14回までに提出する。				
履修上の注意事項等	毎回教材を e-Learning で配布する。プロジェクターで投影した図表はあまり鮮明ではなく見えにくいいため、ノート PC やタブレット等を持参し、各自教材を閲覧しながら受講することが望ましい。				
テキスト	毎回教材を e-Learning で配布				
参考書	適宜紹介				

科目名	地誌学			期間	前期
担当教員	古関 喜之	単位数	2	配当年次	1
テーマ	地誌学の視点と方法論的特徴について学ぶ。日本の地域像について理解を深め、地域の特性（地域性）を考える。				
到達目標	1. 地誌学の視点と方法論について理解できるようになる。 2. フィールドワークの方法と意義について理解できるようになる。 3. 日本を地誌学的に理解できるようになる。				
授業概要	地誌学の方法論的特徴を学んだ後に、地誌学的学習の第1歩としてのフィールドワークの実践法について解説し、日本の地域性について総合的に学習する。内容は日本の地誌を中心とし、後半で地域による違い（地域差）を学ぶために同じ東アジアの中国を取り上げる。各地域の地誌では、人口、風土、自然、災害、文化、環境と生活を観視したのち、国土開発、生業と産業、余暇と観光、地域活性化を中心に地域の経済発展について論じる。講義では、映像資料を見せながら、受講生が具体的に講義テーマを理解できるように努める。				
評価方法・基準	平常点50%（授業参加意欲、授業終了時の感想提出、授業内小テスト）、学習到達度確認50%（講義の内容を正確に把握しているかを論述形式で問う）で評価する。				
履修上の注意事項等	授業は講義形式で進めるが、学生との直接対話、感想やコメント等を活用し、理解度を把握しながら双方向的な授業を行う。学習到達度確認は「持ち込みなし」で行うので、相当時間の勉強が必要となる。なお、出席は単位認定の前提であり、3分1以上欠席した場合は不合格とする。				
テキスト	使用しない				
参考書	適宜紹介する				

科目名	地図学基礎			期間	前期
担当教員	土平 博	単位数	2	配当年次	1
テーマ	地図利用に必要な基礎知識				
到達目標	地図に基礎用語の正しい理解と地図利用の際に気をつけなければならない最小限度の知識を正しく理解すること。				
授業概要	地図は、地理学を志す者にとって地域や空間を理解するための重要な資料である。まずは地図の概念を知ることからはじめる。そのうえでさまざまな地図があることを知り、利活用するために必要な知識を習得していく。これまでは、紙地図の知識を習得していれば良かったが、近年、地図作成の過程と成果物には大きな変化がみられる。私たちは、これまで膨大に蓄積されてきた紙地図と近年普及した電子地図をそれぞれ相互に利活用する必要がある。それぞれの基礎的な知識をもち、使い分けていく必要がある。この講義は、作業を重視する「地理学実習」と関連づけながら、地図の基礎知識を学習していく内容である。				
評価方法・基準	平常点30%（簡単な質問に対する回答や授業への積極的な取り組みを重視する。）、課題及び小テスト30%（基本的な用語や講義内容の理解度を確認する。）、学習到達度確認40%（地図活用に向けた基礎知識が正しく理解できているかどうかを評価するために基本概念や語句の理解を問い、かつ論述形式による総合的な理解を問う。）によって評価する。				
履修上の注意事項等	期間中、指定教科書、事前配付資料、事後配付資料を相互に見比べて総合的な理解が必要である。博物館や資料館、また、WEB 上で公開されている絵図や地図の事例を積極的に見ることは授業内容の理解を一層深めることになる。				
テキスト	ジオ・パル NEO ー地理学・地域調査便利帖ー、野間晴雄ほか、海青社、2017				
参考書					

科目名	地理学講読・調査法（一）			期間	前期
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	2	配当年次	2
テーマ	地理学に必要な基礎的スキルの習得				
到達目標	文献を探して読む、資・試料を分析・解析する、図表を作成する、成果を報告・発表する力を身につける。				
授業概要	地理学の文献の探し方や読み方、調査方法を学んでいく。また、文献紹介を通して、プレゼンテーション能力を養っていく。なお、前期または後期のどちらかで小巡検を実施する。				
評価方法・基準	授業への参加度や発表、討論、課題など、日頃の取り組みを基に総合的に評価する。小巡検の参加を必須条件とする。				
履修上の注意事項等	特に指示がない限りは各自【ノートPC】を持参する。主体的な行動を心掛けるとともに、ほかの受講生や教員との対話を積極的に行ってほしい。授業時間以外の作業も必要となる。また、無断欠席は厳禁である。小巡検の日程や行き先等については授業中に指示する。				
テキスト	適宜配布				
参考書	適宜紹介				

科目名	地理学講読・調査法（二）			期間	前期
担当教員	木村 圭司	単位数	2	配当年次	2
テーマ	地理学の文献の探し方や読み方、発表方法などを学ぶ。また、実際に論文を読んで理解し、説明できる力をつける。さらに、基本的な統計解析やGIS・リモートセンシング・現地調査手法といった、地理学を学ぶ上で基礎的な調査法を習得する。				
到達目標	地理学を研究する上で必要となる論文を探して読む力、GISやリモートセンシングの基礎的な利用方法、統計解析方法、発表など表現方法に関して体得する。				
授業概要	受講生と相談の上、対面ゼミだけでなくリアルタイムweb授業にすることもある。地理学の基礎的な内容の文献を講読することに加え、作図に必要なGISやリモートセンシングの利用、統計データの基礎的処理方法を学ぶ。				
評価方法・基準	授業への参加度や取り組みなど日頃の取り組みと発表・レポートにより総合評価する。無断欠席・遅刻した場合には、単位を与えないことがある。特に発表日の無断欠席・遅刻は大幅な減点とする。また、発表を拒否した受講生や、小巡検に参加しなかった受講生は評価の対象としない。				
履修上の注意事項等	授業時間以外の予習、事前・事後の作業などが必須である。小巡検には必ず参加すること。日程・調査内容・行先などについては授業中に指示する。				
テキスト	特になし				
参考書	特になし				

科目名	地理学講読・調査法（三）			期間	前期
担当教員	稲垣 稜	単位数	2	配当年次	2
テーマ	地理学的調査のための基本的な手法、技術をマスターする。聞き取り調査、フィールドワーク、パソコンによる分析などを行う。				
到達目標	各自が問題意識をもち、自分で地理学的な問題解決ができるようにする。また、問題を正しく把握し認識する能力を身につけられるようにし、それを他人に対して正確に伝えられるようにする。				
授業概要	各自がテーマを設定し、それに関わる文献を収集し内容を整理し、最終的には現地調査とそのレポートを完成させていく。学術論文の精読、フィールドワーク、文献検索、パソコンの利用、統計の利用、調査手法についての演習を行う。特にフィールドワークと聞き取り調査は、地域の実態を理解するのに不可欠であり、主体的に取り組む必要がある。				
評価方法・基準	授業への参加度、レポート等で評価する。授業への参加度とは、各自の発表の内容、プレゼンテーションの仕方、他の学生の発表に対する質疑応答などに、積極的に参加しているか、である。				
履修上の注意事項等	授業への参加度、レポート等で評価する。パソコンを持参すること。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	地理学講読・調査法（四）			期間	前期
担当教員	古関 喜之	単位数	2	配当年次	2
テーマ	農村・農業分野に軸足を置きつつ、人文地理学全般に関わる文献の探し方や読み方、発表方法を学ぶ。人文地理学の学術論文を取り上げ、読む力をつけるとともに調査法も学ぶ。				
到達目標	1. 地理学研究をするうえで必要となる論文を探して読む力、発表する力を体得することができる。 2. 地域調査のための調査法を体得することができる。				
授業概要	地理学の学術論文の探し方や読み方、発表方法を学ぶ。「論文・本やデータを読む力、読んだ内容をレジュメにまとめる力、まとめた内容をわかりやすく発表する力、議論する力」といった3年生以降のゼミや卒業論文を書くときに必要な技術を習得する。また、地域構造や地域特性把握のための基本的な地域調査法を学ぶ。				
評価方法・基準	授業への参加度（議論に積極的に参加しているか）および発表の出来、提出されたレジュメの内容、課題・レポートなどを総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業の前・後の作業課題をこなすことや、論文を読んでおくことが必須である。毎回出席し主体的に行動し、3年次以降につなげていってほしい。				
テキスト	使用しない				
参考書	適宜紹介する				

科目名	地理学講読・調査法（五）			期間	前期
担当教員	土平 博	単位数	2	配当年次	2
テーマ	文献収集と地域調査の方法				
到達目標	文献の収集と講読、地域調査法の習得				
授業概要	地域調査時に必要な知識や技術を段階的に習得していく。まずは、対象地域の設定や地理的な基礎情報の入手方法、地図・空中写真の扱い方、文献の読み方やまとめ方を身につける。そのあと、現地で行う景観調査、アンケート・聞き取り調査の方法、地域統計の扱い方や留意点について知識や技能を高める。以下の通り実施する。				
評価方法・基準	報告や討論、課題などによる日頃の取り組みと巡検の活動内容によって総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	・ 授業時には個人のパソコンを持参すること。 ・ 期間中、日帰り（一日巡検）を実施する。				
テキスト	ジオ・パルNEO — 地理学・地域調査便利帖 —, 野間晴雄ほか, 海青社, 2017				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	地理学講読・調査法（六）			期間	前期
担当教員	三木 理史	単位数	2	配当年次	2
テーマ	観光・交通分野に軸足を置きつつ、人文地理学全般に関わる文献検索方法と、その活用を通じた報告方法を修得する。				
到達目標	文献講読を通じたゼミ報告形式の修得と併せてコミュニケーション能力の上達に努め、PCを用いたサンプリングと調査法、質問票作成など地域調査の能力と自立的・意欲的学習態度を身につける。				
授業概要	文献取扱の基礎を修得する。前期は論文作成法を輪読し、学術論文の選定と内容に関する報告を行う。そのなかで交通地理学に関わる地域間移動と相互作用、ネットワーク分析等にも言及する。また、後期は地理学の基本文献を輪読し、そのなかで分析方法に言及する。授業にはPCが必携となる。小巡検の行き先は大阪市内で4～5月の連休期間中の予定である。				
評価方法・基準	報告・討論（講義中での質問）を平常点として50%評価し、それにレポート50%の評価を加えて評価する。3分の2以上の出席を必須条件とする。				
履修上の注意事項等	講読とはあくまで学生が「主体的に行動する」ことを基本としたゼミのブレ形式授業であることを認識したうえで受講すること。				
テキスト	最新版 大学生のためのレポート・論文術, 小笠原喜康, 講談社（現代新書）, 2018				
参考書	ジオ・パルNEO — 地理学・地域調査便利帖, 野間晴雄ほか, 海青社, 2017				

科目名	地理学講読・調査法（七）			期間	前期
担当教員	酒井 高正	単位数	2	配当年次	2
テーマ	地理情報技術を活用した地理学文献講読と地域調査法の基礎				
到達目標	文献収集から地域調査さらに調査結果分析まで、地域調査の一連のプロセスのうち、前半の文献収集から地域調査の計画立案までの段階を、インターネットやGISを含む地理情報技術を利用しつつ実践する力を習得する。				
授業概要	文献の利用についての知識や技能を習得したのち、各自が読んだ文献についての報告を中心に、文献の読解の訓練を行う。あわせて、地域調査の方法のうち、文献調査を中心にさまざまな技法を身につけていく。				
評価方法・基準	平常点100%（受講態度の適切性、発表内容の適切性と充実度、質疑応答への参加状況、提出課題の適切性と充実度などにより評価する。）				
履修上の注意事項等	毎回PC（実習室配置の端末）を使用する。地理学分析・表現法（七）[後期]との組み合わせ受講とし、両科目のいずれかの中で日帰り巡検を実施する。				
テキスト	必要に応じて e-Learning のデジタル教材または紙のハンドアウトを配布する。				
参考書	ジオ・パルNEO 地理学・地域調査便利帖 [第2版], 野間晴雄ほか編著, 海青社, 2017				

科目名	地理学講読・調査法（八）			期間	前期
担当教員	芝田 篤紀	単位数	2	配当年次	2
テーマ	自然地理学、地理情報科学全般に関わる文献・情報の収集方法と、その活用をふまえた地域調査				
到達目標	文献の講読、紹介を通じて、論文を探して読む力と地域調査の基本的能力を身につける。				
授業概要	文献の利用についての知識や技能を学び、各自が収集した文献についての報告を中心に授業を進める。後半は地理情報を活用した地域調査法も学ぶ。				
評価方法・基準	受講態度、発表内容、質疑応答への参加状況、提出課題の内容などにより総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	ノートPC 必携。特に無断欠席や発表日の欠席については、大幅な減点とする。年度内に日帰り巡検を実施する（必須）。				
テキスト	特になし				
参考書	適宜提示する				

科目名	地理学分析・表現法（一）			期間	後期
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	2	配当年次	2
テーマ	地理学に必要な基礎的スキルの習得				
到達目標	文献を探して読む、資・試料を分析・解析する、図表を作成する、成果を報告・発表する力を身につける。				
授業概要	地図や空中写真、GISの活用に関する理解を深め、作図や表現方法について学習していく。さらに、成果報告を通して、プレゼンテーション能力を養っていく。なお、前期または後期のどちらかで小巡検を実施する。				
評価方法・基準	授業への参加度や発表、討論、課題など、日頃の取り組みを基に総合的に評価する。小巡検の参加を必須条件とする。				
履修上の注意事項等	特に指示がない限りは各自【ノートPC】を持参する。主体的な行動を心掛けるとともに、ほかの受講生や教員との対話を積極的に行ってほしい。授業時間以外の作業も必要となる。また、無断欠席は厳禁である。小巡検の日程や行き先等については授業中に指示する。				
テキスト	適宜配布				
参考書	適宜紹介				

科目名	地理学分析・表現法（二）			期間	後期
担当教員	木村 圭司	単位数	2	配当年次	2
テーマ	地理学の文献の読み方、発表方法などを学ぶ。また、実際に論文を読んで理解し、説明できる力をつける。さらに、基本的な統計解析やGIS・リモートセンシング・現地調査手法といった、地理学を学ぶ上で基礎的な調査法を習得する。				
到達目標	地理学を研究する上で必要となる論文を探して読む力、GISやリモートセンシングの基礎的な利用方法、統計解析方法、発表など表現方法に関して体得する。				
授業概要	地理学の基礎的な内容の文献を講読することに加え、作図に必要なGISやリモートセンシングの利用、統計データの基礎的処理方法を学ぶ。				
評価方法・基準	授業への参加度や取り組みなど日頃の取り組みと発表・レポートにより総合評価する。無断欠席・遅刻した場合や発表を拒否した場合には、単位を与えないことがある。特に発表日の無断欠席・遅刻は大幅な減点とする。				
履修上の注意事項等	授業時間以外の予習、事前・事後の作業などが必須である。発表資料は、指定された日時までにGoogle Classroomに提出すること。				
テキスト	特になし				
参考書	特になし				

科目名	地理学分析・表現法（三）			期間	後期
担当教員	稲垣 稜	単位数	2	配当年次	2
テーマ	地理学的調査のための基本的な手法、技術をマスターする。聞き取り調査、フィールドワーク、パソコンによる分析などを行う。				
到達目標	各自が問題意識をもち、自分で地理学的な問題解決ができるようにする。また、問題を正しく把握し認識する能力を身につけられるようにし、それを他人に対して正確に伝えられるようにする。				
授業概要	各自がテーマを設定し、それに関わる文献を収集し内容を整理し、最終的には現地調査とそのレポートを完成させていく。学術論文の精読、フィールドワーク、文献検索、パソコンの利用、統計の利用、調査手法についての演習を行う。特にフィールドワークと聞き取り調査は、地域の実態を理解するのに不可欠であり、主体的に取り組む必要がある。				
評価方法・基準	授業への参加度、レポート等で評価する。授業への参加度とは、各自の発表の内容、プレゼンテーションの仕方、他の学生の発表に対する質疑応答などに、積極的に参加しているか、である。				
履修上の注意事項等	授業への参加度、レポート等で評価する。パソコンを持参すること。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	地理学分析・表現法（四）			期間	後期
担当教員	古関 喜之	単位数	2	配当年次	2
テーマ	農村地域に軸足を置きつつ、地域構造把握のための基礎的手法を学ぶ。また、人文地理学の学術論文を取り上げ、読む力をつけるとともに調査法も学ぶ。				
到達目標	1. 地域構造や地域特性を分析し、理解・把握し、課題解決のための力を身につけることができる。 2. 地域構造や農村地域の研究に必要な論文を読む力を習得することができるようになる。				
授業概要	地域構造や地域特性把握のための基礎的手法を学び、地域および現代社会が直面する課題について考える。人文地理学分野の学術論文を読み、内容を理解し、報告・議論する。最後にこれらを通して、関心のあるテーマについてレポート作成ができるようにする。				
評価方法・基準	授業への参加度（議論に積極的に参加しているか）および発表の出来、提出されたレジュメの内容、課題・レポートなどを総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業の前・後の作業課題をこなすことや、論文を読んでおくことが必須である。毎回出席し主体的に行動し、3年次以降につなげていってほしい。また、通常授業時に情報検索できるよう、モバイルPC、タブレット等を持参すること。				
テキスト	使用しない				
参考書	適宜紹介する				

科目名	地理学分析・表現法（五）			期間	後期
担当教員	土平 博	単位数	2	配当年次	2
テーマ	地域調査に基づく地理学的な分析と表現法				
到達目標	定性と定量的分析技術の習得				
授業概要	地域調査時に必要な知識や技術を段階的に習得していく。対象地域に関する観察や景観分析、聞き取り調査から得られる定性的な分析法、地域統計・アンケート調査などによる定量的な分析法について身につける。また、資料の扱い方や留意点についてもふれ、知識や技能を高める。				
評価方法・基準	報告や討論、課題などによる日頃の取り組みと巡検の活動内容によって総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	・授業時には個人のパソコンを持参すること。 ・期間中、日帰り（一日巡検）を実施する。代替措置を講じる場合がある。				
テキスト	ジオ・パルNEO — 地理学・地域調査便利帖 —, 野間晴雄ほか, 海青社, 2017				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	地理学分析・表現法（六）			期間	後期
担当教員	三木 理史	単位数	2	配当年次	2
テーマ	観光・交通分野に軸足を置きつつ、人文地理学全般に関わる文献講読の方法と、その活用を通じた報告方法を修得する。				
到達目標	文献講読を通じたゼミ報告形式の修得と併せてコミュニケーション能力の上達、PCを用いたサンプリングと調査法、質問票作成などの地域調査の基本的能力を修得し、意欲的学習態度を身につける。				
授業概要	文献取扱の基礎を修得する。前期の論文作成法を輪読し、学術論文の選定と内容を踏まえて、地域間移動と相互作用、ネットワーク分析等にも言及する。また図表の作成についても許容時間の限りで実習する。そのため授業にはPCが必携である。				
評価方法・基準	報告・討論（講義中での質問）を平常点として50%評価し、それにレポート50%の評価を加えて評価する。3分の2以上の出席を必須条件とする。				
履修上の注意事項等	講読とはあくまで学生が「主体的に行動する」ことを基本としたゼミのブレ形式授業であることを認識したうえで受講すること。				
テキスト	地理学入門—マルチ・スケール・ジオグラフィ（改訂版）, 浮田典良, 原書房, 2010				
参考書	ジオ・パルNEO — 地理学・地域調査便利帖, 野間晴雄ほか, 海青社, 2017				

科目名	地理学分析・表現法（七）			期間	後期
担当教員	酒井 高正	単位数	2	配当年次	2
テーマ	地理情報技術を活用した地域調査資料の分析と可視化の方法の基礎				
到達目標	文献収集から地域調査さらに調査結果分析まで、地域調査の一連のプロセスのうち、地域調査資料の利用と分析、ならびにその結果の地図化等による可視化を、インターネットやGISを含む地理情報技術を利用しつつ実践する力を習得する。				
授業概要	地域調査で用いられる資料（地図、リモートセンシング資料、統計等）の利用、アンケート調査を含む現地調査の方法、統計処理やGIS処理の基礎など、地域調査の方法のさまざまな技法を身につけていく。				
評価方法・基準	平常点100%（受講態度の適切性、発表内容の適切性と充実度、質疑応答への参加状況、提出課題の適切性と充実度などにより評価する。）				
履修上の注意事項等	地 毎回WindowsPCを持参すること。Word、Excel、PowerPointを使用。他の無料アプリ等を使用する場合は授業内で案内する。 理学講読・調査法（七）[前期]との組み合わせ受講とし、両科目のいずれかの中で日帰り巡検を実施する。				
テキスト	必要に応じてe-Learningのデジタル教材または紙のハンドアウトを配布する。				
参考書	ジオ・パルNEO 地理学・地域調査便利帖 [第2版], 野間晴雄ほか編著, 海青社, 2017				

科目名	地理学分析・表現法（八）			期間	後期
担当教員	芝田 篤紀	単位数	2	配当年次	2
テーマ	GISを活用した地域調査、分析と地図の表現				
到達目標	GISを用いた地理情報の分析方法、報告や発表など表現方法を身につける。また図表や主題図を適切に解釈し、また作成する能力を養う。				
授業概要	統計処理やGISの基礎など分析方法を学習し、地図の作成とそれらの表現方法についても学びを深める。				
評価方法・基準	受講態度、発表内容、質疑応答への参加状況、提出課題の内容などにより総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	ノートPC必携。特に無断欠席や発表日の欠席については、大幅な減点とする。 年度内に日帰り巡検を実施する（必須）。				
テキスト	特になし				
参考書	適宜提示する				

科目名	地理学地域調査演習（一）			期間	通年
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	4	配当年次	3
テーマ	自然地理学に関する演習とフィールドワークの実施				
到達目標	自然地理学の研究に必要な、現地調査の計画・実施、得られた成果の整理、レポートの作成に関する技能を習得する。				
授業概要	発表や討論、フィールドワーク（大巡検、小巡検）を軸として授業を進めていく。その過程で、研究課題の設定、先行研究のレビュー、調査計画の立案、現地調査、資・試料の分析・解析、文章の構成、図表の作成・効果的な使い方について学んでいくとともに、プレゼンテーション能力も養っていく。さらに、さまざまな実践を通して、自身の興味関心を明確にしていき、卒論テーマを決定する。				
評価方法・基準	授業への参加度や発表、討論など、日頃の取り組みを基に総合的に評価する。大巡検・小巡検の参加、報告書の作成を必須条件とする。				
履修上の注意事項等	特に指示がない限りは各自【ノートPC】を持参する。主体的な行動を心掛けるとともに、ほかの受講生や教員との対話を積極的に行ってほしい。授業時間以外の作業も必要となる。また、無断欠席は厳禁である。小巡検の日程や行き先等については授業中に指示する。				
テキスト	適宜配布				
参考書	適宜紹介				

科目名	地理学地域調査演習（二）			期間	通年
担当教員	木村 圭司	単位数	4	配当年次	3
テーマ	気候学・水文学を中心とする地理学の基礎演習と野外調査実習				
到達目標	気候学・水文学を中心とする地理学の研究を進めるにあたって必要な、調査方法およびレポートの作成技能を修得する。				
授業概要	気候学・水文学を中心とする地理学の調査方法を習得するために、計画の立案・資料の収集と講読・現地調査・報告書の作成を実践していく。また、さまざまなスケールの地理学的現象を解析するために必要なコンピューターソフトウェアを使ったマッピング手法を学ぶ。大巡検時に調査を行った結果を進級論文としてまとめ、卒業研究の準備を行う。				
評価方法・基準	授業への参加度や発表などにより総合評価する。無断欠席した場合には、単位を与えない。大巡検および小巡検に参加し、進級論文を期日までに提出することが、評価を行うための最低条件となる。				
履修上の注意事項等	授業時間以外の予習、事前・事後の作業などが必須である。大巡検は北海道とする。小巡検には①回以上必ず参加すること。日程・調査内容などについては授業中に指示する。				
テキスト	特になし				
参考書	特になし				

科目名	地理学地域調査演習（三）			期間	通年
担当教員	稲垣 稜	単位数	4	配当年次	3
テーマ	フィールドワークに向けた準備。聞き取り調査、アンケート調査などの手法を理解する。さらに、現地を訪問し、自ら調査をする力を養う。				
到達目標	実習・フィールドワークを通じて独力で調査報告が行えるようにする。卒論への準備をする。また、問題を正しく把握し認識する能力を身につけられるようにし、それを他人に対して正確に伝えられるようにする。				
授業概要	卒論に向けて、各自が独力で統計データの活用、フィールドワークを行うことができるようにする。最終的には、この演習の期間内で卒論テーマを決定し、そのテーマに関する文献をレビューして発表してもらおう。その卒論テーマを決定した理由や経緯ははっきりさせる必要がある。この授業のメインイベントはフィールドワーク（大巡検）である。それに向けて準備をし、各自が現地調査を行い、終了後、発表してもらおう。				
評価方法・基準	授業への参加度、レポート等で評価する。授業への参加度とは、各自の発表の内容、プレゼンテーションの仕方、他の学生の発表に対する質疑応答などに、積極的に参加しているか、である。				
履修上の注意事項等	受講態度、レポート等で評価する。ノートパソコンを持参すること。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	地理学地域調査演習（四）			期間	通年
担当教員	古関 喜之	単位数	4	配当年次	3
テーマ	農村的地域でのフィールドワークを伴う地域調査を企画・実践し、一連の過程を体験することにより、独力で調査研究する力を養う。				
到達目標	1. 文献・地図・空中写真・統計などを収集し、分析できる能力を身につけることができるようになる。 2. フィールドワークの立案・実施・データ整理の方法、レポートの書き方と口頭発表の方法を習得することができる。 3. フィールドワークに伴う一連の過程を通して、問題を正しく把握し認識する能力、論理的な思考力、コミュニケーション能力を身につけることができるようになる。				
授業概要	この授業では、地域調査（フィールドワーク）の方法について実践を通じて学ぶ。具体的には、フィールド調査を企画・実施し、その過程で研究課題の設定、先行研究のレビュー、資料の収集整理と分析、調査方法、調査計画の立案、現地調査、データの分析について学ぶとともに、成果をまとめて発表する。この演習の最終段階では、卒業論文のテーマの構想について発表してもらい、議論を経て確定する。				
評価方法・基準	授業への参加度（議論に積極的に参加しているか）および発表の出来、提出されたレポート、フィールドワークでの積極性などを総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	無断欠席や発表日の欠席については、大幅な減点とする。受講態度についても減点の対象とする。フィールドワークには必ず参加すること。不参加の場合は成績評価を行わない。フィールドワーク中は集団行動となるので、自己管理能力やコミュニケーション力が要求される。フィールドワークのおもしろさを体験し、楽しく気持ちよく過ごせるように、お互いにルールやマナーを守ること。				
テキスト	使用しない				
参考書	適宜紹介する				

科目名	地理学地域調査演習（五）			期間	通年
担当教員	土平 博	単位数	4	配当年次	3
テーマ	歴史地理学の基礎演習と野外調査実習				
到達目標	野外調査の専門的知識と技能の習得。				
授業概要	歴史地理学の調査方法（デスクワークおよびフィールドワーク）を習得するために、調査計画の立案、史・資料の収集・整理、現地調査、報告書の作成について実践していく。歴史地理学にとって重要な史料の扱い方や景観調査を軸にした知識と技能から景観復原を試み、研究対象地域の地域文化について考察する。以下の通り実施する。				
評価方法・基準	報告や討論、課題などによる日頃の取り組みを総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	・授業時には個人のパソコンを持参すること。 ・期間中、4泊5日間程度の長期野外調査実習を実施するほか、一日巡検を数度実施する（代替措置を講じる場合がある）。日頃から、受講生と教員との間で対話が必要となる。				
テキスト	ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖—, 野間晴雄ほか, 海青社, 2017				
参考書	授業時に適宜紹介する。				

科目名	地理学地域調査演習（六）			期間	通年
担当教員	三木 理史	単位数	4	配当年次	3
テーマ	観光・交通分野に関心をもつ学生を中心とした人文地理学に関する基礎演習を通じて、社会の倫理観や規範性をも身につける。				
到達目標	フィールドワークの企画、文献・地図・史資料の収集整理、調査項目の検討、フィールドワークの実施とまとめの習得と同時に、コミュニケーション能力や自立的で意欲的な態度をも身につける。				
授業概要	人文地理学に関わる調査・研究法を、土地利用調査、地域構造、社会生活、経済活動、人口変化、地域文化に留意し、その過程で地形図の利用と作業、空間データの利用と作業から習得する。現地調査では景観調査、聞き取り調査、質問票調査を実施し、文献検索、地図化、報告書作成を一貫して指導する。学外研修の行き先は大阪市内、宿泊巡検の行き先は協議のうえ決定する。また問題発見・解決力を磨く一助とする。				
評価方法・基準	報告・討論を平常点として評価し、それにレポートの評価を加えて評価する。3分の2以上の出席を必須条件とする。				
履修上の注意事項等	演習とはあくまで学生が「主体的に行動する」ことを基本とした授業形式であることを認識したうえで受講すること。また、通常授業時にも情報検索が可能なように、モバイルPC、タブレット、最低でもスマートフォンを持参することを望む。				
テキスト	なし				
参考書	大学生のためのレポート・論文術, 小笠原 喜康, 講談社, 2009 ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖—, 野間 晴雄ほか, 海青社, 2012				

科目名	地理学地域調査演習（七）			期間	通年
担当教員	酒井 高正	単位数	4	配当年次	3
テーマ	地理空間情報技術を活用する人文地理学研究法とフィールドワーク				
到達目標	情報検索、文献利用、統計、GISなどさまざまな地理空間情報を利用して、各自が設定したテーマに沿って研究を行う力を身につける。その過程で、フィールドワークの実施により地域調査の実践力も養う。				
授業概要	人文地理学の諸分野に関して、地理空間情報技術の活用を念頭に置いた演習を行う。各自の調べた文献やデータ分析結果の報告と討論を中心に授業を進める。他の諸科目で習得してきた地理空間情報技術を連携させて、フィールドワークの準備、実施、まとめを行うとともに、各自の関心領域を明確にして具体的な研究テーマを設定できるようにしていく。				
評価方法・基準	平常点100%（受講態度の適切性、発表内容の適切性と充実度、質疑応答への参加状況、提出課題の適切性と充実度などにより評価する。）				
履修上の注意事項等	前期は実習室配置の端末PCを利用。後期は毎回WindowsPCを持参すること。Word、Excel、PowerPointを使用。他の無料アプリ等については授業内で案内する。フィールドワークの実施時期により、内容の順序を変更する場合がある。				
テキスト	必要に応じてe-Learningのデジタル教材または紙のハンドアウトを配布する。				
参考書	授業時に案内する。				

科目名	地理学地域調査演習（八）			期間	通年
担当教員	芝田 篤紀	単位数	4	配当年次	3
テーマ	地理情報を活用する自然地理学研究の演習とフィールドワークの実践				
到達目標	様々な地理情報を活用しつつ、各自が地理学としてのテーマを立案し、それに沿って研究を遂行する能力を身につける。またフィールドワークによって、地域調査の実践力も獲得する。				
授業概要	各自が調べた文献やデータ分析結果の報告と、討論を中心に授業を進める。地理情報、GISを適宜活用しながら、フィールドワークの企画・実施・まとめを行うとともに、各自の興味関心を明確にしていき、具体的な研究テーマを見つける。				
評価方法・基準	受講態度、発表内容、質疑応答への参加状況、提出課題の内容などにより総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	ノートPC必携。特に無断欠席や発表日の欠席については、大幅な減点とする。「フィールドワーク」は、宿泊を伴う巡検を予定しており、必修行事である。実施時期については、様々な都合により大きく変更になることがある。				
テキスト	特になし				
参考書	適宜提示する				

科目名	地理学地域調査演習（九）			期間	通年
担当教員	岩崎 敬二	単位数	4	配当年次	3
テーマ	生物地理学と保全生物学の基礎的演習と文献・野外調査法の実践・習得				
到達目標	めくるめく生物の多様性を理解しつつ、生物地理学と保全生物学の基礎的知識とこの分野に関する文献・野外調査法を実践し、習得する。				
授業概要	まず、生物地理学の基礎となる生物分類学や生態学を、次に、生物地理学と保全生物学の基礎的知識を、文献講読を通じて学んでいただきます。その後、文献・地図・歴史資料の収集・整理とフィールドワークの企画をし、実際にある小地域を対象としたフィールドワークを実施しながら、資料整理、フィールドワーク、聞き取り調査やアンケート調査の効果的・効率的な方法を学んでいただきます。最後に、資料調査等の結果やフィールドワークのまとめをしながら、各自の卒業研究のテーマ、内容、方法（調査項目の検討を含む）を絞り込み、卒業研究に関連する各自が選んだ文献資料の紹介をしつつフィールドワークの結果を発表してもらい、最終的に、卒業研究のテーマの概要をまとめていただきます。				
評価方法・基準	基礎的知識の習得度が20%、演習時の積極性が30%、発表の方法と内容が25%、レポート25%。				
履修上の注意事項等	指導方針は、「めくるめく生物の多様性を尊重しつつ、謙虚にかつ積極的に学び、大胆に考える!」です。多様な生物たちの分類体系や行動・生態の法則性を教えつつ、個々の生物種の地理的分布や行動・生態の個性を調査して結果をまとめる方法と、自然環境の保全に向けた筋道の通った考察の仕方を身につけていただきます。				
テキスト					
参考書					

科目名	地理学演習（一）			期間	通年
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	4	配当年次	4
テーマ	自然地理学に関する演習と卒業論文の作成				
到達目標	各自が設定したテーマに基づき、卒業論文を作成する。				
授業概要	「地理学地域調査演習」で習得した知識や技術を基に研究し、卒業論文を完成させる。その過程で、研究課題の設定、先行研究のレビュー、調査計画の立案、現地調査、資・試料の分析・解析、文章の構成、図表の作成・効果的な使い方について学んでいく。さらに、プレゼンテーション能力も養っていく。				
評価方法・基準	授業への参加度や発表、討論など、日頃の取り組みを基に総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	特に指示がない限りは各自【ノートPC】を持参する。主体的な行動を心掛けるとともに、ほかの受講生や教員との対話を積極的に行ってほしい。授業時間以外の作業も必要となる。また、無断欠席は厳禁である。				
テキスト	適宜配布				
参考書	適宜紹介				

科目名	地理学演習（二）			期間	通年
担当教員	木村 圭司	単位数	4	配当年次	4
テーマ	気候学・水文学を中心とした地理学に関する演習と卒業論文の作成。				
到達目標	各自のテーマに基づき、卒業論文を作成する。				
授業概要	「地理学地域調査演習」で修得した知識や技術を元に、自らの研究を進めていく。研究テーマに沿って、段階的に研究を進め、各自は進捗状況を発表予定に従って報告する。この過程を通じて、卒業論文の意義、構成、文章の組み立て方、図表や地図の作成とその効果的な使い方について指導する。				
評価方法・基準	報告や討論、課題などによる日頃の取り組みを総合的に評価する。無断欠席した場合には、単位を与えない。				
履修上の注意事項等	授業時間以外の作業が必須である。卒業研究を進めるに当たっては、受講生が主体的に行動するだけでなく、日頃から受講生と教員の間で対話が必要である。				
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜指示する。				

科目名	地理学演習（三）			期間	通年
担当教員	稲垣 稜	単位数	4	配当年次	4
テーマ	卒業論文、各自の現地調査のための準備。地理学では、現地調査が卒業論文の中心になるので、現地調査に向けた議論も重視する。				
到達目標	卒業論文の構成、調査の妥当性、結果の分析方法などを議論し、卒業論文を執筆できるようにする。また、問題を正しく把握し認識する能力を身につけられるようにし、それを他人に対して正確に伝えられるようにする。				
授業概要	卒業論文を作成するためには、収集した文献・資料を吟味し、テーマを明確にしていくことが不可欠である。この演習では、文献・資料等の収集方法、分析方法、調査方法についての指導を中心に行い、最終的に卒業論文を完成させることを目的とする。卒業論文執筆のための各種の取り組みを行う。ゼミ参加者全員での議論を通じて、問題意識を明確にする。				
評価方法・基準	授業への参加度、レポート等で評価する。授業への参加度とは、各自の発表の内容、プレゼンテーションの仕方、他の学生の発表に対する質疑応答などに、積極的に参加しているか、である。				
履修上の注意事項等	議論への取り組み、報告内容をもとに評価する。ノートパソコンを持参すること。				
テキスト	なし				
参考書	なし				



科目名	地理学演習（四）			期間	通年
担当教員	古関 喜之	単位数	4	配当年次	4
テーマ	人文地理学研究に関する演習と卒業論文の作成。				
到達目標	1. 各自のテーマに基づき卒業論文を完成させることができる。 2. 研究成果を発表するための準備ができるようになる。				
授業概要	3年次の「地理学地域調査演習」で習得した知識や技術をもとに、大学での勉強の集大成である、卒業論文を完成させる。個々の研究テーマについて、スケジュールに沿って段階的に研究を進め、適宜、途中経過を報告して全員で議論する。個々の進捗状況をふまえ、卒業論文について指導助言する。ゼミ内で卒論発表会を開催する。				
評価方法・基準	授業への参加度や報告、討論など、日頃の取り組みを総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	一人で抱え込まないこと。迷ったら相談、わからなければ質問すること。調査研究、論文執筆を通して、知らないことを知っていくプロセスを楽しんでほしい。年内に教員提出締切日を設定するので守ること。				
テキスト	使用しない				
参考書	適宜紹介する				

科目名	地理学演習（五）			期間	通年
担当教員	土平 博	単位数	4	配当年次	4
テーマ	歴史地理学に関する演習と卒業論文の作成				
到達目標	各自のテーマに基づき卒業論文を作成していく。				
授業概要	各自、前年度の「地理学地域調査演習」で習得した知識や技術をもとに自らの研究を一層深めていく。研究テーマに沿って段階的に研究を進め、スケジュールにしたがって進捗状況を報告する。担当教員は、卒業論文の構成（文章の組み立て方、図表・地図の作成とその効果的な使い方）について指導する。				
評価方法・基準	報告や討論、課題などによる日頃の取り組みを総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	卒業論文作成にあたり、日頃から受講生と教員の間で対話が必要である。授業時には個人のパソコンを持参すること。				
テキスト	プリントを配付する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	地理学演習（六）			期間	通年
担当教員	三木 理史	単位数	4	配当年次	4
テーマ	観光・交通分野に関心をもつ学生を中心とした人文地理学に関する卒業演習で、卒業論文の作成に関わる能力の習得				
到達目標	研究の企画、文献・地図・史資料の収集整理、調査項目の検討、フィールドワークの方法習得を通じ、コミュニケーション能力を磨き、社会の倫理観・規範性を考え、問題発見・解決力も身につける。				
授業概要	人文地理学に関する卒業論文作成を通じて、地域構造、社会生活、経済活動、人口変化、に留意し、その過程で地形図の利用と作業、空間データの利用と作業にもさらなる磨きをかけ、現地調査では景観調査、聞き取り調査、質問票調査、地図化を一貫して指導する。テキストは、2年次に購入したものがある場合には新たに購入する必要はない。				
評価方法・基準	報告・討論を平常点として評価し、それにレポートの評価を加えて評価する。3分の2以上の出席を必須条件とする。				
履修上の注意事項等	演習とはあくまで学生が「主体的に行動する」ことを基本とした授業形式であることを認識したうえで受講すること。また、通常授業時にも情報検索が可能のように、モバイルPC、タブレット、最低でもスマートフォンを持参することを望む。				
テキスト	最新版 大学生のためのレポート・論文術、小笠原喜康、講談社（現代新書）、2018				
参考書	ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖、野間 晴雄ほか、海青社、2012				

科目名	地理学演習（七）			期間	通年
担当教員	酒井 高正	単位数	4	配当年次	4
テーマ	地理学卒業論文作成の指導				
到達目標	受講生同士で切磋琢磨しながら卒業論文を完成させる				
授業概要	受講者による発表と討論、教員による作成法指導を並行して進め、前期に卒業論文作成の準備を行い、後期に完成を目指す。(1) 受講者自身が設定した卒業論文のテーマに沿って、研究の進展状況に応じた発表と討論を行い、研究を深める。(2) 卒業論文作成に必要なさまざまな技法を指導する。				
評価方法・基準	平常点100%（受講態度の適切性、発表内容の適切性と充実度、質疑応答への参加状況、提出課題の適切性と充実度などにより評価する。）				
履修上の注意事項等	毎回PCを使用。前期（第1回～第15回）は実習室配置の端末を利用。後期（第16回～第30回）は毎回WindowsPCを持参すること。Word、Excel、PowerPointを使用。他の無料アプリ等を使用する場合は授業内で案内する。				
テキスト	必要に応じてe-Learningのデジタル教材または紙のハンドアウトを配布する。				
参考書	授業時に案内する。				

科目名	地理学演習(八)			期間	通年
担当教員	芝田 篤紀	単位数	4	配当年次	4
テーマ	地理情報を活用する自然地理学演習と卒業論文の作成。				
到達目標	各自の研究テーマに沿って、卒業論文をまとめる。				
授業概要	各自の研究テーマに沿って、主体的に研究を進め、進捗状況を発表予定に従って報告する。また討論・議論を進める中で、卒業論文の構成や文章の組み立て方、図表や地図の作成などの技術・能力を習得する。				
評価方法・基準	受講態度、発表内容、質疑応答への参加状況、提出課題の内容などにより総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	特に無断欠席や発表日の欠席については、大幅な減点とする。ノートPC必携。卒業論文を製作するにあたっては、受講生が主体的に行動するだけでなく、日頃から担当教員への報告・連絡・相談が重要となる。				
テキスト	特になし				
参考書	適宜提示する				

科目名	日本地誌概論			期間	後期
担当教員	三木 理史	単位数	2	配当年次	1-2
テーマ	大学の所在する場所、そして近畿地方の理解から始めて、日本全体の地域を概観する				
到達目標	日本の各地方の特色と地理的意義を自然、人文の双方の知識を理解し、地域調査の基礎知識を習得する。地域の倫理観や規範性を基礎にした知識と自立的・意欲的な態度を身につける。				
授業概要	授業は対面授業で、テキストの内容と課題プリントを仕上げるかたちで進める。日本全体をテキストを用いながら万遍なく講義し、演習系授業での自己テーマの決定の前提となる知識を習得することを目標としている。そのため各章の第2節は原則自習とするが、許容時間によって対象とする場合もある。なお各回とも授業時間内に終えるにはやや分量が超過気味のため、自習とする部分があることを承知のうえ受講すること。またノートテイクにおけるPCの使用を歓迎する。				
評価方法・基準	授業試験(50点前後)と平常点を合計して100点で評価する。3分の2以上の課題提出を条件とする。一部小レポートを課すことで平常点とする。				
履修上の注意事項等	日本の地誌を総覧できるテキストを用いた授業内容で、旧カリキュラム時代通年で行っていた内容を半期に圧縮したのでタイトな予定になっている。なお、地誌の授業には地図が不可欠で、高校程度の地図帳の持参、またはスマートホンなどで電子地図を参照。				
テキスト	日本の地誌、立正大学地理学教室編、古今書院、2007				
参考書					

科目名	世界地誌概論Ⅰ			期間	前期
担当教員	古関 喜之	単位数	2	配当年次	1-2
テーマ	世界地誌のアジア、とりわけ日本と緊密な歴史的・文化的関係にある台湾を取り上げ、社会の成り立ちや人々の暮らし、文化について解説し、アジアにおける台湾の地域像、アジアの多様性と共通性を深く理解する。				
到達目標	1. 台湾の社会の成り立ちと人々の暮らしや文化について理解し、説明することができる。 2. アジアにおける台湾の地域像について理解できる。 3. アジアの多様性と共通性を理解できるようになる。				
授業概要	本講義では、グローバル化の進展に伴い急速に変化し、世界の中でさらに重要な位置を占めつつあるアジアに着目し、日本と緊密な歴史的・文化的関係にあり、人的・文化的交流が盛んな台湾を取り上げ、社会の成り立ちや人々の暮らし、文化について解説する。内容は、学期の前半は台湾の地理的位置がもたらす自然環境・人文環境、地形、気候と暮らし、漢民族の入植など、後半では台湾原住民の伝統文化、日本による台湾統治、湾生からみた日本統治時代、日本時代の農業の近代化などを扱い、アジアにおける台湾の地域像、アジアの多様性と共通性を深く理解する。講義では、講師が調査地で撮影した写真や関連する映像資料を見せながら、受講生が具体的に講義テーマを理解できるように努める。				
評価方法・基準	平常点50%(授業参加意欲、授業終了時の感想提出、授業内小テスト)、学習到達度確認50%(講義の内容を正確に把握しているかを論述形式で問う)で評価する。				
履修上の注意事項等	授業は講義形式で進めるが、学生との直接対話、感想やコメント等を活用し、理解度を把握しながら双方向的な授業を行う。学習到達度確認は「持ち込みなし」で行うので、相当時間の勉強が必要となる。なお、出席は単位認定の前提であり、3分1以上欠席した場合は不合格とする。授業内容に関連したプリント(講義資料)を配布する。				
テキスト	特になし				
参考書	図説台湾の歴史(増補版)、周婉窈著、濱島敦俊監訳、平凡社、2013 台湾の若者を知りたい(岩波ジュニア新書)、水野俊平著、岩波書店、2018				

科目名	世界地誌概論Ⅱ			期間	前期
担当教員	木村 圭司	単位数	2	配当年次	1-2
テーマ	イタリアの地誌。 今年度イタリア行きの海外巡検・海外研修(一)に参加する学生は、極力履修すること。				
到達目標	イタリアの地誌を概観し、日本と比較することにより世界へ目を向けられるようにする				
授業概要	イタリアの地誌を事例とし、地誌学の基本的概念を理解する。そして、高等学校「地理」で教えるべき地誌の例を説明する。また、8月から9月にかけてに実施予定の「海外巡検」「海外研修(一)」とリンクさせ、この参加者への基礎的知識の習得を行う。				
評価方法・基準	毎回の授業で行う小テスト(50%)と、15回目の授業時に行う学習到達度試験(50%)により評価する。なお、学習到達度試験の時は、配布プリントと自筆ノートのみ持ち込み可とする。なお、評価対象は、9回以上授業に出席した受講生のみとする。				
履修上の注意事項等	2024年8月下旬~9月上旬に実施予定の「海外巡検」「海外研修」と関連している。資料はGoogle Classroomを用いて共有する。				
テキスト					
参考書	新詳 地理B、片平ほか、帝国書院世界の諸地域NOW 帝国書院				

科目名	測量学概論（一）			期間	前期
担当教員	★貫渡 利行	単位数	2	配当年次	1-2
テーマ	測量全般の実務の基礎的知識を学ぶ。				
到達目標	測量の歴史、法律を理解した上で基本的測量知識を身につける。				
授業概要	測量実務に携わる担当者が、毎回のテーマについて教科書を中心に説明します。又現在、担当者が実務で行っている測量の技術的な内容や測量する目的を要約し、講義します。又、外部講師を招き3DやUAV（ドローン）に写真測量等の最新技術等の解説を行います。				
評価方法・基準	授業への参加及び学習到達度確認70%、授業に対する積極性（講義中の質問、課題に真摯に取り組む姿勢）を重視する。授業中の小テストやレポート30%、小テストでは授業終盤に基本的な語句の理解等講義内容の理解度を確認する。レポートでは授業内容で得た情報に対し自分の考えをどう展開できるかを評価する。				
履修上の注意事項等	関数電卓・三角スケールは開講前に準備すること。簡単な関数計算や角度計算（度・分・秒）ができる電卓又はスマートフォンにアプリをアップデートしておく。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	改訂3版 基礎測量学, 長谷川昌弘・川端良和他, 電気書院, 2021				
参考書					

科目名	測量学概論（二）			期間	後期
担当教員	★貫渡 利行	単位数	2	配当年次	1-2
テーマ	測量全般の実務の基礎的知識を学ぶ。				
到達目標	測量の歴史、法律を理解した上で基本的測量知識を身につける。				
授業概要	測量実務に携わる担当者が、毎回のテーマについて教科書を中心に説明します。又現在、担当者が実務で行っている測量の技術的な内容や測量する目的を要約し、講義します。又、外部講師を招き3DやUAV（ドローン）に写真測量等の最新技術等の解説を行います。				
評価方法・基準	授業への参加及び学習到達度確認70%、授業に対する積極性（講義中の質問、課題に真摯に取り組む姿勢）を重視する。授業中の小テストやレポート30%、小テストでは授業終盤に基本的な語句の理解等講義内容の理解度を確認する。レポートでは授業内容で得た情報に対し自分の考えをどう展開できるかを評価する。				
履修上の注意事項等	関数電卓・三角スケールは開講前に準備すること。簡単な関数計算や角度計算（度・分・秒）ができる電卓又はスマートフォンにアプリをアップデートしておく。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	改訂3版 基礎測量学, 長谷川昌弘・川端良和他, 電気書院, 2021				
参考書					

科目名	地理情報科学概論			期間	前期
担当教員	芝田 篤紀	単位数	2	配当年次	1-2
テーマ	地理情報や GIS の基本的事項の理解				
到達目標	地理情報科学の概要について説明することができる。また、GIS に関わる基礎的概念を説明することができる。				
授業概要	身近な地理情報から GIS の基礎を学び、GIS を扱う上で重要になる座標系や測地系、地図投影法、データ形式の種類などを学習する。WebGIS の考え方、近年の動向についても学ぶ。				
評価方法・基準	事例研究の回に提出するレポートと授業内課題（50%）、授業内容を基にした確認テスト（50%）にて理解度を評価する。				
履修上の注意事項等	ノート PC 必携。実際にコンピューターを用いた作業・課題等にも取り組むため、PC 関連の基本的知識・技能がある上での履修が望ましい。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	各授業内で適宜提示				

科目名	計量地理学概論			期間	後期
担当教員	木村 圭司	単位数	2	配当年次	1-2
テーマ	時空間を記載・解析するために数値により記載された情報を理解し、各自の Windows ノートパソコンで扱えるようにする。				
到達目標	計量地理学の基本となる概念を知るだけでなく、講義に沿った課題を進めることにより、実際の記載・解析をおこなう。計量地理学は応用講義が無いため、ややハイレベルな内容を含むこととなる。				
授業概要	計量地理学では時空間を記載・解析するために、数学や統計学を利用する。基礎的な数の知識から、数値による時空間の表現と解析、そして分布図の読み取りを行っていく。毎回、統計解析ソフト (R) や GIS ソフト (ArcGIS pro) を使用した課題の期限内提出が必要となる。高校生（理系）レベルの数学については、予習の範囲に含む。予習として、関連した HP や本・資料を読んだ上で受講すること。宿題を進める上で、各自の Windows パソコンに GIS ソフトウェア等をインストールすることが必須となる。				
評価方法・基準	毎回の授業時に出される課題（50%）と、期末レポート（50%）により評価する。				
履修上の注意事項等	必ず予習をした上で、毎回の授業を受講すること。高校（理系）レベルの数学（統計学を含む）は復習しておくこと。すべての受講生は、毎回の授業課題を期日までに指示通り提出すること。計量地理学の「概論」ではあるが、多くの数学的内容を含む。				
テキスト	特になし				
参考書	ジオ・パル NEO 第2版, 野間晴雄ほか, 海青社				

科目名	環境地理学概論			期間	後期
担当教員	古関 喜之	単位数	2	配当年次	1-2
テーマ	グローバル化した「食」の供給・消費の仕組みと世界の食料環境のあり方を考える。				
到達目標	1. フードチェーンおよびその地理的投影という食料の地理学の基本的な考え方を理解し、説明することができる。 2. 食料の地理学の基本的な考え方をふまえ、食料にかかわる問題を読み解く能力を体得することができる。 3. グローバルな食料生産・流通構造の中で、農業現場の現状を説明できるようにする。 4. 現代世界のさまざまな食料問題、食料生産環境について関心を持つことができるようになる。				
授業概要	私たちが口にして食料の生産地と獲得方法、消費のあり方を考えることを通じて、学生が現代世界のさまざまな食料問題、食料生産環境について関心を持ち、それを読み解く能力を体得することを目標とする。本講義は、「食」を通じた供給・消費の仕組み（フードチェーン）や、これに関わる、より広範囲な仕組み（フードシステム）について、地理学的な捉え方と身近な話題から学ぶ。食料の生産地と消費地を線で結ぶことで見えてくる流通の距離や流通量、そこに介在しているもの、そして「食」を起点とした持続可能な未来社会のあり方の手がかりと可能性について考える。講義では、講師が調査地で撮影した写真や関連するドキュメンタリー番組等を見せながら、受講生が具体的に講義テーマを理解できるように努める。				
評価方法・基準	平常点50%（授業参加意欲、授業終了時の感想提出、授業内小テスト）、学習到達度確認50%（講義の内容を正確に把握しているかを論述形式で問う）で評価する。				
履修上の注意事項等	授業は講義形式で進めるが、学生との直接対話、感想やコメント等を活用し、理解度を把握しながら双方向的な授業を行う。学習到達度確認は「持ち込みなし」で行うので、相当時間の勉強が必要となる。なお、出席は単位認定の前提であり、3分1以上欠席した場合は不合格とする。授業内容に関連したプリント（講義資料）を配布する。				
テキスト	特になし				
参考書	食料の地理学の小さな教科書、荒木一視編、ナカニシヤ出版、2013 新版 キーワードで読みとく現代農業と食料・環境、小池恒男ほか編、昭和堂、2017				

科目名	都市地理学			期間	後期
担当教員	稲垣 稜	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	ここ数十年の間に都市地域において生じてきた構造的再編の解明を行う。現在だけでなく、過去から現在にかけての変化に焦点を当てる。				
到達目標	都市で生起しているさまざまな現象に対し、都市地理学的な考察力を身につけることを目標とする。都市のさまざまな側面を理解し、授業で得た知識や技能を柔軟に再構成して活用することができるようにする。				
授業概要	都市は、過去の諸事象の蓄積によってその構造が規定されていると言える。とくに戦後の経済成長やグローバル化は、現代都市地域に対して大きな影響を与えてきた。この授業では、これまでの都市地理学の研究成果をふまえ、都市地域で生じてきた現象を概説する。都市地理学に概要を説明したあと、都市システム、都市内部構造、商業、工業、交通、大都市圏などを取り上げる。				
評価方法・基準	「授業内での課題」、および「授業中（最終授業等）に実施する学習到達度確認（筆記等による学力確認）」をもとに総合的に評価する。「授業内での課題」とは、その授業内容の理解度を問う小テストである。				
履修上の注意事項等					
テキスト	都市の人文地理学、稲垣稜、古今書院、2019				
参考書	なし				

科目名	経済地理学			期間	後期
担当教員	★土屋 純	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	経済地理学の諸理論とさまざまな研究について包括的に紹介し、経済地理学を体系的に理解する。				
到達目標	1. 経済地理学の諸理論、立地論や集積論などを理解する。 2. 現代社会で生じている経済現象についてその仕組みを理解する。 3. 地域格差など現代社会の諸問題について理解する。				
授業概要	本講義は、経済地理学の理論を展開するとともに、現代社会で生じている様々な経済現象を理解することを目的としている。まずは、立地論など経済地理学の諸理論を理解する。そして、地域に展開する諸産業（工業、流通業、IT産業、コンテンツ産業、観光業など）の仕組みを理解するとともに、現代社会の諸問題（東京一極集中や地域格差の拡大、など）について学習していく。教科書『経済地理学への招待』を活用して授業を進めていく。				
評価方法・基準	毎回の授業で、理解度を問う小テストを課す（授業最後の10分で、15回、1回の配点を5点、合計で75%、e-Learningシステムを利用して）講義の全体に対する理解度を測る小レポートを課す（25%）				
履修上の注意事項等	テキストを持参して授業に参加してください。				
テキスト	経済地理学への招待、伊藤達也・小田宏信・加藤幸治、ミネルヴァ書房、2020				
参考書					

科目名	村落地理学			期間	後期
担当教員	古関 喜之	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	国内外の農業環境および農村の問題に関する理解を深め、村落地域の役割について考える。				
到達目標	1. 現代社会における国内外の農業環境および農村の問題について理解することができる。 2. 村落地域のさまざまな役割について理解し、説明することができる。 3. 村落地域のあり方や地域活性化の取り組みについて関心をもって考えることができる。				
授業概要	現代社会において村落地域には、食料生産のみではなく、水や電力エネルギーの供給、環境保全、良好な景観の維持、レクリエーション空間の提供などさまざまな役割がある。一方で村落地域は高齢化の進展や農地の荒廃、従来の地域社会の機能不全、災害対応力の低下などの問題を抱えている。本講義では、村落地域、特に現代農村の特徴と変容、農業環境、農村の環境問題、村落と都市の共生、地域活性化の取り組みについて、地理学的な視点と方法により学ぶ。学期の後半で、中国・台湾の農業環境と農業・農村問題を取り上げ、同じ東アジアの農村地域の問題背景や課題、地域活性化の取り組みについて比較検討する。講義では、講師が調査地で撮影した写真や関連する映像資料を見せながら、受講生が具体的に講義テーマを理解できるように努める。				
評価方法・基準	平常点50%（授業参加意欲、授業終了時の感想提出、授業内小テスト）、学習到達度確認50%（講義の内容を正確に把握しているかを論述形式で問う）で評価する。				
履修上の注意事項等	授業は講義形式で進めるが、学生との直接対話、感想やコメント等を活用し、理解度を把握しながら双方向的な授業を行う。学習到達度確認は「持ち込みなし」で行うので、相当時間の勉強が必要となる。なお、出席は単位認定の前提であり、3分1以上欠席した場合は不合格とする。授業内容に関連したプリント（講義資料）を配布する。				
テキスト	特になし				
参考書	現代農村の地理学、岡橋秀典、古今書院、2020 商品化する日本の農村空間、田林明編、農林統計出版、2013 日本とアジアの農業、宮崎猛編・農村とグリーン・ツーリズムー地域経営・体験重視・都市農村交流、宮崎猛編、昭和堂、2006				

科目名	歴史地理学			期間	前期
担当教員	★古関 大樹	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	歴史地理学の考え方と方法論				
到達目標	歴史地理学の考え方と方法論を学習し、研究の方向性を模索する。				
授業概要	地域・空間・環境・景観などのキーワードを重要視する地理学は、様々な学問領域と結びつきながら研究を深めます。このうち、歴史地理学は、過去の地表の現象、その変化や現代との結びつきを考える学問です。本講義では、都市や村落などを対象としながら歴史地理学の主な方法論を紹介し、理解を深めることを学習目標とします。				
評価方法・基準	授業の出席状況と不定期に出す課題（20%）。期末試験（80%）。期末試験は、配布資料とノートの持ち込み可なので、授業をしっかりと受けていれば、答えられます。				
履修上の注意事項等	地図やグラフの演習を取り入れながら授業を行うので蛍光ペンや色鉛筆を持参してください。参考文献は、配布資料で適宜提示します。				
テキスト					
参考書					

科目名	観光・交通地理学			期間	前期
担当教員	三木 理史	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	観光地理学に関わる内容をできるだけ幅広く紹介する。				
到達目標	受講生は、地理学において観光がどのように取り上げられてきたのかを、観光学との関係も視野に入れたつ多様性ある学際的思考を身につけるようにする。				
授業概要	内容については系統地理学の一分野に位置づけられる観光地理学の基礎的事項をできるだけ幅広く講義して理解してもらう。授業はテキストを軸に講義形式で行うが、配布プリントも準備するが、事前にデータ版を配信するため、ノートテイクなどにPCを活用することを歓迎する。またレポートを課す場合がある。				
評価方法・基準	授業内試験または学期末レポート（50点前後）と平常点を合計して100点で評価する。3分2以上の課題提出が必須である。				
履修上の注意事項等	本授業は「地理学特殊講義（六）」と対を成し、観光分野を取り上げるもののプリントの再配布は行わないのでe-learning上で取得すること。で、2025年度は本授業の内容を「地理学特殊講義（六）」として開講する予定である（つまり2025年度の「観光・交通地理学」の内容は交通分野となる見込みである）。				
テキスト	観光学—基本と実践（改訂新版）、溝尾良隆、古今書院、2015				
参考書	観光の空間：視点とアプローチ、神田孝治編著、ナカニシヤ出版、2009 現代観光学・ツーリズムから「いま」がみえる ワードマップ、遠藤英樹・橋本和也・神田孝治編著、新曜社、2019 観光地理学 - 観光地域の形成と課題（第2版）、山村 順次編著、同文館出版、2012				

科目名	人口地理学			期間	前期
担当教員	酒井 高正	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	人口地理学のあらましと世界の人口問題				
到達目標	人口地理学の基本的な諸概念と人口分析の基礎的な技法を理解するとともに、日本を含む世界の人口問題に関する知識を習得する。				
授業概要	まず、人口現象を地理学的な立場から扱う人口地理学の概要を紹介する。続いて、人口に関する諸情報の入手や分析方法について、GISの利用法も含めて学ぶ。さらに、地球の環境問題の根底にあるといわれる世界の人口爆発の問題や日本をはじめとする諸地域の人口問題についても、人口地理学の立場から学ぶ。				
評価方法・基準	平常点100%（受講態度の適切性、提出課題類の内容の適切性と充実度、復習問題（小テスト）の解答内容などで評価する。）				
履修上の注意事項等	履修者数が許せば電算実習室にて配置端末を利用するが、端末台数を超過する場合は一般教室を利用する。後者の場合はWindows ノート PC の持参を強く推奨する（スマホでは学修しにくい可能性あり）。【他学科D群「世界の人口問題」と合同】				
テキスト	必要に応じて e-Learning のデジタル教材または紙のノアウトを配布する。				
参考書	授業時に案内する。				

科目名	地形学			期間	前期
担当教員	羽佐田 紘大	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	地形に関する基本的な知識の習得				
到達目標	1. 地形の種類とその形成過程についての知識を習得する。 2. さまざまな地形と自然災害、土地利用との関係を把握する。				
授業概要	本講義では、さまざまな地域、規模の地形を対象として、それらの特徴や形成過程、成因などについて解説していく。講義中に多くの図や写真を示し、視覚的に理解できるように努める。さらに、地形図などを用いながら、対象地域の地形の特徴と人々の暮らしとの関係を理解していく。				
評価方法・基準	毎回の小課題（コメントシートまたは小テスト）30%（基本的な内容を理解しているかを確認）、学習到達度確認70%（講義内容を正確に把握しているかを確認）を基に総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	毎回教材を e-Learning で配布する。プロジェクターで投影した図表はあまり鮮明ではなく見えにくいいため、ノート PC やタブレット等を持参し、各自教材を閲覧しながら受講することが望ましい。				
テキスト	毎回教材を e-Learning で配布				
参考書	適宜紹介				

科目名	水文学			期間	後期
担当教員	★大谷 侑也	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	地下水をはじめとする水の動きや、調査方法、循環に関する知識を習得し、それに基づいて水に関わる諸問題に対する自らの考えを持つことができるようになることを目的とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>上流から下流、さらには地球全体における水の動き（位置や速度、水収支）やその性質（硬度、化学特性）について説明できる。</li> <li>水環境の調査方法（流速の計算、地形図の読図、ダルシー式、放射性同位体による年代測定）を説明できる。</li> <li>科学的な背景から、人と水に関する文化を、地理的、地形的な背景から説明できる。</li> <li>水の適切な利用の在り方について、自らの考えを持ち説明することができる。</li> </ul>				
授業概要	人が暮らしていく上で欠かせない水は、不均質で複雑な地形と地質を介して下流にもたらされる。本講義では、水がどのようにして私たちの元にもたらされるのか、調査方法を交えながら水循環のプロセスについて解説する。前半は、大気を含む地球全体での水循環について取り上げる。後半は、身近な水資源として河川や扇状地における水の動きを解説する。また、日本や西洋における水に関わる文化や伝統を通して、共有財としての地下水の利用の在り方について解説する。				
評価方法・基準	不定期で実施する講義中に行う確認テスト（30％）と、学習到達度調査（30％）、毎回のコメントペーパーの内容（40％）を総合して評価する。確認テストの実施は一週間前までに授業内で知らせる。コメントペーパーの提出をもって出席扱いとする。				
履修上の注意事項等	毎回のコメントペーパーで出席をとる。確認テストの提出が半分以下の者、また点数が著しく悪い者は不可とする。さらに出席が10回未満の受講生は「出席不足により不可」とする。学習到達度調査は、対面で試験を行う予定である。この授業は、高校の理系物理・化学・数学Ⅲについては復習を行わない、理系向けの授業である。				
テキスト	使用しない。				
参考書	地下水と地形の科学 水文学入門、榎根 勇、講談社学術文庫、2013				

科目名	災害地理学（二）			期間	後期
担当教員	芝田 篤紀	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	自然災害の基本と住民生活との有機的関係				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境を構成する大きな要素である地形と気候について、それら成因の概要を説明することができる。</li> <li>自然災害と人々の暮らしについて、相互に影響している側面があることを説明することができる。</li> </ul>				
授業概要	身近な自然から世界各地の自然を学ぶ中で、自然環境の諸要素やそれらの繋がり、住民生活との関係を理解し、災害・防災や持続可能社会など人間が直面する問題を通じて、自然環境と人間との相互作用的関係を考察・説明する能力の獲得を目指す。				
評価方法・基準	授業内課題など平常点（50％）と、授業内容を基にした確認テスト（50％）によって理解度を評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	プリントを配布				
参考書	各授業内で適宜提示				

科目名	地理学特殊講義（二）			期間	後期
担当教員	木村 圭司	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	ArcGIS proを使った、高度なGIS技術の修得				
到達目標	ArcGIS pro を用いて、GISの基礎から応用まで使えるようにする。				
授業概要	各自が所有するWindows ノートパソコンを持参し、ArcGIS pro をインストールした後、GIS を使いこなせるようにしていく。毎回の授業で、課題が与えられ、期日までに提出することで、授業の理解を深め、技術を定着させる。GIS 解析に関して、実践的で、かなり高度な内容を含む。				
評価方法・基準	毎回だされる課題を期日までにGoogle Classroomに提出（50％）と、期末レポート（50％）を合算して評価する。毎回の課題提出者を出席者とし、出席が8回以下の受講生は評価の対象としない。				
履修上の注意事項等	受講生各自のWindows のノートパソコンにArcGIS pro をインストールし、作業を行う。一部、クレジットを消費する作業があるので、教員の注意事項は厳守してもらいたい。				
テキスト	特になし				
参考書	六訂版GISと地理空間情報、橋本雄一（編）、古今書院、2022				

科目名	地理学特殊講義（三）			期間	前期
担当教員	稲垣 稜	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本の都市の特徴の考察				
到達目標	都市の形成、現状、将来像を理解し、今後のあるべき姿を考えられるようにする。				
授業概要	現代の日本では、全人口の7～8割が都市に居住している。それゆえ、都市は、日本全体の中でもきわめて重要な位置にあるといつてよい。この授業では、都市の経済社会的な状況を理解したうえで、さまざまな地域の特性が把握できるようになることを目的とする。				
評価方法・基準	授業内での小課題により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	日本の都市百選 第1集、牛垣雄矢ほか、古今書院、2023				
参考書					

科目名	地理学特殊講義（五）			期間	後期
担当教員	土平 博	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	近世城下町と「陣屋町」				
到達目標	近世城下町と陣屋町を対比しつつ、その類似点や相違点について理解する。				
授業概要	江戸期の城下町は全国各地に建設された代表的な近世都市といえる。まずは、城下町の成立、形態と構造に関する先行研究の成果を紹介していく。その一方で城下町に類似した陣屋町について紹介していく。その後、城・城下町ならびに陣屋・陣屋町を比較しながら、その相違を明らかにしていく。その際、とくに陣屋・陣屋町の特徴を見いだすことを目標とする。また、「陣屋町」の概念規定に取り組んできた先行研究をふまえて問題点を整理し、今後の研究課題についても検討する。さらに、町並み保存の対象になっている城下町や陣屋町についても紹介していく。以下の通り実施する。				
評価方法・基準	学習到達度確認（講義の内容を正確に把握しているかを論述形式で問う）60%と平常授業時の課題（授業に対する積極性ならびに基本的な語句の理解度等講義内容の理解度を確認する）40%によって評価する。				
履修上の注意事項等	前期の「歴史地理学」とあわせて履修することをおすすめする。				
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	地理学特殊講義（六）			期間	後期
担当教員	三木 理史	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	交通地理学の位置づけや諸説をできるだけ幅広く、紹介し、地理学の交通研究を概説する。				
到達目標	受講生は、地理学での交通の取り上げや研究対象を活用して知識・技能を修得用する。特に他の系統地理学分野や他学との関係を視野に入れつつ多様性ある学際的思考が身につくようにする。				
授業概要	系統地理学の一分野に位置づけられる交通地理学の基礎的事項をできるだけ幅広く講義して理解してもらおう。講義では、まず青木栄一「交通地理学を考える（一）」を講読することで、その学的成立を概観したうえで、これまでの研究内容をできるだけ幅広く概説する。またノートテイクにおけるPCの活用を歓迎する。				
評価方法・基準	授業内試験または学期末レポート（50点前後）と平常点を合計して100点で評価する。3分2以上の出席を受験条件とする。また、平常点加算のために平常レポートを課すこともある。				
履修上の注意事項等	プリントの再配布は行わないのでe-learning上で取得すること。本授業は「観光・交通地理学」と対を成し、2025年度は本授業の内容を「観光・交通地理学」として開講予定（2025年度の「地理学特殊講義（六）」の内容は観光分野となる）。				
テキスト	なし				
参考書	基礎からの交通地理、木村辰男、古今書院、1991 交通地理学の方法と展開、青木栄一、古今書院、2008				

科目名	地理学特殊講義（七）			期間	後期
担当教員	酒井 高正	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	人口法則と人口統計データの応用論				
到達目標	人口地理学分野の研究遂行のため、統計データ利用と各種モデルを中心とする人口地理学の各領域についての知識を深め、先行研究の理解や自身の研究の深化に役立てる				
授業概要	人口地理学の基礎を既に学んでいる者のための応用編として、人口法則や人口移動法則について詳しく学び、現代との整合性について、実際に統計データ計算も含めて検証してみる。また、人口統計データの歴史や現況についても詳しく学び、実際に入手して運用するための知識や技術を習得する。その過程で、統計分析のおもな手法についても学んでいく。				
評価方法・基準	平常点100%（提出課題の内容の適切性と充実度、授業内での発言や質疑応答の態度などにより評価する。）				
履修上の注意事項等	毎回 WindowsPC を持参すること。Word、Excel、PowerPoint を使用。他の無料アプリ等を使用する場合は授業内で案内する。 受講生の関心や予備知識などの状況を勘案して、授業内容を調整することがある。				
テキスト	大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる（角川文庫）、倉田博史、KADOKAWA、2019 必要に応じてハンドアウトを配布する。				
参考書	授業時に案内する。				

科目名	地理学特殊講義（九）			期間	前期
担当教員	★元田 茂充	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	人間活動と生物圏を中心とした環境との多様な関係性の解明。				
到達目標	生物と人間活動の歴史的な関係、生物と関わる人間の多様な文化を理解できるようにする。				
授業概要	人間は様々な生物を狩猟・採集の対象、家畜化・栽培化の対象、有害駆除の対象、保護の対象、信仰の対象などとして認識してきた。そして、それぞれの局面において人間は多様な文化を育んできた。 本講義では、①生物多様性はどのような人間活動のもとに維持されてきたか、②人間は生物資源との関わりの中でどのような文化を生み出してきたのか、③現代社会の中で、人間と生物の関係はどのように形成されているのか、などの観点から人間活動と生物との関係の諸相を検討していく。				
評価方法・基準	評価方法：講義内容を正確に把握しているかを問う論述形式の試験成績と平常成績により総合的に評価する。 評価の基準：定期試験の成績を50%、平常成績のうち課題の提出状況を40%、授業中の小レポートを10%とする。				
履修上の注意事項等	①積極的な授業参加を望む。 ②授業中に紹介する参考文献を読むと、より理解が深まる。 ③環境・生物と人間活動との関係性に注目してテレビを見たり、新聞を読む。 ④内容は順番が前後したり、受講生の興味・関心に依じて他の内容と差し替える場合がある。				
テキスト	使用しない。プリントを配布する。				
参考書	授業中に適宜紹介する。				

科目名	地理学特殊講義（十二）			期間	後期
担当教員	★辰己 勝	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	各種の地形について形態と分布を把握し、形成過程、変遷等を現地写真と映像、地形図、画像データ等から解明する				
到達目標	地形学の研究成果をもとにして、日本と世界各地に見られる代表的な地形の形態と形成過程、近年の変遷等を理解できるようになること。また、地形災害の事例を知り、防災に役立てること。				
授業概要	はじめに世界の大地形について概観し、その成因を解説する。次いでテキストに記載の地図や現地写真を見て、地域ごとの地形の形態と形成時期や形成過程を調べていく。前半は近畿地方の河川が形成した地形、南九州の火山地形と火山災害等を取り上げる。後半は、東アジアから順に西回りして世界各地の代表的な地形を事例として、日本の地形との類似点、相違点を内的・外的要因からも言及する。受講者は取り上げた事項について、身近な地域の地形との関連を考察し、自然災害の対策に活かしてもらいたい。				
評価方法・基準	授業時の課題等50%、最終レポート50%を基準に評価します。地形を主体に授業で取り上げた事項の理解度を判断します。				
履修上の注意事項等	テキストとともに毎時地図帳を手元の置いてください。日ごろから身近な地域の地形、世界各地の地形について、実際に歩いたり、現地の画像等を見たりすることを心がけてください。				
テキスト	図説 世界の自然環境, 辰己 勝, 古今書院, 2013				
参考書	自然災害地, 池田 碩, 古今書院, 2023 見渡す・つなげる自然地理学, 小野英介・吉田圭一郎, 古今書院, 2021 新詳高等地図帝国書院, 2017				

科目名	測量技法（一）			期間	前期集中
担当教員	★貫渡 利行 他	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	基本的な多角測量及び現況平面測量を行った後、製図作成までの方法を習得する				
到達目標	基準点測量、地形測量に使用する測量器械の据え付け方、操作方法等を習得する。				
授業概要	測量実務の専門家の指導のもと、6,7人で1班を形成し、大学構内敷地においてトータルステーションによる測量実習を行う。延べ7日間（土日）で集中しておこなう。基準点測量・水準測量・地形測量を実施し、その成果を利用し、現況平面図を作成する。又、GNSS 測量の RTK 測量観測の体験する。				
評価方法・基準	実習修得度、受講態度70%、基本的な測量器械の操作方法の修得度及びグループで作業する協調性を重視する。測量成果、成果平面図、レポートにより総合的に評価30%、グループ作業の中で個人の理解度を確認するため、課題図面やレポートについて真摯に取り組む姿勢等を重視する。				
履修上の注意事項等	関数電卓、三角定規、三角スケールをj準備。野外作業であるので服装・履き物に注意。スリッパ・サンダル等は禁止。又暑さ・寒さ・雨対策も講じること。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	必要な資料は配付する				
参考書					

科目名	測量技法（二）			期間	後期集中
担当教員	★貫渡 利行 他	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	基本的な多角測量及び現況平面測量を行った後、製図作成までの方法を習得する				
到達目標	基準点測量、地形測量に使用する測量器械の据え付け方、操作方法等を習得する。				
授業概要	測量実務の専門家の指導のもと、6,7人で1班を形成し、大学構内敷地においてトータルステーションによる測量実習を行う。延べ7日間（土日）で集中しておこなう。基準点測量・水準測量・地形測量を実施し、その成果を利用し、現況平面図を作成する。又、GNSS 測量の RTK 測量観測の体験する。				
評価方法・基準	実習修得度、受講態度70%、基本的な測量器械の操作方法の修得度及びグループで作業する協調性を重視する。測量成果、成果平面図、レポートにより総合的に評価30%、グループ作業の中で個人の理解度を確認するため、課題図面やレポートについて真摯に取り組む姿勢等を重視する。				
履修上の注意事項等	関数電卓、三角定規、三角スケールをj準備。野外作業であるので服装・履き物に注意。スリッパ・サンダル等は禁止。又暑さ・寒さ・雨対策も講じること。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	必要な資料は配付する				
参考書					

科目名	応用地図技法			期間	後期
担当教員	酒井 高正	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	GIS を用いたデータ利活用と主題地図作成				
到達目標	各種機関から提供される地図データと統計データを地域の調査や研究に活用するため、データの入手・加工・分析および地図表現の方法を習得する。				
授業概要	まず、オンライン GIS とデスクトップ GIS の代表的なシステムの操作を通じて、GIS の基本技法を確認する。続いて、各種機関の WEB サイト等で提供される地図データや統計データを GIS 等で活用できるようなたちで入手する方法を学ぶ。さらに、それらのデータの基本的な分析と主題地図に加工して、地域の調査や研究に活用する方法を学ぶ。				
評価方法・基準	平常点100%（受講態度の適切性、提出課題類の内容の適切性と充実度、復習問題（小テスト）の解答内容などで評価する。）				
履修上の注意事項等	毎回 WindowsPC を持参すること。Word、Excel、PowerPoint を使用。他の無料アプリ等を使用する場合は授業内で案内する。受講には、「地理学実習（四）」で学んだ Excel と GIS の基本操作ができることが必要である。				
テキスト	必要に応じて e-Learning のデジタル教材または紙のハンドアウトを配布する。				
参考書	授業時に案内する。				



科目名	フィールドワーク技法			期間	前期
担当教員	★安藤 哲郎	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	フィールドワークを通じて学ぶ地理的技能				
到達目標	フィールドワークを通じて観察力を高めるとともに、フィールドワークの事前準備や事後のレポートまとめに伴って地図や資料の扱い方についても理解する。				
授業概要	フィールドワークとして、エクスカージョン（巡検）・土地利用調査・旅のプランの創造の3つのメニューを用意し、それぞれを事前準備のうえで実施する。さらに、フィールドワークの結果を地図などにまとめ、受講生間で交流し意見を出し合うことにより、事後学習につなげる。なお、実施場所は大学周辺や受講生の関心に応じて選択できるように想定している。				
評価方法・基準	フィールドワークの実施とそれに関連する地図や写真・課題等の提出（3種類を予定）：75%、授業へのコメント：25%とする。前者の課題は多岐にわたる観察ができていないか、地形図読図や資料読解などとリンクできているかという観点から評価する。コメントについては各回の平常点であるが、質問や意見などを積極的に記そうとしているかを評価する。				
履修上の注意事項等	読図に用いるために色鉛筆や蛍光ペンなどを持参してください。フィールドワークの一部は授業回に含みます。授業の順番は変更の可能性があります。また日程調整により可能な場合は、日曜日などに担当教員も参加するエクスカージョンを実施予定です。				
テキスト	テキストは用いず、プリントを配布します。				
参考書	なし（必要に応じて授業中に提示する）				

科目名	リモートセンシング技法			期間	前期
担当教員	木村 圭司	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	地球を航空機や人工衛星から観測するリモートセンシングについて、講義で理解し、技法指導で使えるようにする				
到達目標	リモートセンシングについて理解し、Windows パソコンのさまざまなソフトウェア（日本語版だけでなく、英語版を利用することもある）を利用して基礎的なデータ解析までできるようにする。				
授業概要	リモートセンシングの基礎的事項を学び、さまざまなソフトウェア（日本語版だけでなく英語版を使用することもある）を使用して基礎的なデータ解析をできるようにする。講義の後には、Windows パソコンを使った作業（宿題）に取り組んでもらう。受講生全員が毎回課題を期限内に提出する必要がある。ソフトウェア・データとも、大きなファイルサイズになるため、これらのダウンロード・インストールは学内 wifi を使うことが望ましい。英語版ソフトウェアは、エラーメッセージ等も英語であることに注意。				
評価方法・基準	毎回の講義時に出される課題（70%）、期末レポート（30%）を合算する。なお、毎回の講義は、課題の提出により出席扱いとし、出席扱いの回数が8回以下の受講生は不可とする。				
履修上の注意事項等	課題の作業には ArcGIS pro や SNAP、EISEI など多くの Windows ソフトを使用する。高卒レベルの英語（英文マニュアルを参照）、物理（光や波の性質）、数学（三角関数や微分積分）等の知識が必要。授業終了後に、毎回課題が出される。				
テキスト	特になし				
参考書					

科目名	GIS データ分析技法			期間	後期
担当教員	芝田 篤紀	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	GIS と様々なデータ分析の理解・技法				
到達目標	GIS を用いた分析の手法と分析工程の基礎を理解する。様々な課題に対して GIS で分析する技能を習得する。				
授業概要	衛星画像解析、ドローンの画像処理などからラスターデータの分析方法を学び、後半はベクターデータを用いた空間解析や位置情報の取得、分析方法を学習する。また GNSS や LiDAR の基本も学ぶ。				
評価方法・基準	授業への参加度など受講態度（平常点：40%）、事例研究の回に提出するレポート（60%）にて、理解度・習熟度を評価する。				
履修上の注意事項等	ノート PC 必携。実際にコンピューターを用いて解析作業等を行うため、PC 関連の基本技能がなければ受講が大変困難となる。また、前期開講の「地理情報科学概論」で学習する知識が多分に関係するため、当科目を履修済みであることが望ましい。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	各授業内で適宜提示				

科目名	海外巡検			期間	その他
担当教員	木村 圭司 古閑 喜之	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	イタリアを訪問し、日本と異なる自然・人文・社会・文化を実体験する。				
到達目標	事前学習・現地調査・事後学習を通してイタリアと日本との違いを実体験し、国際的視野を身につける。				
授業概要	イタリアの多くの地理的事象を観察する予定である。これらを現地地で実体験し、国際社会への視野を広げる。				
評価方法・基準	海外巡検に参加することを単位取得の要件とする。事前学習への取り組み、報告書の内容などから総合的に評価する。 ★この授業を選択できる学生は、①地理学科2年生以上、②過去に同じ講義名称の単位を修得していない、という2つの条件を両方満たす学生のみである。これ以外の学生は「海外研修（一）」を選択すること。				
履修上の注意事項等	海外巡検・海外研修（一）合わせて15人以上の受講者がいない場合には、現地訪問ができない場合がある。安全の確保のために、受講希望者を対象とした受講者の選抜を行い、合格者のみを受講対象とする。可能な限り、2024年度前期に開講する「世界地誌概論Ⅱ」（担当：木村）を受講すること。授業以外にも、旅行者（日本旅行）による説明会がある。				
テキスト	随時配布する。				
参考書	随時指示する。				



# 文化財学科科目





科目名	文化財学研究法Ⅰ (一) 文化財学研究法Ⅰ (二) 文化財学研究法Ⅰ (三)			期間	前期
担当教員	岩戸 晶子 魚島 純一 相原 嘉之	単位数	2	配当年次	1
テーマ	文化財の種類・研究分野、文化財の基本的な調査・研究方法を学ぶ				
到達目標	文化財研究の入門編である。(1)文化財の種類と研究分野、文化財保護の仕組みと活用。(2)文化財研究における保存科学的研究法。(3)文化財調査法、文化財情報の調べ方、の基本的な3テーマを学習し理解する。				
授業概要	文化財は過去の人々の営みを伝える貴重な財産(資料)である。ここでは、3つのテーマをクラス分けに従って受講し、文化財の基礎知識を学ぶ。(1)元文化財行政職の経験を生かして、遺跡や古墳、土器や石器、お寺や仏像等々の文化財の種類とその特徴、文化財保護の仕組みや社会的意義、活用などの文化財全般について解説する【相原】。(2)元徳島県立博物館学芸員の実務経験を生かして、自然科学的手法を用いた保存科学的調査・研究を紹介し、分析や保存処理も体験する【魚島】。(3)どのように文化財研究を進めるのか、文化財情報の調べ方を身につけます。特に大学図書館で文献を探し出す技を実践的に伝授します【岩戸】。				
評価方法・基準	期末における学習到達度確認において評価する。3テーマの基本的な内容を把握しているかを論述形式で問う。				
履修上の注意事項等	ガイダンスでクラス分けと日程の説明を行う。指定されたクラスと日程に従ってローテーションを行い、3テーマ(教員)の授業と合同授業のすべてを受けること。随時資料を配付する。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場に従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	文化財学研究法Ⅱ (一) 文化財学研究法Ⅱ (二) 文化財学研究法Ⅱ (三)			期間	後期
担当教員	豊島 直博 大河内 智之 吉川 敏子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	(豊島)考古資料の調査研究入門 (大河内)美術作品の調査研究入門 (吉川)文献史料の調査と研究				
到達目標	(豊島)考古資料の調査研究法を学ぶ (大河内)美術作品の調査研究方法を学ぶ (吉川)文献史料を読む方法を学ぶ				
授業概要	(豊島)考古学はどのような学問か。その歴史、研究方法、発掘調査について、元文化庁の埋蔵文化財担当調査官としての実績を生かした講義を行い、具体例をもとに学ぶ。(大河内)美術史学は絵画や彫刻、工芸など造形芸術の歴史を明らかにする学問である。元学芸員の経験を元に地域に伝来する美術資料の調査研究法について学習する。(吉川)史料学は、文字資料を正しく読解することから始まる。文献史料を研究するための基礎知識や、関係する辞書類と特徴、漢文の基礎などを学ぶ。				
評価方法・基準	(豊島)講義の内容に関するレポート。A4、1枚程度。(大河内)講義内の課題(吉川)課題提出と小テストで評価する。配点は1:4				
履修上の注意事項等	受講者は3クラスに分かれ、(一)の受講者は豊島担当分から、(二)の受講者は大河内担当分から、(三)の受講者は吉川担当分から受講します。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場に従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅰ (一)			期間	前期
担当教員	竹田 芳則	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート(調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価)・発表(調査、構成と発表方法の工夫で評価)・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法、初年次教育を考える会、奈良大学、2022				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅰ (二)			期間	前期
担当教員	村上 正直	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート(調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価)・発表(調査、構成と発表方法の工夫で評価)・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法、初年次教育を考える会、奈良大学、2022				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅰ（三）			期間	前期
担当教員	★床谷 文雄	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート（調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価）・発表（調査、構成と発表方法の工夫で評価）・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法, 初年次教育を考える会, 奈良大学, 2022				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅰ（四）			期間	前期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート（調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価）・発表（調査、構成と発表方法の工夫で評価）・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法, 初年次教育を考える会, 奈良大学, 2022				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅱ			期間	後期
担当教員	文化財共同	単位数	2	配当年次	1
テーマ	文化財とキャリア形成				
到達目標	自分の将来について具体的に考える。				
授業概要	文化財学科の教員が文化財に関係するキャリアについて語り、学生はそれを生かして自分のキャリア形成について考える。 各回、講義室移動があるので、初回の注意事項をよくきくこと。ポータルにも掲示する。				
評価方法・基準	各回の授業中に作成する課題の提出状況と完成度を総合的に評価する。課題の提出方法については講義中の注意をよくきくこと。				
履修上の注意事項等	新型コロナウイルス感染症の蔓延状況等によって予定が変更となる場合がある。教務連絡に注意すること。				
テキスト					
参考書					

科目名	文化財演習Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財のグループ研究				
到達目標	受講生が文化財について、仲間と協力しながら課題設定し、調査・検討した成果をまとめてプレゼンテーションする方法を身につける。				
授業概要	班ごとに研究テーマを設定し、グループワークにより学生同士で文化財学の学びの方法を体験的に習得していく。授業では現地の巡見を行うが、各学生が巡見に先立つ情報収集を行い、巡見しながら意見交換して相互の気づきを共有し、巡見で得た知見や疑問を出発点として、グループごとにさらなる調査を行う。調査成果を整理し、グループごとに発表資料を作成してプレゼンテーションを行う。				
評価方法・基準	発表準備シート①②の内容（配点各10点）、巡見への取り組み姿勢（40点）、発表準備への取り組み姿勢（20点）、発表のできればえ（20点）で評価します。				
履修上の注意事項等	巡見は授業曜日とは異なる日に振り替える場合がある。ガイダンスで説明される日程を各自でよく確認すること。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文化財演習Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財のグループ研究				
到達目標	文化財について、仲間と協力しながら課題設定し、調査・検討した成果をまとめてプレゼンテーションする方法を身につける。				
授業概要	班ごとに研究テーマを設定し、グループワークにより学生同士で文化財学の学びの方法を体験的に習得していく。授業では現地の巡見を行うが、各学生が巡見に先立つ情報収集を行い、巡見しながら意見交換して相互の気づきを共有し、巡見で得た知見や疑問を出発点として、グループごとにさらなる調査を行う。調査成果を整理し、グループごとに発表資料を作成してプレゼンテーションを行う。				
評価方法・基準	発表準備シート①②の内容（配点各10点）、巡見への取り組み姿勢（40点）、発表準備への取り組み姿勢（20点）、発表のできばえ（20点）で評価する。				
履修上の注意事項等	巡見は授業曜日とは異なる日に振り替える場合がある。ガイダンスで説明される日程を各自でよく確認すること。				
テキスト					
参考書					

科目名	文化財演習Ⅰ（三）			期間	前期
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財のグループ研究				
到達目標	文化財について、仲間と協力しながら課題設定し、調査・検討した成果をまとめてプレゼンテーションする方法を身につける。				
授業概要	班ごとに研究テーマを設定し、グループワークにより学生同士で文化財学の学びの方法を体験的に習得していく。授業では現地の巡見を行うが、各学生が巡見に先立つ情報収集を行い、巡見しながら意見交換して相互の気づきを共有し、巡見で得た知見や疑問を出発点として、グループごとにさらなる調査を行う。調査成果を整理し、グループごとに発表資料を作成してプレゼンテーションを行う。				
評価方法・基準	発表準備シート①②の内容（配点各10点）、巡見への取り組み姿勢（40点）、発表準備への取り組み姿勢（20点）、発表のできばえ（20点）で評価する。				
履修上の注意事項等	巡見は授業曜日とは異なる日に振り替える場合がある。ガイダンスで説明される日程を各自でよく確認すること。				
テキスト					
参考書					

科目名	文化財演習Ⅰ（四）			期間	前期
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財のグループ研究				
到達目標	文化財について、仲間と協力しながら課題設定し、調査・検討した成果をまとめてプレゼンテーションする方法を身につける。				
授業概要	班ごとに研究テーマを設定し、グループワークにより学生同士で文化財学の学びの方法を体験的に習得していく。授業では現地の巡見をおこなうが、各学生が巡見に先立つ情報収集をおこない、巡見しながら意見交換して相互の気づきを共有し、巡見で得た知見や疑問を出発点として、グループごとにさらなる調査をおこなう。調査成果を整理し、グループごとに発表資料を作成してプレゼンテーションをおこなう。				
評価方法・基準	発表準備シート①②の内容（配点各10点）、巡見への取り組み姿勢（40点）、発表準備への取り組み姿勢（20点）、発表のできばえ（20点）で評価する。				
履修上の注意事項等	巡見は授業曜日とは異なる日に振り替える場合がある。ガイダンスで説明される日程を各自でよく確認すること。				
テキスト					
参考書					

科目名	文化財演習Ⅰ（五）			期間	前期
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財のグループ研究				
到達目標	文化財について、仲間と協力しながら課題設定し、調査・検討した成果をまとめてプレゼンテーションする方法を身につける。				
授業概要	班ごとに研究テーマを設定し、グループワークにより学生同士で文化財学の学びの方法を体験的に習得していく。授業では現地の巡見を行うが、各学生が巡見に先立つ情報収集を行い、巡見しながら意見交換して相互の気づきを共有し、巡見で得た知見や疑問を出発点として、グループごとにさらなる調査を行う。調査成果を整理し、グループごとに発表資料を作成してプレゼンテーションを行う。				
評価方法・基準	発表準備シート①②の内容（配点各10点）、巡見への取り組み姿勢（40点）、発表準備への取り組み姿勢（20点）、発表のできばえ（20点）で評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	適宜プリントを配布する				
参考書					

科目名	文化財演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	杉山 智昭	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財のグループ研究				
到達目標	文化財について、仲間と協力しながら課題設定し、調査・検討した成果をまとめてプレゼンテーションする方法を身につける。				
授業概要	班ごとに研究テーマを設定し、グループワークにより学生同士で文化財学の学びの方法を体験的に習得していく。授業では現地の巡見を行うが、各学生が巡見に先立つ情報収集を行い、巡見しながら意見交換して相互の気づきを共有し、巡見で得た知見や疑問を出発点として、グループごとにさらなる調査を行う。調査成果を整理し、グループごとに発表資料を作成してプレゼンテーションを行う。				
評価方法・基準	発表準備シート①②の内容（配点各10点）、巡見への取り組み姿勢（40点）、発表準備への取り組み姿勢（20点）、発表のできばえ（20点）で評価する。				
履修上の注意事項等	巡見は授業曜日とは異なる日に振り替える場合がある。ガイダンスで説明される日程を各自でよく確認すること。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	文化財演習Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財の具体的な研究				
到達目標	文化財について、調査研究する基礎的な方法を身に付ける				
授業概要	各自が興味や関心をもつ文化財を選び、それぞれ調べてレポートを作成する。また、月に1回程度、学外見学を行う。				
評価方法・基準	発表準備シート①②の内容（配点各10点）、巡見への取り組み姿勢（40点）、発表準備への取り組み姿勢（20点）、発表のできばえ（20点）で評価する。				
履修上の注意事項等	巡見は授業曜日とは異なる日に振り替える場合がある。ガイダンスで説明される日程を各自でよく確認すること。				
テキスト					
参考書					

科目名	文化財演習Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	小林 青樹	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財のグループ研究				
到達目標	文化財について、仲間と協力しながら課題設定し、調査・検討した成果をまとめてプレゼンテーションする方法を身につける。				
授業概要	班ごとに研究テーマを設定し、グループワークにより学生同士で文化財学の学びの方法を体験的に習得していく。授業では現地の巡見を行うが、各学生が巡見に先立つ情報収集を行い、巡見しながら意見交換して相互の気づきを共有し、巡見で得た知見や疑問を出発点として、グループごとにさらなる調査を行う。調査成果を整理し、グループごとに発表資料を作成してプレゼンテーションを行う。 本演習は、班分け、巡見先、研究発表などの日程・内容・評価方法などが変更になる場合がある。事前に講義連絡を確認すること。				
評価方法・基準	発表準備シート①②の内容（配点各10点）、巡見への取り組み姿勢（40点）、発表準備への取り組み姿勢（20点）、発表のできばえ（20点）で評価する。				
履修上の注意事項等	各回の授業内容を変更する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に指示する				

科目名	文化財演習Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財のグループ研究				
到達目標	文化財について、仲間と協力しながら課題設定し、調査・検討した成果をまとめてプレゼンテーションする方法を身につける。				
授業概要	班ごとに研究テーマを設定し、グループワークにより学生同士で文化財学の学びの方法を体験的に習得していく。授業では現地の巡見を行うが、各学生が巡見に先立つ情報収集を行い、巡見しながら意見交換して相互の気づきを共有し、巡見で得た知見や疑問を出発点として、グループごとにさらなる調査を行う。調査成果を整理し、グループごとに発表資料を作成してプレゼンテーションを行う。				
評価方法・基準	発表準備シート①②の内容（配点各10点）、巡見への取り組み姿勢（40点）、発表準備への取り組み姿勢（20点）、発表のできばえ（20点）で評価する。				
履修上の注意事項等	巡見は授業曜日とは異なる日に振り替える場合がある。ガイダンスで説明される日程を各自でよく確認すること。 *新型コロナウイルス感染拡大によって、予定を変更する場合がある。頻繁に「ポータル」を確認すること。				
テキスト	なし				
参考書					



科目名	文化財演習Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	比佐 陽一郎	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財のグループ研究				
到達目標	文化財について、仲間と協力しながら課題設定し、調査・検討した成果をまとめてプレゼンテーションする方法を身につける。				
授業概要	班ごとに研究テーマを設定し、グループワークにより学生同士で文化財学の学びの方法を体験的に習得していく。授業では現地の巡見をおこなうが、各学生が巡見に先立つ情報収集をおこない、巡見しながら意見交換して相互の気づきを共有し、巡見で得た知見や疑問を出発点として、グループごとにさらなる調査をおこなう。調査成果を整理し、グループごとに発表資料を作成してプレゼンテーションをおこなう。				
評価方法・基準	発表準備シート①②の内容（配点各10点）、巡見への取り組み姿勢（40点）、発表準備への取り組み姿勢（20点）、発表のできばえ（20点）で評価する。				
履修上の注意事項等	巡見は授業曜日とは異なる日に振り替える場合がある。ガイダンスで説明される日程を各自でよく確認すること。				
テキスト	授業中に紹介する				
参考書					

科目名	考古学講読Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	小林 青樹	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	遺跡に関する基礎文献の講読				
到達目標	考古学に関する遺跡や遺物の基礎的な用語や特徴など理解し、考古学の基礎を学ぶ。				
授業概要	主に日本と世界の遺跡に関する基礎的な文献を受講者が選択し、受講者全員で輪読する。文献選択者は、自分の選んだ文献についての小発表を行う。なお、考古学講読Ⅰ（一）・考古学講読Ⅱ（二）・考古学講読Ⅱ（四）は同じ内容で開講しており、これらのうちから一つのみ受講すること（複数受講できない）。実施方法は、まず前週に資料を配布して受講者は事前に用語などを予習する。そして次の週に配布資料の遺跡について解説し、授業後に復習する。				
評価方法・基準	発表60%（発表内容の充実度を重視する）、レポート40%（演習を通じて学んだ課題の文献を正確に読めているか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか）。特にオリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	後期に開講している「考古学講読Ⅱ（二）」は続けて履修はできない。				
テキスト	なし				
参考書	授業前に資料を配布する				

科目名	考古学講読Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本考古学の論文を読む				
到達目標	正しい論文の読み方を学び、問題点を見つける力を身につける。				
授業概要	おもに弥生時・古墳代の論文を輪読する。テキストは初回に指示するので、分担で人数分を用意する。発表資料を作成してもら場合もある。				
評価方法・基準	期末レポート（興味のある論文をよみ、内容をまとめる。B4 1枚程度）、授業中の質疑応答を加味する。				
履修上の注意事項等	前期と後期の内容は同じなので、両方履修することはできない。				
テキスト					
参考書					

科目名	考古学講読Ⅰ（三）			期間	前期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	考古学の論文を読み解く				
到達目標	学術論文を熟読し、その主題や論理展開、問題点を把握し、その内容をプレゼンテーションによって他者に伝える。				
授業概要	担当テーマを決め、そのテーマに沿った論文を各自で選び、その内容を他の受講生が理解できるようプレゼンテーションします。発表準備を通して、論文の内容だけでなく、先行研究に対する正しい評価や、結論に至るまでの論理展開の過程を理解し、自身の論文作成につながる基本的能力を身につけることを目指します。また、この授業を通して、発表者は自分の知識や考えを相手にきちんと伝達するための適切なプレゼンテーション方法や討論の方法を、聞き手側は問題意識をもって批評する方法をそれぞれ習得していきます。				
評価方法・基準	学習到達度60%（各自の研究発表内容およびレポート）、および平常点40%（演習への積極性）で評価します。				
履修上の注意事項等	発表者でない学生も、各自積極的に議論に参加することを求めます。なお、後期開講の考古学講読Ⅱ（三）とは同じ内容のため、両方履修することはできません。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	考古学講読Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本考古学の論文を読む				
到達目標	正しい論文の読み方を学び、問題点を見つける力を身につける。				
授業概要	おもに弥生時・古墳代の論文を輪読する。テキストは初回に指示するので、分担で人数分を用意する。発表資料を作成してもら場合もある。				
評価方法・基準	期末レポート（興味のある論文をよみ、内容をまとめる。B4 1枚程度）、授業中の質疑応答を加味する。				
履修上の注意事項等	前期と後期の内容は同じなので、両方履修することはできない。				
テキスト					
参考書					

科目名	考古学講読Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	小林 青樹	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	遺跡に関する基礎文献の講読				
到達目標	考古学に関する遺跡や遺物の基礎的な用語や特徴などを理解し、考古学の基礎を学ぶ。				
授業概要	主に日本と世界の遺跡に関する基礎的な文献を受講者が選択し、受講者全員で輪読する。文献選択者は、自分の選んだ文献についての小発表を行う。なお、考古学講読Ⅰ（一）・考古学講読Ⅱ（二）・考古学講読Ⅱ（四）は同じ内容で開講しており、これらのうちから一つのみ受講すること（複数を受講できない）。実施方法は、まず前週に資料を配布して受講者は事前に用語などを予習する。そして次の週に配布資料の遺跡について解説し、授業後に復習する。				
評価方法・基準	発表60%（発表内容の充実度を重視する）、レポート40%（演習を通じて学んだ課題の文献を正確に読めているか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか）。特にオリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	前期に開講している「考古学講読Ⅰ（一）」を履修したものは、本科目を履修できない。授業内容を変更する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業前に資料を配布する				

科目名	考古学講読Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	考古学の論文を読み解く				
到達目標	学術論文を熟読し、その主題や論理展開、問題点を把握し、その内容をプレゼンテーションによって他者に伝える。				
授業概要	担当テーマを決め、そのテーマに沿った論文を各自で選び、その内容を他の受講生が理解できるようプレゼンテーションします。発表準備を通して、論文の内容だけでなく、先行研究に対する正しい評価や、結論に至るまでの論理展開の過程を理解し、自身の論文作成につながる基本的能力を身につけることを目指します。また、この授業を通して、発表者は自分の知識や考えを相手にきちんと伝達するための適切なプレゼンテーション方法や討論の方法を、聞き手側は問題意識をもって批評する方法をそれぞれ習得していきます。				
評価方法・基準	学習到達度60%（各自の研究発表内容およびレポート）、および平常点40%（演習への積極性）で評価します。				
履修上の注意事項等	発表者でない学生も、各自積極的に議論に参加することを求めます。なお、前期開講の考古学講読Ⅰ（三）とは同じ内容のため、両方履修することはできません。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	美術史講読Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	絵巻や写本の詞書を読んでゆき、仮名のくずし字が読めるようになる。真面目に字源探しをすれば必ず読めるようになる。				
到達目標	仮名のくずし字が読めるようになる。				
授業概要	最初は絵巻の詞書の翻刻（現代平仮名になおしたもの）を見ながら、くずし字の字源探しをして徐々に慣れてゆく。美術史講読なので、絵巻に関する解説も行う。				
評価方法・基準	学生は、毎回、翻刻をもとに字源を探しをし、できた分を提出する。教員は提出課題の総数を確認する。60点×課題提出率、最終回で行う到達度確認（40点満点）の合計で評価する。				
履修上の注意事項等	テキストを必ず購入すること。美術史講読Ⅰ（一）で単位を修得した場合は、美術史講読Ⅰ（二）に登録することはできない。内容は前後する場合がある。配布プリントを忘れないように。				
テキスト	活字本教科書 増補改定 仮名変体集（影印本シリーズ）、伊地知 鉄男、新典社、1966				
参考書	くずし字解読辞典 普及版、児玉幸多、東京堂出版、1993				

科目名	美術史講読Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	★仁方越 洪輝	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	くずし字の学習				
到達目標	くずし字に慣れ、くずし字で書かれた文章を読めるようになる。				
授業概要	はじめは平安時代の絵巻の詞書でくずし字解読の練習を行う。その後は主として、江戸時代の医師・橘南谿が旅で見聞した珍しい事物などを記した『東遊記』の版本を読み、くずし字で書かれた文章を解読する練習を行う。『東遊記』で挿絵を担当した円山・四条派の絵師についても適宜紹介する。 はじめは解読が難しいため授業内でともに読み進めるが、慣れてきたら各自の解読部分を発表しながら授業を進めていく。				
評価方法・基準	平常点70%（課題に取り組む姿勢）、学習到達度確認30%（講義内容の理解）で評価する。				
履修上の注意事項等	内容は前後する場合がある。配付プリントを必ず持参すること。				
テキスト	プリントを配付				
参考書	くずし字解読辞典 普及版、児玉幸多、東京堂出版社、1993 京都画壇の一九世紀 第2巻 文化・文政期思文閣出版、1994				

科目名	美術史講読Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	美術史（特に仏教美術）に関連する史料の講読				
到達目標	寺院や仏像について書かれた文献を読み、仏像の制作背景や仏像に対する信仰を読み取る。専門用語の調べ方を習得する。文献の内容が美術史的にどのような意味を持つかを見出す。				
授業概要	この講義では『日本霊異記』を用いる。同書は平安時代初期の説話集で、古代における仏教受容の状況や当時の人々（特に庶民）の生き生きとした信仰の様子が描かれている。その中から仏像や仏教美術が登場する話を中心に選び、各回数名ずつ本文を読みながら、関連する仏教史や経典内容にも言及して読み解く。				
評価方法・基準	学習到達度確認50%、平常点50%（課題に取り組む姿勢など）で評価				
履修上の注意事項等	美術史講読Ⅱを履修する者は、（一）（二）のどちらかを履修すること。 履修者の理解度に応じて、内容が前後したり、変更したりする場合がある。				
テキスト	プリントを配布する				
参考書					

科目名	美術史講読Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	★竹下 繭子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	奈良時代の仏教美術に関連する史料の講読				
到達目標	古代の文献資料を読み、仏教美術についての基礎知識、専門用語の調べ方、史料を読み解く力を習得することを旨とする				
授業概要	奈良時代の『伽藍縁起并流記資財帳』は、寺院の沿革と資財（財産）目録が書かれている。飛鳥・奈良時代の仏教美術作品は現存するものが限られているため、当時の寺院の様相を窺い知ることができる資財帳は貴重な史料である。 授業では法隆寺、大安寺の資財帳を取り上げ、寺院の縁起を読み、仏像を中心とする資財を見ていく。受講者に担当箇所を割り当て、輪読して読み進める。				
評価方法・基準	授業内での発表、学習到達度確認をもとに総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	発表者は授業時に資料を配布すること。全員の予習を前提とする。関連する仏教美術作品が現存する場合は写真を用意し、説明できるようにすること。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	奈良六大寺大観、岩波書店				

科目名	史料学講読Ⅰ			期間	前期
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本古代の史料を読む				
到達目標	本授業科目ではディプロマ・ポリシーの1.2.4を重視する。漢文史料を正しく読解し理解する力を修得する。				
授業概要	正倉院に遺された文書、文書日本中世の文書・日本古代の法制史料を講読する。『大漢和辞典』やくずし字辞典、異体字辞典、歴史辞典などを用いて読み解きながら、史料読解の基本を修得する。史料を書き残した人々の意図を理解しようとする姿勢を身につけて欲しい。授業期間後半には、グループで史料について調べ発表する形式で進める。				
評価方法・基準	発表内容10点、提出物10点、授業時間内に行う読解力の確認テスト80点（20、30、30）。予習の怠慢やレジュメの不配布、受講姿勢など、学修態度に問題がある場合は減点対象とする。				
履修上の注意事項等	漢文史料の講読である。各自で漢和辞典を入手し、授業に持参すること。『類聚三代格』の発表では、準備・発表をグループ作業とする。積極的に意見交換して取り組むこと。また、発表について質問するなどの活発なディスカッションを求める。				
テキスト	プリント配布				
参考書	授業中に紹介				

科目名	史科学講読Ⅱ			期間	後期
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	『続日本紀』を読んで律令制下の国家の様相を考える				
到達目標	本授業科目は本学が定めるディプロマ・ポリシーの2・3・4を重視する。漢文史料を読解し、調べ、考察し、口頭発表し、文章表現する力を修得する。				
授業概要	『続日本紀』をテキストとして、史料分析の訓練を行う。同書は、六国史の第2番目として、697年から791年までを編年体で叙述する歴史書である。講読では、現代語訳をするだけでなく、当時の国家や社会がどのような状況にあったのかを、参考文献を読んで具体的に考え、洞察する努力をして欲しい。授業は、受講者に担当箇所を割り当て、輪読する形式で進める。				
評価方法・基準	発表30点、期末レポート70点。発表は十分に調べ考察しているかを、レポートは史料を踏まえた立論を重視する。レジュメの事前配付の怠りや、度重なる遅刻・欠席などは減点対象とする。				
履修上の注意事項等	全員の予習を前提とし、発表に対する活発なディスカッションを求める。予習を行わないなど、積極的な取り組み姿勢が見られない場合は減点対象とする場合がある。また、発表担当者の無断欠席も原則として認めない。				
テキスト	プリント配布				
参考書	授業中に紹介				

科目名	保存科学講読Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	比佐 陽一郎	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本の保存科学研究論文の講読と発表を通じて、理解力、思考力、発表力を高め、自身の研究スタイルの確立をめざす。				
到達目標	保存科学関係の論文や報告書を読み、研究目的、研究方法、論旨を的確に理解する力や思考力を身につける。				
授業概要	日本の保存科学研究論文を各自が読破し、原文とその要旨、関連資料等まとめた資料を作成し、発表および討論をおこなう。				
評価方法・基準	各自の発表（論文の理解度、資料作成、発表、討論の充実度）、討論への参加のようすおよびレポートにより総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	受講生は、積極的に質問や意見を述べ、活発な討論をおこなうように心がけること。				
テキスト	授業中に紹介する				
参考書					

科目名	保存科学講読Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	杉山 智昭	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財の保存科学に関連した文献の講読				
到達目標	各種文献の講読をととして保存科学研究分野に対する視野を広げ、専門知識を蓄積するとともに、学術論文の基本構成について学修する。研究課題を主体的に探索し、客観的な情報にもとづいた考察を展開するための能力を培う。				
授業概要	各自が分担して文献を読み込み、その内容を整理・要約した資料を作成したうえで発表・全体討論を行う。				
評価方法・基準	平常時の取り組み姿勢（30%）、基本概念の理解など課題の達成度（30%）、レポートのデータ整理や論理展開を評価（40%）し総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	発表者は準備を十分に整えておくこと。発表者以外の受講生も事前に発表文献をしっかりと読み込んだ上で質疑応答に臨むこと。保存科学講読Ⅰ（二）で単位を修得した場合は、保存科学講読Ⅱ（二）に登録することはできない。				
テキスト	『発表者が事前に提出したプレゼンテーション資料を配布』				
参考書	『適宜紹介する』				

科目名	保存科学講読Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本の保存科学研究論文の講読と発表を通じて、理解力、思考力、発表力を高め、自身の研究スタイルの確立をめざす。				
到達目標	保存科学関係の論文や報告書を読み、研究目的、研究方法、論旨を的確に理解する力や思考力を身につける。				
授業概要	日本の保存科学研究論文を各自が選んで読破し、原文とその要旨、関連資料等まとめた資料を作成し、発表および討論をおこなう。				
評価方法・基準	各自の発表（論文の理解度、資料作成、発表、討論の充実度）、討論への参加のようすおよびレポート（マイ雑誌）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	受講生は、積極的に質問や意見を述べ、活発な討論をおこなうように心がけること。				
テキスト					
参考書	授業中に紹介する				

科目名	保存科学講読Ⅱ(二)			期間	後期
担当教員	杉山 智昭	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財の保存科学に関連した文献の講読				
到達目標	各種文献の講読をととして保存科学研究分野に対する視野を広げ、専門知識を蓄積するとともに、学術論文の基本構成について学修する。研究課題を主体的に探索し、客観的な情報にもとづいた考察を展開するための能力を培う。				
授業概要	各自が分担して文献を読み込み、その内容を整理・要約した資料を作成したうえで発表・全体討論を行う。				
評価方法・基準	平常時の取り組み姿勢(30%)、基本概念の理解など課題の達成度(30%)、レポートのデータ整理や論理展開を評価(40%)し総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	発表者は準備を十分に整えておくこと。発表者以外の受講生も事前に発表文献をしっかりと読み込んだ上で質疑応答に臨むこと。 保存科学講読Ⅰ(二)で単位を修得した場合は、保存科学講読Ⅱ(二)に登録することはできない。				
テキスト	『発表者が事前に提出したプレゼンテーション資料を配布』				
参考書	『適宜紹介する』				

科目名	考古学実習Ⅰ(一) 考古学実習Ⅰ(二)			期間	前期
担当教員	豊島 直博 ★外部講師	単位数	1	配当年次	3-4
テーマ	考古学の記録方法を学ぶ				
到達目標	測量技術を習得する				
授業概要	屋外調査に必要なレベル、平板、トータルステーションの使い方を学ぶ				
評価方法・基準	授業中に作成する図面等の完成度によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	考古学実習Ⅱ(一) 考古学実習Ⅱ(二)			期間	後期
担当教員	★外部講師 小林 青樹	単位数	1	配当年次	3-4
テーマ	実践的な遺跡の測量と遺物の観察・記録方法をマスターする				
到達目標	前期に身につけた基礎を元に、実践的な技術を身につける。				
授業概要	この実習は、遺物の観察・記録方法を身につけるとともに、班に分かれて前半と後半に野外実習と室内実習を交代して実施する。班分けやスケジュールなどの詳細については初日のガイダンスで説明する。なお、本シラバスの内容については、随時、日程・実習内容・評価方法の変更を行場合がある。毎回、講義連絡に事前に講義に関する情報をアップする。				
評価方法・基準	実習時間中に各自が作成した実測図のレポート70%(実習を通じて学んだ技術に基づいて図面などが作成できているか)、本実習に関するレポート30%(実習を通じて学んだ課題の文献を正確に読めているか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか)。特にオリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	7回でもうひとつの実習と交代になります。また、授業内容は変更する場合がある。初回の授業で班分けと説明をします。				
テキスト	必要な場合、適宜配布します				
参考書	なし				

科目名	考古学実習Ⅲ(一) 考古学実習Ⅲ(二)			期間	前期
担当教員	豊島 直博 ★外部講師	単位数	1	配当年次	3-4
テーマ	出土遺物の記録方法を学ぶ				
到達目標	出土遺物の図化ができるようになる				
授業概要	土器、石器、瓦の実測、レイアウト、トレースを学ぶ				
評価方法・基準	授業中に作成する図面等の完成度によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	考古学実習Ⅳ (一) 考古学実習Ⅳ (二)			期間	後期
担当教員	★外部講師 小林 青樹	単位数	1	配当年次	3-4
テーマ	実践的な遺跡の測量と遺物の観察・記録方法をマスターする				
到達目標	前期に身につけた基礎を元に、実践的な技術を身につける。				
授業概要	この実習は、遺物の観察・記録方法を身につけるとともに、班に分かれて前半と後半に野外実習と室内実習を交代して実施する。班分けやスケジュールなどの詳細については初日のガイダンスで説明する。なお、本シラバスの内容については、随時、日程・実習内容・評価方法の変更を行場合がある。毎回、講義連絡に事前に講義に関する情報をアップする。				
評価方法・基準	実習時間中に各自が作成した実測図のレポート70% (実習を通じて学んだ技術に基づいて図面などが作成できているか)、本実習に関するレポート30% (実習を通じて学んだ課題の文献を正確に読めているか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか)。特にオリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	7回でもうひとつの実習と交代になります。また、授業内容は変更する場合がある。初回の授業で班分けと説明をします。				
テキスト	必要な場合、適宜配布します				
参考書	なし				

科目名	美術史実習Ⅰ			期間	前期
担当教員	大河内 智之	単位数	1	配当年次	3-4
テーマ	美術工芸品の見学・調査				
到達目標	美術作品を見学し、実査することにより、作品を美術史的に理解する眼識を養う。彫刻・絵画・工芸作品の取り扱い方を理解する。作品の基礎データを収集し、調書が作成できるようになる。				
授業概要	美術史実習Ⅰ・Ⅲでは、総合して次の二種の実習を行う。①見学：美術館・博物館等の施設あるいは社寺等へ出かけ、美術品を実査する。なお、括弧内の見学先は従来の行き先を参考にした案であり、今年度については、4月以降、順次決定する。②調査：美術品（彫刻・工芸品など）の取扱および調査方法を習得する。				
評価方法・基準	学外見学の場合は、レポートを提出（60%）。学内での作品調査の場合は調書の提出（20%）を求める。いずれも作品についての基本的な理解（作者・制作背景・技法等）ができているか。美術史上の位置が理解・提示できているか。的確な作品評価が記されているか等を基準に評価する。これに平常時の取り組み姿勢（20%）を加える。				
履修上の注意事項等	美術史実習Ⅰは、美術史実習Ⅲと連続して行う。必ず両方を履修すること。見学と調査の順序は入れ替わることがある。見学の場合は、都合により、訪問先や日時を振り替える場合がある。				
テキスト	その都度プリントを配布する				
参考書	その都度指示する				

科目名	美術史実習Ⅱ			期間	後期
担当教員	大河内 智之	単位数	1	配当年次	3-4
テーマ	美術工芸品の見学・調査				
到達目標	美術作品を見学し、実査することにより、作品を美術史的に理解する眼識を養う。彫刻・絵画・工芸作品の取り扱い方を理解する。作品の基礎データを収集し、調書を作成できるようになる。				
授業概要	美術史実習Ⅱ・Ⅳでは、総合して次の二種の実習を行う。①見学：美術館・博物館等の施設あるいは社寺等へ出かけ、美術品を実査する。なお、括弧内の見学先は、従来の行き先を参考にした案であり、今年度については、9月以降、順次決定する。②調査：美術品（彫刻・絵画・工芸品など）の取扱および調査方法を習得する。				
評価方法・基準	学外見学の場合は、レポートを提出（60%）。学内での作品調査の場合は調書の提出（20%）を求める。いずれも作品についての基本的な理解（作者・制作背景・技法等）ができているか。美術史上の位置が理解・提示できているか。的確な作品評価が記されているか等を基準に評価する。これに平常時の取り組み姿勢（20%）を加える。				
履修上の注意事項等	美術史実習Ⅱは、美術史実習Ⅳと連続して行う。必ず両方を履修すること。見学と調査の順序は入れ替わることがある。見学の場合は、都合により、行き先や日時を変更する場合がある。				
テキスト	その都度プリントを配布する				
参考書	その都度指示する				

科目名	美術史実習Ⅲ			期間	前期
担当教員	原口 志津子	単位数	1	配当年次	3-4
テーマ	美術工芸品の見学・調査				
到達目標	美術作品を見学し、実査することにより、作品を美術史的に理解する眼識を養うことができる。彫刻・絵画・工芸作品の調書が作成できるようになる。				
授業概要	美術史実習Ⅰ・Ⅲでは、総合して次の二種の実習を行う。①見学：美術館・博物館等の施設あるいは社寺等へ出かけ、美術品を実査する。なお、括弧内の見学先は従来の行き先を参考にした案であり、今年度については、4月以降、順次決定する。②調査：美術品（彫刻・工芸品など）の取扱および調査方法を習得する。				
評価方法・基準	提出物100%。見学のレポート、調査の場合は調書の提出を求める。提出物の基準については、講義中に配布する。				
履修上の注意事項等	美術史実習Ⅲは、美術史実習Ⅰと連続して行う。必ず両方を履修すること。見学と調査の順序は入れ替わることがある。見学の場合は、行き先の都合により、日時を振り替える場合がある。				
テキスト	その都度プリントを配布する				
参考書	その都度指示する				

科目名	美術史実習Ⅳ			期間	後期
担当教員	原口 志津子	単位数	1	配当年次	3-4
テーマ	美術工芸品の見学・調査				
到達目標	美術史作品をより深く理解し、研究に活かすための実践力を身につける。絵画作品の調書が作成できるようになる。				
授業概要	美術史実習Ⅱ・Ⅳでは、総合して次の二種の実習を行う。①見学：美術館・博物館等の施設あるいは社寺等へ出かけ、美術品を実査する。なお、括弧内の見学先は従来の行き先を参考にした案であり、今年度については、9月以降、順次決定する。②調査：美術品（彫刻・工芸品など）の取扱および調査方法を習得する。				
評価方法・基準	提出物100%。見学のレポート、調査の場合は調書の提出を求める。提出物の基準については、講義中に配布する。				
履修上の注意事項等	美術史実習Ⅳは、美術史実習Ⅱと連続して行う。必ず両方を履修すること。見学と調査の順序は入れ替わることがある。見学の場合は、行先の都合により、日時を振り替える場合がある。				
テキスト	その都度プリントを配布する				
参考書	その都度指示する				

科目名	保存科学実習Ⅰ			期間	前期
担当教員	★宇都宮 正紀 比佐 陽一郎	単位数	1	配当年次	3-4
テーマ	保存修復技術入門（装演技術）				
到達目標	日本の書画文化財がどのように修理され伝世してきたかを学び、またその倫理についての理解を目標とする。				
授業概要	文化財保存修復の基礎的技術として、書画の修復技術である「装演修理技術」の基礎を体験学習する。装演技術による書画文化財修理の概論を学び、分析や和紙を用いての補修、裏打等の装演技術を実践する。				
評価方法・基準	評価方法は課題の充実度を評価する。基準は平常時の姿勢（30%）、基本概念の理解や作業の習熟など課題の達成度（30%）、レポートのデータの整理や論理展開を評価（40%）し総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	実習は日程どおり厳格に進めるので、授業時間内に終了しない場合、必ず週ごとに完成することを心がけること。特別な道具や材料を使用するので注意を怠らないこと。汚れてもいい服装、もしくは着替えを準備すること。				
テキスト	授業中に適宜プリント等の資料を配付する。				
参考書	美を伝える、京都国立博物館（編）、京都新聞出版センター、2011 日本画・書跡の損傷、東京文化財研究所、オフィス HANS、2013				

科目名	保存科学実習Ⅱ			期間	後期
担当教員	魚島 純一 比佐 陽一郎	単位数	1	配当年次	3-4
テーマ	文化財の保存環境管理のために求められる保存科学の知識と技術を修得する。				
到達目標	文化財の保存環境管理法を理解し、知識と技術を修得する。				
授業概要	文化財を保存するためには、展示、収蔵等の環境管理・整備等をはじめとして、さまざまな保存科学技術の応用・実践が必要とされる。博物館で保存科学担当学芸員として従事した経験などをもとに、とくに文化財の保存に携わる現場で必要とされる知識、技術について学び修得できるよう指導する。				
評価方法・基準	測定法等の理解度と技術修得度、授業への参加、実習態度およびレポートにより総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	実習は知識と技術をともに獲得する機会である。休まないよう、またオリジナルの文化財を使用するので大切に扱うこと。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	保存科学実習Ⅲ			期間	前期
担当教員	★宇都宮 正紀 比佐 陽一郎	単位数	1	配当年次	3-4
テーマ	文化財の保存・修復技術				
到達目標	さまざまな文化財の保存・修復技術の実践				
授業概要	文化財はさまざまな材質や技法で作られている。文化財の構造や材質・技法を科学的に調査し記録して保存する方法や技術を学ぶ。前期は木製遺物を対象に科学調査の計画立案から保存処理の実践・修復までの一連の作業を実践する。				
評価方法・基準	評価方法は課題の充実度を評価する。基準は平常時の姿勢（30%）、基本概念の理解や作業の習熟など課題の達成度（30%）、レポートのデータの整理や論理展開を評価（40%）し総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	実習は知識と技術をともに獲得する機会である。休まないよう、またオリジナルの文化財を使用するので大切に扱うこと。				
テキスト	プリントを配布する				
参考書	授業中適宜紹介する				

科目名	保存科学実習Ⅳ			期間	後期
担当教員	魚島 純一 比佐 陽一郎	単位数	1	配当年次	3-4
テーマ	文化財の科学的調査と保存技術				
到達目標	さまざまな文化財の科学的調査と保存技術の実践				
授業概要	文化財はさまざまな材質や技法で作られている。文化財の構造や材質・技法を科学的に調査し記録して保存する方法や技術を学ぶ。 後期は金属遺物を対象に科学調査の計画立案から保存処理の実践・機器分析・保管環境の維持までの一連の作業を実践する。 博物館で保存科学担当学芸員として従事した経験などをともに、とくに文化財の保存に携わる現場で必要とされる知識、技術について学び修得できるよう指導する。				
評価方法・基準	評価方法は課題の充実度を評価する。基準は平常時の姿勢(30%)、基本概念の理解や作業の習熟など課題の達成度(30%)、レポートのデータの整理や論理展開を評価(40%)し総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	実習は知識と技術をともに獲得する機会である。休まないよう、またオリジナルの文化財を使用するので大切に扱うこと。				
テキスト	プリントを配布する				
参考書	授業中適宜紹介する				

科目名	考古学演習Ⅰ(一)			期間	前期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	考古学の研究方法を学ぶ				
到達目標	考古学の研究方法を学びながら、卒業論文の主題を探す				
授業概要	遺構や遺物から人間の過去を解明する考古学では、あらゆる時代・地域の考古資料が研究対象となる。この演習では、各自が興味をもつ分野を探し、対象とする考古資料の概要を把握する。また、研究史を調べて課題を抽出し、独自の研究方法を探る。発表担当者は事前に1枚程度の資料を作成する。主題となる論文がある場合は事前に提示し、参加者は読んでおくこと。発表に基づき全員で議論し、考古学の研究方法を身に付ける。遺跡や博物館の見学も行い、考古資料の見方を学ぶ。				
評価方法・基準	自分の研究内容をまとめたレポート(A4 1枚程度)、発表資料の完成度によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	考古学演習Ⅰ(二)			期間	前期
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	考古学による歴史研究				
到達目標	研究の基礎的方法の学習と卒業論文テーマの検討				
授業概要	この演習(3回生)では、受講生がおもに日本考古学(古代を中心)に関する分野から興味をもつテーマについて、研究の現状を確認しつつ、基礎的な研究方法の学習を行う。各自が選定した研究テーマについて発表し、それに関する討議により当該テーマの研究を確認する。この作業を通じて、各自の卒業論文の課題選定を進める。				
評価方法・基準	演習における発表50%(課題についての独自性・充実度を重視)、平常点50%(発表に関する質問など積極的な姿勢を重視)。				
履修上の注意事項等	適宜、学外授業を行う。 毎時間2~3人ずつの発表を基本とする。 毎時間、各自1回以上は発言すること。 発表者は資料を当日に配布すること。				
テキスト	プリントを配布する				
参考書	特になし				

科目名	考古学演習Ⅰ(三)			期間	前期
担当教員	小林 青樹	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	考古学の研究方法を学ぶ				
到達目標	考古学の基本的な方法を学びながら、卒業論文のテーマを考える。				
授業概要	この演習は、旧石器時代から弥生時代までの先史時代の考古学、祭祀の考古学などに興味をもつ学生に向けて開講します。研究史を調べて課題を決め、順番を決めて報告を行い、議論して、次のステップである卒業論文の構想を考えていきます。また、卒業論文に必要な資料の観察法や文献の探索法も合わせて学びつつ、折に触れて博物館などでの見学を行い、実践的な目を養います。				
評価方法・基準	発表60%(発表内容の充実度を重視する)、レポート40%(演習を通じて学んだ課題の文献を正確に読めているか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか)。オリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	後期に向け、夏季休暇中に必要な文献を選択し、夏季にレポートにまとめる。また、授業内容は変更する場合があります。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に指示する				



科目名	考古学演習Ⅰ（五）			期間	前期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	考古学の研究手法を学ぶ				
到達目標	研究したいと思うテーマを発見し、選んだテーマについて基礎的知識を身につけ、それを効果的に他者に伝える能力を身につける。				
授業概要	この演習（3回生）では、受講生がおもに日本または東アジアの歴史考古学に関する分野から興味をもつテーマを選び、それぞれ基礎的知識や先行研究を把握することを目指します。自分の課題についてプレゼンテーションをおこない、さらにその内容について教員および学生全員で議論することを繰り返して、多角的な視点を意識して研究を深めましょう。また、自分の知識や思考を他者に明確に伝えるプレゼンテーションや資料についてのブラッシュアップも目指していきます。				
評価方法・基準	学習到達度60%（各自の研究発表内容およびレポート）、および平常点40%（演習への積極性）で評価します。				
履修上の注意事項等	発表者でない学生も、各自積極的に議論に参加することを求めます。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	考古学演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	考古学の研究方法を習得し、卒業論文に備える				
到達目標	考古学の研究方法を学びながら、卒業論文の主題を決定する				
授業概要	考古学の研究を進めるためには、まず文献を参照して資料を集めなくてはならない。その方法を学び、実践する。集積が進めば、独自の観点から分析が可能となる。発表と議論を通じて分析の方法を探す。なお、新たな分析方法は実物資料を見なければ見いだせない場合が多い。遺跡や博物館見学を行い、モノを見る目を養う。発表は1回に2名ずつ行う。事前に資料を作成し、それに基づいて議論する。				
評価方法・基準	自分の研究内容をまとめたレポート（A4 1枚程度）、発表資料の完成度によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	考古学演習Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	考古学による歴史研究				
到達目標	研究方法の模索と卒業論文テーマの確定				
授業概要	この演習（3回生）では、受講生がおもに日本考古学（古代を中心）に関する分野から興味をもつテーマについて、研究の現状を確認しつつ、自己の研究方法を模索する。各受講者が前期の考古学演習Ⅰにおいて選定したテーマについての研究発表を行う。発表では参加者相互の質疑応答を通じて、各自の卒業論文の課題の確定をめざす。				
評価方法・基準	演習における発表50%（課題についての独自性・充実度を重視）、平常点50%（発表に関する質問など積極的な姿勢を重視）。				
履修上の注意事項等	適宜、学外授業を行う。 毎時間2～3人ずつの発表を基本とする。 毎時間、各自1回以上は発言すること。 発表者は資料を当日に配布すること。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	特になし				

科目名	考古学演習Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	小林 青樹	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	考古学研究法の習熟と発表・プレゼンの実践				
到達目標	考古学の方法を学びつつ、論文テーマでの発表・プレゼンの技術を磨く。				
授業概要	この演習は、旧石器時代から弥生時代までの先史時代の考古学、祭祀の考古学などに興味をもつ学生に向けて開講します。夏季休暇中の調査成果などをもとに発表を行います。また、考古学研究の方法を学びながら、研究テーマの発表の方法やそのプレゼンの技術を高めます。折に触れて博物館などでの見学を行い、実践的な目を養います。				
評価方法・基準	発表（60%）とレポート（40%）で評価する。あ発表60%（発表内容の充実度を重視する）、レポート40%（演習を通じて学んだ課題の文献を正確に読めているか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか）、オリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	4年次に向け冬季休暇中に研究テーマの題目を決める。また、授業内容は変更する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に指示する				

科目名	考古学演習Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	考古学の研究手法を学ぶ				
到達目標	研究したいと思うテーマを絞っていき、選んだテーマについて現状の課題や問題点を見出す。どのように研究を進めるか方向性を模索し、卒業論文の作成に備える。				
授業概要	この演習（3回生）では、考古学演習Ⅰ（五）での成果を踏まえ、自身のテーマについての研究の現状や問題点を把握することを目的とします。自分の課題についてプレゼンテーションをおこない、それをふまえて教員および学生全員で議論することを繰り返し、自分のテーマを掘り下げていきましょう。また、自分の知識や思考を他者に明確に伝えるプレゼンテーションや資料についてのブラッシュアップもさらに目指していきます。				
評価方法・基準	学習到達度60%（各自の研究発表内容およびレポート）、および平常点40%（演習への積極性）で評価する。				
履修上の注意事項等	発表者でない学生も、各自積極的に議論に参加することを求めます。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	考古学演習Ⅲ（一）			期間	前期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文の作成				
到達目標	卒業論文を軌道に乗せる				
授業概要	考古学の論文は文章と図版から成り立っている。この演習では、1年間かけて卒業論文を完成できるよう、論文の書き方と図版の作り方を学ぶ。また、作業の途中経過を発表して相互に議論し、論文の質を高める。発表は1回に2名行う。事前に1枚程度の資料を作成し、それに基づいて全員で議論する。また、遺跡や博物館を見学し、考古資料への理解を深める。				
評価方法・基準	自分の研究内容をまとめたレポート（A4 1枚程度）、発表資料の完成度によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	考古学演習Ⅲ（二）			期間	前期
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	4
テーマ	考古学による歴史研究				
到達目標	卒業論文の枠組みの確定				
授業概要	卒業論文の作成について演習（4回生）を通じて進める。各自の卒業論文のテーマに関して、研究史の現状、問題の所在、資料の提示、分析、歴史的位置付けなどについて報告・討論を重ねる。				
評価方法・基準	演習における発表50%（課題についての独自性・充実度を重視）、平常点50%（発表に関する質問など積極的な姿勢を重視）。				
履修上の注意事項等	適宜、学外授業を行う。 毎時間2人ずつの発表を基本とする。 毎時間、各自1回以上は発言すること。 発表者は資料を当日に配布すること。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	特になし				

科目名	考古学演習Ⅲ（三）			期間	前期
担当教員	小林 青樹	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文作成を進める				
到達目標	卒業論文に必要な資料の収集と図版の作成方法、研究史の整理を行う。				
授業概要	この演習は、旧石器時代から弥生時代までの先史時代の考古学、祭祀の考古学などに関し、すでにこの分野での研究テーマが決まっている学生を対象とします。本演習では、卒業論文に必要な資料の収集と図版の作成方法、研究史の整理を行い、途中経過を随時、報告していただきます。また、折に触れて博物館などでの見学を行い、実践的な目を養います。				
評価方法・基準	発表60%（発表内容の充実度を重視する）、レポート40%（演習を通じて学んだ課題の文献を正確に読めているか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか）。オリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	後期に向け、夏季休暇中に研究史を整理し、夏季にレポートにまとめる。また、題目提出にあたっては、必ず教員に事前に指導をうけること。また、授業内容は変更する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に指示する				

科目名	考古学演習Ⅲ（五）			期間	前期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2	配当年次	4
テーマ	考古学研究によって新たな歴史的枠組みを明らかにする				
到達目標	卒業論文の骨組みを具体化させる				
授業概要	卒業論文とは、それまでの大学生活を通じて生まれたそれぞれの興味を深く掘り下げ、見つけた問題点を解決し、さらに誰が読んでも理解できるように論理的な文章と図版で具現化する作業によります。この演習（4回生）では、テーマを定め、その現状の課題をみつけ、自身の着眼点を絞ることをめざします。それぞれの発表やそれを踏まえて交わされる議論によってより良い成果になることを目指しましょう。また、遺跡や博物館の見学を通して、考古資料への理解もさらに深めていきます。				
評価方法・基準	学習到達度60%（各自の研究発表内容およびレポート）、および平常点40%（演習への積極性）で評価する。				
履修上の注意事項等	発表者でない学生も、各自積極的に議論に参加することを求めます。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	考古学演習Ⅳ（一）			期間	後期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文の作成				
到達目標	卒業論文を完成させる				
授業概要	前期の演習Ⅲの成果をもとに、卒業論文の完成を目指す。作業の途中経過を発表して相互に議論し、論文の質を高める。文章表現、注と参考文献、図版のキャプションなど論文の細部についても適宜指導する。発表は1回に2名ずつ行う。事前に1枚程度の資料を作成し、それに基づいて全員で議論する。論文提出後には事後指導を行う。また、遺跡や博物館を見学し、考古資料への理解を深める。				
評価方法・基準	自分の研究内容をまとめたレポート（A4 1枚程度）、発表資料の完成度によって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	考古学演習Ⅳ（二）			期間	後期
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文の作成				
到達目標	卒業論文の完成				
授業概要	演習（4回生）を通じて卒業論文を作成する。各自は卒業論文の基本的な構成について報告する。各自が卒業論文の具体的な進行状況を報告しながら、討議を踏まえて、よりよい論文となるように努力する。論文の記載方法などの技術的な指導も行う。				
評価方法・基準	演習における発表50%（課題についての独自性・充実度を重視）、平常点50%（発表に関する質問など積極的な姿勢を重視）。				
履修上の注意事項等	自主的な学習に努めること。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	特になし				

科目名	考古学演習Ⅳ（三）			期間	後期
担当教員	小林 青樹	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文の作成				
到達目標	卒業論文を完成させる				
授業概要	この演習は、旧石器時代から弥生時代までの先史時代の考古学、祭祀の考古学などに関し、すでにこの分野での研究テーマが決まっている学生を対象とします。本演習では、章立てをチェックし、途中経過を発表します。そして、具体的な卒論の書き方を学び、随時、途中経過を発表し、完成させます。折に触れて博物館などでの見学を行い、実践的な目を養います。				
評価方法・基準	発表60%（発表内容の充実度を重視する）、レポート40%（演習を通じて学んだ課題の文献を正確に読めているか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか）。オリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	卒業論文の提出については、必ず教員の指示を受けてチェックを受けてからにすること。また、授業内容は変更する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に指示する				

科目名	考古学演習Ⅳ（五）			期間	後期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2	配当年次	4
テーマ	考古学研究によって新たな歴史的枠組みを明らかにする				
到達目標	卒業論文を完成させる。				
授業概要	この演習（4回生）では、前期の演習Ⅲの成果をもとにより良い卒業論文の完成を目指します。各自が論文作成の途中経過を発表し、その内容について教員および学生全員で相互に議論することで論文内容の質を高めていきます。その時々自分の立ち位置や方向性を客観的に見定めつつ、論文完成を目指しましょう。発表の合間に論文に必要な知識の講義も適宜実施します。また、遺跡や博物館の見学を通して、文化財や考古資料への理解を深めます。				
評価方法・基準	学習到達度60%（各自の研究発表内容およびレポート）、および平常点40%（演習への積極性）で評価します。				
履修上の注意事項等	発表者でない学生も、各自積極的に議論に参加することを求めます。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	美術史演習Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	美術史研究入門				
到達目標	研究とはどのような視点、方法で進めるのかを理解し、自らの研究テーマを見出して、解決へのプロセスを構築する。自らの研究や与えられた課題について、時間内でプレゼンテーションする方法を習得する				
授業概要	美術史演習Ⅰ～Ⅳの最終目標は卒業論文作成であり、そのために美術史研究に必要な事柄を習得する必要がある。Ⅰは入門編として、美術史についての基礎的な知識を習得しつつ、各自が発表を行う。自らの卒業論文を意識しながら、いろんな研究に接して、これまで興味なかった分野の資料にも積極的にアプローチして視野を広げられるようにする。美術資料を相互に比較することで、時代の違い、作者の違い、技法の違いなどが理解できるようにしながら、順番を決めて発表する。				
評価方法・基準	発表内容（40%）、質疑応答への参加状況（30%）、随時提出を求めるコメントシート等の内容（30%）により評価する。総じて、自らの研究テーマが明確化しているが、確実に進捗しているかを評価する。個々のテーマが異なるので、平常時の教員との質疑応答も重視する。				
履修上の注意事項等	美術史実習Ⅰ・Ⅲとの関係により、時間割が変則的になる場合がある（内容に変更や入れ替えが生ずることがある）。参考書等はその都度指示する。				
テキスト	適宜プリントを配布する				
参考書	その都度指示する				

科目名	美術史演習Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	美術史研究の方法				
到達目標	研究テーマを設定し、研究方法を把握する。その問題点を整理しながら、研究方法を修得する。				
授業概要	美術史演習Ⅰ～Ⅳでは、卒業論文作成を最終目標とし、そのために必要な事柄を習得する。Ⅰでは、各自の研究テーマ（やりたいこと）を設定し、その研究の方向性を把握することに努める。各自の研究テーマは便宜的に1～10としているが、原口ゼミの卒論題目は主に絵画史である。他分野の課題をもちつつゼミ配属を希望する場合、2年生終了時のガイダンスの際に充分担当教員と相談すること。				
評価方法・基準	討議への参加度50%（出席点ではない）、発表と発表資料50%（形式の整備と内容による）				
履修上の注意事項等	美術史実習Ⅱ・Ⅳとの関係により、時間割が変則的になる場合がある				
テキスト	なし				
参考書	その都度指示する				

科目名	美術史演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	美術史研究の方法				
到達目標	研究とはどのような視点、方法で進めるのかを理解し、自らの研究テーマを見出して、解決へのプロセスを構築する。自らの研究や与えられた課題について、時間内でプレゼンテーションする方法を習得する				
授業概要	美術史演習Ⅰ～Ⅳの最終目標は卒業論文作成であり、そのために美術史研究に必要な事柄を習得する必要がある。Ⅱは方法編として、入門編に引き続き美術史についての基礎的な知識を習得しつつ、各自が発表を行う。自らの卒業論文を意識しながら、いろんな研究に接して、これまで興味なかった分野の資料にも積極的にアプローチして視野を広げられるようにする。美術資料を相互に比較することで、時代の違い、作者の違い、技法の違いなどが理解できるようにしながら、順番を決めて発表する。				
評価方法・基準	発表内容（40%）、質疑応答への参加状況（30%）、随時提出を求めるコメントシート等の内容（30%）により評価する。総じて、自らの研究テーマが明確化しているが、確実に進捗しているかを評価する。個々のテーマが異なるので、平常時の教員との質疑応答も重視する。				
履修上の注意事項等	美術史実習Ⅰ・Ⅲとの関係により、時間割が変則的になる場合がある（内容に変更や入れ替えが生ずることがある）。参考書等はその都度指示する。				
テキスト	適宜プリントを配布する				
参考書	その都度指示する				

科目名	美術史演習Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	美術史研究の方法				
到達目標	研究テーマを設定し、研究史を把握する。その問題点を整理しながら、研究方法を修得する。				
授業概要	美術史演習Ⅰ～Ⅳでは、卒業論文作成を最終目標とし、そのために必要な事柄を習得する。Ⅱでは、各自の研究テーマを設定し、その研究史を把握することに努める。具体的には先行論文を講読し、そこから問題点を抽出し、発表する。この作業を通じて、研究方法を修得する。発表後は全員で討議し、お互いの視野を広げる機会とする。各自の研究テーマは便宜的に1～10としているが、原口ゼミの卒論題目は主に絵画史である。2年生終了時のガイダンスの際に充分担当教員と相談すること。				
評価方法・基準	討議への参加度50%（出席点ではない）、発表と発表資料50%（形式の整備と内容による）				
履修上の注意事項等	美術史実習ⅡⅣとの関係により、時間割が変則的になる場合がある				
テキスト	なし				
参考書	その都度指示する				

科目名	美術史演習Ⅲ（一）			期間	前期
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文の構想と先行研究の把握、プレゼンテーションのスキルアップ				
到達目標	卒業論文で取り上げるテーマを確定し、論文作成に向けて構成（章立て）を決めるとともに、問題点を顕在化させ、今後の執筆計画を決める。				
授業概要	①卒業論文作成に向けてテーマの設定と論文の構成（章立て）を考えるために必要なポイントを整理する。②すでに収集した関連論文をリストアップして取捨選択し、疑問点を解決した上で、研究史を明確にする。③卒業論文で取り上げるべき問題点を抽出し、教員と相談の上、調査・研究・執筆の計画を立てる。④必要な資料、図版、現地調査などを行う。上記の内容に沿って授業を行うが、進捗状況を随時発表する機会も設ける。各自が最低2回の発表を行う。				
評価方法・基準	発表内容（50%）、平常時の取り組み（50%）などを加え総合的に評価する。総じて問題点を実証的に解決するためのプロセスの適格性、研究の推進力、発表・討議の際のコミュニケーション能力等を評価のポイントとする。個々のテーマが異なるので、平常時の教員との質疑応答も重視する。				
履修上の注意事項等	美術史実習Ⅰ・Ⅲとの関係により、時間割が変則的になる場合がある。卒業論文作成は、個別の相談やアドバイスが欠かせないので、オフィスアワーや空き時間などを使って積極的に教員の指導を求めること。				
テキスト	適宜プリントを配布する				
参考書	その都度指示する				

科目名	美術史演習Ⅲ（二）			期間	前期
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	4
テーマ	美術史研究の実践				
到達目標	卒業論文の題目を決定し、全体構想を練る。				
授業概要	美術史演習Ⅰ～Ⅳでは、卒業論文作成を最終目標とし、そのために必要な事柄を習得する。Ⅲでは、3年次に設定した各自の研究テーマについて、問題点を抽出するために順次発表を行い、全員で討議する。6月末までに卒業論文の題目を決定し、全体構想を練りながら目次を考える。各自発表を行う（ゼミ人数により4回に分けて行う）。夏休み中の作業に向けての準備をする。				
評価方法・基準	十分に教員と相談するなどして題目を検討し提出すること40%、アウトラインの作成40%、中間発表20%。評価基準については講義中に配付する。				
履修上の注意事項等	美術史実習Ⅰ・Ⅲとの関係により、時間割が変則的になる場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	その都度指示する				

科目名	美術史演習Ⅳ（一）			期間	後期
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	4
テーマ	論文の作成と問題点の確認				
到達目標	実証的な論文作成の方法を習得し、美術史の論文にふさわしい専門用語（術語）を理解して、論文を完成させる。				
授業概要	論文完成に向けた計画を作成し、それに基づいて引き続き論文作成を進める。毎回授業計画に示した項目をチェックしながら、その中で最低2回の中間発表を行い、その都度、指摘された問題点を修正して論文を完成させる。最終的に本文、注、図版、年表、図表等が適切な記述・指示・配置となっているかを確認し、過不足の部分があれば補正する作業を行う。				
評価方法・基準	研究報告の取り組み姿勢と内容（50%）、成果発表（50%）をもとに評価する。問題点解決へのプロセスの適格性、研究推進力、発表・討議の際の姿勢を評価のポイントとする。時間外の教員との質疑応答も重視する。				
履修上の注意事項等	美術史実習Ⅱ・Ⅳとの関係により、時間割が変則的になる場合がある。卒業論文作成は、個別の相談やアドバイスが欠かせないので、随時メール等やオフィスアワーや空き時間などを使って積極的に教員の指導を求めること。				
テキスト	適宜プリントを配布する				
参考書	その都度指示する				

科目名	美術史演習Ⅳ(二)			期間	後期
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	4
テーマ	美術史研究の実践—卒業論文の作成				
到達目標	卒業論文を作成する途上での問題点を発表、討議により、修正してゆく。				
授業概要	美術史演習Ⅰ～Ⅳでは、卒業論文作成を最終目標とし適宜、論文作成に必要な事項(書式、文体、注・図版・資料の作成及び添付方法等)について指導する。Ⅳでは自己の研究テーマについて、完成に向けての最終チェックをする。各自の卒論内容(便宜的に発表者1～4としている)を相互に検討することでブラッシュアップをはかる。				
評価方法・基準	中間稿50パーセント、成稿の形式・内容修正が行われているか50パーセント。 評価基準は講義中に配付する「日本語表現チェックリスト」による。				
履修上の注意事項等	美術史実習Ⅱ・Ⅳとの関係により、時間割が変則的になる場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	適宜指示する				

科目名	史料学演習Ⅰ			期間	前期
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	史料学の諸問題				
到達目標	本授業科目では、本学が定める6つのディプロマ・ポリシーのすべてを重視する。史料の読解に取り組み、問題点を見出す力をつける。				
授業概要	歴史や文物に関する卒業論文を書く学生を対象とし、史料読解に取り組みながら、史料が持つ問題点を考える。史料講読と並行して、興味のあるテーマについての参考文献を読み、テーマに関わる史料の読解にも取り組む。自主的にテーマや課題を見つけることが求められる。				
評価方法・基準	発表内容40点、期末レポート(400字換算10枚程度)60点。発表は十分な理解と出来栄え、レポートは十分な学習・考察を行っているかを重視する。不真面目な受講姿勢は減点対象とする。				
履修上の注意事項等	欠席は、よほどの事情がない限り不可。履修者全員による活発なディスカッションを求める。履修者の興味関心に応じて、授業内容の修正を行う場合がある。				
テキスト	プリント配付				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	史料学演習Ⅱ			期間	後期
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	史料学の諸問題				
到達目標	本授業科目では、本学が定める6つのディプロマ・ポリシーのすべてを重視する。各自の研究テーマに関する問題点を把握し、史資料を分析する力を付ける。				
授業概要	文献史料、文字資料を使って、歴史や文物に関する卒業論文を書く学生を対象とし、各自の発表を基礎に論文作成の方法を指導する。興味のあるテーマについて、専門的な学術書や論文、史資料を読み、輪番で発表を行う。テーマを自主的に見つけ、積極的に課題解決に取り組むことが求められる。発表担当者となる学生が、用意したレジュメに沿って発表し、メンバー全員で質疑応答を行う。				
評価方法・基準	発表内容40点、期末レポート(400字換算15枚程度と論文目録)60点。発表・レポートとも、十分な学習と考察を重視する。レジュメの事前配付や、不真面目な受講姿勢は減点対象とする。				
履修上の注意事項等	欠席は、よほどの事情がない限り不可。履修者全員による活発なディスカッションを求める。履修者の学修の進捗状況によって授業スケジュールを修正する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	史料学演習Ⅲ			期間	前期
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	4
テーマ	史料学の諸問題				
到達目標	本授業科目では、本学が定める6つのディプロマ・ポリシーのすべてを重視する。各自の研究テーマに関する問題点を把握し、史資料を分析する。				
授業概要	文献史料、文字資料を使って、歴史や文物に関する卒業論文を書く学生を対象とし、各自の発表を基礎に論文作成の方法を指導する。興味のあるテーマについて、専門的な学術書や論文、史資料を読み、輪番で発表を行う。テーマを自主的に見つけ、積極的に課題解決に取り組むことが求められる。発表担当者となる学生が、用意したレジュメに沿って発表し、メンバー全員で質疑応答を行う。				
評価方法・基準	発表内容40点、期末レポート(400字換算15枚程度と論文目録)60点。発表・レポートとも、十分な学習と考察を重視する。レジュメの事前配付や、不真面目な受講姿勢は減点対象とする。				
履修上の注意事項等	欠席は、よほどの事情がない限り不可。履修者全員による活発なディスカッションを求める。履修者の学修の進捗状況によって授業スケジュールを修正する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	史料学演習Ⅳ			期間	後期
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	4
テーマ	史料学の諸問題				
到達目標	本授業科目では、本学が定める6つのディプロマ・ポリシーのすべてを重視する。卒論の構成を確定し、執筆し、成果を発表する。				
授業概要	文献史料、文字資料を使って、歴史や文物に関する卒業論文を書く学生を対象とし、論文作成の方法を指導する。卒論の題目に沿って論文を組み立て、章ごとのまとまりを考えながらレジメを作成し、輪番で研究発表を行う。発表と討論に積極的に参加することが求められる。発表担当者は、用意したレジメに沿って発表することとし、メンバー全員で質疑応答を行う。				
評価方法・基準	各回の発表内容を総合して評価する(100%)。卒論テーマについての十分な学習と理解、考察を重視する。ただし、遅刻・欠席や不真面目な受講姿勢は減点対象とする。				
履修上の注意事項等	欠席は、よほどの事情がない限り不可。履修者全員による活発なディスカッションを求める。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	保存科学演習Ⅰ(一)			期間	前期
担当教員	比佐 陽一郎	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	保存科学研究の実践・発表を通じて自己の研究を深める				
到達目標	自己の研究の基盤形成と深化をめざす				
授業概要	1・2年次での文化財学研究法・保存科学概論・保存科学講読などで得た知識と研究法を基礎にして研究対象文化財の実地調査などを行い各自の研究テーマを決定する。調査・実験・思考を繰り返しながら研究を深めその成果を発表する。4回生との合同演習も行う。				
評価方法・基準	評価方法は、研究発表・課題の充実度・レポートを総合的に評価する。評価基準は平常時の取り組み姿勢(30%)・研究課題の達成度(20%)・提出されたレポート(50%)として総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	発表者は発表1週間前には概要を記したレジメをゼミ全員に配付し、研究発表1週間後にはレポートを提出、さらに学期末にはレポート(卒論用紙30枚・論文形式)を提出する。				
テキスト	発表者が1週間前に配布する				
参考書	適宜紹介する				

科目名	保存科学演習Ⅰ(二)			期間	前期
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	保存科学研究を実践し、研究発表およびディスカッションを行う。				
到達目標	保存科学研究の実践と研究発表を通じて、自身の研究テーマの確立をめざす。				
授業概要	1・2年次での文化財学研究法、保存科学概論、保存科学講読などで得た知識と研究法を基礎にして、研究対象文化財の実地調査などをおこない、各自の研究テーマを決定する。調査、実験、考察を繰り返しながら研究を進め、その成果を発表し、自身の研究を確立する。				
評価方法・基準	日常の研究態度、研究発表前に配布されるレジメ、研究発表、研究発表後のレポート、および学期末の論文形式のレポート(25枚レポート)を評価対象とする。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	保存科学演習Ⅰ(三)			期間	前期
担当教員	杉山 智昭	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	保存科学研究の実践・プレゼンテーション・討論を通じて自身の研究を深める。				
到達目標	自身の研究に対する基盤形成とテーマの確立をめざす。				
授業概要	1・2年次での文化財学研究法、保存科学概論、保存科学講読などで得た知識と研究法を基礎にして、研究対象文化財の実地・文献調査などを行い、各自の研究テーマを決定する。調査、実験、考察を繰り返しながら研究を進め、その成果を発表するとともにディスカッションをつうじて自身の研究を深化させていく。				
評価方法・基準	研究発表・討論(提出されたプレゼンテーション資料、発表内容、演習への取り組み姿勢)50%、提出されたレポート50%として総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	発表者は発表の前日までプレゼンテーション資料をゼミ全員に配付すること。学期末には論文形式の期末レポートを提出する。				
テキスト	『発表者が事前に提出したプレゼンテーション資料を配布』				
参考書	『適宜紹介する』				

科目名	保存科学演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	比佐 陽一郎	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	保存科学研究の実践・発表を通じて自己の研究を深める				
到達目標	自己の研究の深化と完成をめざす				
授業概要	1・2年次での文化財学研究法・保存科学概論・保存科学講読などで得た知識と研究法を基礎にして研究対象文化財の実地調査などを行い各自の研究テーマを決定する。調査・実験・思考を繰り返しながら研究を深めその成果を発表する。4回生との合同演習も行う。				
評価方法・基準	評価方法は、研究発表・課題の充実度・レポートを総合的に評価する。評価基準は平常時の取り組み姿勢（30%）・研究課題の達成度（20%）・提出されたレポート（50%）として総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	発表者は発表1週間前には概要を記したレジメをゼミ全員に配付し、研究発表1週間後にはレポートを提出、さらに学期末にはレポート（卒論用紙30枚・論文形式）を提出する。				
テキスト	発表者が1週間前に配布する				
参考書	適宜紹介する				

科目名	保存科学演習Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	保存科学研究を実践し、研究発表およびディスカッションをおこなう。				
到達目標	保存科学研究の実践と研究発表を通じて、自身の研究テーマの確立をめざす。				
授業概要	各自、調査、実験、考察を繰り返しながら研究を進めて、その研究成果を発表し、自身の研究を確立する。				
評価方法・基準	日常の研究態度、研究発表前に配布されるレジメ、研究発表、研究発表後のレポート、および学期末の論文形式のレポート（25枚レポート）を評価対象とする。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	保存科学演習Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	杉山 智昭	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	保存科学研究の実践・プレゼンテーション・討論を通じて自身の研究を深める。				
到達目標	自身の研究に対する基盤形成とテーマの確立をめざす。				
授業概要	1・2年次での文化財学研究法、保存科学概論、保存科学講読などで得た知識と研究法を基礎にして、研究対象文化財の実地・文献調査などを行い、各自の研究テーマを決定する。調査、実験、考察を繰り返しながら研究を進め、その成果を発表するとともにディスカッションをつうじて自身の研究を深化させていく。				
評価方法・基準	研究発表・討論（提出されたプレゼンテーション資料、発表内容、演習への取り組み姿勢）50%、提出されたレポート50%として総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	発表者は発表の前日までプレゼンテーション資料をゼミ全員に配付すること。学期末には論文形式の期末レポートを提出する。				
テキスト	『発表者が事前に提出したプレゼンテーション資料を配布』				
参考書	『適宜紹介する』				

科目名	保存科学演習Ⅲ（一）			期間	前期
担当教員	比佐 陽一郎	単位数	2	配当年次	4
テーマ	保存科学研究の実践・発表を通じて自己の研究を深める				
到達目標	卒業論文の作成を目標に自己の研究の深化と完成をめざす				
授業概要	1・2年次での文化財学研究法・保存科学概論・保存科学講読などで得た知識と研究法を基礎にして研究対象文化財の実地調査などを行い各自の研究テーマを決定する。調査・実験・思考を繰り返しながら研究を深めその成果を発表する。3回生との合同演習も行う。				
評価方法・基準	評価方法は、研究発表・課題の充実度・レポートを総合的に評価する。評価基準は平常時の取り組み姿勢（30%）・研究課題の達成度（20%）・提出されたレポート（50%）として総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	発表者は発表1週間前には概要を記したレジメをゼミ全員に配付し、研究発表1週間後にはレポートを提出、さらに学期末にはレポート（論文の英文要約）を提出する。				
テキスト	発表者が1週間前に配布する				
参考書	適宜紹介する				



科目名	保存科学演習Ⅲ（二）			期間	前期
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	4
テーマ	保存科学研究を实践し、研究発表およびディスカッションをおこなう。				
到達目標	保存科学研究の实践と研究発表を通じて、自身の研究の完成をめざす。				
授業概要	各自の研究テーマについて調査、実験、考察し卒業論文を視野に研究を深め、研究成果を発表する。				
評価方法・基準	日常の研究態度、研究発表前に配布されるレジメ、研究発表、研究発表後のレポート、および学期末の論文形式のレポート（25枚レポート）を評価対象とする。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	保存科学演習Ⅲ（三）			期間	前期
担当教員	杉山 智昭	単位数	2	配当年次	4
テーマ	保存科学研究の实践・プレゼンテーション・討論を通じて自身の研究を深める。				
到達目標	卒業論文の作成を目標に、自身の研究の深化と完成をめざす。				
授業概要	これまでの履修してきた講義、実習、演習などで得た知識と研究法を基礎にして、研究対象文化財の实地調査などを行い、各自の研究テーマを決定する。調査、実験、考察を繰り返しながら研究を深め、卒業論文の作成を視野にその成果を発表する。				
評価方法・基準	研究発表・討論（提出されたプレゼンテーション資料、発表内容、演習への取組み姿勢）50%、提出されたレポート50%として総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	発表者は発表の前日までプレゼンテーション資料をゼミ全員に配付すること。学期末には論文形式の期末レポートを提出する。				
テキスト	『発表者が事前に提出したプレゼンテーション資料を配布』				
参考書	『適宜紹介する』				

科目名	保存科学演習Ⅳ（一）			期間	後期
担当教員	比佐 陽一郎	単位数	2	配当年次	4
テーマ	保存科学研究の实践・発表を通じて自己の研究を深める				
到達目標	卒業論文の作成を目標に自己の研究の深化と完成をめざす				
授業概要	1・2年次での文化財学研究法・保存科学概論・保存科学講読などで得た知識と研究法を基礎にして研究対象文化財の实地調査などを行い各自の研究テーマを決定する。調査・実験・思考を繰り返しながら研究を深めその成果を発表する。3年生との合同演習も行う。				
評価方法・基準	評価方法は、研究発表・課題の充実度・レポートを総合的に評価する。評価基準は平常時の取組み姿勢（30%）・研究課題の達成度（20%）・提出されたレポート（50%）として総合的に判断する。				
履修上の注意事項等	発表者は発表1週間前には概要を記したレジメをゼミ全員に配付し、研究発表1週間後にはレポートを提出、さらに学期末にはレポート（論文の英文要約）を提出する。				
テキスト	発表者が1週間前に配布する				
参考書	適宜紹介する				

科目名	保存科学演習Ⅳ（二）			期間	後期
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	4
テーマ	保存科学研究を实践し、研究発表およびディスカッションをおこなう。				
到達目標	保存科学研究の实践と研究発表を通じて、自身の研究の完成をめざす。				
授業概要	各自の研究テーマについて調査、実験、考察し卒業論文を視野に研究を深め、研究成果を発表する。				
評価方法・基準	日常の研究態度、研究発表前に配布されるレジメ、研究発表、研究発表後のレポート、および学期末のレポート（論文の内容を英文に要約した Abstract の作成）を評価対象とする。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	保存科学演習Ⅳ（三）			期間	後期
担当教員	杉山 智昭	単位数	2	配当年次	4
テーマ	保存科学研究の実践・プレゼンテーション・討論を通じて自身の研究を深める。				
到達目標	卒業論文の作成を目標に、自身の研究の深化と完成をめざす。				
授業概要	これまでの履修してきた講義、実習、演習などで得た知識と研究法を基礎にして、研究対象文化財の実地調査などを行い、各自の研究テーマを決定する。調査、実験、考察を繰り返しながら研究を深め、卒業論文の作成を視野にその成果を発表する。				
評価方法・基準	研究発表・討論（提出されたプレゼンテーション資料、発表内容、演習への取組み姿勢）50%、提出されたレポート50%として総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	発表者は発表の前日までプレゼンテーション資料をゼミ全員に配付すること。学期末には論文形式の期末レポートを提出する。				
テキスト	『発表者が事前に提出したプレゼンテーション資料を配布』				
参考書	『適宜紹介する』				

科目名	考古学概論Ⅰ			期間	前期
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	考古学はどのような学問か				
到達目標	考古学の目的と基本的な方法の理解				
授業概要	日本では埋蔵文化財保護の一環で遺跡の発掘調査が行われており、考古学は歴史研究において大きな役割を果たしている。この講義では、奈良文化財研究所・滋賀県・明日香村の各機関で埋蔵文化財調査や文化財保護行政に携わった実績を生かし、考古学本来の目的やその基本的な研究法、さらには現代社会における考古学の役割について学ぶ。				
評価方法・基準	複数回実施するレポート作成において、講義の内容を正確に理解しているかについて問う。				
履修上の注意事項等	授業はポータルサイトによる資料提示と課題提示によって実施。学外授業は史料学概論と合同で実施。日程の詳細は、授業で発表する。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	日本の考古学（上・下）、奈良文化財研究所編、学生社、2007 考古学概論、山本孝文ほか、ミネルヴァ書房、2022 日本考古学・最前線、日本考古学協会編、雄山閣、2018				

科目名	考古学概論Ⅱ			期間	後期
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	考古学による日本列島史				
到達目標	考古学によって明らかにされた日本史を学び、時代ごとの特徴と現代につながる人びとの歴史について理解する。				
授業概要	前期の考古学概論Ⅰに続いて、奈良文化財研究所・滋賀県・明日香村の調査機関・文化財保護行政での実績を生かして、遺跡の発掘調査により明らかにされた旧石器時代から中近世までの具体的な通史を学ぶ。現代の地域社会は過去の歴史の蓄積のもとに成立しているものであり、時代ごとの考古資料のあり方を理解することが重要である。				
評価方法・基準	複数回実施するレポート作成において、講義の内容を正確に理解しているかを問う。				
履修上の注意事項等	授業はポータルサイトによる資料提示と課題提示によって実施。学外授業は、史料学概論と合同で実施。日程の詳細は授業で発表。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	日本の考古学（上・下）、奈良文化財研究所編、学生社、2007 考古学概論、山本孝文ほか、ミネルヴァ書房有斐閣、2022 日本考古学・最前線、日本考古学協会編、雄山閣、2018				

科目名	美術史概論Ⅰ			期間	前期
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	美術史学の基本を学ぶ。担当者の専門分野が日本絵画史なので日本絵画史寄りの講義となる。				
到達目標	1. 作品をよく観察し、客観的に記述できるようになる。 2. 作品をよく理解するために様式論、図像学に関する基礎的な知識を得る。				
授業概要	美術史学の基本的な知識を得るために、e-learningにより簡単なクイズを繰り返し知識の定着を試みる。同時に、美術史学とは美術に関するトリビアな知識を学んだり、感想文を書くものではなく、綿密な観察と客観的な記述が必要であることを文章作成指導を通じて学ぶ。 講義内容は見学すべき展覧会の会期によって前後する場合がある。				
評価方法・基準	講義中の課題100%。講義と教科書で学んだ基礎知識を穴埋め問題や選択肢問題で数値化して評価する。論述課題の場合の評価基準は講義中に配付する「日本語表現チェックリスト」に従う。				
履修上の注意事項等	授業で取り上げた作品は、可能な限りe国宝で見られるほか、実見できるように努力すること。				
テキスト	日本美術史 JAPANESE ART HISTORY、山下裕二・高岸輝 監修、美術出版社、2014				
参考書	日本美術史ハンドブック、辻惟雄・泉武夫編、新書館、2009 仏像のひみつ、山本勉、朝日出版社、2006				

科目名	美術史概論Ⅱ			期間	後期
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	日本美術史の成立と美術史の方法論				
到達目標	近代期における文化財保護と日本美術史の成立、そして美術史の方法論についての基礎的な知識を獲得し、美術史の基本的な専門用語を理解するとともに、これら内容を通じて自らの文化的背景について考える教養を身につける。				
授業概要	近代における文化財保護の歴史を確認することを通じて日本美術史の成立過程を把握し、文化財学としての美術史のあり方を理解する。その上で特に教美術の観点から、注目される作品・事象を取り上げ、美術史の方法論について検討する。学芸員として多様な美術工芸資料に接してきた立場から、彫刻資料（仏像・神像）を中心としつつ、適宜絵画・工芸資料も取り上げて講義を進め、文化財が持つ豊かな情報を美術の視点から読み取る方法を学ぶ。				
評価方法・基準	講義時に実施する学習到達度確認50%、レポート50%				
履修上の注意事項等	この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	日本美術史, 山下裕二・高岸輝監修, 美術出版社, 2014 適宜プリントを配布する				
参考書	適宜指示する				

科目名	史料学概論Ⅰ			期間	前期
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	日本古代の編纂物と古文書				
到達目標	本授業科目は本学が定めるディプロマ・ポリシーの1・3を重視する。編纂物・古文書概念と史料的人格を学び、文化財学における史料学の意義を理解する。				
授業概要	歴史を書くための材料である史料には、さまざまな種類があるが、なかでも重要なのは、情報量に優る文献史料である。この講義では、日本古代の文献史料の中から、編纂物と古文書とを取り上げて、そこから読み取れる情報や問題点を解説し、史料学とは何かということを考える。				
評価方法・基準	授業中に理解度を確認する小テストを3回行い評価する。配点は1回目と2回目が30点、3回目が40点。私語をするなど、授業の妨害となる行為が見られる場合は、減点対象とする。				
履修上の注意事項等	この講義は単独で受講できるが、史料学分野で卒業論文に取り組む場合は史料学概論Ⅱと併せて受講することが望ましい。診断書を大学に提出している要配慮のケースを除いて、授業中にスマートフォンを卓上に置くことは認めない。学外授業に変更する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介				

科目名	史料学概論Ⅱ			期間	後期
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	物品に記された日本古代の文字				
到達目標	本授業科目は本学が定めるディプロマ・ポリシーの1・3を重視する。木簡・金石文・絵図の史料性格を理解する。				
授業概要	歴史を書くための材料である史料には、さまざまな種類があるが、なかでも重要なのは、情報量に優る文献史料である。この講義では、日本古代の文献史料の中から、金石文・絵図・木簡を例にとりながら、その具体的価値や問題点を解説し、史料学とは何かを考える。				
評価方法・基準	授業中に理解度を確認する小テストを3回行い評価する。配点は1回目と2回目が30点、3回目が40点。私語をするなど、授業の妨害となる行為が見られる場合は、減点対象とする。				
履修上の注意事項等	この講義は単独で受講できるが、史料学分野で卒業論文に取り組む場合は史料学概論Ⅰと併せて受講することが望ましい。診断書を大学に提出している要配慮のケースを除いて、授業中にスマートフォンを卓上に置くことは認めない。学外授業に変更する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介				

科目名	保存科学概論Ⅰ			期間	前期
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	保存科学研究の歴史				
到達目標	日本の保存科学研究の形成とその理念を学ぶ				
授業概要	法隆寺金堂壁画の保存方法の研究にはじまった保存科学研究の歴史をたどり、現状と新たに提起される課題、そして保存科学のこれからについて考える。保存科学担当学芸員として博物館に勤務した経験に基づき、文化財の現場での保存科学についても講義する。				
評価方法・基準	日常の授業態度（授業に対する積極性、講義中の質問などを重視）および授業中に実施する学習到達度確認（講義の内容を正確に把握できているか）等により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	講義内容については各テーマごとに完結するが、保存科学の発展と歴史の理解には前後のテーマとの関連を理解することが不可欠であるため欠席しないように。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、県立博物館の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	保存科学概論Ⅱ			期間	後期
担当教員	比佐 陽一郎	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	保存科学研究の成果と現状を学び、課題を考える。				
到達目標	文化財保存科学の基礎を知るとともに、文化財研究に多様な役割を果たす保存科学研究を理解する。				
授業概要	文化財を後世に伝えるためには、保存技術や材料のみならず、文化財の材質、構造、製作技法、年代、製作地、劣化のメカニズムを調べるとともに、適切な保存環境を整える必要がある。また、文化財のもつ価値を知り、確固とした理念のもとに保存しなければならない。民間企業や文化財行政での勤務経験をもとに、保存科学の諸分野の研究成果を紹介し、研究の基本と応用、課題などについて最新的话题を交えながら講義する。				
評価方法・基準	日常の授業態度（授業に対する積極性、講義中の質問などを重視）および授業中に実施する学習到達度確認（講義の内容を正確に把握できているか）等により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、民間企業や文化財行政の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト					
参考書	授業中に紹介する				

科目名	考古学特殊講義（一）			期間	前期
担当教員	豊島 直博	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	弥生・古墳時代鉄製武器の研究				
到達目標	鉄製武器を通じて弥生・古墳時代の政治、社会を理解する				
授業概要	弥生時代と古墳時代の遺跡から出土した鉄製武器を手がかりに、当時の政治と社会を考える				
評価方法・基準	授業の内容に関するレポート（A4 1枚程度）、授業中の質疑応答によって評価する。				
履修上の注意事項等	この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト					
参考書					

科目名	考古学特殊講義（二）			期間	後期
担当教員	小林 青樹	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	倭人の祭祀考古学				
到達目標	縄文・弥生時代を中心とした時代における祭祀考古学の基本的な方法について考える。				
授業概要	縄文時代と弥生時代における人々の祭祀・儀礼・宗教・信仰といった精神世界、心の世界を研究する認知考古学や祭祀考古学の基本的な方法について解説する。そして、古墳時代にいたる日本の先史時代の祭祀・儀礼の意味を考える。				
評価方法・基準	小レポート30%（毎回の講義内容を把握しているか）、レポート70%（学んだ課題の文献を正確に読んでいるか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか）。特にオリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	毎回、事前に講義連絡を確認すること。また、授業内容は変更する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に指示する				

科目名	考古学特殊講義（三）			期間	前期
担当教員	小林 青樹	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	縄文文化と弥生文化				
到達目標	縄文時代と弥生時代の遺跡や遺物から当時の人々生活や社会を復元する基本的な方法について考える。また自らの修士論文などの研究を進める上で、先史時代の祭祀に関する知識の向上を目指す。				
授業概要	縄文時代と弥生時代の遺跡や遺物から、どのように縄文人の生活や社会の復元ができるのか。土器の見方、縄文施文法、植物考古学、動物考古学など、縄文文化と弥生文化に関する基本的な方法について取り上げる。				
評価方法・基準	小レポート30%（毎回の講義内容を把握しているか）、レポート70%（学んだ課題の文献を正確に読んでいるか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか）。特にオリジナリティを評価する。				
履修上の注意事項等	博物館や実習室などで作業を行う場合がある。また、授業内容は変更する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に指示する				

科目名	考古学特殊講義（四）			期間	後期
担当教員	★寺沢 薫	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	ヤマト王権成立史の諸問題				
到達目標	いわゆる「ヤマト王権」の成立過程や実像に焦点を当ててその理解を深める。考古学資料と文献史料の双方から歴史を組み立てる実践的方法を学びとる。				
授業概要	日本列島の王権形成の時期やプロセスについては諸説がある。講義では三世紀初めの奈良県桜井市纏向遺跡の出現がヤマト王権の誕生であるとの立場から、その形成過程や権力系譜、東アジア世界との関わりについて考究する。また、ヤマト王権の成立は古代史上の重大な画期でもあるから、講義では「魏志倭人伝」全文を配布して、考古学で読み解く。邪馬台国論や都市、国家形成の問題についても取り上げる。講義はテキストに沿って進めるので、講義予定の部分の事前の熟読は必須である。また、必要に応じて資料を配布する。				
評価方法・基準	講義内容は一般の概説書の内容とは異なる部分が多いので、必ず事前にテキストに目を通し、授業に集中することが大切である。従って、学習到達度確認やレポートも講義内容にそくした理解が求められる。小レポートやアンケートなども当然評価の対象となる。				
履修上の注意事項等	毎回の講義での集中が第一である。よりスキルを高めたい人は講義で出てきた研究者などを図書館やネットで検索することも重要である。もし興味や余裕があれば、参考図書の本を読むと、講義以上のこともわかり理解もしやすい。				
テキスト	王権誕生、寺沢 薫、講談社（学術文庫）、2008				
参考書	卑弥呼とヤマト王権、寺沢薫、中央公論新社、2023 王権と都市の形成史論、寺沢薫、吉川弘文館、2011				

科目名	考古学特殊講義（五）			期間	後期
担当教員	★植野 浩三	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本における須恵器生産の開始と展開				
到達目標	日本における須恵器生産の開始と展開について、古墳時代の手工業生産史の視点から理解を深める。				
授業概要	日本の窯業生産、特に須恵器生産の始まりや展開について、4～6世紀を中心に紹介する。須恵器研究に関連する編年や年代論、製作技術、手工業生産についての研究史を紐解いて解説し、地方窯の成立と展開（拡散）にいたるまでの研究成果を論じる。また、須恵器の源流である韓国の窯業生産や陶質土器についても講義し、海外との関係についても紹介する。				
評価方法・基準	100%学習到達度確認による評価。				
履修上の注意事項等	適時、資料を配付する。現地見学も行う予定である。常時専門用語がでてくるので、考古学の知識が必要である。				
テキスト	なし				
参考書	須恵器大成、田辺昭三、角川書店、1981				

科目名	考古学特殊講義（六）			期間	前期
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	考古学と文化財保護行政				
到達目標	総合的な文化財保護行政の基礎と文化財専門職員の役割を理解する。				
授業概要	文化財調査機関や文化財保護行政に携わってきた実績を活かして、都道府県・市町村の専門職員の人材として期待されている考古学・文化財学を学ぶ学生を対象として、文化財保護行政の現状や、文化財を活かした街づくりなどについて学ぶ。				
評価方法・基準	不定期に実施するレポート作成により、講義内容を理解しているかを問う。				
履修上の注意事項等	本講座は、文化財の専門職を目指す学生のみを対象とする。学外授業も重要であり、必ず参加すること。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	入門 埋蔵文化財と考古学、水之江和同、同成社、2020 遺跡保護の制度と行政、和田勝彦、同成社、2015 文化遺産の保存と活用、小松弥生、文化遺産クパプロ、2021				

科目名	考古学特殊講義（七）			期間	後期
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	古代都城と地方官衙				
到達目標	古代都城等に関する考古学論文を読み解き、考古学の考え方・学術論文の構成・表現などを理解する。				
授業概要	古代都城に関する論文を読み、研究の現状を理解する。そのために、プレゼンテーション・討論による相互理解を深める。				
評価方法・基準	指定された論文の理解度、発表資料の完成度、プレゼンテーション及びヒアリングの内容によって評価する。				
履修上の注意事項等	論文内容について、発表型式による討論を実施する。テーマが「古代都城」なので、古代を対象とした考古学（史料学）を学ぶ学生を対象とする。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	プリントを配布				
参考書					

科目名	考古学特殊講義（八）			期間	前期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	古代都城の考古学的研究とその保存活用				
到達目標	平城宮跡について古代から現代に至る歴史について学び、その特質や意義について自分なりの考えを持つ。				
授業概要	奈良大学のすぐ近くにある平城宮跡は世界遺産に登録され、特別史跡にも指定されています。よく知っているようでも平城宮跡は、その保存過程や保存状態では特筆すべき遺跡です。文化財が現存する意味と、それを護り伝えていくためのシステムや保存活用についても考えます。				
評価方法・基準	適宜指示に従ってレポートを作成してもらいます。そのレポートで理解度や思考の度合いを測り、評価します。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書					

科目名	考古学特殊講義（九）			期間	後期集中
担当教員	★千田 嘉博	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	城郭考古学入門				
到達目標	城郭考古学から歴史を考えてまちづくりに活かす。				
授業概要	城郭考古学は、現在もっとも求められている考古学の分野である。しかし発掘調査だけでなく、遺構の地表面観察資料、絵図・地図資料、文字史料など多様な資料群を適切に取り扱い、研究を進めることが必要になる。この講義では、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の城を中心に取り上げ、城から歴史を究明し、城を守って、これからの社会に活かす方法を論じる。				
評価方法・基準	講義内を行う講義アンケート（講義内に提出）によって、平常時の取り組みと理解を評価する（評価比率30%）。最終の講義時間内に学習到達度確認を行い、城郭考古学の理解度を基準に評価する（評価比率70%）。信長・秀吉・家康の城を資料として、歴史をどう考えるかについてを問う。				
履修上の注意事項等	集中講義期間中に、大和郡山城で臨地講義を行う。一定時間歩くので、受講生は体調を整え、フィールドワークに適した服装と装備で受講すること。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となる。担当教員が現場にて従事した経験に基づき授業を実施する。				
テキスト	なし				
参考書	戦国の城を歩く、千田嘉博、ちくま学芸文庫、2009 信長の城、千田嘉博、岩波新書、2013 歴史を読み解く城歩き、千田嘉博、朝日新書、2022				

科目名	美術史特殊講義（一）			期間	後期
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	絵巻物の研究				
到達目標	伝記や説話を絵画化した作品の調査研究方法を習得し、その作品についての理解を深める。				
授業概要	絵巻物の代表的な作品の内容、絵画様式、制作の状況などを講説する。順番は入れ替わる可能性がある。e-learningにより資料配付、参考サイトの掲示も行う。e-learningの登録コードは講義開始前にポータルで掲示する。				
評価方法・基準	平常 e-learning 課題60% レポート40%（レポートの評価基準は、講義中に配付する「日本語表現チェックリスト」の基準に従う）。				
履修上の注意事項等	参考書の1つは2年次配当選択科目「日本絵画史」の教科書であるが、履修していない場合には購入する必要はない。				
テキスト	なし				
参考書	日本美術史ハンドブック、辻維雄・泉武夫編、新書館、2009 源氏絵の系譜、稲本万里子、森話社、2018 かわい絵巻、上野友愛・岡本麻美、東京美術、2015				

科目名	美術史特殊講義（二）			期間	前期
担当教員	★関根 俊一	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	正倉院と正倉院宝物				
到達目標	・正倉院および宝物の伝来や由緒・歴史等を理解する ・様々な工芸技法、加飾技法を理解する ・宝物の源流、制作地および「世界性（国際性）」を理解する ・「正倉院」を文化財の保存という視点で理解する				
授業概要	正倉院の歴史、建物（校倉）を概観し、ここに伝来した宝物について様々な視点から考察する。テキストやパワーポイントで画像を提示しながら、講義形式で進めるが、随時、コメントシートの提出によって受講者の理解度を確認する。必要に応じて正倉院宝物以外の工芸品についても言及する。「モノ」から情報を読み取る力が身につくよう配慮しながら進める。				
評価方法・基準	定期試験（60%）、学習到達度確認（コメントシート等）（20%）、学習到達度試験（20%）で総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	定期試験（16週目）では、テキスト・配布プリント・自筆ノート持ち込み可とするので、毎回の講義が終了後、配布プリントを参考にし、足りないところはノートにしっかりと整理し、疑問点は必ず質問すること。出欠不問（自由参加）の学外見学を行うので積極的に参加すること。				
テキスト	正倉院宝物 181点鑑賞ガイド、杉本一樹、新潮社、2016				
参考書	その都度指示する				

科目名	美術史特殊講義（三）			期間	後期
担当教員	岡田 健	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	東アジアの仏教彫刻—中国美術の展開〈仏教彫刻編〉				
到達目標	以下の2点を目標とする。 ①中国の各地でそれぞれに展開・発展した仏教彫刻の多彩な状況を理解する。 ②日本及び朝鮮半島を包含する東アジアの美術史として仏教彫刻を理解する。				
授業概要	広大な中国大陸では、古くから各地に多様な文化が育まれ、多くの民族の往来があった。西域を通じてもたらされた仏教とその美術は、おのずから様々な様相を呈してそれぞれの地域で展開・発展した。その中には仏教東漸の最終地点である日本も含まれる。この講義では、国立博物館及び文化財研究所の研究者として実施した中国各地での調査、欧米・日本に所蔵される作品調査をもとに、東アジアという大きな視点から、中国仏教彫刻の全体像をつぶさに見る。				
評価方法・基準	期末レポートによって成績を評価する。全15回のうち、6回以上の欠席、あるいは期末レポートが未提出の場合は評価できない。				
履修上の注意事項等	仏像の種類などの説明は省く。これまでに日本の仏教美術についての授業を受けていることが前提であるが、あらかじめ自主的に学習することを勧める。				
テキスト	毎回資料を配付する				
参考書	北魏仏教造像史の研究、石松日奈子、ブリュッケ、2005 世界美術全集（東洋編）3/三国・南北朝、曾布川寛・岡田健監修、小学館、2000 仏像の鑑賞基礎知識、光森正士・岡田健、至文堂、1993				

科目名	美術史特殊講義（四）			期間	前期
担当教員	★宮崎 もも	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	江戸のやまと絵・住吉派について				
到達目標	主に以下の三点を目標にします。 ①江戸時代の絵画史についての基礎知識を身につけること。 ②やまと絵についての理解を深めること。 ③住吉派についての理解を深めること。				
授業概要	江戸時代のやまと絵系の流派である住吉派を中心にとりあげる授業です。江戸時代の絵画史の概要をおさえつつ、住吉派の絵師たちの代表的作品を詳しく観察し、その表現の特色や制作背景について考察します。住吉派はこれまで注目度の低い流派でしたが、近年論考や展覧会も増加傾向にあり、その特徴・魅力を紐解きます。授業は、配布プリント、パワーポイントを用いて行います。				
評価方法・基準	平常点30%（毎回の授業で、簡単な質問を出します。その答えの内容を重視します） 定期試験70%（授業の内容を理解できているか、論理的な記述であるかを重視します）				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					

科目名	美術史特殊講義（五）			期間	前期
担当教員	岡田 健	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	東アジアの壁画—中国美術の展開〈壁画編〉				
到達目標	以下の2点を目標とする。 ①東アジア全域を包含する美術史として壁画芸術を理解する。 ②壁画材料と絵画技法に関するアプローチによって、文化財を構造的・復元的に見る方法を理解する。				
授業概要	従来の壁画研究は、考古学・美術史・宗教学・歴史学・保存科学・修復技術の各分野が個別にその成果を出してきた。しかし壁画芸術がその主題を画像と様式によって表現できるのは、それを実現するための壁画材料と絵画技法があったからである。いっぽう古代の壁画はすべてが著しく劣化しており、これを復元的に見ることができなければ、壁画の真の姿に迫ることができない。本講義では、長年にわたる敦煌壁画の調査研究や高松塚古墳壁画・キトラ古墳壁画の保存修復事業に関わった経験等を活かし、文化財学としての総合的な視点を持って壁画芸術を見ることを論じる。				
評価方法・基準	最終的にレポートによって成績を評価する。出席数が不足していたり（6回以上の欠席）、レポートの未提出がある場合は評価できない。				
履修上の注意事項等					
テキスト	毎回資料を配付する				
参考書					

科目名	史料学特殊講義			期間	前期
担当教員	吉川 敏子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本古代の後家				
到達目標	本授業は、本学の定めるディプロマ・ポリシーのうち、「2. 問題発見・解決力」に重点を置く。積極的に歴史上の問題点を見出し、史料に基づき、考える力を身につける。				
授業概要	古代史上、有名な女性の多くは後家で、女帝の多くも夫を喪った後に即位している。何故、後家が活躍することになるのかの理由を現在の価値観だけで考えることはできない。本授業科目では、史料を読み解きながら1人1人の後家の足跡をたどり、その作業を通して古代の支配体制、社会、ジェンダーなどを考える。				
評価方法・基準	期末レポートで評価する。授業内容の理解度、レポートの課題設定の着眼、課題解決のための史料分析への取り組み、合理的な考察、文章表現の正しさを評価対象とする。				
履修上の注意事項等	日本古代史の講義であり、史料読解を踏まえたレポートを課す。そのため、履修者は漢文の基礎知識を持つことが望ましい。授業の進捗によりスケジュールに変更が生じる場合は、授業時に知らせる。				
テキスト	なし				
参考書	授業で紹介				

科目名	保存科学特殊講義（一）			期間	後期
担当教員	★横山 操	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	文化財保全のための基礎として、さまざまな文化財資料に生じる劣化現象について、自然科学の視点で講義を行います。				
到達目標	文化財を構成する材料と、材料に特徴的な劣化について知識を深めることにより、文化財の劣化現象に対する観察力を養い、それらを自然科学的（客観的）に記述できるようになることを目標とする。				
授業概要	各回の講義では、劣化した文化財資料の画像を示しながら、資料を構成するそれぞれの材料に、どのような劣化が生じているのか、その要因は何かについて考えます（講義中の質疑は歓迎します）。そしてレポート課題を通じ、劣化についての情報や分析に必要な思考力・判断力を身につけ、また自らの目で観察した内容を第三者と共有し、周り協力して問題解決できる力を身につけることを目指します。文化財保存修復、文化財保存環境、文化財保存科学に発展的につなげるための基礎力の充実を図ります。				
評価方法・基準	レポート課題を提出いただきます（全3回を予定）。各回のレポートは、文化財の材料と劣化現象の要因について、適切かつ簡潔に自然科学的な記述ができているか、また授業の理解到達度について評価します。				
履修上の注意事項等	自然科学的な記述については、小学校・中学校での理科の知識を基本とします（高校での履修は不問です）。				
テキスト					
参考書	文化財と標本の劣化図鑑朝倉書店、2023				

科目名	保存科学特殊講義（三）			期間	後期
担当教員	★岡田 文男	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	埋蔵文化財ならびに伝世文化財のなかで、劣化して保存が困難となった木や繊維等の有機質について材質調査と保存処理法を学ぶ。				
到達目標	埋蔵文化財の発掘調査員や博物館・資料館の学芸員として、有機質を主とした脆弱遺物を保存管理するための基本的な知識を習得し、適切な対処法を選択できるようになる。				
授業概要	本講義では、発掘調査で出土した埋蔵文化財のなかの木製品や漆製品、繊維製品などの脆弱遺物の保存処理、ならびにそれらの材質調査の実践を通して得た知見を主に扱う。講義では日本国内をはじめ、中国陝西省や四川省から出土した漢代・唐代の遺物、韓半島から出土した原三国・三国時代の遺物を取り上げる。あわせて、近年取り組んでいる奈良時代の仏像の材質調査、平安時代の建造物塗装調査について取り上げる。本講義では毎回、パワーポイントを用いて講義を行い、PDF資料を事前に配布する。				
評価方法・基準	15回の講義の前半（8回）、後半（7回）において各1回、レポート提出を課す（前半・後半とも課題は授業中に提示する）。レポートの内容および平常点を勘案して総合評価とする。				
履修上の注意事項等	毎回配布するPDF資料については受講生の学習目的での利用を認めるが、他者への供与、転用は厳禁とする。				
テキスト					
参考書	木の考古学、伊東隆夫・山田昌久編、海青社、2012 絹文化財の世界、奈良文化財研究所編、角川学芸出版、2005 文化財のための保存科学入門、京都造形芸術大学編、角川書店、2002				

科目名	文化財修景学			期間	後期
担当教員	★講師 (文化財修景学)	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	史跡等不動産の文化財の保存・活用のための整備や修景について、実務経験者の講義と現地見学も加えて基礎的内容を学ぶ				
到達目標	史跡・名勝などの記念物、文化財建造物・重要伝統的建造物群保存地区、重要な文化的景観のような不動産の文化財の保存・活用に関する整備や修景、活用について理念や事業内容などを学び、地方公共団体の文化財担当者等になった際に必要な基礎的な知識を身につける。				
授業概要	史跡等整備事業の歴史、理念、技術の体系、事業の流れの他、史跡等の管理・運営、公開・活用というマネジメントについて学ぶ。身近な特別史跡であり、世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産である平城宮跡について保存の歴史と整備事業の概要、現在の活用の状況について座学および現地講義を行う。次に、文化財建造物、重要伝統的建造物群、名勝、重要な文化的景観の保存と活用の概要を学び、まちづくりや観光等に活かす方法を学ぶ。 本科目は平城宮跡やキトラ古墳などの発掘調査と史跡整備事業、活用事業および各地の文化財建造物・重要伝統的建造物群・名勝・重要な文化的景観の調査研究に関わってきた実務経験者が実践的な内容の講義を行うものである。				
評価方法・基準	試験成績と現地見学の参加状況で評価する。座学での出欠は問わない。 試験では講義で触れた史跡等の保存・活用の理念や語句等の基本的理解を問う。				
履修上の注意事項等	第8・9回の時は11/19の午前中の2コマを使って現地講義を行うため、第一限の授業の履修がある者は注意が必要である。				
テキスト					
参考書					

科目名	文化財分析学			期間	後期
担当教員	魚島 純一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財の保存・調査に利用されるさまざまな科学的分析手法とその調査からわかることについて学ぶ				
到達目標	文化財を科学的に分析することの意義について理解する				
授業概要	文化財の調査に応用される科学的分析法は数多くあり、特徴を理解した上で使い分けが必要である。文化財に応用される分析法について、その原理をはじめ、何がわかり、そして何がわからないのかを具体例をもとに学ぶ。 保存科学担当学芸員として博物館に勤務した経験に基づき、実際の現場における文化財分析の考え方についても講義する。				
評価方法・基準	日常の授業態度（授業に対する積極性、講義中の質問などを重視）および授業中に実施する学習到達度確認（講義の内容を正確に把握できているか）等により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	講義内容については各テーマごとに完結するが、文化財の分析調査の理解には前後のテーマとの関連を理解することが不可欠であるため欠席しないように。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、県立博物館の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト					
参考書	文化財分析、早川泰弘・高妻洋成、共立出版、2018 必携考古資料の自然科学調査法、齋藤葵、ニューサイエンス社、2010				



科目名	文化財環境学			期間	前期
担当教員	★高畑 誠	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財の保存に適した環境とその環境を維持する方法について、文化財保存の現場で取り組まれている実例をもとに学ぶ。				
到達目標	文化財を保存するために現場で実践されている調査や処置の実態について把握し、文化財に適した環境の維持管理について理解する。				
授業概要	博物館など文化財を保管している現場では、文化財を保存するためにこういった取り組みが行なわれているのか、正倉院事務所における取り組みを実例とともに紹介しながら、文化財に対して適切な保存環境を構築するための取り組みについて学ぶ。				
評価方法・基準	平常点、学習到達度を総合的に評価する。評価基準は平常点40%（授業に関する質問など積極的な態度を重視）、各授業後の学習到達度確認60%（各授業内容を正しく理解しているかを評価）。				
履修上の注意事項等	ニュースや新聞などで取り上げられる文化財保存に関連する報道に注意を払うこと。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	文化財修復学			期間	前期
担当教員	岡田 健	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化財防災の方法—文化財に関する総合的な理解と防災のための実践的方法論				
到達目標	文化財に関係する職業に就きそれぞれの立場において文化財防災に取り組み、貢献しつる人材となることを目指すための基礎を身につける。				
授業概要	文化財が現代社会において、「地域の文化財」として保護される意味を理解し、その保護に関する制度的・体系的・論理的な方法を正しく認識し、これを基盤として、災害発生に備えた防災・減災のための有効な対策を講じ、災害発生時の迅速かつ有効な救出と保全活動を実現するための基本的な知識を身に付ける。文化財保護に関する多様な実務経験をもとに授業を行う。数回程度レポート提出を課し、各自へのコメントを通じて、理解度を高める方式をとる。				
評価方法・基準	出席50%、課題レポートの内容50%（正確性、客観性、論理性）による評価を行う。6回以上欠席した者、30%以上課題の提出を怠った者には単位を認めない。				
履修上の注意事項等	個別のテーマに偏った理解とならないよう、欠席せずに聴講し、課題レポートを提出してもらいたい。				
テキスト	毎回、配布する				
参考書	随時、講義で紹介する				

科目名	考古学研究法			期間	後期
担当教員	相原 嘉之	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	考古学研究の基礎的実践				
到達目標	考古学の基礎的な調査・研究方法を理解する				
授業概要	考古学研究は、遺跡の発掘調査を的確に行い、出土した遺構・遺物を整理して、報告書を作成することにより遂行することができる。ここでは考古学概論と考古学実習の間をつなぐ授業で、座学・学外授業・整理作業によって、考古学の調査・研究方法を学ぶものである。				
評価方法・基準	レポートと、授業における作業への関わり方により評価する。レポートは期間中に不定期に複数回実施する。				
履修上の注意事項等	考古学を本格的に勉強しようとする者のみ履修できる。本講座では学外授業・整理作業は重要な位置づけになっており、月曜日の午前中半日をかけて実施する。よって、本講座を受講する者は月曜日の2限目を必ず空けておくこと。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場に従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	発掘調査のてびき 集落遺跡調査編, 文化庁, 同成社, 2010 発掘調査のてびき 各種遺跡調査編, 文化庁, 同成社, 2013				

科目名	先史考古学			期間	前期
担当教員	★寺沢 薫	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	弥生時代はどのような時代か				
到達目標	考古学の資料や方法にふれるなかで、弥生時代の社会や文化に対する理解を高める。断片的な知識や理解ではなく、歴史の脈絡として理解できるように努める。				
授業概要	授業はテキストを使って進行する。毎週、テキストの予定の章・節を熟読し、あらかじめ自分なりのまとめと問題点・疑問点の抽出を行う。授業は時に資料配布も行い講義中心で進むが、予習前提なので、なるべく意見を求めたり、質問を受ける。弥生時代とはどのような時代であったのかを、考古学の最新の資料や方法で学び、グローバルでダイナミックな新しい弥生時代像を学びとる。弥生時代研究と現代とのつながりについても考える契機としたい。				
評価方法・基準	毎回のテキストの熟読と不明な点や疑問点を自ら調べる態度が大切である。講義が中心であるが、ときに意見や考えを求めたり、簡単なレポートを提出させる。日常的な積極的な授業参加が評価となるが、レポートの評価が大きい。				
履修上の注意事項等	本講義に直接続く内容として、考古学特殊講義(四)「ヤマト王権成立史の諸問題」を併せて履修することが、この時代の理解を高める上でも有効である。				
テキスト	日本の歴史02巻「王権誕生」, 寺沢薫, 講談社(学術文庫), 2008				
参考書	弥生時代の年代と交流, 寺沢薫, 吉川弘文館, 2014 青銅器のまつりと政治社会, 寺沢薫, 吉川弘文館, 2010 弥生時代国家論, 寺沢薫, 敬文舎, 2020				

科目名	歴史考古学			期間	後期
担当教員	★小山田 宏一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	東アジアにおける日本中世沿海部の低地開発				
到達目標	中国・朝鮮半島の事例と比較して、日本中世沿海部でおこなわれた低地開発の技術系譜と、海でつながる東アジアの技術交流についての理解を深める。				
授業概要	発掘調査成果、文献、絵図などを総合的に扱う。日本・中国・朝鮮半島の沿海部における低地開発方式は、多くの共通点があること、また各地に共通する開発方式が生まれた歴史的背景について理解を深める。				
評価方法・基準	授業中に実施する学習到達度確認による。学習到達度確認では、①低地開発にかかわる基本概念や語句の理解、②講義内容を正確に把握しているかを問う。				
履修上の注意事項等	東アジア世界を対象とするので、たえず広い視野で物事を理解するように心がける。				
テキスト					
参考書					

科目名	仏教考古学			期間	前期
担当教員	★狭川 真一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	仏教に関わる遺跡・遺構・遺物について、考古学的に概説する。				
到達目標	仏教伝来以来、日本の文化には深く仏教が関わってきたため、遺跡や遺物にも仏教の影響下によるものが多い。身近に存在するもののなかに仏教の影響を見出すことができるようになること。				
授業概要	仏教に関わる遺跡・遺構・遺物について、一般的な概説ではなく、各回毎にテーマを設定し、詳細に解説を行う。日本人にとって仏教はかなり身近な宗教であり、日本文化の中に深く染み込んでいる。そのことに気づくこともこの授業の重要性である。				
評価方法・基準	通常時：出席カードの空欄に毎回短いまとめを書き、最終回に学習到達度確認で評価します。オンデマンド授業：各講義後に簡単なレポート提出を求め、15回目の課題は評価点を大きくします。				
履修上の注意事項等	通常時：毎回レジメを配布するので自己で管理すること。オンデマンド授業時：一定期間掲示しますので、確実に確認、受講すること。レジメはWeb講義の画面をPDFにして毎回提示する予定です。なお、講義の内容や順番を一部変更する場合があります。				
テキスト	なし				
参考書	『仏教考古学講座1～7』、石田茂作監修、雄山閣出版、1975 『仏教考古学の構想』、坂詰秀一、雄山閣出版、2000				

科目名	世界考古学			期間	後期
担当教員	岩戸 晶子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	東アジアの考古学				
到達目標	韓国の考古学の成果について知識を深め、古代東アジアにおける日韓交流の在り方について理解する				
授業概要	古代・中世の韓国考古学について各時代ごとに都城・寺院、その他遺物に関するトピックを取り上げ、古代日本と朝鮮半島の交流を考古学的な視点で把握する。				
評価方法・基準	最終の講義時間内に学習到達度確認を行い、講義内容の理解度にもとづいて評価します。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	『朝鮮半島の考古学』（世界の考古学⑩）、早乙女雅博、同成社、2000 『概説 韓国考古学』、韓国考古学会 編、同成社、2013				

科目名	東洋美術史			期間	後期
担当教員	★西尾 歩	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	東洋美術史の一環として中国美術を取り上げ概観する。				
到達目標	中国美術の造形作品を美術史的に理解する。				
授業概要	東アジアの中心的役割を担ってきた中国の美術（主に絵画）を美術史的に考察する。具体的には、中国古代から近世まで、各時代の代表的・特徴的な作品（あるいは文献）を取り上げて説明する。また授業全体として通史的に概観し、中国美術の大きな流れを確認する。講義では、画像のプロジェクターによる映写を含め、視覚教材を活用して中国美術についての理解を深めたい。				
評価方法・基準	レポート50%：美術史的に作品を説明できているかどうかをみて評価する。 期末試験50%：授業内容が理解できているかどうかをみて評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし。				
参考書					

科目名	日本彫刻史			期間	前期
担当教員	大河内 智之	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本彫刻史の諸相				
到達目標	日本文化の核となる宗教文化の表象である宗教美術のうち、彫刻資料についての基礎的な知識を獲得し、自らの文化的背景について考える教養を身につける。				
授業概要	この講義では日本彫刻史について、仏像・神像・仮面などさまざまな種類の資料を取り上げる。特に仏像については奈良という地域の特徴を踏まえ、鎌倉時代の仏師連慶の出現にいたる仏像様式の変遷について取り上げる。神像や仮面についても、美術資料と地域史という観点を重視し、美術史的方法論による作品の資料化と歴史叙述の実践的方法について教授する。				
評価方法・基準	講義時に実施する学習到達度確認50%、レポート50%。				
履修上の注意事項等	この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	適宜プリントを配布する				
参考書	その都度指示する				

科目名	日本絵画史			期間	前期
担当教員	原口 志津子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本絵画史上の代表作個別解説				
到達目標	各時代の代表作の特徴を理解し説明できるようになる。				
授業概要	日本絵画の主題・素材・技法・形式を概観した後、奈良時代から江戸時代まで、各時代の特徴を最もよく表す作品を数点ずつとりあげ、その特質を論じる。				
評価方法・基準	授業中に実施する学習到達度確認60% レポート40% (レポートの評価基準は、講義中に配付する「チェックリスト」に従う)。				
履修上の注意事項等	資料や参考 URL の紹介のために e-learning を利用する。e-learning の登録キーはポータルで通知する。				
テキスト	日本美術史ハンドブック, 辻惟雄・泉武夫編, 新書館, 2009				
参考書	適宜指示する				

科目名	工芸史			期間	後期
担当教員	★善田 のぶ代	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本陶磁史				
到達目標	陶磁器についての基礎知識を身につける。陶磁史では日本独自の様式が築かれた中・近世の陶磁器を中心に、美術史的な視点のみならず技術的な側面も併せて理解する。				
授業概要	陶磁器の基礎知識を解説する。陶磁史を概観し、とくに日本独自の様式が築かれた桃山時代以降の陶磁器については文化史的な背景を踏まえて、伝世品だけでなく、考古学分野における資料も採り入れて授業を進める。また日本の陶磁器の大半は中国、朝鮮半島からの技術移入によって成り立っているため、それらの影響について考える。授業は講義形式で行ない、また作品の理解を深めるためにパワーポイントなどの映像資料を活用する。				
評価方法・基準	学期末に課すレポートと平常点(授業に積極的に参加しているかなど)を総合的に判断して評価する。レポートは課題をいくつか提示するので、その中から最も興味を抱いた課題を選び、積極的に資料等を調べて作成すること。				
履修上の注意事項等	テキスト以外に適宜プリントを配布するのでそれらをファイルすること。授業内容については若干変更を行う場合がある。				
テキスト	やきもの入門, KK ベストセラーズ, 2012				
参考書	やきものの鑑賞基礎知識, 矢部良明, 至文堂, 1996 増補版 アジア陶芸史, 出川哲朗・中ノ堂一信・弓場紀知編, 昭和堂, 2012				

科目名	文献史料学			期間	後期
担当教員	★殷 捷	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	古代・中世の古文書の読解				
到達目標	古代・中世の古文書に記されたくずし字を正確に解読し、記載内容を理解するとともに、古文書の様式・機能など基礎的な知識を身につける。				
授業概要	古文書を正確に読解する能力は、日本史研究を行うためには身につけなければならない能力の一つである。本講義では、平安～戦国期の古文書(写真)を取り上げ、その熟読を通じてくずし字を正確に解読する能力を身につけるとともに記載内容、様式や機能などを考察する。				
評価方法・基準	平常点40%(講義で取り上げるテキストの読解に対する積極的な態度を重視)、学習到達度確認60%(古文書を読解するための基本的な能力を有しているかどうかを評価する。)				
履修上の注意事項等	古文書の写真をテキストにして、くずし字の読解を行うが、読解力をつけるために、積極的に予習・復習に取り組むことが望ましい。				
テキスト					
参考書	くずし字用例辞典, 児玉幸多編, 東京堂出版, 1981 古文書学入門, 佐藤進一著, 法政大学出版局, 1997 日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法, 刈米一志著, 吉川弘文館, 2015				

科目名	宗教文化史			期間	後期
担当教員	★狭川 真一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	人の「死」に関わる宗教文化（特に墓）を題材に、それぞれの時代に生きた人々が「死」について如何に考えていたかを考察する。				
到達目標	社会的地位、経済的格差などを超越して「死」は必ずやってくる。過去の人々が考えた死後の世界観について物質文化を通じて学び、現代社会における人の生と死について考える機会とする。				
授業概要	「死」を認識し、死者を弔うことのできる生物は人間だけである。墓の造営・葬送儀礼・墓石建立・先祖供養などの事例を通じて、日本人の古代から近世における死生観を「墓」に題材を求め、考古学的手法を中心に用いて、当時の人々の心に迫る。				
評価方法・基準	通常時：出席カードの空欄に毎回短いまとめを書き、最終回に学習到達度確認で評価します。オンデマンド授業：各講義後に簡単なレポート提出を求め、15回目の課題は評価点を大きくします。				
履修上の注意事項等	通常時：毎回レジメを配布するので自己で管理すること。オンデマンド授業時：一定期間掲示しますので、確実に確認、受講すること。レジメはWeb講義の画面をPDFにして毎回提示する予定です。なお、講義の内容や順番を一部変更する場合があります。				
テキスト	なし				
参考書	墓と葬送の中世, 狭川真一編, 高志書院, 2007 中世墓の考古学, 狭川真一, 高志書院, 2011				

科目名	世界遺産学			期間	前期
担当教員	★中井 公	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	世界遺産と「古都奈良の文化財」				
到達目標	「世界遺産条約」の意義・仕組み・履行の実情と課題などについて理解を深め、今後の文化遺産研究のための基礎を身につける。				
授業概要	日本が世界遺産条約を締結して30年余りが経ちましたが、国内ではいまだ、世界遺産は地域振興の新たな起爆剤だと、陳情活動や政治主導やらが入り乱れての、新規登録を目指す動きが活発です。ただその一方で、「明治日本の産業革命遺産」の登録や「佐渡島の金山」の推薦をめぐって、いわゆる強制労働の説明にユネスコや韓国が遺憾表明するなど、課題があるのも実情です。登録だけが世界遺産のすべてではありません。世界遺産についてもっと知り、深く考えるための手がかりにして欲しい。これが本講義の目的です。				
評価方法・基準	平常の授業姿勢50%（積極的な質問・発言を重視）と、筆記による学習到達度確認50%（提示した課題の内容を的確に把握し、制限字数内で、根拠の要点と結論を適切にまとめることができているか）を合わせて評価します。				
履修上の注意事項等	奈良大学は、世界遺産をはじめ多くの文化遺産が身近にある、恵まれた環境にあります。授業の中では最寄りの寺社や遺跡などもたくさん話題にあがりますが、是非とも実際に現地を訪れて、自分の目でしっかりと見て、耳学問を補って欲しいと思います。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	建築史			期間	前期
担当教員	★山岸 常人	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	日本建築の古代から近世までの歴史を、技術的な側面と、文化的側面に着目しながら理解してもらう。				
到達目標	日本建築を歴史の様々な現象と結びつけて理解すること。また歴史的建造物の特質と意義を自らの目で見て判断できるようになること。				
授業概要	寺社建築と住宅建築について、1、構造の変化、2、空間の変化、3、形式の多様性 に分けて、それぞれの時代的な変化の過程とその背景を解説する。				
評価方法・基準	レポートによる。講義内容の理解、関連学術書の学習、実際の建物の見学などの状況を見て、評価する。				
履修上の注意事項等	各回の講義で時代が前後するので、自分自身で時代の流れを頭の中に入れておき、各回の講義がその流れの中のどの位置にあるのかに注意しながら講義を聞くこと。講義中に参考資料を配布する。また、京都・奈良の寺社の建築を見学しておくこと。				
テキスト	日本建築史図集, 彰国社				
参考書					

# 心理学科目





科目名	心理学概論			期間	前期
担当教員	金澤 忠博	単位数	2	配当年次	1
テーマ	心理学の基礎を学ぶ。				
到達目標	人間の心理・行動を真に理解するためには、胎生期から大人に至る行動発達のプロセスだけでなく、原動物から人間に至る行動進化のプロセスをも視野に入れる必要がある。授業では、さまざまな領域における人間の心理・行動の特徴について、進化と発達との2つの側面から捉え、人間行動の特徴についてより深い理解を目指す。				
授業概要	発達心理学の最新の知見に加えて、比較行動学 (ethology) や進化心理学 (evolutionary psychology) の知見を織り交ぜながら、人間行動の進化と発達について学ぶ。具体的にはまず個体レベルでの認知様式と行動様式の進化と発達について学び、さらに、言語や心の理論、自己意識、母子関係や仲間関係、異性関係など、コミュニケーションや対人関係にいたるまで、その生物学的基盤について学ぶ。				
評価方法・基準	期末レポート (70点) 平常点 (30点) (配点内訳: 毎回のリアクションペーパー (15点) + 課題 (15点))				
履修上の注意事項等	授業で紹介する内容の多くは日常生活に関わるものであり、実際に日常的な体験を通して確かめることにより、さらに深い理解が得られる。毎回のリアクションペーパーに積極的に質問を書いて下さい。				
テキスト	なし				
参考書	Atkins & Hilgard's Introduction to Psychology, Nolen-Hoeksema, S., et al., Gengage Learning EMEA, 2015 『心の発生と進化』, ディヴィッド・プレマック&アン・プレマック, 新曜社, 2005 『心とことばの起源を探る』, マイケル・トマセロ, 勁草書房, 2006				

科目名	社会心理学概論			期間	後期
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	1
テーマ	社会心理学の代表的な理論や研究例を概観し、社会心理学的な考え方を理解する。				
到達目標	(1) 対人関係や社会における人間の心理や行動への理解を深める。 (2) 社会における諸問題を社会心理学的に捉える視点を身につける。				
授業概要	日常生活において、私たちは身近な他者や集団などの社会的な環境からの影響を常に受けて思考し、判断し、行動している。私たちの心の働きに社会的環境がどのように影響しているのかに関して、代表的な理論や研究例を中心に概観し、社会心理学の基礎的な知識を習得する。				
評価方法・基準	授業内小課題 (40%程度) (各回の授業内容の理解度を評価)、筆記試験 (60%程度) (社会心理学の基礎的な概念理解を評価) によって総合的に評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	資料を配付する				
参考書	社会心理学概論, 北村英哉・内田由紀子 (編), ナカニシヤ出版, 2016 社会心理学, 池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子, 有斐閣, 2010				

心理学科

科目名	臨床心理学概論			期間	前期
担当教員	鈴木 孝	単位数	2	配当年次	1
テーマ	臨床心理学に関する概説				
到達目標	臨床心理学の理論、支援方法、問題について理解し説明できる。				
授業概要	①臨床心理学の基礎 ②臨床心理学の理論と実際 ③心理的障害の理解と支援				
評価方法・基準	試験 (60%)、コメントシートの記載内容や受講態度 (40%) で評価する。コメントシートは授業の終わりに毎回記載してもらおう。定期試験期間 (16週目) に試験を実施する。				
履修上の注意事項等	試験の出題はテキストから行うので購入しておくこと。対面授業が困難になった場合は、WEB 授業に学期途中から変更になることも想定され、テキストがないと授業の理解が難しくなる。授業の進行によりシラバスとは異なる可能性もある。				
テキスト	『臨床心理学』, 丹野義彦ら, 有斐閣, 2015				
参考書					

科目名	基礎演習 I (一)			期間	前期
担当教員	岡部 純子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート (調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価)・発表 (調査、構成と発表方法の工夫で評価)・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法, 初年次教育を考える会, 奈良大学, 2022				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	鈴木 孝	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート（調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価）・発表（調査、構成と発表方法の工夫で評価）・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法, 初年次教育を考える会, 奈良大学, 2022				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅰ（三）			期間	前期
担当教員	卜部 敬康	単位数	2	配当年次	1
テーマ	大学における学びの姿勢と技法を習得し、大学生活に早く、上手に適応しよう				
到達目標	大学での学びのスタイルに適応する。資料の活用、レポートの作成、プレゼンテーションができるようになることを目標とする。				
授業概要	大学生活にスムーズに適応するには、高校までの勉強と大学での学びとの違いを理解した上で、学ぶ姿勢と学びの技法を習得する意欲を持つことが求められます。大学での学びでは、自ら問題を発見し、批判的に考える自律的な態度が求められます。本科目では、新入生に対し、このような姿勢と技能を習得するための指導を行います。具体的な授業内容は下記の通りで、後半では2回のレポート作成・提出を求め、添削による指導を行います。また最後に口頭発表と指導を行います。				
評価方法・基準	レポート（調査、論理的な構成、事実と意見の区別、文章表現で評価）・発表（調査、構成と発表方法の工夫で評価）・授業態度等を総合的に判断して到達度を評価します。毎回出席しなければ、本学での学びの技法をしっかりと身につけることはできません。				
履修上の注意事項等	・1年次生は受講クラスが指定されています。指定されたクラスの時間割に従って受講してください。 ・ワープロ、プレゼンテーションソフトの利用など情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	大学生の表現技法, 初年次教育を考える会, 奈良大学, 2022				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	岡部 純子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	心理学を学ぶ上で必要となる学びの基礎的姿勢および技法を習得する。				
到達目標	心理学で必要とされる学びのスタイルに適応する。よりアカデミックな「モノの考え方、モノの書き方、モノの伝え方」を知り、実践する。				
授業概要	さまざまなテーマについて考えながら、心理学を学ぶ上で必要となる学びの技法を身につける。				
評価方法・基準	レポート・発表（わかりやすく、論理的に自分の考えを展開できているかを評価する。）、授業態度（課題に積極的に取り組む姿勢を重視する。）を総合的に勘案して到達度を評価する。				
履修上の注意事項等	指定されたクラスの時間割に従って受講すること。				
テキスト	担当教員の指示に従う				
参考書					

科目名	基礎演習Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	鈴木 孝	単位数	2	配当年次	1
テーマ	心理学を学ぶ上で必要となる学びの基礎的姿勢および技法を習得する。				
到達目標	心理学で必要とされる学びのスタイルに適応する。よりアカデミックな「モノの考え方、モノの書き方、モノの伝え方」を知り、実践する。				
授業概要	さまざまなテーマについて考えながら、心理学を学ぶ上で必要となる学びの技法を身につける。				
評価方法・基準	レポート・発表（わかりやすく、論理的に自分の考えを展開できているかを評価する。）、授業態度（課題に積極的に取り組む姿勢を重視する。）を総合的に勘案して到達度を評価する。				
履修上の注意事項等	指定されたクラスの時間割に従って受講すること。				
テキスト	担当教員の指示に従う				
参考書					



科目名	基礎演習Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	卜部 敬康	単位数	2	配当年次	1
テーマ	心理学を学ぶ上で必要となる学びの基礎的態および技法を習得する。				
到達目標	心理学で必要とされる学びのスタイルに適応する。よりアカデミックな「モノの考え方、モノの書き方、モノの伝え方」を知り、実践する。				
授業概要	さまざまなテーマについて考えながら、心理学を学ぶ上で必要となる学びの技法を身につける。				
評価方法・基準	レポート・発表（わかりやすく、論理的に自分の考えを展開できているかを評価する。）、授業態度（課題に積極的に取り組む姿勢を重視する。）を総合的に勘案して到達度を評価する。				
履修上の注意事項等	指定されたクラスの時間割に従って受講すること。				
テキスト	担当教員の指示に従う				
参考書					

科目名	臨床心理学演習Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	磯部 美也子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	発達臨床心理学の研究のための基礎演習（Ⅰ）				
到達目標	卒業研究をするための生涯発達、および発達臨床心理学の基礎知識の習得をする。参考文献を読んで、その要旨を理解してまとめ、発表する。グループワークを通して自己開示を学ぶ。				
授業概要	胎生期から老年期まで人が生涯発達する過程においては、それぞれに課題や様々な危機がある。そういったものに直面しながら各自の発達は個性化し、生活世界を広げていく。この発達過程における課題とその支援について臨床心理学的見地から学び、卒業研究のテーマを決める。また、演習における発表と討議、グループワークを通して要約力、発表力、意見表明の力を培う。				
評価方法・基準	授業中の平常点、積極的に演習に参画しているか、意見表明、討議、質問や考察をしているかを評価（40%）、レポート（テーマに沿った完成度、発表の充実度を評価）（60%）				
履修上の注意事項等	日頃から、子どもを取り巻く現代の諸問題に関心をもっておくこと。他者の発表についても関心を持ち、積極的に意見交換にのぞむこと。参考文献は適宜紹介する。				
テキスト	なし				
参考書	障害臨床学, 中村善行・大石史博, ナカニシヤ出版発達のための臨床心理学, 小林芳郎, 保育出版社これからを生きる心理学ナカニシヤ出版				

科目名	臨床心理学演習Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	武本 一美	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	興味ある精神症状や精神現象の発見。				
到達目標	卒業研究として興味を持って取り組める研究テーマを発見する。				
授業概要	精神症状や精神現象について、語り合い、心理学的に考え、これまでの理論と関連付けられるところを探す。浮かんでくる考えや身の回りにあることを選んでテーマにして考察してゆく。				
評価方法・基準	授業への参加状況（発表内容や討議への主体的・積極的な態度等）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	他のメンバーの時間を無駄にしないように、しっかり予習し、発表する。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅰ（三）			期間	前期
担当教員	鈴木 孝	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	臨床心理学に関する卒業論文作成に向けての予備的研究指導				
到達目標	実証的な臨床心理学研究（質的・量的）を行うために、臨床心理学の諸知見・モデル・研究方法に関する理解を深める。卒業論文を作成するための基礎力を身につける。				
授業概要	①研究テーマに関する検討、②主たる研究領域の先行研究の探索と学習、③パイロットスタディの実施とまとめ④プレゼンテーション				
評価方法・基準	平常点60%（授業への参加だけでなく、質問などの積極的な態度、プレゼンテーション、ディスカッションへの関与も評価する）、パイロットスタディの報告書40%（問題の設定、研究方法、結果、考察の適切性により評価する）。				
履修上の注意事項等	適宜、プリント資料を配布する。				
テキスト	なし				
参考書	『臨床心理学研究法』, 丹野義彦（編）, 誠信書房, 2004 『なるほど!心理学研究法』, 三浦麻子, 北大路書房, 2017				

科目名	臨床心理学演習Ⅰ（四）			期間	前期
担当教員	今井 由樹子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	司法・犯罪心理学研究のための基礎演習（Ⅰ）				
到達目標	司法・犯罪心理学領域研究に関する理解を深める。興味のある研究テーマを探す。				
授業概要	司法・犯罪心理学領域の研究を行うための基礎的な知識を学習する。関連する文献の探索と整理を学ぶ。関連するテーマについてグループディスカッションを行う。				
評価方法・基準	課題への取り組み態度、積極的なディスカッション、研究テーマの探索・講読・整理等の授業に対する積極性を総合的に判断する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	資料を配布する				
参考書	適宜紹介する				

科目名	臨床心理学演習Ⅰ（五）			期間	前期
担当教員	林 郷子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	臨床心理学研究の実際（Ⅰ）				
到達目標	臨床心理学研究に関する方法論になじむ。				
授業概要	文献の講読と発表を通して、臨床心理学研究の方法論になじむことを目的とする。思春期・青年期の心理的課題、教育臨床、表現療法等を題材として取り上げながら、臨床心理学に関する文献を読む力を付け、全般的な研究の進め方を理解することを目指す。				
評価方法・基準	平常の授業への参加状況（発表内容や討議への主体的・積極的な態度等）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	原則として遅刻や欠席は認めない。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	磯部 美也子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	発達臨床心理学の研究のための基礎演習（Ⅱ）				
到達目標	人の発達、および発達臨床に関する研究の中から関心のあるテーマを見つけ、卒業研究へ方向付けをしていく。				
授業概要	各自の卒業研究のテーマの決定に向け、参考文献を収集し、研究方法も決定していく。絶えず課題意識を高め、ディスカッションを通して、各自研究ビジョンを立案する。また、演習を通して課題発見能力、課題解決能力、プレゼンテーションの能力、コミュニケーション力、討論の能力等を身につける。				
評価方法・基準	授業中の平常点、積極的に演習に準備、参画しているか、意見表明、討議、質問や考察をしているかを評価（40%）、レポート（テーマに沿った完成度、文献発表、グループワークの充実度を評価）（60%）				
履修上の注意事項等	各自研究テーマを見つけて、計画的に掘り下げ、進めていくこと。演習に積極的に参加し、他のゼミ生への発表に対しても、積極的に意見を表明していくこと。福祉施設の見学を予定している。				
テキスト	なし				
参考書	人間関係作りトレーニング、星野欣生、金子書房エンカウンターで学級が変わる、國分康孝、図書文化				

科目名	臨床心理学演習Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	武本 一美	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	前期に発見した興味ある精神症状や精神現象についての知識を深め、文章にまとめる。				
到達目標	卒論の予備段階のつもりで、テーマの設定を行い、先行研究をまとめて小さい論文形式でまとめる。				
授業概要	前期に発見した研究テーマに沿った適切な論文を発見し、読解し、皆の前でプレゼンテーションし、討論する。最後は、そのテーマについて的小論文をまとめる。				
評価方法・基準	授業への参加状況（発表内容や討議への主体的・積極的な態度等）により総合的に評価する				
履修上の注意事項等	他のメンバーの時間を無駄にしないように、しっかり予習し、発表する。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	鈴木 孝	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	臨床心理学に関する卒業論文作成に向けての予備的研究指導				
到達目標	実証的な臨床心理学研究（質的・量的）を行うために、臨床心理学の諸知見・モデル・研究方法に関する理解を深める。4年次に卒業論文を作成できる基礎を身につける。				
授業概要	①研究テーマに関する検討、②主たる研究領域の先行研究の探索と学習、③パイロットスタディの実施とまとめ、④プレゼンテーション				
評価方法・基準	平常点60%（授業への参加だけでなく、質問などの積極的な態度、プレゼンテーション、ディスカッションへの関与も評価する）、パイロットスタディの報告書40%（問題の設定、研究方法、結果、考察の適切性により評価する）。				
履修上の注意事項等	適宜、プリント資料を配布する。				
テキスト	なし				
参考書	『臨床心理学研究法』、丹野義彦（編）、誠信書房、2004 『なるほど！心理学研究法』、三浦麻子、北大路書房、2017				

科目名	臨床心理学演習Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	今井 由樹子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	司法・犯罪心理学研究のための基礎演習（2）				
到達目標	司法・犯罪心理学領域研究に関するのなかから関心のあるテーマを見つけ、研究の方向付けを行う。				
授業概要	①研究テーマに関する検討。 ②先行研究の収集と整理。 ③研究の「問題と目的」の作成。				
評価方法・基準	課題への取組み態度、積極的なディスカッション、研究テーマの探索・講読・整理、研究計画の作成等の授業に対する積極性を総合的に判断する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	資料を配布する				
参考書	適宜紹介する				

科目名	臨床心理学演習Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	林 郷子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	臨床心理学研究の実際（2）				
到達目標	調査研究を実施し、臨床心理学研究の方法を修得する。				
授業概要	前期の学修内容をふまえて、実際に調査研究を行う。個人もしくはグループで研究テーマを設定し、資料の検索・収集および調査を行う。全体での討議を通して理解を深めつつ進める。研究方法の確認とともに、自分の関心のあるテーマの模索を行い、次年度の卒業研究へのステップとしたい。				
評価方法・基準	平常の授業への参加状況（発表内容や討議への主体的・積極的な態度等）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	原則として遅刻や欠席は認めない。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅲ（一）			期間	前期
担当教員	磯部 美也子	単位数	2	配当年次	4
テーマ	発達臨床心理学演習、卒業研究、論文作成				
到達目標	今までの演習のまとめをする中で、新しい視点から研究テーマを決定し、研究論文を書く準備をしてデータの収集をする。				
授業概要	今までの研究をまとめ、各自の研究テーマに沿った研究方法を決め、情報を収集し、分析方法を決定する。メンバーの発表について意見発表・討議に積極的に参加する。卒業研究の中間発表をする。				
評価方法・基準	授業中の平常点、積極的に演習に準備、参画しているか、意見表明、討議、質問や考察をしているかを評価（40%）、レポート（テーマに沿った完成度、発表の充実度を評価）（60%）				
履修上の注意事項等	課題発見、課題解決、分析力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等を磨くように努力すること。				
テキスト	なし				
参考書	適宜紹介する				

科目名	臨床心理学演習Ⅲ（二）			期間	前期
担当教員	武本 一美	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業研究準備のための演習				
到達目標	卒業論文執筆のための文献的基礎の構築またはデータの収集、専門性への展望の開拓。				
授業概要	段階を追って、卒業論文制作の作業を積み上げてゆく。				
評価方法・基準	卒業研究の計画が意欲的かつ整合的にまとめられたかどうかを、評価の基準とする。				
履修上の注意事項等	他のメンバーの時間を無駄にしないように、しっかり予習し、発表する。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。				
参考書	資料などを適宜紹介する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅲ（四）			期間	前期
担当教員	今井 由樹子	単位数	2	配当年次	4
テーマ	司法・犯罪心理学に関する卒業研究（1）				
到達目標	研究計画にそって調査方法を決定し、調査を実施する。				
授業概要	グループ討議を行い、①研究計画の作成 ②調査方法の決定 ③調査の実施を進める。				
評価方法・基準	課題への取組み態度、積極的なディスカッション、研究計画の作成、調査の実施等の授業に対する積極性を総合的に判断する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	資料を配布する				
参考書					

科目名	臨床心理学演習Ⅲ（五）			期間	前期
担当教員	林 郷子	単位数	2	配当年次	4
テーマ	臨床心理学に関する卒業研究（1）				
到達目標	研究テーマを設定し、卒業研究にあたっての研究計画を立てる。				
授業概要	3年次の演習で学んできたことをふまえて、各自の研究に取り組む。まずは関心のある研究テーマを設定し、関連領域の資料講読やレビューを行う。問題設定、仮説設定を行い、検証するための研究計画を立てる。メンバー相互による発表と討議を重ねる中で、理解を深めつつ進めていきたい。				
評価方法・基準	平常の授業への参加状況（発表内容や討議への主体的・積極的態度等）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	原則として遅刻や欠席は認めない。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅳ（一）			期間	後期
担当教員	磯部 美也子	単位数	2	配当年次	4
テーマ	発達臨床心理学演習 卒業論文の完成				
到達目標	今までの演習のまとめを行い、様々な講義や実習で得た知識や技能を参考にして、各自の研究テーマに沿った研究論文を書きあげ、それを発表する。				
授業概要	今までの研究をまとめ、研究論文に仕上げるためにディスカッションを重ねながら論文を推敲していく。研究論文ができ上がった後に研究発表を行う。				
評価方法・基準	授業中の平常点、積極的に演習に準備、参画しているか、意見表明、討議、質問や考察をしているかを評価（40%）、レポート（テーマに沿った完成度、発表の充実度を評価）（60%）				
履修上の注意事項等	卒業研究論文は大学生活のまとめともなるものなので、積極的に取り組み、課題発見・解決能力、分析力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力なども意識して取り組むことが望ましい。				
テキスト	なし				
参考書	適宜紹介する				

科目名	臨床心理学演習Ⅳ（二）			期間	後期
担当教員	武本 一美	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文の作成				
到達目標	研究計画を実行し、卒業論文を完成させる。				
授業概要	前期に引き続き、各自の研究を進める。おおむね前期に立てた研究計画に沿って進めるが、当然修正はあり得る。最終的に、卒業論文としてまとめる。				
評価方法・基準	完成した卒業論文と、取り組み中になされた作業を評価の対象とする。				
履修上の注意事項等	卒業論文は、将来にわたって自分の基礎を作る大事な論文ですので、心して取り組んでください。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。				
参考書	資料などを適宜紹介する。				

科目名	臨床心理学演習Ⅳ（四）			期間	後期
担当教員	今井 由樹子	単位数	2	配当年次	4
テーマ	司法・犯罪心理学に関する卒業研究（2）				
到達目標	調査結果を分析し、卒業論文を完成させる。				
授業概要	グループ討議を行いながら進めていく。①調査資料の整理の作成 ②データの分析 ③結果と考察の作成 ④論文完成				
評価方法・基準	課題への取組み態度、積極的なディスカッション、論文作成、プレゼンテーション等の授業に対する積極性を総合的に判断する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	資料を配布する				
参考書					

科目名	臨床心理学演習Ⅳ（五）			期間	後期
担当教員	林 郷子	単位数	2	配当年次	4
テーマ	臨床心理学に関する卒業研究（2）				
到達目標	研究計画を実行し、卒業論文を完成させる。				
授業概要	前期に引き続き、各自の研究を進め、発展させる。前期に立てた研究計画に沿って進めるが、中間発表を行いメンバー相互による討議を重ねる中で、問題設定や研究方法、考察内容について吟味と修正を行っていく。最終的には卒業論文としてまとめる。				
評価方法・基準	平常の授業への参加状況（発表内容や討議への主体的・積極的態度等）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	原則として遅刻や欠席は認めない。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	社会心理学演習Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	太田 仁	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会心理学的な視点の養成				
到達目標	社会心理学の心理臨床的支援への応用研究を目指し、日常生活、家庭、職場、心理臨床的支援に役立つ研究成果をまとめる。				
授業概要	私たちの日常は他者との交流なしには成立しない。他者との交流は、換言すれば各々の有する「資源」の交換であり、日常的な表現では「支えあう」ことである。個人が有する資源は限られているが資源を持ち寄ることで社会が構成され人類はここまで存続した。以上の観点に立ち日常の対人行動を詳細に観察し、これまでの社会心理学における研究成果と対照させながら受講者の研究課題を明らかにし、卒論の端緒となる課題の研究計画および研究方法を策定する。				
評価方法・基準	グループワークの意義を理解した積極的参加20%＋絵日記の社会心理学的考察20%＋配布資料の理解度20%＋心理学専門用語を的確に理解した論文概観20%＋簡潔明瞭な発表20%				
履修上の注意事項等	出席は単位修得の必須条件とする。授業時間以外にも日常の対人行動のそこに生起する感情に注目し客観的に理解する自主的な研究活動を求める。				
テキスト	授業中に資料を配布する				
参考書	授業で紹介する				

科目名	社会心理学演習 I (二)			期間	前期
担当教員	與久田 巖	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	産業・組織心理学の研究テーマを理解し、研究の視点を見いだす。				
到達目標	1) 産業・組織にかかわる心理学的な先行研究の概要・方法論・課題・問題を理解し、自己の見解を持つ。 2) 自己の研究テーマを意識化・明確化する。				
授業概要	まず、オリエンテーションを行い、構成的グループエンカウンターやアサーション・トレーニングを実施して演習の際の準備を行う。次に、自己のキャリア形成、自己のキャリアと研究との関係について考える。その後、先行研究の概要の発表、方法論や課題・問題の討論などを行う。それらを通して自己の研究テーマを意識化・明確化していき、暫定的な研究テーマを確定する。				
評価方法・基準	課題40%：指示を適切に理解した内容か、評価する。 発表20%：自己の見解を論理的に展開しているか、評価する。 学期末レポート40%：興味・関心のある研究テーマをまとめる。				
履修上の注意事項等	・発表担当の際、正当な理由なく欠席した場合は、大幅減点する。 ・全15回を通して、自己の研究テーマを探索し、意識化・明確化すること。 ・授業内容は、履修人数、履修者の興味・関心に応じて変更する場合がある。				
テキスト	資料を配付する				
参考書	授業で適宜、紹介する				

科目名	社会心理学演習 I (三)			期間	前期
担当教員	卜部 敬康	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会心理学の社会制度・政策への応用				
到達目標	社会心理学を社会制度・政策へ応用することの意義について理解し、その考え方を習得すること。その前提として、社会制度の改善について自由に論ずる態度を有することが必要となるが、その涵養のために、①タフについても論じられる力をつけることと、②学問の自由の精神を身につけることも到達目標に含める。				
授業概要	諸君が心理学科において主に学んでいる社会心理学および臨床心理学の知見をどのように応用することができるかについて、テキストの輪読と研究発表を通して考える。特に、この演習においては「応用」をできる限り幅広く捉える。心理学の知見を用いた個人の行動や認知の姿を「心理学の応用」と考えることが一般的であるが、この演習では、心理学の研究成果を用いて私たちの生活の前提となっている社会制度や政策を考え直すことも「心理学の応用」に含めるものとする。3年次前期の本演習においてはまず、基礎知識についての講義とテキストの輪読を行い、心理学を社会制度へ応用する視点を涵養したい。それと並行して、受講生の関心に応じた話題について自由な討議を重ねることで、日常的な疑問を学問的に考える習慣をつけることを目指したい。そうした作業を通して、自分が何に興味をもっているかを明確化するとともに、自己と他者の相違点を知ることにより、人間の多様性への理解を深めたい。それをふまえて、どのような制度が人間を幸福にするかについて考える。毎回の内容は以下の記述にかかわらず、諸君との相談で柔軟に変更すること（これは本来、言うまでもないが）。				
評価方法・基準	発表内容と議論への参加の積極性を平常評価とレポートによって評価する。				
履修上の注意事項等	授業時間外にフィールドワークをする時があるので、それに参加すること。				
テキスト	常識の社会心理：あたりまえは本当にあたりまえか、卜部敬康・林理（編）、北大路書房、2002 ほんとはこわい「やさしさ社会」、森真一、ちくまプリマー新書、2008				
参考書	「しきり」の心理学、林 理、学陽書房				

科目名	社会心理学演習 I (四)			期間	前期
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	心理学研究の進め方と社会的認知研究の知識獲得				
到達目標	社会的認知を中心とした社会心理学研究の知識習得と研究の流れについて理解する				
授業概要	演習 I では、以下の各項を達成することを目標とする。(1) 社会的認知研究の最新トピックの理解、(2) 関連文献の探し方とレビューの方法、(3) 論理的な議論の仕方の習得				
評価方法・基準	課題への取り組み (20%：提出課題の評価に基づく)、発表 (40%：発表内容の構成の評価に基づく)、ディスカッションへの参加 (40%：議論への積極性と発言内容の評価に基づく) を総合して評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	心の中のブラインド・スポット、M.R. バナージ、A.G. グリーンワルド、北大路書房、2015				
参考書	社会心理学概論、北村英哉・内田由紀子（編）、ナカニシヤ出版、2016 補訂新版 社会心理学研究入門、安藤清志・沼崎誠・村田光二、東京大学出版会、2017				

科目名	社会心理学演習 I (五)			期間	前期
担当教員	金澤 忠博	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会的認知（心の理論）の進化・発達・障害				
到達目標	国内外の最新の文献を購読し、①関連する分野の研究テーマ、②実験・観察・調査の方法論やデータ解析の方法、について学ぶ。特に、視覚認知機能の解明に役立つ方法として、注視時間法やアイトラッカーを用いた視線計測の実際について、実習を通じて学ぶ。さらに、自分の興味に従い研究テーマや研究方法を選択し、ゼミでの討論を経て、研究計画につなげる。				
授業概要	社会的認知（心の理論）とは、他者の行動や心的状態を予測し、観察し、解釈する能力である (Striano & Reid, 2009)。社会的認知は、ヒトのみに備わる能力とされ、その前駆体として共同注意の獲得がある。自閉症の中核には社会的認知や共同注意の障害があるとされる。演習では、社会的認知の進化・発達・障害に加えて、「なぜ視覚は生じるのか?」「なぜ赤ちゃんは可愛いのか?」「なぜ大きな目は魅力的なのか?」「なぜ人は恋をするのか?」といったヒトの知覚・認知・行動の特徴を進化的適応の観点から究明する。				
評価方法・基準	作業への取り組み30%、発表40%、討論への参加30%（それぞれの程度を発言や提出物の内容により評価）				
履修上の注意事項等	テキストは用いず、その都度配付資料を用意する。新型コロナウイルスの感染状況により一部の授業をリモートで行うことがあります。ポータルサイトで随時確認すること。				
テキスト	なし				
参考書	社会的認知の発達科学、日本発達心理学会・尾崎康子・森口佑介、新曜社、2018 社会脳の発達、千住淳、東京大学出版会、2012 Navigating the Social World, Banaji, M.R. & Gelman, S.A., Oxford University Press, 2013				

科目名	社会心理学演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	太田 仁	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会心理学的な視点の養成				
到達目標	個人内の対人関係の関心事に対して社会心理学的な分析視点を持つ。基礎的な研究過程に沿った研究スキルを身につける				
授業概要	社会心理学的な研究を行う際に求められる基礎的な研究スキルを養う。演習は、グループワークを中心に行う。メンバー間の協働を前提とし、卒業研究につながる研究計画をグループ毎に立案し、発表する。				
評価方法・基準	キャリアデザインと研究との関連性の熟考吟味の程度(20%) + 卒論提出までのスケジュールの実行可能性(10%) + 卒論計画における関連研究の概観、研究の独自性 + 実行可能な方法の選択(50%) + 科学的に手法による質問紙の作成(20%)				
履修上の注意事項等	出席は単位修得の必須条件とする。社会心理学研究と実生活の関連を積極的に考える受講態度を求める。				
テキスト	授業中に資料を配布する				
参考書	授業で紹介する				

科目名	社会心理学演習Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	與久田 巖	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	研究テーマの確定と研究計画書の完成				
到達目標	自己の興味・関心に沿って先行研究をレビューし、それを踏まえて研究テーマを確定し、研究計画書を完成させる。				
授業概要	まず、キャリアと研究の位置づけ、および探求した研究テーマの確認を行う。次に、各自の興味・関心に沿って先行研究を検索・収集・レビューしていき、先行研究の問題・課題を抽出していくとともに、研究仮説を生成し、研究計画書を完成させる。				
評価方法・基準	課題40%：指示を適切に理解した内容が評価する。 発表20%：ディスカッションを踏まえて自己の見解を論理的に展開しているか評価する。 学期末レポート40%：研究計画書をまとめる。				
履修上の注意事項等	・発表担当の際、正当な理由なく欠席した場合は、大幅減点する。 ・全15回を通して、自己の研究テーマを探求し、意識化・明確化すること。 ・授業内容は、履修人数、履修者の興味・関心に応じて変更する場合がある。				
テキスト	資料を配付する				
参考書	授業で適宜、紹介する				

科目名	社会心理学演習Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	卜部 敬康	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会心理学の社会制度・政策への応用				
到達目標	社会心理学を社会制度・政策へ応用することの意義について理解し、その考え方を習得すること。その前提として、社会制度の改善について自由に論ずる態度を有することが必要となるが、その涵養のために、①タブーについても論じられる力をつけることと、②学問の自由の精神を身につけることも到達目標に含める。				
授業概要	諸君が心理学科において主に学んでいる社会心理学および臨床心理学の知見をどのように応用することができるかについて、テキストの輪読と研究発表を通して考える。特に、この演習においては「応用」をできる限り幅広く捉える。心理学の知見を用いた個人の行動や認知の変容を「心理学の応用」と考えることが一般的であるが、この演習では、心理学の研究結果を用いて私たちの生活の前提となっている社会制度や政策を考え直すことも「心理学の応用」に含めるものとする。3年次後期の本演習においては、テキストの輪読と並行して、受講生の関心に応じて毎回適当なテーマを設定し、あらかじめ定めた話題提供者による発表ないし問題提起を行う。毎回の発表とそれに対する議論を通して、各自が普段からもっている漠然とした関心を卒業研究論文のテーマに練り上げることを目指す。それと並行して、奈良・京都・大阪などの近隣のさまざまな場所に出かけ、町歩きをしながら現代日本社会の問題点を発見するとともに、各自の発見をふまえた議論をおこなう。なお、毎回の内容は以下の記述にかかわらず、諸君との相談で柔軟に変更する（ことは本来、言うまでもないが）。				
評価方法・基準	発表内容と議論への参加の積極性を平常評価とレポートによって評価する。				
履修上の注意事項等	授業時間外にフィールドワークをする時があるので、それに参加すること。				
テキスト	常識の社会心理：あたりまえは本当にあたりまえか、卜部敬康・林理（編）、北大路書房、2002 ほんとはこわい「やさしさ社会」、森真一、ちくまプリマー新書、2008				
参考書	「しきり」の心理学、林 理、学陽書房				

科目名	社会心理学演習Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会心理学研究の立案と実施				
到達目標	社会心理学研究を立案・実施・報告する				
授業概要	個人、あるいはグループ単位で、社会心理学研究について研究計画を立案する。				
評価方法・基準	作業等への取り組み(30%：提出内容と取り組み姿勢を評価)や、発表(40%：発表内容を評価)・ディスカッション(30%：参加と発言内容を評価)を通じて総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	テキストは用いない。必要に応じて資料を配付する。				
テキスト	なし				
参考書	補訂新版 社会心理学研究入門、安藤清志・村田光二・沼崎誠、東京大学出版会、2009				

科目名	社会心理学演習Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	金澤 忠博	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会的認知（心の理論）の進化・発達・障害				
到達目標	社会的認知に関連する研究の立案と実施				
授業概要	前期の社会心理学演習Ⅰで選択した各自のテーマに従い、従来の社会的認知に関連する分野の実証研究を参考に研究計画を立て、予備観察や予備実験を行い、研究計画を立案する。				
評価方法・基準	作業への取り組み30%、発表40%、討論への参加30%（それぞれの程度を発言や提出物の内容により評価）				
履修上の注意事項等	テキストは用いず、その都度配付資料を用意する。新型コロナウイルスの感染状況により一部の授業をリモートで行うことがある。ポータルサイトで随時確認すること。				
テキスト	なし				
参考書	社会的認知の発達科学 日本発達心理学会・尾崎康子・森口佑介、新曜社、2018 社会脳の発達 千住淳、東京大学出版会、2012 Navigating the Social World, Banaji, M.R. & Gelman, S.A., Oxford University Press, 2013				

科目名	社会心理学演習Ⅲ（一）			期間	前期
担当教員	太田 仁	単位数	2	配当年次	4
テーマ	社会心理学研究の立案と計画				
到達目標	卒業研究に向け、社会心理学研究を立案・計画する				
授業概要	卒業研究に向け、社会心理学研究を立案・計画する。今学期は研究方法まで含めた詳細な研究計画書を作成し、後期開始と同時に研究実施に移れるよう準備する。				
評価方法・基準	発表（70%：発表内容を評価）およびディスカッション（30%：参加と発言内容を評価）を通じて総合的に評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	三訂版 心理学論文の書き方 --- 卒業論文や修士論文を書くために、松井豊、河出書房新社、2022				
参考書	補訂新版 社会心理学研究入門、安藤清志・村田光二・沼崎誠（編著）、東京大学出版会、2017				

科目名	社会心理学演習Ⅲ（二）			期間	前期
担当教員	與久田 巖	単位数	2	配当年次	4
テーマ	社会心理学研究の実施				
到達目標	研究計画に基づいて、先行研究のレビュー、仮説の設定、質問票の作成、調査を実施する。				
授業概要	3年後期に作成した研究計画を確認、発表する。関連先行研究をレビューして仮説を設定する。その後、調査票を作成し、調査を実施する。演習では発表とディスカッションを行い、その都度、研究の方向性について確認していく。				
評価方法・基準	課題40%：指示を適切に理解した内容が評価する。 ディスカッション40%：自己の見解を論理的に展開しているか評価する。 発表20%：発表内容によって評価する。				
履修上の注意事項等	・発表担当の際、正当な理由なく欠席した場合は、大幅減点する。 ・授業内容は進捗に応じて変更する可能性がある。				
テキスト	心理学レポート・論文の書き方：演習課題から卒論まで、坂口典弘、山本健太郎、講談社、2017				
参考書	授業で適宜、紹介する				

科目名	社会心理学演習Ⅲ（三）			期間	前期
担当教員	卜部 敬康	単位数	2	配当年次	4
テーマ	社会心理学の社会制度・政策への応用				
到達目標	社会心理学を社会制度・政策へ応用することに関する各自の研究テーマを設定し、研究に着手すること				
授業概要	諸君が心理学科において主に学んでいる社会心理学および臨床心理学の知見をどのように応用することができるかについて、テキストの輪読と研究発表を通して考える。特に、この演習においては「応用」をできる限り幅広く捉える。心理学の知見を用いた個人の行動や認知の変容を「心理学の応用」と考えることが一般的であるが、この演習では、心理学の研究成果を用いて私たちの生活の前提となっている社会制度や政策を考え直すことも「心理学の応用」に含めるものとする。4年次における本演習では、3年次の演習における議論などを通して各自が設定した卒業研究テーマにしたがって研究をすすめる。適宜中間報告の機会を与え、各自の研究内容の精緻化と研究方法の共有に役立てたい。なお、毎回の内容は以下の記述にかかわらず、諸君との相談で柔軟に変更すること（は本来、言うまでもないが）。				
評価方法・基準	発表内容と議論への参加の積極性を平常評価とレポートによって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	ほんとはこわい「やさしさ社会」、森真一、ちくまプリマー新書、2008 常識の社会心理、卜部・林（編著）、北大路書房				
参考書	「しきり」の心理学、林 理、学陽書房				



科目名	社会心理学演習Ⅲ（四）			期間	前期
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	4
テーマ	社会心理学研究の立案と計画				
到達目標	卒業研究に向け、社会心理学研究を立案・計画する				
授業概要	卒業研究に向け、社会心理学研究を立案・計画する。今学期は研究方法まで含めた詳細な研究計画書を作成し、後期開始と同時に研究実施に移れるよう準備する。				
評価方法・基準	発表（70%：発表内容を評価）およびディスカッション（30%：参加と発言内容を評価）を通じて総合的に評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	三訂版 心理学論文の書き方 --- 卒業論文や修士論文を書くために、松井豊、河出書房新社、2022				
参考書	補訂新版 社会心理学研究入門、安藤清志・村田光二・沼崎誠（編著）、東京大学出版会、2017				

科目名	社会心理学演習Ⅲ（五）			期間	前期
担当教員	金澤 忠博	単位数	2	配当年次	4
テーマ	社会的認知（心の理論）の進化・発達・障害				
到達目標	国内外の最新の文献を購読し、①関連する分野の研究テーマ、②実験・観察・調査の方法論やデータ解析の方法、について学ぶ。特に、視覚認知機能の解明に役立つ方法として、注視時間法やアイトラッカーを用いた視線計測の実際について、実習を通じて学ぶ。さらに、自分の興味に従い研究テーマや研究方法を選択し、ゼミでの討論を経て、研究計画を作成し、予備研究を行う				
授業概要	社会的認知（心の理論）とは、他者の行動や心的状態を予測し、観察し、解釈する能力である（Striano & Reid, 2009）。社会的認知は、ヒトのみに備わる能力とされ、その前駆体として共同注意の獲得がある。自閉症の中核には社会的認知や共同注意の障害があるとされる。演習では、社会的認知の進化・発達・障害に加えて、「なぜ錯視は生じるのか?」「なぜ赤ちゃんは可愛いのか?」「なぜ大きな目は魅力的なのか?」「なぜ人は恋をするのか?」といったヒトの知覚・認知・行動の特徴を進化的適応の観点から究明する。				
評価方法・基準	作業への取り組み30%、発表40%、討論への参加30%（それぞれの程度を発言や提出物の内容により評価）				
履修上の注意事項等	テキストは用いず、その都度配付資料を用意する。新型コロナウイルスの感染状況により一部の授業をリモートで行うことがあります。ポータルサイトで随時確認すること。				
テキスト	なし				
参考書	『社会的認知の発達科学』、日本発達心理学会・尾崎康子・森口佑介、新曜社、2018 『社会脳の発達』、千住淳、東京大学出版会、2012 Navigating the Social World. Banaji, M.R. & Gelman, S.A., Oxford University Press, 2013				

科目名	社会心理学演習Ⅳ（一）			期間	後期
担当教員	太田 仁	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業研究の実施と報告				
到達目標	社会心理学研究を実施・報告する				
授業概要	卒業研究を実施し、論文作成、報告のプロセスを学ぶ。				
評価方法・基準	発表（70%：発表内容を評価）およびディスカッション（30%：参加および発言内容を評価）を通じて総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	テキストは、前学期に指定した、松井（2010）を引き続き使用する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	社会心理学演習Ⅳ（二）			期間	後期
担当教員	與久田 巖	単位数	2	配当年次	4
テーマ	社会心理学研究の論文作成				
到達目標	前期に取得したデータを解析し、図表の作成を経て研究論文の執筆を行い、研究論文を完成させる。				
授業概要	前期に取得した調査データを用いて仮説検証のための解析を行う。その後、図表にまとめる作業を行い、研究論文の執筆を行う。演習では各自、進捗状況を報告、その都度、ディスカッションを行いながら、研究論文を完成させる。				
評価方法・基準	課題40%：指示を適切に理解した内容が評価する。 ディスカッション40%：自己の見解を論理的に展開しているか、評価する。 発表20%：発表内容によって評価する。				
履修上の注意事項等	・発表担当の際、正当な理由なく欠席した場合は、大幅減点する。 ・授業内容は進捗に応じて変更する可能性がある。				
テキスト	心理学レポート・論文の書き方：演習課題から卒論まで、坂口典弘、山本健太郎、講談社、2017				
参考書	授業で適宜、紹介する				

科目名	社会心理学演習Ⅳ（三）			期間	後期
担当教員	卜部 敬康	単位数	2	配当年次	4
テーマ	社会心理学の社会制度・政策への応用				
到達目標	社会心理学の応用に関する卒業論文を完成させる				
授業概要	諸君が心理学科において主に学んでいる社会心理学および臨床心理学の知見を応用することについて、幅広く考える。特に、この演習においては「応用」をできる限り幅広く捉える。すなわち、心理学の研究成果から私たちの生活の前提となっている制度や政策を考え直すことまでを「心理学の応用」と考えることとする。4年次における本演習では、3年次の演習における議論などを通して各自が設定した卒業研究テーマにしたがって研究をすすめる。適宜中間報告の機会を与え、各自の研究内容の精緻化と研究方法の共有に役立てたい。また、卒業研究の成果は合宿形式で行う卒業研究発表会で発表してもらおう。なお、毎回の内容は以下の記述にかかわらず、諸君との相談で柔軟に変更する（ことは本来、言うまでもないが）。				
評価方法・基準	発表内容と議論への参加の積極性を平常評価とレポートによって評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	ほんとはこわい「やさしさ社会」、森真一、ちくまプリマー新書、2008 常識の社会心理、卜部・林（編著）、北大路書房、2002				
参考書	「しきり」の心理学、林 理、学陽書房				

科目名	社会心理学演習Ⅳ（四）			期間	後期
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業研究の実施と報告				
到達目標	社会心理学研究を実施・報告する				
授業概要	卒業研究を実施し、論文作成、報告のプロセスを学ぶ。				
評価方法・基準	発表（70%：発表内容を評価）およびディスカッション（30%：参加および発言内容を評価）を通じて総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	テキストは、前学期に指定した、松井（2010）を引き続き使用する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	社会心理学演習Ⅳ（五）			期間	後期
担当教員	金澤 忠博	単位数	2	配当年次	4
テーマ	社会的認知（心の理論）の進化・発達・障害				
到達目標	社会的認知に関連する研究の立案と実施、卒業論文の作成				
授業概要	前期の社会心理学演習Ⅰで選択した各自のテーマに従い、従来の社会的認知に関連する分野の実証研究を参考に研究計画を立て、本観察や本実験を行い、得られたデータを分析し結論にまとめる				
評価方法・基準	作業への取り組み30%、発表40%、討論への参加30%（それぞれの程度を発言や提出物の内容により評価）				
履修上の注意事項等	テキストは用いず、その都度配付資料を用意する。新型コロナウイルスの感染状況により一部の授業をリモートで行うことがある。ポータルサイトで随時確認すること。				
テキスト	なし				
参考書	『社会的認知の発達科学』、日本発達心理学会・尾崎康子・森口佑介、新曜社、2018 『社会脳の発達』、千住淳、東京大学出版会、2012 Navigating the Social World, Banaji, M.R. & Gelman, S.A., Oxford University Press, 2013				

科目名	心理学研究法			期間	前期
担当教員	與久田 巖	単位数	2	配当年次	2
テーマ	心理学の研究方法を学ぶ。				
到達目標	心理学の研究に必要な研究の知識と研究方法および研究倫理の基礎を身につける。				
授業概要	まず、心理学的研究とは何か、科学的アプローチとは何かについて概説する。その後、研究方法として、観察法、面接法、検査法、実験法、検査法についてとりあげる。また研究を行う際の仮説生成と仮説検定、相関関係と因果関係、定性的研究と定量的研究について学ぶ。そして論文の盗用、ねつ造、改ざん、法令等遵守などの研究不正の禁止について学ぶ。				
評価方法・基準	毎授業毎の課題58%：講義内容の正確な理解を問う。学期末レポート42%：講義内容を正確に理解し、研究目的に応じて適切な研究方法を選択出来るか論述で問う。				
履修上の注意事項等	配付 PDF 資料は各自で毎回 Download して保存すること。				
テキスト	資料を配布する				
参考書	公認心理師スタンダードテキストシリーズ④心理学研究法、三浦麻子・小島康生・平井啓（編著）、ミネルヴァ書房、2020				

科目名	心理学統計法 I			期間	後期
担当教員	與久田 巖	単位数	2	配当年次	1
テーマ	心理学統計法の基礎を学ぶ。				
到達目標	心理学の研究に必要な統計学の知識と心理学の研究でよく用いられる推測統計法の基礎を身につける。				
授業概要	まず、心理学の研究と統計との関連性およびデータの測定と尺度水準について概説する。次に、記述統計として、データを図表としてまとめる方法、データを集約する方法、標準化する方法を学ぶ。その後、推測統計として、母集団と標本との関係、統計的仮説検定の考え方、そしてカイ二乗検定、相関分析、t検定の方法を学び、最後に検定結果の記載方法について学ぶ。				
評価方法・基準	毎授業時の課題58%：講義内容の正確な理解を問う。学期末レポート42%：講義内容を正確に理解し、適切な統計手法を選択し、解答が正しいかを問う。				
履修上の注意事項等	配布 PDF 資料は各自で毎回 Download して保存すること。				
テキスト	資料を配布する				
参考書	数学が苦手でもわかる心理統計法入門：基礎から多変量解析まで、芝田征司、サイエンス社、2017				

科目名	心理学実験			期間	後期
担当教員	今井 由樹子 金澤 忠博 ★内田 善久 ★東山 篤規	単位数	2	配当年次	1
テーマ	心理学の実験法に関する基礎的スキルの習得				
到達目標	心理学における基礎的な実験ができるようになること。具体的には、①実験の計画を立てられること、②実験データの収集と適切な分析を行うことができること、③実験結果を適切に解釈してレポートが作成できること、の3点である。				
授業概要	この科目は実習科目であり、4種類の実験を実習する。古典的学習実験、認知心理学実験、知覚心理学実験、集団社会心理にかかわる実験実習を行う。受講者を4グループに分け4人の教員が順次担当するので、順番はグループにより異なる。なお、実習中にパソコンを用いてデータ分析を行いレポートを作成する。ExcelとWordを使えることを前提とするため、この科目の履修に先立って、基本1操作を自修しておくこと。				
評価方法・基準	提出された4つのレポートを総合して評価する。実験・実習に1つでも参加していない場合は単位を修得できないので注意すること。				
履修上の注意事項等	・学部システム（パソコン端末）にアクセスするユーザー名およびパスワードを確認、管理しておくこと。 ・各種の実験に関して適宜資料の配布をする。 ・ノートパソコンを必携すること。 ・ExcelとWordの基本操作を習熟しておくこと。				
テキスト	なし				
参考書	実験心理学・研究レポートの書き方、B. フィンドレイ、北大路書房、1996 日本心理学会 執筆・投稿の手引き（2022年版）、日本心理学会、2022				

科目名	臨床心理学基礎実習（一）			期間	前期
担当教員	今井 由樹子 林 郷子 磯部 美也子	単位数	1	配当年次	2
テーマ	心理学事象への基本的アプローチである観察法・検査法・面接法の基礎を学ぶ。				
到達目標	観察法・検査法・面接法について、基礎的知識と技法を身につける。				
授業概要	観察法、検査法、面接法について、理論・実施方法・情報の収集・分析方法について、受講生はグループに分かれて実習方式で学ぶ。担当教員全員が心理専門職として各種相談機関でアセスメントや相談面接に当たってきた知見をもとに、学生がそれぞれ臨床心理学の基礎的技法について学べるようにする。				
評価方法・基準	平常点とレポートにより総合的に評価する。授業に対する積極性（講義中の質問、グループワークでのリーダーシップ、課題に真摯に取り組む姿勢など）を重視する。実習レポートにおいては、実習内容に基づき自分の考察、疑問に思ったことが論理的に書かれていること。				
履修上の注意事項等	実習科目であるので、原則、遅刻や欠席を認めない。				
テキスト	適宜、プリント資料を配布する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	臨床心理学基礎実習（二）			期間	後期
担当教員	鈴木 孝 今井 由樹子 武本 一美	単位数	1	配当年次	2
テーマ	心理学事象への基本的アプローチである観察法・検査法・面接法の基礎を学ぶ。				
到達目標	観察法・検査法・面接法について、基礎的知識と技法を身につける。				
授業概要	観察法、検査法、面接法について、理論・実施方法・情報の収集・分析方法について、受講生はグループに分かれて実習方式で学ぶ。担当教員全員が心理専門職として各種相談機関でアセスメントや相談面接に当たってきた知見をもとに、学生がそれぞれ臨床心理学の基礎的技法について学べるようにする。				
評価方法・基準	平常点とレポートにより総合的に評価する。授業に対する積極性（講義中の質問、グループワークでのリーダーシップ、課題に真摯に取り組む姿勢など）を重視する。実習レポートにおいては、実習内容に基づき自分の考察、疑問に思ったことが論理的に書かれていること。				
履修上の注意事項等	実習科目であるので、原則、遅刻や欠席を認めない。				
テキスト	適宜、プリント資料を配布する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	社会心理学基礎実習（一）			期間	前期
担当教員	村上 史朗 太田 仁 與久田 巖	単位数	1	配当年次	2
テーマ	社会心理学における実証的研究に関する実習				
到達目標	社会心理学における仮説生成と質問紙調査法に関する基礎的技術を習得する				
授業概要	社会心理学で用いられる研究法を学び、実際に自らデータを収集・分析することを通して、実証的研究の方法を習得する。				
評価方法・基準	実習における授業内課題（30%：ディスカッションへの参加と仮説及び質問項目の構成）、発表（10%：班ごとの最終成果発表）、最終レポート（60%：個人ごとの最終レポート）を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	Word、Excel、Powerpointの基礎的操作に自信がない場合、情報処理センターの講習会等に参加したり、個別に学習したりするなどして習熟すること。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	社会心理学基礎実習（二）			期間	後期
担当教員	村上 史朗 太田 仁 與久田 巖	単位数	1	配当年次	2
テーマ	社会心理学における実証的研究に関する実習				
到達目標	社会心理学における仮説生成と質問紙調査法に関する基礎的技術を習得する				
授業概要	社会心理学で用いられる研究法を学び、実際に自らデータを収集・分析することを通して、実証的研究の方法を習得する。				
評価方法・基準	実習における授業内課題（30%：ディスカッションへの参加と仮説及び質問項目の構成）、発表（10%：班ごとの最終成果発表）、最終レポート（60%：個人ごとの最終レポート）を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	Word、Excel、Powerpointの基礎的操作に自信がない場合、情報処理センターの講習会等に参加したり、個別に学習したりするなどして習熟すること。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	知覚・認知心理学 I			期間	後期
担当教員	★東山 篤規	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	人間の感覚・知覚・認知についての概説。				
到達目標	知覚心理学における基礎的な知識を習得します。				
授業概要	本講義では、人間の感覚・知覚・認知について、視知覚を中心に概説します。心の入り口である感覚・知覚がどのように機能しているのか、精神物理学、神経生理学などの知見も踏まえて説明します。				
評価方法・基準	出席回数と平常点（第1～14回でときどき行う確認テスト）によって評価します。				
履修上の注意事項等	特にありません				
テキスト					
参考書	色彩の心理学、金子隆芳、岩波新書、1990 脳と視覚、グレゴリー、ブレーン出版、2001 知覚的解決、デイ、誠信書房、1972				

科目名	学習・言語心理学			期間	前期
担当教員	★内田 善久	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	(1) レスポンド条件づけとオペラント条件づけ (2) 言語の習得				
到達目標	ヒトを含む動物の行動を条件づけの観点から説明できるようになること。				
授業概要	我々ヒトという種も含め、動物の行動は経験によって変容していく。「学習心理学」は、このような現象—経験による行動変容—が示す法則性を科学的に明らかにしようとする学問である。「言語心理学」については、言語の習得に関する基礎的知見を紹介する。				
評価方法・基準	毎週 e-Learning のコース内で公開される課題を解いてオンライン提出。100%（専門用語を正しく使っているかを重視する）。				
履修上の注意事項等	対面授業を行う。ただし、履修には e-Learning にコース登録した上で、毎週ログインすることが必要である。これは、e-Learning 上で提示する課題の提出状況によって成績評価を行うからである。				
テキスト	行動と学習の心理学、伊藤正人、昭和堂、2005				
参考書	発達の心理：ことばの獲得と学び、内田伸子、サイエンス社、2017				

科目名	神経・生理心理学			期間	後期
担当教員	★八十島 安伸	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	人間の行動・心理に関わる知覚・記憶・情動等とその障害等の脳・生理基盤について神経科学・生理心理学から理解する。				
到達目標	・記憶・感情・意識等の調節に関連する脳神経系の構造・機能・物質的基盤の概要を説明できる。				
授業概要	人間の心と行動の理解には、心理学的な知見のみならず、その背景にある生物学的な機序、ならびに生物機能と心理的機能との関連を理解することが役立つ。本講義では、ヒトの心理と行動の生物学的基盤について、特に、神経科学や生理心理学から得られた知見に基づいて解説し、基本的な知識と考え方の理解を目指す。受講生は、それらの知識や学びから、物質的存在である脳と心の関係や心と身体との関係性の概要を理解することに取り組む。毎回の講義では、小課題への回答提出を求めることで講義内容への学びを深める。				
評価方法・基準	・毎回の授業に対応する小課題（30%）（毎回の授業内容の理解を問う）				
履修上の注意事項等	・本講義では ポータルサイト/e-learning または Google Classroom を通じて講義資料を PDF ファイルとして配布します。				
テキスト					
参考書	神経・生理心理学, 高瀬 堅吉, NHK 出版, 2022 生理心理学 第2版, 岡田隆・廣中直行・宮森孝史, サイエンス社, 2015				

科目名	発達心理学			期間	前期
担当教員	磯部 美也子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	発達心理学の基礎知識の習得、および主な発達理論、発達課題の理解				
到達目標	・記憶障害・失語・失認などの高次脳機能障害等の病態や原因の概要を説明できる。				
授業概要	発達初期・胎児期から幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期（中年期、高齢期）までの発達の様相・特徴について、種々の実験や研究知見から基本的な知識を学習する。発達心理学の研究手法、発達理論（発達観、発達段階、発達の原理など）について理解する。児童相談所心理判定員や療育事業の発達相談員、児童養護施設のセラピストとして発達相談や心理支援をしてきた経験や知見を活かしながら講義を行う。				
評価方法・基準	・読書レポート（20%）（神経・生理心理学に関わる書籍を一冊精読し、その内容を要約することができるか、その内容を批判的に考察できるかを問う）				
履修上の注意事項等	・そのため、毎回の講義では PDF ファイルを閲覧できる PC (Windows もしくは Mac) もしくはタブレット (iPad 等) の持参を推奨します。				
テキスト					
参考書	よくわかる発達心理学, 無藤隆・岡本祐子編, ミネルヴァ書房, 2009 図で理解する発達, 川島・渡辺編著, 福村出版, 2010				

科目名	教育・学校心理学			期間	後期
担当教員	林 郷子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	教育における諸問題および臨床心理学的支援				
到達目標	学校における子どもの「問題行動」について、臨床心理学的観点から理解を深めるとともに、心理学的支援の実際について学ぶ。				
授業概要	学校教育の場において、不登校やいじめなど、様々な問題が生じている。本講義では、いわゆる「不応答」「問題行動」とされる子どもの状態について、臨床心理学的な観点からその意味や可能性を検討する。また、教育現場における課題を検討するとともに、スクールカウンセリングなどに代表される支援の実践活動について紹介する。なお、この科目は、担当教員が心理臨床の現場にて従事した経験に基づき授業を実施する。				
評価方法・基準	・到達度確認のための授業内テスト（50%）（神経・生理心理学の専門用語を理解し、心的活動と脳・神経系の関係性を理解しているのかを問う）				
履修上の注意事項等	毎時間、課題の提出を求める。				
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	社会・集団・家族心理学			期間	後期
担当教員	太田 仁	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	公認心理師の職責を全うするために必要な家族および身近で日常的な対人関係や集団の心理学を学ぶ				
到達目標	・対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を理解する ・人の態度及び行動を理解する・家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響を理解する				
授業概要	日常的な人間関係を中心に、自己と社会、自己と他者との関わりを心理学的な視点からとらえる。講義の目標は、社会心理学の基礎知識を身につけ、講義で得た知識を日常生活に役立てることである。				
評価方法・基準	各授業テーマについての理解度を確認する質疑応答（70%＝準備の程度、意見表明の誠実さ、妥当性を評価する）＋最終レポート（30%＝テーマ選択の根拠の合理性、キーワードの適正な使用、科学的な記述を評価する）				
履修上の注意事項等	出席は単位修得の必須条件とする。公認心理師資格試験受験予定者であること。				
テキスト	支え合いからつながる心, 太田 仁 他, ナカニシヤ出版, 2020				
参考書	公認心理師必携テキスト, 福島哲夫, 学研, 2018				

科目名	応用社会心理学			期間	後期
担当教員	與久田 巖	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	社会心理学の研究知見・理論の日常への応用				
到達目標	日常の諸問題の理解と解決に活用されてきた社会心理学の研究知見・理論について知識を深め、諸問題について自分なりの見解をもつことができるようになる。				
授業概要	社会心理学の研究から得られた知見・理論について、日常生活におけるテーマ・諸問題についてとりあげる。具体的には、装い、化粧、消費、食、病気、健康、交通・運輸、カルト集団、裁判、政治、環境といったテーマ・諸問題についてとりあげて、社会心理学の応用的側面について理解を深める。				
評価方法・基準	課題58%：講義内容の正確な理解を問う。 学期末レポート42%：講義で取り上げたテーマ・諸課題について、授業内容について触れつつ、各自の見解を論述で問う。				
履修上の注意事項等	配布 PDF 資料は各自で毎回 Download して保存すること。				
テキスト	資料を配布する				
参考書	授業で適宜、紹介する				

科目名	感情・人格心理学			期間	後期
担当教員	★川村 三紀	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	個人を特徴づける「感情」「人格」は、ともに心理学の重要分野である。その多様な理論・概念の理解を深めることをテーマとする。				
到達目標	感情の概念・理論、生起する過程、成り立ち、影響などについて理解する。人格の概念・理論、類型、特性などを理解するとともに、その病理についても理解する。				
授業概要	テキストは指定しない。毎回の配付資料を用いて授業を行う。参考文献等は、適宜授業内で紹介していくので、活用することが望まれる。毎回の授業後には、理解を深めるため及び問題意識を深めるための質問等のミニレポートの提出を推奨する。				
評価方法・基準	中間レポートの提出・定期テスト60点以上の二つを単位取得の条件とする。 ミニレポートの提出 — 20% 「中間レポート」 — 40% 「定期テスト」 — 40% にて評価				
履修上の注意事項等	第一回の授業内にて、授業の「お約束」を提示する。単位取得に関する情報を含むため、単位取得の意志のある学生は必ず参加していただきたい。				
テキスト					
参考書					

科目名	青年心理学			期間	前期
担当教員	今井 由樹子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	青年期の心理、社会、生物学的発達を理解する				
到達目標	青年期の心理を多面的に理解するとともに、自分の青年期について見つめなおし、自己理解を深める。				
授業概要	臨床心理士・公認心理師としてのスクールカウンセラー勤務の経験に基づき授業を展開する。人間の発達のなかの青年期について心理学的視点からの理論を学ぶ。社会との接点での様々な現象や課題について考察し、自分を見つめなおすことで自己理解を深め、他者理解を促していく。				
評価方法・基準	レポート課題により講義内容の理解と問題意識を問う。計4回実施で100%				
履修上の注意事項等	必ず予習・復習を行い、自己と他者について見つめなおししておくこと。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	レクチャー青年心理学, 高坂 康雅, 風間書房, 2017				
参考書	思春期・青年期の心理臨床, 大山泰宏, 放送大学教育振興会, 2019				

科目名	進化心理学			期間	後期
担当教員	★新井 さくら	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	進化の産物としてのヒトの心を理解する。				
到達目標	進化とは何か理解する。ヒトの心が進化の産物であることを理解する。ヒトの心が進化の結果としてどのような特徴を持っているかを理解する。				
授業概要	ヒトの心は他の器官と同じく、自然淘汰の結果生まれた進化の産物である。進化心理学はこの理解に基づき、進化史を通じてヒトが直面してきた課題を分析し、課題により淘汰されてきた心のデザイン上の特徴を明らかにするアプローチである。これは、認知、社会、文化といった心理学分野の垣根を超えて包括的に心を理解する手立てでもある。本講義では、進化とは何か、自然淘汰の働きを理解することからはじめ、協力や配偶者選択など様々な適応課題に応じて進化してきたヒトの心のデザインとそれを研究する手法を学ぶ。				
評価方法・基準	各回の小テスト(40%)と第15回の学習到達度確認(60%)を基に評価する。小テストは各回の、学習到達度確認は全部の回の授業について、概念や理論、仮説検証法など包括的理解を問う。				
履修上の注意事項等	e-learning を使用できるデバイスを用意すること。 小テストは対応する回の授業を受けた後で受験すること。小テストは e-learning において、その授業の実施日のみ受験可能とする。				
テキスト	進化と人間行動 第2版, 長谷川寿一・長谷川真理子・大槻久, 東京大学出版会, 2022				
参考書					

科目名	応用心理学			期間	後期
担当教員	卜部 敬康	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	心理学の社会制度・政策への応用：現代日本の「生きづらさ」の改善に向けた心理学の応用				
到達目標	心理学の知識を社会制度ないし政策に応用する視点を身につける				
授業概要	無力感・多忙感を自覚しながら生きる人が多いことや毎年2万人前後が自殺していること、などといった、現代日本の「生きづらさ」を社会心理学の視点（少し社会学を含む）から考察する。例えば、情報化によって高度にシステム化された社会が人間の精神活動にもたらす負の影響（身近なところでは、以下のような「授業計画のコマ切れ表記の義務づけ」が全体的な授業趣旨を伝わりにくくすることなども、これに含まれる）などを挙げることができる。上記の講義概要に即した話をするが、以下のような「コマ切れの授業計画表記」は誤解を与えるため、初回の授業で詳しく全体の授業趣旨を説明する。また、「予習や復習」は各人の内発的な問題意識に導かれるべきものであるから、以下の記載に関わらず、自らが課題を見つけて取り組んでいただきたい。				
評価方法・基準	細かい知識の暗記は要求せず、大局的な考え方についての理解度を重視する。したがって、期末レポートのみで評価する。				
履修上の注意事項等	シラバスの内容は、あくまでも目安に過ぎない。初回の講義で全体の趣旨を話すので、よく理解したうえで講義に臨んでもらいたい。				
テキスト	常識の社会心理：あたりまえは本当にあたりまえか、卜部敬康・林理（編）、北大路書房、2002				
参考書	「しきり」の心理学、林 理、学陽書房				

科目名	集団力学			期間	前期
担当教員	卜部 敬康	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	集団行動の理論と応用				
到達目標	集団と人間の関わりについて基礎的な視点が身につくこと				
授業概要	一般に「3人寄れば文殊の知恵」と言われるように、集団は単なる個人の寄せ集めではない。複数の人間が集まって集団を形成することによって、個々人の能力の総和を超えた成果が生まれることもある。一方、集団で物事を進めたばかりに個々人のもつ能力が発揮されず、「3人寄ればサル知恵」（もちろん、格言として正しくは「船頭多くして船、山に登る」）となることもある。どのような理由で両者の違いが生ずるのだろうか。講義では、こうした疑問に答えるべく集団力学の重要な知見を紹介する。以下のような順序で集団力学の基礎を概説しながら、いじめ・差別問題・企業犯罪などの発生メカニズムとその解決のための視点を提供したい。なお、以下に示す「予習・復習」は、本来、各人の内発的な問題意識に導かれるべきものであるから、この記述に囚われる必要はない。				
評価方法・基準	細かい知識の暗記は要求しない。大局的な考え方についての理解度を重視する。したがって、期末レポートによって評価する。				
履修上の注意事項等	シラバスの内容はあくまでも目安に過ぎない。講義の全体構想は初回の講義でよく理解すること。				
テキスト					
参考書	常識の社会心理：あたりまえは本当にあたりまえか、卜部敬康・林理（編）、北大路書房、2002				

科目名	対人社会心理学			期間	前期
担当教員	太田 仁	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	身近で日常的な対人関係および集団の心理学を学ぶ				
到達目標	・対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を理解する ・人の態度及び行動を理解する・家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響を理解する				
授業概要	社会心理学における対人認知や自己認知、個人と集団等の基礎知識に焦点化し検討していく。講義形式ではあるが、単なる知識の伝達ではなく、出来るだけ各自が個々の考えを表現する機会を持てるようにする。				
評価方法・基準	各授業テーマについての理解度を確認する質疑応答（70%＝準備の程度、意見表明の誠実さ、妥当性などを評価する）＋最終レポート（30%＝テーマ選択の根拠の合理性、キーワードの適正な使用、科学的な記述を評価する）				
履修上の注意事項等	出席は単位修得の必須条件とする。日常の対人行動について関心を持ち、講義を通じて研究や就職につなげたいと考える受講態度を求める				
テキスト	支え合いからつながる心、太田仁他、ナカニシヤ出版、2020				
参考書					

科目名	産業・組織心理学			期間	前期
担当教員	與久田 巖	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	産業・組織における行動と心理、人事・評価および消費行動について学ぶ。				
到達目標	産業・組織心理学の理論、知見、課題について理解し、それぞれについて自分なりの解をもつこと。				
授業概要	まず、組織・集団における心理や行動、ワーク・モチベーション、キャリア形成・発達、グループダイナミクスなど、組織における行動と心理を学ぶ。次に作業能率、疲労・過労、ストレスとストレス・マネジメントについて学ぶ。さらにそれら産業・組織における人事・評価などについて学び、産業・組織心理学の理論と知見に関する理解を深める。				
評価方法・基準	毎授業毎の課題58%：講義内容の正確な理解を問う。学期末レポート42%：講義で取り上げたテーマ・諸課題について、授業内容について触れつつ、各自の見解を論述で問う。				
履修上の注意事項等	配布 PDF 資料は各自で毎回 Download して保存すること。				
テキスト	資料を配布する				
参考書	授業で適宜、紹介する				

科目名	文化心理学			期間	前期
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	文化による心理的傾向の違い				
到達目標	文化心理学の考え方と基礎的知見の理解				
授業概要	こころの働きは、世界中どこでも同じというわけではない。生活する国・地域や所属する集団などによって、当たりまえとされることが違い、こころの働きもまた異なる。私たちのこころの働きが文化によってどのような影響を受けているのかを考えていく。				
評価方法・基準	毎回の授業時の小課題（30%：各回の主要概念の理解度を評価）と到達度の確認（70%：文化心理学の基礎的知識と理論の理解）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する				

科目名	障害者・障害児心理学			期間	後期
担当教員	磯部 美也子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	障害の種類、その概要と支援について知る。				
到達目標	障害に関する正しい知識を得るとともに、支援について考えられるようになる。				
授業概要	まず障害に対する考え方を提示する。各障害について学び、心理とその支援について考えていく。障害児療育、発達相談、特別支援教育などの臨床経験や心理支援の経験を通して得た知見をもとに、現場の課題も提示しながら障害への理解をする。また、障害受容や家族への支援も取り上げる。				
評価方法・基準	授業への参加状況、ミニレポート提出による平常評価（約30%）、学習到達度確認（講義内容の基本事項を理解しているかを問うテスト）（約70%）とします。6回以上の欠席は、出席不足で評価外です。				
履修上の注意事項等	TV番組で障害に関するニュース、ドキュメント番組などを積極的に視聴してほしい。この科目は、実務経験のある教員による授業科目である。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施する。				
テキスト	障害者心理学、柿沢敏文編、北大路書房、2018				
参考書	障害臨床学ハンドブック、中村義行、大石史博、ナカニシヤ出版、2013				

科目名	福祉心理学			期間	後期
担当教員	磯部 美也子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	福祉現場の課題・制度等と心理支援について				
到達目標	福祉現場における問題と課題を知り、その解決のための社会資源の活用及び心理支援の方法について理解する。				
授業概要	福祉現場で扱われる問題、課題や制度について概説する。児童相談所、児童養護施設、障害児通園施設等の福祉現場で相談・心理支援に携わってきた経験をもとに、事例を交えながら講義する。福祉現場における心理支援についてその実態を知り、心理職の役割について学んでいく。				
評価方法・基準	最終回の学習到達度確認テスト（講義内容の基本事項を理解しているかを問うテスト）（約70%）、および平常授業におけるミニ課題の提出や受講態度など（約30%）で行う。6回以上課題の提出がない場合、出席不足で評価外とする。				
履修上の注意事項等	日頃から、社会福祉に関するニュースや新聞記事を読むように。この科目は、実務経験のある教員による授業科目である。担当教員が、福祉等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施する。				
テキスト	福祉心理学、中島健一（編）、遠見書房、2018				
参考書	福祉心理学、太田信夫（監）小畑フ文也（編）、北大路書房、2017				

科目名	心理学的支援法Ⅰ			期間	後期
担当教員	林 郷子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	心理学的支援法概論				
到達目標	心理療法やカウンセリングについての主要な理論・方法論を中心として、心理学支援全般について学ぶ。				
授業概要	心理学的支援とは、心理学の知見を主に使って、こころの問題からくる心身に生じる症状や苦しみを改善しようとする方法の総称で、臨床心理学の実践において中心的な位置を占めるものである。心理学的支援にも様々な方法があるが、本講義では、心理療法・カウンセリングの代表的な理論の紹介を行うとともに、基本的な支援のあり方について検討する。なお、この科目は、担当教員が心理臨床の現場にて従事した経験に基づき授業を実施する。				
評価方法・基準	授業ごとに行う課題（講義内容の理解度）、学期末レポート（心理学的支援の基本的な考え方を事例に適切に応用できているか）により、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	毎時間、課題の提出を求める。				
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	適宜紹介する。				



科目名	心理学的支援法Ⅱ			期間	後期
担当教員	武本 一美	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	精神疾患の中で、心因の関与が大きいと考えられる諸疾患について、その疾患概念、心理的な患者理解、治療、患者支援について学ぶ。				
到達目標	心因の関与が大きいと考えられる精神疾患について、その全体像、疾患概念、心理的な患者理解、治療、患者支援について理解すること。				
授業概要	心因の関与が大きいと考えられる精神疾患を、DSM-5に沿って学習する。精神医学的な知見に加え、心理学的な見方も適宜講義する。				
評価方法・基準	受講態度（積極的な講義への参加）としばしば行う小テストの成績を評価対象とする。				
履修上の注意事項等	馴染みのない精神医学用語がたくさん出てくるので、ただ講義を聞くだけでは理解が不十分になる恐れがある。しっかり予習復習をしないと、ついてこれなくなるので、予習復習が必須である。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト					
参考書	DSM- 5 精神疾患の分類と診断の手引, American Psychiatric Association, 医学書院, 2014				

科目名	司法・犯罪心理学			期間	後期
担当教員	今井 由樹子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	非行・犯罪行動に関する理論。司法領域の心理学の実践。加害者と被害者の心理と支援。				
到達目標	非行・犯罪行動理論の基礎と概観を理解し、心理的介入方法等の実践を知る。社会現象としての犯罪に問題意識を持つ。				
授業概要	少年警察補導職員及び臨床心理士・公認心理師の経験に基づき授業を展開する。非行・犯罪の実態を知り、司法・犯罪心理学の基礎的な理論を学ぶ。様々な視点、及び、臨床場面でどのようなアセスメントや教育プログラムが行われているかを理解し、加害と被害の関係を考える。				
評価方法・基準	学習到達度確認（講義の内容を正確に把握しているかを問う）70% 課題レポート（社会現象としての犯罪についての主体的な関わりを問う）30%。				
履修上の注意事項等	必ず予習で教科書を熟読すること。関連する書籍や報道について関心を持って読み、自分の考えをまとめておくこと。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	司法・犯罪心理学, 原田 隆之, ミネルヴァ書房, 2024				
参考書	司法・犯罪心理学, 森 丈弓, サイエンス社, 2021 司法・犯罪心理学, 藤岡 淳子, 有斐閣ブックス, 2020 司法・犯罪心理学, 門本 泉, ミネルヴァ書房, 2020				

科目名	健康・医療心理学			期間	後期
担当教員	鈴木 孝	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	健康・医療心理学に関する概説				
到達目標	保健・医療領域における心理的課題を理解しその内容を説明できる。				
授業概要	①保健医療の健康心理学②健康心理学と公衆衛生③医療の健康心理学的側面について概説する。健康の定義、社会保障制度、健康保健政策、地域保健、障害、受療行動、感染症、嗜癖、自殺などのテーマを取り上げる。				
評価方法・基準	受講態度および討論への参加度、各授業終了時に課すコメントシート（40%）と総合的理解度の確認のための試験の成績（60%）によって評価する。定期試験期間（16週目）に試験を実施する。				
履修上の注意事項等	この授業は公認心理師科目である。資格取得希望者以外も受講可能だが、内容が専門的なので熟慮して登録すること。授業はテキストに沿って進めるので必ず購入すること。受講者はテキストを事前に読み、疑問点や理解が困難な部分をあらかじめ調べておくこと。				
テキスト	『健康・医療心理学』, 岸太一、藤野秀美, ナカニシヤ出版, 2017				
参考書					

科目名	精神疾患とその治療			期間	前期
担当教員	武本 一美	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	精神疾患の中で、身体因の関与が大きいと考えられる諸疾患について、その疾患概念、心理的な患者理解、治療、患者支援について学ぶ。				
到達目標	身体因の関与が大きいと考えられる精神疾患について、その全体像、疾患概念、心理的な患者理解、治療、患者支援について理解すること。				
授業概要	身体因の関与が大きいと考えられる精神疾患を、DSM- 5に沿って学習する。しばしば確認テストを行い、習熟を図る。				
評価方法・基準	受講態度（積極的な講義への参加）としばしば行う小テストの成績を評価対象とする。				
履修上の注意事項等	馴染みのない精神医学用語がたくさん出てくるので、ただ講義を聞くだけでは理解が不十分になる恐れがある。しっかり予習復習をしないと、ついてこれなくなるので、予習復習が必須である。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト					
参考書	DSM- 5 精神疾患の分類と診断の手引, American Psychiatric Association, 医学書院, 2014				

科目名	人体の構造と機能及び疾病（一）			期間	前期
担当教員	★島本 卓也	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	「健やかに生きる力の基礎となる健康科学（自らのからだところを知る）」				
到達目標	健康な心身を保つしくみを、解剖学・生理学・病理学の視点から理解し、生涯を通じて自らの健康を把握・管理・改善する力を養う。				
授業概要	健康は生きる力の根底をなす。生涯を通じて健康に過ごすには自分自身の健康を保つしくみを熟知することが重要である。授業では、感染症、食事、睡眠、運動、アルコール、食中毒など身近な話題をとりあげ、健康な心身を保つしくみについて医学的な理解を深める。様々な健康情報が氾濫する中で、自分自身の健康状態を正確に把握し維持していくために、自ら適切に判断し行動できる力を身につけることを目指す。				
評価方法・基準	最終授業での学習到達確認20%（健康に対する科学的な理解、将来の自分の健康管理に対する適切な課題意識を総合的に評価する）と授業中のミニレポート80%（毎回の授業内容の理解度を確認する）				
履修上の注意事項等	この講義は単独でも受講できるが、健康論Ⅱとあわせて受講するのが望ましい。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、自治体、医療機関、大学病院等の現場に従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	必要な資料を講義で提示します				
参考書					

科目名	人体の構造と機能及び疾病（二）			期間	後期
担当教員	★島本 卓也	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	「健やかに生きる力の基礎となる健康科学（自らのからだところを知る）」				
到達目標	健康な心身を保つしくみを、解剖学・生理学・病理学の視点から理解し、生涯を通じて自らの健康を把握・管理・改善する力を養う。				
授業概要	健康は生きる力の根底をなす。生涯を通じて健康に過ごすには自分自身の健康を保つしくみを熟知することが重要である。授業では、感染症、食事、睡眠、運動、アルコール、食中毒など身近な話題をとりあげ、健康な心身を保つしくみについて医学的な理解を深める。様々な健康情報が氾濫する中で、自分自身の健康状態を正確に把握し維持していくために、自ら適切に判断し行動できる力を身につけることを目指す。				
評価方法・基準	最終授業での学習到達確認20%（健康に対する科学的な理解、将来の自分の健康管理に対する適切な課題意識を総合的に評価する）と授業中のミニレポート80%（毎回の授業内容の理解度を確認する）				
履修上の注意事項等	この講義は単独でも受講できるが、健康論Ⅱとあわせて受講するのが望ましい。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、自治体、医療機関、大学病院等の現場に従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	必要な資料を講義で提示します				
参考書					

科目名	社会心理学特殊講義（一）			期間	後期
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	リスクの社会心理学				
到達目標	リスク、安全、安心に関連する社会心理学および周辺領域の知識を得て、社会的問題に関するリスクの過大視・過小視やリスクの低減策について自分なりに考察できるようになる。				
授業概要	私たちのあらゆる選択にはリスクが伴う。しかし、私たちはリスクとリターンの評価を合理的にできている場面は少なく、多くのケースでバイアスが見られる。しかも、そのバイアスは誰もが「同じように」持っているのではなく、自分のポジション（立場や所属集団）によっても異なっている。この授業では、リスクの心理的性質の理解を中心に、社会心理学の枠を少しはみ出して隣接領域の知見も参照しながら、社会生活においてうまくリスクとつきあう視座を考えていく。				
評価方法・基準	授業内の課題30%（授業終盤に授業内容の理解度を確認）と最終レポート70%（授業内容を理解した上で、社会問題について適切な考察ができるかを問う）により評価する。				
履修上の注意事項等	学際的な内容のため、全ての概念の背景を授業内で説明することはできない。授業時に紹介する参考文献を参照し、自発的に背景知識を修得することを求める。				
テキスト	配付資料を用いる。				
参考書	授業時に紹介する。				

科目名	社会心理学特殊講義（二）			期間	前期
担当教員	卜部 敬康	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会心理学に必要な社会学的なモノの見方を身につける				
到達目標	さまざまな社会現象を解釈する際に、一方的な心理過程還元主義に陥ることなく、社会と人間の関わりについて考えることができるようになる。				
授業概要	「心理学」に入学した諸君は、ひょっとすると「社会心理学は心理学の一部分である」とあたりまえに思っているのかもしれない。しかし、社会心理学の成り立ちを考えると、必ずしもそうではない。心理学や社会学、文化人類学、社会言語学など、社会と人間の関わりを研究するいろいろな学問の交差点として、社会心理学は発展した。しかし、残念なことに、社会心理学を「心理学の一部」として矮小化する捉え方が多くを占めるようになり、社会心理学を学ぶ学生に社会学の理論や考え方を紹介することが、かつてより少なくなりました。そこで、本講義では、社会心理学を学ぶ学生にとって必須と思われる社会学の理論ないし考え方を平易に紹介することを通して、人間の「ところ」が、社会制度の産物であることを理解してもらおう。				
評価方法・基準	細かな知識の暗記は要求しない。大局的な考え方の理解の深さを評価するため、期末レポートのみで評価する。				
履修上の注意事項等	シラバスの内容は「目安」に過ぎない。各回の内容を「こま切れ」に理解しても無意味である。むしろ、全体としてどのようにつなげて人間や社会を理解するかが重要である。初回の講義で、全体の趣旨と進め方などについて説明するので、それをよく理解して講義に臨んでください。				
テキスト	非行のリアリティ、大村英昭、世界思想社、2002				
参考書	常識の社会心理：あたりまえは本当にあたりまえか、卜部敬康・林理（編）、北大路書房、2002				

科目名	社会心理学特殊講義（三）			期間	前期
担当教員	太田 仁	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	自殺予防の心理学				
到達目標	自殺予防プログラムを通じて、自殺願望のある人への具体的援助について学び、自殺予防スキルを獲得する				
授業概要	日本の若者の死因の1位は自殺である。死にたいという希死念慮や自殺念慮に囚われないための予防プログラムを学ぶと共に死にたいと思う人の思いに寄り添い、援助希求に応える援助で再び生きる意欲を活性化させるための実践社会心理学を展開する。				
評価方法・基準	各授業での授業テーマについての理解度を確認する質疑応答(30%=準備の程度、意見表明の誠実さ、妥当性などを評価する)+第12回、13回におけるグループワークへの誠実かつ積極的な参加(30%)+第14回、15回のDVDの援助場面についての誠実かつ、効果的なセリフの考案の評価(40%)				
履修上の注意事項等	出席は単位修得の必須条件とする。実践につなげるため全講義を継続受講することが求められる。				
テキスト	授業中に資料を配布する				
参考書	学校における自殺予防教育プログラム、川野健治 他、新曜社				

科目名	社会心理学特殊講義（四）			期間	後期
担当教員	卜部 敬康	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	心理主義社会に生きる人間の生きづらさ				
到達目標	心理主義社会についての理解を通して、個人の生きづらさの背後には、それをもたらす社会的な構造が必ず存在していることを理解する。				
授業概要	現代の日本の特徴の一つに、心理主義を挙げることができる。心理主義を簡単にいえば「個人のこころを重視する社会」ということである。「こころを重視する」と言えば聞こえが良さそうだが、それが個人の「生きづらさ」の原因となりがちである。諸君の身近なところでは、SNSに依存したコミュニケーションが主流となったことも、心理主義と大いに関係がある。この講義では、心理主義の特徴を解説したうえで、現代日本の若い人々のコミュニケーションないし友人関係ないし恋愛関係の特徴を述べ、それらの関係を考察し、心理主義が人間どうしのつながりを推奨しつつ阻害するように作用していることを示す。それらを通して、心理主義社会の生きづらさを理解し、そこから脱却の方向性を模索する。				
評価方法・基準	細かい知識の暗記は要求せず、大局的な考え方についての理解度を重視する。したがって、期末レポートのみによって評価する。				
履修上の注意事項等	この講義を受講する前に、卜部が担当する「応用心理学」を履修したほうが理解しやすい。シラバスの内容は「目安」に過ぎない。各回の内容を「こま切れ」に理解しても無意味である。むしろ、全体としてどのように人間や社会を理解するかが重要である。初回の講義で、全体の趣旨と進め方などについて説明するので、それをよく理解して講義に臨んでもらいたい。				
テキスト	ほんとはこわい「やさしさ社会」、森真一、ちくまプリマー新書、2008				
参考書	常識の社会心理：あたりまえは本当にあたりまえか、卜部敬康・林理（編）、北大路書房、2002 やさしさの精神病理、大平健、岩波新書				

科目名	社会心理学特殊講義（五）			期間	後期
担当教員	金澤 忠博	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会的認知の障害としての自閉症の理解と支援				
到達目標	①社会的認知（心の理論）の特徴について理解する。 ②心の理論の前駆体としての共同注意の特徴について理解する。 ③社会的認知の障害としての自閉症の症状について理解する。 ④自閉症の発達支援の理論的背景として認知理論や学習理論について理解する。 ⑤自閉症の効果的な支援としての構造化や視覚支援の実践について理解する。				
授業概要	ヒトは霊長類の中で最も大きな集団を形成し、その中で互いに複雑なコミュニケーションを行っている。それを可能にする生物学的基盤としてヒトは社会脳を発達させ、他の霊長類には見られない「社会的認知」の能力を獲得した。社会的認知とは「心の理論」とも呼ばれ、他者の行動や心的状態を予測し、観察し、解釈する能力である(Striano & Reid, 2009)。自閉症はこの社会的認知の障害として注目されている。授業では、自閉症の症状を社会的認知の障害の側面から理解し、効果的な発達支援の可能性や実際について学ぶ。また、自閉症の理解を通してヒトに特有の社会的認知の能力とは何かを考える。				
評価方法・基準	期末レポート（70点） 平常点（30点）（配点内訳：毎回のリアクションペーパー（15点）+課題（15点））				
履修上の注意事項等	授業では、テキストは用いず、毎回配付資料を用意するので予習や復習に役立てて欲しい。				
テキスト	なし				
参考書	社会的認知の発達科学、日本発達心理学会・尾崎康子・森口佑介、新曜社、2018 自閉症幼児の他者理解、別府哲、ナカニシヤ出版、2001 心の発生と進化、ティヴィッド・ブレマック&アン・ブレマック、新曜社、2005				

科目名	社会心理学特殊講義（十一）			期間	前期
担当教員	卜部 敬康	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会心理学の知見を通して、「人間とは如何なる存在であるか」を考察する。				
到達目標	「人間とは何か」という根本的な問いに対して、社会心理学の知識や考え方をふまえて、自分なりの見識をもてるようになること。				
授業概要	哲学者・バスキルは「人間は考える葦である」と人間の特質を表現した。では、社会心理学から見れば、人間の特質は何であるのだろうか。本講義では、社会心理学の細かい分野の新しい研究成果ではなく、この疑問に正面からこたえ得る社会心理学の理論を中心に講述したい。そうすると、社会心理学の黎明期の古典的な実験研究やそこから導かれた理論について、それらの土台となる人間観ないし哲学的な「含み」もあわせて講ずることになる。いわば「レトロ社会心理学」と言わなければならないかもしれない。各回ごとの内容は一応、以下の通りであるが、適宜、講義の順番を変更したり内容を取舍選択する。なお、すべての内容は「人間とは何か」という問いに即して考えるべきものであるから、以下の授業計画に記した「こま切れ表記」をアテにしないで講義に臨んでほしい。				
評価方法・基準	細かい知識の暗記は要求せず、大局的な考え方についての理解度を重視する。したがって、期末レポートのみによって評価する。				
履修上の注意事項等	シラバスの内容は「目安」に過ぎない。各回の内容を「こま切れ」に理解しても無意味である。むしろ、全体としてどのように人間や社会を理解するかが重要である。初回の講義で、全体の趣旨と進め方などについて説明するので、それをよく理解して講義に臨んでください。				
テキスト	非行のリアリティ、大村英昭、世界思想社、2002 常識の社会心理：あたりまえは本当にあたりまえか、卜部敬康・林理（編）、北大路書房、2002				
参考書					

科目名	心理学統計法Ⅱ			期間	後期
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	心理学の研究で用いる代表的な統計解析手法に関する知識とスキルを習得する。				
到達目標	(1) 心理学の研究論文で用いられる統計解析結果を読み取り、解釈できるようになる。(2) 統計解析ソフトを使用して分析することができるようになる。				
授業概要	心理学研究では、研究目的やデータの測定方法に応じた適切な統計解析手法を選択した上で、分析結果を解釈・報告することが必要となる。本講では、データの性質ごとにどのような分析が必要とされるのかを確認した上で、それぞれの分析法を具体的なデータを用いて実習形式で学習する。				
評価方法・基準	授業内の実習課題(40%:授業内容の理解度の確認)とレポート(60%:授業で扱った統計的手法を各自の判断で活用できるかの確認)を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	「心理学統計法Ⅰ」を履修済であることが望ましい。授業内容の連続性が強いいため、毎回の出席を強く推奨する。				
テキスト	資料を配付する				
参考書	授業内で紹介する				

科目名	関係行政論			期間	後期
担当教員	★小山 秀之	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	対人援助(特に心理業務)を行う上で必要な施策や法律、制度、そして基盤となる考え方について				
到達目標	学生が各領域における施策や法律、制度等に理解し、公認心理師が多職種連携を行う上で必要な知識を身に付ける。				
授業概要	講師は公認心理師、臨床心理士、社会福祉士の有資格者で、認知行動理論、家族システム理論、ストレングスモデル、エコロジカルアプローチなどの理論に基づいて医療・教育・福祉・産業等の現場で実践を重ねてきた。公認心理師は他職種との連携を行う際、各領域における施策や法律、制度等を理解しておく必要がある。本授業では、様々な領域の事例に触れながら、施策や法律、制度及び心理支援について学んでいく。				
評価方法・基準	授業中(最終授業等)に実施する学習到達度確認で行う(配布資料及び自身で作成した自筆ノートのみ持込可)。				
履修上の注意事項等	欠席等で配布資料がない方は、その都度申し出てください(データでお渡しします:USBメモリ持参)。講義内容は社会人として、必要な教養を身に付けられるような内容にもなっています。				
テキスト					
参考書	関係行政論 第2版(公認心理師の基礎と実践), 元永拓郎, 遠見書房, 2020 関係行政論(公認心理師スタンダードテキストシリーズ), (監修) 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫, ミネルヴァ書房, 2023				

科目名	公認心理師の職責			期間	前期
担当教員	鈴木 孝	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	公認心理師の職責に関する概説				
到達目標	公認心理師の職責や業務内容に関し、法的、倫理的、臨床心理学的観点から理解し説明できる。				
授業概要	公認心理師の役割、法的義務、安全性の確保、プライバシー保護について概説し、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各分野における公認心理師の業務に関する講義を行う。また公認心理師としての生涯学習の必要性や多職種連携についても言及する。				
評価方法・基準	受講態度および質疑への参加度、コメントシート(40%)と到達度確認のための試験の成績(60%)によって評価する。定期試験期間(16週目)に定期試験を実施する。				
履修上の注意事項等	この授業は公認心理師科目である。資格取得希望者以外も受講可能だが、内容が専門的なので熟慮して登録すること。授業はテキストに沿って進めるので必ず購入すること。受講者はテキストを事前に読み、疑問点や理解が困難な部分をあらかじめ考えておくこと。				
テキスト	『公認心理師の職責 第二版』, 野島一彦(編), 遠見書房, 2023				
参考書					

科目名	心理実践演習(心理実習)			期間	その他
担当教員	磯部 美也子 鈴木 孝 林 郷子 今井 由樹子 武本 一美	単位数	2	配当年次	4
テーマ	心理支援活動の実践				
到達目標	心理支援を必要とする者等に対するチームアプローチや多職種連携、地域連携等、心理支援の実践を行うための基本的な知識や技能を修得し、公認心理師としての法的義務や職業倫理を理解する。				
授業概要	学外実習施設において実習を行う。施設見学や支援活動の見学、グループ支援への参加等を通して、心理支援を要する者等の理解を深め、心理支援に必要なコミュニケーション技能を修得するとともに、多職種連携や地域連携について体験し、その意義を学び、公認心理師としての法的義務や職業倫理を理解する。検討会を通して活動内容について適宜振り返りを行う。				
評価方法・基準	実習への参加状況や実習記録、検討会への参加態度等により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	この科目は定員があり、事前に予備登録を行った者のみが履修することができる。事前オリエンテーション及び事前・事後指導にも必ず参加すること。実習態度によっては実習を中止することがあるので留意すること。				
テキスト					
参考書					

科目名	心理的アセスメントⅠ	期間	前期
担当教員	磯部 美也子 武本 一美 林 郷子	単位数	2
配当年次	3-4		
テーマ	代表的な心理テストの実施・施行、およびアセスメントの意義について学ぶ。		
到達目標	代表的な心理テストについてその理論を理解し、実習を通して、心理アセスメントについて学習する。臨床心理学を修得する者にとって必要最低限の心理アセスメントの技法と倫理的配慮を体得する。		
授業概要	心理アセスメントとは、面接や心理テストなどを通して、対象者を様々な視点から理解し、支援につなげようとするものである。本実習では、心理テストを中心に心理アセスメント技法で代表的なものをとりあげる。臨床心理士として、相談機関等で実際にアセスメントをしてきた実務経験のある教員が、その知見をもとに、その概要、実施法、解釈法等の基礎について、実際に検査を体験して学習できるようにしている。		
評価方法・基準	授業中の平常点、積極的に実習に参加しているか、意見、質問や考察をしているかを評価(50%)、レポート(講義・実習内容の基本事項を理解しているかを問う)(50%)		
履修上の注意事項等	原則、遅刻や欠席は認めない。		
テキスト	必要に応じてプリント資料を配布する。		
参考書	適宜紹介する。		

科目名	心理的アセスメントⅡ	期間	後期
担当教員	鈴木 孝 武本 一美	単位数	2
配当年次	3-4		
テーマ	投映法を中心とした心理アセスメント実習		
到達目標	投映法による心理検査には様々なものがあるが、その中でも代表的な TAT、ロールシャッハ法の概要を理解すると共に、実施法や解釈法を実習を通して身につける。		
授業概要	臨床現場に訪れる来談者のこころを深く理解し、より良い心理臨床的援助を提供するためには、パーソナリティ全体に関わる的確な心理アセスメントがその前提となる。本科目では、TAT に基づくアセスメント、ロールシャッハ法に基づくアセスメントを中心に、その概要と実施法、さらに解釈について体験的に学習する。		
評価方法・基準	平常点(主體的・積極的に取り組む姿勢)とレポート(検査結果の適切な解釈)により総合的に評価する。		
履修上の注意事項等	心理アセスメント実習Ⅰを修得済みであることを履修条件とする。		
テキスト	プリント資料を配布する。		
参考書	適宜紹介する。		

科目名	心理演習(カウンセリング)Ⅰ	期間	前期
担当教員	鈴木 孝 磯部 美也子 林 郷子	単位数	2
配当年次	3-4		
テーマ	心理学的支援の基本的な知識及び技能の修得		
到達目標	コミュニケーションのあり方、心理検査、心理面接、地域支援など、対象者の理解及び関係構築に関する知識と技法について、基本的な水準の修得を目的とする。		
授業概要	具体的な場面を想定し、ロールプレイングを行い、かつ、事例検討で取り上げることにより、対象者の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、対象者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携及び地域連携に関する知識と技法について学び、心理職としての職業倫理及び法的義務への理解を深める。授業は、3名の担当教員がローテーションで実施するが、それぞれの心理学的支援の経験をふまえた内容を盛り込むこととする。		
評価方法・基準	各回の振り返りおよびレポートにより総合的に評価する。各回でのレポートの観点は、授業時に伝える。課題を正確に理解し、求められている点について、授業で学んだことを中心に、論点をわかりやすく記述すること。		
履修上の注意事項等	個の授業は定員があり、予備登録を行った者のみが受講できる。事前オリエンテーションに必ず出席すること。原則として遅刻欠席は認めない。		
テキスト	必要に応じて資料を配布する		
参考書			

科目名	心理演習(カウンセリング)Ⅱ	期間	後期
担当教員	武本 一美 林 郷子	単位数	2
配当年次	3-4		
テーマ	心理学的支援に関する諸理論および諸技能の修得		
到達目標	各種の心理学的支援法について、支援を実践するための知識および技能を獲得する。		
授業概要	心理演習(カウンセリング)Ⅰで学んだ心理学的支援の基本的知識および技能を前提として、より応用的な心理学的支援の方法について、ロールプレイング等を通して実践的に学ぶ。担当者の心理学的支援の現場における経験をふまえた内容を盛り込むこととする。		
評価方法・基準	各回における取り組みと、授業過程において課すレポートをもとにして総合的に評価する。各回での振り返りのポイントは授業時に示す。レポートは、課題を的確に把握し、各課題についての理解が示されていること、授業で学んだ知識や技術を基に作成されていることにより、評価する。		
履修上の注意事項等	本授業は、心理演習(カウンセリング)Ⅰを履修している者のみ受講できる。原則遅刻・欠席は認めない。		
テキスト	適宜資料などを配布します		
参考書	適宜指示します		

科目名	社会心理学実験演習			期間	前期
担当教員	村上 史朗 與久田 巖 金澤 忠博	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会心理学実験の立案と実施				
到達目標	社会心理学における実験の計画・実施・分析・発表の流れを習得する				
授業概要	社会心理学研究において、実験法はもっとも標準的な手法のひとつである。受講者は班ごとに設定されたテーマに沿った実験を計画し、実験材料作成、実験の実施、データ分析、成果発表の一連の流れを経験、実験を用いた研究への理解を深めることを目的とする。				
評価方法・基準	毎回の課題の達成度（30%：ディスカッションへの参加及び研究計画作成への参加）、成果発表（15%：班ごとの最終成果発表）、最終レポート（55%：個人ごとの最終レポート）を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	心理統計Ⅱを併せて履修することを勧める。				
テキスト	なし				
参考書	補訂新版 社会心理学研究入門, 安藤清志・村田光二・沼崎誠（編著）, 東京大学出版会, 2017				

科目名	知覚・認知心理学Ⅱ			期間	前期
担当教員	金澤 忠博	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	知覚・認知機能の進化と発達				
到達目標	① 知覚・認知心理学に関する基礎知識を学び、人間の視覚情報処理の特徴について理解する。 ② 知覚・認知心理学における実験パラダイムについて理解する。 ③ 知覚・認知心理学の知見に基づき、現実の様々な問題を理解する。				
授業概要	知覚・認知心理学は、情報処理の観点から感覚・知覚・認知といった知識獲得の内在的過程を解明しようとする心理学の一分野である。その対象には、知覚、注意、記憶、思考、言語なども含まれるが、授業では人間が外界から得る情報の8割を占めるとされる視覚情報の処理に焦点を当てて、乳児の顔認識能力など進化のプロセスで獲得された適応的認知様式や領域固有メカニズム（モジュール）、錯視現象を通して見る三次元世界に適応した視覚情報処理システム、情報を保持する記憶、集団における複雑なコミュニケーションを可能にする人間特有の社会的認知（social cognition）の能力の進化と発達、等について学び、人間の認知の機能的特徴について理解を深める。				
評価方法・基準	期末レポート（70点） 平常点（30点）（配点内訳：毎回のリアクションペーパー（15点）＋課題（15点））				
履修上の注意事項等	授業で紹介する内容の多くは日常生活に関わるものであり、実際に日常的な体験を通して確かめることにより、さらに深い理解が得られる。毎回のリアクションペーパーに積極的に質問を書いて下さい。				
テキスト	なし				
参考書	心の発生と進化, ディヴィッド・ブレマック&アン・ブレマック, 新曜社, 2005 社会的認知の発達科学, 日本発達心理学会・尾崎康子・森口佑介, 新曜社, 2018 心とことばの起源を探る, マイケル・トマセロ, 勁草書房, 2006				

# 総合社会学科科目







科目名	基礎演習Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	島本 太香子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	総合社会学科スタートアップⅠ				
到達目標	総合社会学科で学修を進めていくために必要な姿勢と技術を、実践的な取り組みを通して身につけること				
授業概要	総合社会学科では「リサーチオリエンテッド」の精神のもと、自ら問題を発見し、解決していくための姿勢と技術を身につけ、現実の問題にアプローチしていくことを重視している。この授業ではそのために必要な姿勢と技術を、実習による具体的な経験を積むことで身につけることを目指している。すべての課題を達成したとき、2年生以降のより実践的で専門的な学修の支えになることが期待される。				
評価方法・基準	レポート作成、読解、発表、ディスカッションの基本技能それぞれの向上度から、総合的に到達度を評価する。発表、ディスカッションにおいては、積極的に参加する姿勢が重視される。				
履修上の注意事項等	受講クラスが指定されているので注意すること。				
テキスト	適宜資料を配付する				
参考書	適宜資料を配付する				

科目名	基礎演習Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	吉田 光次	単位数	2	配当年次	1
テーマ	総合社会学科スタートアップⅠ				
到達目標	総合社会学科で学修を進めていくために必要な姿勢と技術を、実践的な取り組みを通して身につけること				
授業概要	総合社会学科では「リサーチオリエンテッド」の精神のもと、自ら問題を発見し、解決していくための姿勢と技術を身につけ、現実の問題にアプローチしていくことを重視している。この授業ではそのために必要な姿勢と技術を、実習による具体的な経験を積むことで身につけることを目指している。すべての課題を達成したとき、2年生以降のより実践的で専門的な学修の支えになることが期待される。				
評価方法・基準	レポート作成、読解、発表、ディスカッションの基本技能それぞれの向上度から、総合的に到達度を評価する。発表、ディスカッションにおいては、積極的に参加する姿勢が重視される。				
履修上の注意事項等	受講クラスが指定されているので注意すること。				
テキスト	適宜資料を配付する				
参考書	適宜資料を配付する				

科目名	基礎演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	島本 太香子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	総合社会学科スタートアップⅡ				
到達目標	総合社会学科で学修を進めていくために必要な姿勢と技術を、実践的な取り組みを通して身につけること				
授業概要	総合社会学科では「リサーチオリエンテッド」の精神のもと、自ら問題を発見し、解決していくための姿勢と技術を身につけ、現実の問題にアプローチしていくことを重視している。この授業ではそのために必要な姿勢と技術を、実習による具体的な経験を積むことで身につけることを目指している。すべての課題を達成したとき、2年生以降のより実践的で専門的な学修の支えになることが期待される。				
評価方法・基準	レポート作成、読解のほか、グループでのディスカッションへの貢献が重視される。積極的な参加姿勢を勘案しつつ、総合的に到達度を評価する。				
履修上の注意事項等	受講クラスが指定されているので注意すること。				
テキスト	適宜資料を配付する				
参考書	適宜資料を配付する				

科目名	基礎演習Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	吉田 光次	単位数	2	配当年次	1
テーマ	総合社会学科スタートアップⅡ				
到達目標	総合社会学科で学修を進めていくために必要な姿勢と技術を、実践的な取り組みを通して身につけること				
授業概要	総合社会学科では「リサーチオリエンテッド」の精神のもと、自ら問題を発見し、解決していくための姿勢と技術を身につけ、現実の問題にアプローチしていくことを重視している。この授業ではそのために必要な姿勢と技術を、実習による具体的な経験を積むことで身につけることを目指している。すべての課題を達成したとき、2年生以降のより実践的で専門的な学修の支えになることが期待される。				
評価方法・基準	レポート作成、読解のほか、グループでのディスカッションへの貢献が重視される。積極的な参加姿勢を勘案しつつ、総合的に到達度を評価する。				
履修上の注意事項等	受講クラスが指定されているので注意すること。				
テキスト	適宜資料を配付する				
参考書	適宜資料を配付する				

科目名	社会調査概論			期間	前期
担当教員	尾上 正人	単位数	2	配当年次	1
テーマ	社会調査入門				
到達目標	社会調査データを正しく利用するためのスキル、望ましい社会調査を実施するための方法や倫理観を身に付けることが、本講義の目標である。				
授業概要	どのような社会調査が存在し、それぞれがいかなる特徴を持っており、どのような点に注意すべきなのかという点について、実際におこなわれた調査を題材にしながら講義していく。				
評価方法・基準	平常点20%（講義中に指名した時の発言など、積極的な態度を重視）、課題提出30%（課題に見合った回答が、十分な量書けているかを重視）、学習到達度確認50%（社会調査の基礎知識が身についているか、またそれを基にデータを読むことができるかを重視）				
履修上の注意事項等					
テキスト	入門・社会調査法 [第4版], 轟亮・杉野勇, 法律文化社, 2021				
参考書	社会調査入門, 盛山和夫, 有斐閣, 2004 社会調査へのアプローチ, 大谷・後藤・永野・木下・小松, ミネルヴァ書房, 2006 「社会調査」のウソ, 谷岡一郎, 文春新書, 2000				

科目名	社会学基礎			期間	前期
担当教員	尾上 正人	単位数	2	配当年次	1
テーマ	社会学的分析のおもしろさを知る				
到達目標	社会学の基礎知識を得るだけでなく、激動する今の社会を主体的に生き抜いてゆくための洞察力を身につけてゆくことを目標とする。				
授業概要	身近な日常生活に潜む不思議な現象に着目することから出発して、次第に鳥瞰図のように社会を眺める視点を獲得してゆく。各テーマごとに、そこで培われた社会学の基礎理論を紹介してゆくの、講義全体を通して社会学の諸学説をほぼ網羅的に学習することができる。				
評価方法・基準	平常点30%（講義中に指名した時の発言など、積極的な態度を重視）、学習到達度確認70%（社会学の基礎的な知識が得られているか、またそれをもとに資料・データを読みこなす力があるかを評価する）				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書					

科目名	社会調査法			期間	後期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	1
テーマ	計量的社会調査 (social survey) に関する基礎知識の習得				
到達目標	計量的社会調査の実施および分析に必要な基本的知識の習得				
授業概要	計量的社会調査 (social survey) の根幹は効率性と正確性、すなわちよりコストを抑え、より正確な情報を収集することにある。本科目では、社会調査の手順だけでなく、実際の社会調査で陥りやすい失敗や実施の各場面で生じやすいミスとその結果としての誤差の発生について学ぶ。これによって、精度の高いデータを得るための知識を修得してもらう。				
評価方法・基準	毎週の授業で課題を与える。一回の課題を理解度に応じて0～3点、合計で45点とし、これに学期末試験の点数 (55点満点) を加えて成績評価を行う。				
履修上の注意事項等	本科目では Google の Classroom を併用する。毎週の課題は Classroom を通じて提出してもらう。履修者には、全員、tbox のメールアカウントに招待がいくので、事前に tbox のメールアカウントをアクティベートしておくこと。				
テキスト	社会調査における非標本誤差, 吉村治正, 東信堂, 2017				
参考書					

科目名	経済学			期間	後期
担当教員	★富田 貴子	単位数	2	配当年次	1
テーマ	経済学の基礎を学ぶ				
到達目標	日本経済・社会の仕組みを理解するための経済学の基本的概念や考え方を理解し、経済学の視点から社会問題を考えられるようになること。				
授業概要	本講義では、現代社会の様々なキーワードを題材に、これからの暮らしに役立つような経済学の基本的な考え方について学ぶ。				
評価方法・基準	授業毎のレポートと期末レポート (必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか、オリジナリティを評価する) により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	本講義では GoogleForm のアンケート機能を使用するので、スマホまたは PC を持参のこと。またメモを取るためのノートと筆記用具等は各自持参すること。				
テキスト	授業中にプリントを配布する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	情報学			期間	後期
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	1
テーマ	情報の基礎を通して、社会にどのように利活用されているのかを学ぶ。				
到達目標	情報理論の基礎、ハードウェア、ネットワークなどの基礎知識を学び、これらの技術がどのように社会で利活用されているのかを正しく理解することを目標としている。				
授業概要	授業の前半では、情報技術の基本的な仕組みについて解説する。後半では、前半で説明した情報技術が、現代社会にどのように活用されているのかを、原理も含めて事例を紹介する。				
評価方法・基準	成績評価は、各回で出題する小レポートで評価する。評価基準は、各回で説明した内容が正しく理解しているかどうかを判断する。配点は、小レポート課題は第1回から第14回まで各5点、最終レポート課題は30点とする。				
履修上の注意事項等					
テキスト	Web 教材				
参考書					

科目名	社会体験実習			期間	通年
担当教員	倉光巖 中原 洪二郎 尾上 正人 片雪蘭	単位数	2	配当年次	2
テーマ	大学での学びを実社会に還元し、実社会での経験を大学での学びにつなげる。				
到達目標	「個人」が大学で学ぶことの意味を社会的文脈に位置づけ、社会的価値として認識することによって、学びに対する明確な目標意識と主体性を獲得すること。				
授業概要	この実習では、学外での様々な活動を通して、現実社会が直面する諸問題を経験的に感じ取るセンスとコミュニケーション技術を養うと同時に、社会で発見された問題を解決する基礎的能力を身につける。また、学外での活動から学んだことを、受講生同士で共有するためのプレゼンテーション能力やディスカッションのスキルを習得する。授業スケジュールは、進捗状況等によって随時変更されるため、アナウンスメントに注意すること。				
評価方法・基準	学外実習の参加状況と活動内容、クラスワークへの参加状況と報告内容、最終報告会の準備と報告内容、および、期末レポート（前期・後期）により総合的に評価を行う。				
履修上の注意事項等	(1) 学外実習は基本的に授業時間以外に行う。夏期休業中に実施する活動もあるので、十分注意すること。 (2) 実習であるため活動への参加を重視する。社会活動への参加を最優先にスケジュール調整を行うこと。 (3) 無断欠席は認めない。欠席の場合は担当者に必ず連絡すること。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト					
参考書					

科目名	演習 I (一)			期間	前期
担当教員	倉光巖	単位数	2	配当年次	3
テーマ	経営学に関して基礎学力を築くため、経営学の主要なテーマである「経営管理論」、「経営戦略論」を学ぶ。				
到達目標	「経営管理論」や「経営戦略論」の基礎用語や基本的な考え方を理解する。経営学関係の書籍を通読する読書力を養い、卒業論文を執筆する際の準備を始める。				
授業概要	ドラッカー著「エッセンシャル版 マネジメント」を中心に講読し、複数の経営学者の見解を紹介しながら経営学の基礎に触れてゆく。その中で「組織とはなにか?」「事業とはなにか?」「マネジャーとは?」等を理解する。通期で「エッセンシャル版 マネジメント」第1章～第6章の約200ページを11回分の講義に配分する。中小企業のケーススタディを学び、企業経営のポイントを解き明かしてゆく。ゼミ生の経営学の理解度に合わせて企業分析の入門編を行う。				
評価方法・基準	テキスト輪読の途中でのゼミ受講生の発言内容やケーススタディのディスカッションにおける発言回数や発言内容から理解の深さを評価する。単純にテキストを輪読することには終わらず、より深い理解を得ることが目的である。組織論や経営戦略論での項目についてレポート提出を求める。レポートは、テーマの重要性、論旨が明確なこと、論理性の高さ、誤字脱字のないこと、句読点は正しく打つこと、レポートのタイトル・段落の名称などの確実な記載、段落開始時は1字開ける、学籍番号、氏名の確実な記載等をもって評価する。				
履修上の注意事項等	ゼミ参加者は「経営学」、「経営管理論」、「企業倫理と消費者」を2,3年次に履修すること。テキストとしてドラッカー著【エッセンシャル版】マネジメントを使用します。前期は第1章～第6章までを到達目標とする。経営学全般を講義するので、ゼミ受講者の理解度を見ながら講義予定を随時変更する可能性もある。				
テキスト	【エッセンシャル版】マネジメント、ドラッカー、P., F., ダイヤモンド社, 2001				
参考書					

科目名	演習 I (二)			期間	前期
担当教員	尾上 正人	単位数	2	配当年次	3
テーマ	ビジネスモデルを考える				
到達目標	具体的な企業の経営状態や戦略が読み取れるようになる。				
授業概要	堤清二という稀代の異形経営者の卓越したビジョン、大成功と大失敗の事例に学びながら、現代に求められるビジネスモデルについて考える。次に、自分で選んだ企業の財務状態・経営戦略・ビジネスモデルを研究し、発表する。さらに、その企業が位置する業界の特性・歴史等を学ぶ。				
評価方法・基準	授業中の発表の内容60%（文献を読みこなした上での確実な意見・論点を付け加えているか）、授業に対する積極性40%（講義中の質問、他の発表者に対する意見表明などを積極的に行っているかどうか）				
履修上の注意事項等					
テキスト	セゾン 堤清二が見た未来、鈴木哲也、日経BP社、2018 会社四季報2024年2集春号、東洋経済新報社、東洋経済新報社、2024				
参考書					

科目名	演習 I (三)			期間	前期
担当教員	片 雪 蘭	単位数	2	配当年次	3
テーマ	異文化理解とフィールドワーク				
到達目標	本授業では、ダイバーシティが求められる現代社会において、多様な人々の文化を理解し、自文化を相対化することができるように、文化人類学的な考え方を身につける。具体的には、文化人類学の観点から「難民」を調査した文献を講読する。また、自分の考えていることを適切に表現し、文章化していくスキルを学ぶ。				
授業概要	難民や移民に対して人類学的に思考する方法を学ぶ。				
評価方法・基準	授業の参加度を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	受講生の人数や関心事によって文献（または、授業方法）を変える可能性がある。また、自分の担当のときには責任を持って発表し、他の受講生の発表に対しても積極的に意見を出すことが望ましい。				
テキスト					
参考書	人類学とは何か、トーマス・ヒランド・エリクセン、世界思想社、2008 フィールドワークへの挑戦、菅原和孝、昭和堂、2006				

科目名	演習 I (四)			期間	前期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	3
テーマ	インターネットコミュニケーションの分析				
到達目標	「炎上」・「荒らし」・「ネトウヨ」など、インターネット上で見られる特異なコミュニケーションを分析する。				
授業概要	ネットにおける攻撃的なコミュニケーションに関する主要な文献を全員で輪読、ディスカッションすることで、社会的コミュニケーションについて分析を進める。指定文献（5冊程度）は開講時に指示する。各回ごとに発表者を割り当て、レジュメの提出と内容の報告を求める。				
評価方法・基準	課題の報告に加え、課題図書ごとにレポートを課す。授業への貢献度（課題報告のプレゼンテーションとディスカッション）を最高60点、レポートの合計得点を最高40点として成績評価を行う。				
履修上の注意事項等	科目の性質上、無断欠席は認めない。				
テキスト					
参考書					

科目名	演習 I (六)			期間	前期
担当教員	中原 洪二郎	単位数	2	配当年次	3
テーマ	地域活性化と地域ブランド研究				
到達目標	地域活性化と地域ブランド研究における十分な理論的理解を踏まえた上で、具体的な地域の問題を再発見し、改善に向けた提案および実地の行動が出来るようにする。				
授業概要	この授業では、地域活性化と地域ブランディングについて、実地での取り組みを通して学ぶ。主なフィールドは奈良およびその近隣地域。授業として具体的な対象地域を定め、その地域が抱える様々な問題を読み解きながら、問題解決のためにどのようなことが出来るのか、ただ机上の空論としてではなく、実地の取り組みを進めていく。				
評価方法・基準	課題が与えられた題目に沿っていること、レジュメ・スクリーン提示・口頭のパランスがとれたプレゼンテーション、批判的視点を持った議論参加、スケジュールの遵守を特に重視する。				
履修上の注意事項等	無断欠席は1回でも不可とする。				
テキスト	適宜資料を配付する				
参考書	適宜資料を配付する				

科目名	演習 I (十)			期間	前期
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	3
テーマ	現代社会の問題点を見出し、論理的思考を身につけ、研究に必要な基礎能力の向上を目指す。				
到達目標	情報技術の観点から現代社会の問題点を解決・改善するために必要な知識を身につけ、論文のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を学ぶ。				
授業概要	情報技術の観点から現代社会における問題点を探り、改善・解決するための方法を見つける。各自の研究テーマを設定し、関連する研究論文を調査・要約することで、論文のまとめ方を学ぶ。また、プレゼンテーションを通じて、論理的思考を養う。さらに、研究テーマに応じた入力・処理・出力の関係性を明確にする。その中で、問題点を解決するアイデアを考案し、卒業研究の方向性を考え、最後に研究発表を行う。				
評価方法・基準	成績は、関連研究の発表（30点）、研究テーマ発表（30点）、レポート課題（40点）で評価する。各課題は、研究背景・目的、関連研究、考察が論理的に記述されているかを評価する。				
履修上の注意事項等	パソコンの基本操作は、学部で習得しておくこと。基本操作でわからないことがある者は情報処理センターのサポートを受けること。レポート課題の締め切りは厳守のこと。				
テキスト	web教材				
参考書					

科目名	演習Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	倉 光 巖	単位数	2	配当年次	3
テーマ	ゼミ生の経営学に関する基礎学力を築くため、経営学の主要なテーマである「経営管理論」、「経営戦略論」を学ぶ。				
到達目標	「経営管理論」、「経営戦略論」の基本テーマや基礎用語や基本的な考え方を理解する。経営学の本を通読する読書力を養う。そして来年の卒業論文作成のテーマ決めや執筆力の基礎を作る。ケーススタディや企業分析のディスカッションを通じて経営学の理解を深める。				
授業概要	ドラッカー著「エッセンシャル版 マネジメント」を中心に講読し、経営学者の見解を紹介しながら経営学の基礎に触れてゆく。通期で第1章～第6章の約200ページの講読範囲を11回で読了する。また、ケーススタディや企業分析を通じて経営学への理解を深める。4年生で執筆する卒業論文の書き方やテーマの選び方などを3年次に指導する。				
評価方法・基準	ケーススタディディスカッションにおいては、ディベートを行う予定なので、発言回数や発言内容から理解の深さを評価する。組織論や経営戦略論での項目についてレポート提出を求める。レポートは、テーマの重要性、論旨が明確なこと、論理性の高さ、誤字脱字のないこと、句読点は正しく打つこと、レポートのタイトル・段落の名称などの確実な記載、段落開始時点は1字開ける、学籍番号、氏名の確実な記載等をもって評価する。				
履修上の注意事項等	毎回出席や提出物の全提出はもちろんのこと、提出物のクオリティを上げること。また、各自のゼミ開催への貢献度を求めます。ゼミ履修生の理解度に応じて、適宜講義内容を変更する可能性もある。				
テキスト	【エッセンシャル版】マネジメント、ドラッカー、P., F.、ダイヤモンド社、2001				
参考書					

科目名	演習Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	尾上 正人	単位数	2	配当年次	3
テーマ	マーケティング・商品開発の実際について学ぶ				
到達目標	企画・提案能力、プレゼンテーション能力を養う。				
授業概要	マーケティング・商品開発についての本を輪読した後、各自あるいはグループで具体的な商品開発計画を立案する。最終的には、開発したい商品についての説明会を実施し、架空の出資者に対する説得作業を行なう。				
評価方法・基準	授業中の発表の内容60%（文献を読みこなしただの確かな意見・論点を付け加えているか）、授業に対する積極性40%（講義中の質問、他の発表者に対する意見表明などを積極的に行なっているかどうか）				
履修上の注意事項等					
テキスト	最強の商品開発、ラマヌジャム&タツケ、中央経済社、2018				
参考書					

科目名	演習Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	片 雪 蘭	単位数	2	配当年次	3
テーマ	異文化理解とフィールドワーク				
到達目標	本授業では、ダイバーシティが求められる現代社会において、多様な人々の文化を理解し、自文化を相対化することができるように、文化人類学的な考え方を身につける。具体的には、文献で得られたデータと照らし合わせながらフィールドワークを実施し、現場を自分の目で確かめる方法を学ぶ。				
授業概要	本授業では、フィールドワークを通して日本における難民や移民を理解する。				
評価方法・基準	授業の参加度と最終レポートなどを総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	自分の担当のときには責任を持って発表をし、他の受講生の発表に対しても積極的に意見を出すことが望ましい。				
テキスト	適宜紹介する				
参考書	人類学とは何か、トーマス・ヒランド・エリクセン、世界思想社、2008 フィールドワークへの挑戦、菅原和孝、昭和堂、2006 エスノグラフィー入門ー〈現場〉を質的研究する、小田 博志、春秋社、2010				

科目名	演習Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	3
テーマ	インターネットコミュニケーションの分析				
到達目標	ネット上で見られる暴力的コミュニケーションを社会学・社会心理学・政治学の知識を用いて分析する。				
授業概要	インターネットコミュニケーションについての主要な文献を全員で輪読、ディスカッションを行う。指定文献は以下の通り。各回ごとに発表者を割り当て、レジュメの提出と内容の報告を求める。				
評価方法・基準	課題の報告に加え、課題図書ごとにレポートを課す。授業への貢献度（課題報告のプレゼンテーションとディスカッション）を最高60点、レポートの合計得点を最高40点として成績評価を行う。				
履修上の注意事項等	本科目は同担当者の「演習Ⅰ（四）」の継続科目である。				
テキスト					
参考書					

科目名	演習Ⅱ（六）			期間	後期
担当教員	中原 洪二郎	単位数	2	配当年次	3
テーマ	地域活性化と地域ブランド研究				
到達目標	地域活性化と地域ブランド研究における十分な理論的理解を踏まえた上で、具体的な地域の問題を再発見し、改善に向けた提案および実地の行動が出来るようにする。				
授業概要	この授業では、地域活性化と地域ブランディングについて、実地での取り組みを通して学ぶ。主なフィールドは奈良およびその近隣地域。授業として具体的な対象地域を定め、その地域が抱える様々な問題を読み解きながら、問題解決のためにどのようなことが出来るのか、ただ机上の空論としてではなく、実地の取り組みを進めていく。				
評価方法・基準	課題が与えられた題目に沿っていること、レジュメ・スクリーン提示・口頭のバランスがとれたプレゼンテーション、批判的視点を持った議論参加、スケジュールの遵守を特に重視する。				
履修上の注意事項等	無断欠席は1回でも不可とする。				
テキスト	適宜資料を配布する				
参考書	適宜資料を配布する				

科目名	演習Ⅱ（十）			期間	後期
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	3
テーマ	現代社会の問題点を見出し、論理的思考を身につけ、研究に必要な実装能力の向上を目指す。				
到達目標	情報技術の観点から現代社会の問題点を解決・改善するための提案手法を考え、従来手法と比較するとともに、自らシステムを実装できる能力の向上を目指す。				
授業概要	各自の研究テーマに関連する論文を調査し、従来研究と提案手法との比較を行う。また、研究テーマにおいて、全体のシステム概要を考える。次に、各自の研究テーマで用いるセンサーについて、入力、処理、出力の方法についての解説を行い、それに応じた実装方法を説明する。さらに、各自のシステムにおいて、入力、処理、出力の関係性を明確にした上で、実装を行う。				
評価方法・基準	成績は、各自の研究テーマ発表（50点）、レポート課題（50点）で評価する。なお、各課題は、分かりやすさ、研究背景、研究目的、関連研究などが論理的な記述になっているかを評価する。				
履修上の注意事項等	パソコンの基本操作は、学部で習得しておくこと。基本操作でわからないことがある者は情報処理センターのサポートを受けること。レポート課題の締め切りは厳守のこと。				
テキスト	web教材				
参考書					

科目名	演習Ⅲ（一）			期間	前期
担当教員	倉 光巖	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文執筆の指導と経営学トピックス解説				
到達目標	到達目標は卒業論文の完成。				
授業概要	卒業論文を完成させるために個人別指導を行う。論文のテーマ決定、ゼミ生の興味および問題意識の表現方法、必要な資料やデータ収集の方法、論理構成、学術論文の書式・体裁などを個人ごとに指導する。経営学のトピックスを適宜講義する。				
評価方法・基準	卒業論文の完成度、講義での応答内容による理解度、授業の参加態度等を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	論文執筆についても、経営学のトピックス講義にしても積極的な参加を期待する。				
テキスト					
参考書					

科目名	演習Ⅲ（二）			期間	前期
担当教員	尾上 正人	単位数	2	配当年次	4
テーマ	ビジネス・産業・労働から現代社会をみる				
到達目標	ビジネス・産業・労働から現代社会を見ることで、自らの将来を客観的に展望する力を身につける。				
授業概要	受講者各自の問題関心にしたがって、ビジネス・産業・労働等を中心とした切り口で現代社会（政治・経済）を分析してゆく。				
評価方法・基準	授業中の発表の内容（文献を読みこなした上での確かな意見・論点を付け加えているか）60%、授業に対する積極性40%（講義中の質問、他の発表者に対する意見表明などを積極的に行なっているかどうか）				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書					

科目名	演習Ⅲ（三）			期間	前期
担当教員	片雪蘭	単位数	2	配当年次	4
テーマ	異文化理解とフィールドワーク				
到達目標	本授業では、ダイバーシティが求められる現代社会において、多様な人々の文化を理解し、自文化を相対化することができるように、文化人類学的な考え方を身につける。具体的には、1) 文献調査や予備調査で得られたデータに基づいて、研究テーマを概念化する方法を学ぶ。また、2) 研究テーマに関する先行研究を調べ、これまでの研究を整理し、レビューする方法を学ぶ。				
授業概要	本授業では、自分の研究テーマについての調査と考察を深めることに取り組む。また、卒業論文に向けて、具体的な研究計画を立てる準備をする。				
評価方法・基準	授業の参加度と最終レポートなどを総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	自分の担当のときには責任を持って発表をし、他の受講生の発表に対しても積極的に意見を出すことが望ましい。				
テキスト	適宜紹介する				
参考書	人類学とは何か、トーマス・ヒランド・エリクセン、世界思想社、2008 フィールドワークへの挑戦、菅原和孝、昭和堂、2006 エスノグラフィー入門―現場を質的研究する、小田 博志、春秋社、2010				

科目名	演習Ⅲ（四）			期間	前期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文の作成に向けた個人指導				
到達目標	卒業論文の作成				
授業概要	卒業論文の作成に向けた個人指導を行う。				
評価方法・基準	学期末に作成した卒論作成計画を評価対象とする。				
履修上の注意事項等	就職活動などでやむを得ず欠席する場合は、事前に電話などで連絡すること。無断欠席は認めない。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	演習Ⅲ（五）			期間	前期
担当教員	竹中 浩	単位数	2	配当年次	4
テーマ	現代社会の諸問題に関する学習と卒業論文の準備				
到達目標	現代社会の諸問題について広く学ぶとともに、興味のあるテーマを選び、歴史的背景と外国との比較に注意しつつ、理解を深める。広い視野の中で社会問題を捉える姿勢を身につける。				
授業概要	授業の半分で、新聞記事等の資料を使いながら、現代社会の諸問題について理解を深める。残りの半分で、各々が選んだテーマについて順に報告し、議論する。議論を通じて、自分のテーマだけでなく、他の参加者のテーマについても知識と理解を深める。				
評価方法・基準	口頭での発表（50%程度）、ディスカッションへの参加（50%程度）を合わせて評価する。後者については、準備がどの程度できていたか、議論への参加がどの程度積極的であったかを見る。				
履修上の注意事項等	特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料のコピー等を配布する。原則として、毎回担当を決め、自分の選んだテーマについて報告してもらう。担当者は内容がよくわかるような配布資料を作成する。他の参加者も積極的にディスカッションに参加すること。				
テキスト					
参考書	学術論文の技法、齊藤孝・西岡達裕、日本エディタースクール出版部、2005				

科目名	演習Ⅲ（六）			期間	前期
担当教員	中原 洪二郎	単位数	2	配当年次	4
テーマ	地域活性化と地域ブランド研究				
到達目標	地域活性化と地域ブランド研究における十分な理論的理解を踏まえた上で、具体的な地域の問題を再発見し、改善に向けた提案および実地の行動が出来るようにする。				
授業概要	この授業では、地域活性化と地域ブランディングについて、実地での取り組みを通して学ぶ。主なフィールドは奈良およびその近隣地域。授業として具体的な対象地域を定め、その地域が抱える様々な問題を読み解きながら、問題解決のためにどのようなことが出来るのか、ただ机上の空論としてではなく、実地の取り組みを進めていく。				
評価方法・基準	課題が与えられた題目に沿っていること、レジュメ・スクリーン提示・口頭のバランスがとれたプレゼンテーション、批判的視点を持った議論参加、スケジュールの遵守を特に重視する。				
履修上の注意事項等	無断欠席は1回でも不可とする。				
テキスト	適宜資料を配付する				
参考書	適宜資料を配付する				

科目名	演習Ⅲ（七）			期間	前期
担当教員	★中坊 勇太	単位数	2	配当年次	4
テーマ	経済学に関する卒業研究				
到達目標	受講者の興味関心による研究テーマ決定と、主体的に卒業研究に取り組むための研究計画立案を行い、実際に研究を進めることを目標とする。				
授業概要	受講者の興味関心にしたいが、卒業研究のテーマを決定する。そして研究計画を立て、先行研究のレビュー、問題提起・仮説設定を行う。必要に応じ分析手法を習得し、実際に分析を進める。適宜進捗状況報告を行い、受講者全員で改善点や今後の進め方について議論する。学期末に中間報告を行い、レポートにまとめ提出してもらう。				
評価方法・基準	授業中の報告と授業参加50%（演習内での指摘を次の報告内容に生かしているかと積極的に議論に参加しているかを重視）、学期末レポート50%（研究内容を論理的にまとめているかを評価）				
履修上の注意事項等	欠席する場合は事前に連絡すること。報告に当たっていないときも議論に積極的に加わること。				
テキスト	適宜、プリント資料を配布する。				
参考書	適宜、紹介する				

科目名	演習Ⅲ（十）			期間	前期
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業研究に必要な論理的思考を身につけ、様々なデータ分析、問題発見ができる能力を身につける。				
到達目標	各自の研究テーマに対して、現代社会の問題を理解し、その問題を調査するために必要なデータの収集・分析できる能力を身につけることを目標としている。				
授業概要	卒業研究のテーマを確定し、それに基づいて関連研究・分野との比較、必要なデータを収集・分析する方法を教え、卒業研究をまとめていく。さらに、各自の研究テーマに関する発表を行い、ゼミ内で情報共有を行う。				
評価方法・基準	成績は、各自の研究テーマ発表（30点）×2回、レポート課題（40点）で評価する。なお、各課題は、分かりやすさ、研究背景、研究目的、関連研究などが論理的な記述になっているかを評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	web 教材				
参考書					

科目名	演習Ⅳ（一）			期間	後期
担当教員	倉 光巖	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文執筆の指導と経営学トピックス解説				
到達目標	到達目標は卒業論文の完成。				
授業概要	卒業論文を完成させるために個人別指導を行う。論文のテーマ決定、ゼミ生の興味および問題意識の表現方法、必要な資料やデータ収集の方法、論理構成、学術論文の書式・体裁などを個人ごとに指導する。経営学のトピックスを適宜講義する。				
評価方法・基準	卒業論文の完成度、講義での応答内容による理解度、授業の参加態度等を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	論文執筆についても、経営学のトピックス講義にしても積極的な参加を期待する。				
テキスト					
参考書					

科目名	演習Ⅳ（二）			期間	後期
担当教員	尾上 正人	単位数	2	配当年次	4
テーマ	ビジネス・産業・労働から現代社会をみる				
到達目標	ビジネス・産業・労働から現代社会を見ることで、自らの将来を客観的に展望する力を身につける。				
授業概要	受講者各自の問題関心にしたいが、ビジネス・産業・労働等を中心とした切り口で現代社会（政治・経済）を分析してゆく。				
評価方法・基準	授業中の発表の内容（文献を読みこなした上での確かな意見・論点を付け加えているか）60%、授業に対する積極性40%（講義中の質問、他の発表者に対する意見表明などを積極的に行っているかどうか）				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書					



科目名	演習Ⅳ（三）			期間	後期
担当教員	片雪蘭	単位数	2	配当年次	4
テーマ	異文化理解とフィールドワーク				
到達目標	本授業では、ダイバーシティが求められる現代社会において、多様な人々の文化を理解し、自文化を相対化することができるように、文化人類学的な考え方を身につける。具体的には、1) 文献調査やフィールドワークの成果を論理的な構成のもとに執筆する。また、2) 他者にわかりやすく論文を書き上げる技法を学ぶ。				
授業概要	本授業では、これまで調べてきてことを実際に書き上げ、他学生と草稿に対するコメントを出し合い、積極的にディスカッションすることで、論文を完成させる。				
評価方法・基準	授業の参加度と論文などを総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	自分の担当のときには責任を持って発表をし、他の受講生の発表に対しても積極的に意見を出すことが望ましい。				
テキスト	適宜紹介する				
参考書	人類学とは何か、トーマス・ヒランド・エリクセン、世界思想社、2008 フィールドワークへの挑戦、菅原和孝、昭和堂、2006 エスノグラフィー入門―〈現場〉を質的研究する、小田 博志、春秋社、2010				

科目名	演習Ⅳ（四）			期間	後期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	4
テーマ	卒業論文作成の個人指導				
到達目標	学術的根拠を明確にした説得力のある卒業論文の作成を目指す				
授業概要	卒業論文の完成に向けた個人指導を行う。				
評価方法・基準	進捗状況を正確に報告できているか、各回での指導および指摘を次の報告までに適切に反映できているかを総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	就職活動などでやむを得ず欠席する場合は、事前に電話などで連絡すること。無断欠席は認めない。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	演習Ⅳ（五）			期間	後期
担当教員	竹中 浩	単位数	2	配当年次	4
テーマ	リサーチ・ペーパーの書き方				
到達目標	参加者が選んだテーマについて認識を深めるとともに、自分の関心を論文の形にまとめるための技術を習得する。				
授業概要	参加者の問題関心に共通する文献を選び、輪読するとともに、各々が選んだテーマについて順に報告し、議論する。その際、漠然とした問題関心を研究の形にまとめていく手順について説明する。				
評価方法・基準	口頭での発表（50%程度）、授業の準備とディスカッションへの参加（50%程度）を合わせて評価する。口頭での発表については、わかりやすく説明できたかどうかを重視する。				
履修上の注意事項等	原則として、毎回担当を決め、自分の選んだテーマについて報告してもらう。担当者は内容がよくわかるような配布資料を作成する。他の参加者も積極的にディスカッションに参加すること。				
テキスト					
参考書	学術論文の技法（新訂版）、齊藤孝・西岡達裕、日本エディタースクール出版部、2005				

科目名	演習Ⅳ（六）			期間	後期
担当教員	中原 洪二郎	単位数	2	配当年次	4
テーマ	地域活性化と地域ブランド研究				
到達目標	地域活性化と地域ブランド研究における十分な理論的理解を踏まえた上で、具体的な地域の問題を再発見し、改善に向けた提案および実地の行動が出来るようにする。				
授業概要	この授業では、地域活性化と地域ブランディングについて、実地での取り組みを通して学ぶ。主なフィールドは奈良およびその近隣地域。授業として具体的な対象地域を定め、その地域が抱える様々な問題を読み解きながら、問題解決のためにどのようなことが出来るのか、ただ机上の空論としてではなく、実地の取り組みを進めていく。				
評価方法・基準	課題が与えられた題目に沿っていること、レジュメ・スクリーン提示・口頭のバランスがとれたプレゼンテーション、批判的視点を持った議論参加、スケジュールの遵守を特に重視する。				
履修上の注意事項等	無断欠席は1回でも不可とする。				
テキスト	適宜資料を配付する				
参考書	適宜資料を配付する				

科目名	演習Ⅳ（七）			期間	後期
担当教員	★中坊 勇太	単位数	2	配当年次	4
テーマ	経済学に関する卒業研究の完成				
到達目標	前期に決定した研究テーマについて、自分の意見を持ち、それを論文という形で、論理的・客観的にまとめることができるようになることが目標である。				
授業概要	前期に引き続き、卒業研究を進める。学期中何度か進捗状況を報告してもらい、受講者全員で議論する。議論の結果、計画の修正や追加分析等を行いながら卒業研究を完成させる。学期末には卒業論文を執筆し、その内容を報告してもらう。				
評価方法・基準	授業中の報告（演習内での指摘を次回の報告内容に生かしているか、研究内容を論理的に説明しているかを重視）と授業参加（積極的に議論に参加しているかを重視）によって総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	欠席する場合は事前に連絡すること。報告に当たっていないときも議論に積極的に加わること。				
テキスト	適宜、プリント資料を配布する				
参考書	適宜、紹介する				

科目名	演習Ⅳ（十）			期間	後期
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	4
テーマ	研究に必要なプレゼンテーション能力、論理的思考を身につけ、卒業研究を通じて、論文をまとめる。				
到達目標	卒業研究を通じて、現代社会の問題点を探求し、情報技術を用いて、問題点を改善・解決するアイデアを提案できる能力を身につけ、卒業論文を完成させる。				
授業概要	各自のテーマに従って、必要なデータを収集し、分析した上で、評価を行い、問題点を考え、改善させる。また、研究目的、関連研究、調査方法、分析結果、考察、今後の課題を卒業論文として、まとめられるように指導する。さらに、論理的思考を身につけ、研究課題を共有するための研究発表を行う。				
評価方法・基準	成績は、研究概要発表（50点）、研究発表（50点）で評価する。各課題は、研究背景、目的、方法、考察などが、論理的にまとまっているかを評価する。				
履修上の注意事項等	指示された締切は厳守すること。				
テキスト	web教材				
参考書					

科目名	文化人類学			期間	前期
担当教員	片 雪蘭	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	文化人類学の基礎				
到達目標	文化人類学の基礎的な概念と思考方法を学び、多様な文化を理解するための知識と態度を身につける。またそのことを通して、これまで当たり前だと考えていた身の回りの事柄を新しい観点から観察できるようになる。				
授業概要	世界各地のさまざまな生活や文化的な実践について、文献資料や画像、映像資料等を通して確認し、それらを理解するための理論や概念を学習する。本講義では、長期間の住み込み調査に基づいて現地の文化的実践を記述してきた「文化人類学」の理論と基礎概念を通して、異文化を理解するための方法を学ぶ。				
評価方法・基準	平常点 30% 毎回の講義に提出するコメントシート（講義への質問やコメント等）に基づいて評価する。 定期試験 70% 文化人類学の基本概念や異文化の理解を問う（定期試験期間（16週目）に定期試験を実施する）。				
履修上の注意事項等					
テキスト	資料を配布する				
参考書	文化人類学の思考法, 松村圭一郎・中川理・石井美保編, 世界思想社, 2019 これからの時代を生き抜くための文化人類学入門, 奥野克己, 辰巳出版, 2022 21世紀の文化人類学, 前川啓治・箭内匡他編, 新曜社, 2018				

科目名	政治学			期間	前期
担当教員	竹中 浩	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	政治学の概説				
到達目標	政治学の基本的な考え方を身につけ、政治学的な議論のスタイルに慣れるとともに、現代の政治現象に対するバランスのとれた見方ができるようにする。				
授業概要	この授業では、広く社会科学を学ぶうえで必要な、政治学の基本事項について解説する。特に、経済学や社会学との違いに焦点を合わせ、社会科学の一部門としての政治学がもつ特質について学ぶ。				
評価方法・基準	基本的に2回の課題レポートによって評価する（1回目40%、2回目60%）。授業の最後に小テストを行い、その提出によって出席を確認するが、出席状況の良好な人については評価の際に考慮する。				
履修上の注意事項等	授業およびテキストの内容をよりよく理解するために、授業で使用したパワーポイントの資料をポータルサイトの「講義連絡」にアップするので、復習の際に活用してほしい。課題レポートを1回でも提出しないと単位が取得できないので注意すること。				
テキスト	政治学（第2版）, 川出良枝・谷口将紀編, 東京大学出版会, 2022				
参考書					

科目名	経営学			期間	前期
担当教員	倉 光巖	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	経営学の主要なテーマである「経営管理論」や「経営戦略論」をもとに経営学を学ぶ。				
到達目標	経営学のベースとなるテーマを学んで経営の実際や企業行動を理解する。				
授業概要	半導体製造装置・液晶製造装置・印刷製版機器メーカーにおいて「ものづくり」に30年、「調達業務統括」に10年、物流企業の経営者として4年携わってきたキャリアを生かして、経営学の基本的な考え方を経営現場と理論の両面から講義する。企業を取り巻く外部環境の変化が、経営戦略および組織改革などの企業行動、とくに経営の資源であるヒト・モノ・カネ・情報・時間の使い方にどのようにつなげるかを考える。				
評価方法・基準	受講者の講義内容に関する理解や講義内容をベースにした見解について提出されたコメントを評価し、総合評価を行う。場合によっては毎回コメントの代わりにレポート提出を求め、これを評価対象にすることもある。				
履修上の注意事項等	(予習) 自作レジュメを各講義前にポータルサイトへ掲載するので一読して授業に出席すること。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目になる。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施する。履修学生の理解度を勘案して講義内容を変更することもある。				
テキスト	自作レジュメをポータルサイトに掲示				
参考書					

科目名	家政学			期間	後期
担当教員	★坂本 勝	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	ライフプランニング実現に必要な知識を学ぶ。人生設計、投資というテーマで、知識を身に付ける内容である。				
到達目標	最終目標は、生涯で必要となる資金を具体的に把握し、そのために必要な手立てが行える能力を身に付けるレベルです。各回の講義は、そのための基本知識習得です。				
授業概要	こだわりのライフスタイルには、「自己責任」の認識が必要です。人生の損得は、選択した「ライフプランニング」の巧拙で大きく変わる。生涯に必要な金額を見積る知識を持ち、年金・保険の仕組みを日常生活の身近な事例で解説していく。講義はファイナンシャルプランナー有資格者で、実務でプランニング相談を行っている教員が担当し、相談実例をモデルケースとして参照しながら、国家資格「FP 技能士3級」の受験科目「ライフプランニング」「リスク管理」「金融資産運用」の検定試験の合格水準を目指す。				
評価方法・基準	講義中に行なう確認テスト(40%)と定期試験(60%) 確認テストは前回講義内容をもとに語句の説明や理解度を把握する。 定期試験は、国家資格試験と同等レベルとする。				
履修上の注意事項等	社会学部、資格関連科目「FP 技能士3級試験」合格を目指す内容となる。 資格試験は、家政学に別途実施のスクーリングを含めた内容となる。 試験の受験希望者はこちらの参加も必要。 資格に関しては、オリエンテーションにて説明する。				
テキスト	担当者が実費配布				
参考書	なし				

科目名	地域社会学			期間	前期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	都市・農村格差の理解				
到達目標	都市と農村の集団構成の違いに着目し、日本における社会問題の存在を再認識する				
授業概要	都市と農村の対比から明らかになる現代社会の社会問題を、近現代史的な観点を踏まえて読み解いていく。				
評価方法・基準	学期末試験(60点)と授業課題(40点)の合計。学期末試験は筆記試験とし、授業課題はGoogleClassroomを用いて提出してもらう。				
履修上の注意事項等	本科目ではGoogleClassroomを併用する。履修者はtboxのアカウントでログインしてもらうので、tboxのアカウントを事前にアクティベートし、招待メールを受け取れるように設定しておくこと。				
テキスト	都市社会学入門 改訂版, 松本康, 有斐閣アルマ, 2022				
参考書					

科目名	家族社会学			期間	前期
担当教員	★中田 奈月	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	社会・家族・規範・ルール				
到達目標	・家族をめぐるさまざまな社会現象を複眼的に捉えることができる。 ・家族をめぐるさまざまな社会事象を社会学の概念を用いて説明できる。				
授業概要	社会学の考え方を基盤として家族をめぐるさまざまな事象をとらえることを目的とする。家族めぐり、私たちが暗黙のうちに従っているルールとは何か、そこに何かがあるのかを検討する。				
評価方法・基準	用語確認(50点): ・重要な知識の修得度を判断する。 グループワークおよび報告(50点): ・テーマを理解してテーマに沿って報告できる形に仕上げる過程について、グループ以外の受講者による報告評価およびグループ内の相互評価で評価する。				
履修上の注意事項等	授業時間外のグループワークにも参加することを求める。 Google Classroomを使用して授業を進める。ログインできるコンピュータやタブレット等を持参して受講すること。				
テキスト	なし				
参考書	その都度提示				

科目名	国際社会学			期間	前期
担当教員	中原 洪二郎	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	国際社会の多水準分析				
到達目標	国際社会を国家間の関係としてだけでなく他の社会集団や個人を含めた関係として理解し、自身と世界の関わりを深く考察すること。				
授業概要	主に（1）国家間関係としての国際社会（2）民族集団や企業、NGO など非国家間関係としての国際社会（3）国際社会における「個人」の意味と役割、という3つの水準と、世界の（1）民族と文化（2）産業・経済・労働（3）情報化、という3つの視点から、国際社会の構造を分析・検討する。				
評価方法・基準	a=各回の理解度確認（75%）+最終課題（25%） 課題の評価基準：（要求課題に沿っている and 講義の内容を踏まえている and 論理的に一貫している） and（独自の視点が盛り込まれている or 批判的視点が盛り込まれている） 最終課題の評価基準：各回課題の評価基準に加えて、「自分」という視点が盛り込まれていること				
履修上の注意事項等	課題提出をおろそかにしないこと。詳しくは第1回の講義で説明するので、必ず出席すること。				
テキスト	適宜資料を配付する				
参考書	適宜資料を配付する				

科目名	現代社会と哲学（一）			期間	前期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	生活と文化の思想				
到達目標	生活文化（特に生きることににおける人と物との関わり）への関心を喚起し、物の具体性を手掛かりに人間存在について考えることを目標とします。				
授業概要	日常生活から出発して人間を考えます。特に生活の基本道具から見えてくる様々の連関を掘り下げていきます。哲学（生活文化論、風土論）、民俗学（アチックミュージアム、渋沢敬三、宮本常一）、工芸論（ウィリアム・モリス、民藝運動）等にも言及しつつ、物に映し出される人間の姿を捉える予定です。				
評価方法・基準	平常点40%程度（コメント記入の充実度、等）と、学習到達度確認60%程度（基本概念の理解、等）とで、総合評価する。（授業を踏まえ、自分なりの考察に深まりがあることを重視。）				
履修上の注意事項等	毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト					
参考書	屋根裏部屋の博物館、国立民族学博物館、淡交社、2013 工芸文化、柳宗悦、岩波書店、2003 民衆の芸術、ウィリアム・モリス、岩波書店、1953				

科目名	現代社会と哲学（二）			期間	後期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	生活と文化の思想				
到達目標	生活文化（特に生きることににおける人と物との関わり）への関心を喚起し、物の具体性を手掛かりに人間存在について考えることを目標とします。				
授業概要	日常生活から出発して人間を考えます。特に生活の基本道具から見えてくる様々の連関を掘り下げていきます。哲学（生活文化論、風土論）、民俗学（アチックミュージアム、渋沢敬三、宮本常一）、工芸論（ウィリアム・モリス、民藝運動）等にも言及しつつ、物に映し出される人間の姿を捉える予定です。				
評価方法・基準	平常点40%程度（コメント記入の充実度、等）と、学習到達度確認60%程度（基本概念の理解、等）とで、総合評価する。（授業を踏まえ、自分なりの考察に深まりがあることを重視。）				
履修上の注意事項等	毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト					
参考書	屋根裏部屋の博物館、国立民族学博物館、淡交社、2013 工芸文化、柳宗悦、岩波書店、2003 民衆の芸術、ウィリアム・モリス、岩波書店、1953				

科目名	現代社会と倫理（一）			期間	前期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	「人と物」について論じる				
到達目標	物が人間に対して持つ様々な意味を、取り出し、考えます。特に原型的な道具的な物の意味理解を通じて、世界や人間への関心を広げることを目標とします。				
授業概要	「ホモ・ファベル」という人間規定もありますが、人間が自然から素材を得て、手で物を作り出す行為は現在も続いています。そのような営為、またそれによって生み出される物が、人間にとって持つ意味は何でしょうか。道具の機能的、記号的、身体的、美的観点から、それを考えます。後半は、具体例を検討する予定です。				
評価方法・基準	平常点40%程度（コメント記入の充実度、中間の学習到達度確認、等）と、レポート60%程度（必要な情報を自分の言葉でまとめられているか等）とで、総合評価する。				
履修上の注意事項等	毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	手仕事の日本、柳宗悦、岩波書店、1885 生きることの人間論、伊藤・丸田・島本・市川、ナカニシヤ出版、2016				
参考書	ものと人間の文化史 シリーズ法政大学出版局				

科目名	現代社会と倫理(二)			期間	後期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	「人と物」について論じる				
到達目標	物が人間に対して持つ様々な意味を、取り出し、考えます。特に原型的な道具的な物の意味理解を通じて、世界や人間への関心を広げることを目標とします。				
授業概要	「ホモ・ファベル」という人間規定もありますが、人間が自然から素材を得て、手で物を作り出す行為は現在も続いています。そのような営為、またそれによって生み出される物が、人間にとって持つ意味は何かでしょうか。道具の機能性、記号性、身体性、美の観点から、それを考えます。後半は、具体例を検討する予定です。				
評価方法・基準	平常点40%程度(コメント記入の充実度、中間の学習到達度確認、等)と、レポート60%程度(必要な情報を自分の言葉でまとめられているか等)とで、総合評価する。				
履修上の注意事項等	毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	手仕事の日本, 柳宗悦, 岩波書店, 1885 生きることの人間論, 伊藤・丸田・島本・市川, ナカニシヤ出版, 2016				
参考書	ものと人間の文化史 シリーズ法政大学出版局				

科目名	社会統計学 I			期間	前期
担当教員	中原 洪二郎	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	統計と統計学:「読み方」と「使い方」				
到達目標	社会統計学の基礎的な知識と、統計と統計学を活用するために必要な態度を身につけること。				
授業概要	この講義では、社会調査データが現実の社会でどのように使われているか、それをどのように読み解けばよいか、という「利用者」としての視点と、調査を実施し、それをどのように伝えればよいか、という「分析者」としての視点の両方について学ぶ。				
評価方法・基準	理解度確認50%+定期試験50% 理解度確認の評価基準:各回で明示するポイントを理解できているか 定期試験の評価基準:(1)与えられたデータ、数値を統計学的に正しく取り扱うことができているか(2)社会統計学の概念を総合的に理解できているか				
履修上の注意事項等	√(ルート)の計算ができる電卓を用意すること。理解度確認や資料の蓄積は Google Classroom を用いる。				
テキスト	適宜資料を配付する				
参考書	適宜資料を配付する				

科目名	社会統計学 II			期間	後期
担当教員	中原 洪二郎	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	推測統計学の基礎				
到達目標	推測統計のしくみと確率・相関係数の概念を理解し、与えられたデータを用いて適切な手法による推定・検定を行えるようになることが目標である。				
授業概要	本講義では、社会調査データの分析に必要な統計的知識のうち、主として推測統計学についての基礎的な事項を講義する。まず記述統計量の平均と標準偏差についてのおさらいからはじめ、確率論の基礎と正規分布・二項分布、母集団推定と仮説検定の基礎へと学びを進める。				
評価方法・基準	理解度確認50%+定期試験50% 理解度確認の評価基準:各回で明示するポイントを理解できているか 定期試験の評価基準:(1)与えられたデータ、数値を統計学的に正しく取り扱うことができているか(2)社会統計学の概念を総合的に理解できているか				
履修上の注意事項等	√(ルート)の計算ができる電卓を用意すること。理解度確認や資料の蓄積は Google Classroom を用いる。				
テキスト	社会科学のための統計学入門 実例からていねいに学ぶ, 毛塚和宏, 講談社, 2022				
参考書	なし				

科目名	デジタルアーカイブ概論			期間	前期
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	情報技術を活用した有形・無形文化財のデジタル化に関する基礎知識の習得と応用力を養う。				
到達目標	有形・無形文化財に対するデジタル化に関する基礎知識を学び、様々な計測手法の利点と欠点を正しく理解し、計測対象によって、計測手法を選択できることを身につける。				
授業概要	国内外で実施されているデジタルアーカイブ、本学で実施しているモンゴル国のデジタルアーカイブを紹介する。また、デジタルアーカイブの基本となるカメラの原理や違いについて解説する。さらに、デジタルアーカイブで利用する画像計測、およびレーザ計測についての原理を概説する。最後にデジタルデータを出力できる3Dプリンタの原理について解説する。				
評価方法・基準	成績評価は、各回で出題する小レポートで評価する。評価基準は、各回で説明した内容が正しく理解しているかどうかを判断する。配点は小レポート課題は第1回から第14回まで各5点、最終レポート課題は30点とする。				
履修上の注意事項等	情報学を履修中、もしくは履修済であること。総合社会学科の「文化情報コース」を希望するものは受講することが望ましい。				
テキスト	Web 教材				
参考書					

科目名	文化情報論			期間	後期
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	「情報」の観点から現代社会の諸問題や著作権法を学び、正しく情報を伝え、応用するための知識を習得する。				
到達目標	情報技術の発展の歴史を踏まえ、SNSの長所と短所、インターネットにおける著作権法などを正しく理解するとともに、IoTやAIが社会にどのように活用されているかを理解する。				
授業概要	情報技術の発展からSNS（ソーシャルネットワークサービス）の歴史、課題などを解説する。また、動画共有サービスと著作権問題について考える。さらに、近年、テレビの視聴率が下がってきていると言われていたが、それはなぜ起こるのか、視聴率調査の問題点、インターネットを利用した動画配信サービス、SNSとテレビ放送が融合したソーシャルテレビなどについて概説する。最後に、身近になったモノのインターネット（IoT）の原理やAIを紹介する。				
評価方法・基準	成績評価は、各回で出題する小レポートで評価する。評価基準は、各回で説明した内容が正しく理解しているかどうかを判断する。配点は小レポート課題は第1回から第14回まで各5点、最終レポート課題は30点とする。				
履修上の注意事項等	情報学を履修中、もしくは履修済であること。総合社会学科の「文化情報コース」を希望するものは受講することが望ましい。				
テキスト	web教材				
参考書					

科目名	国際政治学			期間	後期
担当教員	竹中 浩	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	国際政治学の基礎				
到達目標	国際政治学の基本的な概念や考え方について理解する。				
授業概要	この授業では、国際政治の歴史や、国際政治に対する基本的な見方について解説する。前半で17世紀から今日にいたるまでの国家間関係の歴史を概観し、後半で、国際政治を理解するための基本的な概念や考え方について説明する。特に、冷戦終焉の後、国際政治がどのように変化しつつあるかという点に注目する。				
評価方法・基準	基本的に2回の課題レポートによって評価する（1回目40%、2回目60%）。授業の最後に小テストを行い、その提出によって出席を確認するが、出席状況の良好な人については評価の際に考慮する。				
履修上の注意事項等	授業およびテキストの内容をよりよく理解するために、授業で使用したパワーポイントの資料をポータルサイトの「講義連絡」にアップするので、復習の際に活用してほしい。課題レポートを1回でも提出しないと単位が取得できないので注意すること。				
テキスト	国際政治学をつかむ 第3版, 村田晃嗣他, 有斐閣, 2023				
参考書					

科目名	産業社会学			期間	後期
担当教員	尾上 正人	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	日本の企業とそこでの組織や労働の特徴的なあり方について、社会学的な立場から実態分析する。				
到達目標	日本の産業社会に関して客観的・実証的な知見を得、将来従事すべき職業や労働に対して主体的に研究できるようにすることを目標とする。				
授業概要	本講義では、産業社会学の概念枠組と方法論を学史的に遡って確定した後に、サブテーマごとにこうした特徴ある日本産業社会の実態を、歴史的・国際比較的に見てゆく。また、グローバル化の中で、こうした日本の特質がどのように変容を迫られてゆくかについても展望する。				
評価方法・基準	平常点30%（課題提出などでの積極的な態度を重視）、学習到達度確認70%（日本産業社会の特質について基礎的な知識が得られているか、またそれをもとに資料・データを読みこなす力があるかを評価する）				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	新しい産業社会学—仕事をとおしてみる日本と世界、犬塚先（編）、有斐閣、2003 仕事の経済学、小池和男、東洋経済新報社、2006				

科目名	情報社会学			期間	後期
担当教員	★喜多 満里花	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	現代の情報社会における情報メディア、社会、個人の関係性について考える				
到達目標	学生が情報社会についての基礎的な理論を理解し、情報社会について関心のある事柄について社会学的に考える能力を獲得することを目標とする				
授業概要	メディアの歴史とその理論を概観した上で、近年の様々な事象を取り上げながら、急速に発達している現代の情報社会におけるメディアと情報と個人の関係について考察する				
評価方法・基準	毎回授業後には、自分の考えをまとめたり、授業で議論したこと具体例を探すワークが課される。その各回の課題の内容（約50%）、最終授業日に実施する学習到達度確認（約50%）で成績評価する。				
履修上の注意事項等	・ 前回の授業で指示された文献がある場合は熟読すること。 ・ 本講義では復習を重視するので、授業終了後は必ず講義資料と講義メモートを基に復習しておくこと ・ 指示内容に従わない課題や、明らかに授業資料に目を通していない課題は大きく減点する				
テキスト	『基礎ゼミ メディアスタディーズ』、石田佐恵子・岡井崇之編、世界思想社、2020				
参考書					

科目名	環境社会学			期間	後期
担当教員	★山本 素世	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	様々な環境課題の領域と展開について、環境社会学という視点から身近な課題として学ぶ				
到達目標	自然環境、生活環境などの環境に関する課題を多様な社会関係について社会的視点より捉え、これからの環境と市民生活について考える				
授業概要	環境課題の歴史的経緯、自然環境、社会環境など環境について多角的に学び、環境社会学のアプローチと分析手法を知る。これまでNPOやボランティアで環境教育、SDGsガイド、温暖化防止、まちづくりに取り組んできた現場の経験や実際の事例、調査で得た知見を活用し、地域の人々や諸団体の環境課題への取り組みから、市民生活と環境について解説する。また、SDGsと環境課題について、それぞれのテーマに応じて解説する。内容に応じてワークシートやアクティビティを活用する予定である。				
評価方法・基準	講義での発言やワークシート課題、講義終了時のコメント提出、ミニレポートなどで評価する。定期試験はレポートになるが、提出必須。				
履修上の注意事項等	ポータルでレジュメ等を配布するので、必ず確認する。講義に積極的に参加し、ワークシートやコメントをきちんと書いて提出する。ミニレポートおよび定期試験レポートの提出は、e-learning を利用するので使えるようにすること。				
テキスト	よくわかる環境社会学第2版、鳥越皓之・帯谷博明、ミネルヴァ書房、2017				
参考書					

科目名	ジェンダーとライフコース			期間	後期
担当教員	島本 太香子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	人間のライフステージを通じたジェンダーの諸課題を多角的、科学的に理解し、自ら考え選択し行動する力を養います。				
到達目標	ジェンダーの視点から先端医療と生命科学研究の最前線を概観し、性差の医学的背景と科学が提起する新しい社会的諸問題を理解して、生涯を通じて主体的に考えて行動する姿勢を身につける。				
授業概要	本講では人間のライフステージを通じたジェンダーの「生命科学的な基盤」と「社会、文化的要因」の関わりを考察する。近年の生命科学や医療技術の進歩はめざましく、古来の生殖や家族についての価値観が問い直されている。講義では産婦人科医師として患者の治療や医療行政に従事した経験を踏まえて、現代社会のジェンダーをめぐる様々な課題を発生学、発達心理学、性差医療、母子保健、生命倫理学等の観点から多角的に考察し、広く世界に目を向け他文化圏の状況と日本を比較、必要に応じて今日的な話題を取り入れ理解を深める。				
評価方法・基準	最終授業での学習到達確認20%（ジェンダーをめぐる現代社会の実情への理解、将来に向けて独自の課題意識を総合的に評価する）と授業中のミニレポート80%（講義内容の理解の確認）				
履修上の注意事項等	講義では、国内外の最新の生殖補助医療技術やジェンダーをめぐる今日的な話題を取り入れることがあります。健康科学I、IIとあわせて受講することで理解が深まります。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	生きることの人間論、島本太香子 他、ナカニシヤ出版、2016 必要な資料を授業で配布				
参考書					

科目名	東アジア・東南アジア社会論			期間	後期
担当教員	片 雪蘭	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	東アジア・東南アジアの生活と社会				
到達目標	文化人類学や地域研究の観点から東アジア・東南アジア地域に暮らす人々の生活や社会を理解し、現在どのような変化を迎えているのかを知る。				
授業概要	東アジアと東南アジアの諸社会について、生業、家族、宗教、民族などのテーマから説明し、ドキュメンタリー映画を鑑賞することでより理解を深める。				
評価方法・基準	平常点 30% 毎回の講義に提出するコメントシート（講義への質問やコメント等）に基づいて評価する。課題 70% 授業中に提出された課題と映画の感想文を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	資料を配布する				
参考書	東アジアで学ぶ文化人類学、上水流久彦他編、昭和堂、2019 東南アジアで学ぶ文化人類学、箕曲在弘他編、昭和堂、2024				

科目名	世界の民族誌			期間	前期
担当教員	片 雪蘭	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	民族誌からみる世界				
到達目標	本授業では、世界各地を対象とした民族誌を読み、各地域の生活世界と執筆された時代的背景を理解することを目標とする。				
授業概要	世界各地を対象にした5冊の民族誌を読み、各々の調査地や調査対象、調査内容を吟味する。また、写真や映像も参考にしつつ、各地域の生活世界を理解することによって自文化とは異なる世界のあり方を考えていく。				
評価方法・基準	平常点 30% 毎回の講義に提出するコメントシート（講義への質問やコメント等）に基づいて評価する。期末レポート 70% 民族誌を一つ選び、感想をレポートとして提出する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	資料を配布する				
参考書	なし				

科目名	経営管理論			期間	後期
担当教員	倉 光巖	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	組織論や経営戦略論をもとに経営管理論を講義する。				
到達目標	経営学の主要なテーマを学んで企業の組織や経営行動を理解する。				
授業概要	半導体製造装置・液晶製造装置・印刷製版機器メーカーにおいて「ものづくり」に30年、「調達業務統括」に10年、物流企業の経営者として4年携わってきたキャリアを生かして、経営学の基本的な考え方を経営現場と理論の両面から講義する。企業を取り巻く外部環境の変化が、経営戦略および組織改革などの企業行動、とくに経営の資源であるヒト・モノ・カネ・情報・時間の使い方にどのようにつなげるかを考える。				
評価方法・基準	受講者の講義内容に関する理解や講義内容をベースにした見解について提出されたコメントを評価し、総合評価を行う。場合によっては毎回コメントの代わりにレポート提出を求め、これを評価対象にすることもある。				
履修上の注意事項等	(予習) 自作レジュメを各講義前にポータルサイトへ掲示するので一読して授業に出席すること。 履修学生の理解度を勘案して講義内容を変更することもある。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となる。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施する。				
テキスト	自作レジュメをポータルサイトに掲示				
参考書					

科目名	産業と技術の発展			期間	後期
担当教員	尾上 正人	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	近代日本の産業・技術の発展を概観する				
到達目標	人や事件を軸にした歴史とは異なった、連続性と断層の織り交じった技術史を知ること、科学的・客観的な歴史観・社会観を身に付けてもらうことを目標とする。				
授業概要	日本は戦後、特に「産業立国」「技術立国」として国際的地位の飛躍的な向上を成し遂げた。しかし、90年代以降のグローバル化する経済の中で、日本はいくつかの産業技術分野において新興諸国の後塵を拝するようになってきている。日本が「技術立国」としての地位を回復するために必要なことは何であろうか。				
評価方法・基準	平常点30% (課題提出などでの積極的な態度を重視)、学習到達度確認70% (産業と技術の発展の歴史について基礎知識がある、また近年の諸国の経済・産業事情について理解しているかどうかを評価する)				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	人間と労働の未来, 中岡哲郎, 中公新書, 1970 日本の技術と産業の発展, 森谷正規, 放送大学, 1996 日本産業史1~4, 山口・中村・向坂・服部, 日経文庫, 1994				

科目名	知的財産管理論			期間	前期
担当教員	★伊吹 秀之	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	知的財産の基礎を学び、知的財産管理技能検定3級(国家資格)に合格できるだけ知識を習得する。				
到達目標	知的財産管理技能検定3級に合格する。				
授業概要	近年、ビジネスにおいて特許、実用新案、意匠、商標(ブランド)、著作権などの知的財産の保護・活用が重要になっており、企業経営においても知的財産戦略が重要になっています。このような状況に対応できる人材育成を目的として、中小企業診断士として経営コンサルタントに従事してきた経験を踏まえ、知的財産に関する基礎知識を事例を挙げながら学んでいきます。				
評価方法・基準	定期試験60% (販売に関する基本的概念や語句の理解を問う、講義の内容を理解して具体的事例等に活用できるかを問う) 平常点40% (講義中の授業態度、発言、理解度など)				
履修上の注意事項等	知的財産管理技能検定3級試験を受験する受講生は資格試験対策講座を受講すること。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	知的財産管理技能検定3級テキスト(改定14版), 知的財産教育協会, 株式会社アップロード, 2023				
参考書					

科目名	消費者行動分析			期間	後期
担当教員	★薮野 祥太	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	消費者行動の基本的な概念や原理の理解				
到達目標	(1) 消費者行動論の基本モデルや概念の理解ができる。 (2) 自らの普段の消費者行動原理を理解できる。 (3) 企業が消費者の行動を、どのような手法で分析しようとしているのか理解できる。				
授業概要	消費は私たちの生活の上でとても身近な行為です。ただし、個人の特徴や状況、環境など様々な要因によって消費者の行動は変化します。そこで本講義では、消費者行動に関する基本的な概念や原理を中心に学習し、日常的な行動の理由・要因を考えていきます。				
評価方法・基準	毎講義内で実施するミニレポート: 50% 期末試験: 50% (定期試験期間に実施) ※詳細は第1回講義にて説明します				
履修上の注意事項等	講義中の入退室は控えてください。 講義中の私語は退室を命じる場合があります。				
テキスト	ポータルサイト等で資料を配布				
参考書	消費者行動論(ベーシック+), 田中洋, 中央経済社, 2015 消費者行動論(有斐閣アルマ Specialized), 青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司, 有斐閣, 2012 1からの消費者行動 第2版, 松井剛・西川英彦, 中央経済社, 2020				



科目名	企業倫理と消費者			期間	後期
担当教員	倉 光巖	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	企業倫理の概念、ガバナンスの方法論および企業が抱えるリスクについて講義する。企業不祥事・不正問題などを学問的に追究する。				
到達目標	社会変化・経済変化に対応している企業のガバナンス方法を理解する。発生する企業の不祥事に対して、ガバナンスをどのように効かせるかも研究する。企業が想定するリスクについても理解を深める。				
授業概要	半導体製造装置・液晶製造装置・印刷製版機器メーカーにおいて「ものづくり」に30年、「調達業務統括」に10年、「LOGISTICS 企業」の社長として4年携わってきたキャリアを生かして、企業の理念や倫理の概念、そしてガバナンスの方法論および企業が抱えるリスクについて講義する。想定したリスクに対応した経験についても話をする。				
評価方法・基準	受講者の講義内容に関する理解や講義内容をベースにした見解について提出されたコメントを評価し、総合評価を行う。場合によっては毎回コメントの代わりにレポート提出を求め、これを評価対象にすることもある。				
履修上の注意事項等	(予習) 自作レジュメを各講義前にポータルサイトへ掲示するので一読して授業に出席すること。 履修学生の理解度を勘案して講義内容を変更することもある。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となる。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施する。				
テキスト	自作レジュメを配布する。				
参考書	事前に講義連絡などを通じて連絡する。				

科目名	量的分析法			期間	前期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	統計データを用いた社会分析				
到達目標	計量的社会分析の基本手法である相関分析および回帰分析の基本発想と統計学的な特性、ならびに実用場面で注意すべき点などを学ぶ。				
授業概要	実際の社会調査データを用い、社会調査データをどのように分析し、どのような知見を引き出すかを体験的に学習してもらう。				
評価方法・基準	授業課題 (100点)。授業のたびにデータ分析の課題を与える。各回で提出された課題に対して理解度に応じて得点を与え、その合計点で成績を判定する。				
履修上の注意事項等	本授業は GoogleClassroom と本学 E-learning システムを併用する。GoogleClassroom への招待は履修者の tbox メールアカウントに対して行うので、事前に tbox のメールアドレスをアクティベートしておくこと。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	質的分析法			期間	後期
担当教員	片 雪蘭	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会調査と質的分析法				
到達目標	この授業では、参与観察やインタビューを中心とした質的な社会調査法の基本的な理論や概念を理解することを目標とする。				
授業概要	本授業では、社会調査法の一つである質的調査について、調査の企画・準備、手法（インタビュー法や参与観察法など）、その長所と短所、倫理について学ぶ。また、実践的な取り組みを行うことによって理論だけでは理解できない部分を補完し、最終的にはデータを分析することで質的調査のプロセスの理解を深める。				
評価方法・基準	平常点 50% 授業で提示される課題で評価する。 期末レポート 50% 街を観察し、その報告書をレポートとして提出する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	資料を配布				
参考書	エスノグラフィー入門—<現場>を質的研究する、小田博志、春秋社、2010 質的調査の方法—都市・文化・メディアの感じ方、宮垣元・寺岡伸悟・工藤保則（編）、法律文化社、2010 フィールドワークへの挑戦、菅原和孝、昭和堂、2006				

科目名	プログラミング言語 I			期間	前期
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	Web プログラミングを用いて、独自の Web アンケートシステムを設計・実装できる技術を身につける。				
到達目標	Web プログラミングで必要な HTML 言語、PHP 言語、データベースの基礎知識を学び、簡単な Web アンケートが設計・実装できる技術を身につける。				
授業概要	ホームページで使われている HTML 言語について解説する。また、サーバとクライアントの関係について説明し、作成した HTML ファイルを公開する方法について説明する。次に、データベースの基礎、PHP 言語からデータベースを扱う方法について説明する。最後に、独自に Web アンケートを設計し、それを HTML 言語、PHP 言語を使って実装し、回答結果をデータベースに蓄積する方法を解説し、簡単な集計処理方法について説明する。				
評価方法・基準	成績は、HTML 言語、PHP 言語、Web アンケートに関する各課題（各20点）、および最終レポート課題（40点）で評価する。各課題は、基本文法が正しく理解でき、プログラムが機能しているかを評価する。				
履修上の注意事項等	パソコンの基本操作は習得済みであること。基本操作でわからないことがある者は情報処理センターのサポートを受けること。受講する場合には、「情報学」を履修済、もしくは履修中のこと。総合社会学科の「文化情報コース」に配属されたものは受講することが望ましい。				
テキスト	web 教材				
参考書					

科目名	プログラミング言語Ⅱ			期間	後期
担当教員	吉田 光次	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	動的なウェブページ作成に使われる JavaScript の初歩を理解しよう。				
到達目標	HTML,CSS,JavaScript によるウェブページの仕組みを理解し、動的なウェブページを作成する。また、閲覧可能なウェブサイト上で、動作を確認する。				
授業概要	本科目は、単に文章や画像を表示するのみのウェブページではなく、ユーザーのクリックに反応したり、条件によって異なる表示をしたり、動的な挙動をするウェブページを作成する仕組みとして、JavaScript の初歩を学習する。JavaScript は、プログラミング言語の一種であり、通常の制御構造を有するので、それらを理解したうえで、ウェブ上での実装を実現する。学生自身の PC を使い、プログラミングを行うので、毎回 PC を持参しなければならない。				
評価方法・基準	授業中に作成したプログラムを提出する。また、事後学習としていくつか課題を作成する。それらのプログラムの完成度を評価の基準とする。				
履修上の注意事項等	受講者自身の PC を利用するので、毎回持参すること。PC 利用については上級レベルの知識が必要である。課題は授業時間内に完成することは少なく、事後学習として作業を続けることが必要となることも覚悟し、かなりの学習時間を要する見込みである。				
テキスト	プリントなどを配付				
参考書					

科目名	社会調査実習（一）			期間	後期
担当教員	吉村 治正 正司 哲朗	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	計量的社会調査の実習				
到達目標	計量的社会調査を実施するための基礎知識および技能の習得				
授業概要	本実習では、実際に調査票を用いた社会調査を実施することで、調査企画・個人情報の管理・調査倫理・調査票の作成・集計・コーディング・エラーチェック・統計的分析・報告書の作成といった社会調査全般の技術と、調査に臨む姿勢を学ぶ。なお、本年度はインターネットを用いた調査（ウェブ調査）を行う。				
評価方法・基準	授業への貢献度および調査報告書へ寄稿されたデータ分析の内容を評価対象とする。				
履修上の注意事項等	本科目は社会調査協会の社会調査士資格の認定科目である。社会調査士資格の取得を希望する者は、本科目を必ず履修・単位取得する必要がある。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	総合社会学特殊講義（一）			期間	後期
担当教員	尾上 正人	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	ベンチャー・ビジネス論				
到達目標	現代の日本・世界の経済社会においてベンチャー・ビジネスが果たしている役割と、ベンチャー・ビジネスが抱えている諸問題についての理解を深める。				
授業概要	ソニーもホンダもソフトバンクも楽天も、そして GAFAM も特斯拉も、かつてはベンチャー・ビジネスだった。起業・成長し、一国の経済さらには世界経済すら動かすほどに大きくなっていったベンチャー・ビジネスにはどのような特徴や意義があるのだろうか。企業体そのものと、それを起ち上げた企業家の双方にスポットを当てながら迫りたい。				
評価方法・基準	平常点20%（講義中に指名した時の発言など、積極的な態度を重視）、課題提出30%（課題に見合った回答が、十分な量書けているかを重視）、学習到達度確認50%（社会調査の基礎知識が身につけているか、またそれを基にデータを読むことができるかを重視）				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書					

科目名	総合社会学特殊講義（二）			期間	後期
担当教員	★伊吹 秀之	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	販売に対する高度な知識を学び、リテールマーケティング（販売士）1級試験に合格できるだけの知識を習得する。				
到達目標	リテールマーケティング（販売士）1級試験に合格する。				
授業概要	1級販売士および中小企業診断士として経営コンサルタントに従事してきた経験を踏まえ、小売業を中心に経営者の視点でマネジメントできるよう、リテールマーケティング3級および2級の知識を前提に、経営者の視点で実践的な知識を勉強していきます。本講座では1級の中でマーケティング、販売経営管理について勉強していきます。本学が全国に先駆けて開発した「奈良大方式」と呼ばれるプログラムにより、通常の授業を受けながら資格合格の力を養うことができます。				
評価方法・基準	定期試験60%（販売に関する基本的概念や語句の理解を問う、講義の内容を理解して具体的事例等に活用できるかを問う） 平常点40%（講義中の授業態度、発言、理解度など）				
履修上の注意事項等	事前に販売管理論Ⅰまたは販売管理論Ⅱを必ず受講しておくこと。販売管理論Ⅲも履修すること。リテールマーケティング1級試験を受験する受講生はスクーリングを受講すること。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。				
テキスト	実費配布（変更の可能性あり）				
参考書					

科目名	総合社会学特殊講義（四）			期間	前期
担当教員	竹中 浩	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	地域福祉の諸問題				
到達目標	地域福祉に関わる実際的な問題について考えることを通じて、前提となる制度についての基本的知識を得るとともに、社会問題一般に対する現実的感覚を身につける。				
授業概要	いわゆる社会的弱者に対する行政（特に地方自治体）と社会（特に地域社会）の対応について、幅広く検討する。社会的弱者が地域の中で排除されことなく暮らせるようにするためには、少なからぬ障害を取り除かなければならず、そのためには行政に一定の役割が期待される。しかし、行政だけでその課題を果たすことは困難であり、常に民間の協力が必要になる。この授業では、両者の協力（公私協働）の形をどのように作っていくかという問題を中心に、日本の地域福祉が抱えるさまざまな問題について見ていく。				
評価方法・基準	基本的に2回の課題レポートによって評価する（1回目40%、2回目60%）。授業の最後に小テストを行い、その提出によって出席を確認するが、出席状況の良好な人については評価の際に考慮する。				
履修上の注意事項等	特定の教科書は使用しない。授業時に使用した資料をポータルサイトに掲示するので、それをもとに、参考書も利用しながら、理解を広げるように努めることが望ましい。課題レポートを1回でも提出しないと単位が取得できないので注意すること。				
テキスト					
参考書	ヒギナース地域福祉（有斐閣アルマ）、牧里毎治他、有斐閣、2013 新版 よくわかる地域福祉（やわらかアカデミズム・わかる）シリーズ）、上野谷加代子他、ミネルヴァ書房、2019				

科目名	総合社会学特殊講義（五）			期間	後期
担当教員	竹中 浩	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	世界の中の日本				
到達目標	高校で学んだ地理や世界史の知識をよみがえらせ、興味のある国や地域について理解を深めるための基礎を築く。				
授業概要	さまざまな国の政治や文化、日本との関係を比較しつつ、外国事情や国際関係、比較政治学の基礎について学ぶ。				
評価方法・基準	2度の到達度確認（各25%）と、ポータルサイトを使って解答する小テスト（50%）で評価する。				
履修上の注意事項等	可能な範囲で事前に参考書を読み、準備した上で授業に臨むこと。原則として毎回ポータルサイトを使って小テストを行う。				
テキスト	なし				
参考書	地図で読む「国際関係」入門、眞 淳平、筑摩書房（ちくまプリマー新書）、2015 「エリア・スタディーズ」シリーズ各巻明石書店、1998～				

科目名	総合社会学特殊講義（七）			期間	前期
担当教員	中原 洪二郎	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	地域経営論				
到達目標	個人の日常的な生活「暮らし」を中心にした地域経営の考え方を理解し、行政や企業の現場で生きる「モノの見方」を得ること				
授業概要	この授業では社会心理学的見地から、地域経営の考え方を大きく4つの視点で検討していく。ひとつめは「まちづくり」とは何かということ。二つ目は「地域ブランド戦略」という考え方、三つ目は「コミュニティビジネス」、四つ目が「複合化アソシエーション論」である。				
評価方法・基準	a= 各回の理解度確認（75%）+ 最終課題（25%） 課題の評価基準：テーマに沿った内容となっていること（2）、最終課題の評価基準（1）指示されたテーマに沿っていること（2）、具体的な内容を踏まえていること（3）適切な理論的解釈が行われていることを重視する。				
履修上の注意事項等	課題提出をおろそかにしないこと。詳しくは第1回の講義で説明するので、必ず出席すること。				
テキスト	適宜資料を配布する				
参考書	適宜資料を配布する				

科目名	総合社会学特殊講義（八）			期間	前期
担当教員	倉 光巖	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	企業が外部の利害関係者に対して報告する目的で実施している財務会計に親しむ。				
到達目標	財務会計の基礎レベルを講義して財務諸表を理解できる基礎を作る。それにより企業の経営成績や財政状態の理解に努める。				
授業概要	外部の利害関係者に対して、企業が行う情報提供機能を果たす財務会計について、基礎的な内容を講義する。本講義のテキストには桜井久勝著『会計学入門』（第5版）を使用する。				
評価方法・基準	講義期間中に行う試験を評価対象とする。				
履修上の注意事項等	本講義のテキストには桜井久勝著『会計学入門』（第5版）を使用するので事前に準備しておくことが望ましい。受講者の理解度に合わせて講義のスピードを調整することもある。この科目は、実務経験のある教員による授業科目である。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施する。				
テキスト	会計学入門（第5版）、桜井久勝、日本経済新聞出版、2018				
参考書					

科目名	総合社会学特殊講義（十一）			期間	前期
担当教員	片雪蘭	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	文化人類学からみる移動と難民				
到達目標	本講義の到達目標は次の三点である。受講生は、(1) 世界で起きている難民や国内避難民の状況を知り、難民を多角的な視野で考察をできるようになる。(2) 海外の事例だけでなく、日本で暮らす難民の事情も理解することによって、自らの関係から難民問題を捉え直して考えることができるようになる。(3) 文化人類学的な視点から難民を捉えることが如何なることなのか理解できるようになる。				
授業概要	現在、世界で家を追われた人の数は約8,000万人であり、その数は増加しつつある。難民は当事者だけの問題ではない。日本も難民受け入れ国として、毎年難民を受け入れている。この講義では、難民に関する基本的理論に加え、日本を含む世界各地の難民の事例を紹介する。特に、本講義では長期間の住み込み調査に基づいて現地の文化的実践を記述してきた「文化人類学」の理論と基礎概念を学び、様々な写真や動画を通して難民の生を理解する。				
評価方法・基準	平常点 30% 毎回の講義に提出するコメントシート（講義への質問やコメント等）に基づいて評価する。 期末レポート 70% 課題を正確に理解した上、自ら積極的に調べ、自分の主張を論理的に述べているかを評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	資料を配布する				
参考書	難民問題、墓田 桂、中央公論新社、2016 移民・難民・マイノリティー-欧州ポピュリズムの根源、羽場 久美子（編）、彩流社、2021 社会的包摂/排除の人類学—開発・難民・福祉、内藤 直樹・山北 輝裕（編）、昭和堂、2014				

科目名	心理学			期間	後期
担当教員	中原 洪二郎	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	心理学とは何か				
到達目標	人間の「こころ」の働きについて理解し、心理学に関する学修深化および、他領域への応用の基盤となる知識を習得すること。				
授業概要	この講義では、私たちの誰もがひとつは持っている「こころ」について行われてきた様々な観点の研究を紹介すると同時に、それらが互いにどのような関係を持っているのかについて解説する。また、履修者自身が自分や他人の「こころ」にどのように向き合うか、実践的な観点からの取り組みも行う。				
評価方法・基準	a= 各回の理解度確認 (75%) + 最終課題 (25%) 課題の評価基準：テーマに沿った内容となっている 最終課題の評価基準 (1) 指示されたテーマに沿っていること (2) 具体的な内容を踏まえていること (3) 適切な理論的解釈が行われていることを重視する。				
履修上の注意事項等	課題提出をおろそかにしないこと。詳しくは第1回の講義で説明するので、必ず出席すること。				
テキスト	適宜資料を配付する				
参考書	適宜資料を配付する				

# 学科選択科目





科目名	哲学・思想Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	西洋哲学への入門				
到達目標	西洋哲学の基礎的な諸説・諸議論を知り、哲学的思考の基本に馴染むことを目標とします。				
授業概要	哲学は、人間の普遍的な関心事について、筋道立てて根本から考えようとする分野です。様々な論理的可能性も考慮しつつ、理性を用いて問題を掘り下げる哲学は、独特な仕方による人間の自己探究です。授業では主に近代以降の西洋哲学の展開（特にデカルト哲学、ヴィトゲンシュタイン哲学への言及が多くなる）を手掛かりに、心、他者、知識とは何か等について、代表的な考え方を学びます。				
評価方法・基準	平常点40%程度（コメント記入の充実度等）と、学習到達度確認60%程度（基本概念の理解、等）とで、総合評価する。（授業を踏まえ、自分なりの考察に深まりがあることを重視。）				
履修上の注意事項等	毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	なし				
参考書	方法序説, R. デカルト, 岩波書店, 1997 哲学探究, L. ヴィトゲンシュタイン, 講談社, 2020 哲学の基礎, 山本信, 北樹出版, 1988				

科目名	哲学・思想Ⅰ（二）			期間	後期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	西洋哲学への入門				
到達目標	西洋哲学の基礎的な諸説・諸議論を知り、哲学的思考の基本に馴染むことを目標とします。				
授業概要	哲学は、人間の普遍的な関心事について、筋道立てて根本から考えようとする分野です。様々な論理的可能性も考慮しつつ、理性を用いて問題を掘り下げる哲学は、独特な仕方による人間の自己探究です。授業では主に近代以降の西洋哲学の展開（特にデカルト哲学、ヴィトゲンシュタイン哲学への言及が多くなる）を手掛かりに、心、他者、知識とは何か等について、代表的な考え方を学びます。				
評価方法・基準	平常点40%程度（コメント記入の充実度等）と、学習到達度確認60%程度（基本概念の理解、等）とで、総合評価する。（授業を踏まえ、自分なりの考察に深まりがあることを重視。）				
履修上の注意事項等	毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	なし				
参考書	方法序説, R. デカルト, 岩波書店, 1997 哲学探究, L. ヴィトゲンシュタイン, 講談社, 2020 哲学の基礎, 山本信, 北樹出版, 1988				

科目名	哲学・思想Ⅱ（一）			期間	前期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	哲学・思想への入門				
到達目標	古今東西の多様な思想の概観を通じ、人間を広く理解するための教養を身につけることを目標とします。				
授業概要	古今東西の宗教、哲学、芸術、文化等を題材にしたテキストを用い、多様な思想を紹介します。タマフリの思想、ギリシャ思想、中国思想、キリスト教思想、仏教思想、実存主義思想などがトピックになります。授業全体を通して、人間の存在について広く深く考えるための基本的な関心・感受性を養います。				
評価方法・基準	平常点40%程度（コメント記入の充実度等）と、学習到達度確認60%程度（基本概念の理解、等）とで、総合評価する。（授業を踏まえ、自分なりの考察に深まりがあることを重視。）				
履修上の注意事項等	毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	なぜ人は美を求めるのか, 小穴晶子, ナカニシヤ出版, 2008				
参考書					

科目名	哲学・思想Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	哲学・思想への入門				
到達目標	古今東西の多様な思想の概観を通じ、人間を広く理解するための教養を身につけることを目標とします。				
授業概要	古今東西の宗教、哲学、芸術、文化等を題材にしたテキストを用い、多様な思想を紹介します。タマフリの思想、ギリシャ思想、中国思想、キリスト教思想、仏教思想、実存主義思想などがトピックになります。授業全体を通して、人間の存在について広く深く考えるための基本的な関心・感受性を養います。				
評価方法・基準	平常点40%程度（コメント記入の充実度等）と、学習到達度確認60%程度（基本概念の理解、等）とで、総合評価する。（授業を踏まえ、自分なりの考察に深まりがあることを重視。）				
履修上の注意事項等	毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	なぜ人は美を求めるのか, 小穴晶子, ナカニシヤ出版, 2008				
参考書					

科目名	宗教学（一）			期間	前期
担当教員	★加藤 希理子	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	世界の諸宗教				
到達目標	人間と宗教の関わりは、きわめて長い歴史を持ち、時代・地域によって多様な姿をとっている。本科目では、諸宗教の歴史、教義、儀礼を学び、宗教が人間と文化、社会の形成において果たす役割に対する理解を深めることを目的とする。受講者各々が宗教に対する広い視点を培い、宗教の意義を考え、それぞれの宗教観を形成していった欲しい。				
授業概要	世界における古今の宗教形態の考察を通して、宗教の営みについての理解を深めたい。宗教は、歴史的・社会的制約を免れないが、その一方で、宗教が文化・社会の動きに及ぼした影響もまた度外視できない。本講義では、ユダヤ教・キリスト教、イスラーム、仏教という長い歴史を持つ伝統的諸宗教を、その歴史の相の下で取り上げるとともに、そうした諸宗教と現代社会との関係を分析し、現代における宗教の風潮や現代を生きる人間と宗教の関係について考察する。				
評価方法・基準	各回（1～14回）に課す小レポートおよび最終授業（15回）で実施する学習到達度確認による総合評価。いずれも講義の内容を正確に把握しているか、さらにそれを踏まえたとうえで自分の考えを展開できているかを問う。				
履修上の注意事項等					
テキスト	使用しない。毎回資料を配布する。				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する。				

科目名	宗教学（二）			期間	後期
担当教員	★加藤 希理子	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	世界の諸宗教				
到達目標	人間と宗教の関わりは、きわめて長い歴史を持ち、時代・地域によって多様な姿をとっている。本科目では、諸宗教の歴史、教義、儀礼を学び、宗教が人間と文化、社会の形成において果たす役割に対する理解を深めることを目的とする。受講者各々が宗教に対する広い視点を培い、宗教の意義を考え、それぞれの宗教観を形成していった欲しい。				
授業概要	世界における古今の宗教形態の考察を通して、宗教の営みについての理解を深めたい。宗教は、歴史的・社会的制約を免れないが、その一方で、宗教が文化・社会の動きに及ぼした影響もまた度外視できない。本講義では、ユダヤ教・キリスト教、イスラーム、仏教という長い歴史を持つ伝統的諸宗教を、その歴史の相の下で取り上げるとともに、そうした諸宗教と現代社会との関係を分析し、現代における宗教の風潮や現代を生きる人間と宗教の関係について考察する。				
評価方法・基準	各回（1～14回）に課す小レポートおよび最終授業（15回）で実施する学習到達度確認による総合評価。いずれも講義の内容を正確に把握しているか、さらにそれを踏まえたとうえで自分の考えを展開できているかを問う。				
履修上の注意事項等					
テキスト	使用しない。毎回資料を配布する。				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する。				

科目名	倫理学（一）			期間	前期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	倫理学入門				
到達目標	道徳哲学の基本的考えの理解を通し、道徳的観点からの様々な思考に馴染むことことを目標とします。				
授業概要	日常的事象について、道徳的観点から多角的かつ深く考えることができるようにするために、道徳教育の歴史を振り返るとともに、倫理学の三部門である①メタ倫理、②規範倫理、③応用倫理のそれぞれについて、そこに含まれる基本的諸事項・諸見解の解説をします。（教職に対応した内容を一部含みます。）				
評価方法・基準	平常点40%程度（コメント記入の充実度等）と、学習到達度確認60%程度（基本概念の理解、等）とで、総合評価する。（授業を踏まえ、自分なりの考察に深まりがあることを重視。）				
履修上の注意事項等	毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	なし				
参考書	プレップ倫理学、柘植尚則、弘文堂、2010 現実をみつめる道徳哲学、J.レイチェルズ、晃洋書房、2003				

科目名	倫理学（二）			期間	後期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	倫理学入門				
到達目標	道徳哲学の基本的考えの理解を通し、道徳的観点からの様々な思考に馴染むことことを目標とします。				
授業概要	日常的事象について、道徳的観点から多角的かつ深く考えることができるようにするために、道徳教育の歴史を振り返るとともに、倫理学の三部門である①メタ倫理、②規範倫理、③応用倫理のそれぞれについて、そこに含まれる基本的諸事項・諸見解の解説をします。（教職に対応した内容を一部含みます。）				
評価方法・基準	平常点40%程度（コメント記入の充実度等）と、学習到達度確認60%程度（基本概念の理解、等）とで、総合評価する。（授業を踏まえ、自分なりの考察に深まりがあることを重視。）				
履修上の注意事項等	毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	なし				
参考書	プレップ倫理学、柘植尚則、弘文堂、2010 現実をみつめる道徳哲学、J.レイチェルズ、晃洋書房、2003				



科目名	日本史Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	古代から現代にいたる日本史の理解を深める				
到達目標	中学・高校の歴史・日本史教科書の内容を深く理解し、各時代の特徴を、長期的な目線と世界史的な視野でとらえる。				
授業概要	中学・高校で歴史を教えていくうえで、教科書の内容を深く理解しておくことは絶対条件である。本講義では、現行および過去の中学・高校の歴史・日本史教科書を利用して、古代～現代における各時代の政治、経済、文化の特徴を検討し、それが通史的・世界的にもつ意味合いを考えていく。				
評価方法・基準	期末レポート 講義内容について、自由な観点から、思う存分、批判を書いてもらう。自分で独自に探してきた論文、学術書、史料、データなどにもとづいて批判できたら、一番素晴らしい。				
履修上の注意事項等	日本史Ⅰ（二）を履修済みの者は、日本史Ⅰ（一）を受講できない。				
テキスト	毎回プリントを配布				
参考書	適宜紹介				

科目名	日本史Ⅰ（二）			期間	後期
担当教員	木下 光生	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	古代から現代にいたる日本史の理解を深める				
到達目標	中学・高校の歴史・日本史教科書の内容を深く理解し、各時代の特徴を、長期的な目線と世界史的な視野でとらえる。				
授業概要	中学・高校で歴史を教えていくうえで、教科書の内容を深く理解しておくことは絶対条件である。本講義では、現行および過去の中学・高校の歴史・日本史教科書を利用して、古代～現代における各時代の政治、経済、文化の特徴を検討し、それが通史的・世界的にもつ意味合いを考えていく。				
評価方法・基準	期末レポート 講義内容について、自由な観点から、思う存分、批判を書いてもらう。自分で独自に探してきた論文、学術書、史料、データなどにもとづいて批判できたら、一番素晴らしい。				
履修上の注意事項等	日本史Ⅰ（一）を履修済みの者は、日本史Ⅰ（二）を受講できない。				
テキスト	毎回プリントを配布				
参考書	適宜紹介				

科目名	日本史Ⅱ（一）			期間	前期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	日本史の基礎知識				
到達目標	中学校社会・高等学校地理歴史の教員免許取得に対応できる日本史の基礎的な知識を身につけることめざす。				
授業概要	この講義では、中学校社会・高等学校地理歴史の教員免許取得に対応できる日本史の基礎的な知識を身につけるため、主に高等学校の日本史の教科書に出てくることがらについて、その内容を掘り下げて講義を展開する。資料・史料をもちいて、ことがらの具体的なようすを講義していく。				
評価方法・基準	平常点（10%、出席および授業に対する積極的な参加度合い）、期末レポート（90%、400字詰め換算で10～15枚以上予定）で評価。				
履修上の注意事項等	日本史の教科書に出てくることがらがどのような文献史料によって語られているのか、具体的に史料を読みつつ講義を行うので、受講生には史料をじっくりと読むという辛抱強さが求められる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	日本史Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	河内 将芳	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	日本史の基礎知識				
到達目標	中学校社会・高等学校地理歴史の教員免許取得に対応できる日本史の基礎的な知識を身につけることめざす。				
授業概要	この講義では、中学校社会・高等学校地理歴史の教員免許取得に対応できる日本史の基礎的な知識を身につけるため、主に高等学校の日本史の教科書に出てくることがらについて、その内容を掘り下げて講義を展開する。資料・史料をもちいて、ことがらの具体的なようすを講義していく。				
評価方法・基準	平常点（10%、出席および授業に対する積極的な参加度合い）、期末レポート（90%、400字詰め換算で10～15枚以上予定）で評価。				
履修上の注意事項等	日本史の教科書に出てくることがらがどのような文献史料によって語られているのか、具体的に史料を読みつつ講義を行うので、受講生には史料をじっくりと読むという辛抱強さが求められる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	外国史Ⅰ			期間	前期
担当教員	★井福 剛	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	文化・社会的視点から見たヨーロッパ世界の歴史的 形成過程				
到達目標	ヨーロッパ文化・社会を歴史的に検討することによっ て、ヨーロッパ地域の文化に関して理解を深める。				
授業概要	ヨーロッパ文化はとりわけ近代以降、世界の諸地域 に大きな影響を与え、その文化の一部は現代の我々の 生活や価値観にも深く根付いている。本講義では、その ようなヨーロッパ文化を歴史的に検討することによっ て、ヨーロッパ地域の文化に関して理解を深めてもら いたい。				
評価方法・基準	講義内容について問う毎回の小レポート50%（講義内容を理解している かどうかを評価） 学期末レポート50%（適切に情報を収集し、論理的に考えをまとめられて いるかを評価） 出席日数が3分の2に満たない場合は、原則として成績評価は行わない。				
履修上の注意事項等	初回ガイダンスにて成績評価、講義の概要、成績評 価などについて説明する。				
テキスト	各回資料送信				
参考書	『文化史とは何か』、ピーター・バーク、法政大学出版局、 2008				

科目名	外国史Ⅱ			期間	後期
担当教員	★飯田 祥子	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	諸民族の交流からみた東アジア地域の歴史的展開				
到達目標	東アジア地域の歴史的な事象について説明できるよう になる。民族間の関係から、東アジア地域の歴史的 展開を理解する。				
授業概要	東アジアは広大で多様であり、それぞれの地域に独 特の文化を持つ人々が暮らしてきた。一方で、この 地域に対して強い影響力をもち、時に主導的な立場 にあったのは中国王朝である。この授業では、中国王 朝との関係を軸に、東アジア地域の歴史的展開を考 察する。中国やその他の地域の歴史と、それぞれの 地域で育まれた文化を知ることによって、自文化と異 文化を認識する視点を養う。				
評価方法・基準	平常点（授業時提出物）60%…語句クイズ（前回授 業の理解度）、記述課題（その回の授業の理解度）、 コメント（問題意識・意欲） 定期試験40%…到達目標の達成度				
履修上の注意事項等	初回ガイダンスで、受講における注意事項や、成績 評価方法などについて説明する。欠席すると不利益 になる可能性がある。板書の撮影は禁止する。個別 にフォローが必要な場合は、申し出ること。なお欠席 届を提出しても、評価には影響しない。				
テキスト	なし				
参考書	東アジア世界の歴史、堀敏一、講談社、2008 中国の歴史、岸本美緒、筑摩書房、2015 東アジア文化圏の形成、李成市、山川出版社、2000				

科目名	文学			期間	後期
担当教員	★櫻井 清華	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	性と政治の『源氏物語』を読む				
到達目標	『源氏物語』の読解を通して物語の本質を理解できるよ うにする。また平安文学を読むに際して必要な基礎情 報、基礎教養を身に付けることも目的とし、最終的には 自分自身が問題意識をもって物語を読めるようになる ことを目指したい。				
授業概要	指定したテキストを読み、『源氏物語』が何を言おう としている作品なのかについて解説しながら理解を深 めたい。物語の解釈に必要な平安社会の構造や政治 のしくみについても適宜解説していく。シラバスの記 載はおおまかな見通しであり、講義回数と巻がずれ ることもある。				
評価方法・基準	小テスト4回、到達度確認テストを総合して評価しま す 小テストの実施は実施の前週の講義時に告知しま す 小テスト20%、到達度確認テスト80% 出席点はありませ				
履修上の注意事項等	能動的態度で講義に参加することを求めます				
テキスト	『源氏物語』第一巻桐壺～若紫、玉上琢彌、角川ソフィア 文庫、1964				
参考書					

科目名	心理学			期間	後期
担当教員	金澤 忠博	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	心理学の基礎を学ぶ。				
到達目標	人間の心理・行動を真に理解するためには、胎生期から大人に至る 行動発達のプロセスだけでなく、原生動物から人間に至る行動進化 のプロセスをも視野に入れる必要がある。講義では、さまざまな領 域における人間の心理・行動の特徴について、進化と発達との2つの 側面から捉え、人間行動の特徴についてより深い理解を目指す。				
授業概要	発達心理学の最新の知見に加えて、比較行動 学 (ethology) や進化心理学 (evolutionary psychology) の知見を織り交ぜながら、人間行動の 進化と発達について学ぶ。具体的にはまず個体レ ベルでの認知様式と行動様式の進化と発達について学 び、さらに、言語や心の理論、自己意識、母子関係 や仲間関係、異性関係など、コミュニケーションや対 人関係にいたるまで、その生物学的基盤について学 ぶ。				
評価方法・基準	期末レポート（70点） 平常点（30点）（配点内訳：毎回のリアクションペ ーパー（15点）＋課題（15点））				
履修上の注意事項等	授業で紹介する内容の多くは日常生活に関わるもので あり、実際に日常的な体験を通して確かめることによ り、さらに深い理解が得られる。毎回のリアクション ペーパーに積極的に質問を書いて下さい。				
テキスト	なし				
参考書	心の発生と進化、ディヴィッド・プレマック&アン・プレマ ック、新曜社、2005 心とことばの起源を探る、マイケル・トマセロ、勁草書房、2006				

科目名	社会学（一）			期間	前期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	社会学の基礎知識の修得				
到達目標	社会学の全体的なイメージをつかむことで、社会学の各論および隣接諸社会科学について学ぶための準備を整える。				
授業概要	社会学とは、現実の社会の仕組みを解明し、社会問題の解決を目指す科学である。我々の生きている社会は決して理想社会ではあり得ない。実際の社会は貧困や犯罪、差別や不平等などの様々な社会問題に満ちている。こうした諸問題を解決するために、現実の社会はいったいどのような仕組みで成立しているのかを適切に理解しようというのが社会学の目標である。				
評価方法・基準	学期末試験（60点）と授業課題（40点）の合計点。学期末試験は筆記試験とし、授業課題はGoogleClassroomを用いて提出してもらう。				
履修上の注意事項等	本科目ではGoogleClassroomを併用する。履修登録した者には、各自のtboxのアカウントに招待メールが送られるので、tboxアカウントを事前にアクティベートしておくように。				
テキスト	社会学, アンソニー・ギデンス, 而立書房				
参考書					

科目名	社会学（二）			期間	後期
担当教員	吉村 治正	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	社会学の基礎知識の修得				
到達目標	社会学の全体的なイメージをつかむことで、社会学の各論および隣接諸社会科学について学ぶための準備を整える。				
授業概要	社会学とは、現実の社会の仕組みを解明し、社会問題の解決を目指す科学である。我々の生きている社会は決して理想社会ではあり得ない。実際の社会は貧困や犯罪、差別や不平等などの様々な社会問題に満ちている。こうした諸問題を解決するために、現実の社会はいったいどのような仕組みで成立しているのかを適切に理解しようというのが社会学の目標である。				
評価方法・基準	学期末試験（60点）と授業課題（40点）の合計点。学期末試験は筆記試験とし、授業課題はGoogleClassroomを用いて提出してもらう。				
履修上の注意事項等	履修登録した者には、それぞれのtboxのアカウントにGoogleClassroomの招待メールが送られる。履修を希望する者は、必ずtboxアカウントを事前にアクティベートしておくように。				
テキスト	社会学, アンソニー・ギデンス, 而立書房				
参考書					

科目名	教育学（一）			期間	後期
担当教員	★鈴木 伸尚	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	教育学の基本的な理論を学ぶ。				
到達目標	到達目標は、主に下記の三点である。 ①教育を考える上でその土台となる社会・歴史的背景や基本的な概念を理解する。 ②教育実践の今日的動向を把握する。 ③①、②を踏まえて、それぞれの経験から想定される教育的営みを改めて問い直す視点を身につける。				
授業概要	「教育」という営みについての基本的な理念、歴史、実践について理解することで、現代の日本の教育を理解する基礎となる認識枠組みを身に付け、批判的に検討する知的な力を養う。				
評価方法・基準	レポートによる。ただし授業に対するコミットメントの度合い（質問、感想等）を考慮する。				
履修上の注意事項等	授業は、配布資料に沿って行う。授業で分からなかった内容は適宜質問して理解するよう努めてほしい。また、授業内のディスカッションでは積極的に意見表明してほしい。				
テキスト					
参考書	系統看護学講座基礎分野 教育学（第7版）、木村元編、医学書院、2015 かかわりの教育学（増補版）—教育役割くずし試験、岡田敬司、ミネルヴァ書房、2006 コミュニケーションと人間形成—かかわりの教育学Ⅱ、岡田敬司、ミネルヴァ書房、1998				

科目名	教育学（二）			期間	後期
担当教員	★辻 寛司	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	教育学研究の基礎				
到達目標	人の成長にとって最も重要な教育に関する諸問題を理論と実証の両面から追究することにより、自身の成長に責任ある態度を身につける。				
授業概要	高校教員として、中等教育現場で教育実践にあたってきた経験を踏まえて、教育を「受ける立場」から、主体的にかつ広い視野で教育を考えることができる立場にたつ学生を育成するために、社会の動きや時事的かつ身近な教育課題等も取り上げながら教育を捉えなおす機会をもつ。				
評価方法・基準	授業中の『小レポート』（授業内容の理解度と課題意識）と『課題レポート』（与えられた課題にどう向き合い、自身の見解を明確に示し、深め、論理的に説明しているか）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	積極的かつ能動的な態度で受講すること。 この講座は、実務経験のある教員が担当します。担当教員が、学校教育現場や教育行政機関で従事した経験に基づき授業を実施しますので、自分なりにこれまでの学校生活を振り返り、課題意識をもって受講すること。				
テキスト	適宜配付する講義関係資料				
参考書					

科目名	文化人類学			期間	前期
担当教員	片雪蘭	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	文化人類学の基礎				
到達目標	文化人類学の基礎的な概念と思考方法を学び、多様な文化を理解するための知識と態度を身に着ける。またそのことを通して、これまで当たり前だと考えていた身の回りの事柄を新しい観点から観察できるようになる。				
授業概要	世界各地のさまざまな生活や文化的な実践について、文献資料や画像、映像資料等を通して確認し、それらを理解するための理論や概念を学習する。本講義では、長期間の住み込み調査に基づいて現地の文化的実践を記述してきた「文化人類学」の理論と基礎概念を通して、異文化を理解するための方法を学ぶ。				
評価方法・基準	平常点 30% 毎回の講義に提出するコメントシート（講義への質問やコメント等）に基づいて評価する。 定期試験 70% 文化人類学の基本概念や異文化の理解を問う（定期試験期間（16週目）に定期試験を実施する）。				
履修上の注意事項等					
テキスト	資料を配布する				
参考書	文化人類学の思考法、松村圭一郎・中川理・石井美保編、世界思想社、2019 これからの時代を生き抜くための文化人類学入門、奥野克己、辰巳出版、2022 21世紀の文化人類学、前川啓治・箭内匡他編、新曜社、2018				

科目名	現代史			期間	後期
担当教員	森川 正則	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	「映画」を手がかりにして学び・問う20世紀の歴史、21世紀のいま				
到達目標	現代史（20世紀～21世紀）上のいくつかのテーマを取りあげて、それらについて、映画を手がかりにして（教材にして）学び・問い・考え、探究する作法を身につけてもらうことです。				
授業概要	「現代史」と題する授業で中心的に扱うのは「20世紀の歴史」です。その導入・前提という位置づけとなるのが、第1～2回授業です。続いて、第3～14回授業では、計6本の映画をそれぞれ2回ずつ取りあげて、現代史の学びと問い・探究という点で重要な見どころやポイントを説明していきます。				
評価方法・基準	小テスト（授業内容についての理解度、基礎的知識を問う）と期末レポートを総合して評価。レポートは、「指示された注意点に従っているか」「指示された論題にふさわしい内容になっているか」を評価基準とします。				
履修上の注意事項等	何らかの事情でWEB授業に移行する可能性もあります。その場合、e-Learning システムを利用したWEB授業とします。				
テキスト	授業用教材プリントと関連プリントを配布します。				
参考書	国際政治史：主権国家体系のあゆみ、小川浩之・板橋拓己・青野利彦、有斐閣、2018年 冷戦と経済繁栄、猪木武徳・高橋進、中央公論新社、2010年 新世紀の世界と日本、下斗米伸夫・北岡伸一、中央公論新社、2010年				

科目名	民俗学			期間	前期
担当教員	★平松 典晃	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	民俗学は伝統的な慣習・行事などから日本人の生活文化を解明する学問である。フィールドワークで収集した伝承をもとに歴史民俗学の立場からの分析を試みる。本講義では民俗に関する儀礼を取り上げる。				
到達目標	民俗学の基礎的な知識と研究方法を身に着ける。民俗調査をすることでコミュニケーション能力を養う。				
授業概要	年中行事は正月と盆を中心に一年の節々に催されるハレの行事である。人生儀礼は一生のうち、誕生・成人・婚姻・死などの節目において、その緊張する時期を無事に通過させ、以後の安寧をはかるために行う通過儀礼ともいう。また日本の民俗宗教の中核をなすのが神社祭祀、祖先信仰、自然崇拜である。年中行事と通過儀礼、民俗宗教の諸相から日本人の人生観・宗教観・霊魂観を明らかにする。				
評価方法・基準	レポート90%、授業コメントシート10%。民俗学の基礎的な知識が身についたか、民俗事例の分析する力があるか、自らが民俗調査を実施し報告することができるかを評価するためにレポートを実施する。				
履修上の注意事項等	現地調査などで欠席する場合は事前に伝えること。				
テキスト					
参考書	『図説 日本民俗学』、福田アジオ他編、吉川弘文館、2009 『日本民俗学』、赤田光男他共著、弘文堂、1984 『新版 民俗調査ハンドブック』、宮田登他編、吉川弘文館、1987				

科目名	政治学（一）			期間	前期
担当教員	竹中 浩	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	政治学概論				
到達目標	政治学の基本概念を身に着け、政治の制度や思想について基礎的な理解を得る。				
授業概要	この授業では、民主政治に関する諸問題を中心に、政治学の基本的な概念や考え方について解説する。政治にはさまざまなアクターが登場し、自らの利益や目的価値を実現しようとして行動する。利益も目的価値も人によって異なり、時とともに変化するから、政治的な問題に唯一絶対の解決はなく、一旦なされた解決も、時代とともにたえず見直しを迫られる。そうした持続的な営みとしての政治の特質について学ぶ。				
評価方法・基準	基本的に2回の課題レポートによって評価する（1回目40%、2回目60%）。授業の最後に示す問題に対する回答によって出席を確認する。出席状況の良好な人については評価の際に考慮する。				
履修上の注意事項等	授業およびテキストの内容をよりよく理解するために、授業で使用したパワーポイントの資料をポータルサイトの「講義連絡」にアップするので、復習の際に活用してほしい。課題レポートを1回でも提出しないと単位が取得できないので注意すること。				
テキスト	政治学（第2版）、川出良枝・谷口将紀編、東京大学出版会、2022年				
参考書					

科目名	政治学（二）			期間	後期
担当教員	竹中 浩	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	政治学概論				
到達目標	政治学の基本概念を身に着け、政治の制度や思想について基礎的な理解を得る。				
授業概要	この授業では、民主政治に関する諸問題を中心に、政治学の基本的な概念や考え方について解説する。政治にはさまざまなアクターが登場し、自らの利益や目的価値を実現しようとして行動する。利益も目的価値も人によって異なり、時とともに変化するため、政治的な問題に唯一絶対の解決はなく、一旦なされた解決も、時代とともにたえず見直しを迫られる。そうした持続的な営みとしての政治の特質について学ぶ。				
評価方法・基準	基本的に2回の課題レポートによって評価する（1回目40%、2回目60%）。授業の最後に示す問題に対する回答によって出席を確認する。出席状況の良好な人については評価の際に考慮する。				
履修上の注意事項等	授業およびテキストの内容をよりよく理解するために、授業で使ったパワーポイントの資料をポータルサイトの「講義連絡」にアップするので、復習の際に活用してほしい。課題レポートを1回でも提出しないと単位が取得できないので注意すること。				
テキスト	政治学（第2版）、川出良枝・谷口将紀編、東京大学出版会、2022年				
参考書					

科目名	法学（一）			期間	前期
担当教員	村上 正直	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	人が形成する社会・集団のなかで、人と人との関係が問題となる場合に機能する法・法律について、その基礎的な内容を学ぶ。				
到達目標	人は様々な多数の法・法律に取り囲まれて生活をしている。この多種多様な法・法律の世界を知り、社会における法・法律の役割と重要性を理解すること。				
授業概要	人の社会生活のあらゆる場面において法・法律は存在している。法・法律は、人間が社会生活を円滑に送ることができるようにするためのものであり、起こりうる紛争を予防し、起こった紛争を解決するためのルールである。この授業では、特に憲法や民法、刑法、刑事訴訟法、民事訴訟法などの基本的な内容を学び、考える。				
評価方法・基準	①授業の中で課すレポート（講義に関連する問題への理解度と考察力を評価する）と②最終授業で行う到達度確認（法学用語や法理論などの理解度の確認）への回答の評価を基本とする。詳しくは、最初の授業で説明する。				
履修上の注意事項等	新聞やネットニュースなどで紹介される法・法律や裁判、法・法律をめぐる議論などに関心をもって注目してほしい。法・法律問題は日常的に生じている。なお、Eラーニングで配信する資料を、その都度、閲覧し、必要に応じて授業の際に持参してほしい。				
テキスト	『はじめての法律学（第6版）』、松井・松宮・曾野、有斐閣、2020年				
参考書	教科書 pp. 254-257の参考文献を参照。				

科目名	法学（二）			期間	後期
担当教員	村上 正直	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	人が形成する社会・集団のなかで、人と人との関係が問題となる場合に機能する法・法律について、その基礎的な内容を学ぶ。				
到達目標	人は様々な多数の法・法律に取り囲まれて生活をしている。この多種多様な法・法律の世界を知り、社会における法・法律の役割と重要性を理解すること。				
授業概要	人の社会生活のあらゆる場面において法・法律は存在している。法・法律は、人間が社会生活を円滑に送ることができるようにするためのものであり、起こりうる紛争を予防し、起こった紛争を解決するためのルールである。この授業では、特に憲法や民法、刑法、刑事訴訟法、民事訴訟法などの基本的な内容を学び、考える。				
評価方法・基準	①授業の中で課すレポート（講義に関連する問題への理解度と考察力を評価する）と②最終授業で行う到達度確認（法学用語や法理論などの理解度の確認）への回答の評価を基本とする。詳しくは、最初の授業で説明する。				
履修上の注意事項等	新聞やネットニュースなどで紹介される法・法律や裁判、法・法律をめぐる議論などに関心をもって注目してほしい。法・法律問題は日常的に生じている。なお、Eラーニングで配信する資料を、その都度、閲覧し、必要に応じて授業の際に持参してほしい。				
テキスト	『はじめての法律学（第6版）』、松井・松宮・曾野、有斐閣、2020年				
参考書	教科書 pp. 254-257の参考文献を参照。				

科目名	法学（三）			期間	後期
担当教員	村上 正直	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	人が形成する社会・集団のなかで、人と人との関係が問題となる場合に機能する法・法律について、その基礎的な内容を学ぶ。				
到達目標	人は様々な多数の法・法律に取り囲まれて生活をしている。この多種多様な法・法律の世界を知り、社会における法・法律の役割と重要性を理解すること。				
授業概要	人の社会生活のあらゆる場面において法・法律は存在している。法・法律は、人間が社会生活を円滑に送ることができるようにするためのものであり、起こりうる紛争を予防し、起こった紛争を解決するためのルールである。この授業では、特に憲法や民法、刑法、刑事訴訟法、民事訴訟法などの基本的な内容を学び、考える。				
評価方法・基準	①授業の中で課すレポート（講義に関連する問題への理解度と考察力を評価する）と②最終授業で行う到達度確認（法学用語や法理論などの理解度の確認）への回答の評価を基本とする。詳しくは、最初の授業で説明する。				
履修上の注意事項等	新聞やネットニュースなどで紹介される法・法律や裁判、法・法律をめぐる議論などに関心をもって注目してほしい。法・法律問題は日常的に生じている。なお、Eラーニングで配信する資料を、その都度、閲覧し、必要に応じて授業の際に持参してほしい。				
テキスト	『はじめての法律学（第6版）』、松井・松宮・曾野、有斐閣、2020年				
参考書	教科書 pp. 254-257の参考文献を参照。				

科目名	日本国憲法（一）			期間	前期
担当教員	村上 正直	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	現代社会における日本国憲法の意義と概要				
到達目標	日本国憲法の成り立ちと法体系の基本法としての憲法の役割、その基本的な内容を理解することができること。				
授業概要	日本国憲法についての基本的な知識を修得し、社会における日本国憲法の役割を理解することができるように、具体的な事例や問題を通して、基本的人権や国家の作用、三権分立などの基本について解説する。				
評価方法・基準	①授業の中で課すレポート（講義に関連する問題への理解度と考察力を評価する）と②最終授業で行う到達度確認（憲法の条文の理解、基本用語の知識、憲法に関する裁判の理解を問う）への回答の評価を基本とする。詳しくは、最初の授業で説明する。				
履修上の注意事項等	日本国憲法の人権規定の適用が問題となっている裁判や、国家の政治のあり方に関わる内閣（行政府）・国会（立法府）・裁判所（司法府）に関する新聞記事・ネットニュースなど、気をつけてみるようにしよう。配信する判例資料等も、その都度閲覧し、必要に応じて授業に持参してほしい。				
テキスト	『いちばんやさしい憲法入門第6版』、初宿・高橋・米沢・棟居、有斐閣、2020年				
参考書	『目で見える憲法第5版』、初宿・大沢・高橋・常本・高井、有斐閣、2018年				

科目名	日本国憲法（二）			期間	前期
担当教員	村上 正直	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	現代社会における日本国憲法の意義と概要				
到達目標	日本国憲法の成り立ちと法体系の基本法としての憲法の役割、その基本的な内容を理解することができること。				
授業概要	日本国憲法についての基本的な知識を修得し、社会における日本国憲法の役割を理解することができるように、具体的な事例や問題を通して、基本的人権や国家の作用、三権分立などの基本について解説する。				
評価方法・基準	①授業の中で課すレポート（講義に関連する問題への理解度と考察力を評価する）と②最終授業で行う到達度確認（憲法の条文の理解、基本用語の知識、憲法に関する裁判の理解を問う）への回答の評価を基本とする。詳しくは、最初の授業で説明する。				
履修上の注意事項等	日本国憲法の人権規定の適用が問題となっている裁判や、国家の政治のあり方に関わる内閣（行政府）・国会（立法府）・裁判所（司法府）に関する新聞記事・ネットニュースなど、気をつけてみるようにしよう。配信する判例資料等も、その都度閲覧し、必要に応じて授業に持参してほしい。				
テキスト	『いちばんやさしい憲法入門第6版』、初宿・高橋・米沢・棟居、有斐閣、2020年				
参考書	『目で見える憲法第5版』、初宿・大沢・高橋・常本・高井、有斐閣、2018年				

科目名	日本国憲法（三）			期間	後期
担当教員	村上 正直	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	現代社会における日本国憲法の意義と概要				
到達目標	日本国憲法の成り立ちと法体系の基本法としての憲法の役割、その基本的な内容を理解することができること。				
授業概要	日本国憲法についての基本的な知識を修得し、社会における日本国憲法の役割を理解することができるように、具体的な事例や問題を通して、基本的人権や国家の作用、三権分立などの基本について解説する。				
評価方法・基準	①授業の中で課すレポート（講義に関連する問題への理解度と考察力を評価する）と②最終授業で行う到達度確認（憲法の条文の理解、基本用語の知識、憲法に関する裁判の理解を問う）への回答の評価を基本とする。詳しくは、最初の授業で説明する。				
履修上の注意事項等	日本国憲法の人権規定の適用が問題となっている裁判や、国家の政治のあり方に関わる内閣（行政府）・国会（立法府）・裁判所（司法府）に関する新聞記事・ネットニュースなど、気をつけてみるようにしよう。配信する判例資料等も、その都度閲覧し、必要に応じて授業に持参してほしい。				
テキスト	『いちばんやさしい憲法入門第6版』、初宿・高橋・米沢・棟居、有斐閣、2020年				
参考書	『目で見える憲法第5版』、初宿・大沢・高橋・常本・高井、有斐閣、2018年				

科目名	日本国憲法（四）			期間	後期
担当教員	村上 正直	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	現代社会における日本国憲法の意義と概要				
到達目標	日本国憲法の成り立ちと法体系の基本法としての憲法の役割、その基本的な内容を理解することができること。				
授業概要	日本国憲法についての基本的な知識を修得し、社会における日本国憲法の役割を理解することができるように、具体的な事例や問題を通して、基本的人権や国家の作用、三権分立などの基本について解説する。				
評価方法・基準	①授業の中で課すレポート（講義に関連する問題への理解度と考察力を評価する）と②最終授業で行う到達度確認（憲法の条文の理解、基本用語の知識、憲法に関する裁判の理解を問う）への回答の評価を基本とする。詳しくは、最初の授業で説明する。				
履修上の注意事項等	日本国憲法の人権規定の適用が問題となっている裁判や、国家の政治のあり方に関わる内閣（行政府）・国会（立法府）・裁判所（司法府）に関する新聞記事・ネットニュースなど、気をつけてみるようにしよう。配信する判例資料等も、その都度閲覧し、必要に応じて授業に持参してほしい。				
テキスト	『いちばんやさしい憲法入門第6版』、初宿・高橋・米沢・棟居、有斐閣、2020年				
参考書	『目で見える憲法第5版』、初宿・大沢・高橋・常本・高井、有斐閣、2018年				

科目名	地理学Ⅰ			期間	前期
担当教員	★岡橋 秀典	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	地理学の方法および地理的事象にかかわる基本的諸テーマを通じて、地理学全般について学習する。				
到達目標	地理学の歴史および基本的な考え方を習得した上で、現代日本及び世界の地域システムについて学習する。今日のグローバル化時代に不可欠な空間的視点を養うことを目標とする。				
授業概要	最初に地理学の歴史と方法論、地理学の発展とその考察の特徴を把握し、そのうえで、日本の地域の変貌、地域システムの変化について、理論・実証両面から考察する。高校の地理教科書を適宜参照し、地理教育にも配慮した授業にしたい。				
評価方法・基準	小テスト・課題30%（基本的な語句の理解等講義内容の理解度を確保する）、定期試験70%（地理学を理解するための基本的概念を正しく理解している、もしくは、基本的概念を用いて適切に論じることができるかどうかを評価する）				
履修上の注意事項等	e-learning systemを利用する。入るためのキーはポータルサイトで通知する。授業の資料はe-learning systemで自由に見ることができるようにする（プリントの配布はしない）。				
テキスト	なし				
参考書	必要に応じて適宜指示する				

科目名	地理学Ⅱ			期間	後期
担当教員	★辰己 勝	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	地理学の基本事項の習得と日本及び世界各地の地域理解				
到達目標	1. 自然地理学、人文地理学の基礎事項の把握と世界各地の地域的特色を理解する。 2. 中学と高校での地理の授業における教材研究、資料収集、資料提示、学習指導案の作成等を習得する。				
授業概要	はじめに地理学の基礎である地図の種類や読図方法を解説する。次いで地理学の二大分野である自然地理学と人文地理学の概要を地域ごとの事例を用いて解説する。内容は自然環境が中心となることが多い。Web授業の場合は資料の提示と録画を配信する。毎時の授業を通じて、実際の中学・高校での授業展開での、資料収集、指導計画や学習指導案が作成できることを留意しながら授業を進めていく。				
評価方法・基準	定期試験60%、授業時の課題等40%を基準に評価します。地理学的事象や地域の基礎事項の理解について判断します。Web授業時は、毎時の課題と最終レポート（各50%）で評価します。				
履修上の注意事項等	テキストとともに毎時地図帳を手元の置いて参考にしてください。自分の得意とする分野や身近な地域での、学習指導案作成のための資料収集を行うこと。				
テキスト	図説 世界の自然環境、辰己 勝、古今書院、2013				
参考書	図説 世界の地誌 改訂版、辰己 勝・辰己眞知子著、古今書院、2016 データブック オフ・ザ・ワールド 2023、二宮書店、2023 新詳高等地図帝国書院、2017				

科目名	地誌学Ⅰ			期間	後期
担当教員	★角 克明	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	地誌学的な地域の見方・とらえ方を考える。				
到達目標	地誌学的な地域の見方・とらえ方を通して、地誌学的な考え方・ものの見方の習得をめざす。 日本や世界の諸地域について、その地域的特色や地域の課題などを多面的・多角的に考察し理解すること（分析方法や考え方を含む）。 ※基本的には、授業内容の把握と理解を目標とする。				
授業概要	この講義では、地誌学の基礎を学ぶ。授業計画は以下のとおり。地理学や地誌学の基礎を学習したうえで、事例としていくつかの地域の地誌をとりあげる。教職課程においては中学校や高等学校で教授するための「地理的な基礎」のうちの「地誌」を学ぶ。なお、授業計画には未記載であるが、地形図の読図などの地理的技能に関する取り組みも実践する。また、都道府県に関する読み上げ問題を出題し、解答する過程で日本の地誌的な要素を蓄積したい。最終的には、基礎的な知識だけではなく、地誌的な考え方・ものの見方の習得をめざしたい。				
評価方法・基準	最終回に実施する学修到達度確認（筆記による講義内容の理解度：テーマや到達目標にあげたことからの理解とそれらを説明・表現できる力の有無）と授業進行にあわせて、学修内容を確認する「授業後の質問」（例えば、第3回授業後に第3回授業の内容が理解できているかどうかを確認するもので、これらの蓄積が最終回の学修到達度確認へむすびつくるもの）の成果によって総合評価する。 ※詳細は第1回目の講義時に説明する予定であるため、必ず出席してください。				
履修上の注意事項等	この授業を受講する場合、Google Classroomへの登録が必要である。登録に必要な「クラスコード」は学期のはじめにポータルサイトに掲示されるので各自で対応すること。 講義には単に出席しているだけでなく、講義内容の理解が求められる。なお、配付プリントはやむを得ず欠席する場合、友人に依頼して確保してもらったコピーを渡すこと、また、講義時の長時間退席や無断早退、大幅な遅刻、あるいは不正行為に厳正に対処する。シラバスをよく読み、担当教員からの連絡事項などはききとらることのないよう十分に注意し、不利益が生じないようにすること。なお、色鉛筆（ペンやマーカーなど）を用意し、必要に応じて授業資料や教科書の地図に着色したり加筆することで理解を深めてほしい。情報通信機器の利用を推奨しているため（最終回に実施予定の学修到達度確認の受験や授業後の質問への回答に必要）、パソコンなどを教室に持参し活用することがある。				
テキスト	帝国書院編集部編：「新詳高等地図」、帝国書院、2023年。ISBN 978-4807166923 ※【注意】すでに「地図帳」（書名、出版年次、出版社は問わない）を持っている場合はそれで代用してもよい。ただし、主題図などで異なる場合があり、多少の障害が発生することを承知されたい。不安な場合は第1回目の授業で担当者に相談してください。必要に応じてプリントを配付。※【注意】プリントは基本的に次回以降の講義で再配付しないが、余分がある場合に限り提供される。必要に応じて授業資料をオンライン（Google Classroom利用）で配信することがある。				
参考書	参考書等は必要に応じて講義時に紹介・指示する。				

科目名	地誌学Ⅱ			期間	前期
担当教員	★出田 和久	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	「日本と世界の諸地域の理解を深める」				
到達目標	日本の国土を正しく認識し、日本国民としての基礎的資質と現代世界の地理的認識を養うとともに現代世界の諸地域を、歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に考察し、地誌的理解を深める。				
授業概要	日本および世界の諸地域をいくつか取り上げ、歴史的背景にも留意しながら地域の特徴・特質について解説し、大小様々な地域が部分と全体とを構成し、重層的関係にあるという点を踏まえた地誌的理解を深める。その際、できるだけ地域の特質解明に関わる事項についても説明することにより、地域調査の方法の一端にふれ、フィールドワークなどの基本的方法を理解できるようにする。また、地域調査のために必要な地図類、史料、統計資料、画像資料などの利用や使用上の問題についても適宜解説を加える。				
評価方法・基準	定期試験60%（地誌や地域の基本概念、講義内容の理解度を論述式と客観式の両形式で問う）、小レポート（適切な問題意識をもち、文献を正確に読み、地誌的に思考し論理的に展開できているかを評価する）20%、小テスト（理解の確認）20%の予定である。比率は目安であり、若干の変更もありうる。				
履修上の注意事項等	テキストの指定は行わず、適宜講義中に資料を配付し、参考文献を紹介する。授業には主体的、積極的に参加すること。また、e-learning systemを使用して資料を配付するので、印刷の都合で配付プリントで見にくい部分があれば確認してください。				
テキスト	特に使用しない				
参考書	日本（世界地誌シリーズ1）、菊地俊夫編、朝倉書店、2011 インド（世界地誌シリーズ5）、友澤和夫編、朝倉書店、2013 EU（世界地誌シリーズ3）、加賀美 雅弘編、朝倉書店、2011				

科目名	経済学			期間	前期
担当教員	★富田 貴子	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	経済学の基礎を学ぶ				
到達目標	日本経済・社会の仕組みを理解するための経済学の基本的概念や考え方を理解し、経済学の視点から社会問題を考えられるようになること。				
授業概要	本講義では、現代社会の様々なキーワードを題材に、これからの暮らしに役立つような経済学の基本的な考え方について学ぶ。				
評価方法・基準	授業毎のレポートと期末レポート（必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか、オリジナリティを評価する）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	本講義では GoogleForm のアンケート機能を使用するので、スマホまたは PC を持参のこと。またメモを取るためのノートと筆記用具等は各自持参すること。				
テキスト	授業中にプリントを配布する。				
参考書	適宜紹介する。				

科目名	生物進化学（二）			期間	後期
担当教員	岩崎 敬二	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	生物の分類と進化と絶滅				
到達目標	1) 生物の多様性を生み出す進化に関する理論を理解する。 2) 生物の進化と絶滅に関する事実と仮説、俗説を区別する。				
授業概要	地球上で繰り返されてきた生物の進化と絶滅に関して、数多くの仮説が提唱され、論争が繰り返されてきました。進化のメカニズムは？ 進化はゆっくりと進むのか／短期間に爆発的に起こるのか？ 生物の絶滅は周期的に起こるのか？ 恐竜絶滅の原因は？ こういった仮説と論争を解説しながら、生物の分類の方法と、過去に地球上で起こった進化や絶滅の原因・メカニズムを学びます。				
評価方法・基準	定期試験（100点満点）で成績評価を行います。評価の基準は、1：重要な知識の修得度（50%）、2：その応用力（30%）、3：論理的な意見の展開（20%）、の3つです。				
履修上の注意事項等	講義をただ聞くだけでなく、マスコミなどで報道されている俗説を疑ってかかる、批判的な姿勢が必要です。				
テキスト					
参考書	パンダの親指（上・下）、S・J・グールド、早川文庫 NF、1996 ダーウィン 種の起源：未来へ続く進化論、長谷川真理子、NHK 出版、2020 新説恐竜学、平山 康、カンゼン、2019				

科目名	生態学（一）			期間	前期
担当教員	岩崎 敬二	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	人間の行動と生態				
到達目標	人間の食、住、衣、性をめぐる生態とその進化を理解し、人間の行動の法則性を把握し、客観的・科学的に人間の生態を理解できる視点を身につける。				
授業概要	人間の食、住、衣、性をめぐる生態と行動の進化を、他のヒト科の動物（類人猿：ゴリラ、チンパンジー、ボノボ）と比較しつつ、主に行動生態学の視点から解説します。初めの4回の授業では、ヒト科の進化と類人猿の生態、行動、社会を概観し、5回目以降は、人間の食、住、衣、性に関する生態や行動の、他の動物との共通性や独自性を解説します。				
評価方法・基準	定期試験（100点満点）で成績を評価します。評価の基準は、1：重要な知識の修得度（50%）、2：その応用力（30%）、3：論理的な意見の展開（20%）、の3つです。				
履修上の注意事項等	講義をただ聞くだけでなく、積極的に自身や他者の生態や行動を客観的に観察する意欲と姿勢が必要です。				
テキスト					
参考書	マン・ウォッチング（上・下）、デズモンド・モリス、小学館、1980 人間の性はなぜ奇妙に進化したのか、ジャレド・ダイヤモンド、草思社文庫、2013 大逆転！奇跡の人類史、「人類誕生」取材班、NHK 出版、2018				

科目名	生態学（二）			期間	後期
担当教員	岩崎 敬二	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	人間の行動と生態				
到達目標	人間の食、住、衣、性をめぐる生態とその進化を理解し、人間の行動の法則性を把握し、客観的・科学的に人間の生態を理解できる視点を身につける。				
授業概要	人間の食、住、衣、性をめぐる生態と行動の進化を、他のヒト科の動物（類人猿：ゴリラ、チンパンジー、ボノボ）と比較しつつ、主に行動生態学の視点から解説します。初めの4回の授業では、ヒト科の進化と類人猿の生態、行動、社会を概観し、5回目以降は、人間の食、住、衣、性に関する生態や行動の、他の動物との共通性や独自性を解説します。				
評価方法・基準	定期試験（100点満点）で成績を評価します。評価の基準は、1：重要な知識の修得度（50%）、2：その応用力（30%）、3：論理的な意見の展開（20%）、の3つです。				
履修上の注意事項等	講義をただ聞くだけでなく、積極的に自身や他者の生態や行動を客観的に観察する意欲と姿勢が必要です。				
テキスト					
参考書	マン・ウォッチング（上・下）、デズモンド・モリス、小学館、1980 人間の性はなぜ奇妙に進化したのか、ジャレド・ダイヤモンド、草思社文庫、2013 大逆転！奇跡の人類史、「人類誕生」取材班、NHK 出版、2018				



科目名	情報学			期間	後期
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	情報の基礎を通して、社会にどのように利活用されているのかを学ぶ。				
到達目標	情報理論の基礎、ハードウェア、ネットワークなどの基礎知識を学び、これらの技術がどのように社会で利活用されているのかを正しく理解することを目標としている。				
授業概要	授業の前半では、情報技術の基本的な仕組みについて解説する。後半では、前半で説明した情報技術が、現代社会にどのように活用されているのかを、原理も含めて事例を紹介する。				
評価方法・基準	成績評価は、各回で出題する小レポートで評価する。評価基準は、各回で説明した内容が正しく理解しているかどうかを判断する。配点は、小レポート課題は第1回から第14回まで各5点、最終レポート課題は30点とする。				
履修上の注意事項等					
テキスト	Web 教材				
参考書					

科目名	人間学 I (一)			期間	前期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	生活と文化の思想				
到達目標	生活文化（特に生きることににおける人と物との関わり）への関心を喚起し、物の具体性を手掛かりに人間存在について考えることを目標とします。				
授業概要	日常生活から出発して人間を考えます。特に生活の基本道具から見えてくる様々の連関を掘り下げていきます。哲学（生活文化論、風土論）、民俗学（アチックミュージアム、渋沢敬三、宮本常一）、工藝論（ウィリアム・モリス、民藝運動）等にも言及しつつ、物に映し出される人間の姿を捉える予定です。				
評価方法・基準	平常点40%程度（コメント記入の充実度、等）と、学習到達度確認60%程度（基本概念の理解、等）とで、総合評価する。（授業を踏まえ、自分なりの考察に深まりがあることを重視。）				
履修上の注意事項等	毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト					
参考書	屋根裏部屋の博物館, 国立民族学博物館, 淡交社, 2013 工藝文化, 柳宗悦, 岩波書店, 2003 民衆の芸術, ウィリアム・モリス, 岩波書店, 1953				

科目名	人間学 I (二)			期間	後期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	生活と文化の思想				
到達目標	生活文化（特に生きることににおける人と物との関わり）への関心を喚起し、物の具体性を手掛かりに人間存在について考えることを目標とします。				
授業概要	日常生活から出発して人間を考えます。特に生活の基本道具から見えてくる様々の連関を掘り下げていきます。哲学（生活文化論、風土論）、民俗学（アチックミュージアム、渋沢敬三、宮本常一）、工藝論（ウィリアム・モリス、民藝運動）等にも言及しつつ、物に映し出される人間の姿を捉える予定です。				
評価方法・基準	平常点40%程度（コメント記入の充実度、等）と、学習到達度確認60%程度（基本概念の理解、等）とで、総合評価する。（授業を踏まえ、自分なりの考察に深まりがあることを重視。）				
履修上の注意事項等	毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト					
参考書	屋根裏部屋の博物館, 国立民族学博物館, 淡交社, 2013 工藝文化, 柳宗悦, 岩波書店, 2003 民衆の芸術, ウィリアム・モリス, 岩波書店, 1953				

科目名	人間学 II (一)			期間	前期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	「人と物」について論じる				
到達目標	物が人間に対して持つ様々な意味を、取り出し、考えます。特に原型的な道具的な物の意味理解を通じて、世界や人間への関心を広げることを目標とします。				
授業概要	「ホモ・ファベル」という人間規定もありますが、人間が自然から素材を得て、手で物を作り出す行為は現在も続いています。そのような営為、またそれによって生み出される物が、人間にとって持つ意味は何でしょうか。道具の機能性、記号性、身体性、美の観点から、それを考えます。後半は、具体例を検討する予定です。				
評価方法・基準	平常点40%程度（コメント記入の充実度、中間の学習到達度確認、等）と、レポート60%程度（必要な情報を自分の言葉でまとめられているか等）とで、総合評価する。				
履修上の注意事項等	毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	手仕事の日本, 柳宗悦, 岩波書店, 1885 生きることの人間論, 伊藤・丸田・島本・市川, ナカニシヤ出版, 2016				
参考書	ものと人間の文化史 シリーズ, 法政大学出版局				

科目名	人間学Ⅱ(二)			期間	後期
担当教員	丸田 健	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	「人と物」について論じる				
到達目標	物が人間に対して持つ様々な意味を、取り出し、考えます。特に原型的な道具的な物の意味理解を通じて、世界や人間への関心を広げることが目標とします。				
授業概要	「ホモ・ファベル」という人間規定もありますが、人間が自然から素材を得て、手で物を作り出す行為は現在も続いています。そのような営為、またそれによって生み出される物が、人間にとって持つ意味は何でしょうか。道具の機能性、記号性、身体性、美の観点から、それを考えます。後半は、具体例を検討する予定です。				
評価方法・基準	平常点40%程度(コメント記入の充実度、中間の学習到達度確認、等)と、レポート60%程度(必要な情報を自分の言葉でまとめられているか等)とで、総合評価する。				
履修上の注意事項等	毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	手仕事の日本, 柳宗悦, 岩波書店, 1885 生きることの人間論, 伊藤・丸田・島本・市川, ナカニシヤ出版, 2016				
参考書	もの与人間の文化史 シリーズ, 法政大学出版局				

科目名	考古学Ⅰ			期間	前期
担当教員	★狭川 真一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	考古学の基本的な事項(方法論・調査法・遺跡・遺構・遺物など)について概説する。				
到達目標	日本考古学は歴史学の一翼を担っているため、日本史の流れの中で学ぶことを心がけて欲しい。時代の変化を遺跡や遺構、遺物から学び、考える方法を取得する。				
授業概要	考古学が扱う主要な対象物は遺跡、遺構、遺物である。これらは正しく調査されてさえいれば、その土地に確かに存在したものだ。資料を正確に研究することで、事実に基づいた歴史構築が可能になる学問である。授業ではその方法論、調査法を学んだうえで、各時代の考古学的な概要を解説する。				
評価方法・基準	通常時:出席カードの空欄に毎回短いまとめを書き、最終回に学習到達度確認で評価します。オンデマンド授業:各講義後に簡単なレポート提出を求め、15回目の課題は評価点を大きくします。				
履修上の注意事項等	通常時:毎回レジメを配布するので自己で管理すること。オンデマンド授業時:一定期間掲示しますので、確実に確認、受講すること。レジメはWeb講義の画面をPDFにして毎回提示する予定です。なお、講義の内容や順番を一部変更する場合があります。				
テキスト					
参考書	考古学研究入門, H・J・エガース, 岩波書店, 1981 考古学入門, 鈴木公雄, 東京大学出版会, 1988 考古学の方法, 藤本 強, 東京大学出版会, 2000				

科目名	考古学Ⅱ			期間	後期
担当教員	★狭川 真一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	古墳時代から鎌倉時代にかけて重要なテーマを抽出し、詳述する。考古学的成果を日本の歴史の中に位置づける。				
到達目標	日本考古学は歴史学の一翼を担っているため、日本史の流れの中で学ぶことを心がけて欲しい。時代の変化を遺跡や遺構、遺物から学び考える方法を取得する。				
授業概要	考古学がこれまで蓄積してきた成果は大きく、日本の歴史研究に大きく寄与してきた。この授業では時代を代表するテーマを選び出し、これまでの研究成果を踏まえながら日本の歴史の中に考古学の成果を位置付けながら概説する。				
評価方法・基準	通常時:出席カードの空欄に毎回短いまとめを書き、最終回に学習到達度確認で評価します。オンデマンド授業:各講義後に簡単なレポート提出を求め、15回目の課題は評価点を大きくします。				
履修上の注意事項等	通常時:毎回レジメを配布するので自己で管理すること。オンデマンド授業時:一定期間掲示しますので、確実に確認、受講すること。レジメはWeb講義の画面をPDFにして毎回提示する予定です。なお、講義の内容や順番を一部変更する場合があります。				
テキスト					
参考書	『日本考古学を学ぶ1~3』, 大塚初重ほか編, 有斐閣, 1978 『日本歴史考古学を学ぶ上・中・下』, 坂詰秀一ほか編, 有斐閣, 1983				

科目名	美術史Ⅰ			期間	前期
担当教員	★大熊 夏実	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	西洋美術史概論(古代から16世紀までの通史)				
到達目標	古代から16世紀までの西洋美術史を概観し、基本的な知識を習得します。また、美術作品を丁寧に観察し、その造形的特徴を自らの言葉で表現する力を養います。				
授業概要	古代から16世紀までの西洋美術史の通史を概説し、主要な作家や作品を紹介します。その過程で、図像学、様式展開、素材や技法、作品の機能、受容史、思想的・社会的背景など、美術史研究の多様なアプローチに触れてもらいます。基本的にテキストに準拠して進めますが、補助教材としてプリントを配付します。				
評価方法・基準	・各回のコメントシート50%:授業内で作品記述などの小課題を実施し、授業後に提出してもらいます。 ・期末試験(第16回に実施)50%:各時代の芸術の特徴や基本用語に関する理解を問います。また、簡単な論述問題を出す可能性もあります。				
履修上の注意事項等	諸連絡や試験の講評など、必要に応じてGoogle classroomを使用します。クラスコードは決定次第お知らせします。				
テキスト	『美術出版ライブラリー 歴史編 西洋美術史』, 秋山聰・田中正之監修, 美術出版社, 2021				
参考書	『西洋美術館』小学館, 1999 『カラー版 西洋美術史(増補新装)』, 高階秀爾監修, 美術出版社, 2002 『西洋美術解説事典 絵画・彫刻における主題と象徴(新装版)』, ジェイムス・ホール著, 高階秀爾監修, 河出書房新社, 2004				

科目名	美術史Ⅱ			期間	後期
担当教員	★大熊 夏実	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	西洋美術史概論（17世紀から20世紀までの通史）				
到達目標	17世紀から20世紀までの西洋美術史を概観し、基本的な知識を習得します。また、美術作品を丁寧に観察し、その造形的特徴を自らの言葉で表現する力を養います。				
授業概要	17世紀から20世紀までの西洋美術史の通史を概説し、主要な作家や作品を紹介します。その過程で、図像学、様式展開、素材や技法、作品の機能、受容史、思想的・社会的背景など、美術史研究の多様なアプローチに触れてもらいます。基本的にテキストに準拠して進めますが、補助教材としてプリントを配付します。				
評価方法・基準	・各回のコメントシート50%：授業内で作品記述などの小課題を実施し、授業後に提出してもらいます。 ・期末試験（第16回に実施）50%：各時代の芸術の特徴や基本用語に関する理解を問います。また、簡単な論述問題を出す可能性もあります。				
履修上の注意事項等	諸連絡や試験の講評など、必要に応じて Google Classroom を使用します。クラスコードは決定次第お知らせします。				
テキスト	『美術出版ライブラリー 歴史編 西洋美術史』、秋山聰・田中正之監修、美術出版社、2021				
参考書	『西洋美術館』小学館、1999 『カラー版 西洋美術史（増補新装）』、高階秀爾監修、美術出版社、2002 『西洋美術解説事典 絵画・彫刻における主題と象徴（新装版）』、ジェイムズ・ホール著、高階秀爾監修、河出書房新社、2004				

科目名	差別・人権問題論			期間	後期
担当教員	★藤井 幸之助	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	近代以降続く日本の植民地主義からどう脱却するか				
到達目標	ヘイトスピーチからヘイトクライムへと深刻化する中、誰もが暮らしやすい社会にするためには何が必要か考える力をつける。自分が得た情報を鵜呑みにしないで、検証する姿勢を身につける。				
授業概要	朝鮮と日本の間には長い友好親善の歴史があった。ところが、近現代に入り、その関係を損なうできごとがあった。35年にわたる朝鮮植民地支配である。また、昨年2023年は関東大震災朝鮮人・中国人虐殺から100年。これらに対する正確な知識・理解の欠如が、現代日本に生きる私たちにどんな影響を及ぼしているかを検討する。そして、テーマにあげた日本の植民地主義からどう脱却するか？に対して、大学生のみならずともとできることは何かを探る。				
評価方法・基準	平常点20% 授業への積極的な参加を評価する。 中間レポート40% 朝日関係をどのように理解しているか。 学期末レポート40% 講義内容に関連し、テーマを設定し、いかに自分に引き付けて論じられているか。				
履修上の注意事項等	深く考え、意見を突き合わせるタイプの授業なので、講義には原則休まず出席して、集中して聴くことが一番大事である。※情勢が刻々と変化しているため、それに伴って内容も変化する可能性があることをあらかじめお断りしておく。ゲスト講師も招く。				
テキスト	なし				
参考書	ヘイトクライムとは何か 連鎖する民族差別犯罪、鶴塚健・後藤由耶、角川書店、2023 『日韓』のモヤモヤと大学生のわたし、加藤圭木・一橋大学社会学部加藤圭木セミナー編、大月書店、2021 拉致被害者たちを見殺しにした安倍晋三と冷血な面々、蓮池透、講談社、2015				

科目名	奈良文化論			期間	前期
担当教員	★笠置 慎一	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	奈良の文化と伝統芸能				
到達目標	奈良の文化における伝統芸能を知り、その理解者となり、積極的に保存継承しようとする姿勢を身につける。				
授業概要	古来より奈良に受け継がれてきた芸能、特に神事芸能としての雅楽を中心に、奈良県各地で受け継がれる様式、しきたりを紐解きながら、伝統芸能の理解者、芸術文化の保全継承の意識を芽生えさせる。国指定重要無形民俗文化財「春日若宮おん祭の神事芸能」を例に、芸能の歴史と伝統を考える。				
評価方法・基準	毎回の授業で示した課題や探究のレポートの提出及び内容で評価する。 内容では、資料収集、分析、考察、持論等が適切に展開できているか（課題に真摯に取り組む姿勢など）を重視する。				
履修上の注意事項等	テキストは使用しないが、授業レジュメ及び資料を提示する。Web上の必見サイトや探究サイトを随時紹介する。 奈良の伝統行事に積極的に参加する姿勢をもつことが望ましい。				
テキスト	特になし				
参考書	雅楽の奈良を歩く、笠置慎一共著、株式会社 包、2014				

科目名	国際関係論（二）			期間	前期
担当教員	★井上 良子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	国際社会のグローバル化に伴い、国境を越えた活動が相互に影響を及ぼし合う現代の国際関係では、地球規模の課題もますます複雑化しています。そのような現代社会に生きる私たちの生活や行動がいかにグローバル・イシューと結びついているかを学び、正解のない課題に対して解決策を思考し行動変容につなげていくことが本講義のテーマです。				
到達目標	(1) 地球規模のグローバル・イシューに関心をもち、多角的な視点から考える素養を身につけること (2) グローバル・イシューと国内問題や各アクターとの関連性を理解し、自分事として捉える姿勢をもつこと (3) 正解のない課題に対しても、持続可能な社会に向けて、自ら思考し解決策を導く、柔軟な課題解決力を養うこと				
授業概要	●授業の前半では、総論として国際関係を読み解く多角的な視点をもつための、国際政治、国際経済、国際法の基本的な流れと主なトピックを学ぶ ●授業の中盤では、現代の国際関係における国家、国際機構、NGO/NPOの各アクターの役割と活動について、具体的な事例の中で理解を深める ●授業の後半では、地球規模課題が集約されている国連の持続可能な開発目標（SDGs）をベースに、グローバルとローカルの各レベルで具体的な取り組みを学ぶ中で、自分の日頃の行動と結びつけながら課題解決の思考を身につけていく				
評価方法・基準	●各回の授業後に実施するWeb上の小テスト（70%）と第15回目に実施する学習到達度確認のための試験（30%）により評価します。 ・Web上の小テスト：時事問題とも絡めながら基本的な概念やトピック等の理解を確認します。 ・学習到達度確認のための試験：講義内容の理解度を確認するために、選択形式及び論述形式で試験を行います。 ※詳細については、第1回目のイントロダクションにおいて説明を行います。				
履修上の注意事項等	特定の教科書・テキストの購入は求めませんが、授業内容の理解を深めるための参考文献等については、授業レジュメの文末で紹介いたします。				
テキスト	なし				
参考書	なし（随時紹介）				

科目名	国際関係論（三）			期間	前期
担当教員	★田淵 有美	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	米国の外交政策				
到達目標	米国の外交政策から国際関係を理解する視点を得る。				
授業概要	本講義は、建国期から現在に至るアメリカ合衆国の歴史を主に外交という観点から考察する、講義形式の授業である。				
評価方法・基準	学期内に実施する小課題（回数・形式未定）40%と、学期末レポート60%。前者は講義内容の基本的理解、後者はそれに加え論理的な思考力と文章力を総合的に問うもの。				
履修上の注意事項等	世界史の基本的な知識を持っていることが望ましい。日ごろから米国の政治に関するニュースや新聞に目を通しておくようしてください。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	国際関係論（四）			期間	後期
担当教員	★田淵 有美	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	途上国と米国の政治問題と国際関係				
到達目標	・途上国の抱える様々な問題について、理解できるようになる。 ・米国の抱える様々な課題について、理解できるようになる。				
授業概要	・民族や人種、アイデンティティ、格差といった「多様性」と結びつく政治現象について整理することで、国際関係を考察する入門的な講義形式の授業である。前半部では主に途上国が抱える問題について考察する。後半部では先進国（米国）が抱える課題について考察する。				
評価方法・基準	学期内に数回実施する小課題30%（回数・形式未定）と、学期末レポート70%。前者は講義内容の基本的理解、後者はそれに加え論理的な思考力・文章力を総合的に問うもの。				
履修上の注意事項等	国際政治の基本的な知識を持っていることが望ましい。日ごろから国際政治に関するニュースや新聞に目を通しておくようしてください。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	国際関係論（五）			期間	後期
担当教員	★井上 良子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	グローバル社会における人権問題は、武力紛争、貧困や飢餓、気候変動などの環境問題、移民・難民、強制労働・児童労働といった多岐にわたって深刻化しています。中でも、近年とくに国際的なルールづくりが進んでいる「ビジネスと人権」を取り上げ、身近な問題や具体的な事例を通して社会と人権の関わりを考察を深め、人権が保障される社会に向けて一人一人の行動変容につなげていくことが本講義のテーマです。				
到達目標	(1) グローバル社会における人権問題に関心をもち、多角的な視点から考える素養を身につけること (2) グローバル社会における人権問題と各アクターとの関連性を理解し、自分事として捉える姿勢をもつこと (3) 正解のない課題に対しても、持続可能な社会に向けて、自ら思考し解決策を導く、柔軟な課題解決力を養うこと				
授業概要	●授業の前半では、総論においてグローバル社会における人権問題を概観したうえで、各論として具体的な人権トピックを学ぶ ●授業の中盤からは、国際的な人権保障の仕組みを理解したうえで、国境を越える企業活動が社会や人に与える影響を理解する ●授業の後半では、2011年に国連で採択された「ビジネスと人権に関する指導原則」の特徴を踏まえ、国家・企業・市民社会が果たすべき役割について理解を深める				
評価方法・基準	●各回の授業後に実施するWeb上の小テスト（70%）と第15回目に実施する学習到達度確認のための試験（30%）により評価します。 ・Web上の小テスト：時事問題とも絡めながら基本的な概念やトピック等の理解を確認します。 ・学習到達度確認のための試験：講義内容の理解度を確認するために、選択形式及び論述形式で試験を行います。 ※詳細については、第1回目のイントロダクションにおいて説明を行います。				
履修上の注意事項等	特定の教科書・テキストの購入は求めませんが、授業内容の理解を深めるための参考文献等については、授業レジュメの文末で紹介いたします。				
テキスト	なし				
参考書	なし（随時紹介）				

科目名	現代社会と法（一）			期間	前期
担当教員	村上 正直	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	キャンパスから国際社会まで、人々の社会や集団のなかで作用する法・法律について、いくつかのテーマをとりあげ、解説し、考える。				
到達目標	授業でとりあげたテーマについて、その基本的な内容を理解し、考えをめぐらした上で、自分の意見をもつことができること。				
授業概要	キャンパスから国際社会まで、人々の社会や集団のなかでは様々な法律問題が生じ、議論されている。この授業では、そのうち現代的な諸問題を含めて、いくつかのテーマについて解説し、検討を加える。授業では、そのテーマに関する基本事項を説明した後に、特定のテーマを取りあげる。1テーマ授業2回を基本とする。教科書は用いず、レジュメや資料を配付する。				
評価方法・基準	授業の中で複数回課すレポート（講義に関連する問題への理解度と考察力を評価する）への回答の評価を基本とする。詳しくは、最初の授業で説明する。				
履修上の注意事項等	新聞やネットニュースなどで紹介される法・法律や裁判、法・法律をめぐる議論などに関心をもって注目してほしい。法・法律問題は日常的に生じている。なお、Eラーニングで配信する資料を、その都度、閲覧し、必要に応じて授業の際に持参してほしい。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	現代社会と法(二)			期間	後期
担当教員	村上 正直	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	キャンパスから国際社会まで、人々の社会や集団のなかで作用する法・法律について、いくつかのテーマをとりあげ、解説し、考える。				
到達目標	授業でとりあげたテーマについて、その基本的な内容を理解し、考えをめぐらした上で、自分の意見をもつことができること。				
授業概要	キャンパスから国際社会まで、人々の社会や集団のなかでは様々な法律問題が生じ、議論されている。この授業では、そのうち現代的な諸問題を含めて、いくつかのテーマについて解説し、検討を加える。授業では、そのテーマに関する基本事項を説明した後に、特定のテーマを取りあげる。1テーマ授業2回を基本とする。教科書は用いず、レジュメや資料を配付する。				
評価方法・基準	授業の中で複数回課すレポート(講義に関連する問題への理解度と考察力を評価する)への回答の評価を基本とする。詳しくは、最初の授業で説明する。				
履修上の注意事項等	新聞やネットニュースなどで紹介される法・法律や裁判、法・法律をめぐる議論などに関心をもって注目してほしい。法・法律問題は日常的に生じている。なお、Eラーニングで配信する資料を、その都度、閲覧し、必要に応じて授業の際に持参してほしい。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	現代社会と法(三)			期間	前期
担当教員	村上 正直	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	キャンパスから国際社会まで、人々の社会や集団のなかで作用する法・法律について、いくつかのテーマをとりあげ、解説し、考える。				
到達目標	授業でとりあげたテーマについて、その基本的な内容を理解し、考えをめぐらした上で、自分の意見をもつことができること。				
授業概要	キャンパスから国際社会まで、人々の社会や集団のなかでは様々な法律問題が生じ、議論されている。この授業では、そのうち現代的な諸問題を含めて、いくつかのテーマについて解説し、検討を加える。授業では、そのテーマに関する基本事項を説明した後に、特定のテーマを取りあげる。1テーマ授業2回を基本とする。教科書は用いず、レジュメや資料を配付する。				
評価方法・基準	授業の中で複数回課すレポート(講義に関連する問題への理解度と考察力を評価する)への回答の評価を基本とする。詳しくは、最初の授業で説明する。				
履修上の注意事項等	新聞やネットニュースなどで紹介される法・法律や裁判、法・法律をめぐる議論などに関心をもって注目してほしい。法・法律問題は日常的に生じている。なお、Eラーニングで配信する資料を、その都度、閲覧し、必要に応じて授業の際に持参してほしい。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	自然の保護(一)			期間	前期
担当教員	岩崎 敬二	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	自然の保護と法律：日本の現状と問題点				
到達目標	生物と自然を保護することの意義を把握し、日本の自然保護に関する法律の現状、問題点と政治・行政・司法との関わりを理解する。				
授業概要	貴重な自然や絶滅の危機に瀕している生物たちは、私達の身近なところにも数多く存在しており、法律によって保護されています。しかし、その規制はまだまだ甘く、自然保護に十分に役立っていない法律も散見されます。この講義では、日本の自然保護に関する法律をわかりやすく解説しつつ、その問題点を指摘し、将来の日本のより良い自然保護の在り方を考えます。				
評価方法・基準	定期試験(100点満点)で成績を評価します。評価の基準は、1：重要な知識の修得度(50%)、2：その応用力(30%)、3：論理的な意見の展開(20%)、の3つです。				
履修上の注意事項等	講義をただ聞くだけでなく、新聞やテレビの報道などから、最新の環境問題を知ろうとする積極的な姿勢が必要です。				
テキスト					
参考書	いきもの六法：日本の自然を楽しみ、守るための法律、中島慶二・益子知樹、山と渓谷社、2022 改訂 生態学からみた野生生物の保護と法律、(財団法人)日本自然保護協会(編)、講談社サイエンティフィック、2010 ここが違う、ドイツの環境政策、今泉みね子、白水社、2003				

科目名	環境科学I(一)			期間	前期
担当教員	岩崎 敬二	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	大和川水系と木津川の生物・環境調査				
到達目標	身近な川に棲む生物たちの多様性と水質、自然環境との関係を理解し、河川の自然環境のより良い保全策を考えられるようになる。				
授業概要	奈良大学の周辺を流れる秋篠川・佐保川・木津川で、4人1グループの班を作って、野外での水生生物の採集と環境調査をグループワークで行ない、自然環境と水質の現状を把握し、その保全・復元策を考えます。なお、3時間目と4時間目を連続して行ないますので、必ず、同じ曜日の4時間目に開講される環境科学II(一)も同時に登録・履修してください。				
評価方法・基準	1：作業量が多い班活動を行うため、頻繁な欠席は他のメンバーの負担を増やします。よって、2回以上の欠席は不合格とします。ただし、病気・急引等を証明できる文章があれば欠席扱いとしません。 2：評価方法は、以下の通りです。 ・レポート(50%：調査結果が適切に図表と文章にまとめられているか、調査結果が論理的に考察されているか) ・演習態度(50%：講義・野外調査・グループワークへの積極性、調査用具の適切な取り扱い)				
履修上の注意事項等	1) 第1回目の授業で班編成を行ないますので、必ず出席すること。無断で欠席した場合、履修の取り消しをしてもらいます。 2) 同じ曜日の4時間目に開講される環境科学II(一)と連続して行いますので、それも必ず同時に登録・履修してください。				
テキスト					
参考書	滋賀の水生昆虫、滋賀の理科教材研究委員会、滋賀の理科教材研究委員会、2016				

科目名	環境科学Ⅰ（二）			期間	後期
担当教員	岩崎 敬二	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	大和川水系と木津川の生物・環境調査				
到達目標	身近な川に棲む生物たちの多様性と水質、自然環境との関係を理解する。				
授業概要	奈良大学の周辺を流れる秋篠川・佐保川・木津川で、4人1グループの班を作り、野外で水生生物の採集と環境調査をグループワークで行ない、自然環境と水質の現状を把握し、その保全・復元策を考えます。なお、3時間目と4時間目を連続して行ないますので、必ず、同じ曜日の4時間目に開講される環境科学Ⅱ（二）も同時に登録・履修してください。				
評価方法・基準	1：作業量が多い班活動を行うため、頻繁な欠席は他のメンバーの負担を増やします。よって、2回以上の欠席は不合格とします。ただし、病欠・急引等を証明できる文章があれば欠席扱いとしません。 2：評価方法は、以下の通りです。 ・レポート（50%：調査結果が適切に図表と文章にまとめられているか、調査結果が論理的に考察されているか） ・演習態度（50%：講義・野外調査・グループワークへの積極性、調査用具の適切な取り扱い）				
履修上の注意事項等	1) 第1回目の授業で班編成を行ないますので、必ず出席すること。無断で欠席した場合、履修取り消しをしてもらいます。 2) 同じ曜日の4時間目に開講される環境科学Ⅱ（二）と連続して行いますので、それも必ず同時に登録・履修してください。				
テキスト					
参考書	滋賀の水生昆虫，滋賀の理科教材研究委員会，滋賀の理科教材研究委員会，2016				

科目名	環境科学Ⅱ（一）			期間	前期
担当教員	岩崎 敬二	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	大和川水系と木津川の生物・環境調査				
到達目標	身近な川に棲む生物たちの多様性と水質、自然環境との関係を理解し、河川の自然環境のより良い保全策について考えられるようになる。				
授業概要	奈良大学の周辺を流れる秋篠川・佐保川・木津川で、4人1グループの班を作り、野外で水生生物の採集と環境調査をグループワークで行ない、自然環境と水質の現状を把握し、その保全・復元策を考えます。なお、3時間目と4時間目を連続して行ないますので、必ず、同じ曜日の3時間目に開講される環境科学Ⅰ（一）も同時に登録・履修してください。				
評価方法・基準	1：班活動を行うため、頻繁な欠席は他のメンバーの負担を増やします。よって、2回以上の欠席は不合格とします。ただし、病欠・急引等を証明できる文章があれば欠席扱いとしません。 2：評価方法は、以下の通りです。 ・レポート（50%：調査結果が適切に図表と文章にまとめられているか、調査結果が論理的に考察されているか） ・演習態度（50%：講義・野外調査・グループワークへの積極性、調査用具の適切な取り扱い）				
履修上の注意事項等	1) 第1回目の授業で班編成を行ないますので、必ず出席すること。無断で欠席した場合、履修の取り消しをもらいます。 2) 同じ曜日の3時間目に開講される環境科学Ⅰ（一）と連続して行いますので、それも必ず同時に登録・履修してください。				
テキスト					
参考書	滋賀の水生昆虫，滋賀の理科教材研究委員会，滋賀の理科教材研究委員会，2016				

科目名	環境科学Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	岩崎 敬二	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	大和川水系と木津川の生物・環境調査				
到達目標	身近な川に棲む生物たちの多様性と水質、自然環境との関係を理解し、河川環境のより良い保全策について考えられるようになる。				
授業概要	奈良大学の周辺を流れる秋篠川・佐保川・木津川で、4人1グループの班を作り、野外で水生生物の採集と環境調査をグループワークで行ない、自然環境と水質の現状を把握し、その保全・復元策を考えます。なお、3時間目と4時間目を連続して行ないますので、必ず、同じ曜日の3時間目に開講される環境科学Ⅰ（二）も同時に登録・履修してください。				
評価方法・基準	1：作業量が多い班活動を行うため、頻繁な欠席は他のメンバーの負担を増やします。よって、2回以上の欠席は不合格とします。ただし、病欠・急引等を証明できる文章があれば欠席扱いとしません。 2：評価方法は、以下の通りです。 ・レポート（50%：調査結果が適切に図表と文章にまとめられているか、調査結果が論理的に考察されているか） ・演習態度（50%：講義・野外調査・グループワークへの積極性、調査用具の適切な取り扱い）				
履修上の注意事項等	1) 第1回目の授業で班編成を行ないますので、必ず出席すること。無断で欠席した場合、履修の取り消しをもらいます。 2) 同じ曜日の3時間目に開講される環境科学Ⅰ（二）と連続して行いますので、それも必ず同時に登録・履修してください。				
テキスト					
参考書	滋賀の水生昆虫，滋賀の理科教材研究委員会，滋賀の理科教材研究委員会，2016				

科目名	言語学			期間	前期
担当教員	★岸江 信介	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	国語学の基礎を学ぶ。				
到達目標	国語学の成果に基づいて、日本語に関する基本的な知識を理解し習得する。				
授業概要	国語学入門の授業である。ひろく音声・音韻、アクセント、文法、語彙などの視点から国語学に関連した専門用語・術語をはじめ、具体的な事例を通して国語学の知見を概説的に学ぶ。				
評価方法・基準	平常点50点（講義中の質問、授業に対する積極的な態度、コメントシートを重視）、学習到達度確認50%（到達度確認テスト、レポートの内容、国語学で使用する術語・専門用語を正しく理解しているかなど）とする。				
履修上の注意事項等	授業での配付資料のほか、Google Classroom上で資料の閲覧ができるようにするのでその都度、チェックして頂きたい。				
テキスト	基礎日本語学（第2版），衣畑智秀編，ひつじ書房，2023				
参考書	日本語アクセント入門，松森晶子ほか，三省堂，2012				

科目名	経営学			期間	前期
担当教員	倉 光巖	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	経営学のテーマテーマである「経営管理論」や「経営戦略論」をもとに経営学を学ぶ。				
到達目標	経営学のベースとなるテーマを学んで経営の実際や企業行動を理解する。				
授業概要	半導体製造装置・液晶製造装置・印刷製版機器メーカーにおいて「ものづくり」に30年、「調達業務統括」に10年、物流企業の経営者として4年携わってきたキャリアを生かして、経営学の基本的な考え方を経営現場と理論の両面から講義する。企業を取り巻く外部環境の変化が、経営戦略および組織改革などの企業行動、とくに経営の資源であるヒト・モノ・カネ・情報・時間の使い方にどのようにつなげるかを考える。				
評価方法・基準	受講者の講義内容に関する理解や講義内容をベースにした見解について提出されたコメントを評価し、総合評価を行う。場合によっては毎回コメントの代わりにレポート提出を求め、これを評価対象にすることもある。				
履修上の注意事項等	(予習) 自作レジュメを各講義前にポータルサイトへ掲載するので一読して授業に出席すること。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目である。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。履修学生の理解度を勘案して講義内容を変更することもある。				
テキスト	自作レジュメをポータルサイトに掲示				
参考書					

科目名	販売管理論Ⅰ			期間	前期
担当教員	★伊吹 秀之	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	販売に対する基礎を学び、リテールマーケティング(販売士)3級試験に合格できるだけの知識を習得する。				
到達目標	リテールマーケティング(販売士)3級試験に合格する。				
授業概要	本講座では1級販売士および中小企業診断士として経営コンサルタントに従事してきた経験を踏まえ、「なぜあの店は売れるのか、なぜあの店は売れないのか」といったことを理論立てて具体的な事例を挙げながら勉強していきます。本学が全国に先駆けて開発した「奈良大方式」と呼ばれるプログラムにより、通常の授業を受けながら資格合格の力を養うことができます。				
評価方法・基準	定期試験60%(販売に関する基本的概念や語句の理解を問う、講義の内容を理解して具体的な事例等に活用できるかを問う) 平常点40%(講義中の授業態度、発言、理解度など)				
履修上の注意事項等	リテールマーケティング(販売士)3級試験を受験する受講生は資格試験対策スクーリングを受講すること。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	実費配布(変更の可能性あり)				
参考書					

科目名	販売管理論Ⅱ			期間	後期集中
担当教員	★太田 一樹	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	リテールマーケティング(販売士)2級検定試験レベルの知識習得				
到達目標	リテールマーケティング(販売士)2級検定試験に要求される知識や能力を養うことを目的とする。				
授業概要	流通業における販売技術に焦点を当て、これからの流通業に必要とされる様々な知識や技術について詳しく説明していく。リテールマーケティング(販売士)2級資格を取得したい学生を対象に授業を進めていく(毎年、奈良大学生の2級の合格率は高い)。なお、新型コロナウイルス感染状況によるが、原則、対面授業を実施する。 *中小企業診断士としてコンサルティングに従事していた知識や経験を活かした実践的な授業を展開していく。				
評価方法・基準	毎回の小テストの点数とプレゼン姿勢で評価する。評価基準については以下のとおりである。 ①小テストは、授業内容の理解度を確認するために授業の区切りごとに実施する(8回程度)。 ②小テストの解答内容を、毎回プレゼンしてもらおう。積極性(宿題の取り組み状況、質問の応対、授業に対する姿勢)を重視する。				
履修上の注意事項等	リテールマーケティング(販売士)2級検定試験の合格レベルの能力を養うので、授業のスピードは速く宿題も分量も多い(3級レベルの知識のあることが前提)。欠席は原則的に認めない。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	販売士2級試験に準拠したテキストを使用する				
参考書					

科目名	販売管理論Ⅲ			期間	後期
担当教員	★伊吹 秀之	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	販売に対する高度な知識を学び、リテールマーケティング(販売士)1級試験に合格できるだけの知識を習得する。				
到達目標	リテールマーケティング(販売士)1級試験に合格する。				
授業概要	1級販売士および中小企業診断士として経営コンサルタントに従事してきた経験を踏まえ、小売業を中心に経営者の視点でマネジメントできるよう、リテールマーケティング3級および2級の知識を前提に、経営者の視点で実践的な知識を勉強していきます。本講座では1級の中で小売業の種類、マーチャンダイジング、ストアオペレーションについて勉強していきます。 本学が全国に先駆けて開発した「奈良大方式」と呼ばれるプログラムにより、通常の授業を受けながら資格合格の力を養うことができます。				
評価方法・基準	定期試験60%(販売に関する基本的概念や語句の理解を問う、講義の内容を理解して具体的な事例等に活用できるかを問う) 平常点40%(講義中の授業態度、発言、理解度など)				
履修上の注意事項等	事前に販売管理論Ⅰまたは販売管理論Ⅱを必ず受講しておくこと。 総合社会学特殊講義(二)も履修すること。 リテールマーケティング1級試験を受験する受講生はスクーリングを受講すること。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。				
テキスト	実費配布(変更の可能性あり)				
参考書					

科目名	メディア学			期間	前期
担当教員	木田 隆文	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	漫画表象と歴史性—生活文化史の観点から				
到達目標	(1) 漫画の持つ歴史・文化資料としての可能性を考察することができる (2) 文化研究の基礎的な方法を学ぶことができる (3) 戦後日本の生活史を理解することができる				
授業概要	本講義は長谷川町子「サザエさん」を事例に、漫画の歴史表象のあり方を考察する。具体的には毎時作品内に現れる歴史的事象（特に生活史）を1つとりあげ、その表現方法について歴史的背景とともに考察する。こうした事例研究を積み重ねることで、漫画を歴史資料としてとらえなおす視点や手法、問題点を確認してゆきたい。				
評価方法・基準	平常点 (10%)、小課題 (30%)、期末試験 (60%) の総合評価。平常は毎時の授業参加度を、小課題・期末試験は講義内容の理解度と、独自の解釈の有無を評価基準とする。				
履修上の注意事項等	この講義は歴史的な予備知識と表現の読解を要求する。また課題提出がかなり多いので、それを覚悟のうえで受講すること。課題提出に Google クラウドを利用する。事前にポータルサイトの指示に従って登録のこと。				
テキスト	プリントで配布				
参考書	戦後日本の大衆文化、鶴岡正樹・他編、昭和堂、2000 昭和・平成家庭史年表、下川耿史、河出書房新社、2001				

科目名	数学			期間	前期
担当教員	★藤本 雅文	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	先人の研究にまつわる苦闘と人間ドラマを振り返りながら、数学的な考え方と日常生活との関わりを学ぶ。				
到達目標	主な数学分野とその代表的な数学者について説明できる。数学的な考え方と日常生活との関わりが説明できる。数式、数値、グラフや図を用いた解析ができる。				
授業概要	主な数学分野と各分野で活躍した数学者達の紹介を行います。日常生活において数学の考え方がどのように関わっているかを議論します。さらに、数式、数値、グラフや図を用いた解析法について学びます。現在の数学分野で行われている色々な研究についても紹介します。				
評価方法・基準	授業の際に行う演習問題への解答、レポートの提出状況や第15回授業での理解度確認などを総合して評価を行う。				
履修上の注意事項等	週に一日だけの出向になりますが、これ以外の曜日に疑問点、質問などあれば、メールを使って下さい。				
テキスト	プリント配布				
参考書	天才の栄光と挫折、藤原正彦、文春文庫、2008 数の本、J.H. コンウェイ・R.K. ガイ（根上訳）、シュプリンガー東京、2001 オイラー、リーマン、ラマヌジャン、黒川重信、岩波書店、2006				

科目名	化学			期間	後期
担当教員	★吉村 倫一	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	身の回りのものや現象を化学の視点でわかりやすく解説する。				
到達目標	化学の基礎を学ぶとともに、衣食住をはじめ私たちの生活に密接に関係のあるいろいろな分野で活躍するさまざまな物質や現象について学び、それらの化学的役割を理解する。また、化学的なものの考え方を理解し、考える力を身につける。				
授業概要	私たちは日々いろいろなものに囲まれて生活しているが、その多くは化学が関わっている。身の回りにあるものや現象をトピックス的に取り上げ、化学と生活との関わりについて解説する。環境・生活関連（くらし）・生命現象（いのち）の3分野を取り上げる。				
評価方法・基準	平常点：25%（質問など、積極的な態度を重視）、各分野の授業ごとの3回のレポート：75%（授業の内容を正しく理解しているか、それに基づいた意見を論理的に述べているかを規準にする）。				
履修上の注意事項等	テキストを使用するが、各章の取捨選択、内容、取り上げる順序等を大幅に変更して授業を行うので、シラバスの記事に注意して学習すること。授業前に必ずテキストの該当箇所を読んでおくこと。				
テキスト	環境・くらし・いのちのための 化学のこころ、伊藤明夫、裳華房、2010				
参考書	講義内に指示する				

科目名	物理学			期間	後期
担当教員	★藤本 雅文	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	先人の研究にまつわる苦闘と人間ドラマを振り返りながら、物理法則と日常生活との関わりを学ぶ。				
到達目標	主な物理分野とその代表的な物理学者について説明できる。物理法則と日常生活との関わりが説明できる。物理法則を利用した解析ができる。				
授業概要	主な物理分野と各分野で活躍した物理学者達の紹介を行います。また、現在物理分野で行われている色々な研究について説明します。日常生活において物理法則がどのように関わっているか、SDGsと物理についても議論します。時間があれば、数式、数値、グラフや図を用いて、物理法則に基づいた具体的な解析も行なってみたいと思います。				
評価方法・基準	授業の際に行う演習問題への解答、レポートの提出状況や第15回授業での理解度確認などを総合して評価を行う。				
履修上の注意事項等	週に一日だけの出向になりますが、これ以外の曜日に疑問点、質問などあれば、メールを使って下さい。				
テキスト	プリント配布				
参考書	プリンキピアを読む、和田純夫、講談社、2009 心は孤独な数学者、藤原正彦、新潮文庫、2001 物理学基礎、原康夫、学術図書出版、2016				



科目名	人と防災（二）			期間	後期
担当教員	芝田 篤紀	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	自然災害の基本と住民生活との有機的関係				
到達目標	・自然環境を構成する大きな要素である地形と気候について、それら成因の概要を説明することができる。 ・自然災害と人々の暮らしについて、相互に影響している側面があることを説明することができる。				
授業概要	身近な自然から世界各地の自然を学ぶ中で、自然環境の諸要素やそれらの繋がり、住民生活との関係を理解し、災害・防災や持続可能社会など人間が直面する問題を通じて、自然環境と人間との相互作用的関係を考察・説明する能力の獲得を目指す。				
評価方法・基準	授業内課題など平常点（50％）と、授業内容を基にした確認テスト（50％）によって理解度を評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	プリントを配布				
参考書	各授業内で適宜提示				

科目名	世界の人口問題			期間	前期
担当教員	酒井 高正	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	世界の人口問題と地域情報				
到達目標	日本を含む世界の人口問題に関する諸知識を学ぶとともに、地域に関するさまざまな情報の扱い方を理解する。				
授業概要	まず、人口地理学の基礎的な枠組みを紹介することを通じて、地域に関するさまざまな情報の入手や基本的な分析の方法を学ぶ。さらに、地球の環境問題の根底にあるといわれる世界の人口爆発の問題や日本をはじめとする諸地域の人口問題を、人口地理学の立場から学ぶ。				
評価方法・基準	平常点100%（受講態度の適切性、提出課題類の内容の適切性と充実度、復習問題（小テスト）の解答内容などで評価する。）				
履修上の注意事項等	履修者数が許せば電算実習室にて配置端末を利用するが、端末台数を超過する場合は一般教室を利用する。後者の場合はWindows ノート PC の持参を強く推奨する（スマホでは学修しにくい可能性あり）。【地理学科B群「人口地理学」と合同】				
テキスト	必要に応じて e-Learning のデジタル教材または紙のハンドアウトを配布する。				
参考書	授業時に案内する。				

科目名	比較文化論			期間	後期
担当教員	★金岡 直子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	異質な人びとや国や文化、言語といった境界を越えた人びとの物語について、文学や映画を用いながら考察する。				
到達目標	文学や映画の発想・文化的背景を客観的に分析できる読解力、考察する力 以上の力を身につけるとともに、自らの考えを他者に伝えることができること				
授業概要	移民、故郷喪失者、思想の対立など、何らかの事情で元の居場所に帰れない人びとの姿を文学から追いかけます。新たな居場所に順化していく過程や、表面化しづらい排除にも目を凝らしていきます。どの時代にも、世界中のどこにも散在し得る事態に対して理解を深めることで、自身のなかにある生きる力や心理的バイアスをみつめていくことにもつながっていきます。				
評価方法・基準	授業中の小レポート30%（授業内容の理解度を重視）、授業に対する積極性20%（授業中の質問、アクティブラーニングへの参加度を重視）、期末レポート50%（参考文献を用いて、論理的に自分の考えを伝えられるかを評価）				
履修上の注意事項等	テキストについては e-learnig 上で配布。PC やスマホで e-learning にアクセスできるように準備しておくこと。詳細は初回授業で説明します。 利用可能な OS Windows 利用するソフトウェア word2019 ～、PDF（開ければ OK、Mac ユーザーも PDF で提出可能）				
テキスト	プリントを配付				
参考書	使用しない				

科目名	海外研修（一）			期間	その他
担当教員	木村 圭司 古閑 喜之	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	イタリアを訪問し、日本と異なる自然・人文・社会・文化を実体験する。				
到達目標	事前学習・現地調査・事後学習を通してイタリアと日本との違いを実体験し、国際的視野を身につける。				
授業概要	イタリアの多くの地理的事象を観察する予定である。これらを現地地で実体験し、国際社会への視野を広げる。				
評価方法・基準	海外研修に参加することを単位取得の要件とする。事前学習への取り組み、報告書の内容などから総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	海外巡検・海外研修（一）合わせて15人以上の受講者がいない場合には、現地訪問ができない場合がある。安全の確保のために、受講希望者を対象とした受講者の選抜を行い、合格者のみを受講対象とする。可能な限り、2024年度前期に開講する「世界地誌概論Ⅱ」（担当：木村）を受講すること。授業以外にも、旅行者（日本旅行）による説明会がある。				
テキスト	随時配布する。				
参考書	随時指示する。				

科目名	プロジェクト			期間	後期
担当教員	島本 太香子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	地域の未来づくりに大学生が出来ることを、県警、市、福祉・スポーツ団体等との連携で現場で学び、課題解決策を企画、実施する。				
到達目標	地域の安全と安心を守る警察活動、市政運営、スポーツや福祉団体の地域活性化活動を各現場で学び、大学生が実践できる地域の課題解決に向けた活動を考察、企画、実施し、関係者に報告する。				
授業概要	授業前半はセミナー形式で①日常生活で起こり得る危機事象や犯罪の実情、安全と安心を守る警察活動（奈良県警察）、②身近な市政の運営（奈良市議会・市男女共同参画課など）③地域活性化とスポーツ振興（奈良クラブ）④地域福祉（赤い羽根共同募金）を学ぶ。後半は①～④各班で、科捜研や現場を見学し、地域の課題を見出し、その解決に向けた活動を企画し実施する。例として①安全啓発動画の作成、附属幼稚園児への啓発劇、②③④関連イベントやシンポジウムの開催。これらの実体験を、自らのキャリア形成へ活かす。				
評価方法・基準	授業への積極的な参加状況を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	前期に説明会を何度か開催する予定です。ポータルサイトでの掲示に注意してください。後期の開講前までに、各自少なくとも一度は必ず出席してください。見学、地域活動の日程は、調整により多少変動することがあります。				
テキスト	適宜資料を配布				
参考書	適宜資料を配布				

# 外 国 語 科 目





科目名	英語読解初級 I (一)			期間	前期
担当教員	岡部 純子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	身近で興味深いトピックを扱うテキストを読み、英語文法の基本事項の確認と基本的な英文の読解を中心にリスニング、ライティング等の活動を行う。				
評価方法・基準	学習到達度テスト60%。平常点 (小テスト、出席、参加度等) 40%、				
履修上の注意事項等	必ず辞書 (紙、電子なんでも良い) を持参すること。履修時に Google Classroom を利用できるようにすること。そして知的好奇心をもって受講に臨むこと。				
テキスト	Trend Scope, Jonathan Lynch, Kotaro Shitori, Seibido, 2023				
参考書					

科目名	英語読解初級 I (二)			期間	前期
担当教員	★菊池 あずさ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	外国語を修得するには、たくさんの語彙を覚え、正確な文法で「表現」することが第一です。授業では基本的な文法の確認を中心に進めます。文法は初級からやり直すつもりですが、「英語力をもっとつけたい」と思う意欲ある学生さんや、英語に自信があり英語が好きな学生さん、そして「高校英語は不十分なまま終わったので、大学では心機一転英語頑張るぞ」と決意新たにしている学生さんに受講してもらいたいです。出席は大前提、予習必須の授業です。				
評価方法・基準	平常点 (小テスト、授業への取り組み方) 40% + 学習到達度確認 (前期中間期末) 60%。ただし、予習せずに出席した場合、及び遅刻・欠席・早退は平常点から減点する。予習必須の授業である。				
履修上の注意事項等	辞書は必ず毎回持参すること。以下の行為を行なった者には、単位を出さない、以降の出席は認めないといった厳しい処置を取る。【無断での途中退席】「授業中の飲食 (アメやガムなど)」「私語」「スマホを見る」。その他「教員の指示に従わない不快な行為」。				
テキスト	読解と表現をめざす基礎文法, 小中秀彦, 朝日出版社, 2022				
参考書					

科目名	英語読解初級 I (三)			期間	前期
担当教員	★福地 浩子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	中学・高校で学習した基礎文法を復習し、日常英語のコミュニケーションに役立てる。キャンパスライフやアルバイト、家族や友人、就職活動、自分の町、海外旅行といった身近なトピックを取り上げ、自己表現に必要な語彙や文法を習得する。使用する文法はいたってシンプルなので、英語の苦手な人でも十分理解でき、発信できる内容である。教科書を1Lesson 終えるごとに、映画『ハリーポッター：賢者の石』(2001) から一場面を視聴し、イギリス英語のリスニングやロールプレイにも取り組む。				
評価方法・基準	受講状況30% 宿題・積極参加15% 提出物 (小テスト含む) 15% 学習到達度確認40%				
履修上の注意事項等	毎回、授業の冒頭で巡回し、予習をしているかチェックする。辞書を持参しなくても良いが、自宅での予習で最大限に辞書を活用し、語彙は調べておくこと。毎回出席していても、授業活動に参加していなければ、単位を取得することはできない。授業での真面目な参加を重視する。				
テキスト	Communication in Simple English (発信型シンプル・イングリッシュ), Kazuko Morita 他著, 三修社, 2008				
参考書					

科目名	英語読解初級 I (四)			期間	前期
担当教員	北岡 一弘	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	英語総合教材を用いて、実践的な英語力を養成する。また授業では、英語の歌やペアワークなどの活動を通じて、英語の正しい発音方法を学ぶ。語学学習得、特にスピーキング力の向上には、学習者の積極的な姿勢が求められる。言語に限らず、授業で人と話したり、歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないこと。人と話すことが好き、または、苦手だが克服したいという学生の参加を歓迎する。またこのシラバスにある「履修上の注意」を必ず読んでおくこと。				
評価方法・基準	課題点60%、テスト30%、平常点10% (授業中に行う質問に対する返答状況、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価)。				
履修上の注意事項等	授業には、電子辞書と携帯電話 (スマートフォンが望ましい) を持参すること。携帯電話は、指示がある時のみ使用可とする。この授業は座学の授業ではない。学生の積極的な参加が求められる。この授業では、自学自習を基本とし、自ら主体的に学ぶ姿勢を重視する。授業では歌を使った発音練習などを行う。授業で歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないことを勧める。授業の課題を期限内にやり遂げ、かつ授業に積極的に参加しなければ、単位の取得は難しい。いわゆる「楽単」の授業ではないので、留意しておくこと。この授業は遠隔授業 (オンライン授業) を併用して行うので留意しておくこと。				
テキスト	Make Your Way!, Akira Tajino 他, 金星堂, 2024				
参考書					

科目名	英語読解初級 I (五)			期間	前期
担当教員	★後藤 朗子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	科学は産業技術や宇宙開発分野だけでなく、私たちの身近な日常生活や健康に深く関わりがある。「日常における科学」を題材にした基本的な英文を丁寧に読む。辞書を引きながら、自力で英文を読めるようにする。基本文法を確認し、語彙・表現を習得する。英文理解にとどまらず、扱われている科学のテーマについて自分なりの疑問や興味をもつことを心がける。				
評価方法・基準	平常点10% (授業中の発表と学習への取り組み)、小テスト60% (基本的語句・文法・表現・内容の理解度)、提出課題30% (e-Learning にて実施)				
履修上の注意事項等	必ず十分な予習をしてください。小テストを頻繁に実施します。積極的な学習姿勢の継続が大切です。				
テキスト	Asking why? The Science of Everyday Life 日常の科学 Q&A, 中津川雅宣ほか, 金星堂, 2018				
参考書	なし				

科目名	英語読解初級 I (六)			期間	前期
担当教員	★後藤 朗子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	科学は産業技術や宇宙開発分野だけでなく、私たちの身近な日常生活や健康に深く関わりがある。「日常における科学」を題材にした基本的な英文を丁寧に読む。辞書を引きながら、自力で英文を読めるようにする。基本文法を確認し、語彙・表現を習得する。英文理解にとどまらず、扱われている科学のテーマについて自分なりの疑問や興味をもつことを心がける。				
評価方法・基準	平常点10% (授業中の発表と学習への取り組み)、小テスト60% (基本的語句・文法・表現・内容の理解度)、提出課題30% (e-Learning にて実施)				
履修上の注意事項等	必ず十分な予習をしてください。小テストを頻繁に実施します。積極的な学習姿勢の継続が大切です。				
テキスト	Asking why? The Science of Everyday Life 日常の科学 Q&A, 中津川雅宣ほか, 金星堂, 2018				
参考書	なし				

科目名	英語読解初級 I (七)			期間	前期
担当教員	★川田 伸道	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	文法知識を確実なものにし、実際のコミュニケーションにおいて使えるように導く。文法事項を、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能に活用する。またその文法知識を活用し短い英文を理解できるようになり、また単語量を増やすことを目標とする。				
評価方法・基準	・平常点 (40% : 授業中に行う質問に対する返答、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価) ・テスト (60% : 確認テスト45%、小テスト 15%。それぞれ授業内容の理解度を確認)				
履修上の注意事項等	英和辞典 (書籍版、電子辞書のどちらでも構わない) を毎回持参すること。中辞典以上のものを使用すること。携帯電話、スマートフォンなどネットワーク機能のついた電子機器類を使用することは不可とする。				
テキスト	English Missions! Basic, Robert Hickling 他, 金星堂, 2019				
参考書					

科目名	英語読解初級 I (八)			期間	前期
担当教員	★橋本 貴	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	日常の身近な素材を取り上げたテキストを用い英文読解を行ないます。教科書の練習問題を通して基本的な語彙、文法、英語表現をあらためて確認し、英文を和訳するのではなく英文のまま理解できるようになることを目指します。				
評価方法・基準	毎授業ごとの予習課題の評価、授業への取り組みなどを60%、学習到達度確認 (各授業内で学習した文法事項、語句などについての小テストなど) 40%として総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業は各 Unit を Reading と Grammar セクションにわけ2回で1 Unit を進める予定です。授業までに教科書の該当ページを予習しておくこと。またわからない語句は必ず辞書で調べておくこと。予習課題として毎授業までに教科書の各 Unit の Reading / Grammar セクションの設問の解答を提出してもらう予定です。提出方法については初回授業時に説明します。提出には大学のメールアドレスが必要となりますので各自で使えるようにしておくこと。また学習到達度確認として各 Unit 学習後に小テストを実施するほか受講者の理解度をみて適宜追加課題を課します。				
テキスト	Answers to Everyday Questions 3 <Intermediate>, Arnold Arao, 三原 京, 巴波 義典, 木村 博是., 南雲堂, 2023				
参考書					

科目名	英語読解初級 I (九)			期間	前期
担当教員	★福地 浩子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	中学・高校で学習した基礎文法を復習し、日常英語のコミュニケーションに役立てる。キャンパスライフやアルバイト、家族や友人、就職活動、自分の町、海外旅行といった身近なトピックを取り上げ、自己表現に必要な語彙や文法を習得する。使用する文法はいたってシンプルなので、英語の苦手な人でも十分理解でき、発信できる内容である。教科書を1Lesson 終えるごとに、映画『ハリーポッター：賢者の石』(2001) から一場面を視聴し、イギリス英語のリスニングやロールプレイにも取り組む。				
評価方法・基準	受講状況30% 宿題・積極参加15% 提出物 (小テスト含む) 15% 学習到達度確認40%				
履修上の注意事項等	毎回、授業の冒頭で巡回し、予習をしているかチェックする。辞書を持参しなくても良いが、自宅での予習で最大限に辞書を活用し、語彙は調べておくこと。毎回出席していても、授業活動に参加していなければ、単位を取得することはできない。授業での真面目な参加を重視する。				
テキスト	Communication in Simple English (発信型シンプル・イングリッシュ), Kazuko Morita 他著, 三修社, 2008				
参考書					

科目名	英語読解初級 I (十)			期間	前期
担当教員	北岡 一弘	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	英語総合教材を用いて、実践的な英語力を養成する。また授業では、英語の歌やペアワークなどの活動を通して、英語の正しい発音方法を学ぶ。語学習得、特にスピーキング力の向上には、学習者の積極的な姿勢が求められる。言語に限らず、授業で人と話したり、歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないこと。人と話すことが好き、または、苦手だが克服したいという学生の参加を歓迎する。またこのシラバスにある「履修上の注意」を必ず読んでおくこと。				
評価方法・基準	課題点60%、テスト30%、平常点10% (授業中に行う質問に対する返答状況、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価)。				
履修上の注意事項等	授業には、電子辞書と携帯電話 (スマートフォンが望ましい) を持参すること。携帯電話は、指示がある時のみ使用可とする。この授業は座学の授業ではない。学生の積極的な参加が求められる。この授業では、自学自習を基本とし、自ら主体的に学ぶ姿勢を重視する。授業では歌を使った発音練習などを行う。授業で歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないことを勧める。授業の課題を期限内にやり遂げ、かつ授業に積極的に参加しなければ、単位の取得は難しい、いわゆる「楽単」の授業ではないので、留意しておくこと。この授業は遠隔授業 (オンライン授業) を併用して行うので留意しておくこと。				
テキスト	Make Your Way!, Akira Tajino 他, 金星堂, 2024				
参考書					

科目名	英語読解初級 I (十一)			期間	前期
担当教員	古木 圭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	英文法と語彙を復習し、確認問題を通じてこれらの知識を定着させる。文法的に正しい英文を書くための課題を課し、短い文章を正しく「読む」訓練をする。さらに、学習した英文法と語彙が、日常のコミュニケーションにどのように使われているかを豊富な例文を通じて学び、文法的に正しい英文を自ら作り出すことができるようになる。リスニングについては付属のCDを活用して、復習、予習を行うこと。				
評価方法・基準	毎回の授業参加状況 (発言・応答など)、課題提出および到達度 (計40%) および授業内試験 (60%) により総合的に評価する。総合点で59点以下の場合は単位不認定となる。				
履修上の注意事項等	意味の分からない語彙を事前に辞書で調べておくこと。付属のCDを活用し、発音の確認をしておくこと。				
テキスト	English Missions ! Basic, Robert Hickling, 金星堂, 2023				
参考書					

科目名	英語読解初級 I (十二)			期間	前期
担当教員	古木 圭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	英文法と語彙を復習し、確認問題を通じてこれらの知識を定着させる。文法的に正しい英文を書くための課題を課し、短い文章を正しく「読む」訓練をする。さらに、学習した英文法と語彙が、日常のコミュニケーションにどのように使われているかを豊富な例文を通じて学び、文法的に正しい英文を自ら作り出すことができるようになる。リスニングについては付属のCDを活用して、復習、予習を行うこと。				
評価方法・基準	毎回の授業参加状況 (発言・応答など)、課題提出および到達度 (計40%) および授業内試験 (60%) により総合的に評価する。総合点で59点以下の場合は単位不認定となる。				
履修上の注意事項等	意味の分からない語彙を事前に辞書で調べておくこと。付属のCDを活用し、発音の確認をしておくこと。				
テキスト	English Missions ! Basic, Robert Hickling, 金星堂, 2023				
参考書					

科目名	英語読解初級 I (十三)			期間	前期
担当教員	★菊池 あずさ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	外国語を修得するには、たくさんの語彙を覚え、正確な文法で「表現」することが第一です。授業では基本的な文法の確認を中心に進めます。文法は初級からやり直すつもりですが、「英語力をもっとつけたい」と思う意欲ある学生さんや、英語に自信があり英語が好きな学生さん、そして「高校英語は不十分なまま終わったので、大学では心機一転英語頑張るぞ」と決意新たにしている学生さんに受講してもらいたいです。出席は大前提、予習必須の授業です。				
評価方法・基準	平常点 (小テスト、授業への取り組み方) 40% + 学習到達度確認 (前期中間期末) 60%。ただし、予習せずに出席した場合、及び遅刻・欠席・早退は平常点から減点する。予習必須の授業である。				
履修上の注意事項等	辞書は必ず毎回持参すること。以下の行為を行なった者には、単位を出さない、以降の出席は認めないといった厳しい処置を取る。「無断での途中退席」「授業中の飲食 (アメやガムなど)」「私語」「スマホを見る」。その他「教員の指示に従わない不快な行為」。				
テキスト	読解と表現をめざす基礎文法, 小中秀彦, 朝日出版社, 2022				
参考書					

科目名	英語読解初級 I (十五)			期間	前期
担当教員	岡部 純子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	身近で興味深いトピックを扱うテキストを読み、英文文法の基本事項の確認と基本的な英文の読解を中心にリスニング、ライティング等の活動を行う。				
評価方法・基準	学習到達度テスト60%。平常点 (小テスト、出席、参加度等) 40%、				
履修上の注意事項等	必ず辞書 (紙、電子なんでも良い) を持参すること。履修時に GoogleClassroom を利用できるようにすること。そして知的好奇心をもって受講に臨むこと。				
テキスト	Trend Scope, Jonathan Lynch, Kotaro Shitori, Seibido, 2023				
参考書					

科目名	英語読解初級 I (十六)			期間	前期
担当教員	★川田 伸道	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	文法知識を確実なものにし、実際のコミュニケーションにおいて使えるように導く。文法事項を、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能に活用する。またその文法知識を活用し短い英文を理解できるようになり、また単語量を増やすことを目標とする。				
評価方法・基準	・平常点 (40% : 授業中に行う質問に対する返答、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価) ・テスト (60% : 確認テスト45%、小テスト 15%。それぞれ授業内容の理解度を確認)				
履修上の注意事項等	英和辞典 (書籍版、電子辞書のどちらでも構わない) を毎回持参すること。中辞典以上のものを使用すること。携帯電話、スマートフォンなどネットワーク機能のついた電子機器類を使用することは不可とする。				
テキスト	English Missions! Basic, Robert Hickling 他, 金星堂, 2019				
参考書					

科目名	英語読解初級 I (十八)			期間	前期
担当教員	古木 圭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (初級)				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	英文法と語彙を復習し、確認問題を通じてこれらの知識を定着させる。文法的に正しい英文を書くための課題を課し、短い文章を正しく「読む」訓練をする。さらに、学習した英文法と語彙が、日常のコミュニケーションにどのように使われているかを豊富な例文を通じて学び、文法的に正しい英文を自ら作り出すことができるようになる。リスニングについては付属のCDを活用して、復習、予習を行うこと。				
評価方法・基準	毎回の授業参加状況 (発言・応答など)、課題提出および到達度 (計40%) および授業内試験 (60%) により総合的に評価する。総合点で59点以下の場合は単位不認定となる。				
履修上の注意事項等	意味の分からない語彙を事前に辞書で調べておくこと。付属のCDを活用し、発音の確認をしておくこと。				
テキスト	English Missions ! Basic, Robert Hickling, 金星堂, 2023				
参考書					



科目名	英語読解初級Ⅰ（十九）			期間	前期
担当教員	★川田 伸道	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	文法知識を確実なものにし、実際のコミュニケーションにおいて使えるように導く。文法事項を、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能に活用する。またその文法知識を活用し短い英文を理解できるようになり、また単語量を増やすことを目標とする。				
評価方法・基準	・平常点（40%：授業中に行う質問に対する返答、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価） ・テスト（60%：確認テスト45%、小テスト15%。それぞれ授業内容の理解度を確認）				
履修上の注意事項等	英和辞典（書籍版、電子辞書のどちらでも構わない）を毎回持参すること。中辞典以上のものを使用すること。携帯電話、スマートフォンなどネットワーク機能のついた電子機器類を使用することは不可とする。				
テキスト	English Missions! Basic, Robert Hickling 他, 金星堂, 2019				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	岡部 純子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	身近で興味深いトピックを扱うテキストを読み、英文法の基本事項の確認と基本的な英文の読解を中心にリスニング、ライティング等の活動を行う。				
評価方法・基準	15週目に学習到達度確認を行う。Review Test40%、学習到達度テスト50%、小テストを含めた平常点10%				
履修上の注意事項等	毎時間必ず辞書（紙、電子、オンラインなんでも可）を持参すること。オンライン教材を使用する場合がありますので、教師からの指示に注意してください。				
テキスト	Changing Times, Changing Worlds, Joan McConnell, Seibido, 2020				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	★菊池 あずさ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	外国語を修得するには、たくさんの語彙を覚え、正確な文法で「表現」することが第一です。授業では基本的な文法の確認を中心に進めます。文法は初級からやり直すつもりですが、「英語力をもっとつけたい」と思う意欲ある学生さんや、英語に自信があり英語が好きな学生さん、そして「高校英語は不十分なまま終わったので、大学では心機一転英語頑張るぞ」と決意新たにしている学生さんに受講してもらいたいです。出席は大前提、予習必須の授業です。				
評価方法・基準	平常点（小テスト、授業への取り組み方）40%＋学習到達度確認（後中間＋期末）60%。ただし、予習せず出席した場合、及び遅刻・欠席・早退は平常点から減点する。予習必須の授業。				
履修上の注意事項等	辞書は毎回持参すること。以下の行為を行なった者には、単位を出さない、それ以降の出席は認めないといった厳しい処置を取る。「無断での途中退席」「授業中の飲食（アメやガムなど）」「私語」「スマホを見る」。その他「教員の指示に従わない不快な行為」。				
テキスト	読解と表現をめざす基礎文法, 小中秀彦, 朝日出版社, 2022				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	★福地 浩子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	前期に続き、中学・高校で学習した基礎文法を復習し、日常英語のコミュニケーションに役立てる。キャンパスライフやアルバイト、家族や友人、就職活動、自分の町、海外旅行といった身近なトピックを取り上げ、自己表現に必要な語彙や文法を習得する。教科書を終えたら、別教材を配布し、取り組む。メイン教材を1Unit 終えるごとに、映画『ハリポッター：賢者の石』（2001）から一場面を視聴し、イギリス英語のリスニングやロールプレイにも取り組む。				
評価方法・基準	受講状況30% 宿題・積極参加15% 提出物（小テスト含む）15% 学習到達度確認40%				
履修上の注意事項等	毎回、授業の冒頭で巡回し、予習をしているかチェックする。辞書を持参しなくても良いが、自宅での予習で最大限に辞書を活用し、語彙は調べておくこと。毎回出席していても、授業活動に参加していなければ、単位を取得することはできない。授業での真面目な参加を重視する。				
テキスト	Communication in Simple English（発信型シンプル・イングリッシュ）, Kazuko Morita 他著, 三修社, 2008				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	北岡 一弘	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	英語総合教材を用いて、実践的な英語力を養成する。また授業では、英語の歌やペアワークなどの活動を通して、英語の正しい発音方法を学ぶ。語学習得、特にスピーキング力の向上には、学習者の積極的な姿勢が求められる。言語に限らず、授業で人と話したり、歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないこと。人と話すことが好き、または、苦手だが克服したいという学生の参加を歓迎する。またこのシラバスにある「履修上の注意」を必ず読んでおくこと。				
評価方法・基準	課題点60%、テスト30%、平常点10%（授業中に行う質問に対する返答状況、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価）。				
履修上の注意事項等	授業には、電子辞書と携帯電話（スマートフォンが望ましい）を持参すること。携帯電話は、指示がある時のみ使用可とする。この授業は座学の授業ではない。学生の積極的な参加が求められる。この授業では、自学自習を基本とし、自ら主体的に学ぶ姿勢を重視する。授業では歌を使った発音練習などを行う。授業で歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないことを勧める。授業の課題を期限内にやり遂げ、かつ授業に積極的に参加しなければ、単位の取得は難しい。いわゆる「楽単」の授業ではないので、留意しておくこと。この授業は遠隔授業（オンライン授業）を併用して行うので留意しておくこと。				
テキスト	Make Your Way!, Hiroshi Tajino, 金星堂, 2024				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	★後藤 朗子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	科学は産業技術や宇宙開発分野だけでなく、私たちの身近な日常生活や健康に深く関わりがある。「日常における科学」を題材にした基本的な英文を、前期に引き続き、丁寧に読む。辞書を引きながら、自力で英文を読めるようにする。基本文法を確認し、語彙・表現を習得する。英文理解にとどまらず、扱われている科学のテーマについて自分なりの疑問や興味をもつことを心がける。				
評価方法・基準	平常点10%（授業中の発表と学習への取り組み）、小テスト60%（基本的語句・文法・表現・内容の理解度）、提出課題30%（e-Learningにて実施）				
履修上の注意事項等	必ず十分な予習をしてください。小テストを頻繁に実施します。積極的な学習姿勢の継続が大切です。				
テキスト	Asking Why? The Science of Everyday Life 日常の科学 Q&A, 中津川雅宣ほか, 金星堂, 2018				
参考書	なし				

科目名	英語読解初級Ⅱ（六）			期間	後期
担当教員	★後藤 朗子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	科学は産業技術や宇宙開発分野だけでなく、私たちの身近な日常生活や健康に深く関わりがある。「日常における科学」を題材にした基本的な英文を、前期に引き続き、丁寧に読む。辞書を引きながら、自力で英文を読めるようにする。基本文法を確認し、語彙・表現を習得する。英文理解にとどまらず、扱われている科学のテーマについて自分なりの疑問や興味をもつことを心がける。				
評価方法・基準	平常点10%（授業中の発表と学習への取り組み）、小テスト60%（基本的語句・文法・表現・内容の理解度）、提出課題30%（e-Learningにて実施）				
履修上の注意事項等	必ず十分な予習をしてください。小テストを頻繁に実施します。積極的な学習姿勢の継続が大切です。				
テキスト	Asking Why? The Science of Everyday Life 日常の科学 Q&A, 中津川雅宣ほか, 金星堂, 2018				
参考書	なし				

科目名	英語読解初級Ⅱ（七）			期間	後期
担当教員	★川田 伸道	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	文法知識を確実なものにし、実際のコミュニケーションにおいて使えるように導く。文法事項を、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能に活用する。ある程度の長さの英語を理解できるようになり、また単語量を増やすことを目標とする。				
評価方法・基準	・平常点（40%：授業中に行う質問に対する返答、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価） ・テスト（60%：確認テスト45%、小テスト 15%。それぞれ授業内容の理解度を確認）				
履修上の注意事項等	英和辞典（書籍版、電子辞書のどちらでも構わない）を毎回持参すること。中辞典以上のものを使用すること。携帯電話、スマートフォンなどネットワーク機能のついた電子機器類を使用することは不可とする。				
テキスト	A Healthy life for Today and Tomorrow, The Society of English Studies, 朝日出版社, 2021				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（八）			期間	後期
担当教員	★橋本 貴	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	日常の身近な素材を取り上げたテキストを用い英文読解を行ないます。教科書の練習問題を通して基本的な語彙、文法、英語表現をあらためて確認し、英文を和訳するのではなく英文のまま理解できるようになることを目指します。				
評価方法・基準	毎授業ごとの予習課題の評価、授業への取り組みなどを60%、学習到達度確認（各授業内で学習した文法事項、語句などについての小テストなど）40%として総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業は各 Unit を Reading と Grammar セクションにわけ2回で1Unitを進める予定です。授業までに教科書の該当ページを予習しておくこと。またわからない語句は必ず辞書で調べておくこと。予習課題として毎授業までに教科書の各 Unit の Reading / Grammar セクションの設問の解答を提出してもらう予定です。提出方法については初回授業時に説明します。提出には大学のメールアドレスが必要となりますので各自で使えるようにしておくこと。また学習到達度確認として各 Unit 学習後に小テストを実施するほか受講者の理解度をみて適宜追加課題を課します。				
テキスト	Answers to Everyday Questions 3 <Intermediate>, Arnold Arao, 三原 京, 日波 義典, 木村 博晃, 2022/01/10				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（九）			期間	後期
担当教員	★福地 浩子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	前期に続き、中学・高校で学習した基礎文法を復習し、日常英語のコミュニケーションに役立てる。キャンパスライフやアルバイト、家族や友人、就職活動、自分の町、海外旅行といった身近なトピックを取り上げ、自己表現に必要な語彙や文法を習得する。教科書を終えたら、別教材を配布し、取り組む。メイン教材を1Unit 終えるごとに、映画『ハリーポッター：賢者の石』（2001）から一場面を視聴し、イギリス英語のリスニングやロールプレイにも取り組む。				
評価方法・基準	受講状況30% 宿題・積極参加15% 提出物（小テスト含む）15% 学習到達度確認40%				
履修上の注意事項等	毎回、授業の冒頭で巡回し、予習をしているかチェックする。辞書を持参しなくても良いが、自宅での予習で最大限に辞書を活用し、語彙は調べておくこと。毎回出席していても、授業活動に参加していなければ、単位を取得することはできない。授業での真面目な参加を重視する。				
テキスト	Communication in Simple English（発信型シンプル・イングリッシュ）, Kazuko Morita 他著, 三修社, 2008				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（十）			期間	後期
担当教員	北岡 一弘	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	英語総合教材を用いて、実践的な英語力を養成する。また授業では、英語の歌やペアワークなどの活動を通じて、英語の正しい発音方法を学ぶ。語学習得、特にスピーキング力の向上には、学習者の積極的な姿勢が求められる。言語に限らず、授業で人と話したり、歌をつたうことに抵抗がある学生は、履修しないこと。人と話すことが好き、または、苦手だが克服したいという学生の参加を歓迎する。またこのシラバスにある「履修上の注意」を必ず読んでおくこと。				
評価方法・基準	課題点60%、テスト30%、平常点10%（授業中に行う質問に対する返答状況、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価）。				
履修上の注意事項等	授業には、電子辞書と携帯電話（スマートフォンが望ましい）を持参すること。携帯電話は、指示がある時のみ使用可とする。この授業は座学の授業ではない。学生の積極的な参加が求められる。この授業では、自学自習を基本とし、自ら主体的に学ぶ姿勢を重視する。授業では歌を使った発音練習などを行う。授業で歌をつたうことに抵抗がある学生は、履修しないことを勧める。授業の課題を期限内にやり遂げ、かつ授業に積極的に参加しなければ、単位の取得は難しい。いわゆる「楽単」の授業ではないので、留意しておくこと。この授業は遠隔授業（オンライン授業）を併用して行うので留意しておくこと。				
テキスト	Make Your Way!, Hiroshi Tajino, 金星堂, 2024				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（十一）			期間	後期
担当教員	古木 圭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	英文法と語彙を復習し、確認問題を通じてこれらの知識を定着させる。文法的に正しい英文を書くための課題を課し、短い文章を正しく「読む」訓練をする。さらに、学習した英文法と語彙が、日常のコミュニケーションにどのように使われているかを豊富な例文を通じて学び、文法的に正しい英文を自ら作り出すことができるようになる。リスニングについては付属のCDを活用して、復習、予習を行うこと。				
評価方法・基準	毎回の授業参加状況（発言・応答など）、課題提出および到達度（計40%）および授業内試験（60%）により総合的に評価する。総合点で59点以下の場合は単位不認定となる。				
履修上の注意事項等	意味の分からない語彙を事前に辞書で調べておくこと。付属のCDを活用し、発音の確認をしておくこと。				
テキスト	A Healthy Life for Today and Tomorrow, The Society of English Studies, 朝日出版社, 2021				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（十二）			期間	後期
担当教員	古木 圭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	英文法と語彙を復習し、確認問題を通じてこれらの知識を定着させる。文法的に正しい英文を書くための課題を課し、短い文章を正しく「読む」訓練をする。さらに、学習した英文法と語彙が、日常のコミュニケーションにどのように使われているかを豊富な例文を通じて学び、文法的に正しい英文を自ら作り出すことができるようになる。リスニングについては付属のCDを活用して、復習、予習を行うこと。				
評価方法・基準	毎回の授業参加状況（発言・応答など）、課題提出および到達度（計40%）および授業内試験（60%）により総合的に評価する。総合点で59点以下の場合は単位不認定となる。				
履修上の注意事項等	意味の分からない語彙を事前に辞書で調べておくこと。付属のCDを活用し、発音の確認をしておくこと。				
テキスト	A Healthy Life for Today and Tomorrow, The Society of English Studies, 朝日出版社, 2021				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（十三）			期間	後期
担当教員	★菊池 あずさ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	外国語を修得するには、たくさんの語彙を覚え、正確な文法で「表現」することが第一です。授業では基本的な文法の確認を中心に進めます。文法は初級からやり直すつもりですが、「英語力をもっとつけたい」と思う意欲ある学生さんや、英語に自信があり英語が好きな学生さん、そして「高校英語は不十分なまま終わったので、大学では心機一転英語頑張るぞ」と決意新たにしている学生さんに受講してもらいたいです。出席は大前提、予習必須の授業です。				
評価方法・基準	平常点（小テスト、授業への取り組み方）40%+学習到達度確認（遅期中間+期末）60%。ただし、予習せずに出席した場合、及び遅刻・欠席・早退は平常点から減点する。予習必須の授業。				
履修上の注意事項等	辞書は毎回持参すること。以下の行為を行なった者には、単位を出さない、それ以降の出席は認めないといった厳しい処置を取る。「無断での途中退席」「授業中の飲食（アメやガムなど）」「私語」「スマホを見る」。その他「教員の指示に従わない不快な行為」。				
テキスト	読解と表現をめざす基礎文法, 小中秀彦, 朝日出版社, 2022				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（十五）			期間	後期
担当教員	岡部 純子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	身近で興味深いトピックを扱うテキストを読み、英文法の基本事項の確認と基本的な英文の読解を中心にリスニング、ライティング等の活動を行う。				
評価方法・基準	15週目に学習到達度確認を行う。Review Test40%、学習到達度テスト50%、小テストを含めた平常点10%				
履修上の注意事項等	毎時間必ず辞書（紙、電子、オンラインなんでも可）を持参すること。オンライン教材を使用する場合がありますので、教師からの指示に注意してください。				
テキスト	Changing Times, Changing Worlds, Joan McConnell, Seibido, 2020				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（十六）			期間	後期
担当教員	★川田 伸道	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	文法知識を確実なものにし、実際のコミュニケーションにおいて使えるように導く。文法事項を、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能に活用する。ある程度の長さの英語を理解できるようになり、また単語量を増やすことを目標とする。				
評価方法・基準	・平常点（40%：授業中に行う質問に対する返答、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価） ・テスト（60%：確認テスト45%、小テスト 15%。それぞれ授業内容の理解度を確認）				
履修上の注意事項等	英和辞典（書籍版、電子辞書のどちらでも構わない）を毎回持参すること。中辞典以上のものを使用すること。携帯電話、スマートフォンなどネットワーク機能のついた電子機器類を使用することは不可とする。				
テキスト	A Healthy life for Today and Tomorrow, The Society of English Studies, 朝日出版社, 2021				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（十八）			期間	後期
担当教員	古木 圭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	英文法と語彙を復習し、確認問題を通じてこれらの知識を定着させる。文法的に正しい英文を書くための課題を課し、短い文章を正しく「読む」訓練をする。さらに、学習した英文法と語彙が、日常のコミュニケーションにどのように使われているかを豊富な例文を通じて学び、文法的に正しい英文を自ら作り出すことができるようになる。リスニングについては付属のCDを活用して、復習、予習を行うこと。				
評価方法・基準	毎回の授業参加状況（発言・応答など）、課題提出および到達度（計40%）および授業内試験（60%）により総合的に評価する。総合点で59点以下の場合は単位不認定となる。				
履修上の注意事項等	意味の分からない語彙を事前に辞書で調べておくこと。付属のCDを活用し、発音の確認をしておくこと。				
テキスト	A Healthy Life for Today and Tomorrow, The Society of English Studies, 朝日出版社, 2021				
参考書					

科目名	英語読解初級Ⅱ（十九）			期間	後期
担当教員	★川田 伸道	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（初級）				
到達目標	読解を主にして基本的な文法を復習し、英語運用の基礎力を養成する。				
授業概要	文法知識を確実なものにし、実際のコミュニケーションにおいて使えるように導く。文法事項を、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能に活用する。ある程度の長さの英語を理解できるようになり、また単語量を増やすことを目標とする。				
評価方法・基準	・平常点（40%：授業中に行う質問に対する返答、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価） ・テスト（60%：確認テスト45%、小テスト 15%。それぞれ授業内容の理解度を確認）				
履修上の注意事項等	英和辞典（書籍版、電子辞書のどちらでも構わない）を毎回持参すること。中辞典以上のものを使用すること。携帯電話、スマートフォンなどネットワーク機能のついた電子機器類を使用することは不可とする。				
テキスト	A Healthy life for Today and Tomorrow, The Society of English Studies, 朝日出版社, 2021				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	エリック マーティン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	The focus of this course is on communicating accurately, reviewing and expanding upon the fundamentals of English. Students will engage in pair and group conversations, as well as listening activities, that will help them to become confident users of fundamental English.				
評価方法・基準	Assessments (40%) ; Homework (20%) ; In-class participation (40%)				
履修上の注意事項等	Come to class every week with a pencil, paper, and dictionary.				
テキスト	Conversations in Class, Jerry Talandis Jr., Bruno Vannieu, Alma, 2015				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	エリック マーティン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	The focus of this course is on communicating accurately, reviewing and expanding upon the fundamentals of English. Students will engage in pair and group conversations, as well as listening activities, that will help them to become confident users of fundamental English.				
評価方法・基準	Assessments (40%) ; Homework (20%) ; In-class participation (40%)				
履修上の注意事項等	Come to class every week with a pencil, paper, and dictionary.				
テキスト	Conversations in Class, Jerry Talandis Jr., Bruno Vannieu, Alma, 2015				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅰ(三)	期間	前期		
担当教員	★ハットン グレゴリー	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	授業では、基本的なスピーキングパターンを練習し、それをベースに新しい情報を付け加えたり、入れ替えたりし、その会話の内容を自分のものにするための練習をクラスメートや先生と行います。授業は、テキストやスピーキングの宿題をベースに進めます。それぞれが自分から積極的に英語を使うようになる事が授業の目的であり、授業中は日本語ではなく、英語を話すことが求められます。各授業は英語を実際に話す貴重なチャンスです。ですから、毎回、英語を話すつもりで授業に挑んでください。				
評価方法・基準	英語使う協力 50%、宿題 20%、試験(少テスト含めて 20%、プレゼンテーション 10%) 授業で英語を話すことは大変重要であり、授業の評価(成績)は授業にしていることとともに、授業にどれほど積極的に英語で参加されるかをみてつけさせてもらいます。				
履修上の注意事項等	Come, expect to speak, and have fun speaking English with other students. 積極的に英語を話したくない方は、他のクラスに参加した方がいいと思います。				
テキスト	Interchange 1 (5th Edition) Student's Book with Digital Pack				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅰ(四)	期間	前期		
担当教員	★ハットン グレゴリー	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	授業では、基本的なスピーキングパターンを練習し、それをベースに新しい情報を付け加えたり、入れ替えたりし、その会話の内容を自分のものにするための練習をクラスメートや先生と行います。授業は、テキストやスピーキングの宿題をベースに進めます。それぞれが自分から積極的に英語を使うようになる事が授業の目的であり、授業中は日本語ではなく、英語を話すことが求められます。各授業は英語を実際に話す貴重なチャンスです。ですから、毎回、英語を話すつもりで授業に挑んでください。				
評価方法・基準	英語使う協力 50%、宿題 20%、試験(少テスト含めて 20%、プレゼンテーション 10%) 授業で英語を話すことは大変重要であり、授業の評価(成績)は授業にしていることとともに、授業にどれほど積極的に英語で参加されるかをみてつけさせてもらいます。				
履修上の注意事項等	Come, expect to speak, and have fun speaking English with other students. 積極的に英語を話したくない方は、他のクラスに参加した方がいいと思います。				
テキスト	Interchange 1 (5th Edition) Student's Book with Digital Pack				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅰ(五)	期間	前期		
担当教員	★ジェフリー クラフォード	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	Each week learners will have ample opportunity to review and practice English using activities in different daily situations that commonly occur in English speaking environments. Pair work and group collaboration will be expected in every lesson, as well as a prudent attention during listening practice. Learners will also prepare and perform several roleplays and be required to give presentations in different formats. This course will be taught in English.				
評価方法・基準	Grades for this course are based on active participation and effort in class(20%); written and listening homework (20%) numerous speaking assessments (40%) Two graded presentations based on class survey results (20%) . Students are expected to show progress in their English communications skills through careful and thorough preparation and active participation in classroom activities.				
履修上の注意事項等	* Weekly attendance. * Complete weekly homework assignments. * For students who want an extra challenge, there is an online component to the text. * Stay positive and do your best!				
テキスト	Headway 5E Beginner Workbook Without Key				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅰ(六)	期間	前期		
担当教員	★クリストファー デンクラウ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	Students will be encouraged to develop skills that enable them to be functional and competent in analyzing and using information in English at a communicative level. Emphasis will also be placed on developing functional skills and competency in written communication. This course will be taught in English.				
評価方法・基準	Assessment is based on participation, assignments, speaking tests and a final test. Extra work outside of class will get you extra points. Required tasks (Accomplished and Assessed) 40%. Commitment and Participation 30%. Quizzes and Tests 30%.				
履修上の注意事項等	Try to develop confidence to communicate in English. Please try to do all assessed tasks.				
テキスト	World Voices 1, Graham-Marr, ABAX, 2021				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級 I (七)			期間	前期
担当教員	★クリストファー・デンクラウ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	Students will be encouraged to develop skills that enable them to be functional and competent in analyzing and using information in English at a communicative level. Emphasis will also be placed on developing functional skills and competency in written communication. This course will be taught in English.				
評価方法・基準	Assessment is based on participation, assignments, speaking tests and a final test. Extra work outside of class will get you extra points. Required tasks (Accomplished and Assessed) 40%. Commitment and Participation 30%. Quizzes and Tests 30%.				
履修上の注意事項等	Try to develop confidence to communicate in English. Please try to do all assessed tasks.				
テキスト	World Voices 1, Graham-Marr, ABAX, 2021				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級 I (八)			期間	前期
担当教員	エリック マーティン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	The focus of this course is on communicating accurately, reviewing and expanding upon the fundamentals of English. Students will engage in pair and group conversations, as well as listening activities, that will help them to become confident users of fundamental English.				
評価方法・基準	Assessments (40%) ; Homework (20%) ; In-class participation (40%)				
履修上の注意事項等	Come to class every week with a pencil, paper, and dictionary.				
テキスト	Conversations in Class, Jerry Talandis Jr., Bruno Vannieu, Alma, 2015				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級 I (九)			期間	前期
担当教員	★ジェフリー・クラフォード	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	Each week learners will have ample opportunity to review and practice English using activities in different daily situations that commonly occur in English speaking environments. Pair work and group collaboration will be expected in every lesson, as well as a prudent attention during listening practice. Learners will also prepare and perform several roleplays and be required to give presentations in different formats. This course will be taught in English.				
評価方法・基準	Grades for this course are based on active participation and effort in class(20%); written and listening homework (20%) numerous speaking assessments (40%) Two graded presentations based on class survey results (20%) . Students are expected to show progress in their English communications skills through careful and thorough preparation and active participation in classroom activities.				
履修上の注意事項等	* Weekly attendance. * Complete weekly homework assignments. * For students who want an extra challenge, there is an online component to the text. * Stay positive and do your best!				
テキスト	Headway 5E Beginner Workbook Without Key				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級 I (十)			期間	前期
担当教員	★山根 キャサリン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	Each week the students will have many opportunities to practice using English actively in different situations. We will do a lot of pair and group work in every lesson, as well as listening practice. Students will also prepare several short presentations. This course will be taught in English.?				
評価方法・基準	Your grade for this course will be based on: active participation in class and effort (30%) ; written and speaking homework (30%) ; speaking and listening quizzes (40%) . Students are expected to show progress in their English communication skills through careful preparation of written and oral homework and active participation in classroom speaking and listening activities.?				
履修上の注意事項等	*Come to class every week. *Do your homework every week. *For students who want an extra challenge, online practice is available with this textbook. *Try your best!?				
テキスト	Communication Spotlight (Starter), A. Graham-Marr, Abax, 2019				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ (一)			期間	後期
担当教員	エリック マーティン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	The focus of this course is on communicating accurately, reviewing and expanding upon the fundamentals of English. Students will engage in pair and group conversations, as well as listening activities, that will help them to become confident users of fundamental English.				
評価方法・基準	Assessments (40%) ; Homework (20%) ; In-class participation (40%)				
履修上の注意事項等	Come to class every week with a pencil, paper, and dictionary.				
テキスト	Conversations in Class, Jerry Talandis Jr., Bruno Vannieu, Alma, 2015				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ (二)			期間	後期
担当教員	エリック マーティン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	The focus of this course is on communicating accurately, reviewing and expanding upon the fundamentals of English. Students will engage in pair and group conversations, as well as listening activities, that will help them to become confident users of fundamental English.				
評価方法・基準	Assessments (40%) ; Homework (20%) ; In-class participation (40%)				
履修上の注意事項等	Come to class every week with a pencil, paper, and dictionary.				
テキスト	Conversations in Class, Jerry Talandis Jr., Bruno Vannieu, Alma, 2015				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ (三)			期間	後期
担当教員	★ハットン グレゴリー	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	授業では、基本的なスピーキングパターンを練習し、それをベースに新しい情報を付け加えたり、入れ替えたりし、その会話の内容を自分のものにするための練習をクラスメートや先生と行います。授業は、テキストやスピーキングの宿題をベースに進めます。それぞれが自分から積極的に英語を使うようになる事が授業の目的であり、授業中は日本語ではなく、英語を話すことが求められます。各授業は英語を実際に話す貴重なチャンスです。ですから、毎回、英語を話すつもりで授業に挑んでください。Active English Speaking!				
評価方法・基準	Speaking English is important! 英語使う協力 50%、宿題 20%、試験 (少テスト含めて 20%、プレゼンテーション 10%) 授業で英語を話すことは大変重要であり、授業の評価 (成績) は授業にしていることとともに、授業にどれほど積極的に英語で参加されるかをみてつけさせてもらいます。				
履修上の注意事項等	Come, expect to speak, and have fun speaking English with other students. 積極的に英語を話したくない方は、他のクラスに参加した方がいいと思います。				
テキスト	Interchange 1 (5th Edition) Student's Book with Digital Pack				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ (四)			期間	後期
担当教員	★ハットン グレゴリー	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	授業では、基本的なスピーキングパターンを練習し、それをベースに新しい情報を付け加えたり、入れ替えたりし、その会話の内容を自分のものにするための練習をクラスメートや先生と行います。授業は、テキストやスピーキングの宿題をベースに進めます。それぞれが自分から積極的に英語を使うようになる事が授業の目的であり、授業中は日本語ではなく、英語を話すことが求められます。各授業は英語を実際に話す貴重なチャンスです。ですから、毎回、英語を話すつもりで授業に挑んでください。Active English speaking!				
評価方法・基準	Speaking English is important! 英語使う協力 50%、宿題 20%、試験 (少テスト含めて 20%、プレゼンテーション 10%) 授業で英語を話すことは大変重要であり、授業の評価 (成績) は授業にしていることとともに、授業にどれほど積極的に英語で参加されるかをみてつけさせてもらいます。				
履修上の注意事項等	Come, expect to speak, and have fun speaking English with other students. 積極的に英語を話したくない方は、他のクラスに参加した方がいいと思います。				
テキスト	Interchange 1 (5th Edition) Student's Book with Digital Pack				
参考書					



科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ(五)			期間	後期
担当教員	★ジェフリー クラフォード	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	Each week learners will have ample opportunity to review and practice English using activities in different daily situations that commonly occur in English speaking environments. Pair work and group collaboration will be expected in every lesson, as well as a prudent attention during listening practice. Learners will also prepare and perform several roleplays and be required to give presentations in different formats. This course will be taught in English.				
評価方法・基準	Grades for this course are based on active participation and effort in class(20%); written and listening homework (20%) numerous speaking assessments (40%) Two graded presentations based on class survey results (20%) . Students are expected to show progress in their English communications skills through careful and thorough preparation and active participation in classroom activities.				
履修上の注意事項等	* Weekly attendance. * Complete weekly homework assignments. * For students who want an extra challenge, there is an online component to the text. * Stay positive and do your best!				
テキスト	Headway 5E Beginner Workbook Without Key				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ(六)			期間	後期
担当教員	★クリストファー・ルーデンクラウ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	Students will be encouraged to develop skills that enable them to be functional and competent in analyzing and using information in English at a communicative level. Emphasis will also be placed on developing functional skills and competency in written communication. This course will be taught in English.				
評価方法・基準	Assessment is based on participation, assignments, speaking tests and a final test. Extra work outside of class will get you extra points. Required tasks (Accomplished and Assessed) 40%. Commitment and Participation 30%. Quizzes and Tests 30%.				
履修上の注意事項等	Try to develop confidence to communicate in English. Please try to do all assessed tasks.				
テキスト	World Voices 1, Graham-Marr, ABAX, 2021				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ(七)			期間	後期
担当教員	★クリストファー・ルーデンクラウ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	Students will be encouraged to develop skills that enable them to be functional and competent in analyzing and using information in English at a communicative level. Emphasis will also be placed on developing functional skills and competency in written communication. This course will be taught in English.				
評価方法・基準	Assessment is based on participation, assignments, speaking tests and a final test. Extra work outside of class will get you extra points. Required tasks (Accomplished and Assessed) 40%. Commitment and Participation 30%. Quizzes and Tests 30%.				
履修上の注意事項等	Try to develop confidence to communicate in English. Please try to do all assessed tasks.				
テキスト	World Voices 1, Graham-Marr, ABAX, 2021				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ(八)			期間	後期
担当教員	エリック マーティン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	The focus of this course is on communicating accurately, reviewing and expanding upon the fundamentals of English. Students will engage in pair and group conversations, as well as listening activities, that will help them to become confident users of fundamental English.				
評価方法・基準	Assessments (40%) ; Homework (20%) ; In-class participation (40%)				
履修上の注意事項等	Come to class every week with a pencil, paper, and dictionary.				
テキスト	Conversations in Class, Jerry Talandis Jr., Bruno Vannieu, Alma, 2015				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ(九)			期間	後期
担当教員	★ジェフリー・クラフォード	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	Each week learners will have ample opportunity to review and practice English using activities in different daily situations that commonly occur in English speaking environments. Pair work and group collaboration will be expected in every lesson, as well as a prudent attention during listening practice. Learners will also prepare and perform several roleplays and be required to give presentations in different formats. This course will be taught in English.				
評価方法・基準	Grades for this course are based on active participation and effort in class(20%); written and listening homework (20%) numerous speaking assessments (40%) Two graded presentations based on class survey results (20%) . Students are expected to show progress in their English communications skills through careful and thorough preparation and active participation in classroom activities.				
履修上の注意事項等	* Weekly attendance. * Complete weekly homework assignments. * For students who want an extra challenge, there is an online component to the text. * Stay positive and do your best!				
テキスト	Headway 5E Beginner Workbook Without Key				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション初級Ⅱ(十)			期間	後期
担当教員	★山根 キャサリン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Basic)				
到達目標	基礎的な日常会話能力の習得。				
授業概要	Each week the students will have many opportunities to practice using English actively in different situations. We will do a lot of pair and group work in every lesson, as well as listening practice. Students will also prepare several short presentations and role plays. This course will be taught in English.?				
評価方法・基準	Your grade for this course will be based on: active participation in class and effort (30%) ; written and speaking homework (30%) ; speaking and listening quizzes (40%) . Students are expected to show progress in their English communication skills through careful preparation of written and oral homework and active participation in classroom speaking and listening activities.?				
履修上の注意事項等	*Come to class every week. *Do your homework every week. *For students who want an extra challenge, online practice is available with this textbook. *Try your best!?				
テキスト	Communication Spotlight (Starter), A. Graham-Marr, Abax, 2019				
参考書					

科目名	実践英語初級Ⅰ(一)			期間	前期
担当教員	北岡 一弘	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語(初級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	TOEIC テストの入門書を用いて、実践的な英語力を養成する。 また授業では、英語の歌やペアワークなどの活動を通して、英語の正しい発音方法を学ぶ。語学習得、特にスピーキング力の向上は、学習者の積極的な姿勢が求められる。言語に限らず、授業で人と話したり、歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないこと。人と話すことが好き、または、苦手だが克服したいという学生の参加を歓迎する。				
評価方法・基準	課題点60%、テスト30%、平常点10%(授業中に行う質問に対する返答状況、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価)。				
履修上の注意事項等	授業には、電子辞書と携帯電話(スマートフォンが望ましい)を持参すること。携帯電話は、指示がある時のみ使用可とする。この授業は座学の授業ではない。学生の積極的な参加が求められる。この授業では、自学自習を基本とし、自ら主体的に学ぶ姿勢を重視する。授業では歌を使った発音練習などを行う。授業で歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないことを勧める。授業の課題を期限内にやり遂げ、かつ授業に積極的に参加しなければ、単位の習得は難しい。いわゆる「楽単」の授業ではないので、留意しておくこと。この授業は遠隔授業(オンライン授業)を併用して行うので留意しておくこと。				
テキスト	Step-Up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test, Yasuyuki Kitao 他, 朝日出版社, 2022				
参考書					

科目名	実践英語初級Ⅰ(二)			期間	前期
担当教員	北岡 一弘	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語(初級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	TOEIC テストの入門書を用いて、実践的な英語力を養成する。 また授業では、英語の歌やペアワークなどの活動を通して、英語の正しい発音方法を学ぶ。語学習得、特にスピーキング力の向上は、学習者の積極的な姿勢が求められる。言語に限らず、授業で人と話したり、歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないこと。人と話すことが好き、または、苦手だが克服したいという学生の参加を歓迎する。				
評価方法・基準	課題点60%、テスト30%、平常点10%(授業中に行う質問に対する返答状況、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価)。				
履修上の注意事項等	授業には、電子辞書と携帯電話(スマートフォンが望ましい)を持参すること。携帯電話は、指示がある時のみ使用可とする。この授業は座学の授業ではない。学生の積極的な参加が求められる。この授業では、自学自習を基本とし、自ら主体的に学ぶ姿勢を重視する。授業では歌を使った発音練習などを行う。授業で歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないことを勧める。授業の課題を期限内にやり遂げ、かつ授業に積極的に参加しなければ、単位の習得は難しい。いわゆる「楽単」の授業ではないので、留意しておくこと。この授業は遠隔授業(オンライン授業)を併用して行うので留意しておくこと。				
テキスト	Step-Up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test, Yasuyuki Kitao 他, 朝日出版社, 2022				
参考書					

科目名	実践英語初級 I (三)			期間	前期
担当教員	★橋本 貴	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語 (初級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	学習者が毎日遭遇するような状況や課題に焦点を当てたテキストを用いて、英語表現とコミュニケーション能力の向上を目指す。				
評価方法・基準	毎授業ごとの予習課題の評価、授業への取り組みなどを60%、学習到達度確認 (各授業内で学習した文法事項、語句などについての小テストなど) 40%として総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業は各 Unit を Listening, Reading セクションにわけ2回で1Unitを進める予定です。授業までに教科書の該当ページを予習しておくこと。またわからない語句は必ず辞書で調べておくこと。予習課題として毎授業までに各 Unit の Listening/ Reading セクションの設問の解答を提出してもらう予定です。提出方法については初回授業時に説明します。提出には大学のメールアドレスが必要となりますので各自で使えるようにしておくこと。また学習到達度確認として各 Unit 学習後に小テストを実施するほか受講者の理解度をみて適宜追加課題を課します。				
テキスト	Live Escalate Book 1: Base Camp, Teruhiko Kadoyama, LiveABC Interactive Corporation., 成美堂, 2021				
参考書					

科目名	実践英語初級 I (四)			期間	前期
担当教員	★橋本 貴	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語 (初級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	学習者が毎日遭遇するような状況や課題に焦点を当てたテキストを用いて、英語表現とコミュニケーション能力の向上を目指す。				
評価方法・基準	毎授業ごとの予習課題の評価、授業への取り組みなどを60%、学習到達度確認 (各授業内で学習した文法事項、語句などについての小テストなど) 40%として総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業は各 Unit を Listening, Reading セクションにわけ2回で1Unitを進める予定です。授業までに教科書の該当ページを予習しておくこと。またわからない語句は必ず辞書で調べておくこと。予習課題として毎授業までに各 Unit の Listening/ Reading セクションの設問の解答を提出してもらう予定です。提出方法については初回授業時に説明します。提出には大学のメールアドレスが必要となりますので各自で使えるようにしておくこと。また学習到達度確認として各 Unit 学習後に小テストを実施するほか受講者の理解度をみて適宜追加課題を課します。				
テキスト	Live Escalate Book 1: Base Camp, Teruhiko Kadoyama, LiveABC Interactive Corporation., 成美堂, 2021				
参考書					

科目名	実践英語初級 I (五)			期間	後期
担当教員	北岡 一弘	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語 (初級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	TOEIC テストの入門書を用いて、実践的な英語力を養成する。 また授業では、英語の歌やペアワークなどの活動を通じて、英語の正しい発音方法を学ぶ。語学習得、特にスピーキング力の向上は、学習者の積極的な姿勢が求められる。言語に限らず、授業で人と話したり、歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないこと。人と話すことが好き、または、苦手だが克服したいという学生の参加を歓迎する。				
評価方法・基準	課題点60%、テスト30%、平常点10% (授業中に行う質問に対する返答状況、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価)。				
履修上の注意事項等	授業には、電子辞書と携帯電話 (スマートフォンが望ましい) を持参すること。携帯電話は、指示がある時のみ使用可とする。この授業は座学の授業ではない。学生の積極的な参加が求められる。この授業では、自学自習を基本とし、自ら主体的に学ぶ姿勢を重視する。授業では歌を使った発音練習などを行う。授業で歌をつたうことに抵抗がある学生は、履修しないことを勧める。授業の課題を期限内にやり遂げ、かつ授業に積極的に参加しなければ、単位の習得は難しい。いわゆる「疎単」の授業ではないので、留意しておくこと。この授業は遠隔授業 (オンライン授業) を併用して行うので留意しておくこと。				
テキスト	Step-Up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test, Yasuyuki Kitao 他, 朝日出版社, 2022				
参考書					

科目名	実践英語初級 I (六)			期間	前期
担当教員	古木 圭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語 (初級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	TOEIC 形式の問題を題材に、英語文法の復習を行い、状況に応じた英語表現を習得する。リスニングとリーディングにおいて会話や文章内に知らない語句が使われていても、全体の概要を把握できる力を養成する。				
評価方法・基準	平常点 (40% : 授業中に行う質問に対する返答、課題の達成度、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価)、小テスト (60% : 授業内容の理解度を確認)				
履修上の注意事項等	意味の分からない語彙を事前に辞書で調べておくこと。テキスト付属の CD を活用し、発音の確認をしておく。授業外でも適宜 TOEIC の練習問題に取り組むこと。				
テキスト	Starting on the TOEIC Test (前期), 安浪誠祐, 朝日出版社, 2017 プリント				
参考書					

科目名	実践英語初級 I (七)			期間	前期
担当教員	古木 圭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語 (初級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	TOEIC 形式の問題を題材に、英語文法の復習を行い、状況に応じた英語表現を習得する。リスニングとリーディングにおいて会話や文章内に知らない語句が使われていても、全体の概要を把握できるようになる。				
評価方法・基準	平常点 (40% : 授業中に行う質問に対する返答、課題の達成度、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価)、小テスト (60% : 授業内容の理解度を確認)				
履修上の注意事項等	意味の分からない語彙を事前に辞書で調べておくこと。テキスト付属の CD を活用し、発音の確認をしておく。授業外でも適宜 TOEIC の練習問題に取り組むこと。				
テキスト	Starting on the TOEIC Test (前期), 安浪誠祐, 朝日出版社, 2017 プリント				
参考書					

科目名	実践英語初級 I (八)			期間	前期
担当教員	岡部 純子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語 (初級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	TOEIC 頻出のトピックごとに毎回テキストの1ユニットの学習をします。リスニングおよびリーディングを強化するために、自分のペースでトレーニングするタスクが多くありますが授業中にできなかった部分を自宅学習してくることが求められます。				
評価方法・基準	テキスト問題の遂行30%、Review テスト60%、授業参加度10%				
履修上の注意事項等	原則として予習は必要ありませんが、課された課題は全て解くことを重視します。また、オンライン教材使用の為に携帯電話もしくは端末機器を持参してください。またオンライン授業の場合は事前に指示をするので注意してください。				
テキスト	First Try For the TOEIC L&R Test, Robert Hickling, 金星堂, 2023				
参考書					

科目名	実践英語初級 I (九)			期間	前期
担当教員	古木 圭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語 (初級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	TOEIC 形式の問題を題材に、英語文法の復習を行い、状況に応じた英語表現を習得する。リスニングとリーディングにおいて会話や文章内に知らない語句が使われていても、全体の概要を把握できるようになる。				
評価方法・基準	平常点 (40% : 授業中に行う質問に対する返答、課題の達成度、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価)、小テスト (60% : 授業内容の理解度を確認)				
履修上の注意事項等	意味の分からない語彙を事前に辞書で調べておくこと。テキスト付属の CD を活用し、発音の確認をしておく。授業外でも適宜 TOEIC の練習問題に取り組むこと。				
テキスト	Starting on the TOEIC Test (前期), 安浪誠祐, 朝日出版社, 2017 プリント				
参考書					

科目名	実践英語初級 II (一)			期間	後期
担当教員	北岡 一弘	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語 (初級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	TOEIC テストの入門書を用いて、実践的な英語力を養成する。 また授業では、英語の歌やペアワークなどの活動を通じて、英語の正しい発音方法を学ぶ。語学習得、特にスピーキング力の向上は、学習者の積極的な姿勢が求められる。言語に限らず、授業で人と話したり、歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないこと。人と話すことが好き、または、苦手だが克服したいという学生の参加を歓迎する。				
評価方法・基準	課題点60%、テスト30%、平常点10% (授業中に行う質問に対する返答状況、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価)。				
履修上の注意事項等	授業には、電子辞書と携帯電話 (スマートフォンが望ましい) を持参すること。携帯電話は、指示がある時のみ使用可とする。この授業は座学の授業ではない。学生の積極的な参加が求められる。この授業では、自学自習を基本とし、自ら主体的に学ぶ姿勢を重視する。授業では歌を使った発音練習などを行う。授業で歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないことを勧める。 授業の課題を期限内にやり遂げ、かつ授業に積極的に参加しなければ、単位の習得は難しい。いわゆる「楽単」の授業ではないので、留意しておくこと。 この授業は遠隔授業 (オンライン授業) を併用して行うので留意しておくこと。				
テキスト	Step-Up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test, Yasuyuki Kitao 他, 朝日出版社, 2022				
参考書					

科目名	実践英語初級Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	北岡 一弘	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語（初級）				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	TOEIC テストの入門書を用いて、実践的な英語力を養成する。 また授業では、英語の歌やペアワークなどの活動を通じて、英語の正しい発音方法を学ぶ。語学習得、特にスピーキング力の向上は、学習者の積極的な姿勢が求められる。言語に限らず、授業で人と話したり、歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないこと。人と話すことが好き、または、苦手だが克服したいという学生の参加を歓迎する。				
評価方法・基準	課題点60%、テスト30%、平常点10%（授業中に行う質問に対する返答状況、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価）。				
履修上の注意事項等	授業には、電子辞書と携帯電話（スマートフォンが望ましい）を持参すること。携帯電話は、指示がある時のみ使用可とする。この授業は座学の授業ではない。学生の積極的な参加が求められる。この授業では、自学自習を基本とし、自主的に学ぶ姿勢を重視する。授業では歌を使った発音練習などを行う。授業で歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないことを勧める。授業の課題を期限内にやり遂げ、かつ授業に積極的に参加しなければ、単位の習得は難しい。いわゆる「楽単」の授業ではないので、留意しておくこと。この授業は遠隔授業（オンライン授業）を併用して行うので留意しておくこと。				
テキスト	Step-Up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test, Yasuyuki Kitao 他, 朝日出版社, 2022				
参考書					

科目名	実践英語初級Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	★橋本 貴	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語（初級）				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	学習者が毎日遭遇するような状況や課題に焦点を当てたテキストを用いて、英語表現とコミュニケーション能力の向上を目指す。				
評価方法・基準	毎授業ごとの予習課題の評価、授業への取り組みなどを60%、学習到達度確認（各授業内で学習した文法事項、語句などについての小テストなど）40%として総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業は各 Unit を Listening, Reading セクションにわけ2回で1Unitを進める予定です。授業までに教科書の該当ページを予習しておくこと。またわからない語句は必ず辞書で調べておくこと。予習課題として毎授業までに各 Unit の Listening/ Reading セクションの設問の解答を提出してもらう予定です。提出方法については初回授業時に説明します。提出には大学のメールアドレスが必要となりますので各自で使えるようにしておくこと。また学習到達度確認として各 Unit 学習後に小テストを実施するほか受講者の理解度をみて適宜追加課題を課します。				
テキスト	Live Escalate Book 1: Base Camp, Teruhiko Kadoyama, LiveABC Interactive Corporation., 成美堂, 2021				
参考書					

科目名	実践英語初級Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	★橋本 貴	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語（初級）				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	学習者が毎日遭遇するような状況や課題に焦点を当てたテキストを用いて、英語表現とコミュニケーション能力の向上を目指す。				
評価方法・基準	毎授業ごとの予習課題の評価、授業への取り組みなどを60%、学習到達度確認（各授業内で学習した文法事項、語句などについての小テストなど）40%として総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業は各 Unit を Listening, Reading セクションにわけ2回で1Unitを進める予定です。授業までに教科書の該当ページを予習しておくこと。またわからない語句は必ず辞書で調べておくこと。予習課題として毎授業までに各 Unit の Listening/ Reading セクションの設問の解答を提出してもらう予定です。提出方法については初回授業時に説明します。提出には大学のメールアドレスが必要となりますので各自で使えるようにしておくこと。また学習到達度確認として各 Unit 学習後に小テストを実施するほか受講者の理解度をみて適宜追加課題を課します。				
テキスト	Live Escalate Book 1: Base Camp, Teruhiko Kadoyama, LiveABC Interactive Corporation., 成美堂, 2021				
参考書					

科目名	実践英語初級Ⅱ（六）			期間	後期
担当教員	古木 圭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語（初級）				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	「実践英語初級Ⅰ」に引き続き、TOEIC 形式の問題を題材に、英語文法の復習を行い、状況に応じた英語表現を習得する。リスニングとリーディングにおいて会話や文章内に知らない語句が使われていても、全体の概要を把握できるようになる。				
評価方法・基準	平常点（40%：授業中に行う質問に対する返答、課題の達成度、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価。）、小テスト（60%：授業内容の理解度を確認。）				
履修上の注意事項等	意味の分からない語彙を事前に辞書で調べておくこと。テキスト付属の CD およびダウンロードした音声を活用し、発音の確認をしておく。授業外でも適宜 TOEIC の練習問題に取り組むこと。				
テキスト	FIRST TRY FOR THE TOEIC R L&R TEST, Robert Hickling, 金星堂, 2023				
参考書					

科目名	実践英語初級Ⅱ（七）			期間	後期
担当教員	古木 圭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語（初級）				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	「実践英語初級Ⅰ」に引き続き、TOEIC形式の問題を題材に、英語文法の復習を行い、状況に応じた英語表現を習得する。リスニングとリーディングにおいて会話や文章内に知らない語句が使われていても、全体の概要を把握できるようになる。				
評価方法・基準	平常点（40%：授業中に行う質問に対する返答、課題の達成度、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価。）、小テスト（60%：授業内容の理解度を確認。）				
履修上の注意事項等	意味の分からない語彙を事前に辞書で調べておくこと。テキスト付属のCDおよびダウンロードした音声を活用し、発音の確認をしておく。授業外でも適宜TOEICの練習問題に取り組むこと。				
テキスト	FIRST TRY FOR THE TOEIC R L&R TEST, Robert Hickling, 金星堂, 2023				
参考書					

科目名	実践英語初級Ⅱ（八）			期間	後期
担当教員	岡部 純子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語（初級）				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	簡単な英語で自分の言いたいことをアウトプットできるようになる練習を行う。そのために必要となる基礎的文法や語彙を確認しながら。授業では対話、会話を多く行う。				
評価方法・基準	中間評価、最終評価ともにスピーキングチェックをします。スピーキングチェック40%、ライティング課題40%、授業参加度20%				
履修上の注意事項等	毎時間、英語を声に出す活動を行います。ただ聞いているだけでは受講できませんので積極的な態度で臨んでください。また、英語辞書は必ず持参してください（紙、電子、オンラインを問いません）。なお受講者人数に応じて授業形態を変更する場合があります。				
テキスト	Let's Output in Basic English（予定）、佐藤臨太郎、金星堂				
参考書					

科目名	実践英語初級Ⅱ（九）			期間	後期
担当教員	古木 圭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語（初級）				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力の基礎力を養成する。				
授業概要	「実践英語初級Ⅰ」に引き続き、TOEIC形式の問題を題材に、英語文法の復習を行い、状況に応じた英語表現を習得する。リスニングとリーディングにおいて会話や文章内に知らない語句が使われていても、全体の概要を把握できるようになる。				
評価方法・基準	平常点（40%：授業中に行う質問に対する返答、課題の達成度、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価。）、小テスト（60%：授業内容の理解度を確認。）				
履修上の注意事項等	意味の分からない語彙を事前に辞書で調べておくこと。テキスト付属のCDおよびダウンロードした音声を活用し、発音の確認をしておく。授業外でも適宜TOEICの練習問題に取り組むこと。				
テキスト	FIRST TRY FOR THE TOEIC R L&R TEST, Robert Hickling, 金星堂, 2023				
参考書					

科目名	英語読解中級Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	★川田 伸道	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（中級）				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	文法知識を確実なものにし、実際のコミュニケーションにおいて使えるように導く。文法事項を、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能に活用する。ある程度の長さの英語を理解できるようになり、また単語量を増やすことを目標とする。				
評価方法・基準	・平常点（40%：授業中に行う質問に対する返答、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価） ・テスト（60%：確認テスト45%、小テスト15%。授業内容の理解度を確認）				
履修上の注意事項等	英和辞典（書籍版、電子辞書のどちらでも構わない）を毎回持参すること。中辞典以上のものを使用すること。携帯電話、スマートフォンなどネットワーク機能のついた電子機器類を使用することは不可とする。				
テキスト	Reading Success 1, Akihiko Sato 他, 成美堂, 2016				
参考書					

科目名	英語読解中級 I (二)			期間	前期
担当教員	★山内 信幸	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (中級)				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	言語と同様に、身ぶりや対人距離などが社会的・文化的にある種の意味を持ち、コード化された体系を有していることはよく知られた事実である。コミュニケーションのより低次のレベルとして、どの社会・文化にも共通して見られる生物学的な人間の行動パターンについての著作を読むことで、非言語的な伝達行動についての理解と、各自の個人間あるいは個人内コミュニケーションにおける manwatching (人間観察) の方法論を学ぶことを目指す。				
評価方法・基準	定期試験は行わず、授業中に実施する学習到達度の確認などの平常評価 (①授業時に行う学習到達度確認の復習テスト (50%)・②授業時に行う割り当て部分の理解度を確認する小テスト (30%)・③毎回の提出物・クラスでの貢献度や発表 (20%)) によって、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	毎回授業時に、前回授業時に指示された課題を A4 サイズの用紙にワープロ印刷したものを提出すること。なお、授業に関する質問・相談や連絡などがある場合には、必要に応じて、nyamauch@mail.doshisha.ac.jp まで遠慮なく問い合わせること。				
テキスト	Manwatching, Desmond Morris, 金星堂, 1977				
参考書					

科目名	英語読解中級 I (三)			期間	前期
担当教員	★川田 伸道	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (中級)				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	文法知識を確実なものにし、実際のコミュニケーションにおいて使えるように導く。文法事項を、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能に活用する。ある程度の長さの英語を理解できるようになり、また単語量を増やすことを目標とする。				
評価方法・基準	・平常点 (40% : 授業中に行う質問に対する返答、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価) ・テスト (60% : 確認テスト45%、小テスト 15%。授業内容の理解度を確認)				
履修上の注意事項等	英和辞典 (書籍版、電子辞書のどちらでも構わない) を毎回持参すること。中辞典以上のものを使用すること。携帯電話、スマートフォンなどネットワーク機能のついた電子機器類を使用することは不可とする。				
テキスト	Reading Success 1, Akihiko Sato 他, 成美堂, 2016				
参考書					

科目名	英語読解中級 I (四)			期間	前期
担当教員	★山内 信幸	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (中級)				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	言語と同様に、身ぶりや対人距離などが社会的・文化的にある種の意味を持ち、コード化された体系を有していることはよく知られた事実である。コミュニケーションのより低次のレベルとして、どの社会・文化にも共通して見られる生物学的な人間の行動パターンについての著作を読むことで、非言語的な伝達行動についての理解と、各自の個人間あるいは個人内コミュニケーションにおける manwatching (人間観察) の方法論を学ぶことを目指す。				
評価方法・基準	定期試験は行わず、授業中に実施する学習到達度の確認などの平常評価 (①授業時に行う学習到達度確認の復習テスト (50%)・②授業時に行う割り当て部分の理解度を確認する小テスト (30%)・③毎回の提出物・クラスでの貢献度や発表 (20%)) によって、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	毎回授業時に、前回授業時に指示された課題を A4 サイズの用紙にワープロ印刷したものを提出すること。なお、授業に関する質問・相談や連絡などがある場合には、必要に応じて、nyamauch@mail.doshisha.ac.jp まで遠慮なく問い合わせること。				
テキスト	Manwatching, Desmond Morris, 金星堂, 1977				
参考書					

科目名	英語読解中級 I (五)			期間	前期
担当教員	北岡 一弘	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (中級)				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	英語総合教材を用いて、実践的な英語力を養成する。また授業では、英語の歌やペアワークなどの活動を通じて、英語の正しい発音方法を学ぶ。語学習得、特にスピーキング力の向上には、学習者の積極的な姿勢が求められる。言語に限らず、授業で人と話したり、歌をつたうことに抵抗がある学生は、履修しないこと。人と話すことが好き、または、苦手だが克服したいという学生の参加を歓迎する。またこのシラバスにある「履修上の注意」を必ず読んでおくこと。				
評価方法・基準	課題点60%、テスト30%、平常点10% (授業中に行う質問に対する返答状況、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価)。				
履修上の注意事項等	授業には、電子辞書と携帯電話 (スマートフォンが望ましい) を持参すること。携帯電話は、指示がある時のみ使用可とする。この授業は座学の授業ではない。学生の積極的な参加が求められる。この授業では、自学自習を基本とし、自ら主体的に学ぶ姿勢を重視する。授業では歌を使った発音練習などを行う。授業で歌をつたうことに抵抗がある学生は、履修しないことを勧める。授業の課題を期限内にやり遂げ、かつ授業に積極的に参加しなければ、単位の取得は難しい。いわゆる「楽単」の授業ではないので、留意しておくこと。この授業は遠隔授業 (オンライン授業) を併用して行うので留意しておくこと。				
テキスト	Reading Leader, Robert Hickling, 金星堂, 2024				
参考書					

科目名	英語読解中級 I (六)			期間	前期
担当教員	北岡 一弘	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (中級)				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	英語総合教材を用いて、実践的な英語力を養成する。また授業では、英語の歌やペアワークなどの活動を通して、英語の正しい発音方法を学ぶ。語学習得、特にスピーキング力の向上には、学習者の積極的な姿勢が求められる。言語に限らず、授業で人と話したり、歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないこと。人と話すことが好き、または、苦手だが克服したいという学生の参加を歓迎する。またこのシラバスにある「履修上の注意」を必ず読んでおくこと。				
評価方法・基準	課題点60%、テスト30%、平常点10% (授業中に行う質問に対する返答状況、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価)。				
履修上の注意事項等	授業には、電子辞書と携帯電話 (スマートフォンが望ましい) を持参すること。携帯電話は、指示がある時のみ使用可とする。この授業は座学の授業ではない。学生の積極的な参加が求められる。この授業では、自学自習を基本とし、自ら主体的に学ぶ姿勢を重視する。授業では歌を使った発音練習などを行う。授業で歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないことを勧める。授業の課題を期限内にやり遂げ、かつ授業に積極的に参加しなければ、単位の取得は難しい、いわゆる「楽単」の授業ではないので、留意しておくこと。この授業は遠隔授業 (オンライン授業) を併用して行うので留意しておくこと。				
テキスト	Reading Leader, Robert Hickling, 金星堂, 2024				
参考書					

科目名	英語読解中級 I (十)			期間	前期
担当教員	岡部 純子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (中級)				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	毎時間、短いビデオを観て理解する、単語と文法を確認する、類似の文章を読む、自分の意見を発信するという作業を行い、基本的な英語を使えるようになる練習をします。				
評価方法・基準	平常点および途中の確認テスト40%、到達度テスト60%				
履修上の注意事項等	授業で身に着けたスキルの定着を図るために復習を重視します。また、オンライン教材使用に備えて携帯電話、端末機器もしくはPCを持参してください。				
テキスト	Global Gate Basic, Shoma Aota 他, Seibido, 2024				
参考書					

科目名	英語読解中級 I (十一)			期間	前期
担当教員	古木 圭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (中級)				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	文法知識を確実なものにし、実際のコミュニケーションにおいて使えるように導く。文法事項を、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能に活用する。				
評価方法・基準	テキストに出ている基本的な内容を理解しているかどうかをみる到達度確認テスト60%、授業態度、発表の際の予習の度合いなどの平常点40%で総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	毎回辞書を持参すること。復習・予習において、テキスト付属のCD音声を聴いて、発音、内容の確認をすること。				
テキスト	Cultural Encounters, Toshiaki Nishihara / Nayumi Nishihara, センゲージラーニング, 2023 プリント				
参考書					

科目名	英語読解中級 I (十四)			期間	前期
担当教員	★川田 伸道	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語 (中級)				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	文法知識を確実なものにし、実際のコミュニケーションにおいて使えるように導く。文法事項を、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能に活用する。ある程度の長さの英語を理解できるようになり、また単語量を増やすことを目標とする。				
評価方法・基準	・平常点 (40% : 授業中に行う質問に対する返答、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価) ・テスト (60% : 確認テスト45%、小テスト 15%。授業内容の理解度を確認)				
履修上の注意事項等	英和辞典 (書籍版、電子辞書のどちらでも構わない) を毎回持参すること。中辞典以上のものを使用すること。携帯電話、スマートフォンなどネットワーク機能のついた電子機器類を使用することは不可とする。				
テキスト	Reading Success 1, Akihiko Sato 他, 成美堂, 2016				
参考書					



科目名	英語読解中級Ⅰ（十六）			期間	前期
担当教員	岡部 純子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（中級）				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	毎時間、短いビデオを観て理解する、単語と文法を確認する、類似の文章を読む、自分の意見を発信するという作業を行い、基本的な英語を使えるようになる練習をします。				
評価方法・基準	平常点および途中の確認テスト40%、到達度テスト60%				
履修上の注意事項等	授業で身につけたスキルの定着を図るために復習を重視します。また、オンライン教材使用に備えて携帯電話、端末機器もしくはPCを持参してください。				
テキスト	Global Gate Basic, Shoma Aota 他, Seibido, 2024				
参考書					

科目名	英語読解中級Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	★川田 伸道	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（中級）				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	文法知識を確実なものにし、実際のコミュニケーションにおいて使えるように導く。文法事項を、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能に活用する。ある程度の長さの英語を理解できるようになり、また単語量を増やすことを目標とする。				
評価方法・基準	・平常点（40%：授業中に行う質問に対する返答、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価） ・テスト（60%：確認テスト45%、小テスト 15%。授業内容の理解度を確認）				
履修上の注意事項等	英和辞典（書籍版、電子辞書のどちらでも構わない）を毎回持参すること。中辞典以上のものを使用すること。携帯電話、スマートフォンなどネットワーク機能のついた電子機器類を使用することは不可とする。				
テキスト	A Taste of English: Food and Fiction, Fiona Wall Minami 他, 朝日出版社, 2013				
参考書					

科目名	英語読解中級Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	★山内 信幸	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（中級）				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	言語と同様に、身ぶりや対人距離などが社会的・文化的にある種の意味を持ち、コード化された体系を有していることはよく知られた事実である。コミュニケーションのより低次のレベルとして、どの社会・文化にも共通して見られる生物学的な人間の行動パターンについての著作を読むことで、非言語的な伝達行動についての理解と、各自の個人間あるいは個人内コミュニケーションにおける manwatching（人間観察）の方法論を学ぶことを目指す。				
評価方法・基準	定期試験は行わず、授業中に実施する学習到達度の確認などの平常評価 ①授業最終時に行う学習到達度確認のテスト（60%）・②授業時に行う割り当て部分の理解度を確認する課題（30%）・③毎回の予習を兼ねた宿題（20%）によって、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	毎回授業時に、前回授業時に指示された課題をA4サイズ用の紙にワープロ印刷したものを提出すること。なお、授業に関する質問・相談や連絡などがある場合には、必要に応じて、nyamauch@mail.doshisha.ac.jp まで遠慮なく問い合わせること。				
テキスト	Manwatching, Desmond Morris, 金星堂, 1977				
参考書					

科目名	英語読解中級Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	★川田 伸道	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（中級）				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	文法知識を確実なものにし、実際のコミュニケーションにおいて使えるように導く。文法事項を、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能に活用する。ある程度の長さの英語を理解できるようになり、また単語量を増やすことを目標とする。				
評価方法・基準	・平常点（40%：授業中に行う質問に対する返答、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価） ・テスト（60%：確認テスト45%、小テスト 15%。授業内容の理解度を確認）				
履修上の注意事項等	英和辞典（書籍版、電子辞書のどちらでも構わない）を毎回持参すること。中辞典以上のものを使用すること。携帯電話、スマートフォンなどネットワーク機能のついた電子機器類を使用することは不可とする。				
テキスト	A Taste of English: Food and Fiction, Fiona Wall Minami 他, 朝日出版社, 2013				
参考書					

科目名	英語読解中級Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	★山内 信幸	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（中級）				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	言語と同様に、身ぶりや対人距離などが社会的・文化的にある種の意味を持ち、コード化された体系を有していることはよく知られた事実である。コミュニケーションのより低次のレベルとして、どの社会・文化にも共通して見られる生物学的な人間の行動パターンについての著作を読むことで、非言語的な伝達行動についての理解と、各自の個人間あるいは個人内コミュニケーションにおける manwatching（人間観察）の方法論を学ぶことを目指す。				
評価方法・基準	定期試験は行わず、授業中に実施する学習到達度の確認などの平常評価（①授業最終時に行う学習到達度確認のテスト（50%）・②授業時に行う割り当て部分の理解度を確認する課題（30%）・③毎回の予習を兼ねた宿題（20%））によって、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	毎回授業時に、前回授業時に指示された課題を A4 サイズの用紙にワープロ印刷したものを提出すること。なお、授業に関する質問・相談や連絡などがある場合には、必要に応じて、nyamauch@mail.doshisha.ac.jp まで遠慮なく問い合わせること。				
テキスト	Manwatching, Desmond Morris, 金星堂, 1977				
参考書					

科目名	英語読解中級Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	北岡 一弘	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（中級）				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	英語総合教材を用いて、実践的な英語力を養成する。また授業では、英語の歌やペアワークなどの活動を通じて、英語の正しい発音方法を学ぶ。語学習得、特にスピーキング力の向上には、学習者の積極的な姿勢が求められる。言語に限らず、授業で人と話したり、歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないこと。人と話すことが好き、または、苦手だが克服したいという学生の参加を歓迎する。またこのシラバスにある「履修上の注意」を必ず読んでおくこと。				
評価方法・基準	課題点60%、テスト30%、平常点10%（授業中に行う質問に対する返答状況、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価）。				
履修上の注意事項等	授業には、電子辞書と携帯電話（スマートフォンが望ましい）を持参すること。携帯電話は、指示がある時のみ使用可とする。この授業は座学の授業ではない、学生の積極的な参加が求められる。この授業では、自学自習を基本とし、自ら主体的に学ぶ姿勢を重視する。授業では歌を使った発音練習などを行う。授業で歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないことを勧める。授業の課題を期限内にやり遂げ、かつ授業に積極的に参加しなければ、単位の取得は難しい、いわゆる「楽単」の授業ではないので、留意しておくこと。この授業は遠隔授業（オンライン授業）を併用して行うので留意しておくこと。				
テキスト	Reading Leader, Robert Hickling, 金星堂, 2024				
参考書					

科目名	英語読解中級Ⅱ（六）			期間	後期
担当教員	北岡 一弘	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（中級）				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	英語総合教材を用いて、実践的な英語力を養成する。また授業では、英語の歌やペアワークなどの活動を通じて、英語の正しい発音方法を学ぶ。語学習得、特にスピーキング力の向上には、学習者の積極的な姿勢が求められる。言語に限らず、授業で人と話したり、歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないこと。人と話すことが好き、または、苦手だが克服したいという学生の参加を歓迎する。またこのシラバスにある「履修上の注意」を必ず読んでおくこと。				
評価方法・基準	課題点60%、テスト30%、平常点10%（授業中に行う質問に対する返答状況、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価）。				
履修上の注意事項等	授業には、電子辞書と携帯電話（スマートフォンが望ましい）を持参すること。携帯電話は、指示がある時のみ使用可とする。この授業は座学の授業ではない、学生の積極的な参加が求められる。この授業では、自学自習を基本とし、自ら主体的に学ぶ姿勢を重視する。授業では歌を使った発音練習などを行う。授業で歌をうたうことに抵抗がある学生は、履修しないことを勧める。授業の課題を期限内にやり遂げ、かつ授業に積極的に参加しなければ、単位の取得は難しい、いわゆる「楽単」の授業ではないので、留意しておくこと。この授業は遠隔授業（オンライン授業）を併用して行うので留意しておくこと。				
テキスト	Reading Leader, Robert Hickling, 金星堂, 2024				
参考書					

科目名	英語読解中級Ⅱ（十）			期間	後期
担当教員	岡部 純子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（中級）				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	毎時間、短いビデオを観て理解する、単語と文法を確認する、類似の文章を読む、自分の意見を発信するという作業を行い、基本的な英語を使えるようになる練習をします。				
評価方法・基準	平常点および途中の確認テスト40%、到達度テスト60%				
履修上の注意事項等	授業で身に着けたスキルの定着を図るために復習を重視します。また、オンライン教材使用に備えて携帯電話、端末機器もしくはPCを持参してください。				
テキスト	Global Gate Intermediate, Azusa Wada 他, Seibido, 2024				
参考書					

科目名	英語読解中級Ⅱ（十一）			期間	後期
担当教員	古木 圭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（中級）				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	「英語中級読解Ⅰ」に引き続き、文法知識を確実なものにし、実際のコミュニケーションにおいて使えるように導く。文法事項を、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能に活用する。イギリス文化について学ぶ。				
評価方法・基準	テキストに出ている基本的な内容を理解しているかどうかをみる到達度確認テスト60%、授業態度、発表の際の予習の度合いなどの平常点40%で総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	毎回辞書を持参すること。予習・復習として、テキスト付属の音声を活用し、発音の練習、内容確認、ディクテーションを行う。				
テキスト	A Taste of English: Food and Fiction フィクションにみる食文化, Fiona Wall Minami, 朝日出版社, 2013 プリント				
参考書					

科目名	英語読解中級Ⅱ（十四）			期間	後期
担当教員	★川田 伸道	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（中級）				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	文法知識を確実なものにし、実際のコミュニケーションにおいて使えるように導く。文法事項を、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能に活用する。ある程度の長さの英語を理解できるようになり、また単語量を増やすことを目標とする。				
評価方法・基準	・平常点（40%：授業中に行う質問に対する返答、授業に真摯に取り組む姿勢などを評価） ・テスト（60%：確認テスト45%、小テスト 15%。授業内容の理解度を確認）				
履修上の注意事項等	英和辞典（書籍版、電子辞書のどちらでも構わない）を毎回持参すること。中辞典以上のものを使用すること。携帯電話、スマートフォンなどネットワーク機能のついた電子機器類を使用することは不可とする。				
テキスト	A Taste of English: Food and Fiction, Fiona Wall Minami 他, 朝日出版社, 2013				
参考書					

科目名	英語読解中級Ⅱ（十六）			期間	後期
担当教員	岡部 純子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（中級）				
到達目標	読解を主にして標準的な文法を確認し、英語運用能力を養成する。				
授業概要	毎時間、短いビデオを観て理解する、単語と文法を確認する、類似の文章を読む、自分の意見を発信するという作業を行い、基本的な英語を使えるようになる練習をします。				
評価方法・基準	平常点および途中の確認テスト40%、到達度テスト60%				
履修上の注意事項等	授業で身につけたスキルの定着を図るために復習を重視します。また、オンライン教材使用に備えて携帯電話、端末機器もしくはPCを持参してください。				
テキスト	Global Gate Intermediate, Azusa Wada 他, Seibido, 2024				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション中級Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	エリック マーティン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Intermediate)				
到達目標	おおよその日常会話をこなす。				
授業概要	In this class, students expand upon the fundamentals of English communication to have discussions about modern topics. Students in this class should be prepared to participate actively with other students.				
評価方法・基準	Assessments (40%) ; Homework (20%) ; In-class participation (40%)				
履修上の注意事項等	Come to class every week with a pencil, paper, and dictionary.				
テキスト	On-Task 2, Justin Harris & Paul Leeming, Abax, 2021				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション中級Ⅰ(二)	期間	前期		
担当教員	エリック マーティン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Intermediate)				
到達目標	おおよその日常会話をこなす。				
授業概要	In this class, students expand upon the fundamentals of English communication to have discussions about modern topics. Students in this class should be prepared to participate actively with other students.				
評価方法・基準	Assessments (40%) ; Homework (20%) ; In-class participation (40%)				
履修上の注意事項等	Come to class every week with a pencil, paper, and dictionary.				
テキスト	On-Task 2, Justin Harris & Paul Leeming, Abax, 2021				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション中級Ⅰ(三)	期間	前期		
担当教員	エリック マーティン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Intermediate)				
到達目標	おおよその日常会話をこなす。				
授業概要	In this class, students expand upon the fundamentals of English communication to have discussions about modern topics. Students in this class should be prepared to participate actively with other students.				
評価方法・基準	Assessments (40%) ; Homework (20%) ; In-class participation (40%)				
履修上の注意事項等	Come to class every week with a pencil, paper, and dictionary.				
テキスト	On-Task 2, Justin Harris & Paul Leeming, Abax, 2021				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション中級Ⅰ(四)	期間	前期		
担当教員	★ハットン グレゴリー	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Intermediate)				
到達目標	おおよその日常会話をこなす。				
授業概要	授業では、教科書にある情報をベースに新しい情報を付け加えたり、入れ替えたりし、その会話の内容を自分のものにするための練習をクラスメートや先生と行います。授業は、テキストやスピーキングの宿題をベースに進めます。それぞれが自分から積極的に英語を使うようになる事が授業の目的であり、授業中は日本語ではなく、英語を話すことが求められます。各授業は英語を実際に話す貴重なチャンスです。ですから、毎回、英語を話すつもりで授業に挑んでください。Active English speaking!				
評価方法・基準	Speaking English is important! 英語使う協力 50%、宿題 20%、試験(少テスト含めて 20%、プレゼンテーション 10%) 授業で英語を話すことは大変重要であり、授業の評価(成績)は授業にしていることとともに、授業にどれほど積極的に英語で参加されるかをみてつけさせてもらいます。				
履修上の注意事項等	Come, expect to speak, and have fun speaking English with other students. 積極的に英語を話したくない方は、他のクラスに参加した方がいいと思います。				
テキスト	Interchange 2 (5th Edition) Student's Book with Digital Pack				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション中級Ⅰ(五)	期間	前期		
担当教員	★クリストファー・デンクラウ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Intermediate)				
到達目標	おおよその日常会話をこなす。				
授業概要	Students will be encouraged to develop skills that enable them to be functional and competent in analyzing and conveying information in conversation, including exchanging basic opinions on different topics and negotiating meaning. This course will be taught in English.				
評価方法・基準	Assessment is based on participation, assignments, quizzes, speaking tests and midterm and end of term tests. Students will be expected to do extra work outside of class. Accomplished and accessed tasks 40%, Commitment and Participation 20%, Quizzes and in class tests 40%.				
履修上の注意事項等	Try to develop confidence in communication in English. Please try to do all assessed tasks. Do your best!				
テキスト	World Voices 2, Alastair Graham-Marr, ABAX ELT, 2021				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション中級Ⅰ(六)			期間	前期
担当教員	★クリストファー・デンクラウ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Intermediate)				
到達目標	おおよその日常会話をこなす。				
授業概要	Students will be encouraged to develop skills that enable them to be functional and competent in analyzing and conveying information in conversation, including exchanging basic opinions on different topics and negotiating meaning. This course will be taught in English.				
評価方法・基準	Assessment is based on participation, assignments, quizzes, speaking tests and midterm and end of term tests. Students will be expected to do extra work outside of class. Accomplished and accessed tasks 40%, Commitment and Participation 20%, Quizzes and in class tests 40%.				
履修上の注意事項等	Try to develop confidence in communication in English. Please try to do all assessed tasks. Do your best!				
テキスト	World Voices 2, Alastair Graham-Marr, ABAX ELT, 2021				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション中級Ⅱ(一)			期間	後期
担当教員	エリック マーティン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Intermediate)				
到達目標	おおよその日常会話をこなす。				
授業概要	In this class, students expand upon the fundamentals of English communication to have discussions about modern topics. Students in this class should be prepared to participate actively with other students.				
評価方法・基準	Assessments (40%) ; Homework (20%) ; In-class participation (40%)				
履修上の注意事項等	Come to class every week with a pencil, paper, and dictionary.				
テキスト	On-Task 2, Justin Harris & Paul Leeming, Abax, 2021				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション中級Ⅱ(二)			期間	後期
担当教員	エリック マーティン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Intermediate)				
到達目標	おおよその日常会話をこなす。				
授業概要	In this class, students expand upon the fundamentals of English communication to have discussions about modern topics. Students in this class should be prepared to participate actively with other students.				
評価方法・基準	Assessments (40%) ; Homework (20%) ; In-class participation (40%) ?				
履修上の注意事項等	Come to class every week with a pencil, paper, and dictionary.				
テキスト	On-Task 2, Justin Harris & Paul Leeming, Abax, 2021				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション中級Ⅱ(三)			期間	後期
担当教員	エリック マーティン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Intermediate)				
到達目標	おおよその日常会話をこなす。				
授業概要	In this class, students expand upon the fundamentals of English communication to have discussions about modern topics. Students in this class should be prepared to participate actively with other students.				
評価方法・基準	Assessments (40%) ; Homework (20%) ; In-class participation (40%) ?				
履修上の注意事項等	Come to class every week with a pencil, paper, and dictionary.?				
テキスト	On-Task 2, Justin Harris & Paul Leeming, Abax, 2021				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション中級Ⅱ (四)	期間	後期		
担当教員	★ハットン グレゴリー	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Intermediate)				
到達目標	おおよその日常会話をこなす。				
授業概要	授業では、教科書にある情報をベースに新しい情報を付け加えたり、入れ替えたりし、その会話の内容を自分のものにするための練習をクラスメートや先生と行います。授業は、テキストやスピーキングの宿題をベースに進めます。それぞれが自分から積極的に英語を使うようになる事が授業の目的であり、授業中は日本語ではなく、英語を話すことが求められます。各授業は英語を実際に話す貴重なチャンスです。ですから、毎回、英語を話すつもりで授業に挑んでください。Active English speaking!				
評価方法・基準	Speaking English is important! 英語使う協力 50%、宿題 20%、試験 (少テスト含めて 20%、プレゼンテーション 10% 授業で英語を話すことは大変重要であり、授業の評価 (成績) は授業にしていることとともに、授業にどれほど積極的に英語で参加されるかをみてつけさせてもらいます。				
履修上の注意事項等	Come, expect to speak, and have fun speaking English with other students. 積極的に英語を話したくない方は、他のクラスに参加した方がいいと思います。				
テキスト	Interchange 2 (5th Edition) Student's Book with Digital Pack				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション中級Ⅱ (五)	期間	後期		
担当教員	★クリストファー・デンクラウ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Intermediate)				
到達目標	おおよその日常会話をこなす。				
授業概要	Students will be encouraged to develop skills that enable them to be functional and competent in analyzing and conveying information in conversation, including exchanging basic opinions on different topics and negotiating meaning. This course will be taught in English.				
評価方法・基準	Assessment is based on participation, assignments, quizzes, speaking tests and midterm and end of term tests. Students will be expected to do extra work outside of class. Accomplished and accessed tasks 40%, Commitment and Participation 20%, Quizzes and in class tests 40%.				
履修上の注意事項等	Try to develop confidence in communication in English. Please try to do all assessed tasks. Do your best!				
テキスト	World Voices 2, Alastair Graham-Marr, ABAX ELT, 2021				
参考書					

科目名	オーラルコミュニケーション中級Ⅱ (六)	期間	後期		
担当教員	★クリストファー・デンクラウ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	Oral English (Intermediate)				
到達目標	おおよその日常会話をこなす。				
授業概要	Students will be encouraged to develop skills that enable them to be functional and competent in analyzing and conveying information in conversation, including exchanging basic opinions on different topics and negotiating meaning. This course will be taught in English.				
評価方法・基準	Assessment is based on participation, assignments, quizzes, speaking tests and midterm and end of term tests. Students will be expected to do extra work outside of class. Accomplished and accessed tasks 40%, Commitment and Participation 20%, Quizzes and in class tests 40%.				
履修上の注意事項等	Try to develop confidence in communication in English. Please try to do all assessed tasks. Do your best!				
テキスト	World Voices 2, Alastair Graham-Marr, ABAX ELT, 2021				
参考書					

科目名	実践英語中級Ⅰ (三)	期間	前期		
担当教員	★菊池 あずさ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語 (中級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力を養成する。				
授業概要	TOEIC の授業です。TOEIC 未受験の方も受講していただいても構いませんが、スコアアップを目指す授業ですので、予習と復習自主学習必須です。さらに受講期間中、実際の TOEIC 受験を強く薦めます。				
評価方法・基準	平常点 (小テスト、授業への取り組み方) 40% + 学習到達度確認 (前期中間期末) 60%。ただし、予習せずに出席した場合、及び遅刻・欠席・早退は平常点から減点する。予習必須の授業である。				
履修上の注意事項等	辞書は毎回持参。 以下の行為を行なった者には、単位を出さない、それ以降の出席は認めないといった厳しい処置を取る。「無断での途中退席」「授業中の飲食 (飴やガムなど)」「私語」「スマホを見る」 ◎その他「教員の指示に従わない不快な行為」。				
テキスト	Effective Approaches to the TOEIC L & R Test, 田中清美・和田ゆり, 南雲堂, 2023				
参考書					

科目名	実践英語中級 I (四)			期間	前期
担当教員	★福地 浩子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語 (中級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力を養成する。				
授業概要	リスニングとリーディングを通して、十分な英語のインプットを行い、音読を繰り返すことで、身近な話題について英語で発信する練習をする。本テキストは、現代の大学生が興味をもつと思われるトピックが並んでいる。「SNS で自分の大切なものについて紹介する」「モーニングルーティングを紹介する」「おすすめのレストランを紹介する」「レビューサイトでお気に入りの映画を紹介する」などである。これらのトピックについて、インプットとなる練習をした後、アウトプットとなる活動として、各自スピーチを作成し、発表して頂く。テキストは前期・後期と継続して使用する。並行して、TOEIC 読解問題やアニメドラマ「チャロ」のリスニング・ロールプレイに取り組む。				
評価方法・基準	受講状況30% 到達度確認40% スピーチ原稿20% 予習・授業貢献10%				
履修上の注意事項等	毎回授業に出席しても、授業活動に参加しなければ、単位を取得することはできない。毎回、授業の冒頭に巡回し、予習をしているかチェックする。真面目な取り組みを評価する。				
テキスト	Speaking Steps, 白倉美里・他, 金星堂, 2022				
参考書					

科目名	実践英語中級 I (五)			期間	前期
担当教員	★山内 信幸	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語 (中級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力を養成する。				
授業概要	TOEIC L&R (Listening & Reading) Test のスコアアップ (目標: 400~450) を図るため、TOEIC L&R の出題形式に慣れ、語彙力・文法力の向上を目指すとともに、読解力・聴解力の養成を目指す。				
評価方法・基準	定期試験は行わず、授業中に実施する学習到達度の確認などの平常評価 (①授業時に行う学習到達度確認のテスト (50%)・②授業時に行う割り当て部分の理解度を確認する小テスト (30%)・③毎回の提出物・クラスでの貢献度や発表 (20%)) によって、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	毎回授業時に、前回授業時に指示された課題を A4 サイズの用紙にワープロ印刷したものを提出すること。なお、授業に関する質問・相談や連絡などがある場合には、必要に応じて、nyamauch@mail.doshisha.ac.jp まで遠慮なく問い合わせること。				
テキスト	Totally TOEIC L&R Test: Challenge 400, Terry O'Brien et. al., 南雲堂, 2018				
参考書					

科目名	実践英語中級 I (六)			期間	前期
担当教員	★後藤 朗子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語 (中級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力を養成する。				
授業概要	科学は、日常生活や健康に深い関わりがあるだけでなく、技術や宇宙など世界の未来について想像が膨らむ分野である。「健康」「自然」「資源」「技術」「宇宙」など、多岐にわたる科学を題材にした英文を丁寧に読む。辞書を引きながら、自力で英文を読めるようにする。文法・語彙力を養いながらも、科学に関する各テーマについて考え、自分なりの疑問や意見をもつことを心がける。				
評価方法・基準	平常点10% (授業中の発表と学習への取り組み)、小テスト60% (基本的語句・文法・表現・内容の理解度)、提出課題30% (e-Learning にて実施)				
履修上の注意事項等	必ず十分な予習をしてください。小テストを頻繁に実施します。積極的な学習姿勢の継続が大切です。				
テキスト	SCIENCE MATTERS! 暮らしを変える最新科学, 野崎嘉信ほか, 金星堂, 2020				
参考書	なし				

科目名	実践英語中級 I (七)			期間	前期
担当教員	★後藤 朗子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語 (中級)				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力を養成する。				
授業概要	科学は、日常生活や健康に深い関わりがあるだけでなく、技術や宇宙など世界の未来について想像が膨らむ分野である。「健康」「自然」「資源」「技術」「宇宙」など、多岐にわたる科学を題材にした英文を丁寧に読む。辞書を引きながら、自力で英文を読めるようにする。文法・語彙力を養いながらも、科学に関する各テーマについて考え、自分なりの疑問や意見をもつことを心がける。				
評価方法・基準	平常点10% (授業中の発表と学習への取り組み)、小テスト60% (基本的語句・文法・表現・内容の理解度)、提出課題30% (e-Learning にて実施)				
履修上の注意事項等	必ず十分な予習をしてください。小テストを頻繁に実施します。積極的な学習姿勢の継続が大切です。				
テキスト	SCIENCE MATTERS! 暮らしを変える最新科学, 野崎嘉信ほか, 金星堂, 2020				
参考書	なし				

科目名	実践英語中級Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	★菊池 あずさ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語（中級）				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力を養成する。				
授業概要	TOEICの授業です。TOEIC未受験の方も受講していただいても構いませんが、スコアアップを目指す授業ですので、予習と復習自主学習必須です。さらに受講期間中、実際のTOEIC受験を強く薦めます。				
評価方法・基準	平常点（小テスト、授業への取り組み方）40%＋学習到達度確認（後期中間期末）60%。ただし、予習せずに出席した場合、及び遅刻・欠席・早退は平常点から減点する。予習必須の授業である。				
履修上の注意事項等	辞書は毎回持参。 以下の行為を行なった者には、単位を出さない、それ以降の出席は認めないといった厳しい処置を取る。「無断での途中退席」「授業中の飲食（飴やガムなど）」「私語」「スマホを見る」。 ◎その他「教員の指示に従わない不快な行為」。				
テキスト	Effective Approaches to the TOEIC L & R Test, 田中清美・和田ゆり, 南雲堂, 2023				
参考書					

科目名	実践英語中級Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	★福地 浩子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語（中級）				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力を養成する。				
授業概要	リスニングとリーディングを通して、十分な英語のインプットを行い、音読を繰り返すことで、身近な話題について英語で発信する練習をする。本テキストは、現代の大学生が興味をもつと思われるトピックが並んでいる。「あったらいいなと思うアプリの機能を説明する」「データをもとにヒット商品の新しい味を提案する」「ビジネス界の偉人を紹介する」「くすっと笑える小噺をする」などである。これらのトピックについて、インプットとなる練習をした後、アウトプットとなる活動として、各自スピーチを作成し、発表して頂く。 テキストは前期のものを継続して使用する。並行して、TOEIC読解問題やアニメドラマ『チャロ』のリスニング・ロールプレイに取り組む。				
評価方法・基準	受講状況30% 到達度確認40% スピーチ原稿20% 予習・授業貢献10%				
履修上の注意事項等	毎回授業に出席しても、授業活動に参加しなければ、単位を取得することはできない。毎回、授業の冒頭に巡回し、予習をしているかチェックする。真面目な取り組みを評価する。				
テキスト	Speaking Steps, 臼倉美里・他, 金星堂, 2022				
参考書					

科目名	実践英語中級Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	★山内 信幸	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語（中級）				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力を養成する。				
授業概要	TOEIC L&R (Listening & Reading) Testのスコアアップ（目標：400～450）を図るため、TOEIC L&Rの出題形式に慣れ、語彙力・文法力の向上を目指すとともに、読解力・聴解力の養成を目指す。				
評価方法・基準	定期試験は行わず、授業中に実施する学習到達度の確認などの平常評価 ①授業時に行う学習到達度確認のテスト（50%）②授業時に行う割り当て部分の理解度を確認する小テスト（30%）③毎回の提出物・クラスでの貢献度や発表（20%）によって、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	毎回授業時に、前回授業時に指示された課題をA4サイズの用紙にワープロ印刷したものを提出すること。なお、授業に関する質問・相談や連絡などがある場合には、必要に応じて、nyamauch@mail.doshisha.ac.jpまで遠慮なく問い合わせること。				
テキスト	Score Booster for the TOEIC L&R Test: Pre-Intermediate, 溝口優美子・柳田真知子, 金星堂, 2018				
参考書					

科目名	実践英語中級Ⅱ（六）			期間	後期
担当教員	★後藤 朗子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語（中級）				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力を養成する。				
授業概要	科学は、日常生活や健康に深い関わりがあるだけでなく、技術や宇宙など世界の未来について想像が膨らむ分野である。「健康」「自然」「資源」「技術」「宇宙」など、多岐にわたる科学を題材にした標準的な英文を、前期に引き続き、丁寧に読む。辞書を引きながら、自力で英文を読めるようにする。文法・語彙力を養いながらも、科学に関する各テーマについて考え、自分なりの疑問や意見をもつことを心がける。				
評価方法・基準	平常点10%（授業中の発表と学習への取り組み）、小テスト60%（基本的句語・文法・表現・内容の理解度）、提出課題30%（e-Learningにて実施）				
履修上の注意事項等	必ず十分な予習をしてください。小テストを頻繁に実施します。積極的な学習姿勢の継続が大切です。				
テキスト	SCIENCE MATTERS!暮らしを変える最新科学, 野崎嘉信ほか, 金星堂, 2020				
参考書	なし				



科目名	実践英語中級Ⅱ（七）			期間	後期
担当教員	★後藤 朗子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	実用英語（中級）				
到達目標	実用的・実践的な英語運用能力を養成する。				
授業概要	科学は、日常生活や健康に深い関わりがあるだけでなく、技術や宇宙など世界の未来について想像が膨らむ分野である。「健康」「自然」「資源」「技術」「宇宙」など、多岐にわたる科学を題材にした標準的な英文を、前期に引き続き、丁寧に読む。辞書を引きながら、自力で英文を読めるようにする。文法・語彙力を養いながらも、科学に関する各テーマについて考え、自分なりの疑問や意見をもつことを心がける。				
評価方法・基準	平常点10%（授業中の発表と学習への取り組み）、小テスト60%（基本的語句・文法・表現・内容の理解度）、提出課題30%（e-Learningにて実施）				
履修上の注意事項等	必ず十分な予習をしてください。小テストを頻繁に実施します。積極的な学習姿勢の継続が大切です。				
テキスト	SCIENCE MATTERS!暮らしを変える最新科学, 野崎嘉信ほか, 金星堂, 2020				
参考書	なし				

科目名	上級英語Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	岡部 純子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（上級）				
到達目標	より高度な英語運用能力を養成する。				
授業概要	毎回1名の世界の偉人やチェンジメーカーに焦点をあてます。予習としてテキストを一読しわからない単語は各自調べてきてください。授業ではメインテキストを理解し、語彙力を高め、内容についてビデオや資料を用いて理解を深めてゆきます。				
評価方法・基準	最終試験50点、平常評価点（予習、授業参加、課題等の評価）20点、レビューテスト各15点				
履修上の注意事項等	誰もが一度は名前を聞いたことがあるであろう偉人について様々な角度や資料から理解を深めるなかで英語力をつけてゆくことを目指します。知的好奇心をもって受講してください。				
テキスト	Aiming for the Top, Masakazu Someya et al., Sanshusha				
参考書					

科目名	上級英語Ⅰ（四）			期間	前期
担当教員	エリック マーティン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（上級）				
到達目標	より高度な英語運用能力を養成する。				
授業概要	This is a content-based class in which learners will use English to learn and discuss world-focused topics. Learners will complete vocabulary and reading assignments from the textbook at home and prepare to talk about them in class. We will watch DVD videos and discuss those, as well. This will help learners to become better able to handle English used in media. Students will also develop short presentation skills. This class will be taught in English.				
評価方法・基準	Homework Preparation (30%) ; Active Participation (30%) ; presentations (40%)				
履修上の注意事項等	Come to class every week with a pencil, paper, and dictionary. Always try to do your best!				
テキスト	『Inspire (Book 2)』, P. Hartman, N. Douglas and A. Boon., National Geographic Learning/Cengage, 2014				
参考書					

科目名	上級英語Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	岡部 純子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（上級）				
到達目標	より高度な英語運用能力を養成する。				
授業概要	毎回1名の世界の偉人やチェンジメーカーに焦点をあてます。予習としてテキストを一読しわからない単語は各自調べてきてください。授業ではメインテキストを理解し、語彙力を高め、内容について意見を口語もしくは作文で発信してゆきます。				
評価方法・基準	最終試験50点、平常評価点（予習、授業参加、課題等の評価）20点、レビューテスト各15点				
履修上の注意事項等	誰もが一度は名前を聞いたことがあるであろう偉人について様々な角度や資料から理解を深めるなかで英語力をつけてゆくことを目指します。知的好奇心をもって受講してください。				
テキスト	Aiming for the Top, Masakazu Someya et al., Sanshusha				
参考書					

科目名	上級英語Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	エリック マーティン	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合英語（上級）				
到達目標	より高度な英語運用能力を養成する。				
授業概要	Students in this class will learn and practice using academic vocabulary and discuss their opinions of academic topics. This class is aimed toward students who wish to raise their TOEIC scores or to study abroad.				
評価方法・基準	Homework Preparation (30%) ; Active Participation (30%) ; presentations (40%)				
履修上の注意事項等	Come to class every week with a pencil, paper, and dictionary. Always try to do your best!				
テキスト	『Inspire (Book 2)』, P. Hartman, N. Douglas and A. Boon., National Geographic Learning/Cengage, 2014				
参考書					

科目名	ドイツ語初級Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	横山 香	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語の発音や文法を基礎から学び、基本的な運用能力を身につけるとともに、コミュニケーション能力や国際感覚を涵養する。				
到達目標	文法・語彙・読解については独検4級（ヨーロッパ言語共通参照枠 A 2）、聞く・話す・書く力については独検5級（ヨーロッパ言語共通参照枠 A 1）レベルの能力養成を目指す。				
授業概要	授業では文法事項や発音について解説したあと、たくさん練習問題をこなしていきます。また、各テーマの学習が終わったあと遠隔授業を取り入れ、自学により学びを深めます。遠隔授業の後はアチーブメントテストを行い、学習成果を確認します。遠隔授業のスケジュールについてはシラバスから予定が変更される可能性があるため、かならず授業中およびポータルサイト・Google Classroom で確認すること。				
評価方法・基準	・授業での取り組み（授業中の態度・発言・質問、遠隔授業での取り組みなど）40% ・提出物およびアチーブメントテストの評価 30% ・定期試験（基本的な理解および応用力を問う）30%				
履修上の注意事項等	・遠隔授業にはインターネット環境が必要です。通常の教室で受講しても構いません。 ・授業連絡は通常 Google Classroom とメールを使用します。遠隔授業の際にはポータルサイトにも掲示します。かならず連絡がつくようにしておいてください。				
テキスト	名詞からまなぶ ドイツ語トレーニング 横山 香, 語研, 2022				
参考書	ゼロからスタートドイツ語：だれにでもわかる文法と発音の基本ルール、文法編、田中雅敏、Jリサーチ出版、2021 みんなのドイツ語：1日15分で基礎から中級までわかる、荻原耕平・畠山寛、白水社、2021 スタート!ドイツ語 A1、岡村りら他、白水社、2018				

科目名	ドイツ語初級Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	横山 香	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語の発音や文法を基礎から学び、基本的な運用能力を身につけるとともに、コミュニケーション能力や国際感覚を涵養する。				
到達目標	文法・語彙・読解については独検4級（ヨーロッパ言語共通参照枠 A 2）、聞く・話す・書く力については独検5級（ヨーロッパ言語共通参照枠 A 1）レベルの能力養成を目指す。				
授業概要	授業では文法事項や発音について解説したあと、たくさん練習問題をこなしていきます。また、各テーマの学習が終わったあと遠隔授業を取り入れ、自学により学びを深めます。遠隔授業の後はアチーブメントテストを行い、学習成果を確認します。遠隔授業のスケジュールについてはシラバスから予定が変更される可能性があるため、かならず授業中およびポータルサイト・Google Classroom で確認すること。				
評価方法・基準	・授業での取り組み（授業中の態度・発言・質問、遠隔授業での取り組みなど）40% ・提出物およびアチーブメントテストの評価 30% ・定期試験（基本的な理解および応用力を問う）30%				
履修上の注意事項等	・遠隔授業にはインターネット環境が必要です。通常の教室で受講しても構いません。 ・授業連絡は通常 Google Classroom とメールを使用します。遠隔授業の際にはポータルサイトにも掲示します。かならず連絡がつくようにしておいてください。				
テキスト	名詞からまなぶ ドイツ語トレーニング 横山 香, 語研, 2022				
参考書	ゼロからスタートドイツ語：だれにでもわかる文法と発音の基本ルール、文法編、田中雅敏、Jリサーチ出版、2021 みんなのドイツ語：1日15分で基礎から中級までわかる、荻原耕平・畠山寛、白水社、2021 スタート!ドイツ語 A1、岡村りら他、白水社、2018				

科目名	ドイツ語初級Ⅰ（三）			期間	前期
担当教員	横山 香	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語の発音や文法を基礎から学び、基本的な運用能力を身につけるとともに、コミュニケーション能力や国際感覚を涵養する。				
到達目標	文法・語彙・読解については独検4級（ヨーロッパ言語共通参照枠 A 2）、聞く・話す・書く力については独検5級（ヨーロッパ言語共通参照枠 A 1）レベルの能力養成を目指す。				
授業概要	授業では文法事項や発音について解説したあと、たくさん練習問題をこなしていきます。また、各テーマの学習が終わったあと遠隔授業を取り入れ、自学により学びを深めます。遠隔授業の後はアチーブメントテストを行い、学習成果を確認します。遠隔授業のスケジュールについてはシラバスから予定が変更される可能性があるため、かならず授業中およびポータルサイト・Google Classroom で確認すること。				
評価方法・基準	・授業での取り組み（授業中の態度・発言・質問、遠隔授業での取り組みなど）40% ・提出物およびアチーブメントテストの評価 30% ・定期試験（基本的な理解および応用力を問う）30%				
履修上の注意事項等	・遠隔授業にはインターネット環境が必要です。通常の教室で受講しても構いません。 ・授業連絡は通常 Google Classroom とメールを使用します。遠隔授業の際にはポータルサイトにも掲示します。かならず連絡がつくようにしておいてください。				
テキスト	名詞からまなぶ ドイツ語トレーニング 横山 香, 語研, 2022				
参考書	ゼロからスタートドイツ語：だれにでもわかる文法と発音の基本ルール、文法編、田中雅敏、Jリサーチ出版、2021 みんなのドイツ語：1日15分で基礎から中級までわかる、荻原耕平・畠山寛、白水社、2021 スタート!ドイツ語 A1、岡村りら他、白水社、2018				

科目名	ドイツ語初級 I (四)			期間	前期
担当教員	横山 香	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語の発音や文法を基礎から学び、基本的な運用能力を身につけるとともに、コミュニケーション能力や国際感覚を涵養する。				
到達目標	文法・語彙・読解については独検4級(ヨーロッパ言語共通参照枠 A 2)、聞く・話す・書く力については独検5級(ヨーロッパ言語共通参照枠 A 1)レベルの能力養成を目指す。				
授業概要	授業では文法事項や発音について解説したあと、たくさん練習問題をこなしていきます。また、各テーマの学習が終わったあと遠隔授業を取り入れ、自学により学びを深めます。遠隔授業の後はアチーブメントテストを行い、学習成果を確認します。遠隔授業のスケジュールについてはシラバスから予定が変更される可能性があるため、かならず授業中およびポータルサイト・Google Classroom で確認すること。				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での取り組み(授業中の態度・発言・質問、遠隔授業での取り組みなど) 40%</li> <li>提出物およびアチーブメントテストの評価 30%</li> <li>定期試験(基本的な理解および応用力を問う) 30%</li> </ul>				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔授業にはインターネット環境が必要です。通常の教室で受講しても構いません。</li> <li>授業連絡は通常 Google Classroom とメールを使用します。遠隔授業の際にはポータルサイトにも掲示します。かならず連絡がつくようにしておいてください。</li> </ul>				
テキスト	名詞からまなぶ ドイツ語トレーニング, 横山 香, 語研, 2022				
参考書	ゼロからスタートドイツ語: だれにでもわかる文法と発音の基本ルール, 文法編, 田中雅敏, Jリサーチ出版, 2021 みんなのドイツ語: 1日15分で基礎から中級までわかる, 荻原耕平・畠山寛, 白水社, 2021 スタート!ドイツ語 A1, 岡村りら他, 白水社, 2018				

科目名	ドイツ語初級 I (五)			期間	後期
担当教員	横山 香	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語の発音や文法を基礎から学び、基本的な運用能力を身につけるとともに、コミュニケーション能力や国際感覚を涵養する。				
到達目標	文法・語彙・読解については独検4級(ヨーロッパ言語共通参照枠 A 2)、聞く・話す・書く力については独検5級(ヨーロッパ言語共通参照枠 A 1)レベルの能力養成を目指す。				
授業概要	授業では文法事項や発音について解説したあと、たくさん練習問題をこなしていきます。また、各テーマの学習が終わったあと遠隔授業を取り入れ、自学により学びを深めます。遠隔授業の後はアチーブメントテストを行い、学習成果を確認します。遠隔授業のスケジュールについてはシラバスから予定が変更される可能性があるため、かならず授業中およびポータルサイト・Google Classroom で確認すること。				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での取り組み(授業中の態度・発言・質問、遠隔授業での取り組みなど) 40%</li> <li>提出物およびアチーブメントテストの評価 30%</li> <li>定期試験(基本的な理解および応用力を問う) 30%</li> </ul>				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔授業にはインターネット環境が必要です。通常の教室で受講しても構いません。</li> <li>授業連絡は通常 Google Classroom とメールを使用します。遠隔授業の際にはポータルサイトにも掲示します。かならず連絡がつくようにしておいてください。</li> </ul>				
テキスト	名詞からまなぶ ドイツ語トレーニング, 横山 香, 語研, 2022				
参考書	ゼロからスタートドイツ語: だれにでもわかる文法と発音の基本ルール, 文法編, 田中雅敏, Jリサーチ出版, 2021 みんなのドイツ語: 1日15分で基礎から中級までわかる, 荻原耕平・畠山寛, 白水社, 2021 スタート!ドイツ語 A1, 岡村りら他, 白水社, 2018				

科目名	ドイツ語初級 I (六)			期間	前期
担当教員	★石田 喜敬	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語の表現と文法を基礎から学び、日常会話に必要なコミュニケーション能力を養います。				
到達目標	この科目では、自己紹介や趣味、買い物や飲食店での注文、道案内、過去の出来事や休暇中の予定等、日常生活の様々なテーマについて、自分の意思をドイツ語で表現する能力を身に付けることが目標です。				
授業概要	ペアワークやグループワークを主として行い、実践的なコミュニケーション能力を身に付けていきます。これと並行して、ドイツ語の運用に必要な基礎文法の習得も行います。教科書には、ドイツ語圏の都市・建造物やゆかりのある人物などの情報も掲載されていますので、ドイツの文化事情も知ることができます。外国語を学ぶことは、視野を広げ、教養を育み、国際的な感覚を養うことにつながります。積極的に学習に取り組んでください。				
評価方法・基準	平常点50%(積極的な授業参加、授業中の課題・宿題への取り組み、教員への質問)、定期試験50%(コミュニケーションに必要な会話や聞き取りができていないか、基本的な文法を理解しているか)で総合的に評価します。口頭試験は各学期15週目に実施し、筆記試験は、定期試験期間中(各学期16週目)に実施します。				
履修上の注意事項等	授業で使用した講義資料と、ワークシートなどの配布資料は、毎回、e-learningの科目のページにアップします。復習や欠席した際に適宜利用してください。独和辞典を毎回授業に持参すること。授業外の質問や問い合わせはメール(yoshitakaishida@outlook.jp)で受け付けます。				
テキスト	プーメラン・エルエー第2版, 小野寿美子・中川明博・西巻文児, 朝日出版社, 2024				
参考書	素朴なぞもんからわかるドイツ文法, 高田博行, 郁文堂, 2010, 必携ドイツ文法総まとめ 改訂版, 中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧, 白水社, 2003				

科目名	ドイツ語初級 I (七)			期間	前期
担当教員	★石田 喜敬	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語の表現と文法を基礎から学び、日常会話に必要なコミュニケーション能力を養います。				
到達目標	この科目では、自己紹介や趣味、買い物や飲食店での注文、道案内、過去の出来事や休暇中の予定等、日常生活の様々なテーマについて、自分の意思をドイツ語で表現する能力を身に付けることが目標です。				
授業概要	ペアワークやグループワークを主として行い、実践的なコミュニケーション能力を身に付けていきます。これと並行して、ドイツ語の運用に必要な基礎文法の習得も行います。教科書には、ドイツ語圏の都市・建造物やゆかりのある人物などの情報も掲載されていますので、ドイツの文化事情も知ることができます。外国語を学ぶことは、視野を広げ、教養を育み、国際的な感覚を養うことにつながります。積極的に学習に取り組んでください。				
評価方法・基準	平常点50%(積極的な授業参加、授業中の課題・宿題への取り組み、教員への質問)、定期試験50%(コミュニケーションに必要な会話や聞き取りができていないか、基本的な文法を理解しているか)で総合的に評価します。口頭試験は各学期15週目に実施し、筆記試験は、定期試験期間中(各学期16週目)に実施します。				
履修上の注意事項等	授業で使用した講義資料と、ワークシートなどの配布資料は、毎回、e-learningの科目のページにアップします。復習や欠席した際に適宜利用してください。独和辞典を毎回授業に持参すること。授業外の質問や問い合わせはメール(yoshitakaishida@outlook.jp)で受け付けます。				
テキスト	プーメラン・エルエー第2版, 小野寿美子・中川明博・西巻文児, 朝日出版社, 2024				
参考書	素朴なぞもんからわかるドイツ文法, 高田博行, 郁文堂, 2010, 必携ドイツ文法総まとめ 改訂版, 中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧, 白水社, 2003				

科目名	ドイツ語初級Ⅰ（八）			期間	前期
担当教員	★土井 ギーゼラ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ネイティブスピーカーのもとでドイツ語の日常的なコミュニケーションを学びます。新しい言語で世界への新しい扉を開きましょう！				
到達目標	少しずつ段階をふみながら、日常生活をドイツ語で表現できるようになることを目指します。ドイツの国、人々、社会、文化などについても多くのことを学びます。ドイツ旅行にも役に立つでしょう。				
授業概要	テキストは12課で構成され、さまざまな日常生活の場面が、覚えやすく易しい文章で表現されています。自分の日常生活について話すだけでなく、ドイツの日常生活や文化・社会についても学ぶことができます。授業は発話中心になります。声をしっかり出して練習することが重要です。ペアワーク・グループワークでのダイアログやロールプレイを通じて、ドイツ語の表現を覚えます。Nur ueber unsere Fehler lernen wir! 間違えることを怖がらず、間違えることから学びましょう！				
評価方法・基準	平常点70%（授業への積極的な参加・発言・質問等）、期末レポート30%				
履修上の注意事項等	補講の場合、遠隔授業になることがあります。その場合は、ポータルサイトおよびメールを連絡手段として使用しますので、連絡に注意しておいてください。教員のメールアドレス：19950130@daibutsu.nara-u.ac.jp				
テキスト	新・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語、佐藤修子他、三修社、2022				
参考書					

科目名	ドイツ語初級Ⅰ（九）			期間	前期
担当教員	★土井 ギーゼラ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ネイティブスピーカーのもとでドイツ語の日常的なコミュニケーションを学びます。新しい言語で世界への新しい扉を開きましょう！				
到達目標	少しずつ段階をふみながら、日常生活をドイツ語で表現できるようになることを目指します。ドイツの国、人々、社会、文化などについても多くのことを学びます。ドイツ旅行にも役に立つでしょう。				
授業概要	テキストは12課で構成され、さまざまな日常生活の場面が、覚えやすく易しい文章で表現されています。自分の日常生活について話すだけでなく、ドイツの日常生活や文化・社会についても学ぶことができます。授業は発話中心になります。声をしっかり出して練習することが重要です。ペアワーク・グループワークでのダイアログやロールプレイを通じて、ドイツ語の表現を覚えます。Nur ueber unsere Fehler lernen wir! 間違えることを怖がらず、間違えることから学びましょう！				
評価方法・基準	平常点70%（授業への積極的な参加・発言・質問等）、期末レポート30%				
履修上の注意事項等	補講の場合、遠隔授業になることがあります。その場合は、ポータルサイトおよびメールを連絡手段として使用しますので、連絡に注意しておいてください。教員のメールアドレス：19950130@daibutsu.nara-u.ac.jp				
テキスト	新・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語、佐藤修子他、三修社、2022				
参考書					

科目名	ドイツ語初級Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	横山 香	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語の発音や文法を基礎から学び、基本的な運用能力を身につけるとともに、コミュニケーション能力や国際感覚を涵養する。				
到達目標	文法・語彙・読解については独検4級（ヨーロッパ言語共通参照枠 A 2）、聞く・話す・書く力については独検5級（ヨーロッパ言語共通参照枠 A 1）レベルの能力養成を目指す。				
授業概要	この授業は「ドイツ語初級Ⅰ」の履修を前提とします。授業では文法事項や発音について解説したあと、たくさん練習問題をこなしていきます。また、各テーマの学習が終わったあと遠隔授業を取り入れ、自学により学びを深めます。遠隔授業の後にはアチーブメントテストを行い、学習成果を確認します。遠隔授業のスケジュールについてはシラバスから予定が変更される可能性があるため、かならず授業中およびポータルサイト・Google Classroomで確認すること。				
評価方法・基準	・授業での取り組み（授業中の態度・発言・質問、遠隔授業での取り組みなど）40% ・提出物およびアチーブメントテストの評価 30% ・定期試験（基本的な理解および応用力を問う）30%				
履修上の注意事項等	・遠隔授業にはインターネット環境が必要です。通常の教室で受講しても構いません。 ・授業連絡は通常 Google Classroom とメールを使用します。遠隔授業の際にはポータルサイトにも掲示します。かならず連絡がつくようにしておいてください。				
テキスト	名詞からまなぶ ドイツ語トレーニング、横山 香、語研、2022				
参考書	ゼロからスタートドイツ語：だれにでもわかる文法と発音の基本ルール、文法編、田中雅敏、Jリサーチ出版、2021 みんなのドイツ語：1日15分で基礎から中級までわかる、荻原耕平・島山寛、白水社、2021 スタート!ドイツ語 A 1、岡村りら他、白水社、2018				

科目名	ドイツ語初級Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	横山 香	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語の発音や文法を基礎から学び、基本的な運用能力を身につけるとともに、コミュニケーション能力や国際感覚を涵養する。				
到達目標	文法・語彙・読解については独検4級（ヨーロッパ言語共通参照枠 A 2）、聞く・話す・書く力については独検5級（ヨーロッパ言語共通参照枠 A 1）レベルの能力養成を目指す。				
授業概要	この授業は「ドイツ語初級Ⅰ」の履修を前提とします。授業では文法事項や発音について解説したあと、たくさん練習問題をこなしていきます。また、各テーマの学習が終わったあと遠隔授業を取り入れ、自学により学びを深めます。遠隔授業の後にはアチーブメントテストを行い、学習成果を確認します。遠隔授業のスケジュールについてはシラバスから予定が変更される可能性があるため、かならず授業中およびポータルサイト・Google Classroomで確認すること。				
評価方法・基準	・授業での取り組み（授業中の態度・発言・質問、遠隔授業での取り組みなど）40% ・提出物およびアチーブメントテストの評価 30% ・定期試験（基本的な理解および応用力を問う）30%				
履修上の注意事項等	・遠隔授業にはインターネット環境が必要です。通常の教室で受講しても構いません。 ・授業連絡は通常 Google Classroom とメールを使用します。遠隔授業の際にはポータルサイトにも掲示します。かならず連絡がつくようにしておいてください。				
テキスト	名詞からまなぶ ドイツ語トレーニング、横山 香、語研、2022				
参考書	ゼロからスタートドイツ語：だれにでもわかる文法と発音の基本ルール、文法編、田中雅敏、Jリサーチ出版、2021 みんなのドイツ語：1日15分で基礎から中級までわかる、荻原耕平・島山寛、白水社、2021 スタート!ドイツ語 A 1、岡村りら他、白水社、2018				

科目名	ドイツ語初級Ⅱ (三)			期間	後期
担当教員	横山 香	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語の発音や文法を基礎から学び、基本的な運用能力を身につけるとともに、コミュニケーション能力や国際感覚を涵養する。				
到達目標	文法・語彙・読解については独検4級(ヨーロッパ言語共通参照枠A2)、聞く・話す・書く力については独検5級(ヨーロッパ言語共通参照枠A1)レベルの能力養成を目指す。				
授業概要	この授業は「ドイツ語初級Ⅰ」の履修を前提とします。授業では文法事項や発音について解説したあと、たくさん練習問題をこなしていきます。また、各テーマの学習が終わったあと遠隔授業を取り入れ、自学により学びを深めます。遠隔授業の後はアチーブメントテストを行い、学習成果を確認します。遠隔授業のスケジュールについてはシラバスから予定が変更される可能性があるため、かならず授業中およびポータルサイト・Google Classroomで確認すること。				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での取り組み(授業中の態度・発言・質問、遠隔授業での取り組みなど) 40%</li> <li>提出物およびアチーブメントテストの評価 30%</li> <li>定期試験(基本的な理解および応用力を問う) 30%</li> </ul>				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔授業にはインターネット環境が必要です。通常の教室で受講しても構いません。</li> <li>授業連絡は通常 Google Classroom とメールを使用します。遠隔授業の際にはポータルサイトにも掲示します。かならず連絡がつくようにしておいてください。</li> </ul>				
テキスト	名詞からまなぶ ドイツ語トレーニング, 横山 香, 語研, 2022				
参考書	ゼロからスタートドイツ語: だれにでもわかる文法と発音の基本ルール, 文法編, 田中雅敏, Jリサーチ出版, 2021 みんなのドイツ語: 1日15分で基礎から中級までわかる, 荻原耕平・畠山寛, 白水社, 2021 スタート!ドイツ語A1, 岡村りら他, 白水社, 2018				

科目名	ドイツ語初級Ⅱ (四)			期間	後期
担当教員	横山 香	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語の発音や文法を基礎から学び、基本的な運用能力を身につけるとともに、コミュニケーション能力や国際感覚を涵養する。				
到達目標	文法・語彙・読解については独検4級(ヨーロッパ言語共通参照枠A2)、聞く・話す・書く力については独検5級(ヨーロッパ言語共通参照枠A1)レベルの能力養成を目指す。				
授業概要	この授業は「ドイツ語初級Ⅰ」の履修を前提とします。授業では文法事項や発音について解説したあと、たくさん練習問題をこなしていきます。また、各テーマの学習が終わったあと遠隔授業を取り入れ、自学により学びを深めます。遠隔授業の後はアチーブメントテストを行い、学習成果を確認します。遠隔授業のスケジュールについてはシラバスから予定が変更される可能性があるため、かならず授業中およびポータルサイト・Google Classroomで確認すること。				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での取り組み(授業中の態度・発言・質問、遠隔授業での取り組みなど) 40%</li> <li>提出物およびアチーブメントテストの評価 30%</li> <li>定期試験(基本的な理解および応用力を問う) 30%</li> </ul>				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔授業にはインターネット環境が必要です。通常の教室で受講しても構いません。</li> <li>授業連絡は通常 Google Classroom とメールを使用します。遠隔授業の際にはポータルサイトにも掲示します。かならず連絡がつくようにしておいてください。</li> </ul>				
テキスト	名詞からまなぶ ドイツ語トレーニング, 横山 香, 語研, 2022				
参考書	ゼロからスタートドイツ語: だれにでもわかる文法と発音の基本ルール, 文法編, 田中雅敏, Jリサーチ出版, 2021 みんなのドイツ語: 1日15分で基礎から中級までわかる, 荻原耕平・畠山寛, 白水社, 2021 スタート!ドイツ語A1, 岡村りら他, 白水社, 2018				

科目名	ドイツ語初級Ⅱ (六)			期間	後期
担当教員	★石田 喜敬	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語の表現と文法を基礎から学び、日常会話に必要なコミュニケーション能力を養います。				
到達目標	この科目では、自己紹介や趣味、買い物や飲食店での注文、道案内、過去の出来事や休暇中の予定等、日常生活の様々なテーマについて、自分の意思をドイツ語で表現する能力を身に付けることが目標です。				
授業概要	ペアワークやグループワークを主として行い、実践的なコミュニケーション能力を身に付けていきます。これと並行して、ドイツ語の運用に必要な基礎文法の習得も行います。教科書には、ドイツ語圏の都市・建造物やゆかりのある人物などの情報も掲載されていますので、ドイツの文化事情も知ることができます。外国語を学ぶことは、視野を広げ、教養を育み、国際的な感覚を養うことにつながります。積極的に学習に取り組んでください。				
評価方法・基準	平常点50%(積極的な授業参加、授業中の課題・宿題への取り組み、教員への質問)、定期試験50%(コミュニケーションに必要な会話や聞き取りができていないか、基本的な文法を理解しているか)で総合的に評価します。口頭試験は各学期15週目に実施し、筆記試験は、定期試験期間中(各学期16週目)に実施します。				
履修上の注意事項等	授業で使用した講義資料と、ワークシートなどの配布資料は、毎回、e-learningの科目のページにアップします。復習や欠席した際に適宜利用してください。独和辞典を毎回授業に持参すること。授業外の質問や問い合わせはメール(yoshitakaishida@outlook.jp)で受け付けます。				
テキスト	プーメラン・エルエー第2版, 小野寿美子・中川明博・西巻文児, 朝日出版社, 2024				
参考書	素朴なぞもんからわかるドイツ文法, 高田博行, 郁文堂, 2010 必携ドイツ文法総まとめ 改訂版, 中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧, 白水社, 2003				

科目名	ドイツ語初級Ⅱ (七)			期間	後期
担当教員	★石田 喜敬	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語の表現と文法を基礎から学び、日常会話に必要なコミュニケーション能力を養います。				
到達目標	この科目では、自己紹介や趣味、買い物や飲食店での注文、道案内、過去の出来事や休暇中の予定等、日常生活の様々なテーマについて、自分の意思をドイツ語で表現する能力を身に付けることが目標です。				
授業概要	ペアワークやグループワークを主として行い、実践的なコミュニケーション能力を身に付けていきます。これと並行して、ドイツ語の運用に必要な基礎文法の習得も行います。教科書には、ドイツ語圏の都市・建造物やゆかりのある人物などの情報も掲載されていますので、ドイツの文化事情も知ることができます。外国語を学ぶことは、視野を広げ、教養を育み、国際的な感覚を養うことにつながります。積極的に学習に取り組んでください。				
評価方法・基準	平常点50%(積極的な授業参加、授業中の課題・宿題への取り組み、教員への質問)、定期試験50%(コミュニケーションに必要な会話や聞き取りができていないか、基本的な文法を理解しているか)で総合的に評価します。口頭試験は各学期15週目に実施し、筆記試験は、定期試験期間中(各学期16週目)に実施します。				
履修上の注意事項等	授業で使用した講義資料と、ワークシートなどの配布資料は、毎回、e-learningの科目のページにアップします。復習や欠席した際に適宜利用してください。独和辞典を毎回授業に持参すること。授業外の質問や問い合わせはメール(yoshitakaishida@outlook.jp)で受け付けます。				
テキスト	プーメラン・エルエー第2版, 小野寿美子・中川明博・西巻文児, 朝日出版社, 2024				
参考書	素朴なぞもんからわかるドイツ文法, 高田博行, 郁文堂, 2010 必携ドイツ文法総まとめ 改訂版, 中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧, 白水社, 2003				

外国語

科目名	ドイツ語初級Ⅱ（八）			期間	後期
担当教員	★土井 ギーゼラ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	「ドイツ語初級Ⅰ」に引き続き、ネイティブスピーカーのもとでドイツ語の日常的なコミュニケーションを学びます。				
到達目標	少しずつ段階をふみながら、日常生活をドイツ語で表現できるようになることを目指します。ドイツの国、人々、社会、文化などについても多くのことを学びます。ドイツ旅行にも役に立つでしょう。				
授業概要	テキストは12課で構成され、さまざまな日常生活の場面が、覚えやすく易しい文章で表現されています。自分の日常生活について話すだけでなく、ドイツの日常生活や文化・社会についても学ぶことができます。授業は発話中心になります。声をしっかり出して練習することが重要です。ペアワーク・グループワークでのダイアログやロールプレイを通じて、ドイツ語の表現を覚えます。Nur ueber unsere Fehler lernen wir! 間違ふことを怖がらず、間違ふことから学びましょう!				
評価方法・基準	平常点70%（授業への積極的な参加・発言・質問等）、プレゼンテーションおよび期末レポート30%				
履修上の注意事項等	補講の場合、遠隔授業になることがあります。その場合は、ポータルサイトおよびメールを連絡手段として使用しますので、連絡に注意しておいてください。教員のメールアドレス：19950130@daibutsu.nara-u.ac.jp				
テキスト	新・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語、佐藤修子他、三修社、2022				
参考書					

科目名	ドイツ語初級Ⅱ（九）			期間	後期
担当教員	★土井 ギーゼラ	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	「ドイツ語初級Ⅰ」に引き続き、ネイティブスピーカーのもとでドイツ語の日常的なコミュニケーションを学びます。				
到達目標	少しずつ段階をふみながら、日常生活をドイツ語で表現できるようになることを目指します。ドイツの国、人々、社会、文化などについても多くのことを学びます。ドイツ旅行にも役に立つでしょう。				
授業概要	テキストは12課で構成され、さまざまな日常生活の場面が、覚えやすく易しい文章で表現されています。自分の日常生活について話すだけでなく、ドイツの日常生活や文化・社会についても学ぶことができます。授業は発話中心になります。声をしっかり出して練習することが重要です。ペアワーク・グループワークでのダイアログやロールプレイを通じて、ドイツ語の表現を覚えます。Nur ueber unsere Fehler lernen wir! 間違ふことを怖がらず、間違ふことから学びましょう!				
評価方法・基準	平常点70%（授業への積極的な参加・発言・質問等）、プレゼンテーションおよび期末レポート30%				
履修上の注意事項等	補講の場合、遠隔授業になることがあります。その場合は、ポータルサイトおよびメールを連絡手段として使用しますので、連絡に注意しておいてください。教員のメールアドレス：19950130@daibutsu.nara-u.ac.jp				
テキスト	新・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語、佐藤修子他、三修社、2022				
参考書					

科目名	ドイツ語中級Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	横山 香	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語圏の文化・歴史・地理に関するテキストを用いて中級レベルのドイツ語能力育成を目指し、教養や国際感覚を涵養する。				
到達目標	文法・語彙・読解については独検3～4級（ヨーロッパ言語共通参照枠 B 1～A 2）、聞く・話す・書く力については独検4級（ヨーロッパ言語共通参照枠 A 2）レベルの能力養成を目指す。				
授業概要	この授業は「ドイツ語初級」の履修を前提とします。授業では文法事項や発音について解説したあと、たくさん練習問題をこなしていきます（2023年度「ドイツ語初級（一）～（四）」受講者は同じ教科書ですので、改めて購入する必要はありません）。初級からステップアップするので、主体的な自学自習は欠かせません。Google Classroomに資料を出すので、予習復習に役立てること。				
評価方法・基準	・授業での取り組み（積極的な参加、教員への質問等）50% ・提出物（基本的な理解）20% ・学習到達度確認の成績（文法事項を的確に理解し、応用できているか）30%				
履修上の注意事項等	・授業連絡は Google Classroom とメールを使用します。場合によってはポータルサイトにも掲示します。かならず連絡がつくようにしておいてください。 ・独検受験希望者には個別指導をしますので、申し出てください。				
テキスト	名詞からまなぶ ドイツ語トレーニング、横山 香、語研、2022				
参考書	みんなのドイツ語：1日15分で基礎から中級までわかる、荻原耕平・畠山寛、白水社、2021 中級学習者のためのドイツ語質問箱：100の疑問、田中雅敏、白水社、2019 中級をめざす人のドイツ語講座、清野智昭、NHK出版、2014				

科目名	ドイツ語中級Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	横山 香	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語圏の文化・歴史・地理に関するテキストを用いて中級レベルのドイツ語能力育成を目指し、教養や国際感覚を涵養する。				
到達目標	文法・語彙・読解については独検3～4級（ヨーロッパ言語共通参照枠 B 1～A 2）、聞く・話す・書く力については独検4級（ヨーロッパ言語共通参照枠 A 2）レベルの能力養成を目指す。				
授業概要	この授業は「ドイツ語初級」の履修を前提とします。授業では文法事項や発音について解説したあと、たくさん練習問題をこなしていきます（2023年度「ドイツ語初級（一）～（四）」受講者は同じ教科書ですので、改めて購入する必要はありません）。初級からステップアップするので、主体的な自学自習は欠かせません。Google Classroomに資料を出すので、予習復習に役立てること。				
評価方法・基準	・授業での取り組み（積極的な参加、教員への質問等）50% ・提出物（基本的な理解）20% ・学習到達度確認の成績（文法事項を的確に理解し、応用できているか）30%				
履修上の注意事項等	・授業連絡は Google Classroom とメールを使用します。場合によってはポータルサイトにも掲示します。かならず連絡がつくようにしておいてください。 ・独検受験希望者には個別指導をしますので、申し出てください。				
テキスト	名詞からまなぶ ドイツ語トレーニング、横山 香、語研、2022				
参考書	みんなのドイツ語：1日15分で基礎から中級までわかる、荻原耕平・畠山寛、白水社、2021 中級学習者のためのドイツ語質問箱：100の疑問、田中雅敏、白水社、2019 中級をめざす人のドイツ語講座、清野智昭、NHK出版、2014				

科目名	ドイツ語中級Ⅰ（三）			期間	前期
担当教員	★石田 喜敬	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級文法の知識の深化と、中級文法の知識および実践的な運用能力の習得。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アナログゲームをプレイする際に、ドイツ語で円滑なコミュニケーションが取れる。</li> <li>・参考書なしでzu不定詞句、受動態、関係代名詞、従属接続詞等の文法構造を読み解くことができるようになる。</li> <li>・辞書なしでドイツ語の説明書に書かれている内容を7割以上推測できるようになる。</li> </ul>				
授業概要	教材として、ドイツのアナログゲームと担当者の作成したテキストを使用します。主に、ゲーム現物とドイツ語の説明ビデオを参考にしたルール解説、ドイツ語での実践プレイ、説明書の講読（リスニング、ディクテーション）、文法事項の説明）を通して、読む・聞く・書く・話すの四技能を総合的に養っていきます。授業は、グループワークとペアワークを中心にを行います。グループワークでは、司会者やタイムキーパー、発表者等の役割が割り当てられることがありますので、積極的に参加してください。				
評価方法・基準	平常点50%（積極的な授業参加、授業中の課題・宿題への取り組み、教員への質問）、定期試験50%（学んだ文法の理解度、語彙表現の習得度）で総合的に評価します。定期試験は、定期試験期間（各学期16週目）に実施します。				
履修上の注意事項等	テキストは授業の際に教員から直接購入してください（税別1440円）。独和辞典（電子辞書も可）および1年次に使用していた教科書を毎回持参してください。可能であればノートPCもしくはタブレットPCを持参してください。授業で使った講義資料と、ワークシートなどの配布資料は、毎回、e-learningの科目のページにアップします。欠席した場合は必ず自習してきてください。授業外の質問や問い合わせはメール（yoshitakaishida@outlook.jp）で受け付けます。				
テキスト	Deutsch lernen mit Brettspiel — ドイツゲームで学ぶドイツ語, 石田喜敬, 関学生協教材製作室, 2024				
参考書	中級ドイツ文法, 中山豊, 白水社, 2003 詳解ドイツ語文法 [改訂版], 在間進, 大修館書店, 2006 素朴なぞもんからわかるドイツ文法, 高田博行, 郁文堂, 2010				

科目名	ドイツ語中級Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	横山 香	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語圏の文化・歴史・地理に関するテキストを用いて中級レベルのドイツ語能力育成を目指し、教養や国際感覚を涵養する。				
到達目標	文法・語彙・読解については独検3～4級（ヨーロッパ言語共通参照枠 B 1～A 2）、聞く・話す・書く力については独検4級（ヨーロッパ言語共通参照枠 A 2）レベルの能力養成を目指す。				
授業概要	この授業は「ドイツ語中級Ⅰ」の履修を前提とします。授業では文法事項や発音について解説したあと、たくさん練習問題をこなしていきます。初級からステップアップするので、主体的な自学自習は欠かせません。Google Classroomに資料を出すので、予習復習に役立てること。				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での取り組み（積極的な参加、教員への質問等）50%</li> <li>・提出物（基本的な理解）20%</li> <li>・学習到達度確認の成績（文法事項を的確に理解し、応用できているか）30%</li> </ul>				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業連絡は Google Classroom とメールを使用します。場合によってはポータルサイトにも掲示します。かならず連絡がつくようにしておいてください。</li> <li>・独検受験希望者には個別指導をしますので、申し出てください。</li> </ul>				
テキスト	名詞からまなぶ ドイツ語トレーニング, 横山 香, 語研, 2022				
参考書	みんなのドイツ語：1日15分で基礎から中級までわかる, 荻原耕平・畠山寛, 白水社, 2021 中級学習者のためのドイツ語質問箱：100の疑問, 田中雅敏, 白水社, 2019 中級をめざす人のドイツ語講座, 清野智昭, NHK 出版, 2014				

科目名	ドイツ語中級Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	横山 香	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	ドイツ語圏の文化・歴史・地理に関するテキストを用いて中級レベルのドイツ語能力育成を目指し、教養や国際感覚を涵養する。				
到達目標	文法・語彙・読解については独検3～4級（ヨーロッパ言語共通参照枠 B 1～A 2）、聞く・話す・書く力については独検4級（ヨーロッパ言語共通参照枠 A 2）レベルの能力養成を目指す。				
授業概要	この授業は「ドイツ語中級Ⅰ」の履修を前提とします。授業では文法事項や発音について解説したあと、たくさん練習問題をこなしていきます。初級からステップアップするので、主体的な自学自習は欠かせません。Google Classroomに資料を出すので、予習復習に役立てること。				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での取り組み（積極的な参加、教員への質問等）50%</li> <li>・提出物（基本的な理解）20%</li> <li>・学習到達度確認の成績（文法事項を的確に理解し、応用できているか）30%</li> </ul>				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業連絡は Google Classroom とメールを使用します。場合によってはポータルサイトにも掲示します。かならず連絡がつくようにしておいてください。</li> <li>・独検受験希望者には個別指導をしますので、申し出てください。</li> </ul>				
テキスト	名詞からまなぶ ドイツ語トレーニング, 横山 香, 語研, 2022				
参考書	みんなのドイツ語：1日15分で基礎から中級までわかる, 荻原耕平・畠山寛, 白水社, 2021 中級学習者のためのドイツ語質問箱：100の疑問, 田中雅敏, 白水社, 2019 中級をめざす人のドイツ語講座, 清野智昭, NHK 出版, 2014				

科目名	ドイツ語中級Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	★石田 喜敬	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級文法の知識の深化と、中級文法の知識および実践的な運用能力の習得。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アナログゲームをプレイする際に、ドイツ語で円滑なコミュニケーションが取れる。</li> <li>・参考書なしでzu不定詞句、受動態、関係代名詞、従属接続詞等の文法構造を読み解くことができるようになる。</li> <li>・辞書なしでドイツ語の説明書に書かれている内容を8割以上推測できるようになる。</li> </ul>				
授業概要	教材として、ドイツのアナログゲームと担当者の作成したテキストを使用します。主に、ゲーム現物とドイツ語の説明ビデオを参考にしたルール解説、ドイツ語での実践プレイ、説明書の講読（リスニング、ディクテーション、文法事項の説明）を通して、読む・聞く・書く・話すの四技能を総合的に養っていきます。授業は、グループワークとペアワークを中心にを行います。毎回、司会者やタイムキーパー、発表者等の役割が割り当てられますので、積極的に参加してください。				
評価方法・基準	平常点50%（積極的な授業参加、授業中の課題・宿題への取り組み、教員への質問）、定期試験50%（学んだ文法の理解度、語彙表現の習得度）で総合的に評価します。定期試験は、定期試験期間（各学期16週目）に実施します。				
履修上の注意事項等	テキストは授業の際に教員から直接購入してください（税別1440円）。独和辞典（電子辞書も可）および1年次に使用していた教科書を毎回持参してください。可能であればノートPCもしくはタブレットPCを持参してください。授業で使った講義資料と、ワークシートなどの配布資料は、毎回、e-learningの科目のページにアップします。欠席した場合は必ず自習してきてください。授業外の質問や問い合わせはメール（yoshitakaishida@outlook.jp）で受け付けます。				
テキスト	Deutsch lernen mit Brettspiel — ドイツゲームで学ぶドイツ語, 石田喜敬, 関学生協教材製作室, 2024				
参考書	中級ドイツ文法, 中山豊, 白水社, 2003 詳解ドイツ語文法 [改訂版], 在間進, 大修館書店, 2006 素朴なぞもんからわかるドイツ文法, 高田博行, 郁文堂, 2010				

科目名	フランス語初級 I (一)			期間	前期
担当教員	★田中 良	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	フランス語の基本的な文法と日常会話の習得				
到達目標	フランス語の基本的な構造を理解し、簡単な表現を運用できること。それにより英語圏とは別の世界を知り、国際的視野を広げること。				
授業概要	授業では教科書として『パリのクール・ジャパン』（全14課）を使用し、7課まで学ぶ。毎回、基本文法の説明、会話表現、練習問題という順で進む。時間の関係で、最後の聞き取り問題は省略する。				
評価方法・基準	16週目に1課から7課の範囲で定期試験を行う。その結果（60%）と小テストの結果（20%）をベースに、授業に臨む姿勢を考慮して（20%）、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	この授業は後期開講の「フランス語初級Ⅱ（一）」との連続授業なので、後期はこの「フランス語初級Ⅱ（一）」を受講することを勧める。				
テキスト	パリのクール・ジャパン、藤田裕二、朝日出版社、2019				
参考書	なし				

科目名	フランス語初級 I (二)			期間	前期
担当教員	★丸瀬 康裕	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	フランス語文法の基礎を理解する				
到達目標	文法のしくみを理解することで、平易なフランス語文を読み、日常生活のさまざまな場面でコミュニケーションできる会話のペースを身につける。				
授業概要	日常的な場面に沿ったフランス語会話の中から、文法の要点を拾って、基本事項を学んでいきます。性数による変化や動詞の活用などに、語彙と慣用的表現を併せて、フランス語のしくみを理解し簡単な日常会話に発展していきます。解説はていねいに段階的に進めていきます。				
評価方法・基準	平常点40%（授業中の音読、練習問題の解答、学生同士の会話練習など）、学期中に2回または3回学習到達度確認を行います（60%）（性数による語形変化、動詞の活用、否定形などの構文理解など、基本的な文法の理解ができているかを評価する）				
履修上の注意事項等	授業には仏和辞典をもってくること。（辞書アプリを使用することも可。最初の授業時に説明します。）				
テキスト	クロワッサン基礎からわかるフランス語改訂版、松村博史・バンドロム・エディ、朝日出版社、2024				
参考書					

科目名	フランス語初級 I (三)			期間	前期
担当教員	★丸瀬 康裕	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	フランス語文法の基礎を理解する				
到達目標	文法のしくみを理解することで、平易なフランス語文を読み、日常生活のさまざまな場面でコミュニケーションできる会話のペースを身につける。				
授業概要	日常的な場面に沿ったフランス語会話の中から、文法の要点を拾って、基本事項を学んでいきます。性数による変化や動詞の活用などに、語彙と慣用的表現を併せて、フランス語のしくみを理解し簡単な日常会話に発展していきます。解説はていねいに段階的に進めていきます。				
評価方法・基準	平常点40%（授業中の音読、練習問題の解答、学生同士の会話練習など）、学期中に2回または3回学習到達度確認を行なう（60%）（不規則動詞の活用、過去形、命令形、比較・最上級等の構文理解など、基本的な文法の理解ができているかを評価する）。				
履修上の注意事項等	授業には仏和辞典をもってくること。				
テキスト	クロワッサン基礎からわかるフランス語改訂版、松村博史・バンドロム・エディ、朝日出版社、2024				
参考書					

科目名	フランス語初級 I (四)			期間	前期
担当教員	★各務 奈緒子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	日常生活を中心にした場面に基づいて、基礎文法を学び、フランス語会話、聞き取りを練習します。				
到達目標	フランス語の読み・書き・話す・聞くという4技能をバランスよく学びます。フランス語を学ぶことで視野を広げ、国際的な感覚を養ってください。				
授業概要	基礎文法を説明・復習した後、挨拶、自己紹介、食事などのさまざまなシチュエーションでのフランス語会話を練習します。読み・書き・話す・聞くという言語の4技能をバランスよく学び、フランス及びフランス語圏の日常生活や現代文化についても触れます。フランス語を学ぶことで、視野を広げ、国際的な感覚を養ってください。				
評価方法・基準	平常点（小テスト、課題、コメントシート含む）50%、学習到達度確認50%の基準で評価します。				
履修上の注意事項等	教科書以外に仏和辞典も用意しましょう。語学は継続的な学習が大事です。疑問や質問はすぐに聞いてください。フランスの社会、文化、政治、歴史などについても関心を持ちましょう。フランス語検定試験にも挑戦しましょう。				
テキスト	アンコール サリュ1、田辺 保子・西部 由里子、駿河台出版社、2023				
参考書	フラ語入門、わかりやすいにもホドがある！[改訂新版]、清岡 智比古、白水社、2019 増補改訂版 新・リュミエールフランス文法参考書、森本 英夫・三野 博司、駿河台出版社、2013 大学1・2年生のためのすぐわかるフランス語、中島 万紀子、東京図書、2005				



科目名	フランス語初級Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	★田中 良	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	フランス語の基本的な文法と日常会話の習得				
到達目標	フランス語の基本的な構造を理解し、簡単な表現を運用できること。それにより英語圏とは別の世界を知り、国際的視野を広げること。				
授業概要	授業では教科書として『パリのクール・ジャパン』（全14課）を使用し、「フランス語初級Ⅰ（一）」では7課まで進んだので、この授業では8課から14課まで学ぶ。毎回、基本文法の説明、会話表現、練習問題という順で進む。時間の関係で、最後の聞き取り問題は省略する。				
評価方法・基準	16週目に8課から14課の範囲で定期試験を実施する。その結果（60%）と小テストの結果（20%）とベースに、授業に臨む姿勢（20%）を考慮して、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	フランス語に関心を持った学生は、来年度「フランス語中級」を履修することを勧める。				
テキスト	パリのクール・ジャパン、藤田裕二、朝日出版社、2019				
参考書	なし				

科目名	フランス語初級Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	★丸瀬 康裕	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	フランス語文法の基礎を理解する				
到達目標	文法のしくみを理解することで、平易なフランス語文を読み、日常生活のさまざまな場面でコミュニケーションできる会話のベースを身につける。				
授業概要	日常的な場面に沿ったフランス語会話の中から、文法の要点を拾って、基本事項を学んでいきます。性数による変化や動詞の活用などに、語彙と慣用的表現を併せて、フランス語のしくみを理解し簡単な日常会話に発展していきます。解説はていねいに段階的に進めていきます。				
評価方法・基準	平常点40%（授業中の音読、練習問題の解答、学生同士の会話練習など）、学期中に2回または3回学習到達度確認を行なう（60%）（性数による語形変化、動詞の活用、否定形などの構文理解など、基本的な文法の理解ができているかを評価する）				
履修上の注意事項等	授業には仏和辞典をもってくること。（辞書アプリの使用も可。はじめの授業時に説明します）				
テキスト	クロワッサン基礎からわかるフランス語改訂版、松村博史・バンドロム・エディ、朝日出版社、2924				
参考書					

科目名	フランス語初級Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	★丸瀬 康裕	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	フランス語文法の基礎を理解する				
到達目標	文法のしくみを理解することで、平易なフランス語文を読み、日常生活のさまざまな場面でコミュニケーションできる会話のベースを身につける。				
授業概要	日常的な場面に沿ったフランス語会話の中から、文法の要点を拾って、基本事項を学んでいきます。性数による変化や動詞の活用などに、語彙と慣用的表現を併せて、フランス語のしくみを理解し簡単な日常会話に発展していきます。解説はていねいに段階的に進めていきます。				
評価方法・基準	平常点40%（授業中の音読、練習問題の解答、学生同士の会話練習など）、学期中に2回または3回学習到達度確認を行なう（60%）（不規則動詞の活用、過去形、命令形、比較・最上級等の構文理解など、基本的な文法の理解ができているかを評価する）。				
履修上の注意事項等	授業には仏和辞典をもってくること。				
テキスト	クロワッサン基礎からわかるフランス語、松村博史・バンドロム・エディ、朝日出版社、2024				
参考書					

科目名	フランス語初級Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	★各務 奈緒子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	日常生活を中心にした場面に基づいて、基礎文法を学び、フランス語会話、聞き取りを練習します。				
到達目標	フランス語の読み・書き・話す・聞くという4技能をバランスよく学びます。フランス語を学ぶことで視野を広げ、国際的な感覚を養ってください。				
授業概要	基礎文法を説明・復習した後、挨拶、自己紹介、食事などの様々なシチュエーションでのフランス語会話を練習します。読み・書き・話す・聞くという言語の4技能をバランスよく学び、フランス及びフランス語圏の日常生活や現代文化についても触れます。フランス語を学ぶことで、視野を広げ、国際的な感覚を養ってください。				
評価方法・基準	平常点（小テスト、課題、コメントシート含む）50%、学習到達度確認50%の基準で評価します。				
履修上の注意事項等	教科書以外に仏和辞典も用意しましょう。語学は継続的な学習が大事です。疑問や質問はすぐに聞いてください。フランスの社会、文化、政治、歴史などについても関心を持ちましょう。フランス語検定試験にも挑戦しましょう。				
テキスト	アンコール サリュ1、田辺 保子・西部 由里子、駿河台出版社、2024				
参考書	フラ語入門、わかりやすいにもホドがある！【改訂新版】、清岡 智比古、白水社、2019 増補改訂版 新・リュミエールフランス文法参考書、森本 英夫・三野 博司、駿河台出版社、2013 大学1・2年生のためのすぐわかるフランス語、中島 万紀子、東京図書、2005				

科目名	フランス語中級Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	★田中 良	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	平易なフランス文の読解				
到達目標	仏和辞書さえあれば、平易なフランス文を読み解けるようになること。同時にフランスの歴史、社会、文化等を理解することで、複眼的な思考能力を養うこと。				
授業概要	教科書として『時事フランス語 2024年度版』（全15課）を使用。授業はこの教科書の訳読を中心に行う。1回の授業で1ページ進み、この授業では5課まで進む。2回の授業で1課の速度。残りは後期開講の「フランス語中級Ⅱ（一）」で学ぶ。訳読は一人5、6行程度。挙手した学生にやってもらうので、積極的に手を挙げる。1回の授業で3、4人に訳してもらい、途中で1本のフランス映画を観る予定。3日回目以降、授業初めにシャンソンを聴く。時間の関係で、各課に設定されている〈EXERCICES〉は省略する。				
評価方法・基準	16週目に定期試験を実施する。その結果をベースに（70%）、訳読の回数、発音の基礎の理解度、授業に臨む姿勢を考慮して（30%）、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	この授業を履修する以前に、「フランス語初級」を修得していることが望ましい。				
テキスト	時事フランス語 2024年度版、ジョルジュ・ヴェスイエール他、朝日出版社、2024				
参考書	なし				

科目名	フランス語中級Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	★田中 良	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	平易なフランス文の読解				
到達目標	仏和辞書さえあれば、平易なフランス文を読み解けるようになること。同時にフランスの歴史、社会、文化等を理解することで、複眼的な思考能力を養うこと。				
授業概要	教科書として『時事フランス語 2024年度版』（全15課）を使用。この授業は前期「フランス語中級Ⅰ（一）」の連続授業なので、その続きとして残りの6課から15課までを学ぶ。「中級Ⅰ（一）」では1回の授業で1ページだったが、この授業では2ページ進むことを目指す。訳読は一人10～15行程度。挙手した学生にやってもらうので、積極的に手を挙げる。1回の授業で4、5人に訳してもらい、途中で1本のフランス映画を観る。授業前にシャンソンを聴く。時間の関係で、各〈EXERCICES〉は省略する。				
評価方法・基準	16週目に定期試験を行う。その結果をベースに（70%）、訳読の回数、発音の基礎の理解度、授業に臨む姿勢を考慮して（30%）、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	この授業の履修以前に、「フランス語初級」を修得していることが望ましい。				
テキスト	時事フランス語 2024年度版、ジョルジュ・ヴェスイエール他、朝日出版社、2024				
参考書	なし				

科目名	中国語初級Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	★山本 恭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	中国語の基本文法の理解。正確な発音を身につける。				
授業概要	中国語は「簡体字」という画数の少ない中国独自の漢字を用います。発音は「ピンイン」というアルファベットで表記されます。また、漢字にはそれぞれ「声調」という4種類の音の高低アクセントがあります。ピンインと声調をしっかり把握して、まず正確な発音を身につけましょう。次に中国人とコミュニケーションするために、目・口・耳・手を使って、基本的な表現をくり返し練習します。歓迎パーティーに出席したり、ホテルに宿泊したり、私たちが中国へ行って出会う場面の会話が教材です。教室は毎回CALL教室を使用します。美しい中国語を耳元で何度も聞いてから、自分の発音を録音し、聞き比べます。そして聞き取り練習へ進みます。隣の席の人と会話練習もします。中国語のしくみを理解するために、例文は書いて覚えます。中国の風俗習慣にも触れます。少しずつ着実に身につけましょう。				
評価方法・基準	学習到達度確認（50%）、平常点（練習への参加・提出物・暗唱・小テスト等）（50%）				
履修上の注意事項等	語学はトレーニングすれば誰もが身につけることのできるものです。授業はトレーニングを積み重ねる絶好のチャンスです。出席は大変重要です。チャンスを生かして、毎回一歩ずつ、積み重ねていきましょう。欠席する場合はなるべく事前に、無理なら後から、理由を報告してください。進度はクラスによって調節する可能性があります。				
テキスト	改訂版 しゃべっていいとも中国語、陳淑梅・劉光赤、朝日出版社、2024				
参考書	なし				

科目名	中国語初級Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	★村上 幸造	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	ピンインを発音でき、簡体字の意味を知って、簡単な日常会話ができ短文が綴れること。このことにより日中の文化の違いを知り、中国人と意欲的にコミュニケーションが取れるようになること。				
授業概要	毎回、発音練習を行い、基本的語法（＝文法）を順次学んでいく。簡体字の意味とそれに対応する日本漢字との意味や用法のずれ、また共通点に注意すること。聞き取り、短文の翻訳や作文により授業を進める。習った表現で自分自身を主張しよう。				
評価方法・基準	学習到達度の確認（筆記等による、第8、15回の、計2回）、基本的語彙が発音でき模範例文の意味が理解でき短文が綴れること）80%、授業中の発表や提出物20%として評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	日中いぶこみ交差点 エッセンシャル版、相原茂・陳淑梅・飯田敦子、朝日出版社、2019				
参考書					

科目名	中国語初級Ⅰ（三）			期間	前期
担当教員	★劉慶	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅱ」と併せて中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業はまずピンインの勉強からスタートし、その習得は約3回を必要とし、その後授業は約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	授業内容の進捗は学生の習得状況をみて調整する可能性があります。また「中国語初級Ⅱ」の履修をお勧めする。				
テキスト	《新版》できる・つたわるコミュニケーション中国語、岩井伸子・胡興智、白水社、2023				
参考書					

科目名	中国語初級Ⅰ（四）			期間	前期
担当教員	★村上幸造	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	ピンインを発音でき、簡体字の意味を知って、簡単な日常会話ができて短文が綴れること。このことにより日中の文化の違いを知り、中国人と意欲的にコミュニケーションが取れるようになること。				
授業概要	毎回、発音練習を行い、基本的語法（＝文法）を順次学んでいく。簡体字の意味とそれに対応する日本漢字との意味や用法のずれ、また共通点に注意すること。聞き取り、短文の翻訳や作文により授業を進める。習った表現で自分自身を主張しよう。				
評価方法・基準	学習到達度の確認（筆記等による、第8、15回の、計2回、基本的語彙が発音でき模範例文の意味が理解でき短文が綴れること）80%、授業中の発表や提出物20%として評価する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	日中いぶこみ交差点 エッセンシャル版、相原茂・陳淑梅・飯田敦子、朝日出版社、2019				
参考書					

科目名	中国語初級Ⅰ（五）			期間	前期
担当教員	★羅東耀	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅱ」と併せて中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は「中国語表現」よりやや文法と読解に重きを置くが、朗読や会話にも力を入れる。そのため授業はまずピンインの勉強からスタートし、その習得は約3回を必要とし、その後授業は約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	前期と後期ともに学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語初級Ⅱ」の履修をお勧めする。				
テキスト	中国語ははじめの一步、竹島金吾監修・尹景春他著、白水社、2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅰ（六）			期間	前期
担当教員	★佟華	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅱ」と併せて中国語検定試験準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業はまずピンインの勉強からスタートし、その習得は約3回を必要とし、その後授業は約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語初級Ⅱ」の履修をお勧めする。				
テキスト	『中国語ははじめの一步』、竹島金吾監修・尹景春他著、白水社、2022				
参考書	『授業中に指示する』				

科目名	中国語初級 I (七)			期間	前期
担当教員	★柴 格朗	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	ピンインが正確に読めること。簡単な文を理解し、また書けること。				
授業概要	中国語は漢字で表記されていますが、かなりの数の漢字が日本の漢字と字形が異なっています。次に厄介なのが漢字の発音を覚えることです。Iでは発音の習得が中心となります。始めは発音編として漢字の発音を表す中国式のルビ(ピンイン)の読み練習を行います。				
評価方法・基準	学期末に行う「筆記等による学力確認」(50%)。その外に平素の課題も参考にします(50%)。授業で発音(教科書の音読)やドリルの回答、課題プリントの作成状態などが評価の基準となります。				
履修上の注意事項等	一年間で一通りを学ぶのですから、一回の内容は少なくありません。当然の事ながら欠席するとついてゆきにくくなります。語学は積み重ねが大切です。また、努力した分だけ必ず身に付きます。休まず、たゆまず学習することを求めます。				
テキスト	二訂版 鈴木君の中国生活, 柴 格朗, 駿河台出版社, 2023				
参考書					

科目名	中国語初級 I (八)			期間	前期
担当教員	★柴 格朗	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	ピンインが正確に読めること。簡単な文を理解し、また書けること。				
授業概要	中国語は漢字で表記されていますが、かなりの数の漢字が日本の漢字と字形が異なっています。次に厄介なのが漢字の発音を覚えることです。Iでは発音の習得が中心となります。始めは発音編として漢字の発音を表す中国式のルビ(ピンイン)の読み練習を行います。				
評価方法・基準	学期末に行う「筆記等による学力確認」(50%)。その外に平素の課題も参考にします(50%)。授業で発音(教科書の音読)やドリルの回答、課題プリントの作成状態などが評価の基準となります。				
履修上の注意事項等	一年間で一通りを学ぶのですから、一回の内容は少なくありません。当然の事ながら欠席するとついてゆきにくくなります。語学は積み重ねが大切です。また、努力した分だけ必ず身に付きます。休まず、たゆまず学習することを求めます。				
テキスト	二訂版 鈴木君の中国生活, 柴 格朗, 駿河台出版社, 2023				
参考書					

科目名	中国語初級 I (九)			期間	前期
担当教員	★楊 莉	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅱ」と併せて中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業はまずピンインの勉強からスタートし、その習得は約3回を必要とし、その後授業は約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績(60点)に平均点(40点)加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	後期で「中国語初級Ⅱ」の履修を勧める。				
テキスト	簡明中国語基礎(表現編), 蘇徳昌監修・羅東耀他著, 白帝社, 2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級 I (十)			期間	前期
担当教員	★何 穎	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅱ」と併せて中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業はまずピンインの勉強からスタートし、その習得は約3回を必要とし、その後授業は約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績(60点)に平均点(40点)加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	後期で「中国語初級Ⅱ」の履修を勧める。				
テキスト	簡明中国語基礎(表現編), 蘇徳昌監修・羅東耀他著, 白帝社, 2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅰ（十一）			期間	前期
担当教員	★羅 東耀	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅱ」と併せて中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業はまずピンインの勉強からスタートし、その習得は約3回を必要とし、その後授業は約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）を加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	後期で「中国語初級Ⅱ」の履修を勧める。				
テキスト	簡明中国語基礎（表現編），蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅰ（十二）			期間	前期
担当教員	★羅 東耀	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅱ」と併せて中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業はまずピンインの勉強からスタートし、その習得は約3回を必要とし、その後授業は約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）を加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	後期で「中国語初級Ⅱ」の履修を勧める。				
テキスト	簡明中国語基礎（表現編），蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅰ（十三）			期間	前期
担当教員	★郭 斐映	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語をマスターする。				
到達目標	学生は中国語の発音記号、単語と文法の習得、朗読・会話の練習を行い、その能力を高めることができる。				
授業概要	この授業は中国語で読む、書くおよび話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を到達目標とする。そのために、まず発音記号であるピンインを学び、その後、中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話を身につけるようにする。中国語の発音は難しいので、その習得は約3回の授業を必要とし、その後の授業は2週間に1課のペースで進める。				
評価方法・基準	学期末では学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平常点（40点）を加味して評価する。平常点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	授業を積極的に参加すること。				
テキスト	簡明中国語基礎，蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2019				
参考書					

科目名	中国語初級Ⅰ（十四）			期間	前期
担当教員	★郭 斐映	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	学生は中国語の発音記号、単語と文法の習得、朗読・会話の練習によって能力を高めることができる。				
授業概要	この授業は中国語で読む、書くおよび話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を到達目標とする。そのために、まず発音記号であるピンインを学び、その後、中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話を身につけるようにする。中国語の発音は難しいので、その習得は約3回の授業を必要とし、その後の授業は2週間に1課のペースで進める。				
評価方法・基準	学期末では学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平常点（40点）を加味して評価する。平常点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	授業を積極的に参加すること。				
テキスト	簡明中国語基礎，蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2019				
参考書					

科目名	中国語初級Ⅰ（十五）			期間	前期
担当教員	★羅 東耀	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅱ」と併せて中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業はまずピンインの勉強からスタートし、その習得は約3回を必要とし、その後授業は約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	後期で「中国語初級Ⅱ」の履修を勧める。				
テキスト	簡明中国語基礎（表現編），蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅰ（十六）			期間	前期
担当教員	★羅 東耀	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅱ」と併せて中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業はまずピンインの勉強からスタートし、その習得は約3回を必要とし、その後授業は約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	後期で「中国語初級Ⅱ」の履修を勧める。				
テキスト	簡明中国語基礎（表現編），蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅰ（十七）			期間	前期
担当教員	★何 穎	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅱ」と併せて中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業はまずピンインの勉強からスタートし、その習得は約3回を必要とし、その後授業は約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	後期で「中国語初級Ⅱ」の履修を勧める。				
テキスト	簡明中国語基礎（表現編），蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅰ（十八）			期間	前期
担当教員	★羅 東耀	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅱ」と併せて中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業はまずピンインの勉強からスタートし、その習得は約3回を必要とし、その後授業は約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	後期で「中国語初級Ⅱ」の履修を勧める。				
テキスト	簡明中国語基礎（表現編），蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅰ（十九）			期間	前期
担当教員	★楊 莉	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅱ」と併せて中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業はまずピンインの勉強からスタートし、その習得は約3回を必要とし、その後授業は約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	後期で「中国語初級Ⅱ」の履修を勧める。				
テキスト	簡明中国語基礎（表現編），蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	★山本 恭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	中国語の基本文法の理解。正確な発音を身につける。初歩的な会話ができるようになる。				
授業概要	中国語は「簡体字」という中国独自の漢字を用います。発音は「ピンイン」というアルファベットで表記します。漢字には「声調」という4種類の音の高低アクセントがあります。まず正確な発音を身につけましょう。次に目・耳・口・手を用いて、基本的な表現をくり返し練習します。ホテルに宿泊したり、料理を注文したり、私たちが中国へ行って出会う場面の会話が教材です。CALL教室で、美しい中国語を耳元で何度も聞いて、朗読練習します。学生同士、会話練習もします。着実に進んでいきましょう。				
評価方法・基準	学習到達度確認（50%）、平常点（課題の提出・朗読等）（50%）				
履修上の注意事項等	語学はトレーニングすれば誰もが身につけられます。授業はトレーニングを積み重ねる絶好のチャンスです。対面授業では出席が非常に重要です。チャンスを生かして、毎回一歩ずつ、積み重ねていきましょう。				
テキスト	改定版 シャベっていいとも中国語 中西君と一緒に中国へ行こう！，陳淑梅・劉光赤，朝日出版社，2024				
参考書					

科目名	中国語初級Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	★村上 幸造	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	ピンインを発音でき、簡体字の意味を知って、簡単な日常会話ができ短文が綴れること。このことにより日中の文化の違いを知り、中国人と意欲的にコミュニケーションが取れるようになること。				
授業概要	中国語初級Ⅰの続き。毎回、発音練習を行い、基本的語法（＝文法）を順次学んでいく。簡体字の意味とそれに対応する日本漢字との意味や用法のずれ、また共通点に注意すること。聞き取り、短文の翻訳や作文により授業を進める。習った表現で自分自身を主張しよう。				
評価方法・基準	学習到達度の確認（筆記等による、第8、15回の計2回、基本的語彙が発音でき模範例文の意味が理解でき短文が綴れること）80%、授業中の発表や提出物20%として評価する。				
履修上の注意事項等	中国語初級Ⅰのテキストの後半を使用する。				
テキスト	日中いぶこみ交差点 エssenシャル版，相原茂・陳淑梅・飯田敦子，朝日出版社，2019				
参考書					

科目名	中国語初級Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	★劉 慶	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅰ」に引き続き、中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は前期で学んだピンイン、語彙および文法などを復習しながら、2週間1課のペースで進めていく。文の読解は重要であるが、授業はそれだけではなく、朗読や会話などにも力を入れる。中国語をマスターしようとするには履修者の予習と復習が欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	授業内容の進捗は学生の習得状況をみて調整する可能性があります。				
テキスト	《新版》できる・つたわるコミュニケーション中国語，岩井伸子・胡興智，白水社，2023				
参考書					

科目名	中国語初級Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	★村上 幸造	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	ピンインを発音でき、簡体字の意味を知って、簡単な日常会話ができ短文が綴れること。このことにより日中の文化の違いを知り、中国人と意欲的にコミュニケーションが取れるようになること。				
授業概要	中国語初級Ⅰの続き。毎回、発音練習を行い、基本的語法（＝文法）を順次学んでいく。簡体字の意味とそれに対応する日本漢字との意味や用法のずれ、また共通点に注意すること。聞き取り、短文の翻訳や作文により授業を進める。習った表現で自分自身を主張しよう。				
評価方法・基準	学習到達度の確認（筆記等による、第8、15回の計2回、基本的語彙が発音でき模範例文の意味が理解でき短文が綴れること）80%、授業中の発表や提出物20%として評価する。				
履修上の注意事項等	中国語初級Ⅰのテキストの後半を使用する。				
テキスト	日中いぶこみ交差点 エッセンシャル版、相原茂・陳淑梅・飯田敦子、朝日出版社、2019				
参考書					

科目名	中国語初級Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	★羅 東耀	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅰ」に引き続き、中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は前期で学んだピンイン、語彙および文法などを復習しながら、2週間1課のペースで進めていく。文の読解は重要であるが、授業はそれだけではなく、朗読や会話などにも力を入れる。中国語をマスターしようとするには履修者の予習と復習が欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語表現」Ⅰを履修した学生のために開講する科目				
テキスト	中国語はじめの一步、竹島金吾監修・尹景春他著、白水社、2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅱ（六）			期間	後期
担当教員	★佟 華	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅰ」に引き続き、中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は前期で学んだピンイン、語彙および文法などを復習しながら、2週間1課のペースで進めていく。文の読解は重要であるが、授業はそれだけではなく、朗読や会話などにも力を入れる。中国語をマスターしようとするには履修者の予習と復習が欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平常点（40点）加味して評価する。平常点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語初級Ⅰ」を履修した学生のための科目である。				
テキスト	中国語はじめの一步、竹島金吾監修・尹景春他著、白水社、2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅱ（七）			期間	後期
担当教員	★柴 格朗	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	ピンインが正確に読み、音読できること、また短いフレーズが聞き取れること。簡単な文を理解し、簡体字で書けること。				
授業概要	Ⅰでの発音指導は不十分なものが出てきますから、後期授業の初めにも発音の復習をします。発音は大切なもので、また対面授業でなければ習得し辛いものですから、極力欠席は避けるようにして下さい。Ⅱでは文法の解説が中心になります。前期期間にかなり詳しい文法解説を配りますが、常に以前の課を見直ししながら進んで欲しいです。				
評価方法・基準	学年末に行う「筆記等による学力確認」(50%)。そのほかに平素の課題も参考にします(50%)。授業で発音（教科書の音読）やドリルの回答、課題プリントの作成状態などが評価の基準となります。				
履修上の注意事項等	Ⅱでは一回の内容も増えてきます。語学は積み重ねが大切です。また、努力した分だけ必ず身に付きます。休まず、たゆまず学習することを求めます。				
テキスト	二訂版 鈴木君の中国生活、柴 格朗、駿河台出版社、2023				
参考書	なし				



科目名	中国語初級Ⅱ（八）			期間	後期
担当教員	★柴 格朗	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	ピンインが正確に読み、音読できること、また短いフレーズが聞き取れること。簡単な文を理解し、簡体字で書けること。				
授業概要	Ⅰでの発音指導は不十分なものが出てきますから、後期授業の初めにも発音の復習をします。発音は大切なもので、また対面授業でなければ習得し辛いものですから、極力欠席は避けるようにして下さい。Ⅱでは文法の解説が中心になります。前期期間にかなり詳しい文法解説を配りますが、常に以前の課を見直ししながら進んで欲しいです。				
評価方法・基準	学年末に行う「筆記等による学力確認」(50%)。そのほかに平素の課題も参考にします(50%)。授業で発音(教科書の音読)やドリルの回答、課題プリントの作成状態などが評価の基準となります。				
履修上の注意事項等	Ⅱでは一回の内容も増えてきます。語学は積み重ねが大切です。また、努力した分だけ必ず身に付きます。休まず、たゆまず学習することを求めます。				
テキスト	二訂版 鈴木君の中国生活、柴 格朗、駿河台出版社、2023				
参考書	なし				

科目名	中国語初級Ⅱ（九）			期間	後期
担当教員	章 天明	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅰ」に引き続き、中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って簡単な会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は前期と同じく約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績(60点)に平均点(40点)加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語初級Ⅰ」の履修を終えた学生のために開いた科目				
テキスト	簡明中国語基礎(表現編)、蘇徳昌監修・羅東耀他著、白帝社、2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅱ（十）			期間	後期
担当教員	★何 穎	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅰ」に引き続き、中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って簡単な会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は前期と同じく約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績(60点)に平均点(40点)加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語初級Ⅰ」の履修を終えた学生のために開いた科目				
テキスト	簡明中国語基礎(表現編)、蘇徳昌監修・羅東耀他著、白帝社、2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅱ（十一）			期間	後期
担当教員	★羅 東耀	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅰ」に引き続き、中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って簡単な会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は前期と同じく約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績(60点)に平均点(40点)加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語初級Ⅰ」の履修を終えた学生のために開いた科目				
テキスト	簡明中国語基礎(表現編)、蘇徳昌監修・羅東耀他著、白帝社、2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅱ（十二）			期間	後期
担当教員	章天明	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅰ」に引き続き、中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って簡単な会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は前期と同じく約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）を加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語初級Ⅰ」の履修を終えた学生のために開いた科目				
テキスト	簡明中国語基礎（表現編），蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅱ（十三）			期間	後期
担当教員	★郭斐映	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	学生は中国語の朗読・会話の練習および文法の理解によって能力を高めることができる。				
授業概要	この授業は中国語で読む、書くおよび話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を到達目標とする。中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話を身につけるようにする。授業は2週間に1課のペースで進める。				
評価方法・基準	学習到達度確認は、最後の授業で実施する。その成績（60点）に平常点（40点）を加味して評価する。平常点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	授業を積極的に参加すること。				
テキスト	簡明中国語基礎，蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2019				
参考書					

科目名	中国語初級Ⅱ（十四）			期間	後期
担当教員	★郭斐映	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	学生は中国語の朗読・会話の練習および文法の理解によって能力を高めることができる。				
授業概要	この授業は中国語で読む、書くおよび話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を到達目標とする。中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話を身につけるようにする。授業は2週間に1課のペースで進める。				
評価方法・基準	学習到達度確認は、最後の授業で実施する。その成績（60点）に平常点（40点）を加味して評価する。平常点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	授業を積極的に参加すること。				
テキスト	簡明中国語基礎，蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2019				
参考書					

科目名	中国語初級Ⅱ（十五）			期間	後期
担当教員	章天明	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅰ」に引き続き、中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って簡単な会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は前期と同じく約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）を加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語初級Ⅰ」の履修を終えた学生のために開いた科目				
テキスト	簡明中国語基礎（表現編），蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅱ（十六）			期間	後期
担当教員	章天明	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅰ」に引き続き、中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って簡単な会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は前期と同じく約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語初級Ⅰ」の履修を終えた学生のために開いた科目				
テキスト	簡明中国語基礎（表現編），蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅱ（十七）			期間	後期
担当教員	★何穎	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅰ」に引き続き、中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って簡単な会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は前期と同じく約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語初級Ⅰ」の履修を終えた学生のために開いた科目				
テキスト	簡明中国語基礎（表現編），蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅱ（十八）			期間	後期
担当教員	章天明	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅰ」に引き続き、中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って簡単な会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は前期と同じく約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語初級Ⅰ」の履修を終えた学生のために開いた科目				
テキスト	簡明中国語基礎（表現編），蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語初級Ⅱ（十九）			期間	後期
担当教員	章天明	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級中国語				
到達目標	「中国語初級Ⅰ」に引き続き、中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って簡単な会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は前期と同じく約2週間1課のペースで進めていく。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。そのため、履修者の予習と復習は欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語初級Ⅰ」の履修を終えた学生のために開いた科目				
テキスト	簡明中国語基礎（表現編），蘇徳昌監修・羅東耀他著，白帝社，2022				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語中級 I (一)			期間	前期
担当教員	★山本 恭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	中級中国語				
到達目標	基本的な文法を理解し、それをを用いて簡単な会話や作文ができるようになる。				
授業概要	中国の子供の生活を題材にした教材を用います。中国文化を詳しく紹介するコラムと、中国のイラストレーターによるかわいいイラストが特徴です。1年生で身につけた中国語の基本を復習しながら、実際に使える例文を自分の手で写します。そして、くり返し耳元で何度も自然な発音を聞きます。自分でくり返し大きな声で発音してみます。そうすればいつの間にか、その文はあなたの中に住み着いて、少しずつ育っていきます。自分の中の小さな芽を大切に育てるつもりで、練習を積み重ねましょう。それぞれのペースで、今日はこの3文、次回はがんばって5文と着実に身につけましょう。				
評価方法・基準	学習到達度確認 (50%)、平常点 (練習への参加・提出物・暗唱・小テスト等) (50%)				
履修上の注意事項等	語学はトレーニングすれば誰もが身につけることができるものです。授業はトレーニングを積み重ねる絶好のチャンスです。出席は大変重要です。チャンスを生かして、毎回一歩ずつ、積み重ねていきましょう。欠席する場合はなるべく事前に、無理なら後から、理由を報告してください。進度はクラスによって調節する可能性があります。				
テキスト	中国語入門 きらぎらの童年 CD付, 相原茂・殷文怡, 朝日出版社, 2013				
参考書					

科目名	中国語中級 I (二)			期間	前期
担当教員	★佟 華	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	中級中国語				
到達目標	「中国語中級Ⅱ」と合わせて中国語検定4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また中国語を使って簡単な日常会話をするができることを到達目標とする。				
授業概要	発音と会話を中心にする授業です。一年目で習った単語や文法を復習しながら、授業を進める。喋る楽しさと喋れた達成感を味わってほしい。授業中に中国の文化や習慣を紹介して、中国にも興味を持ってほしい。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績 (50点) に平常点 (50点) 加味して評価する。平常点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等					
テキスト	中国の一人旅, 陳 淑梅・張 国路, 駿河台出版社, 2022				
参考書					

科目名	中国語中級 I (三)			期間	前期
担当教員	★羅 東耀	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	中国語中級				
到達目標	「中国語中級Ⅱ」と合わせて中国語検定4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また中国語を使って簡単な日常会話をするができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は初級と比べればより幅広くより深い中国語のコミュニケーション能力と読解力の養成を目指す。その目標を達成させるために授業では朗読、会話、リスニングと読解の学習を繰り返し行う。その他に中国語検定準4級の模擬試験も2回実施する。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。授業で学んだ中国語を確実に身につけるには履修者の予習と復習が欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績 (60点) に平均点 (40点) 加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語初級Ⅰ」の履修を終えた学生のために開いた科目				
テキスト	学ぶ中国語初中級編, 王亜新他, 朝日出版社, 2023				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語中級 I (四)			期間	前期
担当教員	★羅 東耀	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	中国語中級				
到達目標	「中国語中級Ⅱ」と合わせて中国語検定4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また中国語を使って簡単な日常会話をするができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は初級と比べればより幅広くより深い中国語のコミュニケーション能力と読解力の養成を目指す。その目標を達成させるために授業では朗読、会話、リスニングと読解の学習を繰り返し行う。その他に中国語検定準4級の模擬試験も2回実施する。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。授業で学んだ中国語を確実に身につけるには履修者の予習と復習が欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績 (60点) に平均点 (40点) 加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語初級Ⅰ」の履修を終えた学生のために開いた科目				
テキスト	学ぶ中国語初中級編, 王亜新他, 朝日出版社, 2023				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語中級Ⅰ（五）			期間	前期
担当教員	★劉慶	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	中国語中級				
到達目標	「中国語中級Ⅱ」と合わせて中国語検定4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また中国語を使って簡単な日常会話をすることができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は初級と比べればより幅広くより深い中国語のコミュニケーション能力と読解力の養成を目指す。その目標を達成させるために授業では朗読、会話、リスニングと読解の学習を繰り返し行う。その他に中国語検定準4級の模擬試験も2回実施する。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。授業で学んだ中国語を確実に身につけるには履修者の予習と復習が欠かせない。その目安としては90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	授業の進捗は学生の習得度によって調整する可能性があります。また「中国語中級Ⅱ」の後期履修を勧める。				
テキスト	チャイニーズ サバイバル for Biz, 姫梅, 朝日出版社, 2023				
参考書					

科目名	中国語中級Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	★山本 恭子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	中級中国語				
到達目標	基本的な文法を理解し、それを用いて簡単な会話や作文ができるようになる。				
授業概要	中国の子供の生活を題材にした教材を用います。中国文化を詳しく紹介するコラムと、中国のイラストレーターによるかわいいイラストが特徴です。1年生で身につけた中国語の基本を復習しながら、実際に使える例文を自分の手で写します。そして、くり返し耳元で何度も自然な発音を聞きます。自分でもくり返し大きな声で発音してみます。そうすればいつの間にか、その文はあなたの中に住み着いて、少しずつ育っていきます。自分の中の小さな芽を大切に育てるつもりで、練習を積み重ねましょう。それぞれのペースで、今日はこの3文、次回はがんばって5文と着実に身につけましょう。				
評価方法・基準	学習到達度確認（50%）、平常点（練習への参加・提出物・暗唱・小テスト等）（50%）				
履修上の注意事項等	語学はトレーニングすれば誰もが身につけることにできるものです。授業はトレーニングを積み重ねる絶好のチャンスです。出席は大変重要です。チャンスを生かして、毎回一歩ずつ、積み重ねていきましょう。欠席する場合はなるべく事前に、無理なら後から、理由を報告してください。進度はクラスによって調節する可能性があります。				
テキスト	中国語入門 きらきらの童年 CD付, 相原茂・殷文怡, 朝日出版社, 2013				
参考書					

科目名	中国語中級Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	★佟華	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	中級中国語				
到達目標	「中国語中級Ⅰ」と合わせて中国語検定4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また中国語を使って簡単な日常会話をすることができることを到達目標とする。				
授業概要	発音と会話を中心にする授業です。基礎で習った単語や文法を復習しながら授業を進める。喋る楽しさと喋れた達成感を味わってほしい。授業中に中国の文化や習慣を紹介して、中国にも興味を持ってほしい。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（50点）に平常点（50点）加味して評価する。平常点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。学習到達度確認終了時に模範解答を配布する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	中国の一人旅, 陳淑梅 張国路, 駿河台出版社, 2022				
参考書					

科目名	中国語中級Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	章天明	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	中国語中級				
到達目標	「中国語中級Ⅰ」と合わせて中国語検定4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また中国語を使って簡単な日常会話をすることができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は初級と比べればより幅広くより深い中国語のコミュニケーション能力と読解力の養成を目指す。その目標を達成させるために授業では朗読、会話、リスニングと読解の学習を繰り返し行う。その他に中国語検定4級の模擬試験も実施する。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。授業で学んだ中国語を確実に身につけるには履修者の予習と復習が欠かせない。その目安としては90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語中級Ⅰ」の履修を終えた学生のために開いた科目				
テキスト	学ぶ中国語初中級編, 王亜新他, 朝日出版社, 2023				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語中級Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	★羅 東耀	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	中国語中級				
到達目標	「中国語中級Ⅰ」と合わせて中国語検定4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また中国語を使って簡単な日常会話をすることができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は初級と比べればより幅広くより深い中国語のコミュニケーション能力と読解力の養成を目指す。その目標を達成させるために授業では朗読、会話、リスニングと読解の学習を繰り返し行う。その他に中国語検定4級の模擬試験も実施する。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。授業で学んだ中国語を確実に身につけるには履修者の予習と復習が欠かせない。その目安としては90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	「中国語中級Ⅰ」の履修を終えた学生のために開いた科目				
テキスト	学ぶ中国語初中級編, 王亜新他, 朝日出版社, 2023				
参考書	授業中に指示する				

科目名	中国語中級Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	★劉 慶	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	中国語中級				
到達目標	「中国語中級Ⅰ」に引き続き、中国語検定準4級レベルに相当する語彙と文法を身につけ、また初歩的な中国語を使って会話することができることを到達目標とする。				
授業概要	この授業は初級と比べればより幅広くより深い中国語のコミュニケーション能力と読解力の養成を目指す。その目標を達成させるために授業では朗読、会話、リスニングと読解の学習を繰り返し行う。その他に中国語検定4級の模擬試験も2回実施する。授業は決して教員からの一方的なものではなく、双方向型での実施を原則とする。授業で学んだ中国語を確実に身につけるには履修者の予習と復習が欠かせない。その目安として90分の授業を受ければ、90分の復習を必要とする。				
評価方法・基準	学期末に学習到達確認を実施する。その成績（60点）に平均点（40点）加味して評価する。平均点とは、授業中の質問、課題に真摯に取り込む姿勢および宿題の完成度などである。				
履修上の注意事項等	授業の進捗は状況によって調整する可能性があります。				
テキスト	チャイニーズ, 姫梅, 朝日出版社, 2023				
参考書					

科目名	韓国語初級Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	★許 聖一	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	韓国語の基礎を学ぶ。文字と発音から始まり、基礎文法を学びます。				
到達目標	前期では文字を発音出来るようになり、韓国語のハンミダ体の文体を学びます。				
授業概要	韓国語の文字を見た事があると思います。記号のように見えるかも知れないね。授業では、分かり易いように、日本語と対比しながら、説明していきます。最初は発音から入りますが、日本語話者にとって分かりにくい所がありますが、心配せずに受講して下さい。				
評価方法・基準	平常点30点。（予習の取り組みなど授業に臨む姿勢を見る）定期試験70点。（授業の内容を正しく理解しているか）総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	通年の韓国語基礎（三）は重複する講義なので履修しないように注意してください。				
テキスト	ことばの架け橋 精選版, 生越直樹, 白帝社, 2020				
参考書					

科目名	韓国語初級Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	★平井 清実	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	文字（ハングル）や発音を学習し、韓国語学習の基礎づくりをします。また簡単な挨拶や自己紹介の表現などについて学習します。				
到達目標	学生が韓国語の文字や発音についてしっかり理解し、読み書きができるようにします。また学生が基礎的な単語や構文等を使い、日常の挨拶や簡単な自己紹介が韓国語でできるようにします。				
授業概要	授業は講義形式となりますが、一方的な講義とはならず、随時学生に質問したり、一緒に声を出して読んだり、板書させたりする授業となります。また、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。可能であれば、画像や映像も時々使用したいと思います。特に日本人が間違えやすい発音や表現などもチェックしながら、授業の雰囲気としてはいつも楽しく、そしてしっかりと学んでいけるようにしていきたいと考えています。				
評価方法・基準	平常点+定期試験（16週目に実施）による評価。 内訳：平常点50%（小テスト20%、課題および学習態度等30%）および定期試験50%				
履修上の注意事項等	各単元終了時に学習内容の整理・定着のための課題提出や課題内容に基づく10分程度の小テストを行います。特に学習スタート時はできるだけ欠席しないようにしてください。前期で文字と発音をしっかり身につけないと後期の学習に支障をきたす可能性があります。				
テキスト	四訂版・韓国語の世界へ 入門編, 李潤玉・酒匂康裕 他, 朝日出版社, 2024				
参考書					

科目名	韓国語初級 I (三)			期間	前期
担当教員	★許 聖一	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	韓国語の基礎を学ぶ。文字と発音から始まり、基礎文法を学びます。				
到達目標	前期では文字を発音出来るようになり、韓国語のハンミダ体の文体を学びます。				
授業概要	韓国語の文字を見た事があると思います。記号のように見えるかも知れないね。授業では、分かり易いように、日本語と対比しながら、説明していきます。最初は発音から入りますが、日本語話者にとって分かりにくい所がありますが、心配せずに受講して下さい。				
評価方法・基準	平常点30点。(予習の取り組みなど授業に臨む姿勢を見る) 定期試験70点。(授業の内容を正しく理解しているか) 総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	通年の韓国語基礎(三)は重複する講義なので履修しないように注意してください。				
テキスト	ことばの架け橋 精選版, 生越直樹, 白帝社, 2020				
参考書					

科目名	韓国語初級 I (四)			期間	前期
担当教員	★朴 恩珠	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	韓国語学習をとおして韓国文化を知ると同時に外国語習得の楽しさを味わう。				
到達目標	1. 韓国語の文字の読み書きができる。2. 自己紹介や日常生活における簡単な会話ができる。3. 韓国文化を知る。				
授業概要	文字の理解や韓国を知るための入門講座である。文字の学習においては、会話や歌、及びスマートフォンを利用して発音と綴りを正確に習得していく。「読む・聞く・書く・話す」という4つ技能を使ってコミュニケーション能力を向上していく。K-POP や韓国ドラマなどをとおして韓国文化を紹介する。				
評価方法・基準	評価の基準は小テスト(2回)40%、実技テスト(口頭発表)30%、学習到達度確認テスト30%の割合で成績評価をする。				
履修上の注意事項等	外国語は毎日コツコツ覚えていかないと身につかないので、積極的な授業参加が望ましい。				
テキスト	チュクチュクチャラ, 朴恩珠・森類臣・権世美, 白帝社, 2022				
参考書					

科目名	韓国語初級 I (五)			期間	前期
担当教員	★朴 恩珠	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	韓国語学習をとおして韓国文化を知ると同時に外国語習得の楽しさを味わう。				
到達目標	1. 韓国語の文字の読み書きができる。2. 自己紹介や日常生活における簡単な会話ができる。3. 韓国文化を知る。				
授業概要	文字の理解や韓国を知るための入門講座である。文字の学習においては、会話や歌、及びスマートフォンを利用して発音と綴りを正確に習得していく。「読む・聞く・書く・話す」という4つ技能を使ってコミュニケーション能力を向上していく。K-POP や韓国ドラマなどをとおして韓国文化を紹介する。				
評価方法・基準	評価の基準は小テスト(2回)40%、実技テスト(口頭発表)30%、学習到達度確認テスト30%の割合で成績評価をする。				
履修上の注意事項等	外国語は毎日コツコツ覚えていかないと身につかないので、積極的な授業参加が望ましい。				
テキスト	チュクチュクチャラ, 朴恩珠・森類臣・権世美, 白帝社, 2022				
参考書					

科目名	韓国語初級 I (六)			期間	前期
担当教員	★許 聖一	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	韓国語の基礎を学ぶ。文字と発音から始まり、基礎文法を学びます。				
到達目標	前期では文字を発音出来るようになり、韓国語のハンミダ体の文体を学びます。				
授業概要	韓国語の文字を見た事があると思います。記号のように見えるかも知れないね。授業では、分かり易いように、日本語と対比しながら、説明していきます。最初は発音から入りますが、日本語話者にとって分かりにくい所がありますが、心配せずに受講して下さい。				
評価方法・基準	平常点30点。(予習の取り組みなど授業に臨む姿勢を見る) 定期試験70点。(授業の内容を正しく理解しているか) 総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	通年の韓国語基礎(三)は重複する講義なので履修しないように注意してください。				
テキスト	ことばの架け橋 精選版, 生越直樹, 白帝社, 2020				
参考書					

科目名	韓国語初級Ⅰ（七）			期間	前期
担当教員	★朴 恩珠	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	韓国語学習をととして韓国文化を知ると同時に外国語習得の楽しさを味わう。				
到達目標	1. 韓国語の文字の読み書きができる。2. 自己紹介や日常生活における簡単な会話ができる。3. 韓国文化を知る。				
授業概要	文字の理解や韓国を知るための入門講座である。文字の学習においては、会話や歌、及びスマートフォンを利用して発音と綴りを正確に習得していく。「読む・聞く・書く・話す」という4つ技能を使ってコミュニケーション能力を向上していく。K-POPや韓国ドラマなどをととして韓国文化を紹介する。				
評価方法・基準	評価の基準は小テスト（2回）40%、実技テスト（口頭発表）30%、学習到達度確認テスト30%の割合で成績評価をする。				
履修上の注意事項等	外国語は毎日コツコツ覚えていかないと身につかないので、積極的な授業参加が望ましい。				
テキスト	チュクチュクチャラ、朴恩珠・森類臣・権世美、白帝社、2022				
参考書					

科目名	韓国語初級Ⅰ（八）			期間	前期
担当教員	★平井 清実	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	文字（ハングル）や発音を学習し、韓国語学習の基礎づくりをします。また簡単な挨拶や自己紹介の表現などについて学習します。				
到達目標	学生が韓国語の文字や発音についてしっかり理解し、読み書きができるようになります。また学生が基礎的な単語や構文等を使い、日常の挨拶や簡単な自己紹介が韓国語でできるようにします。				
授業概要	授業は講義形式となりますが、一方的な講義とはならず、随時学生に質問したり、一緒に声を出して読んだり、板書させたりする授業となります。また、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。可能であれば、画像や映像も時々使用したいと思います。特に日本人が間違えやすい発音や表現などもチェックしながら、授業の雰囲気としてはいっつも楽しく、そしてしっかりと学んでいけるようにしていきたいと考えています。				
評価方法・基準	平常点＋定期試験（16週目に実施）による評価。 内訳：平常点50%（小テスト20%、課題および学習態度等30%）および定期試験50%				
履修上の注意事項等	各単元終了時に学習内容の整理・定着のための課題提出や課題内容に基づく10分程度の小テストを行います。特に学習スタート時はできるだけ欠席しないようにしてください。前期で文字と発音をしっかりと身につけないと後期の学習に支障をきたす可能性があります。				
テキスト	四訂版・韓国語の世界へ 入門編、李潤玉・酒匂康裕他、朝日出版社、2024				
参考書					

科目名	韓国語初級Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	★許 聖一	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	韓国語の基礎を学ぶ。文字と発音から始まり、基礎文法を学びます。				
到達目標	前期では文字を発音出来るようになり、韓国語のハンミダ体の文体を学びます。				
授業概要	韓国語の文字を見た事があると思います。記号のように見えるかも知れないね。授業では、分かり易いように、日本語と対比しながら、説明していきます。最初は発音から入りますが、日本語話者にとって分かりにくい所がありますが、心配せずに受講して下さい。				
評価方法・基準	平常点30点。（予習の取り組みなど授業に臨む姿勢を見る） 定期試験70点。（授業の内容を正しく理解しているか）総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	通年の韓国語基礎（三）は重複する講義なので履修しないように注意してください。				
テキスト	ことばの架け橋 精選版、生越直樹、白帝社、2020				
参考書					

科目名	韓国語初級Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	★平井 清実	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	文法・句型を中心に韓国語の基礎を総合的に学習します。初級韓国語の基礎固めをします。				
到達目標	学生が韓国語の文の構造をしっかり理解し、読み書きの基礎づくりをします。初級の単語や構文を使い、簡単な日常表現を韓国語できちんと「読む、書く、聞く、話す」ことができるようになります。				
授業概要	授業は講義形式となりますが、一方的な講義とはならず、随時学生に質問したり、読み書きや板書させたりする授業となります。また、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。可能であれば、画像や映像も時々使用したいと思います。特に日本人が間違えやすい発音や表現などもチェックしながら、授業の雰囲気としては楽しくしっかりと学んでいけるようにしていきたいと考えています。				
評価方法・基準	平常点＋定期試験（16週目に実施）による評価。 内訳：平常点50%（小テスト20%、課題および学習態度等30%）および定期試験50%				
履修上の注意事項等	受講前に前期で学習した文字や発音等について再確認しておきましょう。文字や発音の理解が曖昧だと後期の学習についていけい可能性があります。また、各課終了時に課題の提出および10分程度の小テストを行います。できるだけ欠席しないようにしてください。				
テキスト	四訂版・韓国語の世界へ 入門編、李潤玉・酒匂康裕 他、朝日出版社、2024				
参考書					



科目名	韓国語初級Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	★許 聖一	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	韓国語の基礎を学ぶ。文字と発音から始まり、基礎文法を学びます。				
到達目標	前期では文字を発音出来るようになり、韓国語のハンミダ体の文体を学びます。				
授業概要	韓国語の文字を見た事があると思います。記号のように見えるかも知れないね。授業では、分かり易いように、日本語と対比しながら、説明していきます。最初は発音から入りますが、日本語話者にとって分かりにくい所がありますが、心配せずに受講して下さい。				
評価方法・基準	平常点30点。（予習の取り組みなど授業に臨む姿勢を見る） 定期試験70点。（授業の内容を正しく理解しているか）総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	通年の韓国語基礎（三）は重複する講義なので履修しないように注意してください。				
テキスト	ことばの架け橋 精選版, 生越直樹, 白帝社, 2020				
参考書					

科目名	韓国語初級Ⅱ（四）			期間	後期
担当教員	★朴 恩珠	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	韓国語学習をとおりて韓国文化を知ると同時に外国語習得の楽しさを味わう。				
到達目標	1. 日常生活における簡単な話ができ、相手の話を聞き取ることができる。2. 韓国で買い物や注文ができる。				
授業概要	韓国語の読み書きができる学生を対象に簡単な会話表現を学ぶための初級講座である。会話練習においては、ペアやグループを組んで練習を行う。テキストの語彙や会話表現を用いて実用的な韓国語を覚え、コミュニケーション能力を向上していく。				
評価方法・基準	評価の基準は小テスト（2回）40%、実技テスト（口頭発表）30%、学習到達度確認テスト30%の割合で成績評価をする。				
履修上の注意事項等	外国語は毎日コツコツ覚えていかないと身につかないので、積極的な授業参加が望ましい。				
テキスト	チュクチュクチャラ, 朴恩珠・森類臣・権世美, 白帝社, 2022				
参考書					

科目名	韓国語初級Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	★朴 恩珠	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	韓国語学習をとおりて韓国文化を知ると同時に外国語習得の楽しさを味わう。				
到達目標	1. 日常生活における簡単な話ができ、相手の話を聞き取ることができる。2. 韓国で買い物や注文ができる。				
授業概要	韓国語の読み書きができる学生を対象に簡単な会話表現を学ぶための初級講座である。会話練習においては、ペアやグループを組んで練習を行う。テキストの語彙や会話表現を用いて実用的な韓国語を覚え、コミュニケーション能力を向上していく。				
評価方法・基準	評価の基準は小テスト（2回）40%、実技テスト（口頭発表）30%、学習到達度確認テスト30%の割合で成績評価をする。				
履修上の注意事項等	外国語は毎日コツコツ覚えていかないと身につかないので、積極的な授業参加が望ましい。				
テキスト	チュクチュクチャラ, 朴恩珠・森類臣・権世美, 白帝社, 2022				
参考書					

科目名	韓国語初級Ⅱ（六）			期間	後期
担当教員	★許 聖一	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	韓国語の基礎を学ぶ。文字と発音から始まり、基礎文法を学びます。				
到達目標	前期では文字を発音出来るようになり、韓国語のハンミダ体の文体を学びます。				
授業概要	韓国語の文字を見た事があると思います。記号のように見えるかも知れないね。授業では、分かり易いように、日本語と対比しながら、説明していきます。最初は発音から入りますが、日本語話者にとって分かりにくい所がありますが、心配せずに受講して下さい。				
評価方法・基準	平常点30点。（予習の取り組みなど授業に臨む姿勢を見る） 定期試験70点。（授業の内容を正しく理解しているか）総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	通年の韓国語基礎（三）は重複する講義なので履修しないように注意してください。				
テキスト	ことばの架け橋 精選版, 生越直樹, 白帝社, 2020				
参考書					

科目名	韓国語初級Ⅱ（七）			期間	後期
担当教員	★朴 恩珠	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	韓国語学習をとおして韓国文化を知ると同時に外国語習得の楽しさを味わう。				
到達目標	1. 日常生活における簡単な話ができ、相手の話を聞き取ることができる。2. 韓国で買い物や注文ができる。				
授業概要	韓国語の読み書きができる学生を対象に簡単な会話表現を学ぶための初級講座である。会話練習においては、ペアやグループを組んで練習を行う。テキストの語彙や会話表現を用いて実用的な韓国語を覚え、コミュニケーション能力を向上していく。				
評価方法・基準	評価の基準は小テスト（2回）40%、実技テスト（口頭発表）30%、学習到達度確認テスト30%の割合で成績評価をする。				
履修上の注意事項等	外国語は毎日コツコツ覚えていかないと身につかないので、積極的な授業参加が望ましい。				
テキスト	チュクチュクチャラ、朴恩珠・森類臣・権世美、白帝社、2022				
参考書					

科目名	韓国語初級Ⅱ（八）			期間	後期
担当教員	★平井 清実	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	文法・句型を中心に韓国語の基礎を総合的に学習します。初級韓国語の基礎固めをします。				
到達目標	学生が韓国語の文の構造をしっかり理解し、読み書きの基礎づくりをします。初級の単語や構文を使い、簡単な日常表現を韓国語できちんと「読む、書く、聞く、話す」ことができるようにします。				
授業概要	授業は講義形式となりますが、一方的な講義とはならず、随時学生に質問したり、読み書きや板書させたりする授業となります。また、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介していきます。可能であれば、画像や映像も時々使用したいと思います。特に日本人が間違えやすい発音や表現などもチェックしながら、授業の雰囲気としては楽しくしっかりと学んでいけるようにしていきたいと考えています。				
評価方法・基準	平常点＋定期試験（16週目に実施）による評価。 内訳：平常点50%（小テスト20%、課題および学習態度等30%）および定期試験50%				
履修上の注意事項等	受講前に前期で学習した文字や発音等について再確認しておきましょう。文字や発音の理解が曖昧だと後期の学習についていけい可能性があります。また、各課終了時に課題の提出および10分程度の小テストを行います。できるだけ欠席しないようにしてください。				
テキスト	四訂版・韓国語の世界へ 入門編、李潤玉・酒匂康裕 他、朝日出版社、2024				
参考書					

科目名	韓国語中級Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	★平井 清実	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級程度の韓国語で書かれた文章や会話フレーズ等を学習しながら韓国事情についても理解を深める。				
到達目標	1. 学生が韓国語の文法力・表現力を向上させ、初級程度の韓国語の文章を十分読解できるようにする。 2. 学生が韓国事情（社会・文化）を学び、隣国への理解を深めることができるようにする。				
授業概要	授業は概ね講義、解説、練習問題、表現学習、読解発表、音読練習等となる。読解においては、あらかじめ一人一人に割り当てた部分を準備し、発表する。ちょうど英語のリーダーのような形となる。読解文は韓国の社会や文化をテーマとして書かれているが、初級学習者でも学習できるよう基礎的な韓国語で書かれている。また授業内容を補うためプリント資料や写真、時には映像メディアなども可能な限り積極的に取り入れて解説する予定である。				
評価方法・基準	平常点＋定期試験（16週目に実施）による評価。 内訳：平常点50%（小テスト20%、課題および学習態度等30%）＋定期試験50%				
履修上の注意事項等	この授業は本大学の韓国語初級など基礎的内容を学んだ学生が次の段階として受講することが望ましい。また韓国語の単語等の検索手段として使うので、スマホや韓国語の辞書を持参してほしい。				
テキスト	授業時に教材（プリント）を配布する。				
参考書					

科目名	韓国語中級Ⅰ（二）			期間	前期
担当教員	★許 聖一	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	韓国語の基礎を学ぶ。文字と発音から始まり、基礎文法を学びます。				
到達目標	前期では文字を発音出来るようになり、韓国語のハンミダ体の文体を学びます。				
授業概要	韓国語の文字を見た事があると思います。記号のように見えるかも知れないね。授業では、分かり易いように、日本語と対比しながら、説明していきます。最初は発音から入りますが、日本語話者にとって分かりにくい所がありますが、心配せずに受講して下さい。				
評価方法・基準	平常点30点。（予習の取り組みなど授業に臨む姿勢を見る） 定期試験70点。（授業の内容を正しく理解しているか）総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	通年の韓国語基礎（三）は重複する講義なので履修しないように注意してください。				
テキスト	ことばの架け橋 精選版、生越直樹、白帝社、2020				
参考書					

科目名	韓国語中級Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	★平井 清実	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	初級～中級程度の韓国語で書かれた文章や会話フレーズ等を学習しながら韓国事情についても理解を深める。				
到達目標	1. 学生が韓国語の文法力・表現力を向上させ、初級～中級程度の韓国語の文章を読解できるようにする。 2. 学生が韓国事情（社会・文化）に対し、より一層理解を深めることができるようにする。				
授業概要	授業は概ね講義、解説、練習問題、表現学習、読解発表、音読練習等となる。読解においては、あらかじめ一人一人に割り当てた部分を準備し、発表する。ちょうど英語のリーダーのような形となる。読解文は韓国の社会や文化をテーマとして書かれているが、初級学習者でも学習できるよう基礎的な韓国語で書かれている。また授業内容を補うためプリント資料や写真、時には映像メディアなども可能な限り積極的に取り入れて解説する予定である。				
評価方法・基準	平常点＋定期試験（16週目に実施）による評価。 内訳：平常点50%（小テスト20%、課題および学習態度等30%）＋定期試験50%				
履修上の注意事項等	この授業は本大学の韓国語初級など基礎的内容を学んだ学生が次の段階として受講することが望ましい。また韓国語の単語等の検索手段として使うので、スマホや韓国語の辞書を持参してほしい。				
テキスト	授業時に教材（プリント）を配布する。				
参考書					

科目名	韓国語中級Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	★許 聖一	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	韓国語の基礎を学ぶ。文字と発音から始まり、基礎文法を学びます。				
到達目標	前期では文字を発音出来るようになり、韓国語のハンミダ体の文法を学びます。				
授業概要	韓国語の文字を見た事があると思います。記号のように見えるかも知れないね。授業では、分かり易いように、日本語と対比しながら、説明していきます。最初は発音から入りますが、日本語話者にとって分かりにくい所がありますが、心配せずに受講して下さい。				
評価方法・基準	平常点30点。（予習の取り組みなど授業に臨む姿勢を見る） 定期試験70点。（授業の内容を正しく理解しているか）総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	通年の韓国語基礎（三）は重複する講義なので履修しないように注意してください。				
テキスト	ことばの架け橋 精選版, 生越直樹, 白帝社, 2020				
参考書					

科目名	日本語Ⅰ			期間	前期
担当教員	★キャンベル 早川 久美子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合日本語Ⅰ				
到達目標	総合的な日本語コミュニケーション能力の向上				
授業概要	大学で求められる日本語力を総合的に取り上げ、タスクを通して実践力をつける。具体的には大学生活のさまざまな場面を取り上げ、情報を聞く、読む、理解する受信型スキルと、話す、書く発信型スキルを身につけることを目指す。				
評価方法・基準	学習到達度確認テスト（50%）、平常点（50%）で総合的に評価する。平常点とは、小テスト、課題、取り組み姿勢・意欲を含む授業参加度とする。				
履修上の注意事項等					
テキスト	大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ [音声ダウンロード版], 佐々木瑞枝他, The Japan Times, 2023				
参考書					

科目名	日本語Ⅱ			期間	後期
担当教員	★キャンベル 早川 久美子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	総合日本語Ⅱ				
到達目標	総合的なコミュニケーション能力の向上				
授業概要	日本語Ⅰに引き続き、大学で求められる日本語力を総合的に取り上げ、タスクを通して実践力をつける。具体的には大学でのさまざまな場面での受信型スキルおよび発信型スキルを体験的に学習する。				
評価方法・基準	学習到達度確認テスト（50%）、平常点（50%）で総合的に評価する。平常点とは、小テスト、課題（プレゼンテーション・模擬討論等を含む）、授業参加度とする。				
履修上の注意事項等					
テキスト	大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ [音声ダウンロード版], 佐々木瑞枝他, The Japan Times, 2023				
参考書	考える人の [上級] 日本語読解, 奥山貴之他, 凡人社, 2020				

科目名	日本語Ⅲ			期間	前期
担当教員	★キャンベル 早川 久美子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	日本語文法 (N 1)				
到達目標	実際の言語生活に役立つ文法形式の理解と日本語運用能力の養成				
授業概要	テキストは、N 1 試験対策問題集を用いるが、単に N 1 事項の習得のみではなく、日本語文法全般を扱うことによって、幅広い場面への対応を含む。授業は文法事項の説明をしたのち、問題演習で進める。加えて、適宜、小テーマによるディスカッションを行う。				
評価方法・基準	学習到達度確認テスト (40%)、平常点 (60%) で総合的に評価する。平常点とは、宿題・課題・授業参加度とする。				
履修上の注意事項等	日頃からニュースや社会事情等にも関心をもっておくこと。				
テキスト	新完全マスター文法 日本語能力試験 N 1, 友松悦子他, スリーエーネットワーク, 2011				
参考書	留学生のためのここが大切文章表現のルール, 石黒圭・筒井千絵, スリーエーネットワーク, 2019				

科目名	日本語Ⅳ			期間	後期
担当教員	★キャンベル 早川 久美子	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	日本語文法 (N 1)				
到達目標	N 1 レベルの文法形式の理解と日本語運用能力の向上				
授業概要	単に N 1 レベルの習得を目指すのではなく、日本語文法全般を扱うことによって、さまざまな場面に対応できる運用力を培う。授業は文法事項の確認の後、問題演習で進める。加えて、適宜小テーマによるディスカッションを行う。				
評価方法・基準	学習到達度確認テスト (40%)、平常点 (60%) で総合的に評価する。平常点とは、小テスト (20%)、プレゼンテーション (20%)、宿題・課題 (10%)、授業参加度 (10%) とする。				
履修上の注意事項等	日頃からニュースや社会事情等にも関心をもっておくこと。				
テキスト	新完全マスター文法日本語能力試験 N 1, 友松悦子他, スリーエーネットワーク, 2011				
参考書	留学生のここが大切文章表現のルール, 石黒圭・筒井千絵, スリーエーネットワーク, 2019				

科目名	日本語Ⅴ			期間	前期
担当教員	★谷山 徹	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	内容志向の上級読解				
到達目標	文脈をたどりながら、様々な日本語の文章が読めるようになることを目指す。				
授業概要	教科書に収録されている作品の中から、エッセイや評論など前寄りの5つを取り上げる。読み方としては、言語項目よりも内容把握に重点を置く。				
評価方法・基準	学習到達度確認50% (授業内容の理解度及び提出物の内容的完成度)、平常点50% (授業に対する姿勢及び積極性)				
履修上の注意事項等	授業以外の場においても、日本語の文章に慣れ親しむ努力を重ねること				
テキスト	日本文化を読む, (公財) 京都日本語教育センター, アルク, 2018				
参考書					

科目名	日本語Ⅵ			期間	後期
担当教員	★谷山 徹	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	内容志向の上級読解				
到達目標	文脈をたどりながら、様々な日本語の文章が楽しんで読めるようになることを目指す。				
授業概要	教科書に収録されている作品の中から、児童文学や評論など後ろ寄りの4つを取り上げる。読み方としては、内容把握に加え、内容を味わい楽しむことにも重点を置く。				
評価方法・基準	学習到達度確認50% (授業内容の理解度及び提出物の内容的完成度)、平常点50% (授業に対する姿勢及び積極性)				
履修上の注意事項等	授業以外の場においても、日本語の文章に慣れ親しむ努力を重ねること				
テキスト	日本文化を読む, (公財) 京都日本語教育センター, アルク, 2018				
参考書					

科目名	日本語Ⅶ			期間	前期
担当教員	★谷山 徹	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	作文力の向上				
到達目標	普通体で、ある程度の長さの文章が書けるようになることを目指す。				
授業概要	教科書の第Ⅰ部を取り上げ、書き言葉としての語彙や表現形式を増やす。合わせて作文指導を行う。				
評価方法・基準	学習到達度確認50%（授業内容の理解度及び提出物の内容的完成度）、平常点50%（授業に対する姿勢及び積極性）				
履修上の注意事項等	授業以外の場においても、日本語で文章を書く努力を重ねること				
テキスト	アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習, 鎌田 美千子・仁科 浩美, スリーエーネットワーク, 2018				
参考書					

科目名	日本語Ⅷ			期間	後期
担当教員	★谷山 徹	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	作文力の向上				
到達目標	ある程度の長さの論理的な文章が書けるようになることを目指す。				
授業概要	教科書の第Ⅱ部と第Ⅲ部文を取り上げ、書き言葉としての簡潔な表現を学ぶ。併せて作文指導を行う。				
評価方法・基準	学習到達度確認50%（授業内容の理解度及び提出物の内容的完成度）、平常点50%（授業に対する姿勢及び積極性）				
履修上の注意事項等	授業以外の場においても、日本語で文章を書く努力を重ねること				
テキスト	アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習, 鎌田 美千子・仁科 浩美, スリーエーネットワーク, 2018				
参考書					



# 健康・スポーツ科目







科目名	スポーツ実技 I (一)			期間	前期
担当教員	★津田 真一郎	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	現代社会における運動の必要性への理解を深め、正しく実践する力を養うことにより、生涯スポーツへの展望をひらく				
到達目標	・仲間とからだを動かすことにより得られる言葉を超えたコミュニケーション感覚を体験する ・スポーツマンシップやリーダーシップを習得する ・運動・スポーツの意義や楽しさを理解し、継続的に実践できる				
授業概要	現代人は、ストレス社会の中で生活することを余儀なくされ、近代化より運動不足病とも呼ばれる生活習慣病を患うケースが多くなってきている。最近の研究では、適度な運動実施により身体的な健康の維持・増進を図ることが可能であるだけでなく、メンタルヘルスの向上にも効果があることが報告されている。本科目では、レクリエーション・スポーツを行うことにより、生涯スポーツの意義とその方法について学習する。				
評価方法・基準	積極性70%(取組み姿勢)、スポーツマンシップ・リーダーシップ20%、技能上達の度合い10%により評価する。尚、出席は最低条件とし、全講義回数の2/3以上の出席のない場合は「評価なし」とする。				
履修上の注意事項等	実技にふさわしいトレーニングウェア、シューズ等を着用の上、受講すること				
テキスト	使用しない、必要に応じて資料等を配付する。				
参考書	なし				

科目名	スポーツ実技 I (二)			期間	後期
担当教員	★津田 真一郎	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	現代社会における運動の必要性への理解を深め、正しく実践する力を養うことにより、生涯スポーツへの展望をひらく				
到達目標	・仲間とからだを動かすことにより得られる言葉を超えたコミュニケーション感覚を体験する ・スポーツマンシップやリーダーシップを習得する ・運動・スポーツの意義や楽しさを理解し、継続的に実践できる				
授業概要	現代人は、ストレス社会の中で生活することを余儀なくされ、近代化より運動不足病とも呼ばれる生活習慣病を患うケースが多くなってきている。最近の研究では、適度な運動実施により身体的な健康の維持・増進を図ることが可能であるだけでなく、メンタルヘルスの向上にも効果があることが報告されている。本科目では、レクリエーション・スポーツを行うことにより、生涯スポーツの意義とその方法について学習する。				
評価方法・基準	積極性70%(取組み姿勢)、スポーツマンシップ・リーダーシップ20%、技能上達の度合い10%により評価する。尚、出席は最低条件とし、全講義回数の2/3以上の出席のない場合は「評価なし」とする。				
履修上の注意事項等	実技にふさわしいトレーニングウェア、シューズ等を着用の上、受講すること				
テキスト	使用しない、必要に応じて資料等を配付する。				
参考書	なし				

科目名	スポーツ実技 I (三)			期間	前期
担当教員	★坂手 比呂志	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	現代社会における運動(スポーツ)の重要性を学び、自律的かつ主体的に楽しむ。				
到達目標	自律的かつ積極的に「運動と健康」「仲間づくり」などについての心構えを身につけることを目標とする。				
授業概要	現代人に多い運動不足を起因とする生活習慣病やストレスフルな社会における対応策の一助として、現代社会ではスポーツを習慣化できることが求められている。その「きっかけづくり」として、本授業で展開するスポーツ種目(多項目)に必要な「基礎技術や主なルール」を学び、さらに各々がグループ活動と試合を楽しめるよう「自律的かつ積極的」に実践できる心構えが必要となる。さらに言えば、今後もスポーツを習慣化させるための「きっかけ」をつかむべく、良好なコミュニケーション力の向上、仲間づくり、協調性、挑戦意欲や学習意欲の高揚などについて理解し、各々に求められる人格形成に寄与できる「能力や態度」を身につけることを目標に実施する。				
評価方法・基準	授業への積極的参加度、授業への取り組み方、授業中の記録等を考慮しての総合評価とする。				
履修上の注意事項等	①実技にふさわしいウェア(以前使用していた体操服でもよい)を着用すること。②教場に合うスポーツシューズ(安全上裸足での参加は認めない)を着用すること。③授業中は安全上、ケガにつながるもの(アクセサリー等)は着用しないこと。注:授業計画は履修者の到達度によって変更になる場合がある。授業には積極的に参加し成果を上げること。				
テキスト					
参考書					

科目名	スポーツ実技 I (四)			期間	後期
担当教員	★坂手 比呂志	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	現代社会における運動(スポーツ)の重要性を学び、自律的かつ主体的に楽しむ。				
到達目標	自律的かつ積極的に「運動と健康」「仲間づくり」などについての心構えを身につけることを目標とする。				
授業概要	現代人に多い運動不足を起因とする生活習慣病やストレスフルな社会における対応策の一助として、現代社会ではスポーツを習慣化できることが求められている。その「きっかけづくり」として、本授業で展開するスポーツ種目(多項目)に必要な「基礎技術や主なルール」を学び、さらに各々がグループ活動と試合を楽しめるよう「自律的かつ積極的」に実践できる心構えが必要となる。さらに言えば、今後もスポーツを習慣化させるための「きっかけ」をつかむべく、良好なコミュニケーション力の向上、仲間づくり、協調性、挑戦意欲や学習意欲の高揚などについて理解し、各々に求められる人格形成に寄与できる「能力や態度」を身につけることを目標に実施する。				
評価方法・基準	授業への積極的参加度、授業への取り組み方、授業中の記録等を考慮しての総合評価とする。				
履修上の注意事項等	①実技にふさわしいウェア(以前使用していた体操服でもよい)を着用すること。②教場に合うスポーツシューズ(安全上裸足での参加は認めない)を着用すること。③授業中は安全上、ケガにつながるもの(アクセサリー等)は着用しないこと。注:授業計画は履修者の到達度によって変更になる場合がある。授業には積極的に参加し成果を上げること。				
テキスト					
参考書					

科目名	スポーツ実技 I (五)			期間	前期
担当教員	★津田 真一郎	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	現代社会における運動の必要性への理解を深め、正しく実践する力を養うことにより、生涯スポーツへの展望をひらく				
到達目標	・仲間とからだを動かすことにより得られる言葉を超えたコミュニケーション感覚を体験する ・スポーツマンシップやリーダーシップを習得する ・運動・スポーツの意義や楽しさを理解し、継続的に実践できる				
授業概要	現代人は、ストレス社会の中で生活することを余儀なくされ、近代化より運動不足病とも呼ばれる生活習慣病を患うケースが多くなってきている。最近の研究では、適度な運動実施により身体的な健康の維持・増進を図ることが可能であるだけでなく、メンタルヘルスの向上にも効果があることが報告されている。本科目では、レクリエーション・スポーツを行うことにより、生涯スポーツの意義とその方法について学習する。				
評価方法・基準	積極性70% (取組み姿勢)、スポーツマンシップ・リーダーシップ20%、技能上達の度合い10%により評価する。尚、出席は最低条件とし、全講義回数2/3以上の出席のない場合は「評価なし」とする。				
履修上の注意事項等	実技にふさわしいトレーニングウェア、シューズ等を着用の上、受講すること				
テキスト	使用しない、必要に応じて資料等を配付する。				
参考書	なし				

科目名	スポーツ実技 I (七)			期間	前期
担当教員	★山下 伸一	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	基礎的な運動やスポーツに対する必要性の意義・理解を深め、正しく継続的に実践する能力を習得する。				
到達目標	運動やスポーツを学生相互に協力しながら実施することを学び、さらに各自に応じて、スポーツの意義や楽しさを理解し、継続的に実践できる能力を身につける。				
授業概要	健康・体力づくりのために運動実践や各種スポーツ活動を段階的に実施する。授業場所は、特に各クラスを受講生に対応して、体育館 (バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球など) グランド (ソフトボール) を使用し実施する。				
評価方法・基準	平常点70% (授業への積極的な参加・取組み姿勢、協調性、リーダーシップ、安全意識等)。その他30% (ルールを理解、技術の上達等) などを総合的に評価する。また遅刻、忘れ物、不適切な行為などは減点評価対象である。				
履修上の注意事項等	授業にふさわしい服装の準備 (中学・高校時代の体操服などでよい)。(ジーパンなどは不可)。シューズを用意すること。アクセサリなどは身につけないこと。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	スポーツ実技 I (八)			期間	後期
担当教員	★山下 伸一	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	基礎的な運動やスポーツに対する必要性の意義・理解を深め、正しく継続的に実践する能力を習得する。				
到達目標	運動やスポーツを学生相互に協力しながら実施することを学び、さらに各自に応じて、スポーツの意義や楽しさを理解し、継続的に実践できる能力を身につける。				
授業概要	健康・体力づくりのために運動実践や各種スポーツ活動を段階的に実施する。授業場所は、特に各クラスを受講生に対応して、体育館 (バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球など) グランド (ソフトボール) を使用し実施する。				
評価方法・基準	平常点70% (授業への積極的な参加・取組み姿勢、協調性、リーダーシップ、安全意識等)。その他30% (ルールを理解、技術の上達等) などを総合的に評価する。また遅刻、忘れ物、不適切な行為などは減点評価対象である。				
履修上の注意事項等	授業にふさわしい服装の準備 (中学・高校時代の体操服などでよい)。(ジーパンなどは不可)。シューズを用意すること。アクセサリなどは身につけないこと。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	スポーツ実技 I (九)			期間	前期
担当教員	★田中 奏一	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	スポーツの楽しさを学ぶことと、競技力向上を目的とする。また、チームスポーツを通してコミュニケーションスキルを習得する。				
到達目標	積極的に身体を動かし課題にチャレンジするようになる。各スポーツの基本的な技術を習得する。チームで解決する習慣を身につける。				
授業概要	本授業は、複数種目のスポーツを体験し、その魅力、楽しさについて学ぶと共に、競技力向上を目指すことを目的とする。チームメイトと共に協力して勝利を目指すために技術と戦術、コミュニケーションスキルを習得する。スポーツクラブでのコーチ経験を基に、スポーツを楽しむための基本的な技術の向上から、戦術までを実践する。また、生涯スポーツとしてスポーツを捉え、健康的な生活に寄与する考え方を養う。				
評価方法・基準	授業への積極的な参加を重点的に評価する。その他、ルールを理解、基本的技術とコミュニケーション上達など総合的に評価する。遅刻は減点の対象となる。				
履修上の注意事項等	運動に適した運動服と運動靴を準備すること。外履き運動靴、室内運動靴が必要である。その他、担当教員の指示に従って準備すること。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となる。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施する。				
テキスト	テキストは使用しない。				
参考書	なし。				

科目名	スポーツ実技Ⅰ（十）			期間	後期
担当教員	★田中 奏一	単位数	1	配当年次	1-4
テーマ	スポーツの楽しさを学ぶことと、競技力向上を目的とする。また、チームスポーツを通してコミュニケーションスキルを習得する。				
到達目標	積極的に身体を動かし課題にチャレンジするようになる。各スポーツの基本的な技術を習得する。チームで解決する習慣を身につける。				
授業概要	本授業は、複数種目のスポーツを体験し、その魅力、楽しさについて学ぶと共に、競技力向上を目指すことを目的とする。チームメイトと共に協力して勝利を目指すために技術と戦術、コミュニケーションスキルを習得する。スポーツクラブでのコーチ経験を基に、スポーツを楽しむための基本的な技術の向上から、戦術までを実践する。また、生涯スポーツとしてスポーツを捉え、健康的な生活に寄与する考え方を養う。				
評価方法・基準	授業への積極的な参加を重点的に評価する。その他、ルールの理解、基本的技術とコミュニケーション上達度など総合的に評価する。遅刻は減点の対象となる。				
履修上の注意事項等	運動に適した運動服と運動靴を準備すること。外履き運動靴、室内運動靴が必要である。その他、担当教員の指示に従って準備をすること。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となる。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施する。				
テキスト	テキストは使用しない。				
参考書	なし。				

科目名	スポーツ実技Ⅱ（一）			期間	前期
担当教員	★坂手 比呂志	単位数	1	配当年次	2-4
テーマ	文化としてのスポーツの重要性を学び、ゲームを主体的に楽しめるようになることを目的とする。				
到達目標	バドミントンの競技特性を知り基礎練習を繰り返すことにより、生涯にわたってゲームを楽しむ能力と態度を身につけることができる。				
授業概要	人間形成を図る教育効果が期待されるスポーツには、個人・対人及び集団の中で「遊び」「競争」「全身運動」の三要素が包括的に含まれている。このスポーツの本質を経験し、自己の発見（他者との差異など）に気づくことができる。また、その局面では、互いの存在意義や存在価値を理解することによって、認め合い、信頼し、助け合う精神が醸成される。これらを共通意識としてコミュニケーション力の向上とともに、下記内容で実技を実施する。具体的には、以下のような内容を計画している。また種目はバドミントンであり、その競技特性を理解するための、動きの特徴・ゲームの進め方とルールおよび歴史等については適宜資料を配布し、バドミントンの理論と実際について実施する。				
評価方法・基準	授業への積極的参加度、授業への取り組み方、実技テスト、授業中の記録等を考慮しての総合評価とする。				
履修上の注意事項等	①スポーツ実技にふさわしいスポーツウエアを用意すること（普段着での参加は認めない）。②教場に合うスポーツシューズを用意すること（安全上裸足での参加は認めない）。③安全上、怪我につながるものは着用しないこと。 注：授業計画は履修者の到達度によっては変更になる場合がある。授業には積極的に参加すること。				
テキスト	適宜プリントを配布する				
参考書					

科目名	スポーツ実技Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	★坂手 比呂志	単位数	1	配当年次	2-4
テーマ	文化としてのスポーツの重要性を学び、ゲームを主体的に楽しめるようになることを目的とする。				
到達目標	バスケットボールの競技特性を知り基礎練習を繰り返すことにより、生涯にわたってゲームを楽しむ能力と態度を身につけることができる。				
授業概要	人間形成を図る教育効果が期待されるスポーツには、個人・対人及び集団の中で「遊び」「競争」「全身運動」の三要素が包括的に含まれている。このスポーツの本質を経験し、自己の発見（他者との差異など）に気づくことができる。また、その局面では、互いの存在意義や存在価値を理解することによって、認め合い、信頼し、助け合う精神が醸成される。これらを共通意識としてコミュニケーション力の向上とともに、下記内容で実技を実施する。具体的には、以下のような内容を計画している。また種目はバスケットボールであり、その競技特性を理解するための、動きの特徴・試合の進め方とルールおよび歴史等については適宜資料を配布し、バスケットボールの理論と実際について実施する。				
評価方法・基準	授業への積極的参加度、授業への取り組み方、実技テスト、授業中の記録等を考慮しての総合評価とする。				
履修上の注意事項等	①スポーツ実技にふさわしいスポーツウエアを用意すること（普段着での参加は認めない）。②教場に合うスポーツシューズを用意すること（安全上裸足での参加は認めない）。③安全上、怪我につながるものは着用しないこと。 注：授業計画は履修者の到達度によっては変更になる場合がある。授業には積極的に参加すること。				
テキスト	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。				
参考書	参考書は使用しない。必要に応じて紹介する。				

科目名	スポーツ実技Ⅱ（五）			期間	前期
担当教員	★山下 伸一	単位数	1	配当年次	2-4
テーマ	文化としてのスポーツの重要性を理解し、生涯を通じてスポーツを楽しむ継続していく能力と態度を養う。				
到達目標	自発的な運動実践の方法を学び、生涯スポーツの重要性を理解する。他者との交流を積極的に行い、協力する態度を身につける。				
授業概要	自発的なスポーツ活動の実践は健康の維持・増進に良い影響を与えるといわれているが、本時では硬式テニスを通じてスポーツの意義、重要性を認識できるようにする理論と実践を通じて授業を進める。基本的に毎回実技を行う。具体的な内容は以下のとおりである。				
評価方法・基準	全回出席を基本とし、授業への積極的参加・取り組みや技能を総合的に評価する。スキルテスト以外にも他者との協調性も必要とする。遅刻・見学・忘れ物・早退は最終評価から減点とする。				
履修上の注意事項等	スポーツに適した服装・靴の着用を義務づける。技能よりも授業に取り組む姿勢や態度を重視する。基本的に私服での実技参加は認めない。雨天時にはテニスコート以外で実技を行うので準備を忘れないこと。				
テキスト	適宜プリントを配布する				
参考書					

科目名	スポーツ実技Ⅱ（六）			期間	後期
担当教員	★山下 伸一	単位数	1	配当年次	2-4
テーマ	文化としてのスポーツの重要性を理解し、生涯を通じてスポーツを楽しみ継続していく能力と態度を養う。				
到達目標	自発的な運動実践の方法を学び、生涯スポーツの重要性を理解する。他者との交流を積極的に行い、協力する態度を身につける。				
授業概要	自発的なスポーツ活動の実践は健康の維持・増進に良い影響を与えるといわれているが、本時では硬式テニスを通じてスポーツの意義、重要性を認識できるようにする理論と実践を通じて授業を進める。基本的に毎回実技を行う。具体的な内容は以下のとおりである。				
評価方法・基準	全回出席を基本とし、授業への積極的な参加・取り組みや技能を総合的に評価する。スキルテスト以外にも他者との協調性も必要とする。遅刻・見学・忘れ物・早退は最終評価から減点とする。				
履修上の注意事項等	スポーツに適した服装・靴の着用を義務づける。技能よりも授業に取り組む姿勢や態度を重視する。基本的に私服での実技参加は認めない。雨天時にはテニスコート以外で実技を行うので準備を忘れないこと。				
テキスト	適宜プリントを配布する				
参考書					

科目名	スポーツ実技Ⅱ（七）			期間	前期
担当教員	★田中 奏一	単位数	1	配当年次	2-4
テーマ	サッカーの楽しさを学ぶことと、競技力向上を目的とする。また、チームスポーツを通してコミュニケーションスキルを習得する。				
到達目標	積極的に身体を動かし課題にチャレンジするようになる。サッカーの基本的なボールを扱う技術を習得する。サッカーのチーム戦術を理解する。チームで解決する習慣を身につける。				
授業概要	本授業は、サッカーを体験し、その魅力、楽しさについて学ぶと共に、競技力向上を目指すことを目的とする。チームメイトと共に協力して「ゴール」という1つの目標を達成するために技術と戦術、コミュニケーションスキルを習得する。プロサッカー選手として長く活動してきた経験に基づき、サッカーを楽しむため必要な基本的な技術の向上から、「ゴールを奪う」や「ゴールを守る」ための初歩的なチーム戦術を実践する。加えて、カウンター攻撃やブロックを形成した守備といった戦術についても学ぶ。また、生涯スポーツとしてサッカーを捉え、健康的な生活に寄与する考え方を養う。				
評価方法・基準	授業への積極的な参加を重点的に評価する。その他、ルールの理解、基本的技術とコミュニケーション上達度など総合的に評価する。遅刻は減点の対象となる。				
履修上の注意事項等	運動に適した運動服と運動靴を準備すること。天候が優れない場合は体育館でフットサルを行うため、室内運動靴が必要である。その他、担当教員の指示に従って準備をすること。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となる。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施する。				
テキスト	テキストは使用しない。				
参考書	なし。				

科目名	スポーツ実技Ⅱ（八）			期間	後期
担当教員	★田中 奏一	単位数	1	配当年次	2-4
テーマ	サッカーの楽しさを学ぶことと、競技力向上を目的とする。また、チームスポーツを通してコミュニケーションスキルを習得する。				
到達目標	積極的に身体を動かし課題にチャレンジするようになる。サッカーの基本的なボールを扱う技術を習得する。サッカーのチーム戦術を理解する。チームで解決する習慣を身につける。				
授業概要	本授業は、サッカーを体験し、その魅力、楽しさについて学ぶと共に、競技力向上を目指すことを目的とする。チームメイトと共に協力して「ゴール」という1つの目標を達成するために技術と戦術、コミュニケーションスキルを習得する。プロサッカー選手として長く活動してきた経験に基づき、サッカーを楽しむため必要な基本的な技術の向上から、「ゴールを奪う」や「ゴールを守る」ための初歩的なチーム戦術を実践する。加えて、カウンター攻撃やブロックを形成した守備といった戦術についても学ぶ。また、生涯スポーツとしてサッカーを捉え、健康的な生活に寄与する考え方を養う。				
評価方法・基準	授業への積極的な参加を重点的に評価する。その他、ルールの理解、基本的技術とコミュニケーション上達度など総合的に評価する。遅刻は減点の対象となる。				
履修上の注意事項等	運動に適した運動服と運動靴を準備すること。天候が優れない場合は体育館でフットサルを行うため、室内運動靴が必要である。その他、担当教員の指示に従って準備をすること。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となる。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施する。				
テキスト	テキストは使用しない。				
参考書	なし。				

科目名	スポーツ実技Ⅱ（九）			期間	前期
担当教員	★津田 真一郎	単位数	1	配当年次	2-4
テーマ	硬式テニスを通じて運動の必要性への理解を深め、生涯スポーツへの展望をひらく				
到達目標	・仲間とからだを動かすことにより得られる言葉を越えたコミュニケーション感覚を体験する・スポーツマンシップやリーダーシップの習得・運動・スポーツの意義や楽しさを理解し、継続的に実践できる				
授業概要	本科目では、性別を問わず、子供から高齢者までの幅広い世代で気楽に楽しめる硬式テニスを行なうことにより、生涯スポーツへのきっかけとし、ルールやマナー、技術の習得、体力の維持・増進を図ることを目標とする。さらに、スポーツ活動を通じたコミュニケーション能力を養うことにより、より良い人間性の育成を目指す。				
評価方法・基準	積極性70%(取組み姿勢)、スポーツマンシップ・リーダーシップ20%、技能上達の度合い10%により評価する。尚、出席は最低条件とし、全講義回数2/3以上の出席のない場合は「評価なし」とする。				
履修上の注意事項等	実技にふさわしいトレーニングウェア、シューズ等を着用の上、受講すること。実施場所は全天候型屋外砂入り人工芝コートです。				
テキスト	使用しない、必要に応じて資料等を配付する。				
参考書	なし				

科目名	スポーツ実技Ⅱ（十一）			期間	前期
担当教員	★高橋 哲以	単位数	1	配当年次	2-4
テーマ	健康生活をおくるために、身体活動の重要性を、スポーツを通して理解する。				
到達目標	自主性や個性を養うと同時に、体を動かす楽しみを感じ、運動を習慣化できるような基礎を確立する。				
授業概要	初めてバドミントンを経験する者も、基本技術を練習過程により身につけ、ゲームを楽しむ。また、ダブルスゲームや団体戦を通して、仲間を信頼することや協調性を育む。				
評価方法・基準	技能（ゲーム対戦成績）、授業態度（積極的な授業参加率・自発的なゲーム対戦・他者とのコミュニケーションを図り、受け身ではない行動を考え実行する）を総合評価する。				
履修上の注意事項等	積極的な参加態度と自主性・協調性のある取り組みをすること。スポーツにふさわしい服装をすること。				
テキスト					
参考書	運動音痴はいない～親の接し方一つで子どもの運動嫌いをなくす～、高橋哲以、galaxy books, 2022				

科目名	スポーツ実技Ⅱ（十二）			期間	後期
担当教員	★高橋 哲以	単位数	1	配当年次	2-4
テーマ	健康生活をおくるために、身体活動の重要性を、スポーツを通して理解する				
到達目標	自主性や個性を養うと同時に、体を動かす楽しみを感じ、運動を習慣化できるような基礎を確立する				
授業概要	初めてバドミントンを経験する者も、基本技術を練習過程により身につけ、ゲームを楽しむ。また、ダブルスゲームや団体戦を通して、仲間を信頼することや協調性を育む。				
評価方法・基準	技能（ゲーム対戦成績）、授業態度（積極的な授業参加率・自発的なゲーム対戦・他者とのコミュニケーションを図り、受け身ではない行動を考え実行する）を総合評価する				
履修上の注意事項等	積極的な参加態度と自主性・協調性のある取り組みをすること。スポーツにふさわしい服装をすること				
テキスト					
参考書	運動音痴はいない～親の接し方一つで子どもの運動嫌いをなくす～、高橋哲以、galaxy books, 2022				

科目名	健康科学Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	★島本 卓也	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	「健やかに生きる力の基礎となる健康科学（自らのからだところを知る）」				
到達目標	健康な心身を保つしくみを、解剖学・生理学・病理学の視点から理解し、生涯を通じて自らの健康を把握・管理・改善する力を養う。				
授業概要	健康は生きる力の根底をなす。生涯を通じて健康に過ごすには自分自身の健康を保つしくみを熟知することが重要である。授業では、感染症、食事、睡眠、運動、アルコール、食中毒など身近な話題をとりあげ、健康な心身を保つしくみについて医学的な理解を深める。様々な健康情報が氾濫する中で、自分自身の健康状態を正確に把握し維持していくために、自ら適切に判断し行動できる力を身につけることを目指す。				
評価方法・基準	最終授業での学習到達確認20%（健康に対する科学的な理解、将来の自分の健康管理に対する適切な課題意識を総合的に評価する）と授業中のミニレポート80%（毎回の授業内容の理解度を確認する）				
履修上の注意事項等	この講義は単独でも受講できるが、健康論Ⅱとあわせて受講するのが望ましい。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、自治体、医療機関、大学病院等の現場に従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	必要な資料を講義で提示します				
参考書					

科目名	健康科学Ⅰ（二）			期間	後期
担当教員	★島本 卓也	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	「健やかに生きる力の基礎となる健康科学（自らのからだところを知る）」				
到達目標	健康な心身を保つしくみを、解剖学・生理学・病理学の視点から理解し、生涯を通じて自らの健康を把握・管理・改善する力を養う。				
授業概要	健康は生きる力の根底をなす。生涯を通じて健康に過ごすには自分自身の健康を保つしくみを熟知することが重要である。授業では、感染症、食事、睡眠、運動、アルコール、食中毒など身近な話題をとりあげ、健康な心身を保つしくみについて医学的な理解を深める。様々な健康情報が氾濫する中で、自分自身の健康状態を正確に把握し維持していくために、自ら適切に判断し行動できる力を身につけることを目指す。				
評価方法・基準	最終授業での学習到達確認20%（健康に対する科学的な理解、将来の自分の健康管理に対する適切な課題意識を総合的に評価する）と授業中のミニレポート80%（毎回の授業内容の理解度を確認する）				
履修上の注意事項等	この講義は単独でも受講できるが、健康論Ⅱとあわせて受講するのが望ましい。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、自治体、医療機関、大学病院等の現場に従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	必要な資料を講義で提示します				
参考書					

科目名	健康科学Ⅱ（一）			期間	前期
担当教員	島本 太香子	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	「健やかに生きる力を支える健康科学（健康・生命と社会の関わりを知る）」				
到達目標	健康を守り支えるための社会的基盤および生命科学からみた人間の生死について多角的に学び、将来の健やかな生き方のために自ら選択し行動する力を養います。				
授業概要	健康科学Ⅰでは個体レベルでの健康を中心にとりあげますが、健康科学Ⅱでは、健康を守る社会的な取り組みと生命科学からみた人間の生死について総合的に学びます。授業は医師として患者の治療や医療行政に従事した経験を踏まえ、医療技術の最前線と人間の生と死に人為的介入が可能となったことで揺らぎ始めたいのちに関する価値観を生命倫理学の立場から講義します。さらに健康を守る社会の仕組みを公衆衛生学の視点から講義し、学生が生涯を通じて健やかに生きる上で自ら適切に選択、行動する力を身につけることを目指します。				
評価方法・基準	最終授業での学習到達確認20%（生命科学からみた人間、公衆衛生的な健康に対する理解、将来の自分の健康に対する適切な課題意識を総合的に評価する）と授業中のミニレポート80%（毎回の授業内容の理解度を確認する）				
履修上の注意事項等	この講義は単独でも受講できますが、健康論Ⅰとあわせて受講することがのぞましい。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	生きることの人間論 島本太香子他、ナカニシヤ出版、2016 必要な資料を授業で配布します。				
参考書					

科目名	健康科学Ⅱ（三）			期間	後期
担当教員	★田中 奏一	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	「健康とスポーツ」				
到達目標	本講義では、「健康とスポーツ」を軸に、スポーツが心と身体の健康維持に与える影響について理解することを目的とする。また、生涯スポーツに加えて、競技スポーツの視点から、現代社会においてスポーツが果たす役割について理解することも本講義のねらいである。				
授業概要	健康科学Ⅱ（三）では、健康に過ごすためのスポーツとの関わりについて知識を得て、自身の生活や取り巻く環境の中で、健康であるためにはどのような行動が必要となるか考察する。また、グループで健康づくりが社会に及ぼす影響について議論を行う。健康増進を目的とした生涯スポーツのみならず、長年プロスポーツ界に従事していた経験を踏まえ、競技スポーツの視点からもスポーツの効用について考える。				
評価方法・基準	本講義は、毎回のレポート、グループワーク、発表、授業への取り組みを総合的に判断し評価する。特に、積極的な発言を評価する。				
履修上の注意事項等	本講義は、授業の後半においてディスカッション形式で授業が展開される。また、毎回のレポート課題には時間と労力を要する。したがって授業に対して意欲的な学生の履修を求める。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となる。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施する。				
テキスト	必要な資料を授業で配布します。				
参考書					

科目名	健康科学Ⅱ（四）			期間	前期
担当教員	★坂手 比呂志	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	生涯の健康について自ら考え、理解する。				
到達目標	自律的かつ積極的に、健康についての心構えを身につけることを目標とする。				
授業概要	現代人に多い運動不足を起因とする生活習慣病やストレスフルな社会における対応策の一助として、現代社会では運動（スポーツ）習慣を身につけることが求められている。言いかえると長い人生の中で「心と身体」を健康的に営んでいくために、各々の生活の中に運動（スポーツ）を積極的に取り入れ、活き活きとした活力ある「ライフステージ」を創造できることが求められていると考える。その「きっかけづくり」として、本講義では「健康と運動（スポーツ科学）」を結びつけるための「運動と生活習慣病」「運動と重力（地球）および無重力（宇宙）の関係」「運動と森林セラピー」「運動と心拍数」「運動と体力・エネルギー」「運動と骨」「運動と筋肉」「運動と栄養」などについて学び、一生涯の「ライフステージ」を考える入門講義とする。				
評価方法・基準	授業への積極的参加度、毎回の課題、レポート提出を総合的に判断し評価する。				
履修上の注意事項等	本講義は、毎回の課題提出が必要となるので、授業には積極的かつ意欲的に臨んでほしい。				
テキスト					
参考書					

科目名	健康科学Ⅱ（五）			期間	後期
担当教員	★山下 伸一	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	健康な生涯を送るために、自分の体を知る。				
到達目標	本講義では、生涯を健康に過ごすために必要な基礎知識を理解して実践するために、「健康」・「運動」・「栄養」・「休養」の関係を理解することを目的とし、実践する能力を身につける。				
授業概要	健康科学Ⅱ（五）では、健康と関係の深い「運動」・「栄養」・「休養」の3つの要素について詳しく知識を得るとともに、健康な生涯を送るための実践方法を考える。授業は、プリントを中心に展開し、その日の復習として自分の生活を記録して提出する方法を進める。課題の提出を成績に反映させるので毎日の学習を必要とする。				
評価方法・基準	15週目の学習到達度確認テスト 50% 授業内課題の提出 5回の提出合計 50%				
履修上の注意事項等	課題の提出は、すべてポータルサイト上で行います。提出期限・方法などに注意してください。授業で使用するプリントについても適宜ポータルサイトにアップします。必要に応じてダウンロードして使用してください。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

# 情報・キャリア科目







科目名	情報倫理（一）			期間	前期
担当教員	横田 浩	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	インターネット社会で生きるために！				
到達目標	功罪両面をもつインターネットを、節度をもって利用するための知識と倫理観を身につける。				
授業概要	本科目は、現代の情報（インターネット）社会で活動する上で必要な最低限の知識を解説する。現在の情報社会には光と影がある。この影の部分に焦点を当て、情報社会を「秩序ある社会」にするにはどのようにすればよいかを、技術的側面、法的側面、倫理的側面から考える。				
評価方法・基準	小テスト・課題60%（項目ごとの理解度を確認する）、定期試験40%（筆記による試験で、情報倫理に関する基本的概念や知識を有し、実践面に応用できる能力を身につけているかを問う）。				
履修上の注意事項等	e-Learning で小テスト・課題を実施する。配布資料・スライド・関連資料等も e-Learning 上に掲載するので、復習の参考にすること。なお、小テスト・連絡やアドバイス等に学生用メールを活用する。				
テキスト	インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版, 情報教育学会 (IEC)・情報倫理教育研究グループ [編], 実教出版, 2018				
参考書	インターネットの光と影 Ver.6 被害者・加害者にならないための情報倫理入門, 情報教育学会 (IEC)・情報倫理教育研究グループ [編], 北大路書房, 2018 情報セキュリティ読本 (五訂版), 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA), 実教出版, 2018				

科目名	情報倫理（二）			期間	前期
担当教員	横田 浩	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	インターネット社会で生きるために！				
到達目標	功罪両面をもつインターネットを、節度をもって利用するための知識と倫理観を身につける。				
授業概要	本科目は、現代の情報（インターネット）社会で活動する上で必要な最低限の知識を解説する。現在の情報社会には光と影がある。この影の部分に焦点を当て、情報社会を「秩序ある社会」にするにはどのようにすればよいかを、技術的側面、法的側面、倫理的側面から考える。				
評価方法・基準	小テスト・課題60%（項目ごとの理解度を確認する）、定期試験40%（筆記による試験で、情報倫理に関する基本的概念や知識を有し、実践面に応用できる能力を身につけているかを問う）。				
履修上の注意事項等	e-Learning で小テスト・課題を実施する。配布資料・スライド・関連資料等も e-Learning 上に掲載するので、復習の参考にすること。なお、小テスト・連絡やアドバイス等に学生用メールを活用する。				
テキスト	インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版, 情報教育学会 (IEC)・情報倫理教育研究グループ [編], 実教出版, 2018				
参考書	インターネットの光と影 Ver.6 被害者・加害者にならないための情報倫理入門, 情報教育学会 (IEC)・情報倫理教育研究グループ [編], 北大路書房, 2018 情報セキュリティ読本 (五訂版), 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA), 実教出版, 2018年				

科目名	情報倫理（三）			期間	前期
担当教員	吉田 光次	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	情報社会で生きるために！				
到達目標	功罪両面をもつインターネットを節度をもって利用する知識・技術と倫理観を身につける。				
授業概要	本科目は、現代の情報社会で活動する上で必要な最低限の知識を解説する。インターネットはいまや、積極的・主体的に社会と関わっていく上で欠かせないコミュニケーションツールである。しかし、多くの人が、現在の情報社会には光と影があることを感じている。この影の部分に光を当て、情報社会を「秩序ある社会」にするにはどのようにすればよいかを、技術的側面、法的側面、倫理的側面から考える。				
評価方法・基準	e-Learning 内で実施する小テストの成績50点、試験期間中の筆記試験の成績50点を合計して評価する。小テストは授業期間中に随時実施するので、授業中の指示に注意すること。				
履修上の注意事項等	・ e-Learning 上にある「学生用質問・相談コーナー」で利用マニュアルを参照すること。 ・ その他、情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	インターネット社会を生きるための情報倫理, 情報教育学会 (IEC)・情報倫理教育研究グループ, 実教出版, 2018				
参考書	インターネットの光と影 Ver.6: 被害者・加害者にならないための情報倫理入門, 情報教育学会 (IEC)・情報倫理教育研究グループ, 北大路書房, 2018				

科目名	情報倫理（四）			期間	後期
担当教員	横田 浩	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	インターネット社会で生きるために！				
到達目標	功罪両面をもつインターネットを、節度をもって利用するための知識と倫理観を身につける。				
授業概要	本科目は、現代の情報（インターネット）社会で活動する上で必要な最低限の知識を解説する。現在の情報社会には光と影がある。この影の部分に焦点を当て、情報社会を「秩序ある社会」にするにはどのようにすればよいかを、技術的側面、法的側面、倫理的側面から考える。				
評価方法・基準	小テスト・課題60%（項目ごとの理解度を確認する）、定期試験40%（筆記による試験で、情報倫理に関する基本的概念や知識を有し、実践面に応用できる能力を身につけているかを問う）。				
履修上の注意事項等	e-Learning で小テスト・課題を実施する。配布資料・スライド・関連資料等も e-Learning 上に掲載するので、復習の参考にすること。なお、小テスト・連絡やアドバイス等に学生用メールを活用する。				
テキスト	インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版, 情報教育学会 (IEC)・情報倫理教育研究グループ [編], 実教出版, 2018				
参考書	インターネットの光と影 Ver.6 被害者・加害者にならないための情報倫理入門, 情報教育学会 (IEC)・情報倫理教育研究グループ [編], 北大路書房, 2018 情報セキュリティ読本 (五訂版), 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA), 実教出版, 2018				

科目名	情報倫理（五）			期間	後期
担当教員	吉田 光次	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	情報社会で生きるために！				
到達目標	功罪両面をもつインターネットを節度をもって利用する知識・技術と倫理観を身につける。				
授業概要	本科目は、現代の情報社会で活動する上で必要な最低限の知識を解説する。インターネットはいまや、積極的・主体的に社会と関わっていく上で欠かせないコミュニケーションツールである。しかし、多くの人が、現在の情報社会には光と影があることを感じている。この影の部分に光を当て、情報社会を「秩序ある社会」にするにはどのようにすればよいかを、技術的側面、法的側面、倫理的側面から考える。				
評価方法・基準	e-Learning 内で実施する小テストの成績50点、試験期間中の筆記試験の成績50点を合計して評価する。小テストは授業期間中に随時実施するので、授業中の指示に注意すること。				
履修上の注意事項等	・e-Learning 上にある「学生用質問・相談コーナー」で利用マニュアルを参照すること。 ・その他、情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	インターネット社会を生きるための情報倫理, 情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ, 実教出版, 2018				
参考書	インターネットの光と影 Ver.6: 被害者・加害者にならないための情報倫理入門, 情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ, 北大路書房, 2018				

科目名	情報倫理（六）			期間	後期
担当教員	吉田 光次	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	情報社会で生きるために！				
到達目標	功罪両面をもつインターネットを節度をもって利用する知識・技術と倫理観を身につける。				
授業概要	本科目は、現代の情報社会で活動する上で必要な最低限の知識を解説する。インターネットはいまや、積極的・主体的に社会と関わっていく上で欠かせないコミュニケーションツールである。しかし、多くの人が、現在の情報社会には光と影があることを感じている。この影の部分に光を当て、情報社会を「秩序ある社会」にするにはどのようにすればよいかを、技術的側面、法的側面、倫理的側面から考える。				
評価方法・基準	e-Learning 内で実施する小テストの成績50点、試験期間中の筆記試験の成績50点を合計して評価する。小テストは授業期間中に随時実施するので、授業中の指示に注意すること。				
履修上の注意事項等	・e-Learning 上にある「学生用質問・相談コーナー」で利用マニュアルを参照すること。 ・その他、情報機器の基本操作について分からないときは、情報処理センターのサポートを受けること。				
テキスト	インターネット社会を生きるための情報倫理, 情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ, 実教出版, 2018				
参考書	インターネットの光と影 Ver.6: 被害者・加害者にならないための情報倫理入門, 情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ, 北大路書房, 2018				

科目名	情報リテラシー（一）			期間	前期
担当教員	横田 浩	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	情報処理や分析に必要なデータの取扱いの基本を学ぼう				
到達目標	データを読み理解し、加工できるようになる。表やグラフを読み理解し、データから表やグラフを作成できるようになる。データとグラフを組み合わせ、適切な分析ができるようになる。				
授業概要	情報処理の実習授業の準備として、データの種類や活用方法にどのようなものがあるかを知り、理解することが目的である。そのためには講義を聴くだけでは不十分であり、毎回の授業で課題に取り組む形式で進める。さらに、主として項目ごとに e-Learning を用いた小テスト・課題で理解度の再確認を行う。自分で考える習慣を身に付けることが重要である。問題文や指示を正しく理解することも情報リテラシーである。				
評価方法・基準	毎回の授業中の課題75%（内容の理解度や自分で考えているかを評価する）、適宜実施する小テスト・課題25%（課題をやり直すなど理解を深める努力をしているかを確認する）。定期試験は実施しない。				
履修上の注意事項等	今後の情報科目の受講や、他の科目でのPC活用、統計学の学習のための予備知識をつけるための授業であるから、1年次で履修するのが望ましい。身の回りの数値・表・グラフを元実践するのが望ましい。				
テキスト	テキストは使用せず、毎回プリントを配付する				
参考書					

科目名	情報リテラシー（二）			期間	前期
担当教員	吉田 光次	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	情報処理に必要なデータ取扱いの基本を学ぼう				
到達目標	データを読み理解し、加工できるようにする。グラフを読み理解し、データからグラフを作成できるようにする。データとグラフを組み合わせ、適切な分析とプレゼンテーションができるようになる。				
授業概要	情報処理の実習授業を受講する準備として、データにどのようなものがあるのか、データのまとめ方にどのようなものがあるのかを知り、理解する。授業時間中に計算などの作業を行い、毎回提出する。				
評価方法・基準	毎回提出する回答で評価する。正しい回答も評価されるが、自身でよく考えることが重要であり、独自性のある回答を評価する。				
履修上の注意事項等	今後の実習を伴う情報科目の受講や、他の科目でのPC利用（Excelでの分析など）、統計学の学習のための予備知識をつけるための授業であるから、1年次で履修することが望ましい。				
テキスト	プリントなどを配付				
参考書					

科目名	情報リテラシー（三）			期間	前期
担当教員	吉田 光次	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	情報処理に必要なデータ取扱いの基本を学ぼう				
到達目標	データを読み理解し、加工できるようにする。グラフを読み理解し、データからグラフを作成できるようにする。データとグラフを組み合わせ、適切な分析とプレゼンテーションができるようになる。				
授業概要	情報処理の実習授業を受講する準備として、データにどのようなものがあるのか、データのまとめ方にどのようなものがあるのかを知り、理解する。授業時間中に計算などの作業を行い、毎回提出する。				
評価方法・基準	毎回提出する回答で評価する。正しい回答も評価されるが、自身でよく考えることが重要であり、独自性のある回答を評価する。				
履修上の注意事項等	今後の実習を伴う情報科目の受講や、他の科目でのPC利用（Excelでの分析など）、統計学の学習のための予備知識をつけるための授業であるから、1年次で履修することが望ましい。				
テキスト	プリントなどを配付				
参考書					

科目名	情報リテラシー（四）			期間	後期
担当教員	横田 浩	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	情報処理や分析に必要なデータの取扱いの基本を学ぼう				
到達目標	データを読み理解し、加工できるようになる。表やグラフを読み理解し、データから表やグラフを作成できるようになる。データとグラフを組み合わせ、適切な分析ができるようになる。				
授業概要	情報処理の実習授業の準備として、データの種類や活用方法にどのようなものがあるかを知り、理解することが目的である。そのためには講義を聴くだけでは不十分であり、毎回の授業で課題に取り組み形式で進める。さらに、主として項目ごとにe-Learningを用いた小テスト・課題で理解度の再確認を行う。自分で考える習慣を身に付けることが重要である。問題文や指示を正しく理解することも情報リテラシーである。				
評価方法・基準	毎回の授業中の課題75%（内容の理解度や自分で考えているかを評価する）、適宜実施する小テスト・課題25%（課題をやり直すなど理解を深める努力をしているかを確認する）。定期試験は実施しない。				
履修上の注意事項等	今後の情報科目の受講や、他の科目でのPC活用、統計学の学習のための予備知識をつけるための授業であるから、1年次で履修するのが望ましい。身の回りの数値・表・グラフを元実践するのが望ましい。				
テキスト	テキストは使用せず、毎回プリントを配付する				
参考書					

科目名	情報リテラシー（五）			期間	後期
担当教員	横田 浩	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	情報処理や分析に必要なデータの取扱いの基本を学ぼう				
到達目標	データを読み理解し、加工できるようになる。表やグラフを読み理解し、データから表やグラフを作成できるようになる。データとグラフを組み合わせ、適切な分析ができるようになる。				
授業概要	情報処理の実習授業の準備として、データの種類や活用方法にどのようなものがあるかを知り、理解することが目的である。そのためには講義を聴くだけでは不十分であり、毎回の授業で課題に取り組み形式で進める。さらに、主として項目ごとにe-Learningを用いた小テスト・課題で理解度の再確認を行う。自分で考える習慣を身に付けることが重要である。問題文や指示を正しく理解することも情報リテラシーである。				
評価方法・基準	毎回の授業中の課題75%（内容の理解度や自分で考えているかを評価する）、適宜実施する小テスト・課題25%（課題をやり直すなど理解を深める努力をしているかを確認する）。定期試験は実施しない。				
履修上の注意事項等	今後の情報科目の受講や、他の科目でのPC活用、統計学の学習のための予備知識をつけるための授業であるから、1年次で履修するのが望ましい。身の回りの数値・表・グラフを元実践するのが望ましい。				
テキスト	テキストは使用せず、毎回プリントを配付する				
参考書					

科目名	情報リテラシー（六）			期間	後期
担当教員	吉田 光次	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	情報処理に必要なデータ取扱いの基本を学ぼう				
到達目標	データを読み理解し、加工できるようにする。グラフを読み理解し、データからグラフを作成できるようにする。データとグラフを組み合わせ、適切な分析とプレゼンテーションができるようになる。				
授業概要	情報処理の実習授業を受講する準備として、データにどのようなものがあるのか、データのまとめ方にどのようなものがあるのかを知り、理解する。授業時間中に計算などの作業を行い、毎回提出する。				
評価方法・基準	毎回提出する回答で評価する。正しい回答も評価されるが、自身でよく考えることが重要であり、独自性のある回答を評価する。				
履修上の注意事項等	今後の実習を伴う情報科目の受講や、他の科目でのPC利用（Excelでの分析など）、統計学の学習のための予備知識をつけるための授業であるから、1年次で履修することが望ましい。				
テキスト	プリントなどを配付				
参考書					

科目名	コンピュータ基礎論			期間	前期
担当教員	横田 浩	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	情報・データ、コンピュータおよびインターネットの基礎				
到達目標	コンピュータおよびネットワーク、特にインターネットを活用するにあたって知っておくべき基礎を理解する。				
授業概要	コンピュータおよびネットワーク、特にインターネットを活用するために必要な知識として、情報処理技術者試験のテクニカル系の内容をとりあげる。この授業では、ITパスポート試験のレベル（試験のレベル1）を想定して解説を行う。情報・データの表現方法やファイル形式、ならびにコンピュータのしくみ、インターネットのしくみやサービス等の基礎を詳しく解説をする。なお、情報セキュリティ関連は、必須科目の情報倫理で扱うので省略する。適宜、小テストや課題を実施し、理解度を確認しながら進める。				
評価方法・基準	小テスト・課題60%（授業内容の理解度を問う）。定期試験40%（情報・データ、コンピュータ、インターネットに関する語句や基礎を正しく理解し、活用できるかを評価する）。				
履修上の注意事項等	課題提出と小テストはe-Learningを利用する。また、配布資料・スライド・関連資料もe-Learning上に掲載するので、復習の参考にすること。内容によってパソコンを持参してもらい利用することがある。				
テキスト	これだけは知っておこう！ 情報リテラシー（改訂第5版）、noa 出版、株式会社ワークアカデミー、2024				
参考書	徹底図解 パソコンのしくみ【新版】、高作 義明、新星出版社、2018				

科目名	プログラミング基礎			期間	後期
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	プログラミングを通じて、論的思考を学ぶ				
到達目標	授業で使うプログラムの文法を理解し、簡単なプログラムを書くことができる。				
授業概要	近年、人工知能が盛んに世の中で使われているが、人工知能でよく利用されているプログラミング言語はPythonである。この授業では、自分自身で持ち込んだノートPCを利用して、プログラミングの基礎を学ぶ。プログラミングで使う変数、四則演算、繰り返し処理などを通して、簡単なプログラムを作成し、応用として画像処理プログラムを作成する。				
評価方法・基準	成績は、毎回のプログラミング課題（14回）を出題する。配点は各課題につき5点、最終レポート課題は30点とする。各課題は、基本文法が正しく理解でき、プログラムが機能しているかを評価する。				
履修上の注意事項等	授業は各自のノートPCを利用して行うため、必ず授業にはノートPCを持参すること。プログラミング初級であるが、パソコン操作は基礎が出来ていないと理解することができないため、パソコン操作が不安な場合には、2年生以上になってから履修したほうがよい。				
テキスト	Web教材				
参考書					

科目名	情報処理（一）			期間	前期
担当教員	横田 浩	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	コンピュータを活用しよう				
到達目標	コンピュータを活用するための基礎を理解し、操作法を習得する。				
授業概要	パソコンの代表的なソフトである表計算ソフトを中心に基本操作を学習する。コンピュータを道具として利用し、情報関連科目以外の授業でも活用できるよう技量向上を目指す（単なる操作技術だけではない）。簡単なウィンドウズ・コンピュータの操作経験があるものを対象とする（ワープロの初歩的な説明は行わない）。なお、授業は情報処理センターのWing-netを活用し、各自の理解度を把握しながら進める（原則として毎回、課題を提出してもらったことでも理解度を確認する）。				
評価方法・基準	最終課題40%（基礎を踏まえ要求された内容を実行できているかを重視）、および積極的な授業への取組・提出物等60%（授業に真摯に取り組む姿勢、毎回の提出課題の理解度、完成度を重視）				
履修上の注意事項等	授業中の操作だけでは不十分である。また、欠席した場合は、e-Learningで授業内容を確認し自習しておくこと。各自のパソコンで有償版Officeを利用できるようにするのが望ましい。教職免許取得に必要な「情報機器の操作」に対応する科目です。				
テキスト	30時間でマスター Word&Excel2021、実教出版企画開発部【編】、実教出版、2022				
参考書					

科目名	情報処理（二）			期間	前期
担当教員	★榎本 光世	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	WordとExcelとPowerPointの初歩からより高いレベルのスキルを習得する。				
到達目標	他講義のレポート・論文などの作成に役立てることはもちろん、卒業後の実務や日常生活でも十分に役立つスキルを習得する。				
授業概要	到達目標に達するため、基本的なところから学修を始め、与えられた課題を解くために十分なスキルを習得する。その際この時間で説明されたスキルはほぼ完全に習得しなければならない。学修者はいつでも質問できるが、不明な所が発生したと同時に質問しなくてはならない。その際授業の進行が止まるのは、あらかじめそのことを見越してスケジュールしてあるので全く問題がない。				
評価方法・基準	平常点（実習時間内が期限の課題に取り組む態度及び到達度）、宿題や課題の提出率で評価する。なおその際の評価ポイントについては授業中に説明する。一見同じような結果に見えても正しい操作をしなければ、要件を満たせないで、必ず授業中に説明した操作法を理解し実行すること。				
履修上の注意事項等	※実習時間中にスマホで遊んでいる者は単位修得辞退者と見做す場合がある。また寝ている者は欠席扱いにする場合がある。遅刻は認めない。3回以上欠席した者や宿題を期限までに提出しない者には単位を認めない可能性が高い。やむえない理由で遅刻や欠席する者は事前に連絡しなくてはならない。				
テキスト	適宜印刷物を配布する				
参考書	特になし				

科目名	情報処理（三）			期間	前期
担当教員	★榎本 光世	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	WordとExcelとPowerPointの初歩からより高いレベルのスキルを習得する。				
到達目標	他講義のレポート・論文などの作成に役立てることはもちろん、卒業後の実務や日常生活でも十分に役立つスキルを習得する。				
授業概要	到達目標に達するため。基本的なところから学修を始め、与えられた課題を解くために十分なスキルを習得する。その際この時間で説明されたスキルはほぼ完全に習得しなければならない。学修者はいつでも質問できるが、不明な所が発生したと同時に質問しなくてはならない。その際授業の進行が止まるのは、あらかじめそのことを見越してスケジュールしてあるので全く問題がない。				
評価方法・基準	平常点（実習時間内が期限の課題に取り組む態度及び到達度）、宿題や課題の提出率で評価する。なおその際の評価ポイントについては授業中に説明する。一見同じような結果に見えても正しい操作をしなければ、要件を満たせないで、必ず授業中に説明した操作法を理解し実行すること。				
履修上の注意事項等	※実習時間中にスマホで遊んでいる者は単位修得辞退者と見做す場合がある。また寝ている者は欠席扱いにする場合がある。遅刻は認めない。3回以上欠席した者や宿題を期限までに提出しない者には単位を認めない可能性が高い。やむえない理由で遅刻や欠席する者は事前に連絡しなくてはならない。				
テキスト	適宜印刷物を配布する				
参考書	特になし				

科目名	情報処理（四）			期間	後期
担当教員	★榎本 光世	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	WordとExcelとPowerPointの初歩からより高いレベルのスキルを習得する。				
到達目標	他講義のレポート・論文などの作成に役立てることはもちろん、卒業後の実務や日常生活でも十分に役立つスキルを習得する。				
授業概要	到達目標に達するため。基本的なところから学修を始め、与えられた課題を解くために十分なスキルを習得する。その際この時間で説明されたスキルはほぼ完全に習得しなければならない。学修者はいつでも質問できるが、不明な所が発生したと同時に質問しなくてはならない。その際授業の進行が止まるのは、あらかじめそのことを見越してスケジュールしてあるので全く問題がない。				
評価方法・基準	平常点（実習時間内が期限の課題に取り組む態度及び到達度）、宿題や課題の提出率で評価する。なおその際の評価ポイントについては授業中に説明する。一見同じような結果に見えても正しい操作をしなければ、要件を満たせないで、必ず授業中に説明した操作法を理解し実行すること。				
履修上の注意事項等	※実習時間中にスマホで遊んでいる者は単位修得辞退者と見做す場合がある。また寝ている者は欠席扱いにする場合がある。遅刻は認めない。3回以上欠席した者や宿題を期限までに提出しない者には単位を認めない可能性が高い。やむえない理由で遅刻や欠席する者は事前に連絡しなくてはならない。				
テキスト	適宜印刷物を配布する				
参考書	特になし				

科目名	情報処理（五）			期間	後期
担当教員	★榎本 光世	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	WordとExcelとPowerPointの初歩からより高いレベルのスキルを習得する。				
到達目標	他講義のレポート・論文などの作成に役立てることはもちろん、卒業後の実務や日常生活でも十分に役立つスキルを習得する。				
授業概要	到達目標に達するため。基本的なところから学修を始め、与えられた課題を解くために十分なスキルを習得する。その際この時間で説明されたスキルはほぼ完全に習得しなければならない。学修者はいつでも質問できるが、不明な所が発生したと同時に質問しなくてはならない。その際授業の進行が止まるのは、あらかじめそのことを見越してスケジュールしてあるので全く問題がない。				
評価方法・基準	平常点（実習時間内が期限の課題に取り組む態度及び到達度）、宿題や課題の提出率で評価する。なおその際の評価ポイントについては授業中に説明する。一見同じような結果に見えても正しい操作をしなければ、要件を満たせないで、必ず授業中に説明した操作法を理解し実行すること。				
履修上の注意事項等	※実習時間中にスマホで遊んでいる者は単位修得辞退者と見做す場合がある。また寝ている者は欠席扱いにする場合がある。遅刻は認めない。3回以上欠席した者や宿題を期限までに提出しない者には単位を認めない可能性が高い。やむえない理由で遅刻や欠席する者は事前に連絡しなくてはならない。				
テキスト	適宜印刷物を配布する				
参考書	特になし				

科目名	情報処理（六）			期間	後期
担当教員	★榎本 光世	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	WordとExcelとPowerPointの初歩からより高いレベルのスキルを習得する。				
到達目標	他講義のレポート・論文などの作成に役立てることはもちろん、卒業後の実務や日常生活でも十分に役立つスキルを習得する。				
授業概要	到達目標に達するため。基本的なところから学修を始め、与えられた課題を解くために十分なスキルを習得する。その際この時間で説明されたスキルはほぼ完全に習得しなければならない。学修者はいつでも質問できるが、不明な所が発生したと同時に質問しなくてはならない。その際授業の進行が止まるのは、あらかじめそのことを見越してスケジュールしてあるので全く問題がない。				
評価方法・基準	平常点（実習時間内が期限の課題に取り組む態度及び到達度）、宿題や課題の提出率で評価する。なおその際の評価ポイントについては授業中に説明する。一見同じような結果に見えても正しい操作をしなければ、要件を満たせないで、必ず授業中に説明した操作法を理解し実行すること。				
履修上の注意事項等	※実習時間中にスマホで遊んでいる者は単位修得辞退者と見做す場合がある。また寝ている者は欠席扱いにする場合がある。遅刻は認めない。3回以上欠席した者や宿題を期限までに提出しない者には単位を認めない可能性が高い。やむえない理由で遅刻や欠席する者は事前に連絡しなくてはならない。				
テキスト	適宜印刷物を配布する				
参考書	特になし				

科目名	画像編集（一）			期間	前期
担当教員	吉田 光次	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	画像の編集・加工・作成の基本を学ぶ				
到達目標	文書作成やプレゼン資料、および Web 作成の中で必要とする写真の加工、作図をマスターする。				
授業概要	ワープロソフトなどで、写真・図を利用したり、ポスター、パンフレット、チラシを作成することを想定し、いくつかのフリーソフトを利用し、画像加工・作図を行う。				
評価方法・基準	作成した課題の出来を評価・判定する。				
履修上の注意事項等	PC の基本操作を習得していなければ、履修は困難である。				
テキスト	プリントなどを配付				
参考書	できるクリエイター GIMP 2.10独習ナビ改訂版、ドルバックキーヨウコ、オプスキュアインク、インプレス、2020 すぐに作れるずっと使える Inkscape のすべてが身に付く本、飯塚将弘、技術評論社、2019 Inkscape 独習ナビ、大西すみこ、小笠原種高、羽石 相、山本潤一、できるシリーズ編集部、インプレス、2016				

科目名	画像編集（二）			期間	後期
担当教員	吉田 光次	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	画像の編集・加工・作成の基本を学ぶ				
到達目標	文書作成やプレゼン資料、および Web 作成の中で必要とする写真の加工、作図をマスターする。				
授業概要	自分自身のノート PC を使い、ソフトのインストールから始め、写真加工と作図の基本を学ぶ。				
評価方法・基準	作成した課題の出来を評価・判定する。				
履修上の注意事項等	PC の基本操作を習得していなければ、履修は困難である。				
テキスト	プリントなどを配付				
参考書	できるクリエイター GIMP 2.10独習ナビ改訂版、独習ナビ、ドルバックキーヨウコ、オプスキュアインク、インプレス、2020 できるクリエイター Inkscape 独習ナビ、大西すみこ、小笠原種高、羽石 相、山本潤一、できるシリーズ編集部、インプレス、2016 すぐに作れる ずっと使える GIMP のすべてが身に付く本、土屋 徳子、技術評論社、2018				

科目名	動画編集（一）			期間	後期
担当教員	横田 浩	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	プレゼンテーションに動画を活用し情報を発信する				
到達目標	動画やアニメーション GIF 等の編集・加工の基礎と技術を習得する。さらに、作成した動画をプレゼンテーションで活用するための基礎と技術を習得し、実際にプレゼンテーションを実践する。				
授業概要	データの中から動画データに焦点をあてて、動画・フォトムービー・GIF アニメーションの編集・加工およびプレゼンテーション等で活用するための基礎ならびに作成方法の解説を行う。実際に作業を行いながら、授業を進めていく。最後に、各自が選んだテーマに沿った動画を含むスライドを作成し、実際にプレゼンテーションを行ってもらう（受講者が多い場合は、投票で発表者を選ぶ）。なお、授業は情報処理センターの Wing-net を活用し、各自の理解度を把握しながら進める。				
評価方法・基準	最終課題とプレゼン40%（内容の完成度と動画を活用しているかを重視）、積極的な授業への取組・小テスト・提出課題60%（実習や課題に真摯に取り組む姿勢、理解度や課題の完成度を重視）				
履修上の注意事項等	2GB 以上空きのある USB メモリを持参すること。各自のパソコンに動画ソフトをインストールすることが望ましい。なお、パソコンがない教室の場合はパソコンを毎回持参してもらい実施する（一部内容の変更あり）。教職免許取得に必要な「情報機器の操作」に対応する科目です。				
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリントを配付する				
参考書					

科目名	動画編集（二）			期間	後期
担当教員	横田 浩	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	プレゼンテーションに動画を活用し情報を発信する				
到達目標	動画やアニメーション GIF 等の編集・加工の基礎と技術を習得する。さらに、作成した動画をプレゼンテーションで活用するための基礎と技術を習得し、実際にプレゼンテーションを実践する。				
授業概要	データの中から動画データに焦点をあてて、動画・フォトムービー・GIF アニメーションの編集・加工およびプレゼンテーション等で活用するための基礎ならびに作成方法の解説を行う。実際に作業を行いながら、授業を進めていく。最後に、各自が選んだテーマに沿った動画を含むスライドを作成し、実際にプレゼンテーションを行ってもらう（受講者が多い場合は、投票で発表者を選ぶ）。なお、授業は情報処理センターの Wing-net を活用し、各自の理解度を把握しながら進める。				
評価方法・基準	最終課題とプレゼン40%（内容の完成度と動画を活用しているかを重視）、積極的な授業への取組・小テスト・提出課題60%（実習や課題に真摯に取り組む姿勢、理解度や課題の完成度を重視）				
履修上の注意事項等	2GB 以上空きのある USB メモリを持参すること。各自のパソコンに動画ソフトをインストールすることが望ましい。なお、パソコンがない教室の場合はパソコンを毎回持参してもらい実施する（一部内容の変更あり）。教職免許取得に必要な「情報機器の操作」に対応する科目です。				
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリントを配付する				
参考書					

科目名	データ分析法Ⅰ			期間	後期
担当教員	芝田 篤紀	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	GISと様々なデータ分析の理解・技法				
到達目標	GISを用いた分析の手法と分析工程の基礎を理解する。様々な課題に対してGISで分析する技能を習得する。				
授業概要	衛星画像解析、ドローンの画像処理などからラスターデータの分析方法を学び、後半はベクターデータを用いた空間解析や位置情報の取得、分析方法を学習する。またGNSSやLiDARの基本も学ぶ。				
評価方法・基準	授業への参加度など受講態度（平常点：40%）、事例研究の回に提出するレポート（60%）にて、理解度・習熟度を評価する。				
履修上の注意事項等	ノートPC必携。実際にコンピューターを用いて解析作業等を行うため、PC関連の基本技能がなければ受講が大変困難となる。また、前期開講の「地理情報科学概論」で学習する知識が多分に関係するため、当科目を履修済みであることが望ましい。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	各授業内で適宜提示				

科目名	データ分析法Ⅱ			期間	後期
担当教員	村上 史朗	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	行動科学系の研究で用いる代表的な統計解析手法に関する知識とスキルを習得する。				
到達目標	(1) 行動科学系の研究論文で用いられる統計解析結果を読み取り、解釈できるようになる。(2) 統計解析ソフトを使用して分析することができるようになる。				
授業概要	行動科学系の量的研究では、研究目的やデータの測定方法に応じた適切な統計解析手法を選択した上で、分析結果を解釈・報告することが必要となる。本講では、データの性質ごとにどのような分析が必要とされるのかを確認した上で、それぞれの解析法を具体的なデータを用いて実習形式で学習する。例示は心理学が中心だが、他の行動科学系の統計解析にも共通する内容である。				
評価方法・基準	授業内の実習課題（40%：授業内容の理解度の確認）とレポート（60%：授業で扱った統計的手法を各自の判断で活用できるかの確認）を総合して評価する。				
履修上の注意事項等	授業内容は、「心理学統計法Ⅱ」と同内容となる。心理学科以外の受講生も歓迎するが、心理学研究で用いられる手法が中心となることを理解した上で受講されたい。入門的な統計の知識（心理学統計法Ⅰ相当）を既に持つことを前提としているので注意すること。				
テキスト	資料を配付する				
参考書	授業内で紹介する				

科目名	WebプログラミングⅠ			期間	前期
担当教員	正司 哲朗	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	Webプログラミングを用いて、独自のWebアンケートシステムを設計・実装できる技術を身につける。				
到達目標	Webプログラミングに必要なHTML言語、PHP言語、データベースの基礎知識を学び、簡単なWebアンケートが設計・実装できる技術を身につける。				
授業概要	ホームページで使われているHTML言語について解説する。また、サーバとクライアントの関係について説明し、作成したHTMLファイルを公開する方法について説明する。次に、データベースの基礎、PHP言語からデータベースを扱う方法について説明する。最後に、独自にWebアンケートを設計、それをHTML言語、PHP言語を使って実装し、回答結果をデータベースに蓄積する方法を解説し、簡単な集計処理方法について説明する。				
評価方法・基準	成績は、HTML言語、PHP言語、Webアンケートに関する各課題（各20点）、および最終レポート課題（40点）で評価する。各課題は、基本文法が正しく理解でき、プログラムが機能しているかを評価する。				
履修上の注意事項等	パソコンの基本操作は習得済みであること。基本操作でわからないことがある者は情報処理センターのサポートを受けること。受講する場合には、「情報学」を履修済、もしくは履修中のこと。				
テキスト	web教材				
参考書					

科目名	WebプログラミングⅡ			期間	後期
担当教員	吉田 光次	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	動的なウェブページ作成に使われるJavaScriptの初歩を理解しよう。				
到達目標	HTML,CSS,JavaScriptによるウェブページの仕組みを理解し、動的なウェブページを作成する。また、閲覧可能なウェブサイト上で、動作を確認する。				
授業概要	本科目は、単に文章や画像を表示するのみのウェブページではなく、ユーザーのクリックに反応したり、条件によって異なる表示をしたり、動的な挙動をするウェブページを作成する仕組みとして、JavaScriptの初歩を学習する。JavaScriptは、プログラミング言語の一種であり、通常の制御構造を有するので、それらを理解したうえで、ウェブ上での実装を実現する。学生自身のPCを使い、プログラミングを行うので、毎回PCを持参しなければならない。				
評価方法・基準	授業中に作成したプログラムを提出する。また、事後学習としていくつか課題を作成する。それらのプログラムの完成度を評価の基準とする。				
履修上の注意事項等	受講者自身のPCを利用するので、毎回持参すること。PC利用については上級レベルの知識が必要である。課題は授業時間内に完成することは少なく、事後学習として作業を続けることが必要となることも覚悟し、かなりの学習時間を要する見込みである。				
テキスト	プリントなどを配付				
参考書					

科目名	キャリアデザイン（一）			期間	前期
担当教員	★講師（キャリア）	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	自分の将来を考え「10年後のなりたい姿」を描き、そのために必要となるキャリアを理解する。				
到達目標	現在から将来像を描くために「自分はどのような人間か」「社会に出て何ができるのか」「大学生活をどう過ごせばよいのか」を確認し、大学生活、将来の実行計画を立案できるようにする。				
授業概要	大学生活は将来への重要なステップである。この授業では、将来希望するキャリアを実現させるため、実務家であるキャリアカウンセラーの教員が実社会で行っているキャリアデザインの内容を学べる授業である。また併せて、社会で求められる社会人基礎力も育成していく。				
評価方法・基準	授業での個人ワークへの取り組み方、毎回提出のシート、到達目標であるキャリアプランシート（パーソナルカルテ）を、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業は最終課題を作成・提出するために、毎回の課題が行われる。ワーク時間の減少にもつながるので、欠席・遅刻には注意。この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員の企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	市販テキストは使用しない				
参考書					

科目名	キャリアデザイン（二）			期間	前期
担当教員	★講師（キャリア）	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	自分の将来を考え「10年後のなりたい姿」を描き、そのために必要となるキャリアを理解する。				
到達目標	現在から将来像を描くために「自分はどのような人間か」「社会に出て何ができるのか」「大学生活をどう過ごせばよいのか」を確認し、大学生活、将来の実行計画を立案できるようにする。				
授業概要	大学生活は将来への重要なステップである。この授業では、将来希望するキャリアを実現させるため、実務家であるキャリアカウンセラーの教員が実社会で行っているキャリアデザインの内容を学べる授業である。また併せて、社会で求められる社会人基礎力も育成していく。				
評価方法・基準	授業での個人ワークへの取り組み方、毎回提出のシート、到達目標であるキャリアプランシート（パーソナルカルテ）を、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業は最終課題を作成・提出するために、毎回の課題が行われる。ワーク時間の減少にもつながるので、欠席・遅刻には注意。この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員の企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	市販テキストは使用しない				
参考書					

科目名	キャリアデザイン（三）			期間	前期
担当教員	★講師（キャリア）	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	自分の将来を考え「10年後のなりたい姿」を描き、そのために必要となるキャリアを理解する。				
到達目標	現在から将来像を描くために「自分はどのような人間か」「社会に出て何ができるのか」「大学生活をどう過ごせばよいのか」を確認し、大学生活、将来の実行計画を立案できるようにする。				
授業概要	大学生活は将来への重要なステップである。この授業では、将来希望するキャリアを実現させるため、実務家であるキャリアカウンセラーの教員が実社会で行っているキャリアデザインの内容を学べる授業である。また併せて、社会で求められる社会人基礎力も育成していく。				
評価方法・基準	授業での個人ワークへの取り組み方、毎回提出のシート、到達目標であるキャリアプランシート（パーソナルカルテ）を、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業は最終課題を作成・提出するために、毎回の課題が行われる。ワーク時間の減少にもつながるので、欠席・遅刻には注意。この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員の企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	市販テキストは使用しない				
参考書					

科目名	キャリアデザイン（四）			期間	前期
担当教員	★講師（キャリア）	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	自分の将来を考え「10年後のなりたい姿」を描き、そのために必要となるキャリアを理解する。				
到達目標	現在から将来像を描くために「自分はどのような人間か」「社会に出て何ができるのか」「大学生活をどう過ごせばよいのか」を確認し、大学生活、将来の実行計画を立案できるようにする。				
授業概要	大学生活は将来への重要なステップである。この授業では、将来希望するキャリアを実現させるため、実務家であるキャリアカウンセラーの教員が実社会で行っているキャリアデザインの内容を学べる授業である。また併せて、社会で求められる社会人基礎力も育成していく。				
評価方法・基準	授業での個人ワークへの取り組み方、毎回提出のシート、到達目標であるキャリアプランシート（パーソナルカルテ）を、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業は最終課題を作成・提出するために、毎回の課題が行われる。ワーク時間の減少にもつながるので、欠席・遅刻には注意。この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員の企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	市販テキストは使用しない				
参考書					



科目名	キャリアデザイン (五)			期間	前期
担当教員	★講師 (キャリア)	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	自分の将来を考え「10年後のなりたい姿」を描き、そのために必要となるキャリアを理解する。				
到達目標	現在から将来像を描くために「自分はどのような人間か」「社会に出て何ができるのか」「大学生活をどう過ごせばよいのか」を確認し、大学生活、将来の実行計画を立案できるようにする。				
授業概要	大学生活は将来への重要なステップである。この授業では、将来希望するキャリアを実現させるため、実務家であるキャリアカウンセラーの教員が実社会で行っているキャリアデザインの内容を学べる授業である。また併せて、社会で求められる社会人基礎力も育成していく。				
評価方法・基準	授業での個人ワークへの取り組み方、毎回提出のシート、到達目標であるキャリアプランシート（パーソナルカルテ）を、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業は最終課題を作成・提出するために、毎回の課題が行われる。ワーク時間の減少にもつながるので、欠席・遅刻には注意。この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員の企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	市販テキストは使用しない				
参考書					

科目名	キャリアデザイン (六)			期間	前期
担当教員	★講師 (キャリア)	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	自分の将来を考え「10年後のなりたい姿」を描き、そのために必要となるキャリアを理解する。				
到達目標	現在から将来像を描くために「自分はどのような人間か」「社会に出て何ができるのか」「大学生活をどう過ごせばよいのか」を確認し、大学生活、将来の実行計画を立案できるようにする。				
授業概要	大学生活は将来への重要なステップである。この授業では、将来希望するキャリアを実現させるため、実務家であるキャリアカウンセラーの教員が実社会で行っているキャリアデザインの内容を学べる授業である。また併せて、社会で求められる社会人基礎力も育成していく。				
評価方法・基準	授業での個人ワークへの取り組み方、毎回提出のシート、到達目標であるキャリアプランシート（パーソナルカルテ）を、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業は最終課題を作成・提出するために、毎回の課題が行われる。ワーク時間の減少にもつながるので、欠席・遅刻には注意。この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員の企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	市販テキストは使用しない				
参考書					

科目名	キャリアデザイン (七)			期間	前期
担当教員	★講師 (キャリア)	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	自分の将来を考え「10年後のなりたい姿」を描き、そのために必要となるキャリアを理解する。				
到達目標	現在から将来像を描くために「自分はどのような人間か」「社会に出て何ができるのか」「大学生活をどう過ごせばよいのか」を確認し、大学生活、将来の実行計画を立案できるようにする。				
授業概要	大学生活は将来への重要なステップである。この授業では、将来希望するキャリアを実現させるため、実務家であるキャリアカウンセラーの教員が実社会で行っているキャリアデザインの内容を学べる授業である。また併せて、社会で求められる社会人基礎力も育成していく。				
評価方法・基準	授業での個人ワークへの取り組み方、毎回提出のシート、到達目標であるキャリアプランシート（パーソナルカルテ）を、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業は最終課題を作成・提出するために、毎回の課題が行われる。ワーク時間の減少にもつながるので、欠席・遅刻には注意。この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員の企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	市販テキストは使用しない				
参考書					

科目名	キャリアデザイン (八)			期間	前期
担当教員	★講師 (キャリア)	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	自分の将来を考え「10年後のなりたい姿」を描き、そのために必要となるキャリアを理解する。				
到達目標	現在から将来像を描くために「自分はどのような人間か」「社会に出て何ができるのか」「大学生活をどう過ごせばよいのか」を確認し、大学生活、将来の実行計画を立案できるようにする。				
授業概要	大学生活は将来への重要なステップである。この授業では、将来希望するキャリアを実現させるため、実務家であるキャリアカウンセラーの教員が実社会で行っているキャリアデザインの内容を学べる授業である。また併せて、社会で求められる社会人基礎力も育成していく。				
評価方法・基準	授業での個人ワークへの取り組み方、毎回提出のシート、到達目標であるキャリアプランシート（パーソナルカルテ）を、総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業は最終課題を作成・提出するために、毎回の課題が行われる。ワーク時間の減少にもつながるので、欠席・遅刻には注意。この科目は、実務経験のある教員による授業科目です。担当教員の企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	市販テキストは使用しない				
参考書					

科目名	インターンシップ概論			期間	後期
担当教員	★坂本 勝	単位数	2	配当年次	1
テーマ	インターンシップへの参加を通じて、就業について考える。				
到達目標	2・3年次の就業体験（インターンシップ）に先立ちインターンシップの目的を明確にし社会人として働くことの意義を理解し就業意識を高める。				
授業概要	インターンシップとは将来の職業選択や就職後の職業への適応力を高めることを目的とした就業体験である。翌年次の実習の準備段階としてキャリアセンターと連携し、企業人をゲストに招き、授業内で講話や指導を通じて、働くことの意義を深く考える。この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施し、社会人に求められるスキルや資質を育成する。				
評価方法・基準	授業毎のレポートの提出および内容を重視する。評価方法・レポート課題提出80%、レポート内容評価点20%				
履修上の注意事項等	次年度、インターンシップ実習を受講するにはこのインターンシップ概論の単位取得が必要である。				
テキスト	キャリアデザインテキスト第3版、専修大学キャリアデザインセンター編、専修大学出版社、2021				
参考書	なし				

科目名	インターンシップ実習			期間	その他
担当教員	共同	単位数	2	配当年次	2-3
テーマ	実習受入先で5日以上かつ30時間以上、職場での就業体験プログラム（インターンシップ）を経験する。				
到達目標	中長期の就業体験参加を通して、職業への理解を深めるとともに、就業意識の確立を目指す。				
授業概要	この授業は、夏期休業期間中の学外インターンシップと、事前及び事後の学習から成り立っている。本来のインターンシップとは就業体験を伴うもの（オープン・カンパニーやグループワークはこれに当てはまらない）であることから、学外の企業や団体等の実習受入先を多数用意し、そこでの職場体験や業務上の問題解決への取り組みを経験し、将来の職業選択や職業への適性について理解を深める。				
評価方法・基準	○実習先評価 50点…①意欲・向上心②コミュニケーション能力③バイタリティー④企画・発想力⑤マナー・礼儀の5項目を、5段階評価する。 ○提出物評価 50点…事前研修会レポート（20点）、事後研修会レポート（20点）、実習日誌（10点）の内容を評価する。				
履修上の注意事項等	前年度までに「インターンシップ概論」（1-2年次配当）を単位取得していることが履修条件となる。学外で行われる事前・事後研修会は無断欠席や遅刻は厳禁である。これらの研修会等は、授業と重なることがあるので、他授業の履修者は、必ず事前にキャリアセンターに相談すること。				
テキスト	使用しない				
参考書	なし				

科目名	生涯学習概論（一）			期間	前期
担当教員	★近藤 凜太郎	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	生涯学習の歴史・理論・実践について学ぶ。				
到達目標	「生涯学習」にかんする基礎知識を吸収する。また、生涯学習について、歴史的・理論的・実践的に考える力を身につける。				
授業概要	「生涯学習」にかんして歴史的・理論的・実践的に学ぶ。そのために以下二つの課題に取り組む。 ①「生涯学習」を歴史的、人間学的、社会的、心理学的な観点から理論的に検討する。 ②「生涯学習」の現状、問題点、可能性について検討する。				
評価方法・基準	・授業中の小レポート（講義内容の理解度を確認）10% ・期末レポート（論理性と独自性を重視）90%				
履修上の注意事項等	・小レポートの用紙（コメントシート）は持ち帰らず、毎回提出すること。 ・複数回（3回程度）のグループディスカッションを行う予定。 ・テーマに関連のある映像資料を用いて授業を行う可能性がある。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	生涯学習概論（二）			期間	後期
担当教員	★近藤 凜太郎	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	生涯学習に関する歴史・理論・実践について学ぶ。				
到達目標	生涯学習について生涯発達を中心とした多様な視点から考察し、理解できるようにする。生涯学習の概念が確立する前後で、「学び」の意味や位置づけがどのように変容したのかを適切に説明できることが目標。				
授業概要	1. 生涯学習・社会教育の理念と歴史 2. 生涯発達と学習課題 3. 生涯学習・社会教育の内容と方法 4. 生涯学習と家庭教育・学校教育 5. 生涯学習の今後の可能性				
評価方法・基準	授業中の小レポート10%（授業内容の理解度） 課題レポート90%（独自性と完成度を重視）				
履修上の注意事項等	出席することは当然の前提条件。加えて積極的に思考し、疑問や批判的視点を持ちながらの参加を求める。期末レポートを提出しない場合は単位認定の対象としない。				
テキスト	使用しない				
参考書	なし				

# 資 格 科 目





科目名	教育原理（一）			期間	前期
担当教員	中戸 義雄	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	教育を支える原理の考察。教育の基本的な概念を理解し、今日の多様な教育現象やこれまでの教育の歴史・思想を検討する。				
到達目標	自らがもつ教育観も踏まえ、多様な教育的事象を確認しつつ視野を広げながら、自分なりの教育観を自覚・形成していくことをめざす。その際には教育の基本的な概念、教育の歴史の変遷、教育に関わるさまざまな思想を理解し、それらの相互の関係性についての認識を深めていく。現代の教育・学校がもつ問題点とその可能性を的確に説明できるようになることが目標。				
授業概要	現代社会の急激な変化の中で、学校教育に代表される教育のあり方もその転換を余儀なくされている。人間の素朴な営みであった教育が社会システムとして巨大化し、その全体像を見極めることは今日では容易ではない。この授業では、こうした教育という営みを原理的・歴史的・思想的に問い直し、必要に応じて個別的な諸問題も取り上げながら考察していきたい。				
評価方法・基準	授業中の小レポート50%（各授業内容の理解度と問いの設定の仕方を重視）、課題レポート50%（自分なりの問題設定とそれについての調査・探究の程度を重視）				
履修上の注意事項等	出席することは当然の前提条件。加えて積極的に思考し、疑問や批判的視点も持ちながらの参加を求める。				
テキスト	探究・教育原論, 田井康雄・中戸義雄編, 学術図書出版社, 2005				
参考書					

科目名	教育原理（二）			期間	後期
担当教員	中戸 義雄	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	教育を支える原理の考察。教育の基本的な概念を理解し、今日の多様な教育現象やこれまでの教育の歴史・思想を検討する。				
到達目標	自らがもつ教育観も踏まえ、多様な教育的事象を確認しつつ視野を広げながら、自分なりの教育観を自覚・形成していくことをめざす。その際には教育の基本的な概念、教育の歴史の変遷、教育に関わるさまざまな思想を理解し、それらの相互の関係性についての認識を深めていく。現代の教育・学校がもつ問題点とその可能性を的確に説明できるようになることが目標。				
授業概要	現代社会の急激な変化の中で、学校教育に代表される教育のあり方もその転換を余儀なくされている。人間の素朴な営みであった教育が社会システムとして巨大化し、その全体像を見極めることは今日では容易ではない。この授業では、こうした教育という営みを原理的・歴史的・思想的に問い直し、必要に応じて個別的な諸問題も取り上げながら考察していきたい。				
評価方法・基準	授業中の小レポート50%（各授業内容の理解度と問いの設定の仕方を重視）、課題レポート50%（自分なりの問題設定とそれについての調査・探究の程度を重視）				
履修上の注意事項等	出席することは当然の前提条件。加えて積極的に思考し、疑問や批判的視点も持ちながらの参加を求める。				
テキスト	探究・教育原論, 田井康雄・中戸義雄編, 学術図書出版社, 2005				
参考書					

科目名	教職論（一）			期間	前期
担当教員	大西 英人	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	価値ある教育専門家をめざす資質・態度の育成				
到達目標	教職の性格、教職の専門性の理解と確かな教育観を形成する態度・能力を身につける。				
授業概要	教職の専門性、教師文化、教育制度改革等の考察を通して教職の意義及び教員の役割、職務内容、チーム学校としての学校運営等について理解を深める。授業では、具体的な学校現場の事例に照らし、教育の今日的な課題に迫りながら教員・教職とは何かを考えることにより、教職を目指すための基本的力量形成を図る。				
評価方法・基準	対話カード・講義内レポート（20%）関心・意欲・態度を評価 課題レポート（80%）で考察力、表現力等を評価する。				
履修上の注意事項等	積極的・能動的な態度で受講すること。				
テキスト	中学校学習指導要領, 文部科学省, 東山書房, 平成29年 適宜配付する講義関係資料				
参考書					

科目名	教職論（二）			期間	後期
担当教員	大西 英人	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	価値ある教育専門家をめざす資質・態度の育成				
到達目標	教職の性格、教職の専門性の理解と確かな教育観を形成する態度・能力を身につける。				
授業概要	教職の専門性、教師文化、教育制度改革等の考察を通して教職の意義及び教員の役割、職務内容、チーム学校としての学校運営等について理解を深める。授業では、具体的な学校現場の事例に照らし、教育の今日的な課題に迫りながら教員・教職とは何かを考えることにより、教職を目指すための基本的力量形成を図る。				
評価方法・基準	対話カード・講義内レポート（20%）関心・意欲・態度を評価 課題レポート（80%）で考察力、表現力等を評価する。				
履修上の注意事項等	積極的・能動的な態度で受講すること。				
テキスト	中学校学習指導要領, 文部科学省, 東山書房, 平成29年 適宜配付する講義関係資料				
参考書					

科目名	教育行政・制度論（一）			期間	前期
担当教員	大西 英人	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	教育現場の現状を踏まえ、教育法規、教育行政、学校教育の基本的な枠組み等についての理解を深める。				
到達目標	教育現場の実際を知り、教育についての組織や制度に関する基本的な理解を深め、それを基に教育上の課題を自分なりに考えることができる力量を養う。同時に、教職に関する関心・意欲を高める。				
授業概要	学校教育の状況を踏まえ、教育法規、教育行政、学校教育制度等について、基本的な事項を体系的に解説し、理解させる。諸外国の状況等についても触れ、教育の在り方について多角的に考察させる。				
評価方法・基準	対話カード（10%）で意欲、関心、態度等を評価する。課題レポート（50%）で考察力、表現力等を評価する。試験（40%）で教育行政・制度についての理解度を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業の都度資料の配布を行うため、資料の整理に努めること。				
テキスト	特になし				
参考書	授業の都度資料配布				

科目名	教育行政・制度論（二）			期間	後期
担当教員	★堀川 忠道	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	教育現場の現状を踏まえ、教育法規、教育行政、学校教育の基本的な枠組み等について理解を深める。				
到達目標	教育現場の実際を知り、教育行政並びに教育制度の根本を理解する。				
授業概要	学校教育の状況を踏まえ、教育法規、教育行政、学校教育制度等について解説し、理解させる。				
評価方法・基準	対話カード（10%）で意欲、関心、態度等を評価する。課題レポート（50%）で考察力、表現力等を評価する。試験（40%）で教育行政・制度についての理解度を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	授業の都度資料の配布を行うため、資料の整理に努めること。				
テキスト	特になし				
参考書	授業の都度資料配布				

科目名	教育心理学（一）			期間	前期
担当教員	★武藤 百合	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	人の学びを心理学の視点から理解・支援する「教育心理学」の知識を得て、実践的・体験的な学習を通してその多彩な世界に触れる。				
到達目標	教職に就いた際の学習指導に役立つ、乳幼児期・児童期・青年期などの発達や学びのメカニズム、教育実践や特別な支援、心理的支援についての基本的知識や実践的な技術を身につける。				
授業概要	授業は講師が作成したスライド資料をテキストとして進めます。毎回の授業の合間に授業内容に関する感想レポートの作成を行い、自分自身の感想や意見をまとめ、発表する機会を設けます。また、必要に応じてグループワークを行い、グループでの話し合いやロールプレイングを通して、実践的・体験的に学んでいただきます。				
評価方法・基準	毎回（15回）の授業内容についての感想レポート（60点）と第15回の講義終了時に1回出す予定の長めのレポート（40点）の合計点（100点）。オリジナリティのある内容を評価します。				
履修上の注意事項等	実践的・体験的に学んでいただきますので、感想レポートの記入やその内容の発表・グループワークなどに対する積極的・主体的な取り組みを望みます。正当な理由なく5回以上欠席された場合は、評価の対象とせず、単位を認定できませんのでご注意ください。				
テキスト	なし				
参考書	『たのしく学べる最新教育心理学—教職に関わるすべての人に』、櫻井茂男、図書文化、2017 『よくわかる教育心理学』、中澤潤、ミネルヴァ書房、2008 『教育心理学』、田爪宏二、ミネルヴァ書房、2018				

科目名	教育心理学（二）			期間	後期
担当教員	★武藤 百合	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	人の学びを心理学の視点から理解・支援する「教育心理学」の知識を得て、実践的・体験的な学習を通してその多彩な世界に触れる。				
到達目標	教職に就いた際の学習指導に役立つ、乳幼児期・児童期・青年期などの発達や学びのメカニズム、教育実践や特別な支援、心理的支援についての基本的知識や実践的な技術を身につける。				
授業概要	授業は講師が作成したスライド資料をテキストとして進めます。毎回の授業の合間に授業内容に関する感想レポートの作成を行い、自分自身の感想や意見をまとめ、発表する機会を設けます。また、必要に応じてグループワークを行い、グループでの話し合いやロールプレイングを通して、実践的・体験的に学んでいただきます。				
評価方法・基準	毎回（15回）の授業内容についての感想レポート（60点）と第15回の講義終了時に1回出す予定の長めのレポート（40点）の合計点（100点）。オリジナリティのある内容を評価します。				
履修上の注意事項等	実践的・体験的に学んでいただきますので、感想レポートの記入やその内容の発表・グループワークなどに対する積極的・主体的な取り組みを望みます。正当な理由なく5回以上欠席された場合は、評価の対象とせず、単位を認定できませんのでご注意ください。				
テキスト	なし				
参考書	たのしく学べる最新教育心理学—教職に関わるすべての人に—、櫻井茂男、図書文化、2017 よくわかる教育心理学、中澤潤、ミネルヴァ書房、2008 教育心理学、田爪宏二、ミネルヴァ書房、2018				

科目名	特別支援教育（一）			期間	前期
担当教員	★中川 貴明	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	共生社会の実現を目指した教育				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育の理念や背景を理解するとともに、近年の特別支援教育の現状の把握とその在り方について考えることができる。</li> <li>・知的障害や発達障害を含む様々な障害についての基礎知識を身につけるとともに、様々な教育的ニーズについて理解する。</li> <li>・特別支援教育のカリキュラムや指導・支援の方法について理解するとともに、多様な指導・支援に必要な基本的知識や態度を身につける。</li> </ul>				
授業概要	共生社会の実現に向けてインクルーシブ教育システムの推進が今日的課題になっている。本授業では、インクルーシブ教育の理念を踏まえ、多様な指導・支援を行うために必要な知識と態度の定着を目指す。そのために、障害特性と個別性の理解・発達の視点の理解・生活実態の理解を柱にした的確な実態把握の重要性とそれに基づく適切な支援の在り方を学ぶ。そして、障害とは何かを深く理解し、困難を抱える当事者・家族の視点に立って自立生活へ向けた支援を行うために必要な態度とは何かを考えていく。				
評価方法・基準	平常点30%（講義中の姿勢や質問などの積極性） 講義毎のミニレポート30%（各講義の学びの内容と自身の考えを論じることが出来ているか） 期末レポート40%（講義全体を通しての現状と課題を理解できているか、そして、諸課題の推進に向けて自身の考えを論じることができているかを評価する）				
履修上の注意事項等	初回到評価方法や授業の進め方などについての説明を行う。また講義にそって適時プリントを配布する。参考文献に関しては授業内で指示する。				
テキスト					
参考書					

科目名	特別支援教育（二）			期間	後期
担当教員	★中川 貴明	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	共生社会の実現を目指した教育				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育の理念や背景を理解するとともに、近年の特別支援教育の現状の把握とその在り方について考えることができる。</li> <li>・知的障害や発達障害を含む様々な障害についての基礎知識を身につけるとともに、様々な教育的ニーズについて理解する。</li> <li>・特別支援教育のカリキュラムや指導・支援の方法について理解するとともに、多様な指導・支援に必要な基本的知識や態度を身につける。</li> </ul>				
授業概要	共生社会の実現に向けてインクルーシブ教育システムの推進が今日的課題になっている。本授業では、インクルーシブ教育の理念を踏まえ、多様な指導・支援を行うために必要な知識と態度の定着を目指す。そのために、障害特性と個別性の理解・発達の視点の理解・生活実態の理解を柱にした的確な実態把握の重要性とそれに基づく適切な支援の在り方を学ぶ。そして、障害とは何かを深く理解し、困難を抱える当事者・家族の視点に立って自立生活へ向けた支援を行うために必要な態度とは何かを考えていく。				
評価方法・基準	平常点30%（講義中の姿勢や質問などの積極性） 講義毎のミニレポート30%（各講義の学びの内容と自身の考えを論じることが出来ているか） 期末レポート40%（講義全体を通しての現状と課題を理解できているか、そして、諸課題の推進に向けて自身の考えを論じることができているかを評価する）				
履修上の注意事項等	初回到評価方法や授業の進め方などについての説明を行う。また講義にそって適時プリントを配布する。参考文献に関しては授業内で指示する。				
テキスト					
参考書					

科目名	教育課程論（一）			期間	前期
担当教員	★辻 寛司	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	教育課程の理論と構造及びその編成の実際を学ぶ				
到達目標	教育課程の構造と諸概念を理解し、学習指導要領のあり方も確認しながら教育課程を編成し、カリキュラム・マネジメントを行う基礎力を養うことをめざす。学習内容を踏まえ、独自に設定したテーマでの学習指導案の作成が目標。				
授業概要	教育課程（カリキュラム）の構造と諸概念を概観する。総合的な学習（探究）の時間の実施などにもみられるように、これからの学校・教師にはこれまで以上にカリキュラム編成の能力が求められるようになってきた。そこでこの授業では、カリキュラムの構造を理解し、その編成の実際についても考えていきたい。				
評価方法・基準	『対話カード』（関心・意欲・態度）、『スピーチ』（課題意識と表現力、伝達力）、『学習指導案』（完成度）と『課題レポート』（自身の見解が明確に示され深められているか）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	本講座は教員免許状の課程認定科目です。積極的かつ能動的な態度で受講すること。担当は実務経験のある教員です。担当教員が学校教育現場や教育行政機関で従事した経験もふまえて授業をしますので、課題意識や目的意識をもって受講すること。				
テキスト	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編、文部科学省、東山書房、2018、適宜配付する講義資料				
参考書					

科目名	教育課程論（二）			期間	後期
担当教員	★鈴木 伸尚	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	教育課程の理論と構造を学ぶ				
到達目標	①教育課程の基本的な考え方を学んだうえで、その歴史と編成を考察する。②学習指導要領のあり方や変遷について理解する。③教育・学習活動をマネジメントする力を養う。				
授業概要	現代日本の教育状況において、教育課程の基本的な考え方を身につけることが必要不可欠となっている。本授業では、教育課程ないしカリキュラムの理論や歴史について学んだうえで、実践的な学習を通じて教育・学習活動をマネジメントする力を養う。				
評価方法・基準	授業態度（30%）、グループ発表（30%）、期末試験（40%）により総合的に評価を行う。 授業態度の評価では、各授業回ごとのミニレポート・コメントシートの記述を重視する。				
履修上の注意事項等	授業は、テキスト・配布資料に沿って行う。授業で分からなかった内容は適宜質問して理解するよう努めること。 また、授業内のディスカッションでは積極的に意見表明すること。 授業の後半で行うグループワークとグループ発表では責任をもって協働すること。				
テキスト	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編、文部科学省、東山書房、2018 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総則編、文部科学省、東洋館出版社、2019 教育課程論のフロンティア、大津尚志・伊藤良高編著、晃洋書房、2018				
参考書					

科目名	道徳教育論（一）			期間	前期
担当教員	中戸 義雄	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	道徳教育実践のための原理的・実践的考察				
到達目標	道徳の意義や原理を踏まえ、道徳教育の柱となる道徳科の目標や内容や指導計画などを理解する。これらをもとに、児童生徒が自らの生き方を考えられる道徳教育・道徳授業を構成・実践できる基礎力を身につけることをめざす。道徳科の学習指導案を作成し、それに基づいた授業を行えることが目標。				
授業概要	「道徳的」ということは堅苦しく融通の利かないイメージとしてとらえられることが多い。しかし道徳は自分自身、他者そして社会などと自分とのかかわりのあり方をとらえたものであり、その点からも動的であることが理解される。本授業では、まず道徳の本質やそのあり方を理解し、学校教育における道徳教育が目指すものを考察していく。そのうえで、学校の教育活動全体を通して実践される必要のある道徳教育のあり方を多面的に考察し、その実践への基礎を身に付けていく。				
評価方法・基準	授業中の小レポート 30%（授業内容の理解度）、プレゼンテーション・研究発表 20%（事前の準備と独自性を重視）と自作の学習指導案 50%（独自性と完成度を重視）				
履修上の注意事項等	出席することは当然の前提条件。加えて積極的な参加を求める。プレゼンテーションに参加しない者は単位認定を行わない。				
テキスト	道徳教育の可能性、中戸義雄他編、ナカニシヤ出版、2005 中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編、文部科学省、教育出版、2018				
参考書					

科目名	道徳教育論（二）			期間	後期
担当教員	中戸 義雄	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	道徳教育実践のための原理的・実践的考察				
到達目標	道徳の意義や原理を踏まえ、道徳教育の柱となる道徳科の目標や内容や指導計画などを理解する。これらをもとに、児童生徒が自らの生き方を考えられる道徳教育・道徳授業を構成・実践できる基礎力を身につけることをめざす。道徳科の学習指導案を作成し、それに基づいた授業を行えることが目標。				
授業概要	「道徳的」ということは堅苦しく融通の利かないイメージとしてとらえられることが多い。しかし道徳は自分自身、他者そして社会などと自分とのかかわりのあり方をとらえたものであり、その点からも動的であることが理解される。本授業では、まず道徳の本質やそのあり方を理解し、学校教育における道徳教育が目指すものを考察していく。そのうえで、学校の教育活動全体を通して実践される必要のある道徳教育のあり方を多面的に考察し、その実践への基礎を身に付けていく。				
評価方法・基準	授業中の小レポート 30%（授業内容の理解度）、プレゼンテーション・研究発表 20%（事前の準備と独自性を重視）と自作の学習指導案 50%（独自性と完成度を重視）				
履修上の注意事項等	出席することは当然の前提条件。加えて積極的な参加を求める。プレゼンテーションに参加しない者は単位認定を行わない。				
テキスト	道徳教育の可能性、中戸義雄他編、ナカニシヤ出版、2005 中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編、文部科学省、教育出版、2018				
参考書					

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（一）			期間	前期
担当教員	大西 英人	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	「特別活動」のあるべき姿の理解とその指導法、「総合的な学習の時間」を効果的に指導する力量を育成する。				
到達目標	「特別活動」「総合的な学習の時間」の目標を達成する指導理論と実践の基礎を身につける。				
授業概要	「特別活動」及び「総合的な学習の時間」の基本的な知識を得ると共に、各々の教育活動の指導で果たす教員の役割などについて理解する。授業では、学習指導要領の解説に基づき、理論と実践（模擬授業）を展開するとともに、この教育活動の性質を踏まえ、模擬授業においては、グループワークやプレゼンテーションを積極的に取り入れる。				
評価方法・基準	対話カード（10%）で関心・意欲・態度を評価する。課題レポート並びにホームルーム活動指導案の作成等により、考察力、表現力等を総合的に評価（90%）する。				
履修上の注意事項等	講義内のワーク等については、積極的な姿勢で参加すること				
テキスト	中学校学習指導要領解説 特別活動編、文部科学省、東山書房、平成29年 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編、文部科学省、東山書房、平成29年				
参考書					

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法（二）			期間	後期
担当教員	★山本 雅一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	「望ましい集団活動を通して」という方法原理を軸にしながら、特別活動のあるべき姿とその指導法、また各教科学習及び教育活動で育まれる見方・考え方を総合的に活用して実社会で生きる力や知識・技能を獲得するための指導法を探究する。				
到達目標	「特別活動」及び「総合的な学習の時間」の目標を達成する指導理論と実践の基礎を身に付ける。				
授業概要	「特別活動」及び「総合的な学習の時間」の基本的な知識を得るとともに、各々の教育活動の指導で果たす教員の役割などについて理解する。授業では、学習指導要領の解説に基づき、理論と実践（演習・事例研究等）を展開するとともに、その性質を踏まえて演習を盛り込み、学生の発表・質疑を適宜取り入れる。				
評価方法・基準	学習到達度確認（50%）、授業中の課題発表、各指導案の作成等（50%）により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	「特別活動」「総合的な学習の時間」は、講義において指導法の基礎を理解するとともに、具体的な指導案の作成及び実践演習等を取り入れるので、積極的・能動的に臨むこと。				
テキスト	高等学校学習指導要領解説 特別活動編、文部科学省、東京書籍、平成30年 高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間、文部科学省、学校図書、平成30年				
参考書					



科目名	教育方法・技術論（ICTの活用含む）（一）			期間	前期
担当教員	★笠置 慎一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業のデザインとそのためのICTの活用				
到達目標	授業をデザインするために必要な要素を理解するとともに、ICTの機能を学習指導に効果的に活用できるスキルを身につける。				
授業概要	社会で求められる人材の多様化が一層進むなかで、学校教育においても、生徒の学習への興味・関心を高めるなど、それぞれの個性を生かした主体的な授業の有り様が求められている。本講座では、授業をデザインするために必要な要素を理解するとともに、電子黒板をはじめICTの機能を生徒の学習活動に生かすことのできるスキルを身につけ、生きる力を育む授業の方法を考える。				
評価方法・基準	毎回の授業で示した課題や探究のレポートの提出及び内容で評価する。レポートでは、資料収集、分析、考察、持論等が適切に展開できているか（課題に真摯に取り組む姿勢など）を重視する。				
履修上の注意事項等	特になし				
テキスト	テキストは使用しないが、講義レジュメ及び参考資料による。Web上の必見サイトや探究サイトを随時紹介する。				
参考書	中学校学習指導要領解説 国語編 / 社会編、文部科学省、教育出版 高等学校学習指導要領解説 国語編・地理歴史編・公民編・情報編、文部科学省、教育出版				

科目名	教育方法・技術論（ICTの活用含む）（二）			期間	後期
担当教員	★笠置 慎一	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業のデザインとそのためのICTの活用				
到達目標	授業をデザインするために必要な要素を理解するとともに、ICTの機能を学習指導に効果的に活用できるスキルを身につける。				
授業概要	社会で求められる人材の多様化が一層進むなかで、学校教育においても、生徒の学習への興味・関心を高めるなど、それぞれの個性を生かした主体的な授業の有り様が求められている。本講座では、授業をデザインするために必要な要素を理解するとともに、電子黒板をはじめICTの機能を生徒の学習活動に生かすことのできるスキルを身につけ、生きる力を育む授業の方法を考える。				
評価方法・基準	毎回の授業で示した課題や探究のレポートの提出及び内容で評価する。レポートでは、資料収集、分析、考察、持論等が適切に展開できているか（課題に真摯に取り組む姿勢など）を重視する。				
履修上の注意事項等	特になし				
テキスト	テキストは使用しないが、講義レジュメ及び参考資料による。Web上の必見サイトや探究サイトを随時紹介する。				
参考書	中学校学習指導要領解説 国語編 / 社会編、文部科学省、教育出版 高等学校学習指導要領解説 国語編・地理歴史編・公民編・情報編、文部科学省、教育出版				

科目名	生徒指導論（一）			期間	前期
担当教員	★辻 寛司	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	生徒の「自己指導能力」獲得への指導・援助と生徒指導の在り方の探究				
到達目標	生徒理解の定義や生徒指導上の課題について理解するとともに、学校教育活動全体を通じた指導と校外の連携も含めた組織的・体系的な指導・援助の在り方について理解し、実践的指導力を身につける。				
授業概要	生徒指導は、問題行動等への指導などに限定されるものではなく、学校教育活動全体を通じてその役割を果たすものである。本講座では、テキストや配付資料を基に生徒指導の基本的理論を理解するとともに、今日的な生徒指導上の諸課題に対して生徒指導実践の検討（事例演習）を通して生徒理解に基づく生徒指導やキャリア教育の在り方を探究する。				
評価方法・基準	授業終了時に作成する『小レポート』（授業内容の理解度と課題意識）と『課題レポート』（テーマとどう向き合い、自身の見解を明確に示し、深め、論理的に説明しているか）等により総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	本講座は教員免許状の課程認定科目です。積極的かつ能動的な態度で受講すること。実務経験のある教員が担当します。担当教員が学校教育現場や教育行政機関で従事した経験もふまえて展開しますので、自分なりに課題意識と目的意識をもって受講すること。				
テキスト	生徒指導提要（改訂版）東洋館出版社、2023 適宜講義関係資料を配付する。				
参考書	随時紹介する。				

科目名	生徒指導論（二）			期間	後期
担当教員	大西 英人	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	生徒の「自己指導能力」の育成を目指した実践につながる生徒指導論の探究				
到達目標	生徒理解の上に立って、計画的・組織的な指導・援助・支援が図れる実践的な態度・資質を身につける。				
授業概要	生徒指導にかかる今日の課題に沿って、生徒指導の基本的事項（理論、考え方等）をおさえること並びにこの教育活動の性質を踏まえ、事例演習を通してプレゼンテーションを積極的に取り入れる。				
評価方法・基準	対話カード（10%）で関心、意欲、態度等を評価する。課題レポート及び事例演習（90%）で考察力、表現力等を総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	講義の内容を深めるため、学生の発表や質疑を適宜取り入れるので、授業には積極的・能動的な態度で臨むこと。				
テキスト	生徒指導提要（改訂版）東洋館出版社、2023 適宜講義関係資料を配付する。				
参考書	随時紹介する。				

科目名	教育相談心理学（一）			期間	前期
担当教員	★武藤 百合	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	将来教員を目指す学生が、子どもたちの心に向き合いながらより良い教育相談活動を実践していくための知識や技術を体験的に学ぶ。				
到達目標	現代社会における教育相談の意義を理解し、様々なワークを通して教育相談をすすめる際に必要な基礎的知識や、実践的スキルを身につける。				
授業概要	授業は講師が作成したスライド資料をテキストとして進めます。毎回の授業の合間に授業内容に関する感想レポートの作成を行い、自分自身の感想や意見をまとめ、発表する機会を設けます。また、必要に応じてグループワークを行い、グループでの話し合いやロールプレイングを通して、実践的・体験的に学んでいただきます。				
評価方法・基準	毎回（15回）の授業内容についての感想レポート（60点）と第15回の講義終了時に1回出す予定の長めのレポート（40点）の合計点（100点）。オリジナリティのある内容を評価します。				
履修上の注意事項等	実践的・体験的に学んでいただきますので、感想レポートの記入やその内容の発表・グループワークなどに対する積極的・主体的な取り組みを望みます。正当な理由なく5回以上欠席された場合は、評価の対象とせず、単位を認定できませんのでご注意ください。				
テキスト	なし				
参考書	ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック【第2版】子どもの育ちを支える。向後礼子 / 山本智子。ミネルヴァ書房、2019 これ一冊でわかる「教育相談」―学校心理学と障害福祉の基礎―。大山卓。ジヤース教育新社、2021 新訂版 教育相談基礎の基礎。嶋崎政男。学事出版、2019				

科目名	教育相談心理学（二）			期間	後期
担当教員	★武藤 百合	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	将来教員を目指す学生が、日々子どもたちの心に向き合いながらより良い教育相談活動を実践・展開できるように、必要な知識を学ぶ。				
到達目標	現代社会における教育相談の意義を理解し、様々なワークを通して教育相談をすすめる際に必要な基礎的知識や、実践的スキルを身につける。				
授業概要	授業は講師が作成したスライド資料をテキストとして進めます。毎回の授業の合間に授業内容に関する感想レポートの作成を行い、自分自身の感想や意見をまとめ、発表する機会を設けます。また、必要に応じてグループワークを行い、グループでの話し合いやロールプレイングを通して、実践的・体験的に学んでいただきます。				
評価方法・基準	毎回（15回）の授業内容についての感想レポート（60点）と第15回の講義終了時に1回出す予定の長めのレポート（40点）の合計点（100点）。オリジナリティのある内容を評価します。				
履修上の注意事項等	実践的・体験的に学んでいただきますので、感想レポートの記入やその内容の発表・グループワークなどに対する積極的・主体的な取り組みを望みます。正当な理由なく5回以上欠席された場合は、評価の対象とせず、単位を認定できませんのでご注意ください。				
テキスト	なし				
参考書	教育相談ワークブック【第2版】子どもの育ちを支える。向後礼子 / 山本智子。ミネルヴァ書房、2019 【これ一冊でわかる「教育相談」―学校心理学と障害福祉の基礎―】。大山卓。ジヤース教育新社、2021 新訂版 教育相談基礎の基礎。嶋崎政男。学事出版、2019				

科目名	国語科教育法Ⅰ			期間	前期
担当教員	★元根 俊孝	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	言語の教育及び基幹教科としての国語科教育において「何をどのように学ばせるのか」を探究する。				
到達目標	①国語教育の動向と課題、目指すべき国語科教育の方向性について理解する。②国語科授業で、「何をどのように学ばせるのか」という確かなイメージを持つ。③国語科の特性に応じた情報機器の効果的な活用、教材開発及びその効果的な活用方法を理解する。				
授業概要	学習指導要領に準拠して、国語科の領域ごとに指導内容や方法を学ぶと共に、具体的に学習指導案を作成し、教材研究及び模擬授業・授業研究等を行うことで、国語科教育の本質に迫る。				
評価方法・基準	授業における取り組み姿勢、課題レポート、授業における各種レポートや学習指導案等の提出物及び対話カードにより総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	学習指導案の作成、模擬授業の実施など実践的な活動が主体となるので、積極的な受講・参加が求められる。後期開講の「国語科教材研究Ⅰ」と継続して受講することが望ましい。使用するテキストは「国語科教材研究Ⅰ」と同じである。				
テキスト	「高等学校学習指導要領解説 国語編」, 文部科学省, 東洋館出版社, 平成31年				
参考書	随時紹介する				

科目名	国語科教育法Ⅱ			期間	後期
担当教員	★増田 正子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	現代の国語科教育の課題をとりあげながら、目標・構造・指導過程・実践につながる具体的指導のあり方を考える。				
到達目標	国語科の今日の課題を理解し、課題意識を持って教材研究・授業研究をすすめることができる人材を養成する。				
授業概要	課題意識を持った教材研究・授業研究の方法を学び、各ジャンルの教材について教材研究を行う。また授業を構想し学習指導案を作成すること、さらに模擬授業とその振り返りとしての授業分析によって、よりよい授業へと改善していくことを目標とする。				
評価方法・基準	・平常点（積極的な参加）30% ・授業中の課題（指導案作成30%・模擬授業40%）70% 課題意識を持って教材研究を行い、学習指導案を作成し、模擬授業に取り組むこと。				
履修上の注意事項等	免許・資格科目なので、それにふさわしい真摯な学習態度で受講すること。 授業への積極的な参加・発言を求める。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	中学校学習指導要領, 文科省 高等学校学習指導要領, 文科省				

科目名	社会科教育法Ⅰ（一）			期間	前期
担当教員	★山本 雅一	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会科の目標・内容を理解し、様々な学習指導理論を踏まえて社会科の指導法を探究する。				
到達目標	社会科の目標・内容を理解するとともに、様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行う方法や教科指導力の基礎を身に付ける。				
授業概要	社会科の目標・内容を理解し、様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計と学習指導案を作成する。学習指導案の作成と実際の授業を検証するとともに、授業研究を通して社会科の指導法を探究する。				
評価方法・基準	期末レポート（50％ 学習指導案の作成：授業形態、指導方法、授業展開など総合的に評価する。） 平常点（50％ 授業への意欲、課題への取組、発表等、授業に対する積極性を重視する。）				
履修上の注意事項等	社会科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めること。				
テキスト	中学校学習指導要領解説 社会編、文部科学省、東洋館出版社、平成29年				
参考書					

科目名	社会科教育法Ⅰ（二）			期間	後期
担当教員	★山本 雅一	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	社会科の目標・内容を理解し、様々な学習指導理論を踏まえて社会科の指導法を探究する。				
到達目標	社会科の目標・内容を理解するとともに、様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行う方法や教科指導力の基礎を身に付ける。				
授業概要	社会科の目標・内容を理解し、様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計と学習指導案を作成する。学習指導案の作成と実際の授業を検証するとともに、授業研究を通して社会科の指導法を探究する。				
評価方法・基準	期末レポート（50％ 学習指導案の作成：授業形態、指導方法、授業展開など総合的に評価する。） 平常点（50％ 授業への意欲、課題への取組、発表等、授業に対する積極性を重視する。）				
履修上の注意事項等	社会科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めること。				
テキスト	中学校学習指導要領解説 社会編、文部科学省、東洋館出版社、平成29年				
参考書					

科目名	社会科教育法Ⅱ（一）			期間	後期
担当教員	★角 克明	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	生きる力に結びつく社会科のための教育法研究と実践。社会科教員としての授業実践力を、学習指導計画（授業計画）・模擬授業を経験し考える。				
到達目標	社会科教育法Ⅰや社会科教育研究Ⅰの内容も踏まえながら、授業を構成・実践できる力を身につけることを目標とする。				
授業概要	社会科教員志望者の基本として、地理的分野・歴史的分野・公民的分野のそれぞれの存在意味と、その相互の関連性について①②③の順に考察していく。 ①科目としての社会科の役割を理解する。 ②学習指導計画（授業計画）の作成について学ぶ。 ③全員が模擬授業を行い、相互に評価する。 学習指導計画（授業計画）作成と模擬授業については、丁寧な助言や改善点をアドバイスする。これらを通して教育実習（教育実践）への心構えと実践力を高めることを目指す。以上を通して総合的に社会科教員の指導法を探究する。 ★第1回授業までに履修登録が完了（履修することが確定）していること。また、第1回授業には必ず参加し、説明内容や決定事項を把握すること。 ★この科目の教科書に指定されていない検定教科書（歴史的分野、公民的分野）についても、必要に応じて購入、または閲覧できるようにしておくことがのぞましい。				
評価方法・基準	①学習指導計画（授業計画）の作成・発表（模擬授業）・レポート【自分の授業実践に関する評価】60％ ②授業への参加（質疑・コメントなどを含む）【他者の授業実践への見方・考え方などに関する評価・協調性など】40％ ※詳細は第1回授業等で通知する予定。				
履修上の注意事項等	この授業を受講する場合、グループワークへの登録が必要である。登録に必要な「クラスコード」は学務部のはじめにポータルサイトに掲示されるので、各自で対応すること。模擬授業では、担当の授業者は前日までに学習指導計画（授業計画）、教材準備で使用するもの一式をグループワークルームで配信する手順で実施する計画である。教科書は必ず購入して受講する。模範教科書といえども、日々刻々と変化する世の中、補足すべき情報は少ない。そういった点に對するため、国内外のニュースには関心をもち、採集・記録する習慣を身につけたい。そのためには新聞を読むことがいへん重要である。このような情報源から作成された教材等に期待したい。この科目は「職業訓練的な意味合いをもつ科目」である。したがって、受講生は「奈良大学の学生」であって、「養成中の中学校の先生」である。こういった認識で授業が展開されるため、教員をめざす学生としてふさわしい姿勢や態度で授業に参加してほしい。★各回の授業後や休みを過ぎた場合（公欠の場合を含む）や不明点が発生した場合など、積極的に受講生間で確認しあうこと。それでも解決できないことは、はやめに担当へ質問すること。★大人数（公欠相当の理由がある場合を除く）が全授業数の1/3をこえる場合、評価できないので注意されたい。ただし、これは成績評価上の基準であって、全授業数の1/3の回数まで、自由に欠席してもよいことを意味するものではありません。（上記「教員をめざす学生としてふさわしい姿勢や態度」に反することのないように）				
テキスト	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 文部科学省、東洋館出版社 社会科中学生の地理 世界の姿と日本の国土（文部科学省検定済教科書 中学校社会科用）帝国書院 中学校社会科地図（文部科学省検定済教科書 中学校社会科用）、帝国書院編集部編、帝国書院				
参考書	授業が変わる！新しい中学社会のポイント、井田仁康ほか、日本文教出版、2017 図説世界地誌【改訂版】、辰己勝・辰己真知子、古今書院、2018 子供たちへの開発教育、西岡尚也、ナカニシヤ出版、2007				

科目名	社会科教育法Ⅱ（二）			期間	後期
担当教員	★角 克明	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	生きる力に結びつく社会科のための教育法研究と実践。社会科教員としての授業実践力を、学習指導計画（授業計画）・模擬授業を経験し考える。				
到達目標	社会科教育法Ⅰや社会科教育研究Ⅰの内容も踏まえながら、授業を構成・実践できる力を身につけることを目標とする。				
授業概要	社会科教員志望者の基本として、地理的分野・歴史的分野・公民的分野のそれぞれの存在意味と、その相互の関連性について①②③の順に考察していく。 ①科目としての社会科の役割を理解する。 ②学習指導計画（授業計画）の作成について学ぶ。 ③全員が模擬授業を行い、相互に評価する。 学習指導計画（授業計画）作成と模擬授業については、丁寧な助言や改善点をアドバイスする。これらを通して教育実習（教育実践）への心構えと実践力を高めることを目指す。以上を通して総合的に社会科教員の指導法を探究する。 ★第1回授業までに履修登録が完了（履修することが確定）していること。また、第1回授業には必ず参加し、説明内容や決定事項を把握すること。 ★この科目の教科書に指定されていない検定教科書（歴史的分野、公民的分野）についても、必要に応じて購入、または閲覧できるようにしておくことがのぞましい。				
評価方法・基準	①学習指導計画（授業計画）の作成・発表（模擬授業）・レポート【自分の授業実践に関する評価】60％ ②授業への参加（質疑・コメントなどを含む）【他者の授業実践への見方・考え方などに関する評価・協調性など】40％ ※詳細は第1回授業等で通知する予定。				
履修上の注意事項等	この授業を受講する場合、グループワークへの登録が必要である。登録に必要な「クラスコード」は学務部のはじめにポータルサイトに掲示されるので、各自で対応すること。模擬授業では、担当の授業者は前日までに学習指導計画（授業計画）、教材準備で使用するもの一式をグループワークルームで配信する手順で実施する計画である。教科書は必ず購入して受講する。模範教科書といえども、日々刻々と変化する世の中、補足すべき情報は少ない。そういった点に對するため、国内外のニュースには関心をもち、採集・記録する習慣を身につけたい。そのためには新聞を読むことがいへん重要である。このような情報源から作成された教材等に期待したい。この科目は「職業訓練的な意味合いをもつ科目」である。したがって、受講生は「奈良大学の学生」であって、「養成中の中学校の先生」である。こういった認識で授業が展開されるため、教員をめざす学生としてふさわしい姿勢や態度で授業に参加してほしい。★各回の授業後や休みを過ぎた場合（公欠の場合を含む）や不明点が発生した場合など、積極的に受講生間で確認しあうこと。それでも解決できないことは、はやめに担当へ質問すること。★大人数（公欠相当の理由がある場合を除く）が全授業数の1/3をこえる場合、評価できないので注意されたい。ただし、これは成績評価上の基準であって、全授業数の1/3の回数まで、自由に欠席してもよいことを意味するものではありません。（上記「教員をめざす学生としてふさわしい姿勢や態度」に反することのないように）				
テキスト	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編、文部科学省、東洋館出版社 社会科中学生の地理 世界の姿と日本の国土（文部科学省検定済教科書 中学校社会科用）帝国書院 中学校社会科地図（文部科学省検定済教科書 中学校社会科用）、帝国書院編集部編、帝国書院				
参考書	授業が変わる！新しい中学社会のポイント、井田仁康ほか、日本文教出版、2017 図説世界地誌【改訂版】、辰己勝・辰己真知子、古今書院、2018 子供たちへの開発教育、西岡尚也、ナカニシヤ出版、2007				

資 格

科目名	地理歴史科教育法（一）			期間	前期
担当教員	★元田 茂充	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	地理歴史科の意義・目標・内容について理解し、授業展開の基本を習得する。				
到達目標	①教育現場で高等学校地理歴史科の学習指導ができるようになる。 ②社会科・地理歴史科教育の現状と課題を踏まえ、社会の変化に対応する教育者としての基礎的素養を多方面から養成する。				
授業概要	本講義では高等学校の地理歴史科の教育法を指導する。学習指導要領の意義・内容を理解した上で、学習指導案の作成、教材研究、模擬授業などに実践的に取り組み、授業を行うために必要な知識と技能や、教員としての心構えを習得していく。 ※模擬授業は受講生全員が行うため、受講生の人数次第で授業内容が変更される場合がある。 ※テキストの「1」・「2」は高等学校での販売が優先されるので、大学への入荷は4月後半以降となる。				
評価方法・基準	方法：模擬授業の出来栄え、課題・レポートの提出状況、授業への取り組み方などを総合的に評価する。 基準：模擬授業を45%、課題を45%、授業中の小レポートを10%とする。				
履修上の注意事項等	①積極的な授業参加を望む。 ②学習指導案作成や模擬授業に備えて高校地理歴史科の教科書を通読すること。 ③教材研究の一環として世界や日本各地の自然環境、政治・経済の動向、歴史・生活文化などに注目してテレビを見たり、新聞を読むようにする。				
テキスト	地理総合 世界に学び地域へつなぐ（地総704）、菊地 俊夫（代表者）、二宮書店、2024 歴史総合 近代から現代へ（歴総707）、岸本 美緒・鈴木 淳 ほか、山川出版社、2024 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編、文部科学省、東洋館出版、2019				
参考書	地理探究（地探703）、手塚 章（代表者）、二宮書店、2024 詳説世界史（世探704）、木村 靖二 ほか、山川出版社、2024 詳説日本史（日探705）、佐藤 信 ほか、山川出版社、2024				

科目名	地理歴史科教育法（二）			期間	後期
担当教員	★元田 茂充	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	地理歴史科の意義・目標・内容について理解し、授業展開の基本を習得する。				
到達目標	①教育現場で高等学校地理歴史科の学習指導ができるようになる。 ②社会科・地理歴史科教育の現状と課題を踏まえ、社会の変化に対応する教育者としての基礎的素養を多方面から養成する。				
授業概要	本講義では高等学校の地理歴史科の教育法を指導する。学習指導要領の意義・内容を理解した上で、学習指導案の作成、教材研究、模擬授業などに実践的に取り組み、授業を行うために必要な知識と技能や、教員としての心構えを習得していく。 ※模擬授業は受講生全員が行うため、受講生の人数次第で授業内容が変更される場合がある。				
評価方法・基準	方法：模擬授業の出来栄え、課題・レポートの提出状況、授業への取り組み方などを総合的に評価する。 基準：模擬授業を45%、課題を45%、授業中の小レポートを10%とする。				
履修上の注意事項等	①積極的な授業参加を望む。 ②学習指導案作成や模擬授業に備えて高校地理歴史科の教科書を通読すること。 ③教材研究の一環として世界や日本各地の自然環境、政治・経済の動向、歴史・生活文化などに注目してテレビを見たり、新聞を読むようにする。				
テキスト	地理総合 世界に学び地域へつなぐ（地総704）、菊地 俊夫（代表者）、二宮書店、2024 歴史総合 近代から現代へ（歴総707）、岸本 美緒・鈴木 淳 ほか、山川出版社、2024 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編、文部科学省、東洋館出版、2019				
参考書	地理探究（地探703）、手塚 章（代表者）、二宮書店、2024 詳説世界史（世探704）、木村 靖二 ほか、山川出版社、2024 詳説日本史（日探705）、佐藤 信 ほか、山川出版社、2024				

科目名	公民科教育法			期間	前期
担当教員	★山本 雅一	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	公民科の目標・内容を理解し、様々な学習指導理論を踏まえて公民科の指導法を探究する。				
到達目標	公民科の目標・内容を理解するとともに、様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行う方法や教科指導力の基礎を身に付ける。				
授業概要	公民科の目標・内容を理解し、様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計と学習指導案を作成する。学習指導案の作成と実際の授業を検証するとともに、授業研究を通して公民科の指導法を探究する。				
評価方法・基準	期末レポート（50% 学習指導案の作成：授業形態、指導方法、授業展開など総合的に評価する。） 平常点（50% 授業への意欲、課題への取組、授業に対する積極性を重視する。）				
履修上の注意事項等	公民科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めること。				
テキスト	高等学校学習指導要領解説 公民編、文部科学省、東京書籍、平成30年				
参考書					

科目名	国語科教材研究Ⅰ			期間	後期
担当教員	★元根 俊孝	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	言語の教育及び基幹教科としての国語科教育における「よりよい授業づくり」はどう在るべきかを探究する。				
到達目標	①豊かで確かな言語生活を支える国語科の授業づくりの手法を会得する。②各教材の価値を掌握し、学びの過程と課題意識の視点を持って授業を構築・展開できるようにする。③国語科の特性に応じた情報機器及び教材の活用方法を創意工夫する姿勢・手法を体得する。				
授業概要	「国語科教育法Ⅰ」の学習成果を礎に、国語科におけるよりよい授業づくりのための教材研究の在り方を実践的に学ぶ。模擬授業を通して、授業者・学習者の立場でよりよい授業づくりのための教材研究はいかにに行い、具体化していくかを実践的に学ぶ。				
評価方法・基準	授業における取り組み姿勢、課題レポート、授業における各種提出物、及び対話カードにより総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	シラバスに示されたように、実践・実習を伴う活動が主体となるので、積極的な受講・参加が求められる。前期開講の「国語科教育法Ⅰ」の継続履修が望ましい。使用するテキストは「国語科教育法Ⅰ」と同じである。				
テキスト	「高等学校学習指導要領解説 国語編」、文部科学省、東洋館出版社、平成31年				
参考書	随時紹介する				

科目名	国語科教材研究Ⅱ			期間	前期
担当教員	★増田 正子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	中・高等学校国語教育の内容・方法に関わり、具体的に教材研究・授業研究を行ない、よりよい「授業作り」を実践的に探究する。				
到達目標	教材についてグループおよび個人で教材研究を行い、授業を構想し学習指導案を作成することができる。さらに模擬授業とその振り返りとしての授業分析ができる。				
授業概要	国語科教材研究Ⅰの応用・発展として、教材についてグループおよび個人で教材研究を行い、授業を構想し学習指導案を作成すること、さらに模擬授業とその振り返りとしての授業分析によって、よりよい授業へと改善していくことを目標とする。				
評価方法・基準	平常点（授業への積極的な参加）30% 授業中の課題（指導案作成 30%・模擬授業40%）70% 教材研究・授業研究を行い、学習指導案を作成し模擬授業に取り組むことができるか。				
履修上の注意事項等	免許・資格科目なので、それにふさわしい真摯な学習態度で出席すること。 授業への積極的な参加・発言を求める。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	中学校学習指導要領、文科省 高等学校学習指導要領、文科省				

科目名	社会科教材研究Ⅰ			期間	前期
担当教員	中戸 義雄	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	中学生の社会認識力を養うための教材研究				
到達目標	中学社会科が目指す目標とその学習内容を理解し、実際に社会科教材を作成し、それをもとに授業を構成・実践できる基礎力を身につける。社会科の学習指導案を作成し、それに基づいた授業を行えることが目標。				
授業概要	中学校社会科（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）の授業を構成していく上で、教材をどのように選択し、研究・開発していくことが必要なかを考察していく。社会への関心が乏しいとされる今日の生徒に、広義の社会認識力を養うことが一つの目標となる。社会科授業でのICT活用も検討していく。				
評価方法・基準	小レポート20%（授業内容の理解）、授業内でのプレゼンテーション・研究発表30%（事前準備の程度と独自性を重視）と自作の学習指導案50%（独自性と完成度を重視）。				
履修上の注意事項等	中学校社会科の基礎学力をつけておくこと（公立高校入試レベル）。プレゼンテーションに参加しない者は単位認定を行わない。				
テキスト					
参考書					

科目名	社会科教材研究Ⅱ			期間	後期
担当教員	大西 英人	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	中学校社会科、高等学校地歴科、公民科の教科教育の基礎となる理論と実践的な知識・スキルを学ぶ。				
到達目標	中学校社会科、高等学校地歴科、公民科の教員として必要な知識及び教授方法の基本を身につけ、生徒への学習指導が出来る。				
授業概要	中学校社会科・高等学校地歴科・公民科分野での授業について、指導内容と方法を実践的に学ぶ事を目的としている。そのため、学習指導案の作成と模擬授業を中心として授業を展開する。模擬授業を行う校種、科目等をあらかじめ考えて受講すること。他者の授業を評価する観点についても学ぶ。教員に求められる専門性、実践的指導力の養成を目指している。				
評価方法・基準	学習指導案の提出・模擬授業の実施2回の内容(80%) 授業観察・評価表の提出(20%)				
履修上の注意事項等	演習形式の授業なので、欠席が一定数を超えると評価不能となる。				
テキスト	中学校学習指導要領解説 社会編、文部科学省、東洋館出版社 高等学校学習指導要領解説 地理歴史編、文部科学省、東洋館出版社 高等学校学習指導要領 公民編、文部科学省、東京書籍				
参考書					

科目名	地理歴史科教材研究			期間	後期
担当教員	中戸 義雄	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	地理歴史科が目指す目標とその内容を理解し、生徒・教師がともに興味・関心をもちうる教材研究、授業設計を行う。				
到達目標	地理歴史科が目指す目標とその学習内容を理解し、実際に地理歴史教材を作成し、それをもとに授業を構成・実践できる基礎力を身につける。地理歴史科の学習指導案を作成し、それに基づいた授業を行えることが目標。				
授業概要	地理・歴史分野への興味・関心を高め、地理的視点、歴史的視点を獲得していくための教材のあり方を考える。その際に、教師自身が興味・関心をもちうるものであることが一つの重要な条件となるだろう。高等学校で実際に地理・歴史科の授業ができる学習指導案を作成することが最終課題である。地理・歴史科授業でのICT活用も検討していく。				
評価方法・基準	小レポート20%（授業内容の理解度）授業内でのプレゼンテーション・研究発表30%（事前準備の程度と独自性を重視）と自作の学習指導案50%（独自性と完成度を重視）				
履修上の注意事項等	高校地歴の基礎学力をつけておくこと（大学入学共通テストレベル）。プレゼンテーションに参加しない者は単位認定を行わない。				
テキスト	高等学校学習指導要領解説 地理歴史編、文部科学省、東洋館出版社、2019				
参考書					

科目名	公民科教材研究			期間	後期
担当教員	★山本 雅一	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	公民科の教材研究・教材開発の基礎的な方法論を踏まえて、豊かで深い授業づくりを探究する。				
到達目標	公民科の教材研究・教材開発の基礎的な方法を理解し、教材設定と教材の効果的な活用、及び豊かで深い授業づくりの方法を身に付ける。				
授業概要	公民科の目標を達成するための教材研究や教材開発の基礎的な方法を理解し、教材設定と教材の効果的な活用方法を探究するとともに、豊かで深い授業づくりや指導事例研究を行う。				
評価方法・基準	期末レポート(50% 授業設計案：教材研究と教材開発、教材設定と教材活用など総合的に評価する。) 平常点(50% 授業への意欲、課題への取組、発表等、授業に対する積極性を重視する。)				
履修上の注意事項等	公民科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて教材研究をすること。				
テキスト	高等学校学習指導要領解説 公民編、文部科学省、東京書籍、平成30年				
参考書					

科目名	教育実習指導(一)			期間	通年
担当教員	★辻 寛司 大西 英人 中戸 義雄	単位数	—	配当年次	3
テーマ	教育実習の事前指導				
到達目標	次年度の教育実習を、立派に実践できる力を身につける。				
授業概要	教育実習は、学生が教育実践に携われる初めての機会である。短期間であるが、実習校で一般教職員として教育実習をすることになるのであるから、その責任は極めて重大である。現在の教育界の動向を見据えながら、教職員としての自覚、意欲や学校、教職員、生徒のあり方等を把握し、次年度の教育実習を前向きに確実に実践できるように、下記の内容について講義を進め、また模擬授業を通じて理解を深めさせる。教育実習ガイダンスにて配付する「教職課程日程表」のとおり。				
評価方法・基準	レポート(学習指導案等)、模擬授業の出来ばえ及び参加態度等を総合評価する。				
履修上の注意事項等	・『教職課程ハンドブック』を熟読のこと。また年間予定表は教職課程ガイダンスにて配付する。・次年度は実習校で教職員として生徒を指導する立場であることを自覚して授業に臨むこと。「追試験」対象事由以外での欠席及び遅刻は認めない。				
テキスト	プリントを配付する				
参考書					

科目名	教育実習指導(二)			期間	通年
担当教員	★辻 寛司 大西 英人 中戸 義雄	単位数	1	配当年次	4
テーマ	教育実習の直前および事後の指導				
到達目標	事前段階では教育実習の準備を十分行なうこと。事後では教育実習を振り返り今後の課題を整理検討すること。				
授業概要	教育実習直前の指導としてガイダンスを行なう。教育実習生としての心構え、服务内容の概略、教科指導、生徒指導、学級運営、校務分掌などに関わる留意事項や注意点について理解を深める。また実習後は、実習報告会への参加や体験記の執筆を通して、自己評価、自己点検を行なう。				
評価方法・基準	上記に関わる提出物、報告会等への参加態度による総合評価とする。				
履修上の注意事項等	無断欠席については実習後であっても単位認定を行わない。				
テキスト	使用しない				
参考書					

科目名	教育実習 I			期間	その他
担当教員	大西 英人 中戸 義雄	単位数	4	配当年次	4
テーマ	学校現場における教育実習				
到達目標	1 教職に対する自覚を深めること 2 十分な教材研究をもとにした授業を展開できること 3 生徒理解、生徒指導を積極的におこなうこと 4 学校運営にかかわる事務処理を適切に遂行すること				
授業概要	教職課程の総仕上げとして、中学校において教師になるための実習を行なう。この実習には、それまでに専門科目、教養科目、教職科目を通して学んだ知識や技術、また、培ってきた「ものの見方・考え方」が反映されることとなる。同時に、この実習によって、それぞれの専門領域の研究について再吟味され、自己の生き方に新たな目を開く契機ともなるだろう。準備段階からの注意事項など詳細については『教職課程ハンドブック』に記載されているので、それをよく読んで理解しておくこと。そして前もって(3年生の間に)実習予定校に実習受け入れのお願いをしておくことが必要である。また実習が始まる前に実習校を訪問し、指導教諭の指示を受けて、授業の参観や教材研究などに早めに取りかかってくることが望ましい。なお、実習は4週間、教育実習校において従事する。実習中は勤務と同じである。したがって非常事態でない限り、無遅刻無欠勤であること。指導教諭の指示のもと、生徒理解や教材研究について積極的な姿勢を示すことが必要である。教育実習ガイダンスにて配付する「教職課程日程表」のとおり。				
評価方法・基準	実習校からの成績が中核をなすが、加えて実習日誌を確認するとともに、実習に関する提出物等をもとに総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	指導教諭の指導のもとに学校教育の実践を体験するわけであるが、それに際して「学習指導案」「教育実習日誌」「実習体験記」などを作成・記入し提出しなければならない。実習直前に「直前オリエンテーション」を、実習後に「反省会」を実施する。出席しないものには単位認定を行わない。				
テキスト					
参考書					

科目名	教育実習Ⅱ			期間	その他
担当教員	大西 英人 中戸 義雄	単位数	2	配当年次	4
テーマ	学校現場における教育実習				
到達目標	1 教職に対する自覚を深めること 2 十分な教材研究をもとにした授業を展開できること 3 生徒理解、生徒指導を積極的にこなすこと 4 学校運営にかかわる事務処理を適切に遂行すること				
授業概要	教職課程の総仕上げとして、実際の教育現場（高等学校）において教員になるための実習を行なう。この実習には、それまでに専門科目、教養科目、教職科目を通して学んだ知識や技術、また、培ってきた「ものの見方・考え方」が反映されることとなる。同時に、それぞれの専門領域の研究についても、「教える」という場面を通して再吟味でき、さらには自己の生き方に新たな目を開く契機ともなるだろう。準備段階からの注意事項など詳細については「教職課程ハンドブック」をよく読んで理解しておくこと。ついては、事前に（3年次の間に）実習予定校に実習受入れをお願いしておくことが必要である。また、実習が始まる前に実習校を訪問し、指導教諭の指示を受けるなどして、授業の参観や教材研究等早急に準備に取りかかっていることが望ましい。なお、2週間の実習であっても、実習期間中は勤務と同じである。非常時でない限り無遅刻無欠席であることはもちろんのこと、指導教諭の指導のもと、生徒理解や教材研究について積極的な姿勢で臨むことが肝要である。教育実習ガイドランスにて配付する「教職課程日程表」とおり。				
評価方法・基準	実習校からの成績が中核をなすが、加えて実習日誌を確認するとともに、実習に関する提出物等をもとに総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	指導教諭の指導のもとに学校教育の実践を体験するわけであるが、それに際して「学習指導案」「教育実習日誌」「実習体験記」などを作成・記入し提出しなければならない。実習直前に「直前オリエンテーション」を、実習後に「反省会」を実施する。出席しないものには単位認定を行わない。				
テキスト					
参考書					

科目名	教職実践演習（中・高）（一） 教職実践演習（中・高）（二） 教職実践演習（中・高）（三） 教職実践演習（中・高）（四）			期間	後期
担当教員	★辻 寛司 ★山本 雅一 大西 英人 中戸 義雄	単位数	2	配当年次	4
テーマ	大学での学びや教育実習・教員採用試験等の体験をもとに自己の課題を把握し、自らがめざすべき教師像を確認するとともに、教職専門職として求められる資質・能力を磨く。				
到達目標	教師として必要な基礎的資質の形成について、以下の項目について確認していく。①教育に対する使命感や責任感をもち、生徒に対する愛情をもっていること。②生徒の成長に寄り添い、教職員や保護者と連携していくための社会性やコミュニケーション能力を身につけていること。③生徒理解や学級経営等に関する能力の基礎を身につけていること。④教科に関する十分な知識や指導力の基礎を形成していること。				
授業概要	受講生がこれまでの教職課程および教育実習で学び、経験してきた内容事項を確認しながら、グループ討論や事例研究などを行っていく。とくに今日困難の増している生徒指導については、事例研究と並んでロールプレイを取り入れることでより実践的な検討を重ねていく。また、各教科の指導についてもモデル授業の検討や模擬授業の実施によって基礎的能力の充実を図っていく。				
評価方法・基準	各授業時に提出する小レポート等 50%（授業内容の理解度、実践への応用的視点を重視）、模擬授業に関する指導案及びその模擬授業 50%（指導案の完成度と模擬授業準備の程度を重視）とする。				
履修上の注意事項等	積極的・能動的な態度で受講すること。模擬授業を行わない場合は単位認定の対象としない。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する予定				
参考書					

科目名	人権教育の研究（一）			期間	前期
担当教員	大西 英人	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	人権が尊重され擁護される社会を築く「人権文化の創造」を目指した人権教育の推進				
到達目標	人権尊重の視点に立った学校づくりを推進するための確かな理論とスキルの習得				
授業概要	人権教育を通じて育てたい資質・能力・感性を明らかにし、「生きる力」として人権問題を考え、解決に取り組もうとする意思と意欲を醸成するための教育及び啓発の進め方を探究する。また、この教育活動の性質を踏まえ、演習においては、グループワークやプレゼンテーションを積極的に取り入れる。				
評価方法・基準	対話カード（10%）で関心、意欲、態度等を評価する。課題レポート及び学習指導案作成（90%）で考察力、表現力等を評価する。				
履修上の注意事項等	講義中の内容を深めるために学生の発表や質疑を適宜取り入れるので、課題意識を持って積極的・能動的な態度で受講すること。				
テキスト	適宜配付する講義関係資料				
参考書	随時紹介する。				

科目名	人権教育の研究（二）			期間	後期
担当教員	★中川 貴明	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	人権が尊重され擁護される社会を築く「人権文化の創造」を目指した人権教育の推進				
到達目標	人権尊重の視点に立った学校づくりを推進するための確かな理論とスキルの習得				
授業概要	人権教育を通じて育てたい資質・能力・感性を明らかにし、「生きる力」として人権問題を考え、解決に取り組もうとする意思と意欲を醸成するための教育及び啓発の進め方を探究する。また、この教育活動の性質を踏まえ、演習においては、グループワークやプレゼンテーションを積極的に取り入れる。				
評価方法・基準	対話カード（10%）で関心、意欲、態度等を評価する。課題レポート及び学習指導案作成（90%）で考察力、表現力等を評価する。				
履修上の注意事項等	講義中の内容を深めるために学生の発表や質疑を適宜取り入れるので、課題意識を持って積極的・能動的な態度で受講すること。				
テキスト	適宜配付する講義関係資料				
参考書	随時紹介する。				

科目名	博物館概論			期間	前期
担当教員	杉山 智昭	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	博物館に関する基礎的知識の習得。				
到達目標	博物館とは何か、博物館の定義・目的、博物館の基本的機能、仕組み、関連法規、博物館発達史等の基礎を学習し、今日の博物館事情等を整理して博物館のあるべき姿を考える。				
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博物館の定義</li> <li>2. 博物館の種類</li> <li>3. 博物館学とは何か</li> <li>4. 博物館の基本的機能と学芸員の役割</li> <li>5. 博物館の組織と学芸員</li> <li>6. 博物館関係法規</li> <li>7. 博物館の歴史</li> <li>8. 現代社会での博物館、博物館の現状と課題</li> </ol>				
評価方法・基準	講義中に課される小レポートの合計(50%)、試験もしくは講義最終日の到達度確認レポート(50%)で総合的に成績評価を行う。試験の場合、資料等の持ち込みは一切不可。				
履修上の注意事項等	学芸員資格(国家資格)に必要な科目である。しっかりと目的意識と誠実さをもって学習に取り組まない限り、単位の取得は困難である。				
テキスト	新時代の博物館学, 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編, 芙蓉書房出版, 2015				
参考書	博物館学講座 新版1 博物館学概論, 加藤有次, 雄山閣出版, 2000 博物館概論, 稲村哲也, 放送大学教育振興会, 2019				

科目名	博物館経営論			期間	前期
担当教員	★瀬口 眞司 ★堀 真人	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	博物館経営論				
到達目標	経営とは何かを考え、博物館経営を支える理論的基盤、行財政制度、評価法やマーケティング・広報・連携をはじめとする諸々の手法とシステムなどを学習し、事例を踏まえた上で博物館経営に関する基本的な考え方、知識、手法の習得を目標とする。				
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博物館経営の定義・意味</li> <li>2. 博物館の行動規範</li> <li>3. 博物館教育の理論</li> <li>4. 博物館の経営基盤</li> <li>5. 経済的側面から見た博物館経営</li> <li>6. 指定管理者制度</li> <li>7. 事業評価の手法とシステム</li> <li>8. 展示評価と学習評価</li> <li>9. マーケティングと利用者調査</li> <li>10. 博物館の広報活動</li> <li>11. 博物館における連携</li> <li>12. 博物館の危機管理</li> </ol>				
評価方法・基準	定期試験期間(第16週)に定期試験を実施する。定期試験50%、第15回の講義時に提出するレポート50%で評価。いずれも講義内容を正確に把握しているかを論述形式で問う。				
履修上の注意事項等	自らが学芸員として博物館を経営するつもりになって受講してください。なお、学芸員資格は国家資格の一つで、本講義は文部科学省令で単位取得が定められている資格取得科目です。評価はこの点を踏まえて行いますので、この点を十分認識し、受講してください。				
テキスト	新時代の博物館学, 全国大学博物館学講座協議会西日本部会, 芙蓉書房出版, 2012				
参考書	新訂 博物館経営・情報論, 佐々木亨・亀井修・竹内有理, 放送大学教育振興会, 2008				

科目名	博物館資料論			期間	前期
担当教員	杉山 智昭	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	博物館資料の種類から活用法にいたる基礎知識の習得。				
到達目標	博物館資料の種類を理解し、収集、整理保管、取り扱い等の理論や方法に関する知識、技術を習得し、博物館資料の調査研究活動の学習を通じて、博物館資料に関する基礎を学ぶ。				
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博物館資料の概念</li> <li>2. 博物館資料の収集・整理、保管</li> <li>3. 博物館資料の調査研究</li> <li>4. 博物館資料の見方と取り扱い</li> <li>5. 博物館資料と情報</li> <li>6. 博物館資料の保存と修復と制作</li> <li>7. 博物館資料の活用法</li> </ol>				
評価方法・基準	講義中に課される小レポートの合計(50%)、試験もしくは講義最終日の到達度確認レポート(50%)で総合的に成績評価を行う。試験の場合、資料等の持ち込みは一切不可。				
履修上の注意事項等	学芸員資格(国家資格)に必要な科目である。しっかりと目的意識と誠実さをもって学習に取り組まない限り、単位の取得は困難である。				
テキスト	新時代の博物館学, 全国大学博物館学講座協議会西日本部会, 芙蓉書房出版, 2015				
参考書	博物館学講座 新版5 博物館資料論, 加藤有次, 雄山閣出版, 1999 博物館資料論 改訂新版, 佐々木 利和, 湯山 賢一, 放送大学教育振興会, 2012				

科目名	博物館資料保存論			期間	後期
担当教員	杉山 智昭	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	博物館における資料保存に関する基礎知識の習得。				
到達目標	博物館資料の保存の意義と基本理念を理解し、資料の材質、構造上の特質、劣化要因をふまえ、適切な収蔵・展示環境を実現、維持するための基礎的な知識と技術を習得する。				
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博物館における資料保存の意義</li> <li>2. 博物館資料の種類</li> <li>3. 博物館資料の保存環境</li> <li>4. 博物館資料と生物被害</li> <li>5. 博物館資料の修理・修復</li> <li>6. 博物館資料と災害</li> <li>7. 博物館と環境保護</li> </ol>				
評価方法・基準	講義中に課される小レポートの合計(50%)、試験もしくは講義最終日の到達度確認レポート(50%)で総合的に成績評価を行う。試験の場合、資料等の持ち込みは一切不可。				
履修上の注意事項等	学芸員資格(国家資格)に必要な科目である。しっかりと目的意識と誠実さをもって学習に取り組まない限り、単位の取得は困難である。				
テキスト	新時代の博物館学, 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編, 芙蓉書房出版, 2015				
参考書	博物館資料保存論, 石崎武志, 講談社, 2012 文化財保存環境学 第2版, 三浦定俊, 佐野千絵, 木川りか, 朝倉書店, 2017 博物館資料の臨床保存学, 神庭信幸, 武蔵野美術大学出版局, 2014				



科目名	博物館展示論			期間	後期
担当教員	★森本 徹	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	展示を実施するうえでの空間や設備、鑑賞支援の方法等、実践技術について				
到達目標	学芸員の専門性を高めるうえで、展示の知識及び研究能力・実践技術が必要とされる。展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。また、今日の現状を把握して、あるべき姿を考える。				
授業概要	1. 博物館展示の意義・役割（展示の政治性と社会性、調査研究の成果の提示）、2. コミュニケーションとしての展示（教育活動）、3. 展示と展示論の歴史、4. 展示の諸形態、5. 博物館展示の実際（展示の制作、関係者との協力）、6. 展示の評価と改善・更新、7. 鑑賞支援の解説活動（解説パネル、人による解説、機器による解説）、8. 展示解説書のありかた、9. 展示の現状と課題				
評価方法・基準	定期試験期間（16週目）に試験を実施する。講義の内容を正確に把握しているかを論述形式で問う。				
履修上の注意事項等	実際の博物館での学外講義を1回、日曜日に実施予定。入館料、交通費は各自負担。				
テキスト	新時代の博物館学, 全国大学博物館学講座協議会西日本支部, 芙蓉書房出版, 2012				
参考書					

科目名	博物館教育論			期間	後期
担当教員	岡田 健	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	博物館における教育活動				
到達目標	博物館における教育活動の意義と理念を理解し、博物館教育の方法に関する知識を習得するとともに各種学習プログラムの開発や評価を行うための基礎的能力を身につける。				
授業概要	1. 博物館教育の意義 2. 博物館教育の歴史 3. 博物館教育の方法 4. 博物館教育の実際 5. 教育活動の評価 6. 博物館教育の課題と展望 というテーマについて、博物館学芸員としての経験、国際協力事業における博物館技術トレーニングコースの実施等の経験をもとに授業を行う。				
評価方法・基準	毎回、授業時間の最後に30分程度の時間を取ってレポートを書き、学習到達度確認を行う。①博物館教育の基本概念や語句の理解、②講義内容を正確に把握しているか、を確認する。				
履修上の注意事項等	最終的に期末試験によって成績を評価する。出席数が不足していたり（6回以上の欠席）、レポートが未提出の場合は評価できない。				
テキスト	現代博物館学入門, 栗田秀法編著, ミネルヴァ書房, 2019, 毎回テキスト資料を配付する				
参考書	博物館の学びをつくりだす その実践へのアドバイス, 小笠原喜康/チルドレンズ・ミュージアム研究会編集, ぎょうせい, 2020 新時代の博物館学, 全国大学博物館学講座協議会西日本支部, 芙蓉書房出版, 2012				

科目名	博物館情報・メディア論			期間	前期
担当教員	★江浦 洋	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	博物館情報・メディアとは何か				
到達目標	博物館における情報の意義と活用方法、および情報発信の課題などについて理解し、博物館で扱う情報の提供と活用等に関する基礎的な能力を養う。				
授業概要	博物館で扱う情報・メディアの意義内容と理論、およびその実際的な運用の現状と課題について講じ、IT社会における情報公開・発信や知的財産権等についての知識と理解をはかる。				
評価方法・基準	【レポート】授業内容を理解しているか、論理的に展開しているかなどを総合的に評価する。				
履修上の注意事項等	配当学年で、しっかりと単位を取得し、博物館実習に支障がないようにすること。博物館学芸員資格取得の必修科目。				
テキスト					
参考書	『新時代の博物館学』, 全国大学博物館学講座協議会西日本支部編, 芙蓉書房, 2020年 『博物館学Ⅲ 博物館情報・メディア論 博物館経営論』, 大堀哲・水嶋英治, 学文社, 2012年				

科目名	博物館実習 I			期間	前期
担当教員	杉山 智昭 岡田 健	単位数	1	配当年次	3
テーマ	博物館活動の基本を理解し、諸作業を体得する。				
到達目標	博物館施設の見学や講演を通し、博物館の姿や、多様な館種の実態を理解する。				
授業概要	博物館実習 I では、施設見学実習と博物館関係者による講演会を行う。見学実習は教員が引率をして4館を見学（引率見学）し、さらに各自が自主的に3館を選択して見学する（自主見学）。講演会は博物館関係者を招いて講演を行う。原則として全ての日程に出席しなければ単位は認められない。日程や見学館は別途指示する。				
評価方法・基準	全ての実習に出席することが前提となり、欠席は不可になる。点数評価についてはガイダンス時に説明する。				
履修上の注意事項等	不定期に実施する場合があるので、ガイダンスや掲示に十分注意のこと。別途、実習費を徴収する。参考書を熟読して実習に出席することが望ましい。				
テキスト	なし				
参考書	博物館実習マニュアル, 全国大学博物館学講座協議会西日本支部, 芙蓉書房出版, 2002				

科目名	博物館実習Ⅱ			期間	後期
担当教員	岡田 健	単位数	1	配当年次	3
テーマ	博物館活動の基本を理解し、諸作業を習得する。				
到達目標	博物館資料の取扱いや記録の技術を習得し、学芸員としての心構えを体得する。				
授業概要	博物館実習の学内実習の後半部として、文献史料、美術資料、考古資料、民俗資料、梱包の各分野にわたる実務（実技）実習を行う。 また、当年度に博物館実習Ⅲにおいて館園実習を受けた先輩諸氏の体験を聞くことで、翌年度に受講する館園実習に備えた事前指導の一環とする。				
評価方法・基準	全ての実習に出席することが前提となる。点数評価についてはガイダンス時に説明する。				
履修上の注意事項等	実習の時間配分が細かく指定されるので、実習日を間違えないよう注意すること。原則として欠席は認められない。不定期に実施する場合があるので、ガイダンスや掲示に十分注意のこと。別途、実習費を徴収する。				
テキスト	なし				
参考書					

科目名	博物館実習Ⅲ			期間	その他
担当教員	岡田 健 ★小峰 幸夫	単位数	1	配当年次	4
テーマ	学芸員の仕事に触れ、博物館業務の内容を理解する。				
到達目標	博物館業務を実際の博物館で実習し、館務を体得する。				
授業概要	博物館実習の総まとめとして、博物館の現場での館園実習を行う。 館園実習は関西圏を中心とした人文学系博物館において、博物館業務の一部を実習・体験する。 学芸員の仕事に触れ、博物館業務の内容を理解する。 本学指定以外の博物館での実習は認めていない。				
評価方法・基準	レポート（100%）。欠席は不可となる。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書					

科目名	図書館概論（一）			期間	前期
担当教員	竹田 芳則	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	現代社会と図書館を考える際に必要な基礎知識全般を理解する。				
到達目標	法律や各種の基準、館種ごとの機能など図書館員の役割等の基礎知識を理解する。				
授業概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。				
評価方法・基準	平常点のみ・評価基準：授業に対する積極性60%（課題発表への取り組み姿勢等）、学習到達度確認40%（図書館の機能や社会における意義や役割についての理解度）				
履修上の注意事項等	他の司書科目を理解する基礎になるので、初年次の受講が望ましい。全員に授業のなかで、自分の「おすすめの図書館」について口頭で発表してもらう。発表は各自のノートPCを使って行う。利用するPC環境は以下のとおり。 OS:Windows10/Windows11/macOS、ソフトウェア:Office2019以上（有償） また毎回の授業では必ずノートをとること。				
テキスト	なし				
参考書	図書館概論 五訂版（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ）、塩見昇 編著、日本図書館協会、2018 図書館のしごと～よりよい利用をサポートするために～ 第2版、国際交流基金関西国際センター、読書工房、2021 生きるための図書館：一人ひとりのために（岩波新書）、竹内昶 著、岩波書店、2019				

科目名	図書館概論（二）			期間	後期
担当教員	竹田 芳則	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	現代社会と図書館を考える際に必要な基礎知識全般を理解する。				
到達目標	法律や各種の基準、館種ごとの機能など図書館員の役割等の基礎知識を理解する。				
授業概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。				
評価方法・基準	平常点のみ・評価基準：授業に対する積極性60%（課題発表への取り組み姿勢等）、学習到達度確認40%（図書館の機能や社会における意義や役割についての理解度）				
履修上の注意事項等	他の司書科目を理解する基礎になるので、初年次の受講が望ましい。全員に授業のなかで、自分の「おすすめの図書館」について口頭で発表してもらう。発表は各自のノートPCを使って行う。利用するPC環境は以下のとおり。 OS:Windows10/Windows11/macOS、ソフトウェア:Office2019以上（有償） また毎回の授業では必ずノートをとること。				
テキスト	なし				
参考書	図書館概論 五訂版（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ）、塩見昇 編著、日本図書館協会、2018 図書館のしごと～よりよい利用をサポートするために～ 第2版、国際交流基金関西国際センター、読書工房、2021 生きるための図書館：一人ひとりのために（岩波新書）、竹内昶 著、岩波書店、2019				

科目名	図書館制度・経営論（一）			期間	前期
担当教員	竹田 芳則	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	公共図書館の経営及び図書館に関わる自治体行政の仕組みについて理解する。				
到達目標	図書館の制度・経営について、近年図書館法及び関連法規の改正が行われたことに鑑み、多くの変革・可能性を内包するようになってきた。図書館経営にも、新しい概念や考え方の導入を図りながら、住民の暮らしや文化の向上に資することが使命であることを確認した上で、現代に即した管理・運営法を体得する。				
授業概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。				
評価方法・基準	平常点のみ ・評価基準：授業に対する積極性60%（授業後のアンケート提出等）、学習到達度確認40%（図書館に関わる法令、制度、諸政策、図書館を維持・発展させるための経営上の観点等についての理解度）				
履修上の注意事項等	資格科目であることに留意し、自身の進路の方向性も踏まえて履修すること。司書志望者にとっては、最も重要な科目のひとつである。				
テキスト	図書館情報学基礎資料 第5版, 今まど子・小山憲司 編著, 樹村房, 2024				
参考書	図書館制度・経営論, 糸賀雅児・葉袋秀樹 編, 樹村房, 2013 図書館・まち育て・デモクラシー, 嶋田学 著, 青弓社, 2019				

科目名	図書館制度・経営論（二）			期間	後期
担当教員	竹田 芳則	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	公共図書館の経営及び図書館に関わる自治体行政の仕組みについて理解する。				
到達目標	図書館の制度・経営について、近年図書館法及び関連法規の改正が行われたことに鑑み、多くの変革・可能性を内包するようになってきた。図書館経営にも、新しい概念や考え方の導入を図りながら、住民の暮らしや文化の向上に資することが使命であることを確認した上で、現代に即した管理・運営法を体得する。				
授業概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。				
評価方法・基準	平常点のみ ・評価基準：授業に対する積極性60%（授業後のアンケート提出等）、学習到達度確認40%（図書館に関わる法令、制度、諸政策、図書館を維持・発展させるための経営上の観点等についての理解度）				
履修上の注意事項等	資格科目であることに留意し、自身の進路の方向性も踏まえて履修すること。司書志望者にとっては、最も重要な科目のひとつである。				
テキスト	図書館情報学基礎資料 第5版, 今まど子・小山憲司 編著, 樹村房, 2024				
参考書	図書館制度・経営論, 糸賀雅児・葉袋秀樹 編, 樹村房, 2013 図書館・まち育て・デモクラシー, 嶋田学 著, 青弓社, 2019				

科目名	図書館情報技術論（一）			期間	前期
担当教員	竹田 芳則	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	「図書館」の可能性を追求するのに必要な基礎技術を知る。				
到達目標	私たちを取り巻く情報技術はまさに日進月歩である。そのような中でも特に図書館業務における情報技術に焦点を当て、基礎的な知識を習得することを目指す。				
授業概要	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説する。				
評価方法・基準	平常点のみ ・評価基準：授業に対する積極性60%（授業後のアンケート提出等）、学習到達度確認40%（図書館における情報技術の基礎および、その役割と実際についての理解度）				
履修上の注意事項等	毎回の授業は必ずノートをとること。資格科目であることに留意し、自身の進路の方向性も踏まえて履修すること。この科目は各自のノート PC で実習を行うことがある。その場合、事前に具体的に指示する。				
テキスト	なし				
参考書	図書館情報技術論（第2版）, 塩崎亮ほか 編著, ミネルヴァ書房, 2022 図書館情報技術論, 田中均 著, 青弓社, 2019				

科目名	図書館情報技術論（二）			期間	後期
担当教員	竹田 芳則	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	「図書館」の可能性を追求するのに必要な基礎技術を知る。				
到達目標	私たちを取り巻く情報技術はまさに日進月歩である。そのような中でも特に図書館業務における情報技術に焦点を当て、基礎的な知識を習得することを目指す。				
授業概要	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説する。				
評価方法・基準	平常点のみ ・評価基準：授業に対する積極性60%（授業後のアンケート提出等）、学習到達度確認40%（図書館における情報技術の基礎および、その役割と実際についての理解度）				
履修上の注意事項等	毎回の授業は必ずノートをとること。資格科目であることに留意し、自身の進路の方向性も踏まえて履修すること。この科目は各自のノート PC で実習を行うことがある。その場合、事前に具体的に指示する。				
テキスト	なし				
参考書	図書館情報技術論（第2版）, 塩崎亮ほか 編著, ミネルヴァ書房, 2022 図書館情報技術論, 田中均 著, 青弓社, 2019				

科目名	図書館サービス概論（一）			期間	前期
担当教員	★村上 幸二	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料提供や情報サービスをはじめとした各種図書館サービスについて概説する。				
到達目標	図書館サービスの基本的な内容をふまえ、利用対象に応じた図書館サービスや図書館サービスの歴史の変遷、また新たなサービスの取り組みについて理解することができる。				
授業概要	図書館サービスの概要とともに資料提供サービス、情報サービス、利用者別の図書館サービスに大別して、それらの内容と方法について解説する。各種の図書館サービスについて、具体的な実践例を示し、必要に応じて映像も取り入れながら授業を進める。				
評価方法・基準	各種の図書館サービスの内容や特徴について理解すること。評価は授業への積極的な取り組み（50%）と、最終授業日に実施する学習到達度確認（50%）によって行います。				
履修上の注意事項等	毎回の授業でプリントを配付します。授業はこのプリントによって進めます。なお、授業プリントは次回以降の授業でも参照する場合がありますため、各回のプリントを保存および持参できるものを準備しておいてください。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	図書館サービス概論（二）			期間	後期
担当教員	★村上 幸二	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料提供や情報サービスをはじめとした各種図書館サービスについて概説する。				
到達目標	図書館サービスの基本的な内容をふまえ、利用対象に応じた図書館サービスや図書館サービスの歴史の変遷、また新たなサービスの取り組みについて理解することができる。				
授業概要	図書館サービスの概要とともに資料提供サービス、情報サービス、利用者別の図書館サービスに大別して、それらの内容と方法について解説する。各種の図書館サービスについて、具体的な実践例を示し、必要に応じて映像も取り入れながら授業を進める。				
評価方法・基準	各種の図書館サービスの内容や特徴について理解すること。評価は授業への積極的な取り組み（50%）と、最終授業日に実施する学習到達度確認（50%）によって行います。				
履修上の注意事項等	毎回の授業でプリントを配付します。授業はこのプリントによって進めます。なお、授業プリントは次回以降の授業でも参照する場合がありますため、各回のプリントを保存および持参できるものを準備しておいてください。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	情報サービス論（一）			期間	前期
担当教員	★福井 雄大	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	図書館における各種の情報サービスについて総合的に概説する。				
到達目標	図書館で行われる情報サービスの概要について理解するとともに、情報サービスの方法を考えるうえで参考図書（レファレンスブック）や各種データベースの活用について意識できる。				
授業概要	図書館全般において情報サービスを実施する上で必要かつ基本的なレファレンスサービスと、情報検索サービスに関わるサービス提供方法の融合化を目指す。各種の情報サービスの理論や実際に触れ、情報サービス演習の概説としての説明を行う。従来の参考図書や新しい情報源に対する知識を深め、様々な質問に総合的かつ実践的に対応できる情報サービスについて解説する。また学校図書館によるレファレンスサービスを通じた探求的な学習の支援のあり方についても説明する。				
評価方法・基準	平常点及び小課題50%、最終授業時に実施する学習到達度確認50% いずれにおいても講義内容の理解度と、考察の論理性・的確性・独自性を評価基準とする				
履修上の注意事項等	受講生の関心・理解度に応じて授業計画を変更する場合があります。 知らない言葉が出現した場合、図書館情報学用語辞典（コトバンクに収録）等で調べておくことを推奨する。				
テキスト	情報サービス論（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ5）、小田光宏編著、日本図書館協会、2012				
参考書	利用者志向のレファレンスサービス その原理と方法（ネットワーク時代の図書館情報学）、齋藤泰則著、勉誠出版、2009 レファレンスと図書館 ある図書館司書の日記、大串夏身著、皓星社、2019 探すツール：図書館、出版、メディア書誌の書誌、伊藤民雄著、日本図書館協会、2023				

科目名	情報サービス論（二）			期間	後期
担当教員	★福井 雄大	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	図書館における各種の情報サービスについて総合的に概説する。				
到達目標	図書館で行われる情報サービスの概要について理解するとともに、情報サービスの方法を考えるうえで参考図書（レファレンスブック）や各種データベースの活用について意識できる。				
授業概要	図書館全般において情報サービスを実施する上で必要かつ基本的なレファレンスサービスと、情報検索サービスに関わるサービス提供方法の融合化を目指す。各種の情報サービスの理論や実際に触れ、情報サービス演習の概説としての説明を行う。従来の参考図書や新しい情報源に対する知識を深め、様々な質問に総合的かつ実践的に対応できる情報サービスについて解説する。また学校図書館によるレファレンスサービスを通じた探求的な学習の支援のあり方についても説明する。				
評価方法・基準	平常点及び小課題50%、最終授業時に実施する学習到達度確認50% いずれにおいても講義内容の理解度と、考察の論理性・的確性・独自性を評価基準とする				
履修上の注意事項等	受講生の関心・理解度に応じて授業計画を変更する場合があります。 知らない言葉が出現した場合、図書館情報学用語辞典（コトバンクに収録）等で調べておくことを推奨する。				
テキスト	情報サービス論（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ5）、小田光宏編著、日本図書館協会、2012				
参考書	利用者志向のレファレンスサービス その原理と方法（ネットワーク時代の図書館情報学）、齋藤泰則著、勉誠出版、2009 レファレンスと図書館 ある図書館司書の日記、大串夏身著、皓星社、2019 探すツール：図書館、出版、メディア書誌の書誌、伊藤民雄著、日本図書館協会、2023				

科目名	児童サービス論（一）			期間	前期
担当教員	★井尻 みや子	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	地域とつながる公共図書館の児童サービスを中心に、サービスの意義と実際、国や自治体の子ども読書活動推進の動き等を理解する。				
到達目標	サービス対象である子どもを知り、児童資料を知り、子どもと資料を結びつける方法・技術を理解し修得できる。子どもの発達と学習における読書の重要性を理解する。				
授業概要	・配布資料とパワーポイントを使って、テキストに沿って授業を進める。 ・乳幼児から中高生までの子どもたちを対象とするサービスの現状や課題について、児童サービス担当者の専門性、学校や地域諸機関との連携、ボランティアとの協働を含めて概説する。 ・児童サービスの基本となる絵本や児童文学や知識の本などの資料を紹介する。授業や演習で実際に児童資料に触れる機会を持つ。				
評価方法・基準	課題・小テスト・期末レポート課題を実施する。授業への参加態度、授業内容の理解度を含め総合的に評価する。平常点：60%（授業の参加態度、課題、小テスト）、期末レポート課題：40%				
履修上の注意事項等	毎回の配布資料は e-Learning にアップしており、課題提出は e-Learning を利用するため、e-Learning に必ず登録すること。				
テキスト	児童サービス論 新訂版、堀川照代／編著、日本図書館協会、2020				
参考書	児童図書館サービス 1、日本図書館協会児童青少年委員会／編、日本図書館協会、2011 児童図書館サービス 2、日本図書館協会児童青少年委員会／編、日本図書館協会、2011				

科目名	児童サービス論（二）			期間	後期
担当教員	★井尻 みや子	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	地域とつながる公共図書館の児童サービスを中心に、サービスの意義と実際、国や自治体の子ども読書活動推進の動き等を理解する。				
到達目標	サービス対象である子どもを知り、児童資料を知り、子どもと資料を結びつける方法・技術を理解し修得できる。子どもの発達と学習における読書の重要性を理解する。				
授業概要	・配布資料とパワーポイントを使って、テキストに沿って授業を進める。 ・乳幼児から中高生までの子どもたちを対象とするサービスの現状や課題について、児童サービス担当者の専門性、学校や地域諸機関との連携、ボランティアとの協働を含めて概説する。 ・児童サービスの基本となる絵本や児童文学や知識の本などの資料を紹介する。授業や演習で実際に児童資料に触れる機会を持つ。				
評価方法・基準	課題・小テスト・期末レポート課題を実施する。授業への参加態度、授業内容の理解度を含め総合的に評価する。平常点：60%（授業の参加態度、課題、小テスト）、期末レポート課題：40%				
履修上の注意事項等	毎回の配布資料は e-Learning にアップしており、課題提出は e-Learning を利用するため、e-Learning に必ず登録すること。				
テキスト	児童サービス論 新訂版、堀川照代／編著、日本図書館協会、2020				
参考書	児童図書館サービス 1、日本図書館協会児童青少年委員会／編、日本図書館協会、2011 児童図書館サービス 2、日本図書館協会児童青少年委員会／編、日本図書館協会、2011				

科目名	情報サービス演習（一）			期間	通年
担当教員	★福井 雄大	単位数	4	配当年次	3-4
テーマ	図書館（主に公立図書館）における、レファレンスサービスやパスファインダー作成など、様々な情報サービスについての演習。				
到達目標	多様な情報源の理解及び、適切な情報源の選択、正確な情報を収集するスキル・知識を身に付ける。				
授業概要	メディアの多様化により、あらゆる情報源を活用する能力が求められる。この科目では、前半では信頼性の高いレファレンスブックの活用を、後半ではインターネット上の有益な情報を取得できるよう演習を行う。				
評価方法・基準	平常点50%、演習成果物50% いずれにおいても授業内容の理解度と、考察の論理性・的確性・独自性を評価基準とする				
履修上の注意事項等	受講生の関心・理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。原則として「情報サービス論」を受講中または受講済であることを前提として進行する。テキストの指定は無いが、「情報サービス論」の指定テキストの持参を推奨する。知らない言葉が出現した場合、図書館情報学用語辞典（コトバンクに収録）等で調べておくことを推奨する。				
テキスト	とくになし				
参考書	情報サービス演習 新訂版、大谷康晴、齋藤泰則、日本図書館協会、2020 探すツール：図書館、出版、メディア書誌の書誌、伊藤氏雄著、日本図書館協会、2023 調べる技術：国会図書館秘伝のレファレンス・チップス、小林昌樹著、皓星社、2022				

科目名	情報サービス演習（二）			期間	通年
担当教員	★福西 敏文	単位数	4	配当年次	3-4
テーマ	レファレンス質問への回答を模した情報検索の演習や主題書誌等の作成によって発信型情報サービスを実践できる能力を身につける。				
到達目標	・参考図書の特徴を理解して調査に活用することができる。・インターネット情報資源から確かな情報を探し出す知識と技術を身に付ける。・調査内容を口頭と文書で丁寧に伝えることができる。				
授業概要	春学期のはじめに、情報サービスの設計から評価に至る各種の業務や、レファレンスサービス・情報検索の概要を解説する。続いて大学図書館と情報処理室を使った演習により実際のレファレンスツールに接し、その特徴を理解する。春学期の後半から秋学期の前半は主に大学図書館を使って、レファレンス質問に回答する調査（情報検索）に実践的に取り組む。秋学期後半は、各自テーマを設定してパスファインダーや主題書誌を作成しその成果を発表する。授業全体を通じて発信型の情報サービスに係る実践的な能力を養成する。				
評価方法・基準	・期末課題提出と発表：40%（問題意識を持って情報を収集しているかどうか）・演習課題提出と発表：40%（課題に真摯に取り組む姿勢を重視する）・小テスト：20%（基本語句の理解）				
履修上の注意事項等	・教室のほかに大学図書館、情報処理センターを使うので、集合場所を間違わないよう掲示等に注意すること。 ・テキストは必要不可欠である。ただし逐条的解説は行わない。 ・通年科目である。途中で諦めることなく、受講すること。				
テキスト	三訂 情報サービス演習、原田 智子、樹村房、2021				
参考書	夜明けの図書館、埜納タオ、双葉社、2011 レファレンスブック 選び方・使い方 四訂版、長澤雅男・石黒祐子、日本図書館協会、2020 図書館のプロが伝える調査のツボ、高田高史、柏書房、2009				

資格

科目名	情報サービス演習（三）			期間	通年
担当教員	★中村 恵信	単位数	4	配当年次	3-4
テーマ	利用者の質問に対するレファレンスサービス、情報検索サービス等に対応するために、さまざまな情報源の探索・活用能力。				
到達目標	参考図書やネットワーク情報源の探索法を学ぶ。利用者の情報要求を正確に把握し、適切な情報源を活用した情報提供ができる能力を身につける。また、発信型情報サービスの実際を体験する。				
授業概要	参考図書及び各種データベースや電子ジャーナル等、さまざまな情報源の探索演習を行い、レファレンス質問に対するインタビュー、回答の作成を体験する。パスファインダー等の作成を通して、発信型情報サービスについても学ぶ。				
評価方法・基準	平常点60点（授業への取り組み、課題発表等への積極性、演習課題レポート等）＋定期試験期間（31週目）実施する試験40点（演習問題の理解度の評価）による。				
履修上の注意事項等	①演習課題レポートが多くあり、欠席すると課題作成が困難になるので、そのつもりで臨んでほしい。②教科書の内容を中心に授業を進めるので教科書は必ず購入すること。③この科目（授業）は、各自のノートPCで行う場合がある。その場合は授業中に指示する。				
テキスト	三訂 情報サービス演習, 原田智子編著, 樹村房, 2021				
参考書					

科目名	図書館情報資源概論（一）			期間	前期
担当教員	★福井 雄大	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	図書館にとって重要な情報である図書館情報資源（図書館資料）を理解し使いこなす。				
到達目標	図書館の情報資源であるさまざまな資料について、その知識を獲得し、それぞれの特質を知る。そしてこの図書館の情報資源がどのように組織化され、コレクションとして形成・保持されているかについて理解する。さらに近年の動向として、電子資料やネットワーク資源についても検討し、その実態や現代的な課題について認識していく。できるだけ現物資料を提示しつつ授業を進める。				
授業概要	粘土板文書からデジタル出版物まで、出版には長い歴史がある。図書館は、そうした印刷・出版の技術と伴いながら、資料を収集しコレクションを形成しつつ保存につとめ、図書館情報資源を組織化してきた。この授業では、それら図書館に収蔵されるさまざまな資料の種類と特質を概説し、その収集・選択・保存について検討していく。また収集・選択にあたって不可欠な知識である出版流通のしくみや、図書館情報資源の活用としての展示、情報資源の保持・管理のための除籍や蔵書点検の重要性についてもふれていく。				
評価方法・基準	平常点及び小課題50%、最終授業時に実施する学習到達度確認50% いずれにおいても講義内容の理解度と、考察の論理性・的確性・独自性を評価基準とする				
履修上の注意事項等	受講生の関心・理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 知らない言葉が出現した場合、図書館情報学用語辞典（コトバンクに収録）等で調べておくことを推奨する。				
テキスト	改訂 図書館情報資源概論, 岸田和明, 樹村房, 2020				
参考書	アーカイブの思想 言葉を知に変える仕組み, 根本彰, みすず書房, 2021 現代メディア史 新版, 佐藤卓己, 岩波書店, 2018 本のエンドロール, 安藤祐介, 講談社, 2018				

科目名	図書館情報資源概論（二）			期間	後期
担当教員	★福井 雄大	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	図書館にとって重要な情報である図書館情報資源（図書館資料）を理解し使いこなす。				
到達目標	図書館の情報資源であるさまざまな資料について、その知識を獲得し、それぞれの特質を知る。そしてこの図書館の情報資源がどのように組織化され、コレクションとして形成・保持されているかについて理解する。さらに近年の動向として、電子資料やネットワーク資源についても検討し、その実態や現代的な課題について認識していく。できるだけ現物資料を提示しつつ授業を進める。				
授業概要	粘土板文書からデジタル出版物まで、出版には長い歴史がある。図書館は、そうした印刷・出版の技術と伴いながら、資料を収集しコレクションを形成しつつ保存につとめ、図書館情報資源を組織化してきた。この授業では、それら図書館に収蔵されるさまざまな資料の種類と特質を概説し、その収集・選択・保存について検討していく。また収集・選択にあたって不可欠な知識である出版流通のしくみや、図書館情報資源の活用としての展示、情報資源の保持・管理のための除籍や蔵書点検の重要性についてもふれていく。				
評価方法・基準	平常点及び小課題50%、最終授業時に実施する学習到達度確認50% いずれにおいても講義内容の理解度と、考察の論理性・的確性・独自性を評価基準とする				
履修上の注意事項等	受講生の関心・理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 知らない言葉が出現した場合、図書館情報学用語辞典（コトバンクに収録）等で調べておくことを推奨する。				
テキスト	改訂 図書館情報資源概論, 岸田和明, 樹村房, 2020				
参考書	アーカイブの思想 言葉を知に変える仕組み, 根本彰, みすず書房, 2021 現代メディア史 新版, 佐藤卓己, 岩波書店, 2018 本のエンドロール, 安藤祐介, 講談社, 2018				

科目名	情報資源組織論（一）			期間	前期
担当教員	★中村 恵信	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	図書館情報資源の組織化の「意義と目的、方法」を学ぶ。				
到達目標	図書館情報資源の組織化の理論と技術について説明する。情報資源組織論演習のための基礎的知識を習得することを目的とする。さらに、情報資源組織化の展望についても解説する。				
授業概要	書誌ユーティリティの急速な発展により、書誌情報を入力できる環境ができた。また、図書館ネットワークが充実して、個々の図書館が作成した書誌情報が共有される。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化について、具体的に書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。				
評価方法・基準	期末レポート課題40点（目録と分類の理論の理解度を評価）＋定期試験期間（16週目）に実施する定期試験60点（目録と分類の理解度、表現力、説明力、文章力を評価）				
履修上の注意事項等	教科書に沿って授業をするので、必ず教科書を事前に購入すること。				
テキスト	情報資源組織論：よりよい情報アクセスを支える技とシステム』第2版, 志保田務編著, ミネルヴァ書房, 2019				
参考書	なし				

科目名	情報資源組織論 (二)			期間	後期
担当教員	★中村 恵信	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	図書館情報資源の組織化の「意義と目的、方法」を学ぶ。				
到達目標	図書館情報資源の組織化の理論と技術について説明する。情報資源組織演習のための基礎的知識を習得することを目的とする。さらに、情報資源組織化の展望についても解説する。				
授業概要	書誌ユーティリティの急速な発展により、書誌情報を入手できる環境ができあがった。また、図書館ネットワークが充実して、個々の図書館が作成した書誌情報が共有される。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化について、具体的に書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。				
評価方法・基準	期末レポート課題40点(目録と分類の理論の理解度を評価)＋定期試験期間(16週目)に実施する定期試験60点(目録と分類の理解度、表現力、説明力、文章力を評価)				
履修上の注意事項等	教科書に沿って授業をするので、必ず教科書を事前に購入すること。				
テキスト	情報資源組織論：よりよい情報アクセスを支える技とシステム』第2版、志保田務編著、ミネルヴァ書房、2019				
参考書	なし				

科目名	情報資源組織演習 (一)			期間	通年
担当教員	★中村 恵信	単位数	4	配当年次	3-4
テーマ	図書館情報資源の組織化としての「資料目録法」と「資料分類法」の知識と技術を学ぶ。				
到達目標	多様な情報資源に関する書誌データは、インターネットを介して広く公開されている。これらの資料に対して、一定の規則に基づいて書誌データを作成する技術を習得する。				
授業概要	印刷資料、非印刷資料、電子資料、その他の資料やネットワーク情報資源は、それぞれに必要な書誌情報が異なる。それらの資料について、書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの活用等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。書誌データ作成は日本目録規則(NCR)、分類作業は日本十進分類法(NDC)を使用し、オンライン目録の演習も行う。				
評価方法・基準	平常点60点(授業に対する積極性・演習課題等)＋定期試験期間(31週目)に実施する定期試験40点(日本目録規則(NCR)・日本十進分類法(NDC)を実際に活用できるかどうかで評価する)による。				
履修上の注意事項等	第11回から第15回までの目録作成の授業はパソコン教室あるいは各自のノートPCを利用する場合があるので注意すること。各自のノートPCを利用する場合は授業中にPC環境を指示する。教科書の内容を中心に授業を進めるので教科書は必ず購入すること。				
テキスト	情報資源組織法 第3版、志保田務・高鷲忠義編著、第一法規、2021 情報資源組織法演習問題集 第3版、志保田務・高鷲忠義編著、第一法規、2021				
参考書	なし				

科目名	情報資源組織演習 (二)			期間	通年
担当教員	★中村 恵信	単位数	4	配当年次	3-4
テーマ	図書館情報資源の組織化としての「資料目録法」と「資料分類法」の知識と技術を学ぶ。				
到達目標	多様な情報資源に関する書誌データは、インターネットを介して広く公開されている。これらの資料に対して、一定の規則に基づいて書誌データを作成する技術を習得する。				
授業概要	印刷資料、非印刷資料、電子資料、その他の資料やネットワーク情報資源は、それぞれに必要な書誌情報が異なる。それらの資料について、書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの活用等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。書誌データ作成は日本目録規則(NCR)、分類作業は日本十進分類法(NDC)を使用し、オンライン目録の演習も行う。				
評価方法・基準	平常点60点(授業に対する積極性・演習課題等)＋定期試験期間(31週目)に実施する定期試験40点(日本目録規則(NCR)・日本十進分類法(NDC)を実際に活用できるかどうかで評価する)による。				
履修上の注意事項等	第11回から第15回までの目録作成の授業はパソコン教室あるいは各自のノートPCを利用する場合があるので注意すること。各自のノートPCを利用する場合は授業中にPC環境を指示する。教科書の内容を中心に授業を進めるので教科書は必ず購入すること。				
テキスト	情報資源組織法 第3版、志保田務・高鷲忠義編著、第一法規、2021 情報資源組織法演習問題集 第3版、志保田務・高鷲忠義編著、第一法規、2021				
参考書	なし				

科目名	図書館基礎特論			期間	後期
担当教員	★村上 幸二	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	図書館における様々な取り組みから図書館の目指す方向性を考える。				
到達目標	「図書館概論」「図書館制度・経営論」「図書館サービス概論」で学んだことを基礎として、図書館の現状と様々な取り組みについて理解する。実務的な理解とともに図書館の目指す方向性を考える。				
授業概要	「図書館概論」「図書館制度・経営論」「図書館サービス概論」で扱われたいくつかの重要なトピックスを素材とし、図書館が直面する現状とそれに対する具体的な取り組みについて解説する。それぞれの事例から図書館のあり方についての理解を深め、図書館として求められることを考察する。				
評価方法・基準	図書館についての様々なトピックスから、図書館サービスや運営における実務的な理解に努めてください。評価は授業時への取り組み(50%)と、学習到達度確認(50%)によって行います。				
履修上の注意事項等	毎回の授業でプリントを配付します。授業はこのプリントによって進めます。なお、授業プリントは次回以降の授業でも参照する場合があるため、各回のプリントを保存および持参できるものを準備しておいてください。				
テキスト	なし				
参考書	なし				

科目名	図書館情報資源特論			期間	後期
担当教員	竹田 芳則	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	地域資料サービスで用いるさまざまな情報資源について、その歴史と現状についての理解を深める。				
到達目標	必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から図書館情報資源に関する領域のなかから、地域資料の特性ならびに地域資料を活用したサービスの可能性を理解する。				
授業概要	各図書館独自の図書館情報資源として、地域資料の重要性について学び、地域資料を活用したサービスについての実践を紹介する。また、地域資料のデジタル化の取り組みを進展させた、オープンデータ化や地域住民との協働によるデジタルアーカイブの可能性について解説する。				
評価方法・基準	平常点のみ・評価基準：授業に対する積極性60%（授業後のアンケート提出等）、学習到達度確認40%（地域資料の特性ならびに地域資料を活用したサービスの可能性についての理解度）				
履修上の注意事項等	「図書館情報資源概論」を履修済であることが望ましい。この科目は各自のノートPCで実習を行うことがある。その場合、事前に具体的に指示する。				
テキスト	なし				
参考書	地域資料サービスの実践（JLA図書館実践シリーズ41）、蛭田廣一編、日本図書館協会、2019 地域資料サービスの展開（JLA図書館実践シリーズ45）、蛭田廣一編、日本図書館協会、2021 地域資料のアーカイブ戦略（JLA図書館実践シリーズ46）、蛭田廣一編、日本図書館協会、2021				

科目名	図書・図書館史			期間	前期
担当教員	★中村 恵信	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	図書館の歴史は「知」のダイナミズム史				
到達目標	図書館の歴史を学ぶことは、人類の「知」がどう伝播し、拡大していったかを知るのと同義である。知は受け継がれ開花し、我々の知的生活を支え続けてきた、この基本的な図書館の歴史概念を学ぶ。				
授業概要	世界的観点から見るととき、知の継承はほとんど奇跡的と言えるような経過をたどった。古代から現代まで切れ目なく図書館が存在し、それぞれの時代にバトンを渡すことができたその過程を詳らかにし、図書館が自由と民主主義の確立に欠かせない重要な施設であること理由を授業を通して学ぶ。合わせて現代の生活に図書館が必須である理由を考える。				
評価方法・基準	期間内レポート課題40点（講義内容の理解度と自分の考えの表現力によって評価）＋定期試験期間（16週目）に実施する定期試験60点（基本的概念の理解度によって評価）による。				
履修上の注意事項等	教科書の内容を中心に授業を進めるので教科書は必ず購入すること。				
テキスト	図書・図書館史（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ）、小黒浩司編著、日本図書館協会、2013				
参考書	なし				

科目名	図書館施設論			期間	後期
担当教員	竹田 芳則	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	公共図書館を主として、図書館の建築・施設・平面・サイン・書架計画などについて学ぶ。				
到達目標	地域における図書館サービス、図書館計画の考え方や図書館施設が地域の学びの拠点としてどのように造られているか理解する。				
授業概要	必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、公共図書館の立地、単館の建築計画から地域の図書館計画まで、また図書館施設内部の平面計画の考え方から書架、サイン等の製作まで、その構成要素について解説する。				
評価方法・基準	平常点のみ・評価基準：授業に対する積極性30%（授業後のアンケート提出等）、中間のレポート提出30%、学習到達度確認40%（地域における図書館サービス、図書館計画の考え方や図書館施設が地域の学びの拠点としてどのように造られているかの理解度）				
履修上の注意事項等	中間において、各自、授業時間外に任意の図書館を見学し、施設面での特徴についてのレポートを提出すること。理由なく提出しなかった者は、以後の授業出席を認めない。（詳細は授業の初日に指示する）				
テキスト	なし				
参考書	図書館施設論、中井孝幸ほか 共著、日本図書館協会、2020 図書館施設論、植松貞夫 著、樹村房、2014 よい図書館施設をつくる、植松貞夫ほか 共著、日本図書館協会、2010				

科目名	図書館総合演習			期間	前期
担当教員	竹田 芳則	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	司書課程の中で学んできたことを総合し、浮かび上がる問題点を、ひとりひとりが掘り下げて考える。				
到達目標	必修の各科目で学んだ内容を掘り下げて学習し、理解を深める観点から、口頭ならびに論文発表あるいは実地調査等を実施して、現代社会における図書館について考える。				
授業概要	本科目については、司書の就職志望者の履修が望ましい。その他、履修条件は下の注意事項を確認のこと。また研究発表や長文のレポート提出に向けての指導や、図書館の実地調査など総合的な演習を行う。また各自のノートPCで実習を行うことがある。その場合、事前に具体的に指示する。				
評価方法・基準	・ほぼ毎回の授業で研究テーマについて、口頭で発表を求める。 ・実地調査の取組姿勢や討議における発言なども「授業参加度」として評価する。 ・自主ゼミ（図書館情報学研究会）への参加も積極姿勢として評価する。				
履修上の注意事項等	本科目については、司書の就職志望者の履修が望ましい。「図書館実習」を履修希望者は事前または同時に履修すること。また、必須科目である「図書館概論」を含み14単位以上修得した者を履修対象者とする。				
テキスト	なし				
参考書	図書館情報学基礎資料 第4版、今まどり・小山憲司 編、樹村房、2022				



科目名	図書館実習			期間	その他
担当教員	竹田 芳則	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	図書館の現場での実務に携わることで、司書の仕事を深く理解する。また司書としての自己の適性について認識する。				
到達目標	・公共図書館の現場に実習生として出向き、図書館業務の実践（館務実習）を通じて公共図書館業務の基本を理解する。・館務実習を通じて、司書としての自己の適性を把握する。				
授業概要	・本科目については、司書の就職を第一志望とする者に限り履修することができる。実習に向けての事前指導（ガイダンス等）、5日間の図書館実習、実習終了後の指導（反省会等）よりなる。ただし、希望により、2館、10日間以上の実習とすることがある。その他、履修条件については、下の注意事項をよく確認すること。				
評価方法・基準	・5日間の図書館実習に参加し、実習ノートを提出することは評価の必須条件である。・図書館実習への取り組みを主として実習ノートにより評価する。・事前ガイダンスや実習後の報告会の取組状況も評価の対象とする。・自主ゼミ（図書館情報学研究会）への参加も積極姿勢として評価する。				
履修上の注意事項等	・本科目の履修は、司書の就職を第一志望とする者に限る。また「図書館概論」を含む司書養成必須科目14単位以上を取得しなければならない。本科目とともに「図書館総合演習」を本年度履修（併修）もしくは、前年度に履修しておくことが必要。以上について、最初のガイダンスで、個別にヒアリングを行い、履修を認めるかどうかを決定する。・図書館実習は例年秋に実施している。・実習を欠席、遅刻、早退したりすることは原則として認めないので、実習に向けてのスケジュール管理をしっかりやっておくこと。				
テキスト	なし				
参考書	新編図書館員への招待 補訂版、塩見昇・木下みゆき 編著、教育史料出版会、2022 図書館実習 Q&A、川原亜希世 中道厚子 前川和子 横山桂、日本図書館協会、2013				

科目名	図書館サービス特論			期間	後期
担当教員	★福西 敏文	単位数	2	配当年次	1-4
テーマ	図書館サービスの一つとして、学校図書館の様々なサービスを取り上げ、多岐にわたる活動の基本について解説する。				
到達目標	学校図書館における児童生徒及び教職員へのサービスの考え方や各種サービス活動についての理解を図る。				
授業概要	読書活動を推進しつつ教育課程を支えるという学校図書館の役割を考えたとき、こうしたサービスの充実を求める声はますます広がっていくであろう。本科目では、学校図書館サービスの基本的な考え方の理解を図り、資料提供、情報提供、地域・他団体・機関等との連携・協力、課題解決支援、コミュニケーション及び学校図書館行事についての基本を解説する。				
評価方法・基準	学習到達度確認（テスト）：70% ・授業参加度：30%（授業中に課す諸課題の充実度、授業に真摯にとりくむ姿勢などを授業参加度として総合的に評価する。）				
履修上の注意事項等	本科目は学校司書プログラムの必修科目である。また司書資格科目のうち選択科目の一つとして履修することもできる。なお、コミュニケーションカードに寄せられた意見・感想等を授業で紹介し共有する場合がある。あらかじめ了承し受講してほしい。				
テキスト	学校司書のための学校図書館サービス論、学校図書館問題研究会、樹村房、2021				
参考書	読みたい心に火をつける！ 学校図書館大活用術、木下通子、岩波書店、2017 日本学校図書館史、塩見 昇、全国学校図書館協議会、1986 夜明けの図書館、埜納 タオ、双葉社、2011-2019				

科目名	学校経営と学校図書館			期間	後期
担当教員	★福西 敏文	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項についての理解を図る。				
到達目標	・学校図書館の歴史と理念及び教育的意義について理解する。・学校図書館経営の基本と司書教諭の役割について理解する。				
授業概要	前半の講義では、学校図書館の理念と機能を理解するため、教育行政・学校経営と学校図書館に関わる重要法規や図書館・学校図書館等に関する国連・ユネスコ等の宣言や、学校図書館の歴史を踏まえて解説する。後半では、望ましい学校図書館経営のあり方について解説する。本授業を通じて、学校教育における学校図書館の存在意義と司書教諭の役割についての理解を深めることができるはずである。なお各自の学校図書館利用体験の発表と交流及び学校図書館関係のDVDを視聴し、学校図書館についての共通理解をはかる。				
評価方法・基準	・学習到達度確認（テスト）：70% ・授業参加度：30%（授業中に課す諸課題の充実度、授業に真摯にとりくむ姿勢などを授業参加度として総合的に評価する。）				
履修上の注意事項等	・テキストを補足する資料を多数配布する。配布資料、参考書等を精読していることを前提に講義する。・コミュニケーションカードに寄せられた意見・感想等を授業で紹介し共有する場合がある。あらかじめ了承し受講してほしい。・ノートパソコンを各自持参してもらい、教室でWi-Fiに接続して使用する場合がある。				
テキスト	学校経営と学校図書館、中村百合子編、樹村房、2022.2				
参考書	日本学校図書館史、塩見 昇、全国学校図書館協議会、1986 学校と社会、デューイ著、岩波文庫、1979 米国外務省報告書、村井 実、講談社学術文庫、1979				

科目名	学校図書館メディアの構成			期間	前期
担当教員	★西浦 富美子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	学校図書館メディアの構成に関する基本的知識の獲得及び実務能力の育成を図る。				
到達目標	学校図書館メディアの種類と特性、コレクション構築のプロセスを理解し、選択・収集等の実務能力を身につける。組織化の目的・意義を踏まえて、基本的な目録作業や分類・件名の付与ができる。				
授業概要	学期の前半では、高度情報社会における学習環境の変化にともなう学校図書館メディアの教育的意義と役割について調査し、児童生徒や教員の利用に有効なコレクション構築について考察する。司書教諭が直面するメディア構成上の諸問題に対応できるよう、文献・インターネット情報源等を参照し、注文書やファイル資料を作成する。後半では、組織化の目的・意義を踏まえ、NDC等の参考図書を用いて目録や分類などの作業能力を磨く。最終回を除き、授業は講義と演習を組み合わせる。				
評価方法・基準	・平常点10%（授業に対する積極性） ・小課題50%（学校図書館メディアの構成・組織化に関する知識・技能） ・学習到達度確認テスト40%（学校図書館メディアの構成・組織化に関する知識・技能及び思考・判断・表現力）				
履修上の注意事項等	・第4～8回の内の1回は大学図書館にてフィールドワークを行う。 ・平常から大学図書館や公共図書館を活用し、学習内容の確認や課題解決に努めること。				
テキスト	学校図書館メディアの構成、「探究学校図書館学」編集委員会編著、全国学校図書館協議会、2020				
参考書	学校図書館基本資料集、野口武悟編、全国学校図書館協議会、2020 学校図書館メディアの構成、北克一、平井尊士編著、放送大学教育振興会、2016				

科目名	学習指導と学校図書館			期間	後期
担当教員	★西浦 富美子	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	学習指導における学校図書館メディアの活用についての理解を図る。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館メディアの活用に関する基礎知識と技能を習得する。</li> <li>・学校図書館を活用した探究型学習のプロセスを理解し、情報活用能力等を育成する学習事例を考案できる。</li> </ul>				
授業概要	<p>探究型学習は学校図書館を活用する学習場面で既に行われているが、改めてその意義・方法を教育課程の中に位置付け展開していくことは、司書教諭の主導するところである。その任に当たるため、学習基盤となる言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の育成に関わる学校図書館の役割について学び、情報サービスの提供に必要な情報検索・収集等のスキルを習得する。それと並行して探究型学習に取り組むことによって、児童生徒の情報探索行動を理解し、効果的な支援法を含めた探究型学習事例を考案する。</p>				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点10%（積極性・協調性を重視）</li> <li>・授業内課題30%（情報活用能力を重視）</li> <li>・探究型学習事例の発表20%（課題の発見、典拠の明示）</li> <li>・学習習熟度確認テスト40%（授業内で説明）</li> </ul>				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1～14回は情報教室、第15回は普通教室で行う。</li> <li>・探究課題を主体的に設定し、計画を立て、演習時間を有効に活用して第13回で発表準備を完了させること。</li> </ul>				
テキスト	学習指導と学校図書館（探究学校図書館学 第3巻）、「探究学校図書館学」編集委員会・編著、全国学校図書館協議会、2020				
参考書	<p>学習指導と学校図書館、堀川照代、塩谷京子編著、放送大学教育振興会、2016          マイターマの探し方：探究学習ってどうやるの？、片岡則夫著、筑摩書房、2021</p>				

科目名	読書と豊かな人間性			期間	後期
担当教員	★西浦 富美子	単位数	2	配当年次	2-4
テーマ	児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法への理解を図る。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書の意義と発達段階に応じた読書指導法について考察できる。</li> <li>・種々の読書活動を支援するスキルを身につけ、読書イベントを企画・実施できる。</li> </ul>				
授業概要	<p>本科目は、学校図書館司書教諭資格取得のための一科目である。司書教諭の担う読書指導とは、児童生徒に読書材を紹介することをはじめ、児童生徒自ら適書を選択する力と本を活用し評価する力等を育成することや、読書の喜びを共有する場を設定することにも及ぶ。その任に当たるため、読書教育の理念と読書指導の方法について演習を交えながら学ぶ。</p>				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書記録10%（幼児期から小中高校、大学までの読書をふりかえる）</li> <li>・読書活動60%（聞き手に伝わったか、チーム活動ができたか）</li> <li>・期末レポート30%（図書展示の企画・リスト作成）</li> </ul>				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書記録（LibraryNAVI形式）、点検読書、読書会、読み聞かせ、ブックトーク、ビブリオバトル等を実施する。受講者の人数によって所要時間や実施回を調整する。</li> <li>・期末レポートについては授業内で説明や作成の時間を多めにとる。</li> </ul>				
テキスト	なし				
参考書	<p>読書と豊かな人間性、「探究学校図書館学」編集委員会・編著、全国学校図書館協議会、2020          本を読む本、M.J.アドラー、C.V.ドレーン〔著〕、外山滋比古、榎未知子訳、講談社、1997          読書の技法：誰でも本物の知識が身につく熟読術・速読術「超」入門、佐藤優、東洋経済新報社、2012</p>				

科目名	情報メディアの活用			期間	前期
担当教員	★福西 敏文	単位数	2	配当年次	3-4
テーマ	高度情報通信社会における学校図書館において、活用すべきさまざまな情報メディアの特性と活用方法を理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館が提供する情報メディアの特性を理解し活用することができるようになる。</li> <li>・情報メディアを活用するために必要な基礎的知識を、情報倫理をも踏まえて説明できるようになる。</li> </ul>				
授業概要	<p>学校図書館が備えるべき情報メディアの種類と特性、情報メディアの歴史及び情報化時代の倫理（著作権法等）等について解説する。後半には大学図書館と情報処理室を利用し、パスファインダー・図書館便り等を実際に作成する。本授業を通じて、学校図書館が情報センターとしての機能を発揮するのに必要な知識と技能について、理解を深めることができるはずである。</p>				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習到達度確認（テスト）：70%</li> <li>・授業参加度：30%（授業中の諸課題提出及び小テスト、授業にとりくむ真摯な姿勢を授業参加度として総合的に評価する。）</li> </ul>				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は各自読み進めていることを前提に講義する。</li> <li>・コミュニケーションカードの内容で有益と判断したものは授業等で公開する。あらかじめ了承して受講してほしい。</li> <li>・参考書等を授業中に紹介するので、そのつと閲覧し確認すること。</li> </ul>				
テキスト	情報メディアの活用（探求 学校図書館学：5）、「探求 学校図書館学」編集委員会編、全国学校図書館協議会、2021				
参考書	<p>読みたい心に火をつける！ 学校図書館大活用術、木下 通子、岩波書店、2017          情報メディアの活用 新訂、高鈺 裕樹、田嶋 知宏、放送大学教育振興会、2022</p>				

---

---

## 奈良大学講義要項

2024年3月31日印刷  
2024年4月1日発行

編集 奈良大学  
発行 学生支援センター(教務担当)  
〒631-8502 奈良市山陵町1500  
電話 0742-419504

印刷 共同精版印刷(株)  
製本  
〒630-8013 奈良市三条大路2丁目2-6  
電話 0742-331221(代)

---

---

٧